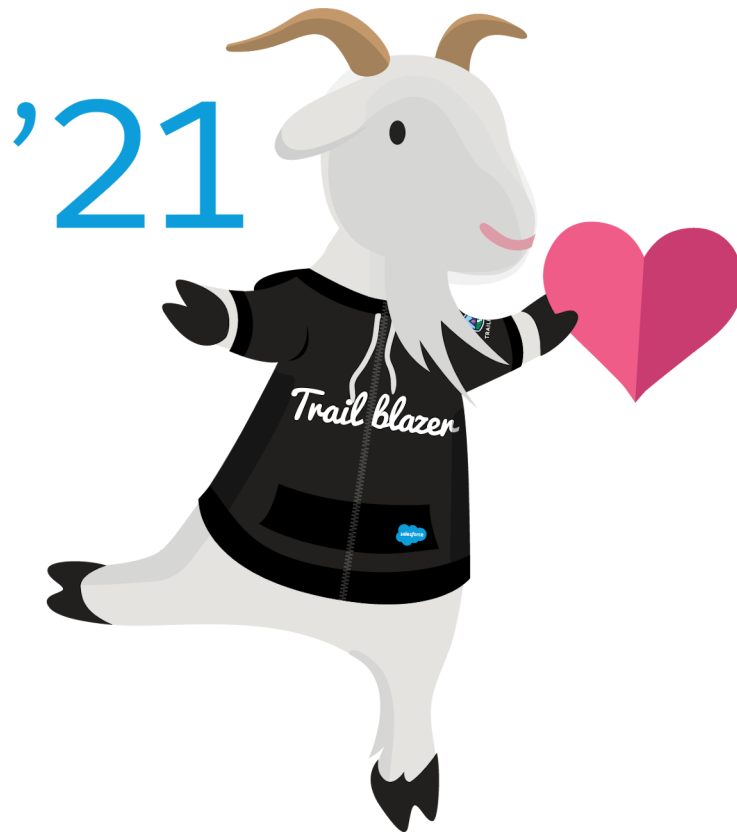


salesforce

Salesforce Summer '21 リリースノート

Salesforce, Summer '21

最新機能 (大部分は標準装備) による Salesforce ROI の最大化



 @salesforcedocs

最終更新日: 2021/07/23

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2021 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Salesforce Summer '21 リリースノート	1
リリースノートの使用方法	5
リリースの準備	16
機能が使用可能になる方法と状況	17
サポートされるブラウザ	68
Salesforce 全体	72
Analytics	109
コマース	210
カスタマイズ	226
開発	255
Einstein	355
Einstein 自動化	357
Experience Cloud	394
フィールドサービス	411
Industries	418
マーケティング	528
モバイル	529
myTrailhead	538
Pardot	546
収益	557
セールス	561
Salesforce Anywhere (Quip)	637
Salesforce CMS	641
セキュリティと ID	646
サービス	672
一元化された情報源	721
Work.com	723
その他の Salesforce 製品とサービス	724
コンテンツへのスポットライト	724
リリース更新	727
法的ドキュメント	731

Salesforce Summer '21 リリースノート

初回の購入にほとんどの新機能が付属していることをご存知でしたか?リリースに含まれる最新のイノベーションを探索して Salesforce からの ROI を最大化してください。

このセクションの内容:

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

機能が使用可能になる方法と状況

Summer'21 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

Salesforce 全体

Salesforce 環境の多数の新機能と機能強化の準備をしてください。新しい [お客様のアカウント] セルフサービスアプリケーションで、サブスクリプションを参照、購入、管理します。新しい [有効ライセンス数] タブでライセンスの使用を追跡します。強化された学習パスおよびアプリケーション内ガイダンスでユーザをサポートします。Salesforce アンケートの回答率と情報収集を改善します。Salesforce Scheduler で予定管理を簡略化、合理化、拡張します。Einstein Search を使用して、情報を効率的かつ迅速に検索する方法をユーザに提供します。

Analytics

Lightning Experience のレポート実行ページのインライン編集で、データの分析と更新を同時に実行します。Tableau CRM データプレップレシピでは、変更を元の状態や前のバージョンに戻せることがわかっているため、果敢に試すことができます。Tableau CRM ダッシュボード間でウィジェットをコピーして貼り付けることで、ダッシュボードを迅速に作成します。レポートの Einstein Discovery によるレポート実行でのデータ分析の変更内容を確認します。

コマース

Lightning Experience の Salesforce B2B2C Commerce では、エンドツーエンドの B2C ストアフロントコマースソリューションに Salesforce プラットフォームの機能を取り込むことができます。B2B Commerce には、システム管理者によるアプリケーションの設定と店舗マネージャによる商品の管理を容易にする機能強化と、Einstein Search の提案の強化、新しいチェックアウトとインテグレーションのオプションが含まれています。オムニチャネル在庫では、更新されたフローコアアクションが提供されます。Salesforce Order Management では、返品注文の管理と追跡ができる新しいフロー、注文データを Marketing Cloud で使用する機能、買い物客の新しいセルフサービス機能が導入されます。

カスタマイズ

Lightning Experience で直接、ユーザまたはグループにレコードアクセス権がある理由を簡単に確認できます。Salesforce 全体の新しいロケールと最新の形式を確認できます。また、外部サービスに対する機能強化により、公開されている API をより幅広く選択できます。

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

Einstein

Einstein リードスコアリングにはガイド付き設定フローがあり、より正確な結果が得られるようにリードの区分をスコア付けするオプションが用意されています。パーソナライズ、自然言語検索、アクション可能なインスタント結果を含む Einstein Search のすべての機能が正式リリースされ、無料で使用できます。Einstein ケスラップアップを含む Einstein 分類ツールが拡張および機能強化され、正式リリースされました。Salesforce Einstein で提供されるすべての機能を使用すれば、作業の生産性を高め、より正確でパーソナライズされた結果を得ることができます。

Einstein 自動化

Salesforce フロー、Einstein ボット、OmniStudio、Flow Orchestrator (パイロット) を使用してインテリジェントなワークフローを作成します。Salesforce 用 Mulesoft コンポーザを使用して任意のシステムにわたって統合します。Einstein レコメンデーションビルダーと Einstein Next Best Action を使用して、パーソナライズされたおすすめを作成して提供します。

Experience Cloud

新しい [サービスは利用できません] ページを使用して常にサイトの継続性を保ち、専用の CDN 証明書を使用してブランドとサイトのセキュリティを保護できます。Build Your Own (LWR) テンプレートがより広範囲に正式リリースされ、これを使用して、ページセクションのカラーパレットを含む新しいブランドシステムを活用できます。また、サポートが終了された Internet Explorer 11 にも別れを告げます。

フィールドサービス

パスを使用して作業者が正しく作業を開始できるようにガイドし、作業者が納入商品の設定状況を把握できるようにします。作業プランを使用して作業を完了するためのガイド付きステップで作業者が順調に作業できるようにして、共通の作業プランおよび作業ステップのテンプレートを使用してサービスマネージャが作業プランを簡単に管理できるようにします。レコメンデーションビルダーを使用して作業指示の部品を Einstein で推奨できるようにするか、これを使用してビジネスニーズに合ったカスタムのおすすめを構築します。

Industries

業界固有のソリューションは、インテリジェンスと柔軟性が高くなります。Financial Services Cloud では、インテリジェントなドキュメントの自動化機能により、同意および開示の承認の管理が容易になります。Health Cloud では、インテリジェントなお勧めを使用して、予定のスケジュールを簡略化および最適化できます。Consumer Goods は、訪問実行の設定アシスタントとデスクトップサポートによって、従来よりも便利になっています。Manufacturing Cloud では、販売計画の修正や販売予測およびスケジュールの絞り込みを簡単に行うことができます。ロイヤルティ管理では、プロモーションのパーソナライズや特典アクションのカスタマイズを行うことができます。また、リベート管理では、新しい方法で支払の管理および計算を行うことができます。Public Sector Solutions では、データ入力と対応付けを自動化するツールが導入され、品質と効率を改善できます。Sustainability Cloud には、エネルギーパフォーマンスと排出量の絞り込みと視覚化を行う機能が追加されています。データ処理エンジン、決定テーブル、一括管理では、データを管理および活用するための新しい項目と機能が提供されます。

マーケティング

Marketing Cloud は、1対1のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを1か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャンネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクティブの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

モバイル

Android 向けモバイルホームなどの新しい機能を使用して、Salesforce モバイルアプリケーションでより多くの作業を実行できます。Experience Cloud 向け Mobile Publisher では、システム管理者は、Experience Cloud アプリケーションでの URL の開き方を設定したり、ユーザがアプリケーションを移動しやすいうようにメニュー項目をカスタマイズしたりできます。

myTrailhead

信頼性の高いモジュールやトレイルを簡単に作成できます。Trailmaker Content では変更内容がクラウドに保存され、バッジとトレイルアートのファイルをアップロードできます。会社のコンテンツおよびビジネスニーズが反映されるように myTrailhead のロールやレベルの検索条件をカスタマイズします。Salesforce Identity for myTrailhead ユーザは、同じログインで myTrailhead と公開 Salesforce Trailhead にアクセスでき、両方のサイトのコンテンツを使用して trailmix を作成できます。

Pardot

Einstein の機能を使用して取引先の理解を深め、送信時間最適化でメールエンゲージメントを促進できます。また、[Pardot オブジェクトの同期]が改善され、取引先ベースのキャンペーン管理ツールと共に正式リリースされました。メール送信可能性モデルをアップグレードして、メールマーケティング設定を簡略化することもできます。Pardot API を簡単に使用できるようにする新規および既存の開発者ドキュメントも参照してください。

収益

権限を更新し、新しい権限セットを割り当て、権限とブラウザのパフォーマンスを向上させるための設定を有効にします。新しい必須の選択リストを使用します。

セールス

パイプライン検査により、営業チームはパイプラインを一元的に表示して、最も重要な案件に集中できます。売上予測種別を作成および管理し、より多くのオプションと改善されたエクスペリエンスを利用できます。より絞り込まれたメールエンゲージメントデータと改善されたメールテンプレートを取得できます。Salesforce Maps でフローを使用して、営業担当が会社のポリシーと COVID-19 安全プロトコルを採用および遵守できるようにします。Salesforce Meetings は、商談を進めるのに役立つ多くのインサイトを営業担当に提供します。Einstein 会話インサイトはサービスエージェントが使用できます。

Salesforce Anywhere (Quip)

Salesforce Anywhere で Salesforce データを最大限に活用します。Lightning Experience のテンプレートライブラリによりテンプレートをより多くの場所で使用し、テンプレートライブアプリケーションでテンプレートプロセスを合理化し、どこからでも Salesforce のライブデータを更新できます。Tableau および Tableau CRM で Quip 総計値を使用してユーザの文書エンゲージメントを測定し、レポートを作成できます。

Salesforce CMS

Salesforce CMS コンテンツをより詳細に制御します。公開スケジュールを管理したり、Experience Cloud コンテンツ配信ネットワーク(CDN)を介してコンテンツを共有したり、カスタムコンテンツタイプを編集したり、CMS エクスペリエンスに関する詳細や CMS コンテンツの使用場所を一目で確認したりできます。

セキュリティと ID

多要素認証アシスタントの動作をリリース前に確認します。URL リダイレクトと OAuth 2.0 フローがより安全で効率的になりました。ユーザのメールアドレスをより簡単かつ安全に更新できるようになりました。Salesforce ドメインには HTTPS が必要であり、拡張ドメインはブラウザのセキュリティ要件を満たしています。新しい API 合計使用量イベント種別での API バージョンの使用について確認してください。サイトの場合、キャッシュを使用してページの読み込み時間を改善し、ゲストユーザライセンスを更新します。

サービス

ビジネスの拡大と合理化に役立つ新しい Service Cloud ツールを使用して、自動化を搭載した統合サービス環境を提供します。サービス設定アシスタントを使用して、価値実現までの時間を短縮します。サービス設定アシスタントにより、自分とチームのために最適化されたサービスアプリケーションを作成し、より多くの重要な設定手順を実行できるようになりました。ワークフォースエンゲージメントを使用して、データ主導のシフト計画ツールと、従業員が成長してそれぞれのスキルを適用できるという二重のメリットがある機能(ヒント: Trailhead を利用)により、コンタクトセンターの運営を合理化します。Service Cloud Voice を任意のテレフォニープロバイダと統合して、Service Cloud Voice を最大限に活用します。どのような場合に Einstein によってチャットエージェントの返信が更新されるのかを学び、Einstein ケース分類の予測モデル構築の進捗状況を追跡します。

一元化された情報源

一元化された情報源の新機能を確認してください。より多くの ID 検証オプションとデータ統合をユーザに提供し、パーソナライズされたインタラクションを可能にします。1つのアプリケーションを使用して、複数の Salesforce 組織を監視するポリシーを作成します。

Work.com

ビジネス、従業員、施設の準備を整えます。Work.com のアプリケーションとサービスを使用して、現在の COVID-19 による危機など、重大な事態に対応します。

その他の Salesforce 製品とサービス

コンテンツへのスポットライト

Trailhead モジュールが更新され、説明用の動画が作成され、シングルサインオン (SSO) のコンテンツが移動しました。これらをチェックアウトするときは、少し時間を取って、Industries Cloud 共通開発者リソースを確認してください。

リリース更新


リリース更新は、継続的に組織の変更に関する重要な情報を提供します。これは、重要な更新から完全に置き換えられました。

法的ドキュメント

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の法的ドキュメントが更新されました。

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

- PDF 版と HTML 版が用意されています。
 - HTML 版では、使用される言語はブラウザの設定によって決まります。言語を変更するには、下部にスクロールして [言語を変更] をクリックし、言語を選択します。
 - リリースノートには、新しい機能や変更された機能の詳細が記載されています。既知の問題についての詳細は、Salesforce の「[既知の問題](#)」のサイトを参照してください。
-  **メモ:** 新しいリリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しません。場合によっては、以前のリリースのドキュメントにリダイレクトされることがあります。

一部のドキュメントには、リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers でプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

このセクションの内容:

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。一方で、Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

環境

Lightning Experience、Salesforce モバイルアプリケーション、および Salesforce Classic で使用できる機能を参照してください。

エディション

使用可能な機能強化は、エディションごとに異なります。リリースノートを絞り込んで、ご使用のエディションでリリースされる機能強化のみを表示します。

機能の影響

有効化または設定しないとユーザが利点を得られない機能もあります。システム管理者は、リリースノートを絞り込むことでそれらの機能だけを表示したり、非表示にしたりできます。また、ユーザに対して自動的に有効になる機能のみを表示することもできます。

製品エリア

組織で使用する商品のみを表示します。組織がセールスを行いサポートは行わない場合、セールス関連のニュースのみが表示されるようにリリースノートを設定します。

リリースノートのリストを絞り込むには、右側にある [条件を表示] をクリックします。

Experience

- Lightning Experience
- Mobile
- Salesforce Classic

Edition

Professional Edition

Feature Impact

Enabled for users

Product Area

- Analytics
- API
- Chatter
- Email Integration
- Communities
- Data.com
- Force.com Customization
- Force.com Development
- Mobile
- Sales
- Service
- Work.com

[Fewer Product Areas](#) [Reset](#)

絞り込まれたリリースノートのリストを他のユーザと共有できます。検索条件を選択して URL をコピーし、その URL を任意の方法で配信します。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。一方で、Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

この移行期間を成功させる鍵は、1つ、両方、またはすべての Salesforce 環境で使用できる機能を把握することです。そのため、該当するリリースノートには最上位レベル(クラウド全体またはクラウド内の個々の機能)での環境情報を追加しました。いくつか例を見てみましょう。

- 新しい Service Cloud 機能は、両方のデスクトップ環境で使用可能であるため、リリースノートの [対象] セクションには「この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。」と記載されています。
- Sales Cloud の新機能は、Lightning Experience でのみ使用可能であるため、リリースノートの「対象」セクションには、「この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。」と記載されています。

主要機能が Salesforce モバイルアプリケーションでも使用可能な場合は、リリースノートの「対象」セクションでその点を示しています。新機能の完全なリストの「モバイル」セクションを確認することもできます。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

IdeaExchange

実現したアイデア

Salesforce 全体

Include Topic Setups in Lightning Version (Lightning バージョンへのトピックの設定の追加) Lightning Experience の [設定] でのオブジェクトのトピックの有効化

Chatter Topic Management in Lightning (Lightning での Chatter トピックの管理)

セールス

Add Data Set Refresh Button (データセット更新ボタンの追加) データセットのコピーと更新

Additional fields for HTML Email Status Report (HTML メール状況レポートの追加項目) メールレポートでの詳細の確認

Allow others to view HTML Email Status Report from emails I sent (私が送信したメールから他のユーザが HTML メール状況レポートを参照できるようにする)

IdeaExchange

実現したアイデア

サービス

Lightning Rich Text Editor Needs Option to Expand or Pop Out (Lightning [リッチテキストエディタに拡大またはポップアウトのオプションが必要](#)) [更新しやすくするための記事の編集スペースの拡張](#)

Remove Master/Slave Terminology from the Embedded Service API ([組み込みサービス API から主従という用語の削除](#)) [従来の言語を包括的な用語で置き換え](#)

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

2021年7月26日

Health Cloud のサイトユーザアクセス権の有効化

「時期」セクションから、一部のお客様には新しい PSL が後日付与されるという文が削除されました。

データセキュリティのアクセス権限セットの割り当てとテスト

新しいアクセス権限セットによって Salesforce CPQ パッケージのローカライズオブジェクトへの参照アクセス権要件が追加されるというメモが追加されました。

2021年7月19日

Salesforce Customer Identity Plus での顧客 ID の一元管理

Salesforce Customer Identity Plus のリリースが発表されました。

カスタムテーマの使用時の表示の明瞭化

変更が行われた理由が明記され、詳細情報へのリンクが追加されました。

更新された AppExchange の Marketplace Analytics ダッシュボードにおけるリードの行動ドライバなどの参照

新しい AppExchange の Marketplace Analytics ダッシュボードの視覚化を発表するリリースノートが追加されました。

B2B2C Commerce (正式リリース)

左側のナビゲーションバーに表示される B2B2C Commerce のタイトルが修正されました。

B2B Commerce for Lightning

「B2B Commerce for Lightning」トピックの最初の文が「B2B Commerce を拡張」に修正されました。

Commerce アプリケーション

「Commerce アプリケーション」トピックの最初の文が「B2B Commerce を拡張」に修正されました。

メタデータ API

新しい ipAddressRange メタデータ型に関する情報が追加されました。

拡張ドメインの有効化(更新)

Trailblazer グループへのリンクがグループの新しい名前を反映するように更新されました。

2021年7月15日

Health Cloud のサイトユーザアクセス権の有効化

新しいリリースノートが追加されました。

臨床データモデルのオブジェクトに対するサイトユーザアクセス権の有効化

新しいリリースノートが追加されました。

2021年7月12日

Trailhead で機能を探索

ワークフォースエンゲージメントの新しいモジュールが追加され、Service Cloud Voice のモジュールが更新されました。

拡張ドメインの有効化(更新)

「時期」セクションが更新されました。この機能を Hyperforce 組織で使用できるようになりました。スクラッチ組織または Developer Edition 組織では使用できません。

B2B2C Commerce (正式リリース)

動画「Sell Direct to Consumers with Salesforce B2B2C Commerce (Salesforce B2B2C Commerce を使用した顧客への直接販売)」を紹介する文章およびリンクが追加されました。

区分メンバーシップの検証

新しいリリースノートが追加されました。

Salesforce と Microsoft Teams の統合(正式リリース)

「時期」セクションが更新されました。この機能は、2021年6月25日に正式リリースされました。

Salesforce Identity for myTrailhead と同じログインを使用した myTrailhead および Salesforce Trailhead コンテンツの表示

Salesforce Identity for myTrailhead (SIFM) 認証プロバイダを使用する myTrailhead サブドメインの機能強化を発表するリリースノートが追加されました。

Tableau CRM for iOS および Android の最新バージョンの取得

モバイルアナリティクスの最新バージョンに関する情報を追加しました。

Identity Connect 2.1 と Identity Connect 3.0.1.2 の廃止

Identity Connect 7 のリリース日に関する情報を追加しました。

サードパーティドメインへのセキュアな HTTPS 接続の適用

Visualforce ページからのハイパーリンクには影響がないこと、この変更が状態チェックスコアに影響する可能性があることが明記されました。

ドメインでのセキュアな HTTPS 接続の適用

この変更が状態チェックのスコアに影響する可能性があることが明記されました。

Experience Cloud サイトおよび Salesforce サイトでのセキュアな HTTPS 接続の適用

この変更が状態チェックのスコアに影響する可能性があることが明記されました。

2021年7月5日

動画を見る (英語のみ)

動画リストへのエントリが追加されました。

位置共有に関する透過性の向上

「対象」セクションが更新されました。Android Field Service モバイルアプリケーションでは、この機能は現在サポートされていません。

データセキュリティのアクセス権限セットの割り当てとテスト

ユーザがアクセス権限セットをコピーすべきでないことと、Salesforce CPQ Spring '22 の前に新しいアクセス権限セットをテストするために [拡張データアクセスチェックを実行] 設定が設計されていることが明記されました。

Lightning Locker のマークアップのサニタイズの変更

マークアップのサニタイズに関する情報が追加されました。

メタデータ API を使用した AppExchange パッケージの最大 35,000 ファイルのリリースおよび取得

新しいファイル制限の緩和に関する注記が追加されました。

エクスペリエンスビルダーサイトへのユーザのリダイレクト

エクスペリエンスビルダーの正規 URL タグのリリースノートが追加されました。

2021年6月21日

Marketing Cloud Connect で使用できるロイヤルティ管理オブジェクト

新しいリリースノートが追加されました。

OmniStudio

OmniStudio リリースノートおよびドキュメントへのリンクが追加されました。

Trailhead で機能を探索

新しい「セキュリティセンター」モジュールおよび新しい「Explore Advanced Security Features (高度なセキュリティ機能の探索)」トレイルのエントリが追加されました。

Salesforce と Microsoft Teams の統合 (正式リリース)

詳細が表示されるようにスクリーンショットが更新されました。

Composite サブ要求の結果

連動サブ要求で null 項目、または親要求で明示的に指定されていない項目が指定されている場合の Composite 要求の動作に関する情報が追加されました。

myTrailhead のルールやレベルのカスタム検索条件の追加および削除

会社のニーズに合わせて myTrailhead の [ルール] および [レベル] カテゴリの検索条件をカスタマイズします。

リード、取引先責任者、ユーザ、セールスステイデンスのエンゲージメントに関するレポートの作成

新しいレポートが 2021 年 7 月 1 日に使用できるようになることが明記されました。

常に変更されるイベント対象

Lightning Web コンポーネントのイベント対象の変更に関する変更が追加されました。

2021年6月14日

Hyperforce でのロイヤルティプログラムの実行

ロイヤルティ管理が Hyperforce で使用可能になったことを発表するリリースノートが追加されました。

SfFunctionsConnection オブジェクト

新しい SfFunctionsConnection オブジェクトに関する情報が追加されました。

Tableau CRM for iOS および Android の最新バージョンの取得

Tableau CRM for iOS および Android のバージョン 13.0 に関する情報が追加されました。

B2B2C Commerce (正式リリース)

2021年6月15日の B2B2C Commerce の正式リリースに関するリリースノートが追加されました。

区分メンバーシップの検証

新しいリリースノートが追加されました。

Identity Connect 2.1 と Identity Connect 3.0.1.2 の廃止

Identity Connect 7 はまだ公開する準備が整っていません。準備ができたらすぐにお知らせします。

フリーダイヤル番号での顧客からの画像の受信

顧客の影響に関する情報が追加されました。

サイトのゲストユーザを最新のライセンスに更新

この変更とテスト方法に関する他の情報が追加されました。

Einstein リレーションインサイト

Einstein リレーションインサイトの正式リリースを発表するリリースノートが追加されました。

2021年6月7日

再利用可能なプロモーションメールのカスタマイズ

この機能はまだ公開する準備が整っていません。

リポート管理用 Einstein Discovery を使用したリポート主導の売り上げの増加 (ベータ)

アドオンライセンス情報が更新されました。

Salesforce CPQ のブラウザパフォーマンスの改善の有効化 (更新)

更新の検証に役立つ手順が追加されました。

2021年6月3日

Salesforce 出力コネクタを使用した Tableau CRM から Salesforce への準備したデータの出力 (正式リリース)

実行ごとおよび1日ごとに出力される最大行数が明記されました。

2021年5月31日

コンテンツへのスポットライト

新しいおよび更新された Trailhead リソース (説明用の動画、ドキュメントなど) に関する情報が追加されました。

Salesforce と Microsoft Teams の統合 (正式リリース)

機能名が修正され、機能を使用できる場所が明記されました。更新されたスクリーンショットが追加されました。

米国売上税の徴収に対する AppExchange ユーザの準備

「開発」 > 「AppExchange パートナー」 セクションにリリースノートが追加されました。

AppExchange 購入での米国売上税の徴収の準備

「カスタマイズ」 > 「AppExchange」 セクションにリリースノートが追加されました。

追加の分析のための Tableau Online への Tableau CRM データのエクスポート (正式リリース)

Tableau Online コネクタが正式リリースされたことを発表するリリースノートが「Analytics」 セクションに追加されました。

メタデータ API

WebStoreTemplate メタデータ型の新しい Commerce 項目が追加されました。

Salesforce CDP

Salesforce CDP (旧称 Customer 360 Audiences) の新しい名前について発表するリリースノートが追加されました。

[私のドメイン] のリリース (以前にリリース済みの更新)

Winter '22 での Salesforce による [私のドメイン] の名前の割り当て方法が修正されました。

拡張ドメインの有効化 (更新)

この機能が使用可能になる日付が更新され、Trailblazer Community の「Enhanced Domains」グループへのリンクが追加されました。

[Today] ページを使用した Trailblazer の意欲の喚起

myTrailhead サブドメインへのログイン時にユーザを歓迎する新しい [Today] ページ設計について発表するリリースノートが追加されました。

Marketing Cloud での注文データの使用

Salesforce Order Management データが Marketing Cloud Connect を介して Marketing Cloud で使用可能になったことを発表するリリースノートが「コマース」セクションに追加されました。

買い物客へのセルフサービスツールの提供

買い物客のセルフサービス用のストアフロントリファレンスアーキテクチャ (SFRA) 注文管理カートリッジが使用可能になったことを発表するリリースノートが「コマース」セクションに追加されました。

2021 年 5 月 24 日

プロフィールページでのユーザのすべての活動の表示

タイトルが更新され、ページにすべての活動を表示するには検索条件設定を [すべての更新] に変更する必要があることが明記されました。

Flow Orchestrator に関するパイロットリリースノートが追加されました。

Vlocity HINS パッケージが不要であることを明記する注意が追加されました。

セールスケイデンスのその他の機能強化

セールスケイデンスの対象の制限を増加するには、ユーザは Salesforce カスタマーサポートに連絡する必要があることが明記されました。

2021年5月17日

メタデータ API

Field Service の Flow メタデータ型の FlowActionCall メタデータサブタイプに対する新しい呼び出し可能なアクションが追加されました。

ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

廃止されるコンポーネントのリストに `ui:scrollerWrapper` が追加されました。

Winter '22 で廃止されるセキュアエージェント

セキュアエージェント機能の廃止について発表するノートが追加されました。

API バージョン 52.0 でのフローおよびプロセス実行時の改善

[レコードを取得] 要素を介してアクセスする関連オブジェクトのパーセント数式項目の正確な評価に関するリリースノートが追加されました。

すべてのトリガフロー種別でのループ後の [レコードの更新] 要素の一括処理に関するリリースノートが追加されました。

利用状況総計値と MetricsDataFile API オブジェクトの廃止

廃止スケジュールを含むリリースノートが AppExchange セクションに追加されました。

利用状況総計値の廃止

廃止スケジュールを含むリリースノートが AppExchange パートナーセクションに追加されました。

新しいバージョンのリモートコネクタへの準備

2021年8月1日以降に初めて使用するユーザが新しいコネクタバージョンで想定できることに関する詳細が追加されました。

ネイティブフォントを使用した読みやすさの向上 (ページ 81)

Salesforce Sans からネイティブシステムフォントへの変更に関する情報が追加され、「デフォルトフォントはシステム UI フォント」(ページ 289) からリンクされました。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

このリリース更新の適用は Summer '23 に延期されました。

財務トランザクションおよび財務残高スナップショットの選択リスト項目の値の編集および削除

特定の財務トランザクションおよび財務残高スナップショット項目の選択リスト値の編集および削除に関するリリースノートが追加されました。

2021年5月10日

お客様のご要望

当社が配信したアイデアが追加されました。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

新しく検索可能になったオブジェクトのリストに次の6個のオブジェクトが追加されました。特典パラメータ値、ケア給付金検証要求、苦情ケース、ドキュメント生成プロセス、ロイヤルティプログラムメンバーケース、測定単位変換。

記事バージョンの比較による変更内容の確認 (正式リリース)

以前はベータであった記事バージョン比較機能に関する正式リリースについての発表が追加されました。

メタデータ API

Flow メタデータ型の FlowActionCall メタデータサブタイプに対する新しい呼び出し可能なアクションに関するリリースノートが追加されました。

データ処理エンジンの可用性の制限

Government Cloud および Government Cloud Plus の Salesforce 組織ではデータ処理エンジンを使用できないことを説明するリリースノートが追加されました。同様のリリースノートが Financial Services Cloud とロイヤルティ管理に追加されました。

削除: 再利用可能なプロモーションメールのカスタマイズ

この機能はまだ公開する準備が整っていません。準備ができたらお知らせいたします。

ホームページによる作業の迅速な開始

[区分] タブと [キャンペーン] タブに関する情報が削除されました。

簡単な画像アップロードを使用したコンテンツへのバッジとトレイルアートの追加

バッジとトレイルアートの .png ファイルを Trailmaker Content ユーザがアップロードできるようにする myTrailhead 機能が追加されました。

非同期 SOQL ジョブの表示に必要な追加の権限 (ページ 281)

非同期 SOQL ジョブを表示するときの動作の変更に関するリリースノートが追加されました。

削除: 他のエージェントまたはフローへの引き渡し

この機能はまだ公開する準備が整っていません。使用可能になったらお知らせいたします。

MuleSoft 用の外部サービスを使用して Flow Builder のアクションを生成することに関するパイロットリリースノートが追加されました。

Lightning Web コンポーネントを呼び出すクイックアクションの作成 (正式リリース)

以前はベータであったクイックアクション機能に関する正式リリースについての発表が追加されました。

2021年5月3日

API バージョン 52.0 でのフローおよびプロセス実行時の改善

グループの値にアクセスする差し込み項目に関するリリースノートが追加されました。

統合された改善項目の表示および詳細への容易なドリルダウン

Lightning ページでの統合された改善項目に関するリリースノートが追加されました。

レポート用 Einstein Discovery を使用したレポートバージョンの比較およびインサイトの探索

製品の名前が「レポート用 Einstein Discovery」に変更されました。

メタデータ API

ExperienceBundle 型の新しい scopedBrandingSetID および brandingSetType プロパティに関する 2 つの Experience Cloud リリースノートが追加されました。

Transaction Finalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (正式リリース)

Transaction Finalizers 機能の正式リリースが Summer '21 に変更されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

新しい FieldServiceOrgSettings オブジェクトに関する情報が追加されました。

Lightning アプリケーションの OAuth 範囲の適用 (更新)

新しいリリースの更新が追加されました。

APIバージョン 52.0でのフローおよびプロセス実行時の改善

有効な通貨の表示に関するリリースノートが追加されました。

Lightning Experience でのお好みの方法での売上予測の測定

カスタム基準売上予測が使用可能になるタイミングに関する情報が追加されました。

新しいバージョンのリモートコネクタへの準備

手動アップグレードのセクションとコネクタが追加され、自動アップグレードと手動移行のセクションが削除されました。

パイプライン検査を使用した営業チームの説明責任の促進

パイプライン検査が使用可能になるタイミングに関する情報が追加されました。

アプリケーション内 Trailhead 学習から学習パスへの名前変更

名前変更について発表するリリースノートが追加されました。この名前は他の学習パスリリースノートでも更新されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント

lightning-datatable コンポーネントの aria-labelledby 属性が追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント

lightning:datatable コンポーネントの ariaLabelledby 属性が追加されました。

[時間ベースのワークフロー] ページでのより多くの関連するオブジェクトの表示

[時間ベースのワークフロー] ページの機能強化に関するリリースノートが追加されました。

2021年4月26日

削除: 権限セットの更新による注文および注文商品アクションのアクセス要件の強化

Summer'21 リリースから機能が削除されたため、リリースノート「権限セットの更新による注文および注文商品アクションのアクセス要件の強化」が削除されました。

キャンペーンメンバーとして追跡することで取引先に焦点を合わせる (正式リリース) (ページ 568)

取引先ベースのキャンペーン管理ツールが「Pardot」セクションから「キャンペーン」セクションに移動し、ポイントトピックが追加されました。

ルーティングおよび最適化用の Sandbox サービスのオフロード

関連情報が追加されました。

リリース済みモデルの簡単な置き換え

新しいトピックと関連情報が追加されました。

Einstein 予測コンポーネントでのモデルカードの表示および時間ベースの予測のカスタマイズ

新しいトピックと関連情報が追加されました。

IP アドレスのブロックによるメール開封データの調整

バージョン IPv4 の IP アドレスのみをサポートすることが追加されました。

フローおよびプロセスのリリース更新

フローおよびプロセスのリリース更新に関するリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

Commerce 注文管理オブジェクトの新しい項目が追加されました。

2021年4月19日

Salesforce Summer '21 リリースノート

公開済みプレビューリリースノート。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- **Trailblazer Community** — [Release Readiness Trailblazers](#) グループにフィードバックをお寄せください。フィードバックの追跡や応答がしやすくなるように、リリースを示すハッシュタグ(#Winter20Feedbackなど)を使用してください。
- **フィードバックフォーム** — Salesforce ヘルプ、リリースノート、開発者ガイドのドキュメントには、フィードバックボタンと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter** — Twitter で @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

このリリースの新機能

- **リリースのマイルストーン**。リリースの重要な日付を確認します。
- **リリース概要デッキ(ROD)**。ユーザ向けの社内トレーニングを作成したり、設定画面を確認したり、機能の使用方法を学習したりします。
- **リリースマトリックス**。ユーザにすぐに影響を与える機能をすばやく確認します。
- **Summer '21 プレリリースのサインアップ**。プレリリース組織にサインアップして、新機能に早期アクセスを取得します。
- **Release Readiness の提供**。新しい機能を登録し、活用します。
- **リリースデモ**。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。
- **Summer '21 リリース Web サイト**。新しい機能を確認します。
- **「Summer '21 リリースの特長」モジュール**。Summer '21 Trailhead バッジを取得します。
- **Release in a Box**。このキットを使用して新しいリリースの準備をして、新しいリリースを組織とユーザに提示します。

Release Readiness の基本

- **Release Readiness Trailblazers**。各種リソースと専門家にアクセスし、リリース準備状況に関するあらゆることを確認します。

- **Trust 状況のメンテナンス**。Sandbox およびその他のリリース日時を確認します。メンテナンス日を確認するには、[Instances (インスタンス)] をクリックし、自分のインスタンスをクリックします。
- **Sandbox 更新の計算機能**。既存の Sandbox 組織を更新する必要があるかどうかや、いつ更新する必要があるのかを計画します。
- **Sandbox プレビュー動画**。Sandbox プレビュープロセスのナビゲーション方法について学習します。
- **Sandbox プレビュー手順**。Sandbox で新機能への早期アクセスを取得します。
- **Certification Release Maintenance Schedule (認証リリースメンテナンススケジュール)**。Trailhead の認定資格を更新します。
- **Salesforce リリースへの準備**。Trailhead を使用してリリース戦略を作成します。
- **Releases Email Journey (リリースメールジャーニー)**。メールに登録してリリースの準備を整えます。

機能が使用可能になる方法と状況

Summer '21 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザーに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザーに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザーが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つかりやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

機能	ユーザーに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイス	✓			
Salesforce Classic への IE11 Lightning Experience ユーザーのアクセスを不可にする	✓			
Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイス	✓			
Tableau CRM でサポートされるブラウザ	✓			

Salesforce 全体

Salesforce 環境の多数の新機能と機能強化の準備をしてください。新しい[お客様のアカウント]セルフサービスアプリケーションで、サブスクリプションを参照、購入、管理します。新しい[有効ライセンス数]タブでライ

センスの使用を追跡します。強化された学習パスおよびアプリケーション内ガイダンスでユーザをサポートします。Salesforce アンケートの回答率と情報収集を改善します。Salesforce Scheduler で予定管理を簡略化、合理化、拡張します。Einstein Search を使用して、情報を効率的かつ迅速に検索する方法をユーザに提供します。

機能	システム管理者/ ユーザに対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
全般的な機能強化				
多要素認証(MFA)を有効にするための今後の要件			✓	
Salesforce ヘルプのリリースノートで新機能と優れたユーザエクスペリエンスの情報を取得			✓	
Winter '16 より前の Salesforce リリースのリリースノート PDF をダウンロード			✓	
[お客様のアカウント] アプリケーションを使用した製品の参照、購入、管理 (正式リリース)			✓	
有効なライセンスの追跡		✓		
Lightning Experience の [設定] でのオブジェクトのトピックの有効化		✓		
タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (更新、延期)			✓	
ネイティブフォントを使用した読みやすさの向上		✓		
カスタムテーマの使用時の表示の明瞭化		✓		
Salesforce Optimizer の PDF レポートの廃止			✓	
カスタマイズ可能なアクションによる [最近参照したデータ] リストの強化	✓			
ユーザエンゲージメント				
学習パス (正式リリース)				
アプリケーション内 Trailhead 学習から学習パスへの名前変更	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
学習パスの表示の制御			✓	
期日と学習ホームによる順調なトレーニングの進行	✓			
カスタム学習項目によるトレーニングの拡張			✓	
学習パスレポートでユーザの進行状況を追跡 (ベータ)			✓	
アプリケーション内ガイダンス				
対象プロンプトを使用したページ の特定の要素の参照 (ベータ)		✓		
ユーザへの無料の3つのカスタム ウォークスルーの表示		✓		
アプリケーション内ガイダンスの 作成の権限要件の改訂		✓		
ユーザが求めるタイミングで再通 知されるアプリケーション内ガイ ダンス		✓		
必要なときに得られるパーソナ ライズされたガイダンス		✓		
Salesforce アプリケーション内コン テンツについて		✓		
Salesforce アンケート				
アンケートを一度により多くの参 加者に配布	✓			
アンケートへの回答での関係書類 の収集	✓			
メールテンプレートへの良かった か良くなかったかの質問の埋め込 み	✓			
Salesforce Scheduler				
予定のトピックで作業するサービ ステリトリメンバーの業務時間 の設定			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Lightning Platform Starter ライセンスを使用したリソースのスケジュール			✓	
Salesforce Scheduler フローで時間枠を事前読み込みする日数の選択			✓	
新しい Apex メソッドを介したりソースと空き時間枠の取得			✓	
別のユーザとしての Salesforce Scheduler フローのデバッグ			✓	
検索				
Einstein Search (正式リリース)				
Essentials Edition で Einstein Search が使用可能			✓	
自然言語検索用の新しい項目の活用			✓	
自然言語検索での英語以外の単語の使用			✓	
Einstein Search を備えたナレッジの高度な検索の使用			✓	
Einstein Search for Knowledge による回答検索の向上 (パイロット)			✓	
さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に	✓			

Analytics

Lightning Experience のレポート実行ページのインライン編集で、データの分析と更新を同時に実行します。Tableau CRM データプレップレシピでは、変更を元の状態や前のバージョンに戻せることがわかっているため、果敢に試すことができます。Tableau CRM ダッシュボード間でウィジェットをコピーして貼り付けることで、ダッシュボードを迅速に作成します。レポートの Einstein Discovery によるレポート実行でのデータ分析の変更内容を確認します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
レポートとダッシュボード				
インライン編集を使用した [レポート実行] ページからの項目の更新 (ベータ)	✓			
カスタムレポートタイプへの項目の自動追加 (正式リリース)	✓			
ファイルへのダッシュボード画像のダウンロード	✓			
Tableau CRM				
データインテグレーション				
新しいバージョンのリモートコネクタへの準備			✓	
Salesforce 出力コネクタを使用した Tableau CRM から Salesforce への準備したデータの出力 (正式リリース)			✓	
追加の分析のための Tableau Online への Tableau CRM データのエクスポート (正式リリース)			✓	
Tableau CRM 出力コネクタの制限の変更	✓			
Microsoft Azure SQL データウェアハウスコネクタから Microsoft Synapse Analytics コネクタへの名前変更	✓			
ダイレクトデータを使用したデータ同期のない Salesforce データへのアクセス (パイロット)			✓	
レシピとデータフローを他の実行の完了後に実行するようにスケジュール			✓	
バージョン履歴を使用したレシピの復元	✓			
レシピの変更を元に戻す	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
拡張されたグラフィックインターフェイスでデータの接続、結合、追加	✓			
新しい関数を使用したデータプレップの計算済み数式の拡張			✓	
拡張された列名サポートで高機能なデータプレップ数式の作成			✓	
時系列売上予測を使用した将来の予測 (正式リリース)	✓			
クラスタ化を使用した新しいデータ分割方法の発見 (正式リリース)	✓			
ピボットを使用した多角的な集計データの分析 (正式リリース)	✓			
入力キャッシュでレシピの実行時間の短縮	✓			
レシピの迅速なプレビュー	✓			
事前作成済みテンプレートおよびアプリケーション				
Analytics for Communications - Business を使用した Communications Cloud に関するインサイトの取得			✓	
Analytics for Communications - Consumer によるカスタマーエクスペリエンスの改善			✓	
更新された Revenue Operations Analytics で売上目標の完全な把握	✓			
Revenue Operations Analytics のより詳細な制御で隠れたインサイトの発見	✓			
Revenue Operations Sales Manager 組み込みダッシュボードでどこからでも成立率の向上	✓			
アプリケーションの構築				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
ダッシュボード間でのウィジェットのコピー&ペーストを使用した生産性の大幅な向上	✓			
拡張されたテキスト書式設定を使用したダッシュボードインサイトへの豊かな表現の追加	✓			
Tableau CRM Analytics Studio でのテンプレートの直接的な作成および管理	✓			
Tableau CRM Direct Data での SQL の使用 (正式リリース)			✓	
気軽なカスタムタイムゾーンの試用 (ベータ)	✓			
ブレンドされたデータの追加の列オプションとウィンドウ関数の取得	✓			
比較テーブルでの Direct Data の機能紹介	✓			
セマンティック検索を使用した項目によるダッシュボードとデータセットの検索	✓			
SQL および SAQL の新機能		✓		
ディメンションおよび日付の null 値の機能強化 (ベータ)			✓	
アクセシビリティが向上したダッシュボードの使用	✓			
Einstein Discovery				
レポート用 Einstein Discovery を使用したレポートバージョンの比較およびインサイトの探索	✓			
モデルカードによる予測の透過性の向上 (正式リリース)	✓			
モデルパフォーマンスを改善するための欠損値の代入 (正式リリース)	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
スペルのあいまい一致を使用した 予測の改善 (正式リリース)	✓			
Salesforce 組織での外部モデルの実装 (パイロット)				✓
マルチクラスモデルを使用した複 数のカテゴリの結果の予測 (パイ ロット)				✓
相対的な開始日を使用した時間ベー スの予測の表示	✓			
すべてのリリース済みモデルでの 予測要求の監視	✓			
Einstein Discovery のセンチメント分析 を使用した非構造化データの価値 のあるインサイトへの変換 (パイ ロット)				✓
インサイト概要パネルを使用した インサイトフルなクイック分析の 取得	✓			
あらゆる場所での Einstein Discovery ス トーリーのインサイトの消費	✓			
ストーリーの絞り込まれたレンズ の保持	✓			
リリース済みモデルの簡単な置き 換え	✓			
統合された改善項目の表示および 詳細への容易なドリルダウン	✓			
Salesforce データパイプライン				
Salesforce データパイプラインを使用 した大規模な Salesforce データの強 化			✓	
すべてのユーザのための Tableau CRM				
快適に作業できる新しい Tableau CRM ホームページ	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Tableau CRM コレクションでのインサイトの選定および共有	✓			
複数の共有コレクションの登録			✓	
スマートなおすすめによる関連ダッシュボードの検出	✓			
モバイルでの分析				
ダッシュボードの即座の操作			✓	
高度なモバイルナビゲーションを使用したダッシュボードとアクション間の迅速な移動	✓			
Tableau CRM for iOS および Android の最新バージョンの取得	✓			

コマース

Lightning Experience の Salesforce B2B2C Commerce では、エンドツーエンドの B2C ストアフロントコマースソリューションに Salesforce プラットフォームの機能を取り込むことができます。B2B Commerce には、システム管理者によるアプリケーションの設定と店舗マネージャによる商品の管理を容易にする機能強化と、Einstein Search の提案の強化、新しいチェックアウトとインテグレーションのオプションが含まれています。オムニチャネル在庫では、更新されたフローコアアクションが提供されます。Salesforce Order Management では、返品注文の管理と追跡ができる新しいフロー、注文データを Marketing Cloud で使用する機能、買い物客の新しいセルフサービス機能が導入されます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
B2B2C Commerce (正式リリース)				
Commerce 操作の統合	✓			
B2B2C Commerce を使用した完全機能のストアの迅速な開始	✓			
人工知能を使用したパーソナライズされたショッピング体験の作成	✓			
マーケティングから営業への顧客のジャーニーの接続	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
B2B Commerce for Lightning Experience				
Commerce アプリケーション				
Commerce アプリケーションと Commerce オブジェクトを使用する ための Commerce の有効化			✓	
ストアおよびカタログへのより多 くの商品の追加			✓	
商品バリエーションのグループ化 の正式リリース			✓	
商品ワークスペースでのハイブリッ ドリストのカスタマイズ	✓			
各ストアの商品ハイブリッドリス トの取得	✓			
ゲスト閲覧者に対する商品共有ルー ルの設定のスキップ		✓		
注文リストコンポーネントを使用 した確認と再注文		✓		
注文リストコンポーネントを使用 するための注文メニュー項目の更 新		✓		
ユーザ権限を使用した注文および 出荷作業の委任		✓		
バイヤーアカウントとしての個人 取引先の使用		✓		
BuyerGroup および BuyerGroupMember 関連付けの変更によるパフォーマ ンスの向上		✓		
B2B Commerce の事前設定済み権限 セットの有効化			✓	
B2B Commerce 検索				
Einstein の検索の推奨結果の正式リ リース (正式リリース)			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
返される商品検索結果がない場合 のリダイレクトの除外			✓	
商品検索結果の並び替え			✓	
商品の検索結果と価格の個別読み 込み			✓	
より迅速な検索結果の取得			✓	
B2B Commerce チェックアウトとインテグレーション				
チェックアウトからの未管理およ び管理注文の作成		✓		
Checkout 支払コンポーネントでの支 払トークンの使用		✓		
その他の変更				
商品の増分、最小、および最大数 量ルールの設定			✓	
注文概要履歴コンポーネントの廃 止		✓		
オムニチャネル在庫				
オムニチャネル在庫フローコアア クション	✓			
Salesforce Order Management				
返品商品承認ワークフローによる 返品の管理			✓	
フローでの新しい注文管理返品機 能の使用	✓			
Marketing Cloud での注文データの使 用			✓	
買い物客へのセルフサービスツ ールの提供			✓	

カスタマイズ

Lightning Experience で直接、ユーザまたはグループにレコードアクセス権がある理由を簡単に確認できます。Salesforce 全体の新しいロケールと最新の形式を確認できます。また、外部サービスに対する機能強化により、公開されている API をより幅広く選択できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
共有				
Lightning Experience でのレコードアクセス権の理由の確認	✔			
大規模ユーザが所有するレコードの認証されていないゲストユーザとの共有		✔		
グローバル化				
新しい言語とロケールによるグローバル顧客とのつながり			✔	
ロケール形式の変更への準備	✔			
ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの更新)			✔	
[州/国/テリトリー選択リスト] 設定ページの簡略化		✔		
ノーフォーク島の標準タイムゾンの名称変更	✔			
外部サービス				
Summer '21 で廃止される従来の外部サービス		✔		
外部サービスウィザードを使用した操作の選択		✔		
最大 1.5 MB の OpenAPI 仕様の登録		✔		
allOf OpenAPI 2.0 スキーマ構造の使用		✔		
additionalProperties OpenAPI 2.0 スキーマ構造の使用		✔		
Apex オブジェクト名の長さが最大 255 文字までに拡張		✔		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
MIME タイプの指定		✓		
フローと拡張外部サービスを使用した Apex ユニットテスト		✓		
Lightning アプリケーションビルダー				
カスタム Lightning コンポーネント分析を使用したページパフォーマンスの改善		✓		
リポート種別パネルコンポーネントとリポート種別タブコンポーネントを使用したリポートプログラムと案件交渉および CPQ プロセスの統合			✓	
作成、編集、コピー時でも非表示のままになったアコーディオンコンポーネントとタブコンポーネント		✓		
アプリケーションページの動的アクションバーの作成 (パイロット)				✓
新しい Einstein Next Best Action コンポーネント属性の使用		✓		
項目				
選択リストのパフォーマンスの保護		✓		
AppExchange を介したより多くのカスタム項目のインストール		✓		
連動選択リストへのデフォルト値の事前入力		✓		
Einstein レコメンデーションビルダー				
おすすめテンプレートを使用した Field Service 作業指示での部品の推奨			✓	
プロファイルと権限				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
権限セットおよび権限セットグループの権限の割り当ての有効期限の設定 (ベータ)			✓	
[有効期限のある権限セットグループの割り当て (ベータ)] オプションの有効化		✓		
参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換 (更新、適用)			✓	
AppExchange				
AppExchange 購入での米国売上税の徴収の準備	✓			
一般設定				
バックグラウンド操作へのアクセスのカスタマイズ		✓		
分割ビューの一括アクションを使用した時間の節約	✓			
Winter '22 で廃止されるセキュアエージェント		✓		

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Lightning コンポーネント				
ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止			✓	
Lightning Web コンポーネントを呼び出すクイックアクションの作成 (正式リリース)		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Lightning Web コンポーネントのスタイル設定フックの作成		✓		
設定変更履歴での Lightning コンポーネントの変更の監視		✓		
新しいカスタム表示ラベルとコンポーネントの組み合わせのリリース		✓		
常に変更されるイベント対象		✓		
DOMAPIの変更で必要になる可能性のある UI テストの更新		✓		
Lightning Lockerのマークアップのサニタイズの変更		✓		
Lightning コンポーネントのリリース更新				
管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、適用済み)			✓	
Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、適用済み)			✓	
Lightning コンポーネントの安全な静的リソースの有効化 (更新、延期)			✓	
Aura コンポーネントへの安全なアクセス (更新)		✓		
Lightning アプリケーションの OAuth 範囲の適用 (更新)			✓	
Einstein Vision および Language				
Einstein Vision				
モデルの精度を高めるためのより多くのデータのアップロード		✓		
Einstein OCR コールのより詳細なエラーメッセージの取得		✓		
Einstein Language		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce Functions (ベータ)		✓		
Visualforce				
Visualforce Remoting API の安全なコール(以前にリリース済みの更新)		✓		
Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (以前にリリース済みの更新)		✓		
繰り返しコンポーネントの検証エラー防止		✓		
Apex				
Apex リファレンス情報が『Apex 開発者ガイド』から『Apex リファレンスガイド』に移動		✓		
Transaction Finalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (正式リリース)		✓		
ユーザモードデータベース操作による Apex コードの保護 (パイロット)		✓		
API				
Platform API の従来のバージョンの廃止およびサポートの終了			✓	
視認性が向上した新しいメタデータ API ドキュメント	✓			
Warning ヘッダー		✓		
フローの画面コンポーネントのデフォルト値を選択肢リソースに使用		✓		
非同期 SOQL ジョブの表示に必要な追加の権限		✓		
メタデータ API を使用した AppExchange パッケージの最大 35,000 ファイルのリリースおよび取得		✓		

機能	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
パッケージ化				
ロック解除済みパッケージと第二世代管理パッケージのブランチの活用		✓		
パッケージバージョンの作成時に実行される Apex テストへのアクセスを管理		✓		
今後のリリースに基づくパッケージバージョンの作成		✓		
登録者組織へのログインで多要素認証を要求 (更新、延期)			✓	
権限セットと権限セットグループを使用した機能へのアクセス権の配布		✓		
スクラッチ組織				
スクラッチ組織の組織シェイプの更新 (ベータ)		✓		
Sandbox				
Data Mask を使用してより多くのデータ型を保護		✓		
プラットフォーム開発ツール				
Platform アプリケーションの簡単な開発		✓		
Lightning Design System				
ダブルダッシュの BEM 表記の廃止を延期		✓		
デフォルトフォントはシステム UI フォント		✓		
設計トークンでの新しい Salesforce カラーシステムの使用		✓		
Lightning Design System コンポーネントブループリントの更新		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
AppExchange パートナー				
ベストプラクティスを使用した AppExchange の App Analytics クエリ 戦略の最適化				✔
利用状況総計値の廃止				✔
米国売上税の徴収に対する AppExchange ユーザの準備	✔			
更新された AppExchange の Marketplace Analytics ダッシュボー ドにおけるリードの行動ドライバ などの参照		✔		
プラットフォームイベント				
EventUuid 項目を使用したイベント メッセージの識別と照合		✔		

Einstein 自動化

Salesforce フロー、Einstein ボット、OmniStudio、Flow Orchestrator (パイロット) を使用してインテリジェントなワークフローを作成します。Salesforce 用 Mulesoft コンポーザを使用して任意のシステムにわたって統合します。

Einstein レコメンデーションビルダーと Einstein Next Best Action を使用して、パーソナライズされたおすすめを作成して提供します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Salesforce 用 Mulesoft コンポーザ			✔	
OmniStudio				✔
Einstein レコメンデーションビル ダー			✔	
Salesforce フロー				
Flow Builder				
Flow Builder での複数列画面の作成 (正式リリース)		✔		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
開始要素と決定要素の条件ロジックでの [変更済み] の使用		✓		
レコードトリガフロー数式での ISCHANGED、ISNEW、PRIORVALUE の使用		✓		
選択肢を表示する任意の画面コンポーネントのデフォルト値の設定		✓		
選択リストの必須設定の正確な制御		✓		
フロー画面作成中の選択肢コンポーネントの切り替え		✓		
コレクション内のデータの並び替えと制限		✓		
プレビュー可能なフロー画面コンポーネントの増加		✓		
レコードトリガフローでの項目の直接更新		✓		
Salesforce フローのアクセシビリティ機能の強化	✓			
フロー画面の条件付き表示を一目で確認		✓		
フローのデバッグ				
レコードトリガフローのデバッグ		✓		
失敗したフローへの迅速なアクセス		✓		
Flow Builder の一時停止要素の後のフローのデバッグ		✓		
トランザクションがコミットされたタイミングを確認するためのフローのデバッグ	✓			
フローエラーメールの読みやすさの向上		✓		
ボタン1つでフローをデバッグ		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
フロー管理				
新しいフローインタビューログエントリ制限によるパフォーマンスの向上		✓		
Flow Builder での参照のみの項目の永続的な除外		✓		
[時間ベースのワークフロー] ページでのより多くの関連するオブジェクトの表示		✓		
フロー拡張				
フローおよびプロセスのリリース更新				
フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 (更新、適用)			✓	
フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定 (以前にリリース済みの更新)			✓	
同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する (以前にリリース済みの更新)			✓	
プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)			✓	
画面フローの利用状況の分析 (以前にリリース済みの更新)			✓	
プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)			✓	
Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)			✓	
API バージョン 52.0 でのフローおよびプロセス実行時の改善		✓		
Einstein ボット				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
入力のおすすめを使用した複数言語での発言の迅速な生成 (ベータ)	✓			
記事の回答を使用したボットのナレッジ機能の強化 (ベータ)	✓			
より少ない発言でのインテントモデルの使用開始	✓			
Einstein ボットが新しい NLP 言語に対応 (ベータ)	✓			
インテント管理の強化によるボット作成の迅速化	✓			
言語ベースのインテントセットを使用したスマートなインテントモデルの作成	✓			
Boolean サポートのアップグレード	✓			

Experience Cloud

新しい[サービスは利用できません]ページを使用して常にサイトの継続性を保ち、専用のCDN証明書を使用してブランドとサイトのセキュリティを保護できます。Build Your Own (LWR) テンプレートがより広範囲に正式リリースされ、これを使用して、ページセクションのカラーパレットを含む新しいブランドシステムを活用できます。また、サポートが終了された Internet Explorer 11 にも別れを告げます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
エクスペリエンスビルダーサイト				
エクスペリエンスビルダーサイトでの Internet Explorer 11 のサポートの終了		✓		
カスタマイズ可能な [サービスは利用できません] ページを使用したビジネス継続性の維持(正式リリース)		✓		
エクスペリエンスビルダーサイトへのユーザのリダイレクト		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
正規URLを使用した重複コンテンツの検索の制御		✓		
エクスペリエンスビルダーサイトの画像への補助テキストの追加		✓		
パスコンポーネントを介した納入商品状況の確認		✓		
Einstein 予測コンポーネントでのモデルカードの表示および時間ベースの予測のカスタマイズ		✓		
開発者の生産性				
Build Your Own (LWR) がすべてのユーザにリリース		✓		
より簡単な LWR サイトのブランド設定		✓		
--dxp スタイル設定フックを使用した Lightning Web コンポーネントのブランド設定 (正式リリース)		✓		
特権スクリプトを使用した LWR サイトの Shadow DOM のバイパス		✓		
CDN 専用の証明書を使用したサイトのパフォーマンスの改善 (正式リリース)		✓		
SOAP API での Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目の非表示		✓		
ゲストユーザ				
認証されていないゲストユーザへの大規模ユーザが所有するレコードへのアクセス権の付与		✓		
ゲストユーザのメールアドレスの更新 (更新)		✓		
ゲストユーザライセンスの更新		✓		
セキュリティと共有				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Experience Cloud サイトおよび Salesforce サイトでのセキュアな HTTPS 接続の適用		✓		
ログインプロセス中の顧客の保護		✓		
メールアドレスの変更の確認による Experience Cloud ユーザの保護	✓			
その他の変更				
Mobile Publisher アプリケーションでのタブナビゲーションの使用		✓		
サイトの SEO の改善			✓	
サイトの認証済みユーザのパフォーマンスの改善			✓	
Lightning Experience の [設定] でのナレッジのトピックの有効化		✓		
プロフィールページでのユーザのすべての活動の表示	✓			
Customer Community ライセンスを使用した ToDo の作成、編集、削除	✓			

フィールドサービス

パスを使用して作業者が正しく作業を開始できるようにガイドし、作業者が納入商品の設定状況を把握できるようにします。作業プランを使用して作業を完了するためのガイド付きステップで作業者が順調に作業できるようにして、共通の作業プランおよび作業ステップのテンプレートを使用してサービスマネージャが作業プランを簡単に管理できるようにします。レコメンデーションビルダーを使用して作業指示の部品を Einstein で推奨できるようにするか、これを使用してビジネスニーズに合ったカスタムのおすすめを構築します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
おすすめテンプレートを使用した Field Service 作業指示での部品の推奨			✓	
納入商品設定の合理化とバーチャルの紙吹雪での成功の祝福		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
作業プランを使用した一貫したサービスの提供 (正式リリース)			✓	
スケジュール設定				
ルール検証チェックの制限によるスケジュール設定の合理化			✓	
予定をスケジュールするときの作業者とサービスのマッチングの改善		✓		
ルーティングおよび最適化用のSandbox サービスのオフロード		✓		
カレンダーでの予定とシフトの横での不在の表示		✓		
パターンからシフトを作成するときに追加する情報の増加			✓	
モバイル				
ブリーフケースビルダー (正式リリース)			✓	
位置共有に関する透過性の向上	✓			
予定アシスタントの位置精度の向上	✓			

Industries

業界固有のソリューションは、インテリジェンスと柔軟性が高くなります。Financial Services Cloud では、インテリジェントなドキュメントの自動化機能により、同意および開示の承認の管理が容易になります。Health Cloud では、インテリジェントなおすすみを使用して、予定のスケジュールを簡略化および最適化できます。Consumer Goods は、訪問実行の設定アシスタントとデスクトップサポートによって、従来よりも便利になっています。Manufacturing Cloud では、販売計画の修正や販売予測およびスケジュールの絞り込みを簡単に行うことができます。ロイヤルティ管理では、プロモーションのパーソナライズや特典アクションのカスタマイズを行うことができます。また、リベート管理では、新しい方法で支払の管理および計算を行うことができます。Public Sector Solutions では、データ入力と対応付けを自動化するツールが導入され、品質と効率を改善できます。Sustainability Cloud には、エネルギーパフォーマンスと排出量の絞り込みと視覚化を行う機能が追加されています。データ処理エンジン、決定テーブル、一括管理では、データを管理および活用するための新しい項目と機能が提供されます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Financial Services Cloud				
金融取引管理				
金融取引ライフサイクルの追跡と管理			✓	
複数のユーザまたはグループとの金融取引の共有			✓	
支店管理および関連付けエンジン (ベータ)				
関連付けエンジンを使用した思いどおりの方法でのチームの成果の追跡 (ベータ)			✓	
支店管理のレポート可能なオブジェクトを使用したパフォーマンスの測定			✓	
インテリジェントなドキュメントの自動化				
ロケール固有の同意および開示のドキュメントバージョンの管理	✓			
オンデマンドでの同意認証要求の生成	✓			
顧客からの同意および開示の認証の収集	✓			
インタラクション概要				
検索の改善によるインタラクション概要の検索時間の短縮			✓	
新しい概念の直感的なインターフェースを使用したインタラクション概要またはインタラクションの共有			✓	
外出先でのインタラクション概要へのアクセス			✓	
Financial Services Cloud の保険				
保険契約コンポーネントの機能強化			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Analytics for Insurance アプリケーショ ンデータのカスタマイズ			✓	
Actionable Relationship Center (ARC)				
ARC での世帯へのメンバーの追加	✓			
ARCの関連リストを表示または非表 示	✓			
インテリジェントフォームリーダー				
対応付けの自動生成			✓	
カスタムフォームページ間のナビ ゲーションの改善			✓	
ドキュメント種別の対応付け間で フォーム項目を共有			✓	
部分的に対応付けられたフォーム 項目の保存			✓	
リテールバンキング向け Customer 360 ガイド				
リテールバンキングのビジネスシ ナリオの探索			✓	
Salesforce ソリューションキットを使 用したクロスクラウドソリューショ ンの解決		✓		
Financial Services Cloud のその他の変更				
アクションプランへの ToDo 連動関 係の追加			✓	
Financial Services Cloud の新規および 変更済みのオブジェクト		✓		
REST API				
データ処理エンジンの可用性の制 限		✓		
Health Cloud				
インテリジェントな予定管理			✓	
提供者ネットワーク管理				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
新しい Health Cloud データモデルを使用した提供者とネットワークの統合		✓		
提供者検索の機能強化				
検索可能な項目をオンデマンドで更新			✓	
必須提供者検索項目の指定			✓	
提供者検索結果のコピーによるメンバーの問い合わせへの迅速な対応			✓	
連動選択リストを使用した選択の合理化			✓	
複数選択リストを使用した提供者検索結果の改善			✓	
提供者の迅速な検出			✓	
提供者レコードの更新/挿入		✓		
Health Cloud 提供者コールセンター学習マップを使用したジャーニーの開始	✓			
FHIR R4 サポートの機能強化				
StoreHealth Cloud により多くの種類の臨床データを保存		✓		
FHIR リソースとの連携の強化		✓		
FHIR R4 に従ったデータモデルでのレポートの実行		✓		
臨床データモデルのオブジェクトに対するサイトユーザアクセス権の有効化			✓	
利用管理				
患者ケアを改善するための利用管理の合理化		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
FHIRR4 に従った項目を使用した正確な情報の取得		✓		
利用管理オブジェクトに対するアクセス権の Experience Cloud ユーザへの付与		✓		
インテリジェントなドキュメントの自動化				
ロケール固有の同意および開示のドキュメントバージョンの管理	✓			
オンデマンドでの同意認証要求の生成	✓			
顧客からの同意および開示の認証の収集	✓			
インテリジェントフォームリーダー				
対応付けの自動生成			✓	
カスタムフォームページ間のナビゲーションの改善			✓	
ドキュメント種別の対応付け間でフォーム項目を共有			✓	
対応付けのドラフトの保存			✓	
Health Cloud のサイトユーザアクセス権の有効化		✓		
個人取引先の最適化				
Health Cloud の新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト		✓		
Connect REST API		✓		
Apex: 新しい項目				
Consumer Goods Cloud				
Consumer Goods 訪問実行アプリケーションを使用した仮想訪問の実行			✓	
Consumer Goods 設定アシスタントの使用開始			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
署名 ToDo を使用した質の高い訪問実行の確保			✓	
Salesforce カレンダーインテグレーションによる訪問の計画の機能強化			✓	
商品の取引先階層を使用した在庫状況の管理 (パイロット)			✓	
Consumer Goods Cloud のその他の機能強化			✓	
Manufacturing Cloud				
顧客要件に対応するための販売計画の修正			✓	
時間検索条件を使用した取引先販売予測と販売計画スケジュールの管理			✓	
Manufacturing Cloud の新しい呼び出し可能なアクション		✓		
Manufacturing Cloud の新しいアクション種別値		✓		
ロイヤルティ管理				
再利用可能なプロモーションメールのカスタマイズ		✓		
Marketing Cloud Connect で使用できるロイヤルティ管理オブジェクト		✓		
Salesforce アプリケーションからのメンバー情報の表示		✓		
Service Cloud との統合		✓		
ホームページによる作業の迅速な開始		✓		
含まれているテンプレートを使用した特典アクションの作成		✓		
特典アクションでの入力変数の定義		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
取引仕訳でのパートナーとパート ナー商品の検証		✓		
項目レベルセキュリティの設定		✓		
エンドユーザ言語の有効化		✓		
プロモーションを通じて獲得した ポイントの表示と追跡		✓		
区分メンバーシップの検証		✓		
フローテンプレートを介したプロ モーションの履行の有効化		✓		
[登録が必須]チェックボックスをオ ンにして登録の詳細を入力		✓		
キャンペーンに関連付けられたプ ロモーションの表示		✓		
取引仕訳に関連付けられたバウ チャーの表示		✓		
Hyperforce でのロイヤルティプログ ラムの実行				✓
データ処理エンジンの可用性の制 限		✓		
ロイヤルティ管理の新しいオブジェ クトと変更されたオブジェクト		✓		
ロイヤルティ管理の新しいメタデー タ型		✓		
ロイヤルティ管理の新しい Tooling API オブジェクト		✓		
リポート管理				
リポートプログラムの案件交渉お よび CPQ プロセスとの統合			✓	
エンドツーエンドの配送プログラ ムとデビットプログラムの作成と 管理			✓	
取引先階層の払い戻し支払の管理			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
リポートプログラムに対する債務の可能性の計算			✓	
複数の測定単位があるリポートトランザクションの支払の計算			✓	
リポート管理の新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト		✓		
リポート管理用 Einstein Discovery を使用したリポート主導の売り上げの増加 (ベータ)			✓	
リポート管理の新しい呼び出し可能なアクション		✓		
リポート管理の新しいアクション種別値		✓		
Public Sector Solutions				
インテリジェントフォームリーダーを使用した効率的なドキュメントのアップロード				
対応付けを使用した自動的な申込データの取得			✓	
アップロードされたドキュメントからの情報の抽出と確認			✓	
公共セクタでのインテリジェントなドキュメントの自動化の使用			✓	
調査管理の機能強化				
検査担当者をサポートする評価の質問の生成			✓	
検査担当者が従う順序の設定			✓	
公共セクタポータル之苦情追跡の柔軟性向上			✓	
Public Sector Solutions の新しいオブジェクト			✓	
Sustainability				
データ処理エンジン				
項目の階層の確認		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
相対計算変換を使用したデータ レンドの把握		✓		
外部に移動せずに定義を実行		✓		
定義による結果を書き戻しの回避		✓		
ローカルで定義を作成または編集		✓		
不要な定義の削除		✓		
警告への注意喚起		✓		
データ処理エンジンの可用性の制 限		✓		
決定テーブル				
カスタムロジックに基づく結果の 提供		✓		
複数の取得元のデータに基づく結 果の提供		✓		
Experience Cloud ユーザへの追加の アクセス権の付与			✓	
エポック時刻形式からの移行		✓		
決定テーブルの新しい項目		✓		
決定テーブルの新しい設定オブジェ クト項目		✓		
Connect REST API		✓		
一括管理				
クリックで実行のキャンセル		✓		
失敗レコードの簡単な再送信		✓		
一括処理できるレコード数の増加		✓		
一括管理の新しい項目		✓		
一括管理の新しい呼び出し可能な アクション		✓		
一括管理の新しいアクション種別 値		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Connect REST API		✓		
一括管理のプラットフォームイベントの新しい項目		✓		
Einstein リレーションインサイト				
Einstein リレーションインサイトを使用したレコードのアクション可能なインサイトの取得			✓	
[追加の個人レコードオブジェクト]を使用したより多くのオブジェクトリレーションの探索			✓	
適切なレコードの選択によるデータ品質の改善	✓			
ブラウザ拡張機能を使用した Web ページのリレーションインサイトの取得			✓	
Actionable Relationship Center でのリレーションインサイトの表示			✓	
データプライバシー要件に準拠する Einstein リレーションインサイト	✓			
インテリジェントフォームリーダー				
インテリジェントフォームリーダーの新しいメタデータ型		✓		
インテリジェントフォームリーダーの新しい Tooling API オブジェクト		✓		
一般的な Industries 開発者向けリソースの利用	✓			

モバイル

Android 向けモバイルホームなどの新しい機能を使用して、Salesforce モバイルアプリケーションでより多くの作業を実行できます。Experience Cloud 向け Mobile Publisher では、システム管理者は、Experience Cloud アプリケーションでの URL の開き方を設定したり、ユーザがアプリケーションを移動しやすいようにメニュー項目をカスタマイズしたりできます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce モバイルアプリケーション				
Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能				
Salesforce モバイルアプリケーションの要件の変更	✓			
Android 向けモバイルホームの習熟 (ベータ)			✓	
Einstein Search を使用したモバイルでのより効率的な検索 (正式リリース)			✓	
拡張モバイルセキュリティの設定 UI (正式リリース)				✓
タブレットでの全体像の表示 (パイロット)			✓	
Mobile Publisher				
ナビゲーションタブバーの設定 (正式リリース)			✓	
Experience Cloud アプリケーションでの URL の開き方の管理 (正式リリース)			✓	

myTrailhead

信頼性の高いモジュールやトレイルを簡単に作成できます。Trailmaker Content では変更内容がクラウドに保存され、バッジとトレイルアートのファイルをアップロードできます。会社のコンテンツおよびビジネスニーズが反映されるように myTrailhead のロールやレベルの検索条件をカスタマイズします。Salesforce Identity for myTrailhead ユーザは、同じログインで myTrailhead と公開 Salesforce Trailhead にアクセスでき、両方のサイトのコンテンツを使用して trailmix を作成できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Trailmaker Content によるコンテンツの保存	✓			
簡単な画像アップロードを使用したコンテンツへのバッジとトレイルアートの追加	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
[Today] ページを使用した Trailblazer の意欲の喚起	✓			
myTrailhead のロールやレベルのカスタム検索条件の追加および削除			✓	
Salesforce Identity for myTrailhead と同じログインを使用した myTrailhead および Salesforce Trailhead コンテンツの表示	✓			

Pardot

Einstein の機能を使用して取引先の理解を深め、送信時間最適化でメールエンゲージメントを促進できます。また、[Pardot オブジェクトの同期] が改善され、取引先ベースのキャンペーン管理ツールと共に正式リリースされました。メール送信可能性モデルをアップグレードして、メールマーケティング設定を簡略化することもできます。Pardot API を簡単に使用できるようにする新規および既存の開発者ドキュメントも参照してください。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
マーケターエクスペリエンス				
Engagement Studio の総計値の数式変更	✓			
リストメールのレポートページの変更	✓			
メールマーケティング設定の明確化とより詳細な制御			✓	
Lightning のリストメールをオペレーショナルとマーク				
リストメールの統計情報を短時間で表示	✓			
メールに適切なダイナミックコンテンツが含まれていることの確認	✓			
データと分析				
Einstein 送信時間最適化を使用したメールエンゲージメントの促進			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
AI を使用した最良の取引先の評価			✓	
デフォルト CDN ドメインを使用したより迅速な画像リポジトリの設定			✓	
Pardot オブジェクトの同期の改善 (正式リリース)			✓	
キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡			✓	
プラットフォーム				
Pardot 設定タスクを処理するマーケティング管理者の指定			✓	
Pardot API: 新規および変更された項目				
Pardot 開発者ドキュメントの改善でより多くの作業を実行	✓			

収益

権限を更新し、新しい権限セットを割り当て、権限とブラウザのパフォーマンスを向上させるための設定を有効にします。新しい必須の選択リストを使用します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Salesforce CPQ				
データセキュリティのアクセス権限セットの割り当てとテスト			✓	
Salesforce CPQ のブラウザパフォーマンスの改善の有効化 (更新)			✓	
Salesforce Billing				
顧客納入商品ライフサイクル管理でのビジネスカテゴリ選択リストの使用			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
キャンセルと再請求で作成された貸方票で請求書品目の税金ルールと請求ルールを継承			✓	
財務トランザクションおよび財務残高スナップショットの選択リスト項目の値の編集および削除			✓	

セールス

パイプライン検査により、営業チームはパイプラインを一元的に表示して、最も重要な案件に集中できます。売上予測種別を作成および管理し、より多くのオプションと改善されたエクスペリエンスを利用できます。より絞り込まれたメールエンゲージメントデータと改善されたメールテンプレートを取得できます。Salesforce Maps でフローを使用して、営業担当が会社のポリシーと COVID-19 安全プロトコルを採用および遵守できるようにします。Salesforce Meetings は、商談を進めるのに役立つ多くのインサイトを営業担当に提供します。Einstein 会話インサイトはサービスエージェントが使用できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
パイプライン検査				
パイプライン検査を使用した営業チームの説明責任の促進			✓	
中核的なセールス機能				
コラボレーション売上予測				
[設定] の [売上予測種別] からの環境の改善		✓		
Lightning Experience でのお好みの方法での売上予測の測定			✓	
キャンペーン				
キャンペーンメンバーとして追跡することで取引先に焦点を合わせる (正式リリース)			✓	
注文				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
注文の新規保存方式を使用する Non-Lightning Flow 1GP パッケージの パッチアップグレードの提供	✓			
中核的なセールス機能のその他の変更				
ネイティブの Sales Navigator インテグ レーションで LinkedIn を介して顧客 や見込み客とつながる			✓	
元のテリトリー管理の廃止		✓		
元のテリトリー管理共有レコード の削除 (更新)			✓	
ForecastingItem に追加された属性		✓		
生産性機能				
Einstein 活動キャプチャ				
Microsoft Exchange でのサービスアカ ウントの使用			✓	
内部行動の同期			✓	
Einstein 活動キャプチャ接続の問題 をより簡単にトラブルシューティ ング		✓		
Google カレンダーのイベントで Google Meet の詳細を含める			✓	
活動タイムラインでの機密情報の 表示防止	✓			
より迅速な Einstein 活動キャプチャ 設定の検索		✓		
Dialer				
デフォルトでの通話の録音		✓		
メール操作環境				
IPアドレスのブロックによるメール 開封データの調整			✓	
メールリレーの認証種別の選択			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
メールレポートでの詳細の確認	✓			
Web対応フォントを使用したメール へのスタイルの追加	✓			
メールテンプレート				
システム管理者がメールテンプレ ートビルダー権限なしで管理パッケー ジを作成できるようにする		✓		
メールテンプレートの添付ファイ ルをパッケージと変更セットに自 動的に含める		✓		
改善されたエラー処理によるメー ルビルダーテンプレートの容易な 修正	✓			
Web対応フォントを使用したメール テンプレートへのスタイルの追加	✓			
HTML タグを閉じるタイミングの制 御	✓			
Salesforce Inbox				
Salesforce Inbox モバイル	✓			
カレンダー				
被招集者の行動に行動主催者名を 表示	✓			
API からの定期的な行動の作成		✓		
月次行動を今日の日付に自動的に 開始	✓			
Salesforce Maps				
Salesforce Maps				
顧客訪問の安全プロトコルの自動 化			✓	
専有システムやサードパーティシ ステムからのカスタムデータの対 応付け			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
各ベースオブジェクトに表示されるカスタムアクションの指定			✓	
Map の新しい図形レイヤ		✓		
Salesforce Maps のその他の機能強化		✓		
Salesforce Maps Advanced				
予定が重複する場合の訪問とルート の計画		✓		
スケジュールでの特定の行動の非 表示			✓	
Salesforce Maps Advanced のその他の機 能強化		✓		
Salesforce Maps テリトリー計画				
経営陣の目標に沿ったテリトリー の計画			✓	
配置内の領域へのアクセス権の付 与			✓	
データセットのコピーと更新			✓	
地図の新しいコンテナセット		✓		
Salesforce Maps テリトリー計画のそ の他の機能強化		✓		
Salesforce Meetings				
ミーティングのダイジェストから の被招集者の詳細に対するアクセ ションの実行	✓			
商談を進めるためのより多くのイ ンサイトの取得	✓			
ミーティングのダイジェストを最 適化するためのコンポーネントの 追加		✓		
Salesforce Meetings での Zoom インテ グレーション機能の利用			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Microsoft Teams の会議へのミーティングのダイジェストの追加			✓	
Einstein 会話インサイト				
High Velocity Sales なしでの会話インサイトの使用				✓
サービスエージェントでの会話インサイトの使用				✓
会話インサイト録音プロバイダとしての Service Cloud Voice の追加			✓	
通話区分でのコメント	✓			
音声通話の共有	✓			
Chatter を使用したビデオレコードに関する考察	✓			
ビデオ通話参加者とそのレコードの照合	✓			
コレクションへのビデオ通話の追加	✓			
High Velocity Sales				
リード、取引先責任者、ユーザ、セールスケイデンスのエンゲージメントに関するレポートの作成			✓	
セールスケイデンス				
セールスケイデンスで LinkedIn を介して見込み客とつながる			✓	
各セールスケイデンスステップのエンゲージメントの成功の確認			✓	
セールスケイデンスのその他の機能強化	✓			
Sales Cloud Einstein				
リード区分を個別にスコアリングしてより正確な結果を取得			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
ガイド付き設定を使用した Einstein リードスコアリングの簡単な有効化			✓	
Google とのインテグレーション				
Gmail™ インテグレーション				
Inbox を備えた Gmail インテグレーションで内部メールの開封の追跡データを除外			✓	
Lightning Sync for Google				
Google カレンダーのイベントで Google Meet の詳細を含める			✓	
Google ユーザ向けの Einstein 活動キャプチャの新機能の確認			✓	
Microsoft® とのインテグレーション				
Salesforce と Microsoft Teams の統合 (正式リリース)				
			✓	
Outlook® インテグレーション				
macOS Big Sur で使用可能な Outlook インテグレーション	✓			
公開 Exchange Web サービスを使用しない Outlook インテグレーションの設定			✓	
Microsoft AppSource の代わりにファイルからの Outlook インテグレーションのインストール		✓		
Inbox を備えた Outlook インテグレーションで内部メールの開封の追跡データを除外			✓	
古いバージョンの Outlook および Windows での Outlook インテグレーションのサポート終了			✓	
Lightning Sync for Microsoft® Exchange®				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Microsoft ユーザ向けの Einstein 活動 キャプチャの新機能の確認			✓	
Exchange Online での基本認証の廃止 に関する Microsoft の発表の確認			✓	
Salesforce for Outlook				
アクションメニューの廃止			✓	
サービスが中断された場合のアク セスの復元			✓	
バージョン固有の Salesforce for Outlook リリースノートの検索	✓			
Sales Cloud のその他の変更				
活動データが保存される場所の把 握		✓		
[接続済みのアカウント]ページの名 前変更	✓			
活動ストレージ情報の新しい場所		✓		

Salesforce Anywhere (Quip)

Salesforce Anywhere で Salesforce データを最大限に活用します。Lightning Experience のテンプレートライブラリによりテンプレートをより多くの場所で使用し、テンプレートライブアプリケーションでテンプレートプロセスを合理化し、どこからでも Salesforce のライブデータを更新できます。Tableau および Tableau CRM で Quip 総計値を使用してユーザの文書エンゲージメントを測定し、レポートを作成できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Salesforce Anywhere 機能を使用でき るようになるタイミング	✓			
Lightning アプリケーションビルダー からテンプレートへのアクセス	✓			
Salesforce フローでの PDF を使用し た顧客文書の記録保持	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
テンプレートライブアプリケーションによるテンプレート設定の簡略化	✓			
Quip 文書とユーザエンゲージメントのレポートを実行できる場所の追加	✓			
外出先での Salesforce データの更新	✓			
Salesforce Anywhere ベータの変更について	✓			
Salesforce Anywhere エクスペリエンスの機能強化	✓			

Salesforce CMS

Salesforce CMS コンテンツをより詳細に制御します。公開スケジュールを管理したり、Experience Cloud コンテンツ配信ネットワーク (CDN) を介してコンテンツを共有したり、カスタムコンテンツタイプを編集したり、CMS エクスペリエンスに関する詳細や CMS コンテンツの使用場所を一目で確認したりできます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Salesforce CMS でのコンテンツ公開スケジュールの作成および管理		✓		
公開チャンネルのデフォルトドメインを介した CMS コンテンツの共有			✓	
既存の Salesforce CMS カスタムコンテンツタイプの編集		✓		
CMS エクスペリエンスページでのサイトに関する詳細の表示		✓		
サイトによる CMS 画像コンテンツの参照の特定		✓		

セキュリティと ID

多要素認証アシスタントの動作をリリース前に確認します。URL リダイレクトと OAuth 2.0 フローがより安全で効率的になりました。ユーザのメールアドレスをより簡単かつ安全に更新できるようになりました。Salesforce ドメインには HTTPS が必要であり、拡張ドメインはブラウザのセキュリティ要件を満たしています。新しい API 合計使用量イベント種別での API バージョンの使用について確認してください。サイトの場合、キャッシュを使用してページの読み込み時間を改善し、ゲストユーザライセンスを更新します。

機能	システム管理者/ ユーザに対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
ID とアクセス管理				
Salesforce Customer Identity Plus での顧客 ID の一元管理		✓		
多要素認証アシスタントからのより多くの指針の入手			✓	
OAuth 2.0 JWT ベアラーフローでアクセストークンを使用して割り当てられた範囲を取得		✓		
OAuth2.0 ハイブリッドアプリケーションフローのパフォーマンス時間の改善		✓		
Salesforce CDP 取り込み API データへの承認済みアクセス権の付与		✓		
期限が切れたタブをカスタムログアウト URL にリダイレクト		✓		
メールアドレスの更新に対するパスワードの変更の必須化		✓		
Experience Cloud ユーザ、パートナー、顧客のメールアドレス変更時に確認が必要 (更新、適用済み)	✓			
不明な URL への顧客のリダイレクトをブロック		✓		
Identity Connect 2.1 と Identity Connect 3.0.1.2 の廃止		✓		
Winter '22 でのワンタイムパスワードの長さの増加		✓		
ドメイン				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
拡張ドメインの有効化(更新)			✓	
カスタムドメインへのサイトトラ フィックのリダイレクト			✓	
ドメインでのセキュアなHTTPS接続 の適用		✓		
HSTS プリロードを使用したドメイ ンへのセキュアな接続のみの許可		✓		
[私のドメイン]のリリース(以前に リリース済みの更新)			✓	
Salesforce Shield				
Shield Platform Encryption				
連絡先情報の暗号化			✓	
ユーザのメールアドレスの暗号化 (ベータ)			✓	
イベントモニタリング				
EventLogFile でのユーザ種別に関する 情報の取得		✓		
API 合計使用量イベントを使用した API バージョンの使用の追跡		✓		
セキュリティセンターでの脅威検 知総計値の確認(ベータ)		✓		
セキュリティセンター				
脅威検知総計値(ベータ)			✓	
総計値の詳細日付範囲			✓	
その他の変更				
認証済みユーザ用にサイトの Visualforce ページのキャッシュ			✓	
サイトのゲストユーザを最新のラ イセンスに更新		✓		
サードパーティドメインへのセキュ アな HTTPS 接続の適用		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce サイトの許可される Cookie の設定の定義		✓		
非公開接続着信接続のアクセス元 IP アドレスの表示		✓		
非公開接続が HIPAA に準拠		✓		
インラインフレームの信頼済みドメインの追加		✓		

サービス

ビジネスの拡大と合理化に役立つ新しい Service Cloud ツールを使用して、自動化を搭載した統合サービス環境を提供します。サービス設定アシスタントを使用して、価値実現までの時間を短縮します。サービス設定アシスタントにより、自分とチームのために最適化されたサービスアプリケーションを作成し、より多くの重要な設定手順を実行できるようになりました。ワークフォースエンゲージメントを使用して、データ主導のシフト計画ツールと、従業員が成長してそれぞれのスキルを適用できるという二重のメリットがある機能(ヒント: Trailhead を利用)により、コンタクトセンターの運営を合理化します。Service Cloud Voice を任意のテレフォニープロバイダと統合して、Service Cloud Voice を最大限に活用します。どのような場合に Einstein によってチャットエージェントの返信が更新されるのかを学び、Einstein ケース分類の予測モデル構築の進捗状況を追跡します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
サービスの設定			✓	
ワークフォースエンゲージメント				
インテリジェントな予測と履歴データを使用した作業負荷の予測			✓	
オムニチャネル計画を使用したスケジュール要件の生成とシフトカバー率の確認			✓	
シフトスケジュールを使用したエージェント、シフト、および時間の管理				
一括割り当てによる一度に多数のエージェントのシフトへの割り当て			✓	
[候補を取得]を使用したシフトへのエージェントの手動割り当て			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
タイムシートおよび休暇申請の承認			✓	
エージェント能力促進ツールを使用したエージェントへの裁量権の付与				
エージェントエンゲージメントによるエージェントのスキル向上とキャリア開発			✓	
エージェントホームでのエージェントへの週のビューの表示			✓	
サービスリソース設定を使用したエージェントの仕事と生活のバランスの改善			✓	
チャンネル				
Voice				
パートナーテレフォニー用の Service Cloud Voice でテレフォニープロバイダを使用 (正式リリース)			✓	
既存の Amazon Connect コンタクトセンターと Voice の統合			✓	
会話後作業の制限と監視 (ベータ)			✓	
Service Cloud Voice ツールキット API での顧客向けにカスタマイズされたソリューションの構築		✓		
サービスの Einstein 会話インサイトを使用した通話データの把握			✓	
IDプロバイダ証明書の循環でコンタクトセンターの安全の確保			✓	
AIを使用してリアルタイムの通話の文字起こしから顧客の_intent を検出				✓
前の会話の入力のユーザ権限の追加			✓	
フローを使用した通話の転送、リアルタイムのキュー総計値の表示、				✓

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
通話の関連レコードを自動的に開く (パイロット)				
Service Cloud Voice での卓上電話の使用 (パイロット)				✓
Service Cloud Voice の設定ページの新しい名前	✓			
通話制御のタブとコンポーネントの新しい名前	✓			
Government Cloud での Service Cloud Voice のサポート			✓	
Web 用埋め込みサービス				
組み込みサービス会話種別の追加			✓	
Cookie を使用しないチャット接続の改善		✓		
スクリーンリーダーでの挨拶の表示		✓		
メッセージング				
前の会話の入力のユーザ権限の追加			✓	
フリーダイヤル番号での顧客からの画像の受信			✓	
ルーティング				
オムニチャネルフローを使用した適切なサービスエージェントへの顧客の接続 (ベータ)		✓		
新しいオムニチャネルの業務量制限を使用した計画とパフォーマンスの改善		✓		
会話後作業の合理化 (ベータ)			✓	
Einstein for Service				
Einstein 分類				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein ケースラップアップを使用した迅速なケースのクローズ (正式リリース)			✓	
分類モデルの簡単な作成		✓		
カスタム条件絞り込みを使用した予測品質の向上		✓		
Einstein のビルド進行状況の把握		✓		
Einstein 音声通話ラップアップを使用した通話の容易な完了 (パイロット)				✓
Einstein 記事レコメンデーション				
標準搭載の Einstein 記事レコメンデーションを使用した時間の節約		✓		
Einstein 返信レコメンデーション				
エージェントの手元に置く新しい返信の検出		✓		
返信の迅速な検索		✓		
16 言語でのチャットエージェントの返信の表示 (パイロット)				✓
ケース管理				
1つのマクロで一意的テンプレートを使用して複数のメールを送信	✓			
ケースフィードでのメールスレッドを使用したケース Web メールアラートの把握	✓			
ゲストユーザメールの改善によるセキュリティの強化	✓			
顧客をソリューションに導くカスタムヘルプセンターの生成	✓			
ケースのサポート設定、Web-to-ケース、ケース自動レスポンスルールでの Lightning テンプレートの事前設定	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
[ケース Web メール] クイックアクションでより長いメールを送信	✓			
ケースメール通知のシステムアドレスとしてデフォルトの No-Reply アドレスを使用 (以前にリリースされた更新)	✓			
右から左へ記述される言語互換性のあるケースメールの送信	✓			
参照 ID の無効化と新しいメールスレッド動作への移行 (更新、延期)	✓			
ナレッジ				
サービス設定アシスタントによるナレッジジャーニーの開始	✓			
Einstein 記事レコメンデーションを使用したエージェントへの記事の推奨		✓		
更新しやすくするための記事の編集スペースの拡張	✓			
記事の CKEditor での右から左へ記述される言語のサポート	✓			
Einstein Search を備えたナレッジの高度な検索を使用した記事の検索			✓	
記事バージョンの比較による変更内容の確認 (正式リリース)			✓	
Einstein Search for Knowledge による回答検索の向上 (パイロット)			✓	

一元化された情報源

一元化された情報源の新機能を確認してください。より多くの ID 検証オプションとデータ統合をユーザに提供し、パーソナライズされたインタラクションを可能にします。1つのアプリケーションを使用して、複数の Salesforce 組織を監視するポリシーを作成します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce CDP				
Customer 360 データマネージャ				
お客様とパートナーの ID		✓		
Customer 360 プライバシー				
忘れられる権利ポリシー		✓		

リリース更新

リリース更新は、継続的に組織の変更に関する重要な情報を提供します。これは、重要な更新から完全に置き換えられました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
[重要な更新] ノードの削除		✓		
リリース更新のお知らせ			✓	

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

このセクションの内容:

[Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイス](#)

Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

[Salesforce Classic への IE11 Lightning Experience ユーザのアクセスを不可にする](#)

組織に Internet Explorer 11 の延長サポートがない場合、IE11 で作業している Lightning Experience のみのユーザは Salesforce Classic にアクセスできなくなります。以前は、IE11 のサポートがないことに関するメッセージを受け取ったユーザは、Salesforce Classic に移動するを選択できました。Lightning Experience でサポートされるブラウザへの切り替えを提案するエラーメッセージが表示されるようになり、ユーザは Salesforce Classic に移動できなくなりました。

[Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイス](#)

Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

Tableau CRM でサポートされるブラウザ

Tableau CRM でサポートされるブラウザには、Lightning Experience でサポートされるブラウザが含まれますが、Tableau CRM は Apple® Safari® ではサポートされません。

Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイス

Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

対象: Lightning Experience は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

📌 メモ:

- Salesforce では、Salesforce Classic または Lightning Experience のコンテンツを表示する WebView や同様のコントロールを組み込む非ブラウザアプリケーションはサポートされていません。このコントロール種別を埋め込むアプローチの例として、Salesforce Mobile SDK、Microsoft の WebBrowser コントロール、Electron の埋め込み Chromium ブラウザ、iOS の UIWebView および WKWebView、Android の WebView などが挙げられます。
- モバイルブラウザで Lightning Experience にアクセスすることはできません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce モバイルアプリケーションを使用することをお勧めします。
- iPad の Safari で Lightning Experience にアクセスできます。詳細は、「[iPad Safari の Lightning Experience の考慮事項](#)」を参照してください。
- Lightning Experience では、シークレットモードや他のプライベートブラウズモードはサポートされていません。

デスクトップとラップトップ


Salesforce では、次のブラウザをサポートしています。ブラウザが最新になっていることを確認してください。他のブラウザ、またはサポートされるブラウザの古いバージョンでは、すべての機能のサポートは保証されません。

🚨 重要: Internet Explorer 11 による Lightning Experience へのアクセスは、2020 年 12 月 31 日にサポートされなくなります。

- IE11 を使用していると、サポートされていないブラウザであることを示す永続バナーが Salesforce 組織に表示されます。
- IE11 での Lightning Experience の使用には、**重大なパフォーマンスの問題**があります。
- この変更は、Salesforce Classic には影響しません。

🚨 重要: Lightning Experience および Salesforce Classic での Chromium 以外のバージョンの Microsoft Edge のサポートは 2020 年 12 月 31 日に終了します。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以 外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Lightning Experience	未サポート	未サポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート
エクスペリエンスビルダーサイト	未サポート	未サポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート
設定に関する特別な考慮事項?	未サポート	未サポート	なし	なし	なし	なし
制限事項?	あり	あり	あり	なし	あり	あり


 **メモ:** ブラウザベンダーが独自のブラウザの「最新」を定義しています。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

タブレット

iPadOS (iOS 13.x) 以降で Apple Safari を使用してください。iPad Safari の Lightning Experience では、縦方向と方向の切り替えはサポートされていません。Safari ブラウザの幅全体が表示されるように、横方向を使用します。方向が切り替わらないようにするには、iPad の回転ロックを有効にします。

Android ベースのタブレットの Salesforce モバイルアプリケーションのみがサポートされています。

	Apple® Safari®	Google Chrome™	他のブラウザ	Salesforce モバイルアプリケーション
iPadOS	サポート	未サポート	未サポート	サポート
Android	なし	未サポート	未サポート	サポート

 **メモ:** Salesforce では、Microsoft Surface や Microsoft Surface Pro デバイスなどのタッチ対応ラップトップは、タブレットではなくラップトップとして扱います。これらのデバイスでは、Salesforce モバイルアプリケーションにアクセスできません。ユーザは、有効になっているフルサイト環境 (Lightning Experience または Salesforce Classic) にリダイレクトされます。これらの種類のデバイスでは、標準のキーボードとマウスによる入力のみがサポートされています。

スマートフォン

最適な操作性を得るには、Salesforce モバイルアプリケーションを使用してください。

Salesforce Classic への IE11 Lightning Experience ユーザのアクセスを不可にする

組織に Internet Explorer 11 の延長サポートがない場合、IE11 で作業している Lightning Experience のみのユーザは Salesforce Classic にアクセスできなくなります。以前は、IE11 のサポートがないことに関するメッセージを受け取ったユーザは、Salesforce Classic に移動することを選択できました。Lightning Experience でサポートされるブラウザへの切り替えを提案するエラーメッセージが表示されるようになり、ユーザは Salesforce Classic に移動できなくなりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 次のすべての条件が一致する場合に、この変更が適用されます。

- 組織に IE11 の延長サポートがない。
- ユーザまたは組織に Salesforce Classic へのアクセス権がないため、ユーザに Lightning Experience へのアクセス権のみがある。
- ユーザが IE11 ブラウザで作業している。

理由: Lightning Experience へのアクセス権のみを持つユーザが Salesforce Classic ページにアクセスできないようになります。

会社で IE11 を Lightning Experience で引き続き使用するように計画している場合、2020 年 12 月 31 日までの IE11 の延長サポートにオプトインすることをお勧めします。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイス

Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

対象: Salesforce Classic はすべてのエディションで使用できます。

- ☑ **メモ:** モバイルブラウザでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce モバイルアプリケーションを使用することをお勧めします。
- ⚠ **重要:** Lightning Experience および Salesforce Classic での Chromium 以外のバージョンの Microsoft Edge のサポートは 2020 年 12 月 31 日に終了します。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以 外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Salesforce Classic	IE 11 のみ	未サポート	最新の安定ブ ラウザバー ジョンをサ ポート	最新の安定ブ ラウザバー ジョンをサ ポート	最新の安定ブ ラウザバー ジョンをサ ポート	最新の安定ブ ラウザバー ジョンをサ ポート

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以 外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Salesforce Classic コンソール	IE 11 のみ	未サポート	最新の安定ブ ラウザバー ジョンをサ ポート	最新の安定ブ ラウザバー ジョンをサ ポート	最新の安定ブ ラウザバー ジョンをサ ポート	未サポート
設定に関する 特別な考慮事 項?	あり	未サポート	なし	なし	あり	なし
制限事項?	あり	あり	あり	なし	なし	あり


 **メモ:** ブラウザベンダーが独自のブラウザの「最新」を定義しています。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

Tableau CRM でサポートされるブラウザ

Tableau CRM でサポートされるブラウザには、Lightning Experience でサポートされるブラウザが含まれますが、Tableau CRM は Apple® Safari® ではサポートされません。

Salesforce 全体

Salesforce 環境の多数の新機能と機能強化の準備をしてください。新しい[お客様のアカウント]セルフサービスアプリケーションで、サブスクリプションを参照、購入、管理します。新しい[有効ライセンス数]タブでライセンスの使用を追跡します。強化された学習パスおよびアプリケーション内ガイダンスでユーザをサポートします。Salesforce アンケートの回答率と情報収集を改善します。Salesforce Scheduler で予定管理を簡略化、合理化、拡張します。Einstein Search を使用して、情報を効率的かつ迅速に検索する方法をユーザに提供します。

このセクションの内容:

全般的な機能強化

無料で多要素認証を有効にします。新しい[お客様のアカウント]アプリケーションで、サブスクリプションを参照、購入、管理します。Lightning 利用状況アプリケーションの新しい[有効ライセンス数]タブで有効なライセンスの利用状況を追跡します。[オブジェクトのトピック]を使用してテーマ別にレコードを整理します。

ユーザエンゲージメント

学習パスが正式リリースされます。システム管理者は、学習項目として URL を割り当て、期日を指定します。すべての学習項目が表示される新しいホームがエンドユーザに提供されます。アプリケーション内ガイダンスのラインアップに対象プロンプトが追加されました。

Salesforce アンケート

アンケートへの招待を一括で多数の参加者に送信できます。参加者はアンケートへの回答の添付ファイルとして必須詳細を共有できます。アンケートへの招待で良かったか良くなかったかの質問を送信して、参加者の好みを把握します。

Salesforce Scheduler

予定のトピックでサービスリソース業務時間を設定することで、予定のスケジューリングを合理化します。Platform Starter ライセンスと Salesforce Scheduler アドオンのみを使用してサービスリソースをスケジュールすることで、Salesforce Scheduler の機能を拡張します。

検索

検索により、Salesforce 組織内で関連情報を探しているユーザにインテリジェンスを提供し、効率を高めまします。ユーザは必要なレコードを簡単に見つけ、検索結果ページから直接 ToDo を実行できます。

全般的な機能強化

無料で多要素認証を有効にします。新しい[お客様のアカウント]アプリケーションで、サブスクリプションを参照、購入、管理します。Lightning 利用状況アプリケーションの新しい[有効ライセンス数]タブで有効なライセンスの利用状況を追跡します。[オブジェクトのトピック]を使用してテーマ別にレコードを整理します。

このセクションの内容:

[多要素認証 \(MFA\) を有効にするための今後の要件](#)

Salesforce は 2021 年 2 月 2 日、Salesforce 製品で MFA を有効化するすべてのお客様に対する今後の要件を発表しました。MFA 要件を満たすには、ユーザインターフェースを介して Salesforce にログインするすべての内部ユーザが MFA を使用する必要があります。Salesforce で直接 MFA を有効にするか、シングルサインオン (SSO) プロバイダの MFA サービスを使用できます。Salesforce MFA は無料で使用できます。

[Salesforce ヘルプのリリースノートで新機能と優れたユーザエクスペリエンスの情報を取得](#)

主な Salesforce リリースノートは Salesforce ヘルプに移動し、ヘルプや他のテクニカルコンテンツ、および Commerce Cloud、Marketing Cloud、Customer 360 のリリースノートと調和しています。

[Winter '16 より前の Salesforce リリースのリリースノート PDF をダウンロード](#)

Winter '16 より前のリリースノートをお探しですか? 次のリンクをクリックして、それらの PDF をダウンロードしてください。

[\[お客様のアカウント\]アプリケーションを使用した製品の参照、購入、管理\(正式リリース\)](#)

新しい[お客様のアカウント]アプリケーションを使用して、製品とライセンスを追加し、契約を管理し、組織内で取引先サポートを直接利用します。

[有効なライセンスの追跡](#)

Lightning 利用状況アプリケーションの新しい[有効ライセンス数]タブを使用して、有効なライセンス、割り当て済みライセンス、利用可能なライセンスを監視します。ユーザライセンス、権限セットライセンス、機能ライセンスのデータを追跡できます。ライセンス総計値により、ライセンスを増やす必要があるかどうか、必要なくなったライセンスがユーザに割り当てられていないかどうかをすばやく確認できます。

Lightning Experience の [設定] でのオブジェクトのトピックの有効化

トピックを使用すると、ユーザがレコードをテーマ別に整理できます。Lightning Experience の [設定] で、オブジェクトのトピックを簡単に有効化できるようになりました。[クイック検索] ボックスに「オブジェクトのトピック」と入力し、[オブジェクトのトピック] を選択します。この機能は、Salesforce Classic のみで使用可能でした。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (更新、延期)

この更新は Winter '22 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、Spring '22 に延期されました。Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。このリリース更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。

ネイティブフォントを使用した読みやすさの向上

Lightning Experience では、システムまたはデバイスでネイティブの sans-serif フォントが使用されるようになりました。この変更により、読みやすさとパフォーマンスが改善し、ラテン語以外の言語のユーザのエクスペリエンスが向上します。

カスタムテーマの使用時の表示の明瞭化

[テーマおよびブランド設定] のブランドの色の計算方法が変更されました。これらの変更は、画面のコントラストとすべての閲覧者の視覚的なアクセシビリティを改善するために行われました。これらの変更は、新規テーマと既存のテーマに適用されます。

Salesforce Optimizer の PDF レポートの廃止

より多くの機能を分析し、インタラクティブかつアクション可能な形式でお勧めを提供する Salesforce Optimizer アプリケーションの使用を開始してください。

カスタマイズ可能なアクションによる [最近参照したデータ] リストの強化

[最近参照したデータ] リストにカスタムアクションを追加できるようになりました。他のリストビューとの一貫性を保つために、[最近参照したデータ] リストに、オブジェクトのリストビュー検索レイアウトに追加されたアクションが表示されるようになりました。[印刷用に表示] など、一部のアクションは [最近参照したデータ] リストでは使用できません。この機能は、最初に Spring '21 で使用できるようになり、一時的に削除されていました。パフォーマンスが改善され、カスタムアクションを無効にするオプションを備えた状態で再リリースされました。

多要素認証 (MFA) を有効にするための今後の要件

Salesforce は 2021 年 2 月 2 日、Salesforce 製品で MFA を有効化するすべてのお客様に対する今後の要件を発表しました。MFA 要件を満たすには、ユーザインターフェースを介して Salesforce にログインするすべての内部ユーザが MFA を使用する必要があります。Salesforce で直接 MFA を有効にするか、シングルサインオン (SSO) プロバイダの MFA サービスを使用できます。Salesforce MFA は無料で使用できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべての Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: MFA 要件は 2022 年 2 月 1 日から有効になります。Salesforce の [信頼とコンプライアンスに関するドキュメント](#) の「Notices and Licenses Information (通知およびライセンス情報)」セクションにあるサービス利用規約では、この日付の時点で Salesforce 製品への直接ログインと SSO ログインに MFA が必要とされています。ただし、今すぐ計画を開始し、できるだけ早く MFA を実装することをお勧めします。

理由:世界的な脅威状況は絶えず進化しており、ビジネス活動を不能にして消費者に損害を与える可能性がある攻撃が増加しています。セキュリティ戦略の重要な部分は、Salesforce ユーザアカウントへのアクセスを保護することです。ただし、ユーザログイン情報を単独で使用しても、フィッシング攻撃、中間者攻撃、クレデンシャルスタッフィングなどの脅威に対する十分な保護は提供されません。そこで MFA が役立ちます。MFA は、許可されていないアカウントアクセスを防止し、ビジネスおよび顧客のデータを保護するための非常に効果的な方法です。

方法:MFA では、ユーザはログインするときに 2 つ以上の証拠(要素)を提供し、本人であることを証明する必要があります。1 つの要素は、ユーザが知っていること(ユーザ名とパスワードの組み合わせなど)です。他の要素は、ユーザが所有している検証方法(Salesforce Authenticator アプリケーション、物理セキュリティキーなど)です。ログインを複数の異なる種別の要素に結び付けることで、悪意のある人物が Salesforce 環境にアクセスすることがはるかに難しくなります。MFA についての詳細は、「[How MFA Works to Protect Account Access \(MFA がアカウントアクセスを保護するしくみ\)](#)」の動画をご覧ください。

Salesforce は、MFA 要件に対する準備をサポートします。開始するには、多要素認証アシスタントを確認してください。Lightning Experience で、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「MFA」と入力し、[多要素認証アシスタント]を選択します。

関連トピック:

[ナレッジ記事 多要素認証 \(MFA\) への対応のお願い](#)

[ナレッジ記事 Salesforce 多要素認証に関する FAQ](#)

[Salesforce ヘルプ:多要素認証アシスタントの概要\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[多要素認証アシスタントからのより多くの指針の入手](#)

Salesforce ヘルプのリリースノートで新機能と優れたユーザエクスペリエンスの情報を取得

主な Salesforce リリースノートは Salesforce ヘルプに移動し、ヘルプや他のテクニカルコンテンツ、および Commerce Cloud、Marketing Cloud、Customer 360 のリリースノートと調和しています。

対象:タブレットやモバイルでは一部の機能がまだ使用できないため、Salesforce ヘルプのリリースノートの最適な環境はデスクトップになります。

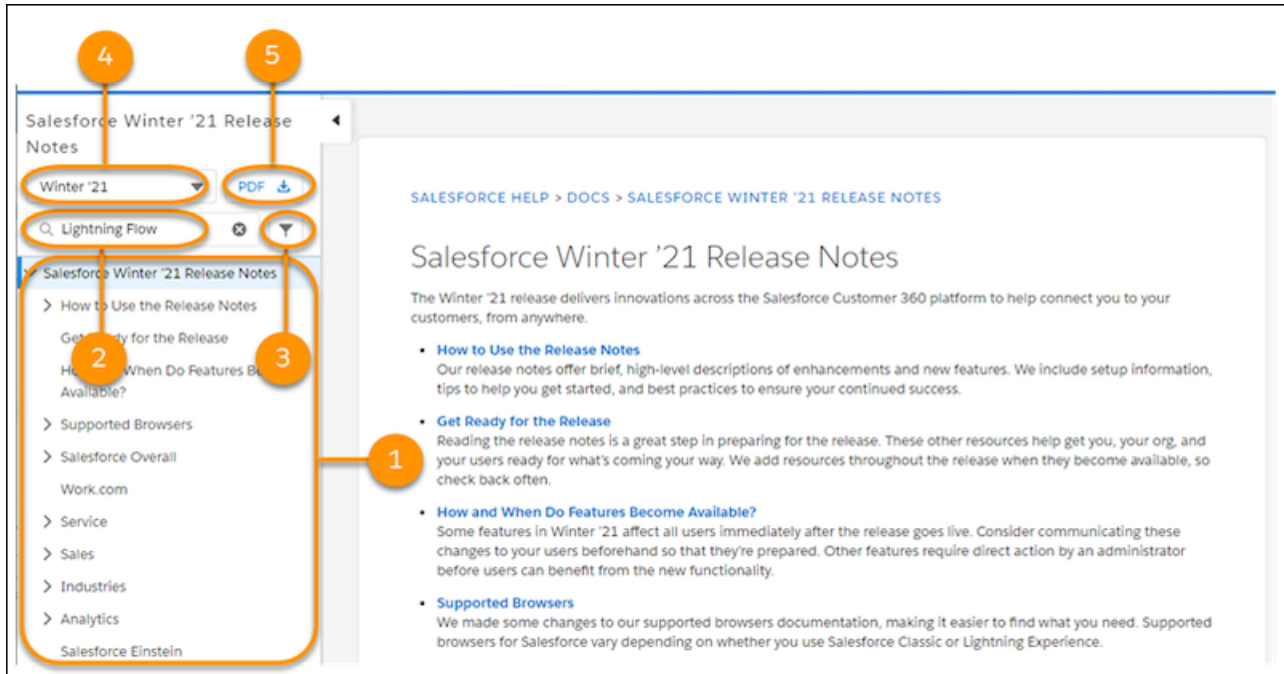
時期: Spring '16 ~ Summer '21 リリースのリリースノートは、Salesforce ヘルプから HTML 形式で入手できます。以前のリリースのリリースノートは、PDF 形式で入手できます。元の Salesforce リリースノートポータルは、2021 年 7 月に廃止されます。

理由: Salesforce ヘルプにリリースノートがあれば、お客様に最適な環境を提供することができます。バージョンの切り替えや簡単な PDF のダウンロードなど、これまで愛用してきた機能を引き続き利用できることに加え、検索、絞り込み、ケースの登録、フィードバックオプションなどが改善されています。わかりやすく使いやすいインターフェースですべて見つけることができます。

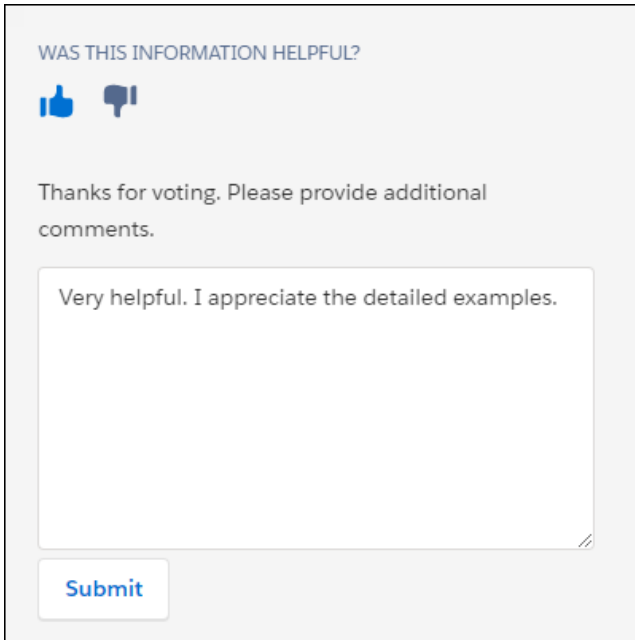
方法: help.salesforce.com に移動し、現在の Salesforce リリースの [リリースノート] タイルをクリックします。目的の機能のトピックを見つけるには、目次 (1) を移動するか、検索語 (2) を入力して結果のリストを取得します。それらの結果は絞り込むことができます (3)。

または、まず絞り込み (3) を行ってから目的のトピックを検索します。検索条件アイコンをクリックするだけです。検索条件には、Experience: Salesforce Classic、Lightning Experience、モバイルなどがあります。Salesforce のエディション、製品エリア、機能の影響(ユーザに対する有効化やシステム管理者に対する有効化など)の検索条件もあります。検索条件を単独で使用すると、リリースノートの目次が展開され、一致するトピックが強調表示されます。絞り込まれたコンテンツを検索して、選択した検索条件が適用された検索結果のリストを生成できます。

別のリリースのリリースノートを確認するには、リリース(4)を選択します。表示しているバージョンのリリースノートを PDF でダウンロードするには、[PDF] (5) をクリックします。



フィードバックがあれば、お寄せください。全体のエクスペリエンスについて、「[Release Readiness Trailblazers](#)」グループに投稿するか、@salesforcedocs 宛にツイートしてください。リリースノートトピックには、ヘルプトピックと同じオプション ([高評価] または [低評価]) があります。[コメント] 項目の詳細を記載できます。



WAS THIS INFORMATION HELPFUL?

👍 👎

Thanks for voting. Please provide additional comments.

Very helpful. I appreciate the detailed examples.

Submit

Winter '16 より前の Salesforce リリースのリリースノート PDF をダウンロード

Winter '16 より前のリリースノートをお探しですか? 次のリンクをクリックして、それらの PDF をダウンロードしてください。

- [Spring '14](#)
- [Summer '14](#)
- [Winter '15](#)
- [Spring '15](#)
- [Summer '15](#)

[お客様のアカウント]アプリケーションを使用した製品の参照、購入、管理(正式リリース)

新しい[お客様のアカウント]アプリケーションを使用して、製品とライセンスを追加し、契約を管理し、組織内で取引先サポートを直接利用します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

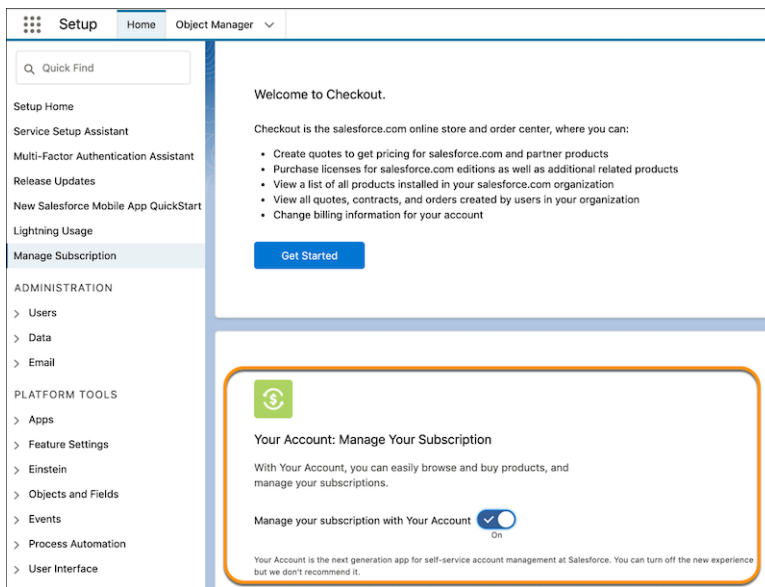
対象ユーザー: 「請求情報の管理」権限を持つシステム管理者は、[お客様のアカウント]アプリケーションを有効にできます。

理由: [お客様のアカウント]アプリケーションを使用すると、次の操作を実行できます。

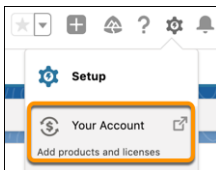
- サブスクリプションにシートやライセンスを追加する。
- 使用できるアドオンのカタログを参照する。
- 使用している製品と現在および過去の契約を参照する。

- サポートケースを登録する。
- 製品に関する詳細を営業に問い合わせる。
- Salesforce Checkout に移動して請求書を確認し、支払う。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「登録を管理」と入力し、[登録を管理] を選択します。[チェックアウト] ページで、[[お客様のアカウント]でサブスクリプションを管理]を有効にします。次に、ページを更新します。



[お客様のアカウント] アプリケーションを開くには、[設定] (⚙️) をクリックし、[お客様のアカウント] を選択します。



メモ: [お客様のアカウント] アプリケーションは、パイロットリリースとベータリリースでは「サブスクリプション管理」と呼ばれていました。

Essentials を使用しているお客様の場合、このメニュー項目名は「登録を管理」です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 新しい \[お客様のアカウント\] アプリケーション \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

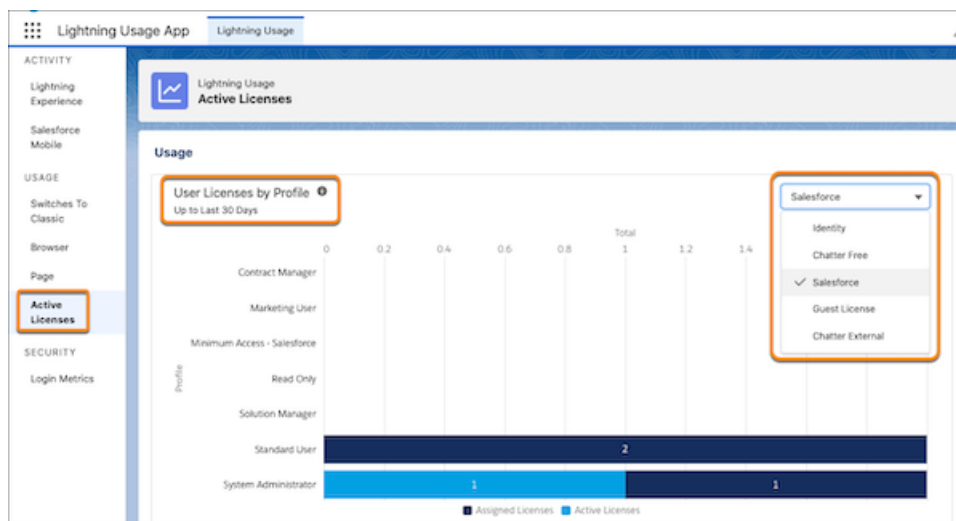
有効なライセンスの追跡

Lightning 利用状況アプリケーションの新しい [有効ライセンス数] タブを使用して、有効なライセンス、割り当て済みライセンス、利用可能なライセンスを監視します。ユーザライセンス、権限セットライセンス、機能ライセンスのデータを追跡できます。ライセンス総計値により、ライセンスを増やす必要があるかどうか、必要なくなったライセンスがユーザに割り当てられていないかどうかをすばやく確認できます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Lightning 利用状況アプリケーションは、Sandbox では使用できません。

時期: [有効ライセンス数] タブのデータは、毎週日曜日に収集されます。最初のデータは、Summer '21 がリリースされた後の最初の日曜日に使用できるようになります。たとえば、Summer '21 が 6 月 14 日の月曜日にリリースされた場合、6 月 20 日の日曜日から Lightning 利用状況アプリケーションで有効なライセンスデータを使用できるようになります。

方法: Lightning 利用状況アプリケーションにアクセスするには、☰ をクリックし、「Lightning 利用状況」と入力し、「Lightning 利用状況」をクリックします。左ペインの [利用状況] の下にある [有効ライセンス数] をクリックします。[有効ライセンス数] ページには、過去 30 日分の最新の利用状況データが表示されます。つまり、ライセンスを最後に利用したのが 3 日前であれば、グラフにその日のデータが表示されます。[プロフィール別のユーザライセンス] グラフには、割り当て済みユーザライセンスと有効なユーザライセンスの数がユーザプロフィール別に表示されます。右上の選択リストからユーザライセンスを選択すると、そのライセンスに割り当てられたプロフィールのデータが表示されます。[権限セットライセンス] および [機能ライセンス] グラフには、有効なライセンス、割り当て済みライセンス、未割り当てのライセンスのデータが表示されます。



Lightning Experience の [設定] でのオブジェクトのトピックの有効化

トピックを使用すると、ユーザがレコードをテーマ別に整理できます。Lightning Experience の [設定] で、オブジェクトのトピックを簡単に有効化できるようになりました。[クイック検索] ボックスに「オブジェクトのトピック」と入力し、[オブジェクトのトピック] を選択します。この機能は、Salesforce Classic のみで使用可能でした。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[IdeaExchange: Include Topic Setups in Lightning Version \(Lightning バージョンへのトピックの設定の追加\)](#)

[IdeaExchange: Chatter Topic Management in Lightning \(Lightning での Chatter トピックの管理\)](#)

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (更新、延期)

この更新は Winter '22 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、Spring '22 に延期されました。Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。このリリース更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。

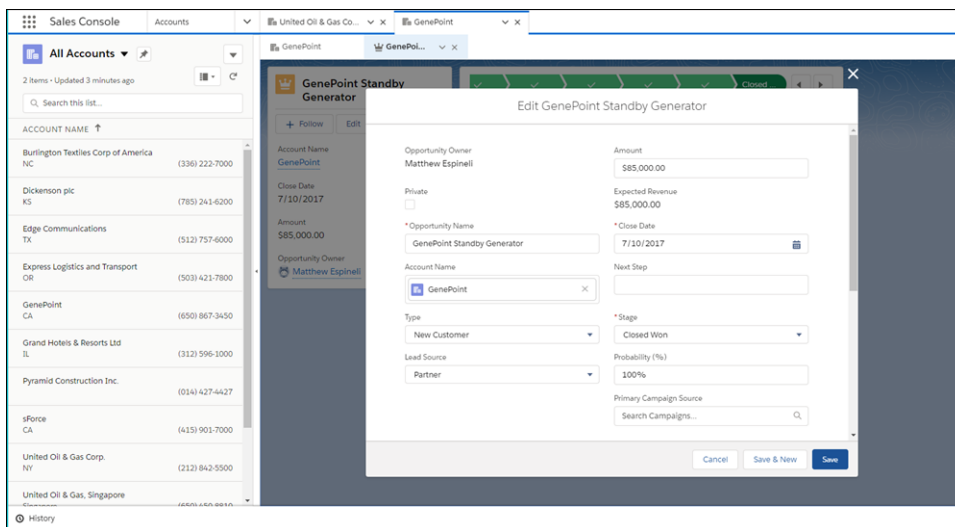
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

時期: このリリースの更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。この更新はすぐに有効化できます。有効化しない場合、この更新は Spring '22 で自動的に有効化されます。

理由: Winter '20 リリース以前は、Lightning コンソールアプリケーションのワークスペースタブまたはサブタブでトリガされたすべてのダイアログがアプリケーション全体のフォーカスを獲得していました。この更新では、ダイアログが、そのダイアログをトリガしたタブのフォーカスのみを必要とするようになるため、アプリケーションの他の部分とのインタラクションが邪魔されることがなくなります。

方法: このリリース更新を有効化するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力してから、[リリース更新] を選択します。[タブ中心のダイアログを使い続ける方法] で [有効化] をクリックします。

更新後、ダイアログがトリガされても、そのダイアログを作成したタブに制限されます。



関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

ネイティブフォントを使用した読みやすさの向上

Lightning Experience では、システムまたはデバイスでネイティブの sans-serif フォントが使用されるようになりました。この変更により、読みやすさとパフォーマンスが改善し、ラテン語以外の言語のユーザのエクスペリエンスが向上します。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: Salesforce Sans フォントは、Salesforce をどこで使用しても一貫した外観にするために役立ちましたが、このフォントにはいくつかの欠点がありました。ネイティブの sans-serif システムフォントを採用することでこれらの問題に対処します。

読みやすさの改善

各オペレーティングシステムの UI フォントは、画面上で最適な読みやすさを実現するように設計されているため、ほとんどのユーザにとって Salesforce Sans よりも読みやすく快適です。システムフォントを使用すると、Salesforce が環境に対してネイティブに見えるため、Salesforce と他のアプリケーションを切り替えるときの移行がスムーズになります。

より適したローカライズ

システム UI フォントは、ラテン文字を使用しない言語をサポートしています。中国語、日本語、キリル文字、アラビア語、ギリシャ語、ヘブライ語などの文字はシステム UI フォントで表示され、Salesforce Sans では表示されません。このような言語のユーザの場合、Salesforce ユーザーインターフェースは Salesforce Sans と必要な文字を含むネイティブフォント (Arial など) の組み合わせで表示されていました。ラテン語以外の言語のユーザは、ネイティブシステムフォントによりエクスペリエンスが向上します。

ブランド設定の競合の軽減

システム UI フォントはニュートラルです。それを使用することで、Salesforce ブランドとカスタマイズされた Salesforce 組織のブランドとの間の競合を防ぐことができます。

パフォーマンスの改善

システム UI フォントはすでにコンピュータまたはモバイルデバイス内にあるため、ネットワークトラフィックを必要としません。ページの読み込みがはるかに速くなります。

方法: この変更はデフォルトで表示されます。

低解像度のモニターを使用している場合、またはシステム UI フォントが設定されていない古いオペレーティングシステムを使用している場合、Salesforce ではシステムの Arial フォントが使用されます。

行の高さやカスタムフォントの太さの設定など、コンポーネントまたはページにフォント関連の調整を行った場合、視覚的劣化がないことを確認してください。多くの場合調整は削除できます。

カスタムテーマの使用時の表示の明瞭化

[テーマおよびブランド設定]のブランドの色の計算方法が変更されました。これらの変更は、画面のコントラストとすべての閲覧者の視覚的なアクセシビリティを改善するために行われました。これらの変更は、新規テーマと既存のテーマに適用されます。

対象: この変更は、グループ、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: これまでアルゴリズムは WCAG 2.0 に対応付けられていましたが、WCAG 2.1 の新しい要件に対応付けられるようになりました。色についても、以前のものより薄くしたり、濃くしたりすることができます。

方法: これらの変更はデフォルトで表示されますが、[アクセシビリティ対応のブランド色を上書き]チェックボックスをオンにして、リンクやブランド設定されたボタンの新しいアクセシビリティ対応のブランド色を上書きできます。この上書きにより、テキストが読みづらくなる可能性があります。また、グローバルナビゲーションの区切り線、状況コンポーネント、フローコンポーネントのアクセシビリティ対応のブランド色は上書きできません。

The screenshot shows the 'Branding' configuration page. Under the 'Brand Color' section, there is a blue color swatch with a dropdown arrow and the hex code '#0176D3'. To the right, there is an 'Accessibility Override' section with an unchecked checkbox labeled 'Override accessible brand color'. Information icons (i) are present next to the 'Brand Image', 'Brand Color', and 'Accessibility Override' labels.

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での組織のブランド設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[外部リンク: Web Content Accessibility Guidelines \(WCAG\) 2.1 \(Web コンテンツアクセシビリティガイドライン \(WCAG\) 2.1\) \(英語\)](#)

Salesforce Optimizer の PDF レポートの廃止

より多くの機能を分析し、インタラクティブかつアクション可能な形式でおすすめを提供する Salesforce Optimizer アプリケーションの使用を開始してください。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce Optimizer PDF レポート機能は、2021 年 6 月以降使用できなくなります。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「Optimizer」と入力して、[Optimizer] を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Optimizer モバイルアプリケーションを実行する \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

カスタマイズ可能なアクションによる [最近参照したデータ] リストの強化

[最近参照したデータ] リストにカスタムアクションを追加できるようになりました。他のリストビューとの一貫性を保つために、[最近参照したデータ] リストに、オブジェクトのリストビュー検索レイアウトに追加されたアクションが表示されるようになりました。[印刷用に表示] など、一部のアクションは [最近参照したデータ] リストでは使用できません。この機能は、最初に Spring '21 で使用できるようになり、一時的に削除されていました。パフォーマンスが改善され、カスタムアクションを無効にするオプションを備えた状態で再リリースされました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: この機能は自動的に使用できるようになりますが、ユーザがカスタムアクションを作成できないようにする場合は、システム管理者が無効にできます。[設定]から、[クイック検索]ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース]を選択します。[カスタマイズ可能な最後に使用した (MRU) アクションを無効化]を選択し、[保存]をクリックします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 一括クイックアクションの設定](#)

ユーザエンゲージメント

学習パスが正式リリースされます。システム管理者は、学習項目として URL を割り当て、期日を指定します。すべての学習項目が表示される新しいホームがエンドユーザに提供されます。アプリケーション内ガイダンスのラインアップに対象プロンプトが追加されました。

このセクションの内容:

学習パス (正式リリース)

Salesforce の対象ページの特定ユーザに対して関連する Trailhead および myTrailhead モジュールを割り当てることで、すでにユーザのオンボーディングとトレーニングを強化することができます。学習パスにカスタムリンクを追加して、独自の学習リソースをユーザに表示することもできるようになりました。ユーザが自分の作業を完了するのに何が必要かを確実に学ぶようにするため、各学習項目に期日を割り当てることができます。また、エンドユーザは学習ホームにアクセスできるようになりました。そこで、すべての学習項目を表示して学習できます。

アプリケーション内ガイダンス

このリリースでは、対象プロンプトが導入されており、ユーザのための限られた数の無料のウォークスルーが開きます。また、従来よりも簡単にシステム管理者以外のユーザに作成権限を割り当てることができるようになりました。

必要なときに得られるパーソナライズされたガイダンス

ガイダンスセンターがすべての組織で使用できるようになり、2つの新しいリソースセットが付属されるようになりました。組織を設定するときにガイダンスを確認するだけでなく、実装の価値を最大限に活用し、システム管理者のベストプラクティスから学習してください。

Salesforce アプリケーション内コンテンツについて

Salesforce のシステム管理者とエンドユーザに表示される貴重なアプリケーション内プロンプト、歓迎メッセージ、およびポップオーバーで最新情報を得ることができます。独自のプロンプトまたは他のアプリケーション内コンテンツを作成するときに、情報が重複しないようにします。

学習パス (正式リリース)

Salesforce の対象ページの特定期間ユーザに対して関連する Trailhead および myTrailhead モジュールを割り当てることで、すでにユーザのオンボーディングとトレーニングを強化することができます。学習パスにカスタムリンクを追加して、独自の学習リソースをユーザに表示することもできるようになりました。ユーザが自分の作業を完了するのに何が必要かを確実に学ぶようにするため、各学習項目に期日を割り当てることができます。また、エンドユーザは学習ホームにアクセスできるようになりました。そこで、すべての学習項目を表示して学習できます。

このセクションの内容:

アプリケーション内 Trailhead 学習から学習パスへの名前変更

学習サイドパネル内のいくつかのセクションも名前変更されました。[このページに関連]が[おすすめの学習]になりました。また、[一般的な学習コンテンツ] (旧称[おすすめ])が[詳細を学習するための方法]になりました。[進行中]セクションがパネルから削除され、[学習ホーム]に表示されるようになりました。

学習パスの表示の制御

学習パスは Salesforce でデフォルトで有効になっているため、すぐに使用してユーザの学習割り当てを設定できます。学習パスをカスタマイズするまで、ユーザの学習パネルと学習ホームには Salesforce が推奨する 3つのモジュールが表示されます。[設定]の[学習パス]ページから、学習パスを無効にできるようになりました。

期日と学習ホームによる順調なトレーニングの進行

学習割り当てに期日を追加して、ユーザが作業中にトレーニングに優先順位を付けられるようにします。学習ホームを使用すると、ユーザはアプリケーション内ですべての学習項目 (Trailhead および myTrailhead モジュールやカスタムリンクなど) に 1か所で簡単にアクセスできます。学習ホームでは、各ユーザの学習項目が[必須]、[推奨]、[進行中]、[完了]タブに分類されるため、ユーザは情報を整理して進行状況を確認できます。

カスタム学習項目によるトレーニングの拡張

割り当てられた Trailhead および myTrailhead モジュールを動画、チュートリアル、およびその他の役立つリソースへのカスタムリンクで補足します。Trailhead および myTrailhead モジュールの場合と同様に、これらのカスタム学習項目をアプリケーションの特定のページおよび特定のユーザに割り当てることができます。カスタム学習項目は、学習ホームの[必須]、[推奨]、および[完了]タブにも表示されます。

学習パスレポートでユーザの進行状況を追跡 (ベータ)

学習パスへのユーザエンゲージメントを監視するカスタムレポートとダッシュボードを作成して、トレーニングプログラムの効果を判断します。どのユーザがどの Trailhead および myTrailhead モジュールを使用しているか、割り当てられたモジュールを完了するのにどれくらい時間がかかっているか、などを追跡できます。学習パスのレポートは、Trailhead および myTrailhead モジュールに焦点を絞っています。カスタム学習項目へのユーザエンゲージメントについてのレポートは作成できません。

アプリケーション内 Trailhead 学習から学習パスへの名前変更

学習サイドパネル内のいくつかのセクションも名前変更されました。[このページに関連]が[おすすめの学習]になりました。また、[一般的な学習コンテンツ] (旧称[おすすめ])が[詳細を学習するための方法]になりました。[進行中]セクションがパネルから削除され、[学習ホーム]に表示されるようになりました。

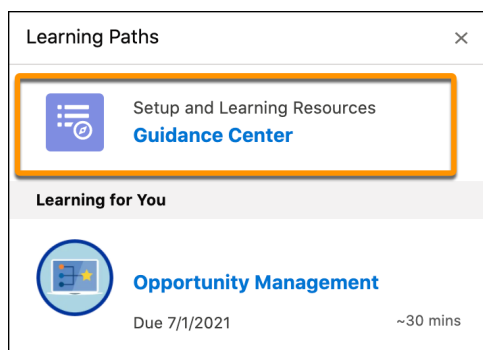
学習パスの表示の制御

学習パスはSalesforceでデフォルトで有効になっているため、すぐに使用してユーザの学習割り当てを設定できます。学習パスをカスタマイズするまで、ユーザの学習パネルと学習ホームにはSalesforceが推奨する3つのモジュールが表示されます。[設定]の[学習パス]ページから、学習パスを無効にできるようになりました。

対象:この変更は、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

対象ユーザ:すべてのユーザは、グローバルヘッダーの学習パスアイコンおよび関連付けられた学習パネルと学習ホームページにアクセスできます。「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、学習ホームを通じてユーザに学習項目を割り当てることができます。

理由:学習パスを無効にしても、「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、引き続きグローバルヘッダーにアイコンを表示できます。アイコンを使用すると、システム管理者はガイダンスセンターにアクセスできます。ガイダンスセンターでは、Salesforceの設定、カスタマイズ、および機能強化に関するパーソナライズされたおすすが提供されます。



関連トピック:

[Salesforceヘルプ:学習パス\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

期日と学習ホームによる順調なトレーニングの進行

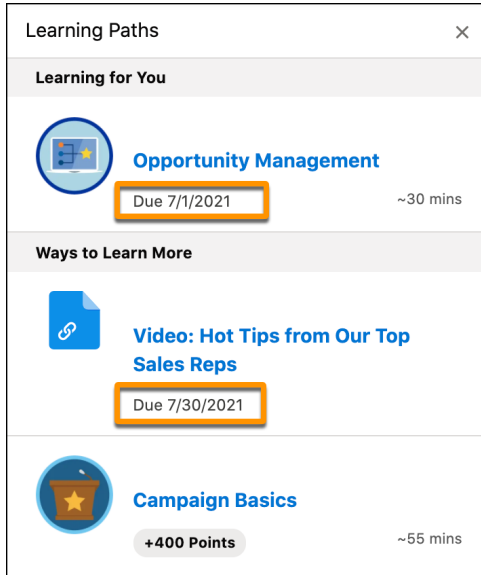
学習割り当てに期日を追加して、ユーザが作業中にトレーニングに優先順位を付けられるようにします。学習ホームを使用すると、ユーザはアプリケーション内ですべての学習項目(TrailheadおよびmyTrailheadモジュールやカスタムリンクなど)に1か所で簡単にアクセスできます。学習ホームでは、各ユーザの学習項目が[必須]、[推奨]、[進行中]、[完了]タブに分類されるため、ユーザは情報を整理して進行状況を確認できます。

対象:この変更は、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。myTrailheadは、Enterprise Edition、Performance Edition、またはUnlimited Editionのユーザが有料オプションで使用できます。

対象ユーザ:すべてのユーザは、グローバルヘッダーの学習パスアイコンおよび関連付けられた学習パネルと学習ホームページにアクセスできます。「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、学習ホームを通じてユーザに学習項目を割り当てることができます。ト

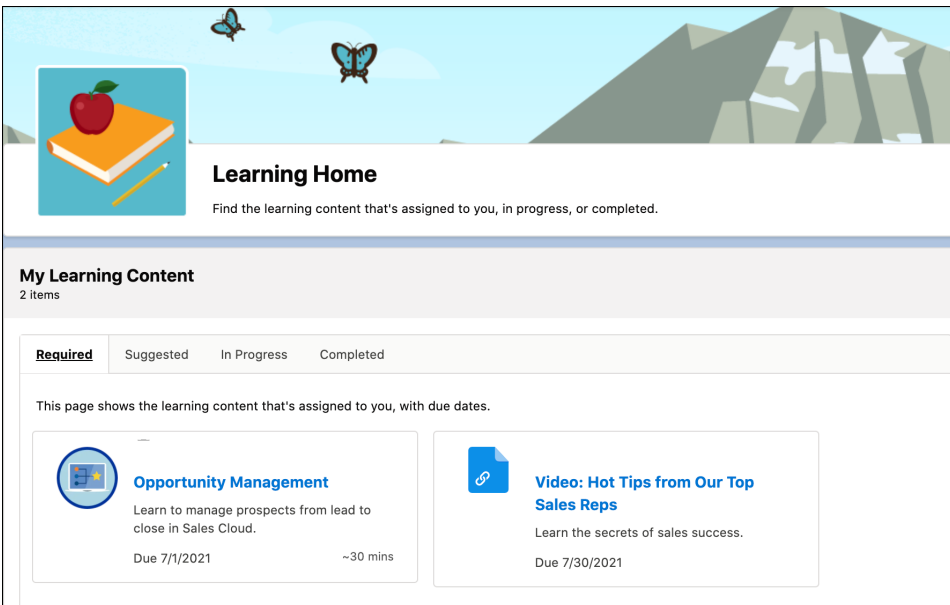
ラーニング担当者やイネーブルメントリーダーなどに学習割り当てを管理する権限を付与するには、「学習を管理」ユーザ権限を使用します。

理由: 期日はサイドパネルの学習項目と学習ホームに表示され、ユーザが最初に取り組む学習項目を決定するのに役立ちます。



学習ホームページには次の4つのタブがあります。

- 必須 — このタブには、期日があるすべての学習項目が表示されます。



- **推奨**—役立つものの時間的制約が少ない学習項目をユーザに割り当てる場合、期日を省略します。それらの学習項目は、[推奨] タブに表示されます。推奨される学習項目をアプリケーションの特定のオブジェクトまたはページに割り当てて、学習パネルに表示することもできます。
- **進行中**—ユーザは [進行中] タブで、開始済みの Trailhead モジュールと myTrailhead モジュールを確認できます。このページには、Trailhead および myTrailhead Web サイトでユーザが独自に取り組む Trailhead および myTrailhead モジュールも表示されます。
- **完了**—このタブには、ユーザが完了したすべての学習項目が表示され、ユーザは達成感を味わうことができます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:学習パス\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:Lightning Experience でのヘルプの検索\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

カスタム学習項目によるトレーニングの拡張

割り当てられた Trailhead および myTrailhead モジュールを動画、チュートリアル、およびその他の役立つリソースへのカスタムリンクで補足します。Trailhead および myTrailhead モジュールの場合と同様に、これらのカスタム学習項目をアプリケーションの特定のページおよび特定のユーザに割り当てることができます。カスタム学習項目は、学習ホームの [必須]、[推奨]、および [完了] タブにも表示されます。

対象: この変更は、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。


対象ユーザ: すべてのユーザは、グローバルヘッダーの学習パスアイコンおよび関連付けられた学習パネルと学習ホームページにアクセスできます。「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、学習ホームを通じてユーザに学習項目を割り当てることができます。トレーニング担当者やイネーブルメントリーダーなどに学習割り当てを管理する権限を付与するには、「学習を管理」ユーザ権限を使用します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:学習パスの学習項目の割り当て\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

学習パスレポートでユーザの進行状況を追跡 (ベータ)

学習パスへのユーザエンゲージメントを監視するカスタムレポートとダッシュボードを作成して、トレーニングプログラムの効果を判断します。どのユーザがどの Trailhead および myTrailhead モジュールを使用しているか、割り当てられたモジュールを完了するのにどれくらい時間がかかっているか、などを追跡できます。学習パスのレポートは、Trailhead および myTrailhead モジュールに焦点を絞っています。カスタム学習項目へのユーザエンゲージメントについてのレポートは作成できません。

 **メモ:** ベータサービスとして、学習パスの監視には、ベータサービス規約 (<https://www.salesforce.com/company/legal/agreements.jsp>) が適用されます。この機能はお客様各自の裁量で使用

し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関する義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象: この変更は、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

対象ユーザ: 「学習レポートの管理」、「レポートの作成とカスタマイズ」、および「カスタムレポートタイプの管理」権限を持つシステム管理者は、学習パスオブジェクトを使用してレポートを作成および更新できます。「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、学習ホームを通じてユーザに学習項目を割り当てることができます。トレーニング担当者やイネーブルメントリーダーなどに学習割り当てを管理する権限を付与するには、「学習を管理」ユーザ権限を使用します。

理由: 誰が学習割り当てを完了し、誰がまだモジュールを進行中であるかを追跡することで、トレーニングプログラムがユーザにどの程度役立っているかを把握します。

それぞれを完了したユーザの数を追跡することで、どの Trailhead および myTrailhead モジュールがユーザに最も人気があるかを調べます。

特定の月に割り当てたモジュールの数と、進行中、期限切れ、または完了したモジュールの数を監視することで、会社でのユーザトレーニングの最適なペースを決定します。

マネージャやロケールなどのユーザ項目に従ってレポートを絞り込むことで、学習パス、Trailhead、myTrailhead に最もエンゲージしているチームまたは地域を確認します。

方法: 学習パスオブジェクトの次のいずれかを使用して、カスタムレポートタイプを作成します。

- 学習コンテンツ — 既存の Trailhead または myTrailhead モジュール、およびそれぞれが相当するポイントに関するレポート
- 学習コンテンツの進行状況 — 特定の Trailhead および myTrailhead モジュールを開始したユーザ、最近試行したユーザ、完了したユーザの数に関するレポート
- 学習 — 割り当てた Trailhead および myTrailhead モジュール、それらを割り当てたユーザの数に関するレポート
- 学習割り当ての進行状況 — Trailhead および myTrailhead モジュールを割り当てたユーザ、およびそれぞれを開始または完了したユーザに関するレポート

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 学習パスの監視 \(ベータ\) \(ベータ\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: カスタムレポートタイプの作成 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

アプリケーション内ガイダンス

このリリースでは、対象プロンプトが導入されており、ユーザのための限られた数の無料のウォークスルーが開きます。また、従来よりも簡単にシステム管理者以外のユーザに作成権限を割り当てることができるようになりました。

このセクションの内容:

対象プロンプトを使用したページの特定の要素の参照 (ベータ)

アプリケーション内ガイダンスの種別が新しくなりました。これは対象プロンプトと呼ばれます。対象プロンプトを特定のページ要素に接続して、参照している要素をユーザに表示します。

ユーザへの無料の3つのカスタムウォークスルーの表示

ユーザに一度に最大3つ表示されるウォークスルーを必要なだけ作成できるようになりました。これよりも多く表示するには、myTrailheadに登録します。以前は、ユーザのカスタムウォークスルーを有効化するには、myTrailhead サブスクリプションまたは無料トライアルが必要でした。

アプリケーション内ガイダンスの作成の権限要件の改訂

プロンプトおよびウォークスルーの作成に必要な権限が「プロンプトを管理」のみになりました。以前は、「プロンプトを管理」権限と「メタデータの変更」権限が必要でした。この変更により、「メタデータの変更」権限をシステム管理者のために予約しておきながら、システム管理者以外のユーザにアプリケーション内ガイダンスの作成を許可できます。


ユーザが求めるタイミングで再通知されるアプリケーション内ガイダンス

ユーザがアプリケーション内ガイダンスを再通知する場合、その設定が優先され、[アプリケーション内ガイダンス間の遅延]設定が無視されるようになりました。再通知されるプロンプトは、ユーザが選択した時間を経過した後で次にページに移動するときに表示されます。以前は、たとえば、ユーザがプロンプトを20分で再通知するように設定しても、[アプリケーション内ガイダンス間の遅延]設定が24時間に設定されていると、少なくとも24時間はユーザにプロンプトが表示されませんでした。

対象プロンプトを使用したページの特定の要素の参照 (ベータ)

アプリケーション内ガイダンスの種別が新しくなりました。これは対象プロンプトと呼ばれます。対象プロンプトを特定のページ要素に接続して、参照している要素をユーザに表示します。

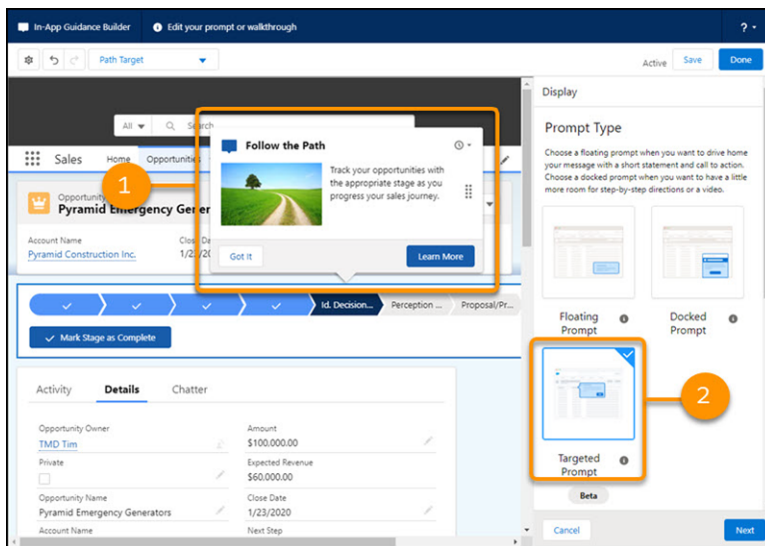
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** 対象プロンプトはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関する義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象ユーザ:ユーザに4つ以上のカスタムウォークスルーを表示するには、myTrailheadに登録して、「ウォークスルー」権限セットライセンスと「ウォークスルーへのアクセス」権限セットを取得します。ウォークスルーを表示できるようにするユーザに「ウォークスルーを参照」ユーザ権限を割り当てます。価格の詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法:Lightning Experienceの[設定]から、[クイック検索]ボックスに「アプリケーション内ガイダンス」と入力し、[アプリケーション内ガイダンス]を選択します。プロンプトを作成するときに[プロンプト種別]領域で[対象プロンプト]をクリックします (1)。

対象プロンプトは、選択したページ要素を参照します (2)。そのため、ユーザはより対象が絞られた指針を得られます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのアプリケーション内ガイダンスのベストプラクティス \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ユーザへの無料の3つのカスタムウォークスルーの表示

ユーザに一度に最大3つ表示されるウォークスルーを必要なだけ作成できるようになりました。これよりも多く表示するには、myTrailheadに登録します。以前は、ユーザのカスタムウォークスルーを有効化するには、myTrailhead サブスクリプションまたは無料トライアルが必要でした。

対象:この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ:ユーザに4つ以上のカスタムウォークスルーを表示するには、myTrailheadに登録して、「ウォークスルー」権限セットライセンスと「ウォークスルーへのアクセス」権限セットを取得します。ウォークスルー

を表示できるようにするユーザに「ウォークスルーを参照」ユーザ権限を割り当てます。価格の詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのウォークスルーの定義 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンスに関する考慮事項 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

アプリケーション内ガイダンスの作成の権限要件の改訂

プロンプトおよびウォークスルーの作成に必要な権限が「プロンプトを管理」のみになりました。以前は、「プロンプトを管理」権限と「メタデータの変更」権限が必要でした。この変更により、「メタデータの変更」権限をシステム管理者のために予約しておきながら、システム管理者以外のユーザにアプリケーション内ガイダンスの作成を許可できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ユーザに4つ以上のカスタムウォークスルーを表示するには、myTrailhead に登録して、「ウォークスルー」権限セットライセンスと「ウォークスルーへのアクセス」権限セットを取得します。ウォークスルーを表示できるようにするユーザに「ウォークスルーを参照」ユーザ権限を割り当てます。価格の詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンスに関する考慮事項 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのウォークスルーの定義 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ユーザが求めるタイミングで再通知されるアプリケーション内ガイダンス

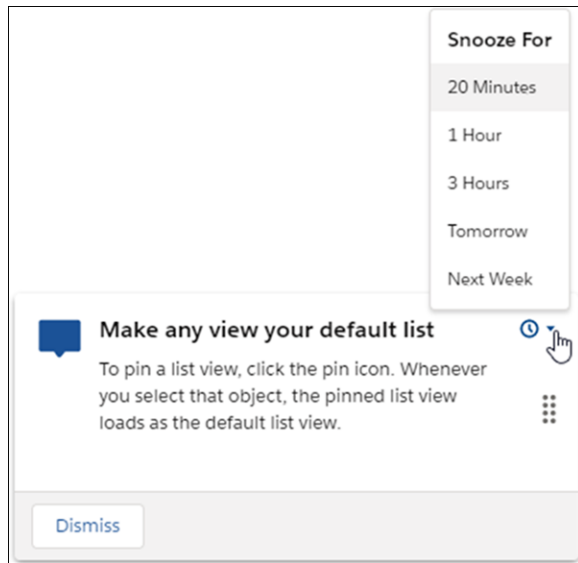
ユーザがアプリケーション内ガイダンスを再通知する場合、その設定が優先され、[アプリケーション内ガイダンス間の遅延] 設定が無視されるようになりました。再通知されるプロンプトは、ユーザが選択した時間を経過した後で次にページに移動するときに表示されます。以前は、たとえば、ユーザがプロンプトを 20 分で再通知するように設定しても、[アプリケーション内ガイダンス間の遅延] 設定が 24 時間に設定されていると、少なくとも 24 時間はユーザにプロンプトが表示されませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ユーザに4つ以上のカスタムウォークスルーを表示するには、myTrailhead に登録して、「ウォークスルー」権限セットライセンスと「ウォークスルーへのアクセス」権限セットを取得します。ウォークスルーを表示できるようにするユーザに「ウォークスルーを参照」ユーザ権限を割り当てます。価格の詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法:アプリケーション内ガイダンスを一時停止するには、一時停止アイコンをクリックし、[20分]、[1時間]、[3時間]、[明日]、または[来週]を選択します。

- ☑ **メモ:** アプリケーション内ガイダンスは、再通知時間を経過した後でユーザが次にページに移動するときに表示されます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンスに関する考慮事項\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

必要なときに得られるパーソナライズされたガイダンス

ガイダンスセンターがすべての組織で使用できるようになり、2つの新しいリソースセットが付属されるようになりました。組織を設定するときにガイダンスを確認するだけでなく、実装の価値を最大限に活用し、システム管理者のベストプラクティスから学習してください。

対象: この変更は、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ガイダンスセンターを表示するには、システム管理者に「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限が必要になります。

理由: システム管理者は、実装ジャーニーのどこでも、信頼性の高いアクション可能なリソースに簡単にアクセスできます。

ガイダンスセンターには、Salesforce を設定するためのリソースだけでなく、以下も含まれるようになりました。

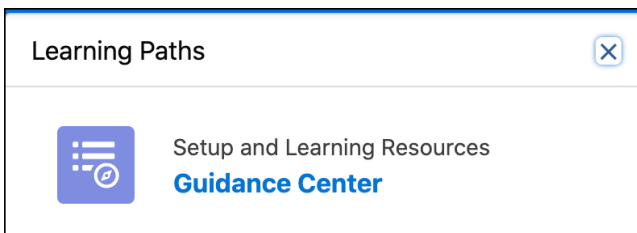
- **Salesforce のさらなる活用** — 実装の目標を考え始めたばかりでもすでに総計値を定義していても、Salesforce を活用する方法を学習できます。人、プロセス、テクノロジーへのアプローチを調整してください。

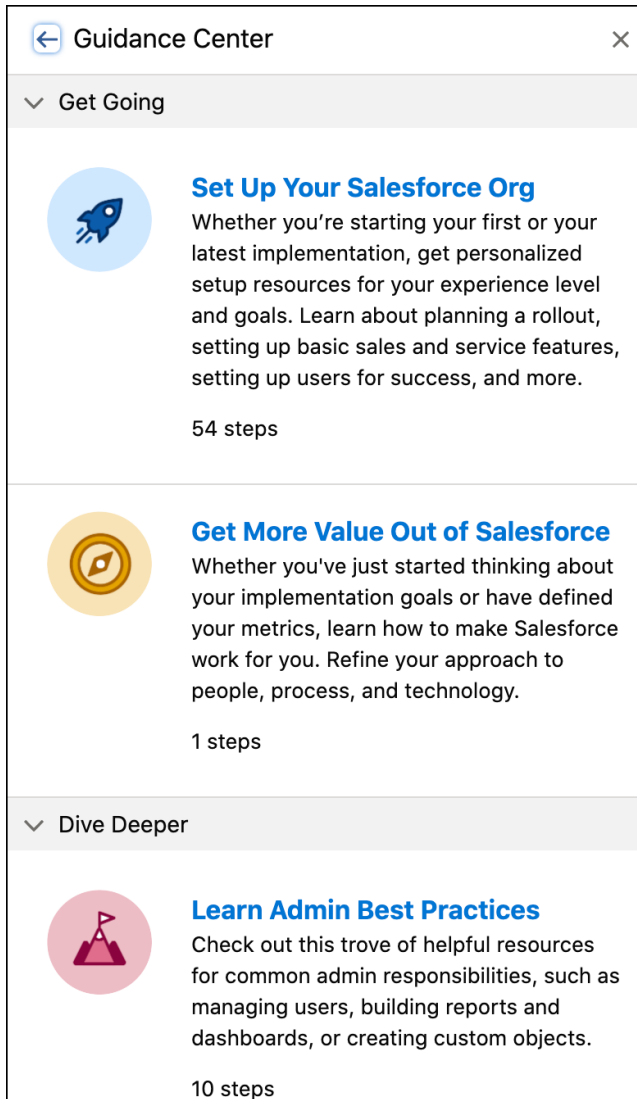
- システム管理者のベストプラクティスを確認—ユーザの管理、レポートやダッシュボードの作成、カスタムオブジェクトの作成など、システム管理者の一般的な職務に関するこちらの役に立つ豊富なリソースをご確認ください。

表示されるリソースセットは、Salesforce実装によって異なります。たとえば、新しい組織には設定リソースのみが表示されます。

プレミアサポートでは、より多くのリソースが [Salesforce 組織を設定] ガイダンスに追加されます。ロールアウトの計画、セールスとサービスの基本機能の設定、成功のためのユーザの設定について学習する推奨リソースを確認してください。

方法: グローバルヘッダーで学習パスのアイコンをクリックすることで、時間や場所を問わずガイダンスセンターに容易にアクセスできます。学習パネルはすべてのユーザが使用できますが、ガイダンスセンターへのリンクはシステム管理者のみに表示されます。パネル内のガイダンスセンターを初めてクリックすると、使用可能なリソースセットと説明が記載されたリストが表示されます。[使用開始]セクションは、どこから始めるのかを決定するのに役立ちます。また、新しいリソースセットが使用できるようになると通知されます。





関連トピック:

[Salesforce ヘルプ](#): Salesforce の設定中にパーソナライズされたガイダンスを取得(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce アプリケーション内コンテンツについて

Salesforce のシステム管理者とエンドユーザに表示される貴重なアプリケーション内プロンプト、歓迎メッセージ、およびポップオーバーで最新情報を得ることができます。独自のプロンプトまたは他のアプリケーション内コンテンツを作成するときに、情報が重複しないようにします。

対象: 使用可能なアプリケーション内コンテンツは、機能によって異なります。

理由: 次のアプリケーション内コンテンツが追加されました。

- パイプライン検査の利点をユーザに強調表示するドッキングプロンプト。

- モバイルホームが Salesforce モバイルアプリケーションの新しいランディングページであることをシステム管理者に通知するドッキングプロンプト。
- 設定を完了するためにサービス設定アシスタントに戻るようにシステム管理者に通知するフロート表示プロンプト。2番目のプロンプトでは、アシスタントに戻らなければならない変更があることをシステム管理者に通知します。
- Einstein Search をシステム管理者に強調表示する機能ポップオーバー。
- 学習パネルをすべてのユーザに強調表示する機能ポップオーバー。
- システム管理者にパイプライン検査を紹介する歓迎メッセージ。

方法:[アプリケーション内ガイダンス]の[設定]ページから、Salesforce によって作成されたすべてのアプリケーション内コンテンツを無効にします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での Salesforce アプリケーション内コンテンツ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Salesforce アンケート

アンケートへの招待を一括で多数の参加者に送信できます。参加者はアンケートへの回答の添付ファイルとして必須詳細を共有できます。アンケートへの招待で良かったか良くなかったかの質問を送信して、参加者の好みを把握します。

このセクションの内容:

アンケートを一度により多くの参加者に配布

多くの参加者にアンケートへの招待を送信して、フィードバックを収集し、回答率を高めます。Salesforce オブジェクトとリストビューを使用して、キャンペーンのリード、取引先責任者、メンバーを対象にします。アンケートへの招待を参加者に一括で送信することで、取引先責任者、リード、およびキャンペーンメンバーから情報を収集します。メールアドレスを追加する作業を軽減するために、オブジェクトとリストビューを使用します。アンケートへの招待に関連するレコードオブジェクトに対応付け、関連するレコードと配布されたアンケート間のコンテキストを確立します。

アンケートへの回答での関係書類の収集

参加者はアンケートへの回答に必要な詳細を添付ファイルとしてアップロードできるようになりました。住所変更などのプロフィール更新に関する情報を収集、または顧客が保証クレームを裏付けるレシートをアップロードすることができます。参加者は、ドキュメント、PDF、スプレッドシート、または画像などの形式で書類をアップロードできます。

メールテンプレートへの良かったか良くなかったかの質問の埋め込み

招待メールで良かったか良くなかったかの質問を送信して、回答率を高め、参加者の好みを把握します。メールテンプレートでは、ネットプロモータースコア (NPS)、評価、スコアの質問種別と共に、良かったか良くなかったかの質問がサポートされるようになりました。

関連トピック:

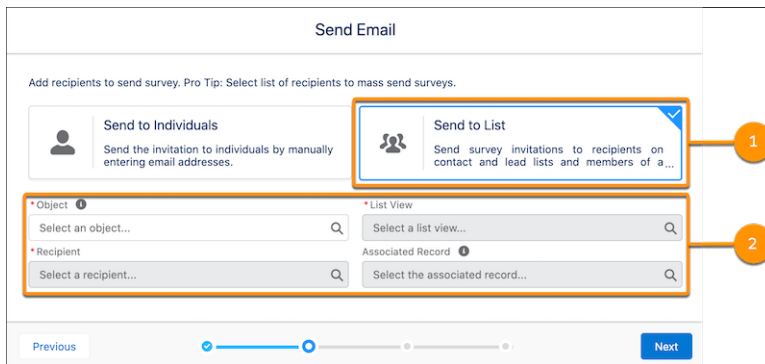
[Salesforce ヘルプ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

アンケートを一度により多くの参加者に配布

多くの参加者にアンケートへの招待を送信して、フィードバックを収集し、回答率を高めます。Salesforce オブジェクトとリストビューを使用して、キャンペーンのリード、取引先責任者、メンバーを対象にします。アンケートへの招待を参加者に一括で送信することで、取引先責任者、リード、およびキャンペーンメンバーから情報を収集します。メールアドレスを追加する作業を軽減するために、オブジェクトとリストビューを使用します。アンケートへの招待に関連するレコードオブジェクトに対応付け、関連するレコードと配布されたアンケート間のコンテキストを確立します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: アンケートビルダーで [送信] > [メールを送信] をクリックします。メール本文にアンケートリンクまたは質問を埋め込み、[次へ] をクリックします。[リストに送信] (1) を選択し、アンケートへの招待の参加者グループの詳細 (2) を定義します。[次へ] をクリックし、差し込み項目を追加してメールコンテンツを更新またはカスタマイズします。[次へ] をクリックし、アンケートへの招待リンクの設定を確認または定義します。選択した参加者にアンケートへの招待をメールで送信するには、[送信] をクリックします。



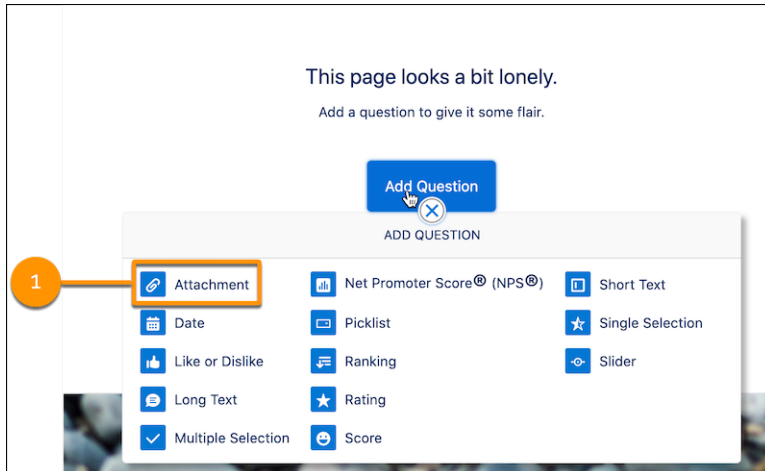
アンケートへの回答での関係書類の収集

参加者はアンケートへの回答に必要な詳細を添付ファイルとしてアップロードできるようになりました。住所変更などのプロフィール更新に関する情報を収集、または顧客が保証クレームを裏付けるレシートをアップロードすることができます。参加者は、ドキュメント、PDF、スプレッドシート、または画像などの形式で書類をアップロードできます。

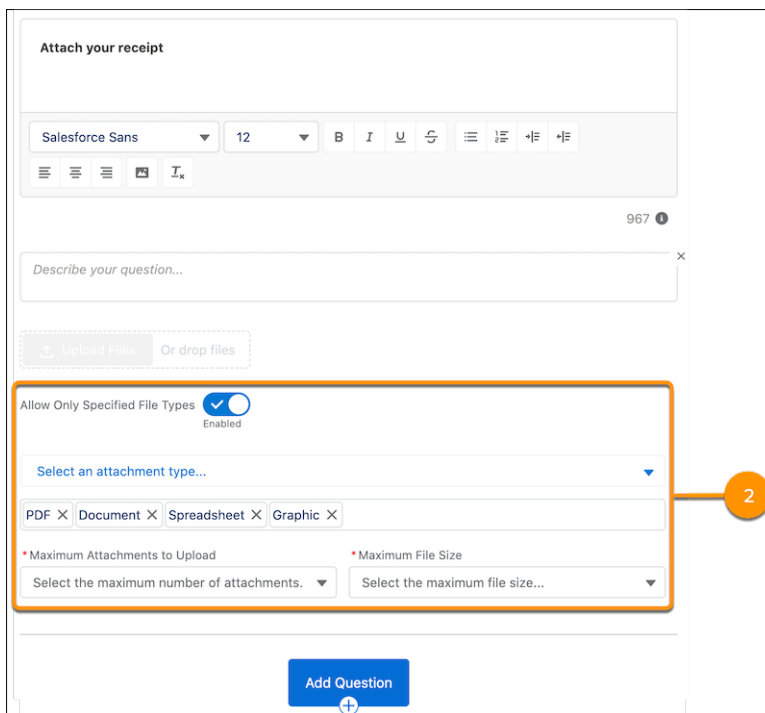
対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 添付ファイルをアップロードするには、Salesforce Feedback Management ライセンスで使用できる「Salesforce アンケートの高度な機能」権限がユーザに必要です。

方法: アンケートビルダーで、ページを追加して [質問を追加] をクリックし、[添付ファイル] を選択します (1)。



添付ファイルのアップロードの設定パラメータを定義します (2)。これらのパラメータは、参加者が回答でアップロードできる添付ファイルの種別、添付ファイルの数、各添付ファイルのサイズを示します。



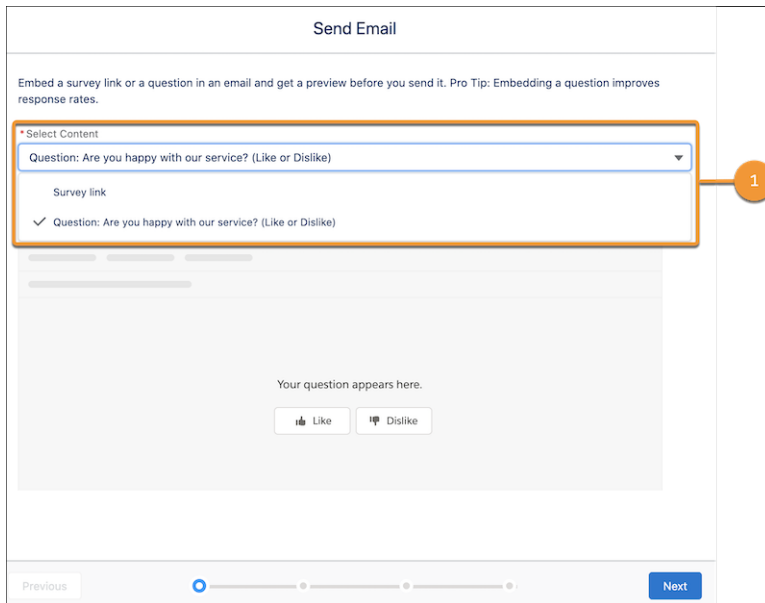
メールテンプレートへの良かったか良くなかったかの質問の埋め込み

招待メールで良かったか良くなかったかの質問を送信して、回答率を高め、参加者の好みを把握します。メールテンプレートでは、ネットプロモータースコア (NPS)、評価、スコアの質問種別と共に、良かったか良くなかったかの質問がサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: アンケートビルダーで、良かったか良くなかったかの質問を追加して、保存し、アンケートを有効化します。[送信]>[メールを送信]をクリックします。メールテンプレートに良かったか良くなかったかの質問を

埋め込み、[コンテンツを選択]ドロップダウンで質問を選択します(1)。個人または参加者のリストを選択し、ウィザードを続行して差し込み項目とアンケートへの招待リンクオプションを設定するには、[次へ]をクリックします。選択した参加者にアンケートを配布するには、[送信]をクリックします。



Salesforce Scheduler

予定のトピックでサービスリソース業務時間を設定することで、予定のスケジューリングを合理化します。Platform Starter ライセンスと Salesforce Scheduler アドオンのみを使用してサービスリソースをスケジュールすることで、Salesforce Scheduler の機能を拡張します。

このセクションの内容:

予定のトピックで作業するサービステリトリーメンバーの業務時間の設定

[Salesforce Scheduler の設定]の新しい設定を有効にして、リソースが予定のトピックで作業できる業務時間を指定できます。予定のトピックやこれらのトピックを担当するリソースの業務時間をより詳細に制御できます。この機能で使用する新しい予定のトピック時間枠連結オブジェクトは、すべての開発で使用されるようになっています。さらに、関連する Salesforce Scheduler フローでこれを使用します。

Lightning Platform Starter ライセンスを使用したリソースのスケジュール

Platform Starter ライセンスと Salesforce Scheduler アドオンを使用してリソースをスケジュールできます。たとえば、すべての CRM 機能を必要としない営業担当やヘルスケア提供者の予定をスケジュールできます。Platform Starter ライセンスを持つサービスリソースは、オブジェクトの基本セットにアクセスして、予定の詳細を表示および更新したり、リソースの不在を追加したりできます。また、このライセンスでは、以前よりも多くのリソースをスケジュールできるようになっています。

Salesforce Scheduler フローで時間枠を事前読み込みする日数の選択

デスクトップまたはモバイルでの読み込み時間を短縮するために、空き時間枠をキャッシュする日数をカスタマイズできるようになりました。たとえば、7日間の時間枠が表示される場合、時間枠をキャッシュする日数を7日間にするか14日間にするかを指定できます。

新しい Apex メソッドを介したリソースと空き時間枠の取得

開発者は、外部システムとやりとりするカスタム時間枠画面フローコンポーネントを簡単に作成できるようになりました。新しい Apex メソッドは、Get Appointment Candidates API と Get Appointment Slots API をコールします。この機能により、簡単にすべてのサービスリソースと空き時間枠を取得したり、1人のリソースの空き時間枠を取得したりできます。

別のユーザとしての Salesforce Scheduler フローのデバッグ

別のユーザとしてログインすることなく、そのユーザとしてフローをテストおよびデバッグします。特定のユーザに表示されるフローのデバッグログの内容を確認して、フローをトラブルシューティングできます。想定されていない権限、共有、プロファイル設定などのフロー例外を、これらが本番組織で発生する前に捕捉できます。

予定のトピックで作業するサービステリトリーメンバーの業務時間の設定

[Salesforce Scheduler の設定] の新しい設定を有効にして、リソースが予定のトピックで作業できる業務時間を指定できます。予定のトピックやこれらのトピックを担当するリソースの業務時間をより詳細に制御できます。この機能で使用する新しい予定のトピック時間枠連結オブジェクトは、すべての開発で使用されるようになっています。さらに、関連する Salesforce Scheduler フローでこれを使用します。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能はすべての新規組織でデフォルトで有効になっています。

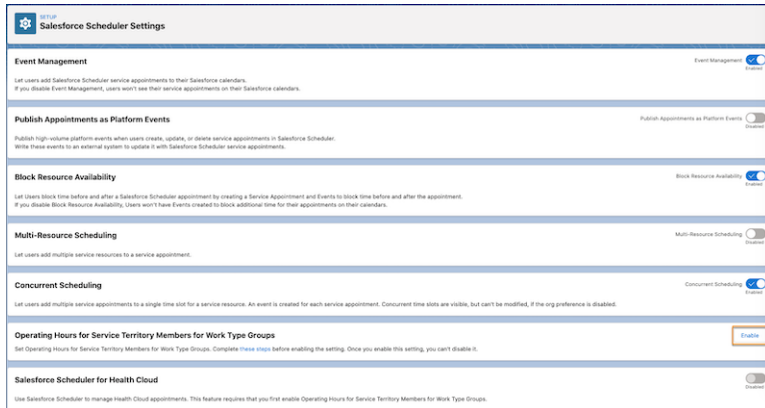
理由: たとえば、次のような場合に予定をスケジュールできます。

- 支店で午前 10 時から午後 12 時までの Investment Banking および Retail Banking と午後 1 時から午後 3 時までの Account Opening トピックの予定を担当するバンカーを設定する。
- 医師が 2 つのロケーションにある Apollo Clinic で診察を行う。この医師は、サンフランシスコで平日の午前 10 時から午後 12 時まで呼吸器科の患者を診察します。また、免疫学とアレルギー薬の専門家でもあるため、オークランドのクリニックで平日の午後 2 時から午後 4 時まで診察を行います。

方法:

- ☑ **メモ:** この設定を有効化する前に、前提条件を満たしていることを確認してください。この設定を有効化すると、無効化できません。

[設定] から、[クイック検索] ボックスに「Salesforce Scheduler」と入力し、[Lightning Scheduler の設定] を選択します。[作業種別グループのサービステリトリーメンバーの業務時間] を有効にします。



Lightning Platform Starter ライセンスを使用したリソースのスケジュール

Platform Starter ライセンスと Salesforce Scheduler アドオンを使用してリソースをスケジュールできます。たとえば、すべての CRM 機能を必要としない営業担当やヘルスケア提供者の予定をスケジュールできます。Platform Starter ライセンスを持つサービスリソースは、オブジェクトの基本セットにアクセスして、予定の詳細を表示および更新したり、リソースの不在を追加したりできます。また、このライセンスでは、以前よりも多くのリソースをスケジュールできるようになっています。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ライセンスを計画するときには次の点に留意してください。

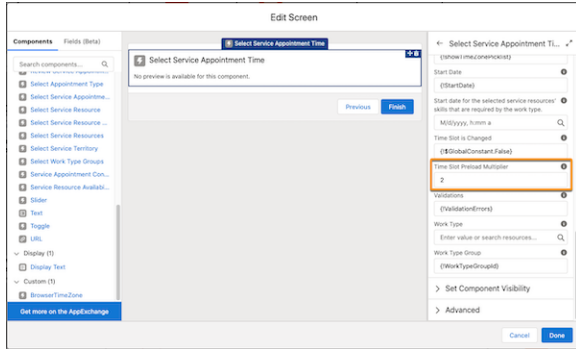
- Platform Starter ライセンスでは、予定をスケジュールできません。
- Employee Community ライセンスを持つユーザをスケジュールすることはできません。
- Platform Starter ライセンスで Salesforce Scheduler アドオンを使用する場合、商談を表示したり、標準ゲストフロー中に生成されたリードにアクセスしたりできません。

Salesforce Scheduler フローで時間枠を事前読み込みする日数の選択

デスクトップまたはモバイルでの読み込み時間を短縮するために、空き時間枠をキャッシュする日数をカスタマイズできるようになりました。たとえば、7日間の時間枠が表示される場合、時間枠をキャッシュする日数を7日間にするか14日間にするかを指定できます。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [サービス予定の時間枠を選択] 画面コンポーネントで、[時間枠の事前読み込みの乗数] 属性の値を1または2に設定します。たとえば、現在7日間が表示されている場合、「2」と入力すると、次の14日間の空き時間枠がキャッシュされます。



新しい Apex メソッドを介したリソースと空き時間枠の取得

開発者は、外部システムとやりとりするカスタム時間枠画面フローコンポーネントを簡単に作成できるようになりました。新しい Apex メソッドは、Get Appointment Candidates API と Get Appointment Slots API をコールします。この機能により、簡単にすべてのサービスリソースと空き時間枠を取得したり、1人のリソースの空き時間枠を取得したりできます。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象者: Apex クラスを実行するためのアクセス権を持つユーザプロファイルは、新しい Apex メソッドを使用してリソースと空き時間枠を取得できます。

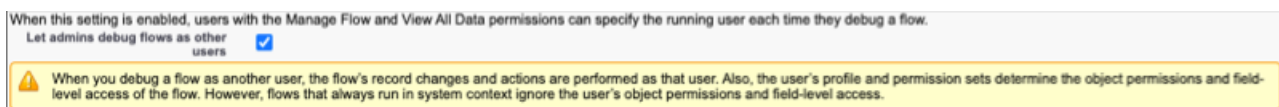
別のユーザとしての Salesforce Scheduler フローのデバッグ

別のユーザとしてログインすることなく、そのユーザとしてフローをテストおよびデバッグします。特定のユーザに表示されるフローのデバッグログの内容を確認して、フローをトラブルシューティングできます。想定されていない権限、共有、プロファイル設定などのフロー例外を、これらが本番組織で発生する前に捕捉できます。

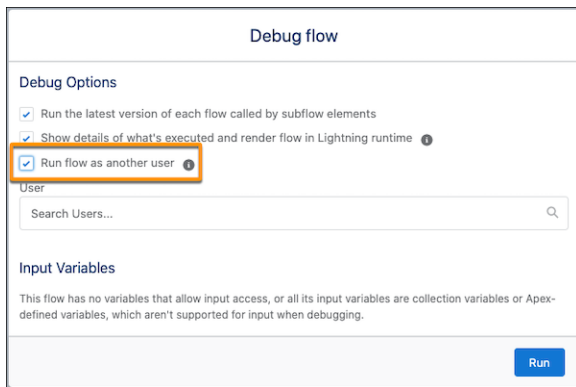
対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。本番以外の組織でのみフローを別のユーザとしてデバッグできます。

対象ユーザ: この機能はシステム管理者が使用できます。この機能を使用するには、「すべてのデータの編集」、「ユーザの管理」、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持っている必要があります。有効にした後にこの機能を使用するには、「フローの管理」および「すべてのデータの参照」権限が必要です。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「プロセスの自動化」と入力し、[プロセスの自動化設定] を選択します。[システム管理者が他のユーザとしてフローをデバッグできるようにする] を選択します。



別のユーザとしてフローをデバッグする必要がある場合、Flow Builder でフローを開いて [デバッグ] をクリックします。[別のユーザとしてフローを実行] を選択し、ユーザを選択して [実行] をクリックします。



検索

検索により、Salesforce組織内で関連情報を探しているユーザーにインテリジェンスを提供し、効率を高めます。ユーザーは必要なレコードを簡単に見つけ、検索結果ページから直接ToDoを実行できます。

このセクションの内容:

Einstein Search (正式リリース)

AIを搭載したスマートな検索をユーザーに提供します。Einstein Searchのすべての機能が正式リリースされ、無料で使用できます。パーソナライズによって、ユーザーの活動に基づく関連性の高い検索結果が返されます。自然言語検索(NLS)を使用すると、ユーザーは一般的な単語や語句をクエリに入力して検索結果を絞り込むことができます。そして、アクション可能なUIによって、ユーザーは検索ボックスから直接、ケースの登録や取引先責任者の作成といった操作を実行できます。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

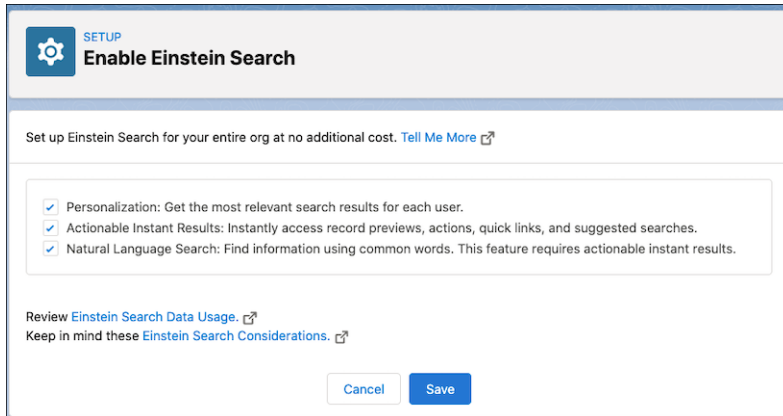
組織で検索できるオブジェクトや項目が増えました。

Einstein Search (正式リリース)

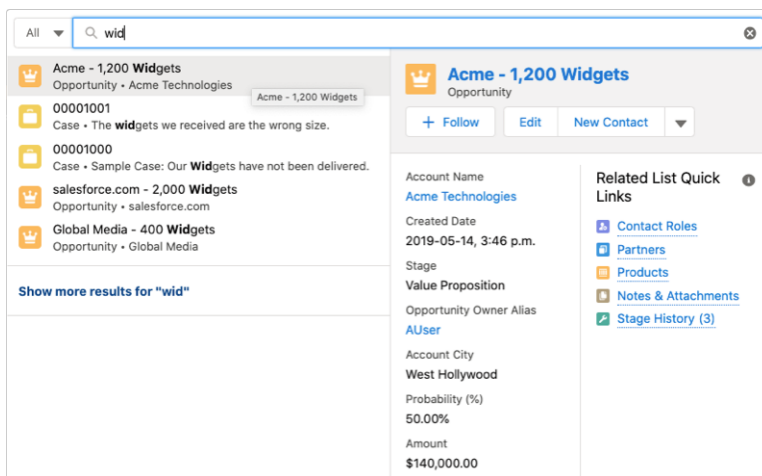
AIを搭載したスマートな検索をユーザーに提供します。Einstein Searchのすべての機能が正式リリースされ、無料で使用できます。パーソナライズによって、ユーザーの活動に基づく関連性の高い検索結果が返されます。自然言語検索(NLS)を使用すると、ユーザーは一般的な単語や語句をクエリに入力して検索結果を絞り込むことができます。そして、アクション可能なUIによって、ユーザーは検索ボックスから直接、ケースの登録や取引先責任者の作成といった操作を実行できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited EditionのLightning ExperienceとすべてのバージョンのSalesforceモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: 数回クリックするだけで組織レベルですべてのEinstein Search機能を有効にできます。[設定]から、[クイック検索]ボックスに「Einstein Search」と入力し、[Einstein Searchを有効化]を選択します。3つのチェックボックスをすべてオンにして、変更を保存します。



グローバル検索ボックスをクリックして、Einstein Search で提供される結果を確認します。



ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

このセクションの内容:

Essentials Edition で Einstein Search が使用可能

Essentials Edition で Einstein Search が使用可能になり、ユーザは AI を搭載したグローバル検索バーを使用できます。Einstein Search では、パーソナライズ、自然言語検索、アクション可能なインスタント結果、おすすめの結果が提供されます。これらのすべての機能によって、ユーザの生産性が向上します。

自然言語検索用の新しい項目の活用

ユーザは、サポート対象のオブジェクトで新しい項目値を含む自然言語検索を使用できるようになりました。これらの新しい項目によって、ユーザはより多くのレコードを絞り込めるようになります。

自然言語検索での英語以外の単語の使用

自然言語検索(NLS)では英語でのクエリが完全にサポートされており、英語以外のクエリが部分的にサポートされています。ユーザは英語以外のデータ値(選択リスト値やオブジェクト名など)を使用してクエリを入力でき、Einstein Search は言語に関係なく結果を返します。また、ユーザはローカル言語を反映するように名前が変更された取引先、ケース、取引先責任者、リード、商談に対するクエリも入力できます。Boolean 項目値、データ表現、演算子、ストップワードに英語以外の単語を含む検索では結果が返されません。

Einstein Search を備えたナレッジの高度な検索の使用

ナレッジの高度な検索で Einstein Search を使用できるようになり、ユーザは検索条件を事前に絞り込んで自分の作業に最も関連性の高い情報を含むナレッジ記事を見つけることができます。ユーザがグローバル検索ボックスのドロップダウンリストで[ナレッジ]を選択すると、[高度な検索]画面が表示されます。そこで検索条件を追加してから、検索語を入力して検索を実行できます。

Einstein Search for Knowledge による回答検索の向上 (パイロット)

Lightning Experience の Salesforce ナレッジが AI によって強化されました。サービスエージェントや顧客が最も関連性の高いナレッジ記事を短時間で見つけられるようになりました。Einstein Search for Knowledge のパイロットにサインアップしてお試しください。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

Essentials Edition で Einstein Search が使用可能

Essentials Edition で Einstein Search が使用可能になり、ユーザは AI を搭載したグローバル検索バーを使用できます。Einstein Search では、パーソナライズ、自然言語検索、アクション可能なインスタント結果、おすすめの結果が提供されます。これらのすべての機能によって、ユーザの生産性が向上します。

対象: この変更は、Essentials Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。ただし、アクション可能なインスタント結果はモバイルアプリケーションでは使用できません。

方法: 数回クリックするだけで組織レベルですべての Einstein Search を有効にできます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Einstein Search*」と入力し、[Einstein Search を有効化] を選択します。3つのチェックボックスをすべてオンにして、変更を保存します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein Search: 作業の迅速化とスマート化 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

自然言語検索用の新しい項目の活用

ユーザは、サポート対象のオブジェクトで新しい項目値を含む自然言語検索を使用できるようになりました。これらの新しい項目によって、ユーザはより多くのレコードを絞り込めるようになります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: 自然言語検索クエリを入力するときに、次のオブジェクトと新しい項目を使用できます。

オブジェクト	新規項目
取引先	取引先ソース、業種、種別
ケース	発生源、優先度、原因、種別
取引先責任者	リードソース

オブジェクト	新規項目
リード	評価
商談	リードソース

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:自然言語検索の例\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

自然言語検索での英語以外の単語の使用

自然言語検索 (NLS) では英語でのクエリが完全にサポートされており、英語以外のクエリが部分的にサポートされています。ユーザは英語以外のデータ値(選択リスト値やオブジェクト名など)を使用してクエリを入力でき、Einstein Search は言語に関係なく結果を返します。また、ユーザはローカル言語を反映するように名前が変更された取引先、ケース、取引先責任者、リード、商談に対するクエリも入力できます。Boolean 項目値、データ表現、演算子、ストップワードに英語以外の単語を含む検索では結果が返されません。

対象:この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:


[Salesforce ヘルプ:自然言語検索で英語以外の用語が処理される方法\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Einstein Search を備えたナレッジの高度な検索の使用

ナレッジの高度な検索で Einstein Search を使用できるようになり、ユーザは検索条件を事前に絞り込んで自分の作業に最も関連性の高い情報を含むナレッジ記事を見つけることができます。ユーザがグローバル検索ボックスのドロップダウンリストで [ナレッジ] を選択すると、[高度な検索] 画面が表示されます。そこで検索条件を追加してから、検索語を入力して検索を実行できます。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Knowledge を有効にしているナレッジに適用されます。

方法:ユーザが検索を絞り込むために [ナレッジ] を選択した後に [検索条件] を選択すると、[高度な検索] ページが表示されます。このページで、使用可能な検索条件に値を指定します。

 **メモ:** 高度な検索条件は、検索インスタント結果のリストビューの候補には適用されません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: グローバル検索ボックスとナレッジコンポーネントでの記事の検索](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein Search for Knowledge による回答検索の向上 (パイロット)

Lightning Experience の Salesforce ナレッジが AI によって強化されました。サービスエージェントや顧客が最も関連性の高いナレッジ記事を短時間で見つめられるようになりました。Einstein Search for Knowledge のパイロットにサインアップしてお試しください。

メモ: この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあり、SFDC の裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。この機能は現状有姿のまま提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。Einstein Search for Knowledge に関するフィードバックと提案は、TryEinsteinSearch@salesforce.com からお寄せください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Knowledge を有効にしているナレッジに適用されます。

理由: 顧客やエージェントは、自分が何を探しているかを正確に知らなくても質問に対する答えを得ることができます。たとえば、ナレッジサイドバーで顧客ケースを検索すると、特に役立つナレッジ記事が [昇格済み] 表示ラベルで強調表示されます。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

組織で検索できるオブジェクトや項目が増えました。

対象: この変更は、指定された製品エリアの Lightning Experience に適用されます。

リストされたオブジェクトを検索できるようになりました。

オブジェクト	製品エリア	該当するエディション
活動タイミング	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
認証フォーム要求レコード	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
作成者メモ	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
請求スケジュールグループ	Revenue Cloud	Lightning Experience のすべての Salesforce Billing Edition
特典パラメータ値	ロイヤルティ管理	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
ケア給付金検証要求	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
ケア要請確認者	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
臨床受診識別子	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
コラボレーションルーム	Service Cloud	Lightning Experience の Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
苦情ケース	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
給付保障項目制限	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
診断の概要の詳細	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

オブジェクト	製品エリア	該当するエディション
ドキュメント生成プロセス	Vlocity	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
金融取引	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
金融取引参加者	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
金融取引関係者	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
金融取引商品	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
健康状態の詳細	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
情報認証要求フォーム	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
情報認証要求	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
インタラクション参加者	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
薬効成分	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
ロイヤルティプログラムメンバーケース	ロイヤルティ管理	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
返信テキスト	Service Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

オブジェクト	製品エリア	該当するエディション
小売店グループ割り当て	Consumer Goods Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
スウォーム	Service Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition
スウォームメンバー	Service Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition
測定単位変換	Manufacturing Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
作業種別ケア専門分野	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ](#): Lightning Experience のオブジェクト別の検索可能項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ](#): Salesforce Classic のオブジェクトで検索可能な項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Analytics

Lightning Experience のレポート実行ページのインライン編集で、データの分析と更新を同時に実行します。Tableau CRM データプレップレシピでは、変更を元の状態や前のバージョンに戻せることがわかっているため、果敢に試すことができます。Tableau CRM ダッシュボード間でウィジェットをコピーして貼り付けることで、ダッシュボードを迅速に作成します。レポートの Einstein Discovery によるレポート実行でのデータ分析の変更内容を確認します。

このセクションの内容:

レポートとダッシュボード

Lightning Experience の [レポート実行] ページから直接項目値を更新することで時間を節約できます。Salesforce オブジェクトの新しいカスタム項目を、そのオブジェクトに基づくすべてのカスタムレポートタイプで自動的に使用できるようにします。ダッシュボードを PNG 形式でダウンロードして、任意の場所で使用できます。

Tableau CRM

データプレップレシピは、変更を元に戻したり、以前のレシピバージョンに戻したりできることがわかっているため安心して更新できます。ダッシュボード間でウィジェットをコピーして貼り付けることで、ダッシュボードを迅速に作成できます。コミュニケーションセールス業務に関するインサイトを取得して、カスタマーサービス担当者がカスタマーエクスペリエンスを最適化できるようにします。レポートの Einstein Discovery によるレポート実行でのデータ分析の変更内容を確認します。

レポートとダッシュボード

Lightning Experience の [レポート実行] ページから直接項目値を更新することで時間を節約できます。Salesforce オブジェクトの新しいカスタム項目を、そのオブジェクトに基づくすべてのカスタムレポートタイプで自動的に使用できるようにします。ダッシュボードを PNG 形式でダウンロードして、任意の場所で使用できます。

このセクションの内容:

インライン編集を使用した [レポート実行] ページからの項目の更新 (ベータ)

時間とクリック数を節約しながら、レポートおよびオブジェクトレコードのデータを最新の状態に保つことができます。レポートのソースデータが変更されたときに、元のオブジェクトレコードに戻って情報を更新する必要はありません。インライン編集では、[レポート実行] ページから移動することなく特定の種別のテキスト項目、数値項目、チェックボックス項目を更新できます。たとえば、営業担当は 1 か所で商談レポートを実行し、商談金額を確認および更新できます。

カスタムレポートタイプへの項目の自動追加 (正式リリース)

レポートに新しいカスタム項目を追加するには時間がかかり、特に多くのカスタムレポートタイプがある場合は大変です。自動追加では、Salesforce オブジェクトに追加したカスタム項目がそのオブジェクトに基づくすべてのカスタムレポートタイプに自動的に追加されます。カスタムレポートタイプからレポートを作成するときには、すべてのカスタム項目がレポートに追加できるようになっています。自動追加は、パッケージの一部として追加された項目には適用されません。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ファイルへのダッシュボード画像のダウンロード

ダッシュボードの画像をプレゼンテーションに組み込んだり、任意の場所で参照したりするには、ダッシュボードを PNG ファイルにダウンロードします。以前は、スクリーンショットアプリケーションを使用しないと、ダッシュボード画像を取得できませんでした。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

インライン編集を使用した [レポート実行] ページからの項目の更新 (ベータ)

時間とクリック数を節約しながら、レポートおよびオブジェクトレコードのデータを最新の状態に保つことができます。レポートのソースデータが変更されたときに、元のオブジェクトレコードに戻って情報を更新する必要はありません。インライン編集では、[レポート実行] ページから移動することなく特定の種別のテキスト項目、数値項目、チェックボックス項目を更新できます。たとえば、営業担当は 1 か所で商談レポートを実行し、商談金額を確認および更新できます。

対象: これらの変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

メモ: [レポート実行] ページのインライン編集はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「IdeaExchange/X」グループに投稿してください。組織でこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。

方法:まず、Salesforce カスタマーサポートに連絡して、インライン編集を有効化するように要求します。次に、[設定]の[レポートおよびダッシュボードの設定]で、[レポートでのインライン編集を有効化(Lightning Experienceのみ)]を選択し、変更内容を保存します。

SETUP
Reports and Dashboards Settings

Report and Dashboard User Interface Settings

Modify the behavior of the user interface for report and dashboard pages using the following settings:

User Interface

- Enable Floating Report Headers (Salesforce Classic only)
- Enable Dashboard Finder ⓘ
- Hide the embedded Salesforce Classic report builder in Lightning Experience
- Hides the option to export a report in XLS format in Lightning Experience
- Enable Inline Editing in Reports (Lightning Experience Only)

Confidential Information Disclaimer Settings

Specify whether or not to exclude a disclaimer that says "Confidential Information - Do Not Distribute" from report footers.

- Exclude Disclaimer from Formatted Report Exports in Lightning Experience
- Exclude Disclaimer from Report Run Pages and from Printable View Pages (Salesforce Classic Only)

Chatter Options

- Enable Dashboard Component Snapshots ⓘ

Save Cancel

これで準備は整いました。レポートを開き、編集するテキスト項目、数値項目、チェックボックス項目にマウスポインタを置きます。鉛筆アイコンが表示されている場合、そのアイコンをクリックし、値を変更して保存できます。レポートとソースレコードの項目値が更新され、自動的にレポートが再実行されます。

Report: Opportunities
Opportunities Report Analyze

Total Records
4,635

	Account Name	Probability (%)	Stage	Amount	Close Date	Created Date
1	Phelps Inc [548]	0%	Qualification	USD 439,620.00	1/22/2022	1/21/2020
2	Phelps Inc [548]	100%			1/15/2019	1/21/2020
3	Phelps Inc [548]	100%			1/30/2021	1/21/2020
4	Phelps Inc [548]	75%			1/29/2018	1/21/2020
5	Goodman Inc [659]	15%			1/5/2020	1/21/2020
6	Goodman Inc [659]	100%	Closed Won	USD 109,174.00	1/4/2020	1/21/2020

Modal dialog for Probability (%):
 Probability (%)

 Cancel Save

錠アイコンは、インライン編集で使用できない項目であることを示します。

	Account Name	Probability (%)	Stage	Amount
1	Phelps Inc [548]	0%	Qualification	USD 439,620.00
2	Phelps Inc [548]	100%	Closed Won	USD 644,581.08
3	Phelps Inc [548]	100%	Closed Won	USD 21,120.00

次の項目および項目種別では、インライン編集はサポートされていません。

- ToDo オブジェクトと行動オブジェクトの項目
- [レコード ID] や [作成日] などのシステム項目
- 名前項目や住所項目などの複合項目
- 選択リスト
- カスタム日付/時間項目
- 暗号化されたテキスト項目
- 数式項目
- 標準項目種別(日付/時間、自動採番、積み上げ集計、レコードタイプ、主従関係、ロングテキストエリア、リッチテキスト、階層)
- ページレイアウトまたはレコードタイプの制限によって編集が許可されていないその他の項目

カスタムレポートタイプへの項目の自動追加 (正式リリース)

レポートに新しいカスタム項目を追加するには時間がかかり、特に多くのカスタムレポートタイプがある場合は大変です。自動追加では、Salesforce オブジェクトに追加したカスタム項目がそのオブジェクトに基づくすべてのカスタムレポートタイプに自動的に追加されます。カスタムレポートタイプからレポートを作成するときには、すべてのカスタム項目がレポートに追加できるようになっています。自動追加は、パッケージの一部として追加された項目には適用されません。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

対象: これらの変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

ファイルへのダッシュボード画像のダウンロード

ダッシュボードの画像をプレゼンテーションに組み込んだり、任意の場所で参照したりするには、ダッシュボードを PNG ファイルにダウンロードします。以前は、スクリーンショットアプリケーションを使用しないと、ダッシュボード画像を取得できませんでした。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

対象: これらの変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

方法: ダッシュボードから、▼ > [ダウンロード] をクリックします。ダッシュボードは、選択した場所に PNG 形式で保存されます。

The screenshot shows the Tableau CRM interface. At the top, there is a navigation bar with 'Sales' and various menu items like 'Home', 'Opportunities', 'Leads', 'Tasks', 'Files', 'Accounts', 'Contacts', 'Dashboards', 'Reports', and 'More'. Below this, a dashboard titled 'Summary Results' is displayed, with a timestamp 'As of Mar 22, 2021, 2:23 PM - Viewing as Dana Yee'. The dashboard contains two main sections: 'Opportunities Report' and 'Current look'. The 'Opportunities Report' is a table with columns for Account Name, Amount, Expected Revenue, Probability, and Age. The 'Current look' section features a gauge chart showing a value of 31. A context menu is open over the dashboard, with the 'Download' option highlighted, and other options like 'Save As', 'New Dashboard', and 'Delete' visible.

Account Name ↑	Amount	Expected Reven...	Probability (...)	Age
Burlington Textiles Corp of America	\$235.00k	\$235.00k	100%	0
Dickenson plc	\$15.00k	\$1.50k	10%	342
Edge Communications	\$0.00	\$0.00	100%	0
Edge Communications	\$75.00k	\$75.00k	100%	0
Edge Communications	\$35.00k	\$21.00k	60%	342
Edge Communications	\$50.00k	\$50.00k	100%	0
Express Logistics and Transport	\$80.00k	\$40.00k	50%	342
Express Logistics and Transport	\$120.00k	\$84.00k	70%	342

Tableau CRM

データプレップレシピは、変更を元に戻したり、以前のレシピバージョンに戻したりできることがわかっているため安心して更新できます。ダッシュボード間でウィジェットをコピーして貼り付けることで、ダッシュボードを迅速に作成できます。コミュニケーションセールス業務に関するインサイトを取得して、カスタマーサービス担当者がカスタマーエクスペリエンスを最適化できるようにします。レポートの EinsteinDiscovery によるレポート実行でのデータ分析の変更内容を確認します。

このセクションの内容:

Tableau CRM のデータインテグレーションとデータプレップ

変更を元に戻し、以前のレシピバージョンに戻すオプションがあるため、安心してデータプレップレシピを変更できます。新しい関数と拡張された列サポートで、よりスマートなデータプレップのカスタム数式を設計します。Salesforce 出力コネクタを使用して Salesforce 内の業務にレシピ結果を転送します。

Analytics 事前作成済みテンプレートおよびアプリケーション

Tableau CRM の事前作成済みのテンプレートとアプリケーションには、データのより有効な活用に役立つ新しいアプリケーションとダッシュボードが含まれています。コミュニケーションの営業業務を把握し、カスタマーサービス担当は新しい Analytics for Communications - Business および Consumer アプリケーションでカスタマーエクスペリエンスを最適化することができます。Revenue Operations Analytics アプリケーションの更新によって、粒度の細かい制御と詳細の把握が可能になり、営業についてより適切な判断を下すことができます。

Analytics アプリケーションの構築

Analytics Studio では、ダッシュボード間でウィジェットをコピーして貼り付けることでダッシュボードを迅速に作成し、拡張されたテキスト書式設定を使用してダッシュボードにスタイルを追加することができます。また、アプリケーションテンプレートを作成する際に開発者ツールをスキップすることもできます。

Einstein Discovery

レポート用 Einstein Discovery (旧称 Einstein データインサイト) を使用すると、レポート実行間でデータ分析の何が変更されたかを確認できます。モデルカードを使用して予測の透過性を高め、予測に関する重要な利用状況情報を文書化したり、伝えたりすることができます。あいまい一致によるカテゴリのバケット化と欠損値の代入を可能にする強化された機能エンジニアリングを使用して、より優れたモデルを作成できます。

Salesforce データパイプライン

Salesforce データの大規模な変更と強化。

すべてのユーザーのための Tableau CRM

Tableau CRM のホームページがパーソナライズされ、より直観的になりました。組織全体の Tableau CRM 項目のコレクションを構築し、ホームページをカスタマイズしてチームと Analytics を共有することができます。

Analytics モバイルアプリケーション

Web タブを使って最小限のタップ回数で即座にダッシュボードを使用し、他の ToDo を完了した後に簡単に自分のダッシュボードに戻ることができます。

Tableau CRM のデータインテグレーションとデータプレップ

変更を元に戻し、以前のレシピバージョンに戻すオプションがあるため、安心してデータプレップレシピを変更できます。新しい関数と拡張された列サポートで、よりスマートなデータプレップのカスタム数式を設計します。Salesforce 出力コネクタを使用して Salesforce 内の業務にレシピ結果を転送します。

このセクションの内容:

新しいバージョンのリモートコネクタへの準備

今後の Tableau CRM リモートコネクタの機能強化に備えるため、コネクタバージョンをアップグレードします。新しいバージョンのコネクタは以前と同様に機能するか、以前よりも優れた機能を発揮します。2021年8月1日以降に Tableau CRM を初めて使用するユーザは、新しいコネクタバージョンが利用可能にならないと新しいコネクタバージョンを使用できません。

Salesforce 出力コネクタを使用した Tableau CRM から Salesforce への準備したデータの出力 (正式リリース)

Tableau CRM Salesforce 出力コネクタおよびデータプレップを使用して、準備した取引先オブジェクトデータ、商談オブジェクトデータ、およびカスタムオブジェクトデータを Tableau CRM から Salesforce 組織に転送します。Tableau CRM を使用すると、リモートデータを Salesforce レコードとマージして、分析および視覚化を改善するための変換 (欠損値の予測、センチメント分析、クラスタ化など) を行うことが容易になります。Salesforce 出力コネクタでデータプレップ出力ノードを使用して、拡張されたデータを任意の接続された Salesforce 組織に挿入したり、更新したり、更新/挿入したりできます。Salesforce の準備したデータを使用して、外部データを統合したり、Salesforce 自動化ツールのスイートを適用してデータへのアクションを実行したり、非 Tableau CRM ユーザーがレポートおよびダッシュボードを介してデータにアクセスできるようにしたりできます。出力コネクタあたりレシピの実行ごとに最大 100 MB のデータが外部に書き込まれます。また、24 時間ごとに最大 100 MB のデータを書き込むことができます。この機能が正式リリースされました。

追加の分析のための Tableau Online への Tableau CRM データのエクスポート (正式リリース)

Tableau Online 出力コネクタおよびデータプレップレシピを使用して、Tableau CRM の準備したデータを Tableau Online に転送します。変換、マージ、クリーンアップされたデータは、さらに分析するために .hyper ファイルとして Tableau Online に転送されます。たとえば、Tableau CRM で苦戦している商品の商談履歴データを準備し、Tableau Online のツールを使用して、商談を最適化するのに役立つトレンドを識別します。この機能が正式リリースされました。

Tableau CRM 出力コネクタの制限の変更

Snowflake および Amazon S3 への Tableau CRM 出力コネクタの 24 時間周期の制限をプールしました。Snowflake 出力コネクタまたは Sync Out、および Amazon S3 出力コネクタの制限は合計で 50 GB または 5,000 万行になります。たとえば、40 GB のデータを Tableau CRM から Snowflake に転送する場合、割り当てられた 10 GB のデータが残り、Amazon S3 に転送されます。

Microsoft Azure SQL データウェアハウスコネクタから Microsoft Synapse Analytics コネクタへの名前変更

Microsoft が Azure SQL データウェアハウス製品の名前を Synapse に変更したため、コネクタの名前が変更されます。コネクタは以前と同じように機能します。お客様は何も変更する必要はありません。

ダイレクトデータを使用したデータ同期のない Salesforce データへのアクセス (パイロット)

レシピでは、同期する接続されたオブジェクトだけではなく、他の Salesforce オブジェクトのデータにアクセスできるようになりました。ダイレクトデータを使用する場合、レシピはデータ同期ステップをスキップして、Salesforce オブジェクトから最新データを直接取得します。ダイレクトデータは接続されたオブジェクトのようにパフォーマンスが最適化されていないため、データ同期を利用できない場合や、その Salesforce オブジェクトが 1 つのレシピのみの取得元として使用されている場合に使用してください。

レシピとデータフローを他の実行の完了後に実行するようにスケジュール

他の実行の完了まで待機する改善されたイベントベースのスケジュールを使用して、ビジネスとデータのニーズに基づいてレシピとデータフローを管理します。スケジュール済みの実行が必要なデータの更新後に開始したり、前の必須の実行が完了した後にのみ実行したりするように設定します。以前は、イベントベースのスケジュールは関連ローカル接続の同期後のみに実行されるように設定していました。

バージョン履歴を使用したレシピの復元

レシピで新しいアイデアを恐れずに試してみてください。破損しても、前のバージョンに戻すことができます。複雑なレシピの場合は、他のユーザーとコラボレーションして繰り返し構築します。バージョン履歴で、ここに至るまでに誰がそれぞれのバージョンを更新したのかを確認できます。

レシピの変更を元に戻す

[元に戻す]を使用して、レシピの不要な変更を元に戻すことができます。たとえば、レシピで10個の更新を行った後にノードを誤って削除した場合、ノードの削除を元に戻すことができます。または、レシピのこのバージョンで行ったすべての変更を元に戻すまで、すべてのアクションを元に戻すことができます。最後に保存した後に行ったすべてのアクションを元に戻すことができます。[やり直し]を使用して、元に戻したレシピ状態を復元できます。以前は、変更を手動で元に戻す必要がありました。

拡張されたグラフィインタラクションでデータの接続、結合、追加

レシピのアップストリームまたはダウンストリームの任意のノード間でデータを結合または追加できるようになりました。以前は、ダウンストリームノードに結合または追加できるのはエンドノードのみで、レシピで再使用する場合はその都度ノードを複製していました。中間ノードに分岐を作成し、レシピの別のパスにその分岐を結合または追加できるようになりました。また、右から左へと流れるようにノードを移動することも可能になりました。

新しい関数を使用したデータプレップの計算済み数式の拡張

3つの新しいデータプレップ数式関数を使用して、ウィンドウとデータクリーンアップのオプションをさらに提供する派生項目を作成します。sum(expr) を使用して、関連行のウィンドウの累積集計を計算します。char_length(field) を使用して、文字列の文字数を返します。instr(field, searchString, [position, [occurrence]]) を使用して、項目内の文字列の位置を見つけます。これはデータフロー数式関数 index_of() に似ています。

拡張された列名サポートで高機能なデータプレップ数式の作成

データプレップ数式では、数式でうまく動作するかどうかではなく、ビジネスニーズに基づいた名前を選択できるオプションを提供し、より広範な列名がサポートされるようになりました。ドット、ダッシュ、Salesforceで保護されているキーワード(MONTHやTITLEなど)を含む列名を二重引用符で囲んで使用できます。以前は、数式にはこのような列名を使用できませんでした。また、文字列リテラル(たとえば、when "MONTH" = 'January' の January) を囲むのに、二重引用符ではなく単一引用符を使用できるようになりました。

時系列売上予測を使用した将来の予測(正式リリース)

時系列売上予測を使用すると、明日に関する売上予測に基づいて今日の意味決定を行うことができます。データプレップレシピの時系列売上予測変換を使用して、履歴データと季節性に基づいて売上予測を実行します。たとえば、売上予測を使用して四半期別の売上を推定します。この機能は、パイロットリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。季節性の選択、最適なモデルの自動検出、信頼区間の追加ができるようになりました。

クラスタ化を使用した新しいデータ分割方法の発見(正式リリース)

データプレップレシピでクラスタ変換を使用すると、共通の基準特性に基づいてデータの行を個別のクラスタに分割できます。たとえば、評価、従業員数、年間売上に基づいて取引先をクラスタ化できます。クラスタを使用して、同じクラスタ内の他の取引先に基づいて、各取引先にアップセルする商品やサービスを識別したり、クラスタに基づいて異なるサービス処理またはマーケティングキャンペーンを適用したり、分析のためのさまざまな総計値やKPIを定義したりできます。この機能が正式リリースされました。

ピボットを使用した多角的な集計データの分析(正式リリース)

ピボットを使用して、重要な総計値を列のディメンションでグループ化します。たとえば、データセットに各国の合計収益が表示されているとします。各国の合計収益を取引先種別(カスタマーまたはパートナー)で比較するには、取引先種別でデータをピボットします。この機能が正式リリースされました。

入力キャッシュでレシピの実行時間の短縮

レシピの最初の実行時に、データプレップでは入力データをキャッシュし、キャッシュされたファイルにソースデータのコピーが保存されます。それ以降のレシピ実行時に時間を節約するために、データプレップでは同じデータを再び抽出するかわりに、キャッシュされたデータを使用します。入力キャッシュを使用するには、レシピはソースのすべての項目からデータを抽出する必要があります。

レシピの迅速なプレビュー

レシピのプレビューを高速化し、エラーが発生する可能性を低くするための最適化を行いました。100列を超える入力元を追加すると、デフォルトで最初の100列が自動的にプレビューに表示されます。以前は、データを結合するとすべての非表示列がデフォルトで表示されました。結合後、非表示列は非表示のままになりました。列のプロファイルは、プレビューに表示された列のみで使用できます。1つのレシピがマルチテナント環境のリソースを独占しないようにするために、データプレップではレシピで使用されるノードが250個を超える、または結合ノードが50個を超える場合、警告が表示されるようになりました。この推奨値を超えるレシピのプレビューには時間がかかる場合があります。

新しいバージョンのリモートコネクタへの準備

今後のTableau CRM リモートコネクタの機能強化に備えるため、コネクタバージョンをアップグレードします。新しいバージョンのコネクタは以前と同様に機能するか、以前よりも優れた機能を発揮します。2021年8月1日以降にTableau CRMを初めて使用するユーザは、新しいコネクタバージョンが利用可能にならないと新しいコネクタバージョンを使用できません。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

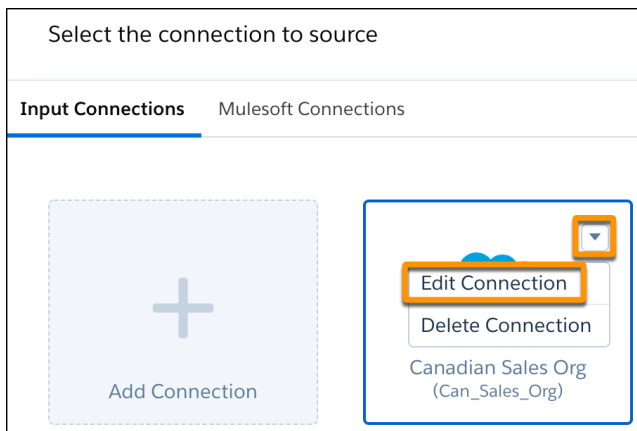
方法: 2021年8月1日より前にTableau CRMの使用を開始した場合は、コネクタのアップグレードパスの詳細を読み進め、コネクタと独自の考慮事項に関するリストの更新を定期的を確認してください。

Summer '21 リリースより前に以下の手動でアップグレードされたコネクタのいずれかで作成された接続は、コネクタをアップグレードするまで従来のバージョンを継続して使用します。Winter '22 リリース以降、従来のコネクタバージョンは廃止されるため、手動でアップグレードされた接続をすぐにアップグレードしてテストするように計画することをお勧めします。

- Amazon Redshift コネクタ (注意: 新しいバージョンでは、[S3 バケット名] 設定は使用されません)
- Amazon S3 コネクタ (注意: 新しいバージョンのコネクタでは、AWS Key Management Service に保存されているお客様のマスターキー、または256ビットのAES形式でお客様が生成したキーで暗号化されたオブジェクトへの接続がサポートされています。)
- AWS RDS Aurora MySQL コネクタ
- AWS RDS Aurora PostgreSQL コネクタ
- AWS RDS MariaDB コネクタ
- AWS RDS MySQL コネクタ
- AWS RDS PostgreSQL コネクタ
- AWS RDS SQL Server コネクタ

- Google BigQuery Legacy SQL コネクタ (注意: 新しいバージョンではステージング環境がまだサポートされていないため、スループットが低下します。新しいバージョンには、デフォルトで False に設定されているストレージ API プロパティが含まれています。)
- Google BigQuery Standard SQL コネクタ (注意: 新しいバージョンではステージング環境がまだサポートされていないため、スループットが低下します)
- Microsoft Azure SQL データベースコネクタ
- Microsoft Synapse Analytics コネクタ (旧称: Microsoft Azure SQL データウェアハウスコネクタ)
- NetSuite コネクタ (注意: 新しいバージョンと従来のバージョンでは、オブジェクトのリストの表示が異なります。アップグレード後に新しいオブジェクト名でレシピおよびデータフローを更新してください。)
- Heroku Postgres コネクタ
- Salesforce 外部コネクタ
- Salesforce Marketing Cloud 連絡先 OAuth 2.0 コネクタ (注意: 新しいバージョンではより多くの Marketing Cloud オブジェクトデータにアクセス可能になります。パッケージが公開されたビジネスユニットと共有データエクステンションフォルダ内のオブジェクトのみがサポートされます。MIDサフィックス命名形式の objectName_MID (例: Ungrouped__Complaint_1464376) はまだサポートされていません。現在、パッケージ化されたビジネスユニットの子からデータを同期している場合や、MID サフィックス命名形式を使用している場合は、現時点ではアップグレードしないでください。)
- Snowflake コネクタ
- Zendesk コネクタ (注意: このコネクタは現在、正式リリースされています。)

アップグレードするには、従来のモードを無効にして新しいバージョンの設定を完了します。データマネージャの [接続] タブで [データに接続] を選択し、接続のメニューを選択して、[接続を編集] をクリックします。



[従来のコネクタを使用] を選択解除します。



コネクタを保存して検証し、接続をテストします。手動でアップグレードされたグループから接続を作成する場合は、今後アップグレードする必要がないように新しいコネクタバージョンを使用することをお勧めします。

Summer'21 リリースより前に以下の手動で移行されたコネクタのいずれかで作成された接続は、新しいバージョンに手動で移行するまで従来のバージョンを継続して使用します。

- Google アナリティクス Core Reporting v4 コネクタ (注意: このコネクタの新しいバージョンでは、カスタムオブジェクトがサポートされています。また、Core Reporting API v4.0 を使用することで、Google アナリティクスの追加オプションを利用できます。)
- Marketo コネクタ (注意: 新しいバージョンまたは従来のバージョンを置き換える 2 つのコネクタオプション ([Marketto コネクタ] と [従来の Marketo コネクタ]) があります。これらのコネクタでは、従来のコネクタの切り替えは使用されません。新しいコネクタバージョンでは、[オブジェクトを選択] に基づく絞り込みがサポートされています。)
- Oracle Eloqua コネクタ (注意: 現在、新しいバージョンでは、異なる項目名が使用され、従来のバージョンよりも多くのオブジェクトが含まれ、活動オブジェクトはまだサポートされていません)
- SAP HANA コネクタ (注意: [SAP HANA Cloud コネクタ] と [SAP HANA コネクタ] の 2 つのコネクタオプションがあり、新しいバージョンまたは従来のバージョンを反映しています。これらのコネクタでは、従来のコネクタの切り替えは使用されません。新しいコネクタバージョンでは絞り込みがサポートされ、異なる接続プロパティが使用され、JDBC ベースになっています。)

移行するには、従来の接続の設定と新しい必須プロパティを反映したコネクタとの接続を作成します。作成後、レシピとデータフローを更新して、新しい接続から外部オブジェクトを使用します。従来のバージョンの接続はトラブルシューティング目的で残しておきます。Winter'22 リリース以降、従来のバージョンのコネクタは廃止されるため、移行とテストを直ちに完了することをお勧めします。手動で移行されたグループから接続を作成すると、その接続は常に新しいバージョンになります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Tableau CRM へのデータの接続と同期 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ナレッジ記事: New Connector Version Availability, Upgrade Path, and Considerations \(新しいコネクタバージョンのリリース状況、アップグレードパス、考慮事項\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

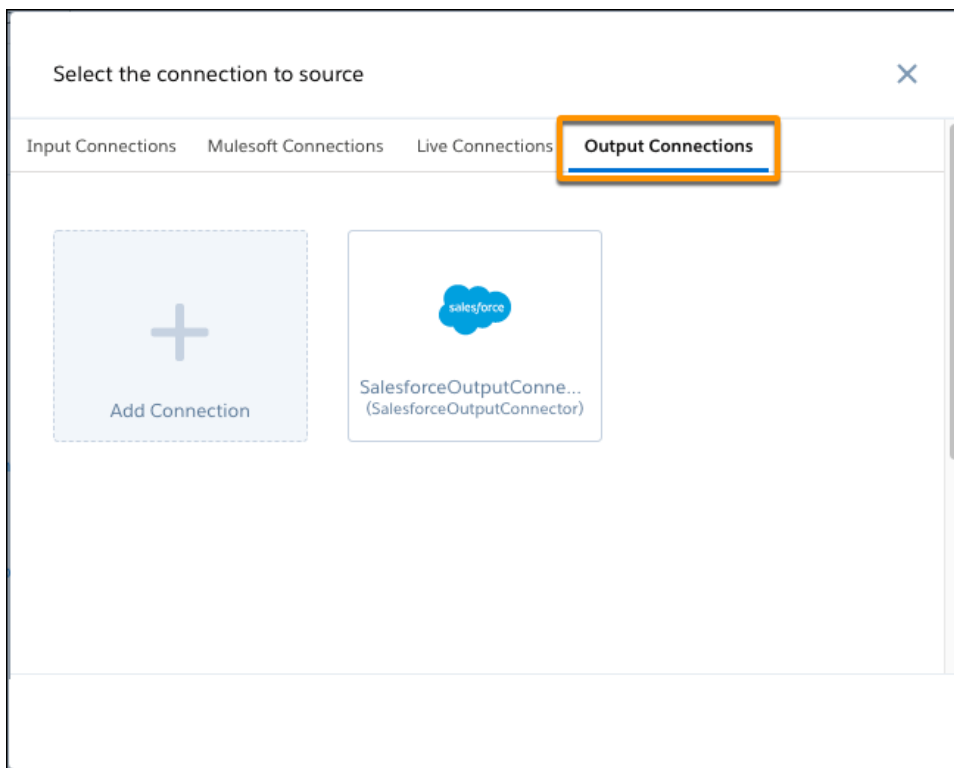
Salesforce 出力コネクタを使用した Tableau CRM から Salesforce への準備したデータの出力 (正式リリース)

Tableau CRM Salesforce 出力コネクタおよびデータプレップを使用して、準備した取引先オブジェクトデータ、商談オブジェクトデータ、およびカスタムオブジェクトデータを Tableau CRM から Salesforce 組織に転送します。Tableau CRM を使用すると、リモートデータを Salesforce レコードとマージして、分析および視覚化を改善するための変換 (欠損値の予測、センチメント分析、クラスタ化など) を行うことが容易になります。Salesforce 出力コネクタでデータプレップ出力ノードを使用して、拡張されたデータを任意の接続された Salesforce 組織に挿入したり、更新したり、更新/挿入したりできます。Salesforce の準備したデータを使用して、外部データを統合したり、Salesforce 自動化ツールのスイートを適用してデータへのアクションを実行したり、非 Tableau CRM ユーザーがレポートおよびダッシュボードを介してデータにアクセスできるようにしたりできます。出力コネクタあたりレシピの実行ごとに最大 100 MB のデータが外部に書き込まれます。また、24 時間ごとに最大 100 MB のデータを書き込むことができます。この機能が正式リリースされました。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由:たとえば、取引先データを検索して外部注文で更新し、そのデータを Salesforce に転送します。データ同期を使用して Salesforce の取引先レコードデータを Tableau CRM に取り込み、Tableau CRM Snowflake コネクタを使用して Snowflake の注文データを取り込みます。次に、データプレップ結合ノードを使用して、注文データを取引先レコードと出力ノードに関連付け、変換されたデータを Salesforce に転送します。Salesforce で、プロセスビルダーを使用して、注文トレンドが下落しているときに取引先所有者にアラートを通知します。

方法:データマネージャの [接続] タブで、[データに接続] をクリックします。[出力接続] タブで接続を追加し、Salesforce 組織の情報を使用して設定します。使用するログイン情報によって、コネクタのアクセスレベルが決まります。



データプレップを使用してレシピを作成します。この例では、Salesforce 取引先データを検索して外部注文データで更新します。出力ノードで、出力接続への書き込みを選択します (1)。データの転送先となる Salesforce 出力接続 (2) と書き込み先となるオブジェクト (3) を選択します。転送でのデータに対する操作 (更新、挿入、更新/挿入) を選択します (4)。更新/挿入を行う場合、リモートオブジェクトの一意の識別子を選択します (5)。レシピ列を対応する外部オブジェクト列に対応付けます (6)。

OUTPUT
Output

Write To **1**
Output Connection

* Connection Name **2**
CanSalesOrg

* Object Name **3**
Account

* Operation **4**
UPSERT

* External Id **5**
Account ID

Map recipe columns to external object columns. **6**

Recipe	Account
A _a Account Name ✓	A _a Name ✕
A _a Owner ID ✓	A _a OwnerId ✕
📅 Created Date ✓	📅 CreatedDate ✕

Cancel Apply

レシピを保存します。レシピが実行されると、Tableau CRM は出力を Salesforce 組織に書き込みます。

関連トピック:

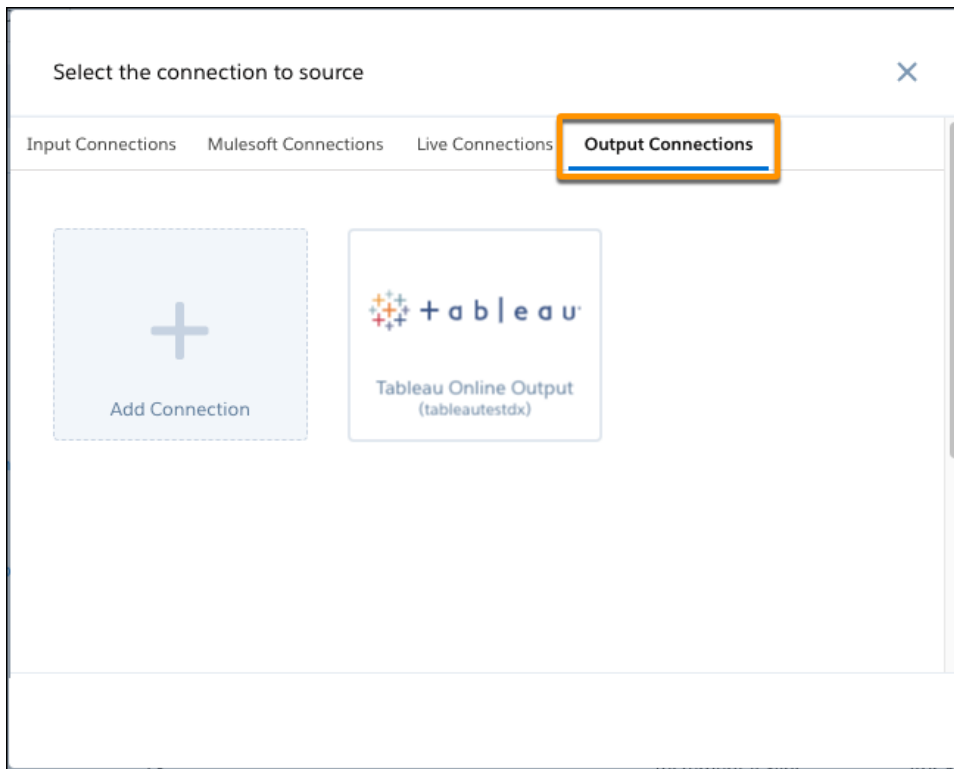
[Salesforce ヘルプ: Salesforce 出力接続 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

追加の分析のための Tableau Online への Tableau CRM データのエクспорт (正式リリース)

Tableau Online 出力コネクタおよびデータプレップレシピを使用して、Tableau CRM の準備したデータを Tableau Online に転送します。変換、マージ、クリーンアップされたデータは、さらに分析するために .hyper ファイルとして Tableau Online に転送されます。たとえば、Tableau CRM で苦戦している商品の商談履歴データを準備し、Tableau Online のツールを使用して、商談を最適化するのに役立つトレンドを識別します。この機能が正式リリースされました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: データマネージャの [接続] タブで、[データに接続] をクリックします。[出力接続] タブで接続を追加し、Tableau Online アカウント情報を使用して設定します。



データプレップを使用してレシピを作成します。出力ノードで、出力接続への書き込みを選択します(1)。データの転送先となる Tableau Online 接続(2)を選択します。[オブジェクト名](3)として書き込み先となる Tableau Online プロジェクトを選択します。

The screenshot shows the 'Recipe' configuration interface. At the top, there's a 'Recipe' header with a flask icon. Below it are icons for '+', 'Share', and 'Download', along with a 'Got Feedback?' button. The main workflow consists of three steps: 'Opportunity' (green icon), 'Transform' (blue icon), and 'Output' (purple icon). The 'Output' step is selected, and its configuration panel is visible. The panel includes a 'Write To' dropdown menu (highlighted with a red circle '1'), a '*Connection Name' dropdown menu (highlighted with a red circle '2'), and a '*Object Name' dropdown menu (highlighted with a red circle '3'). The 'Write To' is set to 'Output Connection', the '*Connection Name' is set to 'tableautestdx', and the '*Object Name' is set to 'default'. At the bottom of the panel are 'Cancel' and 'Apply' buttons.

レシピを保存します。レシピが実行されるたびに、Tableau CRM は指定された Tableau Online プロジェクト内に Extract.hyper ファイルとして出力を書き込みます。ここから、追加の分析を実行したり、Tableau CRM データを Tableau Online ダッシュボードに追加したりできます。

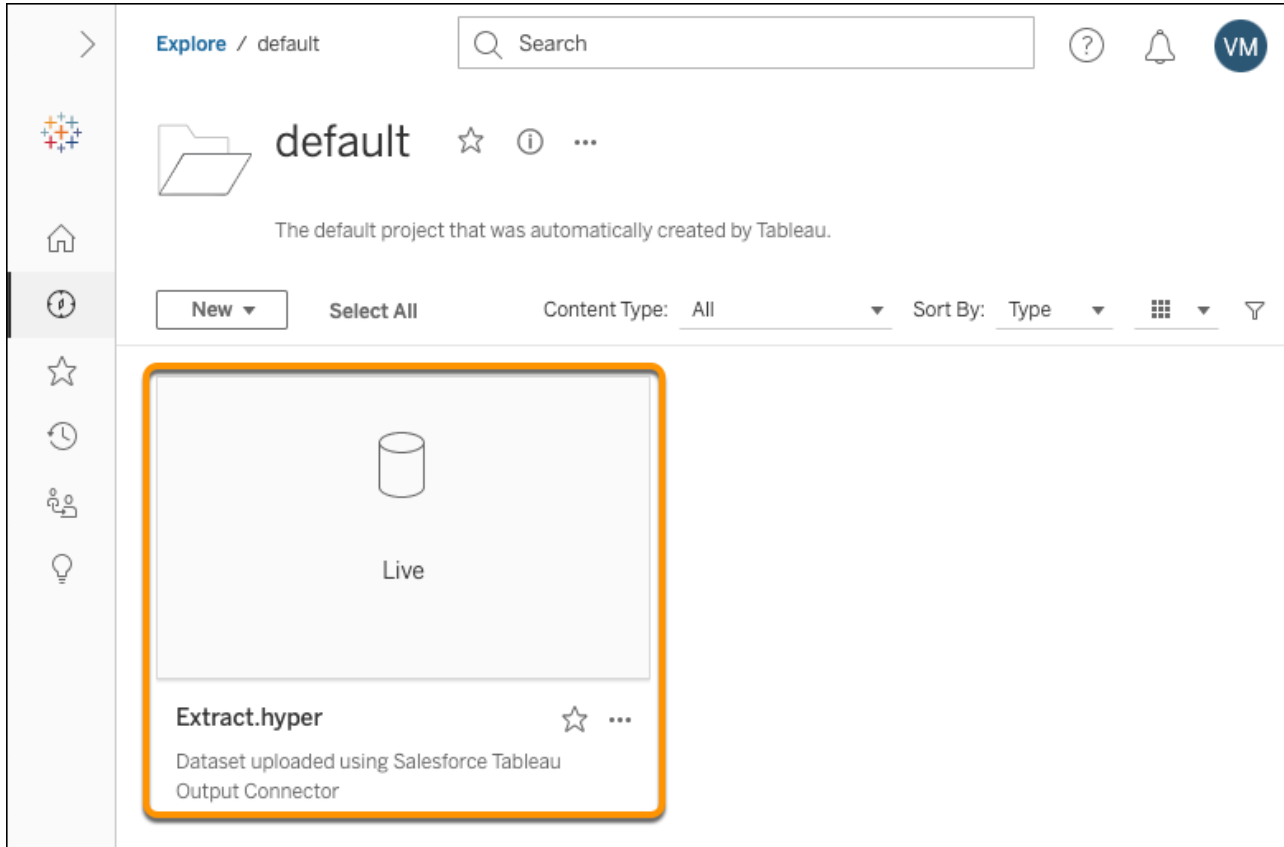


Tableau CRM 出力コネクタの制限の変更

Snowflake および Amazon S3 への Tableau CRM 出力コネクタの 24 時間周期の制限をプールしました。Snowflake 出力コネクタまたは Sync Out、および Amazon S3 出力コネクタの制限は合計で 50 GB または 5,000 万行になります。たとえば、40 GB のデータを Tableau CRM から Snowflake に転送する場合、割り当てられた 10 GB のデータが残り、Amazon S3 に転送されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Amazon S3 出力接続 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Snowflake 出力接続 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Sync Out for Snowflake \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Microsoft Azure SQL データウェアハウスコネクタから Microsoft Synapse Analytics コネクタへの名前変更

Microsoft が Azure SQL データウェアハウス製品の名前を Synapse に変更したため、コネクタの名前が変更されます。コネクタは以前と同じように機能します。お客様は何も変更する必要はありません。

関連トピック:

[Microsoft ブログ: Azure SQL Data Warehouse が Azure Synapse Analytics に変わりました](#)

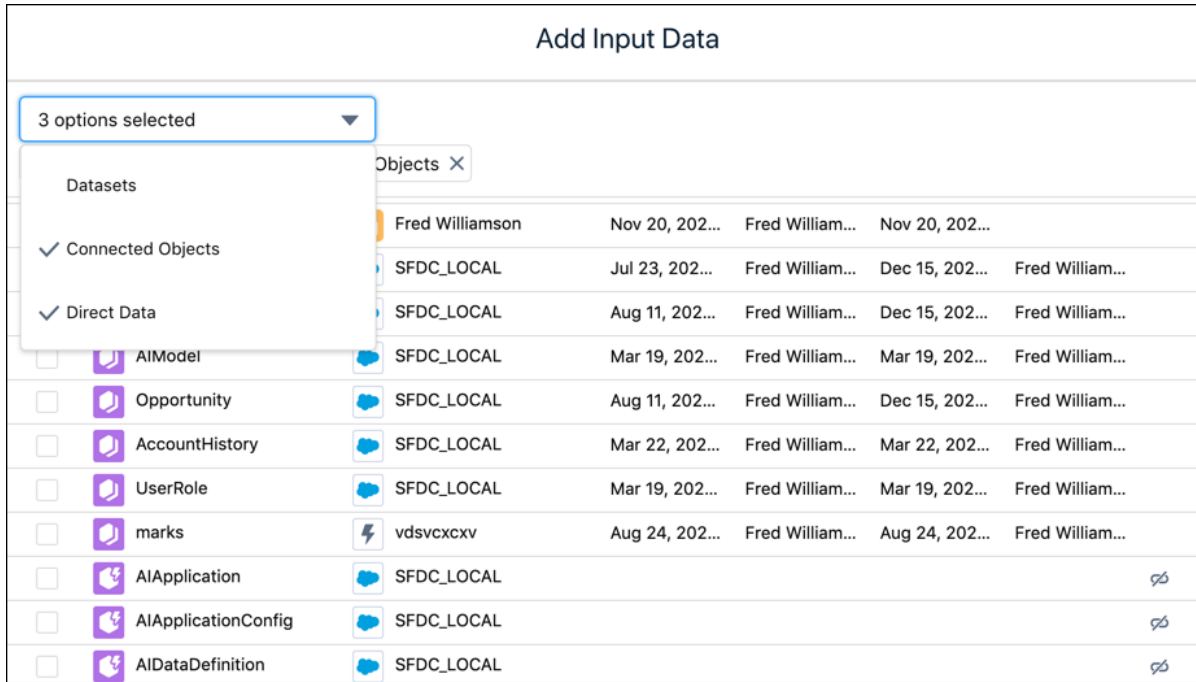
ダイレクトデータを使用したデータ同期のない Salesforce データへのアクセス (パイロット)

レシピでは、同期する接続されたオブジェクトだけではなく、他の Salesforce オブジェクトのデータにアクセスできるようになりました。ダイレクトデータを使用する場合、レシピはデータ同期ステップをスキップして、Salesforce オブジェクトから最新データを直接取得します。ダイレクトデータは接続されたオブジェクトのようにパフォーマンスが最適化されていないため、データ同期を利用できない場合や、その Salesforce オブジェクトが1つのレシピのみの取得元として使用されている場合に使用してください。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

Salesforce Data Direct は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Salesforce Data Direct は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。フィードバックや提案は、[Trailblazer Community](#) の「Salesforce Direct Data」に投稿してください。

方法: レシピに入力ノードを追加するときに、データセット、接続されたオブジェクトに加え、ダイレクトデータを選択できるようになりました。



[入力データを追加] ページの各オブジェクトには、接続されたオブジェクト (🔗)、データセット (📊)、またはダイレクトデータ (📌) であることを示すアイコンが表示されます。接続されていない Salesforce オブジェクトはダイレクトデータとして表示されます。

ヒント: 実行時間を短縮するために、複数のレシピが同じ Salesforce オブジェクトにアクセスする場合、または1つのレシピが複数の Salesforce オブジェクトにアクセスする場合は、ダイレクトデータではなく接続されたオブジェクトを使用します。接続されたオブジェクトを使用するレシピは、データが事前に同期されるため、実行時間が短くなります。また、実行時間が短縮されるのは、接続されたオブジェクトでマルチスレッドが有効になっているからでもあります。マルチスレッドでは、複数の Bulk API コールを同時に実行してデータが並列で処理されます。接続されたオブジェクトとは異なり、ダイレクトデータでは単一スレッドが使用され、データプレップによって一度に1つの取得元オブジェクトからデータが抽出されます。たとえば、4つのレシピがあり、それぞれ5つの取得元オブジェクトを使用している場合、データプレップでは1つのレシピの1つのオブジェクトからデータを取得し、その間、他の19個の取得元オブジェクトはキューで待機しています。

レシピとデータフローを他の実行の完了後に実行するようにスケジュール

他の実行の完了まで待機する改善されたイベントベースのスケジュールを使用して、ビジネスとデータのニーズに基づいてレシピとデータフローを管理します。スケジュール済みの実行を必要なデータの更新後に開始したり、前の必須の実行が完了した後にのみ実行したりするように設定します。以前は、イベントベースのスケジュールは関連ローカル接続の同期後のみに実行されるように設定していました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: この機能は、Summer '21 リリース時にローリング方式で追加されます。

理由: 拡張されたイベントベースのスケジュールにより、レシピとデータフローの実行の優先度と順序を制御できます。たとえば、外部の配送業者のデータソースからデータを準備するレシピと、その配送業者のデータセットと Salesforce から引き出される [Shipping Overview (配送概要)] レシピがあるとしたら。拡張されたイベントベースのスケジュールを使用して、ローカルのデータ同期と各配送業者のレシピの完了後に [Shipping Overview (配送概要)] レシピを実行するように設定します。

方法: レシピまたはデータフローをスケジュールするときに、別のレシピまたはデータフローの後に実行するように選択します。

Schedule for 'Opportunity'

Schedule Mode

Time-based **Event-based**

Run After

The Salesforce local connection syncs

The Salesforce local connection syncs and the selected recipes or dataflows runs

The selected recipes or dataflows runs

Search Show Selected

Search Recipe or Dataflow by name

Name	Next Run ↓
<input type="checkbox"/> Sales data	02/15/2020 at 3:48 PM
<input type="checkbox"/> Non-Admin stuff	02/15/2020 at 3:48 PM
<input checked="" type="checkbox"/> Customer comparisons	02/15/2020 at 3:48 PM
<input type="checkbox"/> Repo dep	02/15/2020 at 3:48 PM
<input type="checkbox"/> Shared datasets	02/15/2020 at 3:48 PM
<input type="checkbox"/> Accounts	02/15/2020 at 3:48 PM
<input checked="" type="checkbox"/> Accounts	02/15/2020 at 3:48 PM

Cancel Save

この実行を開始する前に完了している必要がある最大5個のレシピとデータフローを選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: レシピをスケジュールして自動実行\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

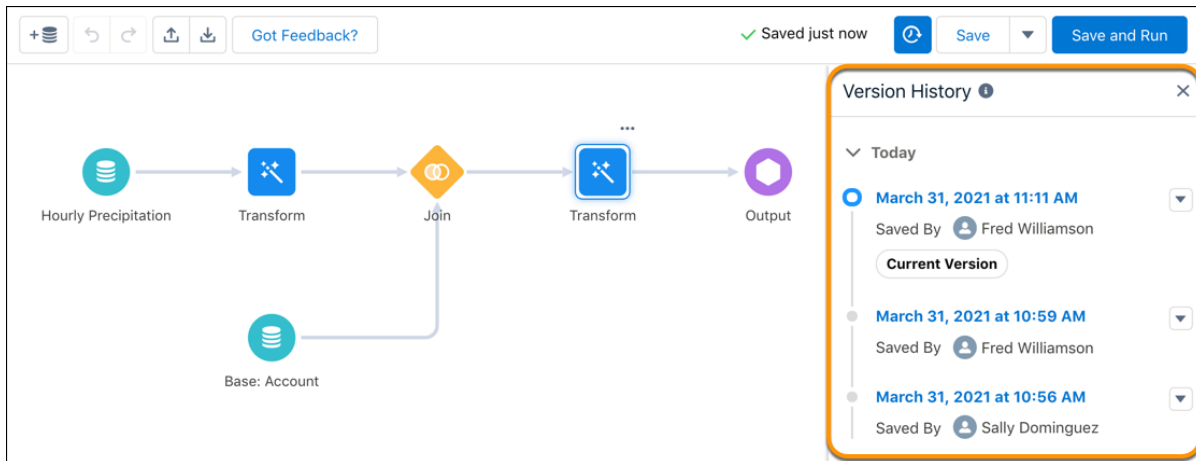
[Salesforce ヘルプ: データフローをスケジュールして自動実行\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

バージョン履歴を使用したレシピの復元

レシピで新しいアイデアを恐れずに試してみてください。破損しても、前のバージョンに戻すことができるようになりました。複雑なレシピの場合は、他のユーザとコラボレーションして繰り返し構築します。バージョン履歴で、ここに至るまでに誰がそれぞれのバージョンを更新したのかを確認できます。

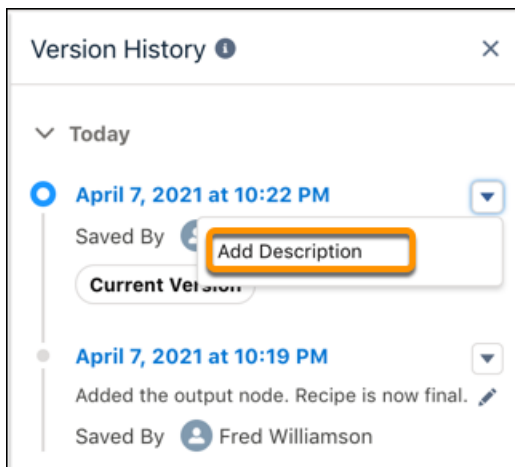
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: レシピを保存するたびにバージョンが作成されます。レシピのバージョン履歴を表示するには、バージョン履歴ボタン(🕒)をクリックします。



以前のバージョンを表示するには、バージョンの日付をクリックします。バージョンに加えた変更内容を失わないようにするには、別のバージョンに切り替える前に変更を保存します。古いバージョンへの変更を保存すると、それが現在のバージョンになります。

バージョンに説明を追加するには、バージョンの日付の横にある下向き矢印(▼)をクリックし、[説明を追加]をクリックします。



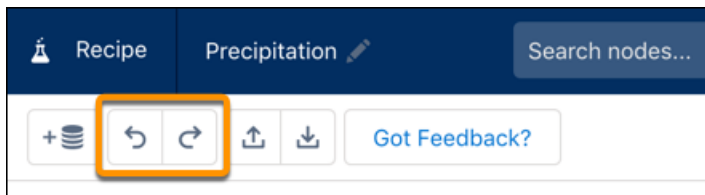
データプレップでは、各レシピで説明付き 10 個、説明なし 10 個の最大 20 個のバージョンを保存できます。最新のバージョンが常に保持されます。たとえば、説明付きバージョンが 10 個あり、説明付きバージョンをもう 1 つ追加すると、最も古い説明付きバージョンが削除されます。

レシピの変更を元に戻す

[元に戻す]を使用して、レシピの不要な変更を元に戻すことができます。たとえば、レシピで10個の更新を行った後にノードを誤って削除した場合、ノードの削除を元に戻すことができます。または、レシピのこのバージョンで行ったすべての変更を元に戻すまで、すべてのアクションを元に戻すことができます。最後に保存した後に行ったすべてのアクションを元に戻すことができます。[やり直し]を使用して、元に戻したレシピ状態を復元できます。以前は、変更を手動で元に戻す必要がありました。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:アクションを元に戻す、またはやり直すには、[元に戻す]または[やり直し] ボタンをクリックします。



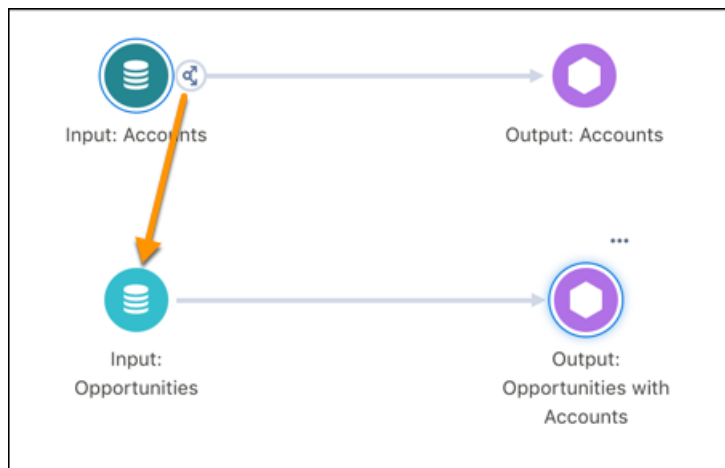
元に戻すにはキーボードショートカットの Ctrl+Z (Windows) または Cmd+Z (MacOS)、やり直しには Ctrl+Y (Windows) または Cmd+Y (MacOS) を使用することもできます。

拡張されたグラフィックインタラクションでデータの接続、結合、追加

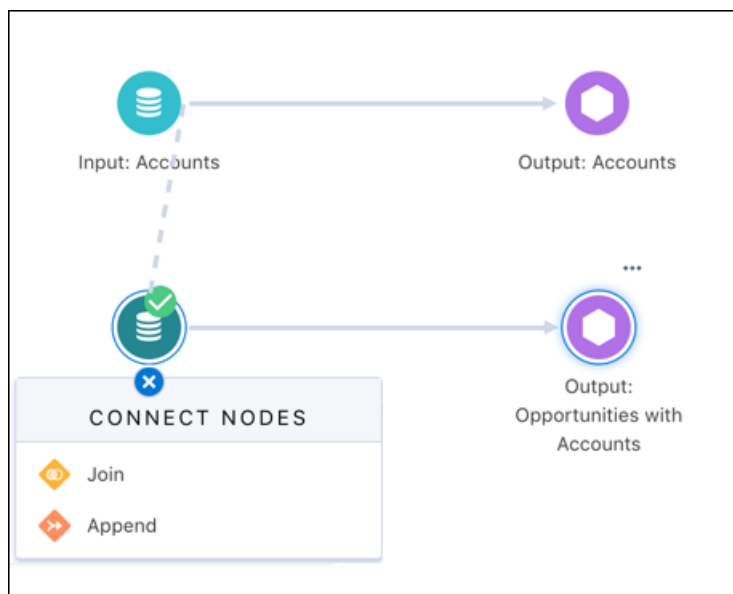
レシピのアップストリームまたはダウンストリームの任意のノード間でデータを結合または追加できるようになりました。以前は、ダウンストリームノードに結合または追加できるのはエンドノードのみで、レシピで再使用する場合はその都度ノードを複製していました。中間ノードに分岐を作成し、レシピの別のパスにその分岐を結合または追加できるようになりました。また、右から左へと流れるようにノードを移動することも可能になりました。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

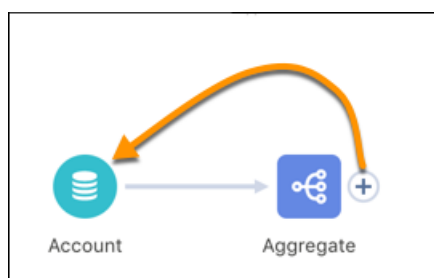
方法:分岐を作成し、別のパスに結合または追加するには、ノードにマウスポインタを置いて分岐ボタン(🔗)を表示し、別のパスのノードの上に分岐ボタンをドラッグします。



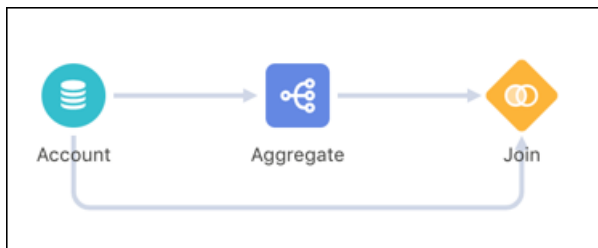
[ノードを接続] ボックスで、データを結合するか、追加するかを選択します。



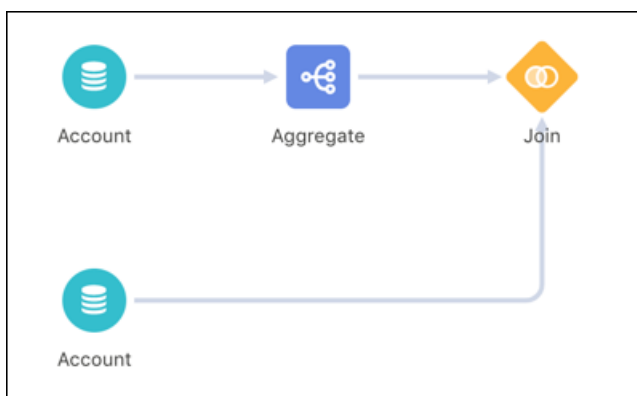
先行ノードにデータを結合または追加するには、ノードの[ノードを追加] ボタン (+) または分岐ボタンを先行ノードの上にドラッグします。



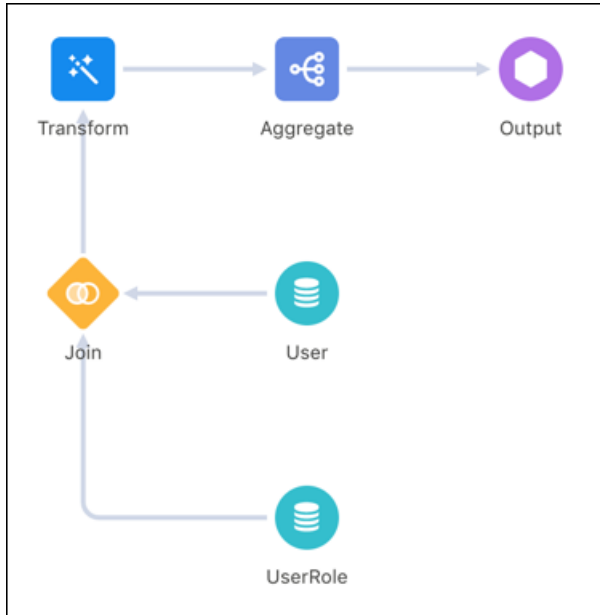
次に、[ノートを接続]ボックスでデータを結合するか、追加するかを選択します。このグラフは、集計された取引先データを取引先レコードに結合します。



以前は、この結合を作成するために、同じ [Account (取引先)] 入力ノードのインスタンスを2つ追加していました。



データのフローを見やすくするために、グラフでノードを前のノードの背後に配置できるようになりました。このグラフでは、[User (ユーザ)] 入力ノードと [UserRole (ユーザロール)] 入力ノードが後続の [Join (結合)] ノードの右側にあります。以前は、入力ノードは必ずグラフの左側で開始され、すべての後続ノードが右へ流れていました。



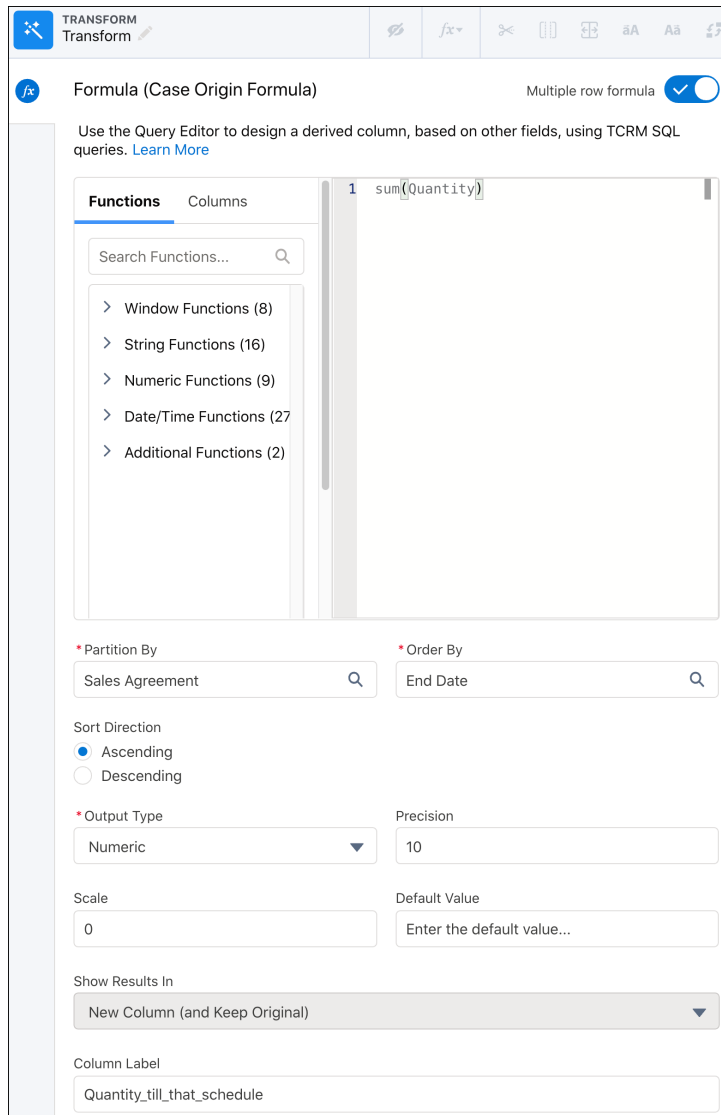
新しい関数を使用したデータプレップの計算済み数式の拡張

3つの新しいデータプレップ数式関数を使用して、ウィンドウとデータクリーンアップのオプションをさらに提供する派生項目を作成します。 `sum(expr)` を使用して、関連行のウィンドウの累積集計を計算します。 `char_length(field)` を使用して、文字列の文字数を返します。 `instr(field, searchString, [position, [occurrence]])` を使用して、項目内の文字列の位置を見つけます。これはデータフロー数式の関数 `index_of()` に似ています。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ウィンドウ関数を使用してカスタム数式を作成するには、カスタム数式変換をデータプレップレシピの変換ノードに追加します。

たとえば、`sum(expr)` 関数を使用して、特定の販売計画に関連付けられた毎月の出荷単位の累計数を追跡します。このウィンドウ関数を使用するには、[行数式の数式] を有効にします。カスタム数式 `sum(Quantity)` を入力し、パーティションの基準を [販売計画]、並び替えの基準を [終了日] に設定してウィンドウのプロパティを定義します。



レシピを実行すると、各販売計画の数量列の値が漸進的に加算され、[Quantity_till_that_schedule(そのスケジュールまでの数量)]列が生成されます。

#	Schedules	Sales Agreement	EndDate	Quantity	Quantity_till_that_schedule
1	Scd1	SA1	30/11/2020	100	100
2	Scd2	SA1	31/12/2020	110	210
3	Scd3	SA1	31/01/2021	120	330
4	Scd4	SA1	28/02/2021	130	460
5	Scd5	SA2	30/11/2020	180	180
6	Scd6	SA2	31/12/2020	200	380

関連トピック:


[Salesforce ヘルプ: 数式変換: 式に基づく計算列の作成 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

拡張された列名サポートで高機能なデータプレップ数式の作成

データプレップ数式では、数式でうまく動作するかどうかではなく、ビジネスニーズに基づいた名前を選択できるオプションを提供し、より広範な列名がサポートされるようになりました。ドット、ダッシュ、Salesforce で保護されているキーワード (MONTH や TITLE など) を含む列名を二重引用符で囲んで使用できます。以前は、数式にはこのような列名を使用できませんでした。また、文字列リテラル (たとえば、when "MONTH" = 'January' の January) を囲むのに、二重引用符ではなく単一引用符を使用できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 数式ビルダーで列を選択すると、ダッシュ、ドット、またはキーワードを使用する列は自動的に引用符で囲まれます。データプレップで数式を手動で入力する場合は、ドット、ダッシュ、Salesforce で保護されているキーワードを含む列名を二重引用符で囲みます。たとえば、名と姓の保護されたキーワードを使用する列を結合するには、concat("FirstName", '-', "LastName") のように、concat 関数を使用して列名を二重引用符で囲みます。

 **ヒント:** 各列名のダッシュ、ドット、キーワードを手動で評価するのを避けるためのベストプラクティスは、すべての列名を二重引用符で囲むことです。

文字列リテラルを二重引用符で囲んでいる既存の数式は、データプレップによって自動的に単一引用符に更新されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 数式変換: 式に基づく計算列の作成 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

時系列売上予測を使用した将来の予測 (正式リリース)

時系列売上予測を使用すると、明日に関する売上予測に基づいて今日的意思決定を行うことができます。データプレップレシピの時系列売上予測変換を使用して、履歴データと季節性に基づいて売上予測を実行します。たとえば、売上予測を使用して四半期別の売上を推定します。この機能は、パイロットリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。季節性の選択、最適なモデルの自動検出、信頼区間の追加ができるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 時系列売上予測変換を作成する前に、集計ノードを追加して、売上予測の期間の基準を結合します。たとえば、次の12か月の商談の総額と数を予測するには、集計ノードで両方の基準を集計として追加し(1)、[完了予定日]列の年と月で行をグループ化(2)します。

The screenshot shows the Tableau CRM 'Aggregate' node configuration. The 'Aggregates' section contains 'Sum Amount'. The 'Rows' section contains 'Close Date'. The 'Group Rows' section contains 'Close Date'. The 'Preview' table shows data for 'Close Date Month' and 'Close Date Year'. A 'Back' button is visible, and a 'Date Hierarchy' dialog is open with 'Year' and 'Month' selected.

Close Date Month	Close Date Year	Sum of Amount	Rows
07	2019	62986916.26	106
09	2019	63742941.30	83

時系列売上予測変換を変換ノードに追加するには、変換ツールバーで[時系列売上予測]ボタン(📅)をクリックします。時系列データの期間(年-月など)を選択します(1)。該当する場合は、季節性、売上予測の長さ、売上を予測する基準列を選択します(2)。

次に、[モデル]項目(3)で売上予測モデルを選択します。

- [加法]では、ホルトウィンターズ加法が使用されます。この方法は、時系列全体で季節変動がほぼ一定であるときに使用します。
- [乗法]では、ホルトウィンターズ乗法が使用されます。この方法は、季節変動が平均値(時系列のレベル)に比例して変化する場合に使用します。
- [自動]では、予測精度が最適な方法が使用されます。

最後の期間のデータが不完全な場合(期間がまだ終了していない場合)、[最後の期間を無視](4)を選択します。不完全なデータを使用すると、誤解を招く売上予測になる可能性があります。

売上予測での誤差を考慮するために、80%または95%信頼区間(5)を選択します。信頼区間は特定の信頼水準に基づいて各売上予測の値を範囲で表します。

Time Series Forecasting

Predict measure values based on historical data and seasonality. For example, you can forecast quarterly sales and monthly rainfall.

Group Dates By
Year-Month

Year
Close Date Year

Month
Close Date Month

Seasonality 1
Auto

Forecast Length 1
12

Columns to Forecast [Remove All](#)
Columns to Forecast
Sum of Amount
Rows

Model 1
Auto


Ignore Last Time Period

Generate Confidence Interval 1
95

Cancel Apply

レシピを実行して、売上予測を確認します。各売上予測列には、それぞれの期間の結果が表示されます。この例では、[Rows (行)] と [Sum of Amount (合計金額)] 売上予測列に売上予測が表示されています。必要に応じて、次のように `coalesce` 関数を使用して、将来の期間の売上予測と実際の基準を1つの列に結合します。

CLOSEDATE Month ↑	CLOSEDATE Year ↑	Rows	Rows Forecast	Actual and Forecasted Rows	Date	Sum of AMOUNT	Sum of AMOUNT Forecast	Actual and Forecasted Amounts
02	2021	48	210	48	2021-01-01	2,204,520	1,440,218	2204520
03	2021	25	113	25	2021-02-01	1,328,893	-8,648,451	1328893
04	2021	10	62	10	2021-03-01	180,000	-1,623,855	180000
05	2021	10	33	10	2021-04-01	149,000	-1,344,426	149000
06	2021	10	22	10	2021-05-01	163,000	-192,907	163000
07	2021	12	18	12	2021-06-01	181,000	102,906	181000
08	2021	6	17	6	2021-07-01	55,000	182,742	55000
09	2021	15	13	15	2021-08-01	185,696	-44,406	185696
10	2021	6	17	6	2021-09-01	100,000	268,489	100000
11	2021	7	13	7	2021-10-01	86,000	49,381	86000
12	2021	0	12	12	2021-11-01	0	64,376	64376
01	2022	0	15	15	2021-12-01	0	42,753	42753
02	2022	0	18	18	2022-01-01	0	21,129	21129
03	2022	0	21	21	2022-02-01	0	-494	-494
04	2022	0	24	24	2022-03-01	0	-22,118	-22118
04	2022	0	27	27	2022-04-01	0	-43,741	-43741

 **メモ:** レシピを実行すると、各期間の売上予測を生成するために、変換によってバックグラウンドで、売上予測された列に0、他の列に null が入力されて、欠落している期間の行が入力されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 時系列売上予測変換: 売上予測基準](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

クラスタ化を使用した新しいデータ分割方法の発見 (正式リリース)

データプレップレシピでクラスタ変換を使用すると、共通の基準特性に基づいてデータの行を個別のクラスタに分割できます。たとえば、評価、従業員数、年間売上に基づいて取引先をクラスタ化できます。クラスタを使用して、同じクラスタ内の他の取引先に基づいて、各取引先にアップセルする商品やサービスを識別したり、クラスタに基づいて異なるサービス処理またはマーケティングキャンペーンを適用したり、分析のためのさまざまな総計値や KPI を定義したりできます。この機能が正式リリースされました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: クラスタ変換をデータプレップレシピの変換ノードに追加するには、変換ツールバーで [クラスタ] ボタン (🗲) をクリックします。

クラスタ数と、クラスタを決定するために使用される基準列を入力します。たとえば、取引先を分割するには、取引先の顧客生涯価値 (CLV)、ネットプロモータースコア (NPS)、在職期間、月次販売に基づいて 3 つのクラスタを作成します。

TRANSFORM
Transform

AI Cluster

Clustering intelligently segments data into distinct clusters with defining characteristics shared among the data in each cluster. [Learn More](#)

Number of Clusters

3

Columns Used to Determine Clusters ⓘ [Remove All](#)

Search columns... 🔍

- TotalCLV ✕
- NPSs ✕
- Tenure_Months ✕
- Monthly Sold ✕

Show Results In

New Column (and Keep Original) ▼

Column Label

Cluster

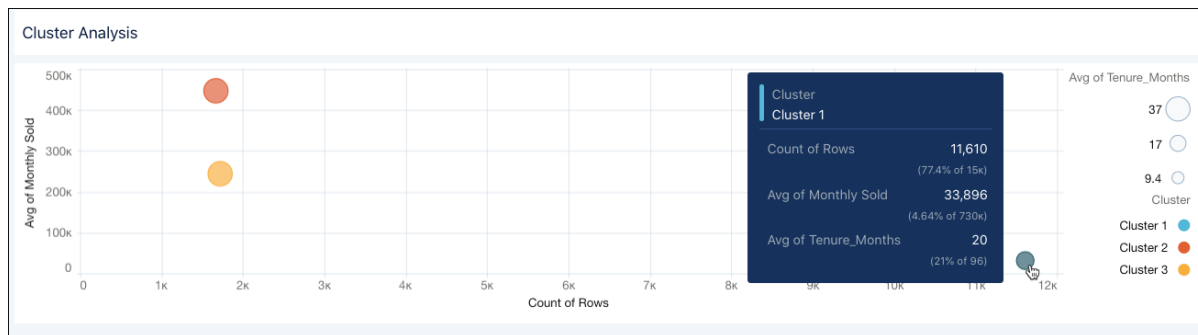
Cancel Apply

[適用]をクリックすると、プレビューには他のレシピ変換を作成するときに使用できるサンプルクラスタ値が表示されます。これらの値はサンプルです。レシピの実行後に変更される可能性があります。

Key	Q. Tenure_Months	Q. TotalCLV	Q. Monthly Sold	Q. Churn_Probability	Q. NPSs	Q. Monthly_Charge	Cluster
RB	28.00	364.00	61979.00	0.17	9.20	13.00	Cluster 1
RB	40.00	520.00	83729.00	0.88	9.20	13.00	Cluster 2
RB	41.00	492.00	99727.00	3.39	9.20	12.00	Cluster 3
RB	13.00	156.00	7497.00	0.02	7.30	12.00	Cluster 2
RB	46.00	598.00	540668.00	0.48	9.20	13.00	Cluster 2
RB	10.00	160.00	4656.00	0.12	7.30	16.00	Cluster 1
RB	45.00	765.00	376352.00	1.80	9.20	17.00	Cluster 3
RB	8.00	136.00	6468.00	4.66	7.30	17.00	Cluster 1
RB	33.00	528.00	11571.00	74.14	9.20	16.00	Cluster 1
RB	15.00	390.00	91097.00	99.60	3.90	26.00	Cluster 3
RB	43.00	430.00	71460.00	0.06	7.30	10.00	Cluster 1
RB	1.00	17.00	6065.00	0.48	3.90	17.00	Cluster 3
RB	23.00	414.00	62712.00	0.45	9.20	18.00	Cluster 2
RB	10.00	170.00	3667.00	10.49	7.30	17.00	Cluster 3
RB	38.00	1026.00	504197.00	99.14	3.90	27.00	Cluster 2
RB	5.00	125.00	5656.00	99.98	3.90	25.00	Cluster 3

レシピを実行すると、各取引先がクラスタに割り当てられます。クラスタ化アルゴリズムでは、選択した列すべての値を比較してクラスタが決まります。たとえば、生涯価値とネットプロモータースコアが同じ範囲(アルゴリズムによって決まる)に含まれていなければ、在職期間と月次販売が同じ取引先でも、別のクラスタに配置される可能性があります。

その後、ダッシュボードを作成して、各クラスタの取引先に関するインサイトを取得できます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: クラスタ変換: データの区分](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ピボットを使用した多角的な集計データの分析 (正式リリース)

ピボットを使用して、重要な総計値を列のディメンションでグループ化します。たとえば、データセットに各国の合計収益が表示されているとします。各国の合計収益を取引先種別(カスタマーまたはパートナー)で比較するには、取引先種別でデータをピボットします。この機能が正式リリースされました。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:データプレップレシピアの集計ノードを使用して、ディメンションを列としてピボットします。たとえば、最初に国ごとに平均商談金額を集計し、次に取引先種別で平均金額を分割するとします。平均金額を取引先種別で分割するには、集計ノードの [列をグループ化] 項目に [取引先種別] を追加します。ディメンションの各値が個別の列として表示されます。

Billing Country	Customer_Average Amount	Partner_Average Amount
Japan	1203705.13	1089682.82
Germany	679278.13	248928.67
Thailand	798792.07	332492.2
Norway	1741170.94	1604913
France	1036360	833338.75
Canada	1247692.92	831940.5
Australia	1210900.67	1272215.83
United Kingdom	989003.53	1622900
USA	1148691.51	1238350.84
Switzerland	1083505.46	1740161
Spain	2263939.38	206640
Belgium	1171014.38	1233242.33
India	1049280.15	
Taiwan	1718604.23	381768.67

データプレップは、集計に基づいてピボット列に名前を付け、列値をグループします(この例では、Customer_Average Amount と Partner_Average Amount)。ピボットテーブルを使用して、各国の顧客およびパートナーの総計値をすばやく比較できます。各基準で並び替えて、顧客およびパートナーの平均金額が最も高い国を確認することもできます。

集計ノードのピボット機能を使用する場合、次のルールを考慮してください。

- グループを追加するには、事前に1つ以上の集計を追加しておく必要があります。
- [列をグループ化] 項目には2列まで追加できます。

- ピボットでは列数が増えるため、集計ノードで作成できる列数は5,000個までであることに注意してください。ノードが最大数を超えた場合、集計や、行および列のグルーピングを変更して、列数を減らすことができます。

関連トピック:

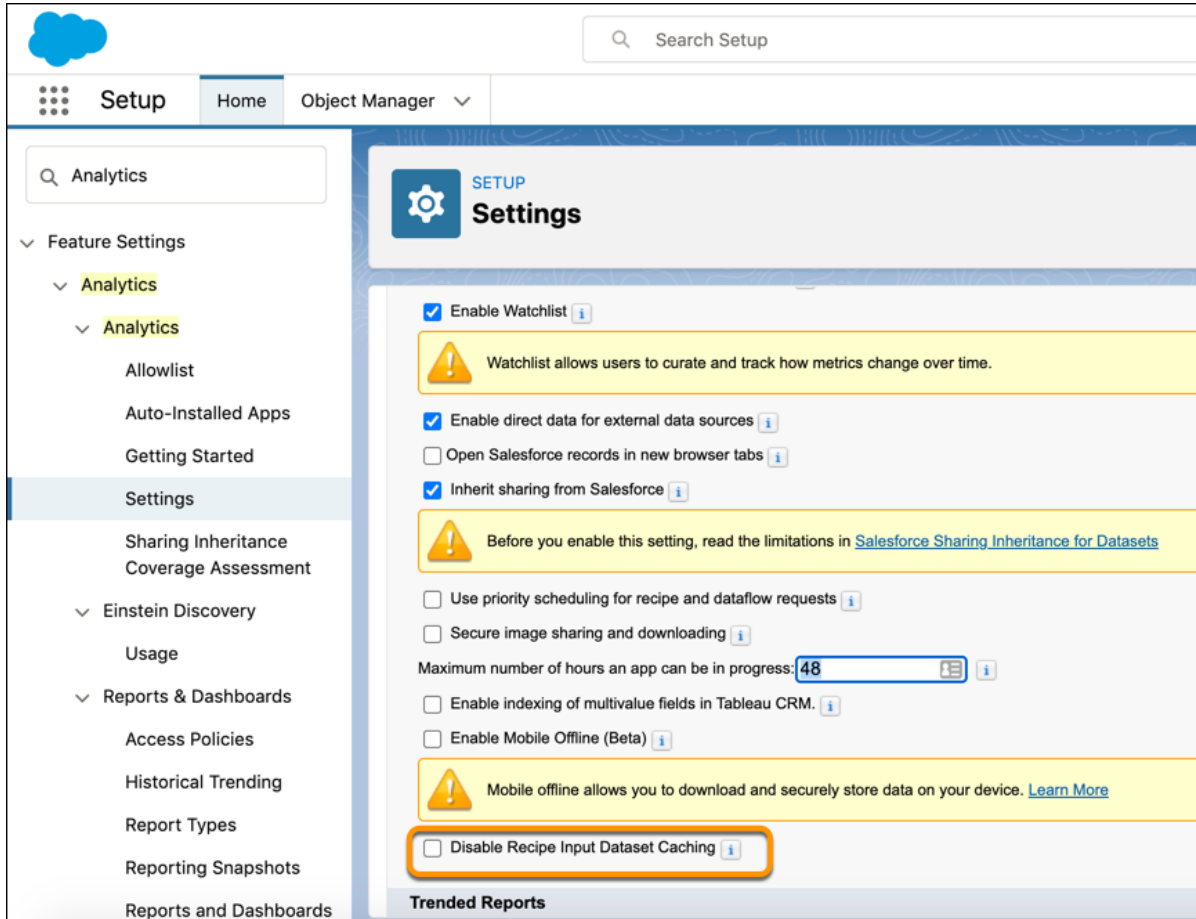
[Salesforce ヘルプ: 集計ノード: より高いレベルへのデータの積み上げ集計 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

入力キャッシュでレシピの実行時間の短縮

レシピの最初の実行時に、データプレップでは入力データをキャッシュし、キャッシュされたファイルにソースデータのコピーが保存されます。それ以降のレシピ実行時に時間を節約するために、データプレップでは同じデータを再び抽出するかわりに、キャッシュされたデータを使用します。入力キャッシュを使用するには、レシピはソースのすべての項目からデータを抽出する必要があります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 入力キャッシュはデフォルトで有効になっています。入力キャッシュを無効にするには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「Analytics」と入力し、[設定] をクリックし、[レシピ入力データセットキャッシュを無効化] を選択します。このオプションを無効にすると、より一貫性のあるレシピの実行時間を実現できます。



このオプションを有効にすると、レシピの実行時間はソースデータがキャッシュされているかどうかとキャッシュが使用されているかどうかによって異なります。レシピがソースのすべての項目からデータを抽出しない場合、キャッシュは行われません。データの経過日数が45日を超える、ディスク使用量が70%を超える、または前回のレシピ実行後にソースデータが変更されている場合、キャッシュされたデータは使用されません。

レシピの迅速なプレビュー

レシピのプレビューを高速化し、エラーが発生する可能性を低くするための最適化を行いました。100列を超える入力元を追加すると、デフォルトで最初の100列が自動的にプレビューに表示されます。以前は、データを結合するとすべての非表示列がデフォルトで表示されました。結合後、非表示列は非表示のままになりました。列のプロファイルは、プレビューに表示された列のみで使用できます。1つのレシピがマルチテナント環境のリソースを独占しないようにするために、データプレップではレシピで使用されるノードが250個を超える、または結合ノードが50個を超える場合、警告が表示されるようになりました。この推奨値を超えるレシピのプレビューには時間がかかる場合があります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

Analytics 事前作成済みテンプレートおよびアプリケーション

Tableau CRM の事前作成済みのテンプレートとアプリケーションには、データのより有効な活用に役立つ新しいアプリケーションとダッシュボードが含まれています。コミュニケーションの営業業務を把握し、カスタマーサービス担当は新しい Analytics for Communications - Business および Consumer アプリケーションでカスタマーエクスペリエンスを最適化することができます。Revenue Operations Analytics アプリケーションの更新によって、粒度の細かい制御と詳細の把握が可能になり、営業についてより適切な判断を下すことができます。

このセクションの内容:

[Analytics for Communications - Business を使用した Communications Cloud に関するインサイトの取得](#)

コミュニケーションセールスでは、そのプロセスの詳細を常に把握することは難しいものです。新しい Analytics for Communications - Business アプリケーションは、このようなプロセスのインサイトを商談、見積、注文の詳細を含む包括的なダッシュボードで提供します。このアプリケーションには、どこにでも埋め込むことができ、対象となる見積と取引先インサイトを表示するダッシュボードが用意されています。また、この新しいアプリケーションにはレシピも含まれています。

[Analytics for Communications - Consumer によるカスタマーエクスペリエンスの改善](#)

Analytics for Communications - Consumer アプリケーションにより、カスタマーサービス担当は取引先とサブスクリプションに関するインサイトをすばやく取得でき、顧客のセンチメントを測定し、顧客のニーズを予測して、適切な解決策を提供できます。インサイトは顧客生涯価値、在職期間、顧客とのやりとり、データ使用量、平均処理時間、支払頻度などの主要な総計値に使用できます。

[更新された Revenue Operations Analytics で売上目標の完全な把握](#)

更新された Revenue Operations Analytics アプリケーションを使用して商談についての理解を深め、目標達成にどれだけ近づいているかを把握します。目標とのギャップ総計値で売上のギャップを明らかにし、主要な総計値にマウスポインタを置いて詳細を表示します。また、詳細テーブルは、データセットが最後に更新されてから売上状況がどう変化したかを示します。

[Revenue Operations Analytics のより詳細な制御で隠れたインサイトの発見](#)

Revenue Operations Sales Forecast ダッシュボードは便利ですが、取り扱い商品についてもっと詳しく知りたいとは思いませんか? どの商品販売に成功し、どこに売上拡大の余地があるのかをより深く理解するために、Revenue Operations Sales Forecast ダッシュボードに商品データセットを追加しました。また、カスタム項目を商談金額として使用し、売上予測に最良の商談を反映させることもできます。以前は、商談金額項目が自動的に選択されていました。新しいデータセットを含めることにより、商品販売のより詳細な分析が可能になり、ホワイトスペース分析を実行できます。ホワイトスペースとは、クロスセルまたはアップセルの機会を提供し得る既存の販売にあるギャップを指します。

[Revenue Operations Sales Manager 組み込みダッシュボードでどこからでも成立率の向上](#)

営業マネージャは、目標とのギャップ、進行中の商談、四半期の予測売上を一目で確認できるようにしたいと考えていることと思います。すべての関連統計を 1 か所で参照できる新しい Revenue Operations Sales Manager 組み込みダッシュボードを確認してください。このダッシュボードを最も便利な場所に埋め込んでください。以前のリリースでは、Analytics Studio からダッシュボードにアクセスし、重要な情報を見つけるのに数か所を確認していました。

関連トピック:

[Analytics for Insurance アプリケーションデータのカスタマイズ](#)

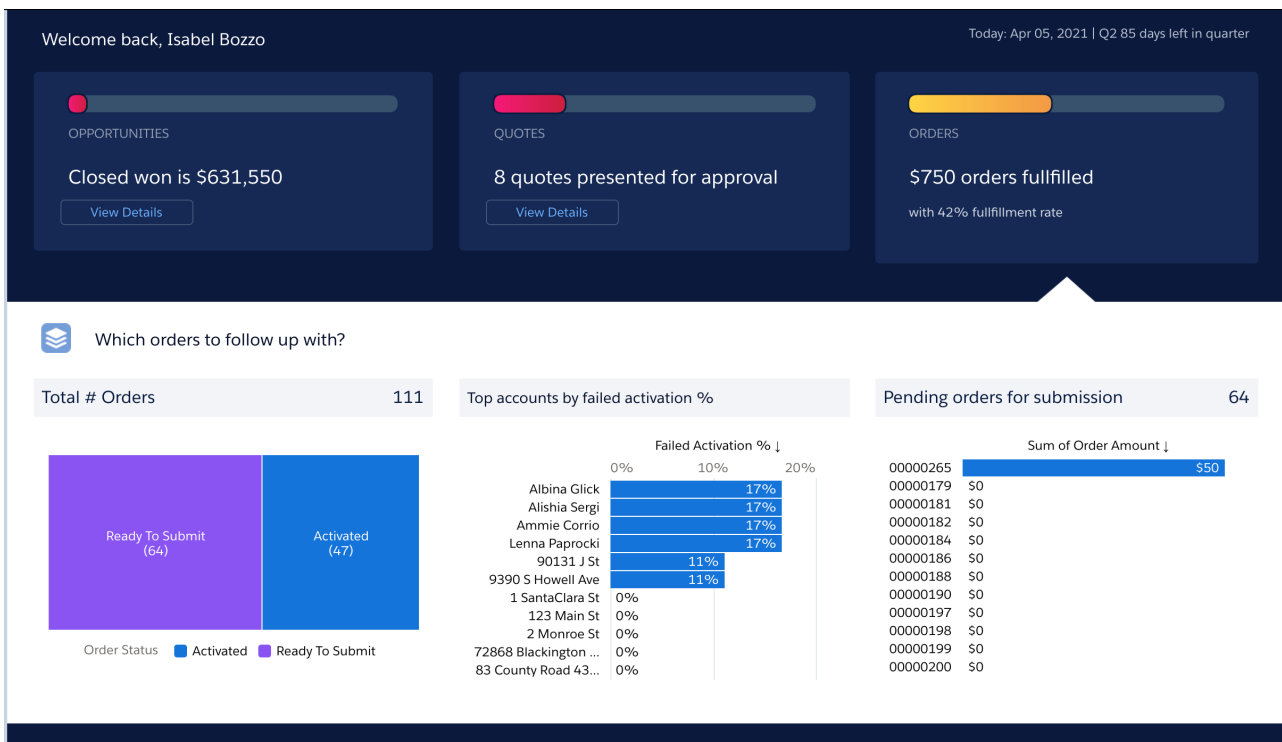
Analytics for Communications - Business を使用した Communications Cloud に関するインサイトの取得

コミュニケーションセールスでは、そのプロセスの詳細を常に把握することは難しいものです。新しい Analytics for Communications-Business アプリケーションは、このようなプロセスのインサイトを商談、見積、注文の詳細を含む包括的なダッシュボードで提供します。このアプリケーションには、どこにでも埋め込むことができ、対象となる見積と取引先インサイトを表示するダッシュボードが用意されています。また、この新しいアプリケーションにはレシピも含まれています。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: Tableau CRM for Communications アプリケーションは、Communications Cloud ユーザのみを対象としています。Analytics for Communications - Business アプリケーションを作成するには、Tableau CRM for Communications ライセンスも必要です。このアプリケーションはレシピを使用しており、レシピはデータ同期がオンになっている組織でのみサポートされています。そのため、このアプリケーションはデータ同期がオンになっている組織での使用を目的としています。

方法: Tableau CRM Analytics Studio で [作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。[Analytics for Communications - Business] を見つけて選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。



重要: 現在、Analytics for Communications-Business アプリケーションは、データ同期がオンになっている組織でサポートされています。

Analytics for Communications - Consumer によるカスタマーエクスペリエンスの改善

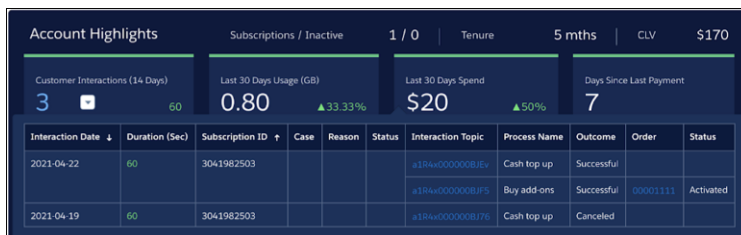
Analytics for Communications - Consumer アプリケーションにより、カスタマーサービス担当は取引先とサブスクリプションに関するインサイトをすばやく取得でき、顧客のセンチメントを測定し、顧客のニーズを予測して、適切な解決策を提供できます。インサイトは顧客生涯価値、在職期間、顧客とのやりとり、データ使用量、平均処理時間、支払頻度などの主要な総計値に使用できます。

対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM で使用できます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザー: Tableau CRM for Communications アプリケーションは、Communications Cloud ユーザのみを対象としています。Analytics for Communications - Consumer テンプレートからアプリケーションを作成するには、Tableau CRM for Communications ライセンスも必要です。

 **メモ:** このアプリケーションではデータフローの代わりにレシピを使用し、レシピはデータ同期が有効な組織でのみサポートされます。Analytics for Communications-Consumer アプリケーションはデータ同期が有効な組織でのみサポートされます。

方法: Tableau CRM Analytics Studio で [作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。[Analytics for Communications - Consumer] を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。



更新された Revenue Operations Analytics で売上目標の完全な把握

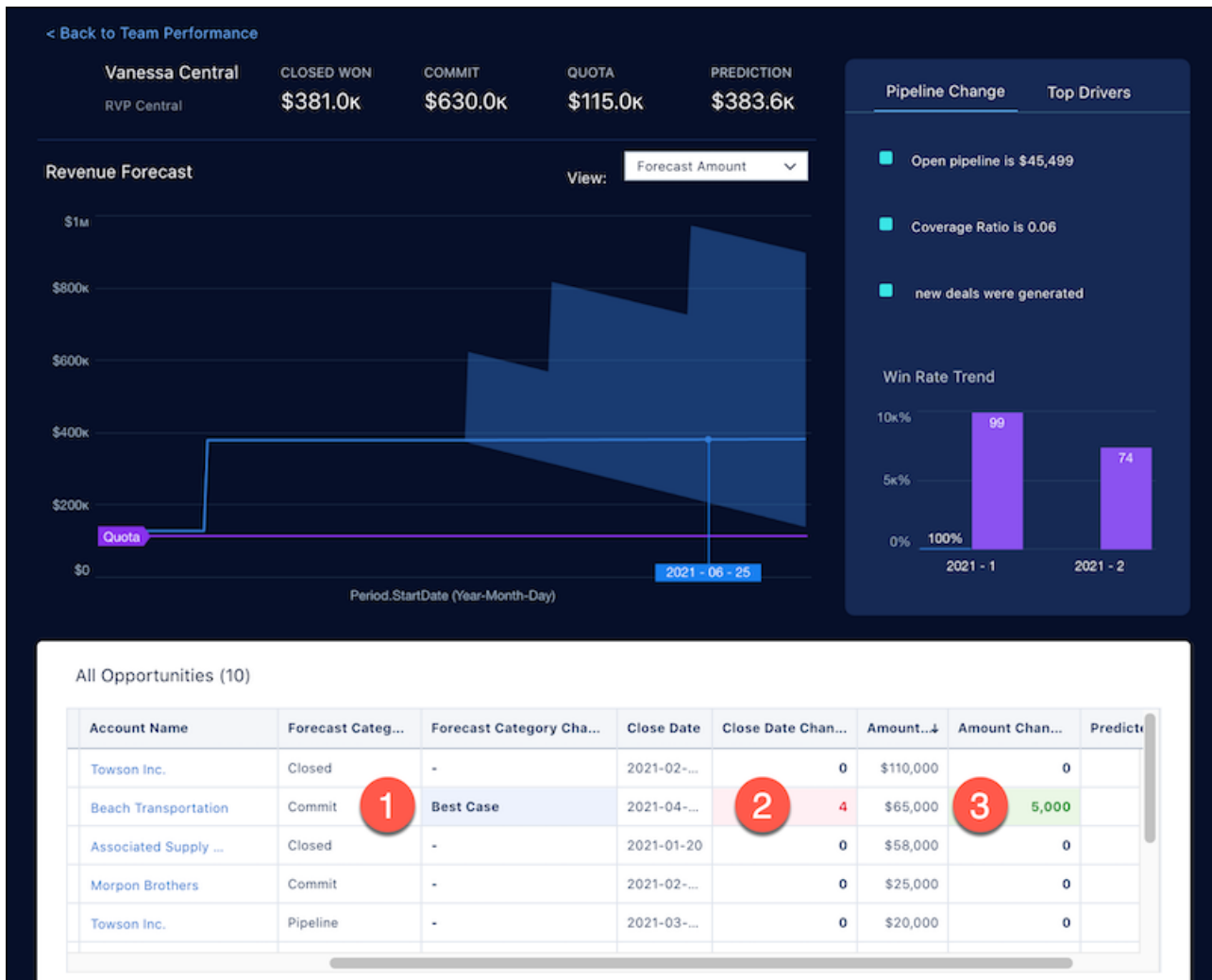
更新された Revenue Operations Analytics アプリケーションを使用して商談についての理解を深め、目標達成にどれだけ近づいているかを把握します。目標とのギャップ総計値で売上のギャップを明らかにし、主要な総計値にマウスポインタを置いて詳細を表示します。また、詳細テーブルは、データセットが最後に更新されてから売上状況がどう変化したかを示します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Tableau CRM Analytics Studio で [作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。[Revenue Operations Analytics] を見つけて選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。既存の Revenue Operations Analytics アプリケーションがある場合、アップグレードすると新しい機能が表示されます。アプリケーションをアップグレードするには、アプリケーションのホームページにある [新しいバージョンをご利用いただけます] のリンクをクリックして、ウィザードの指示に従います。アプリケーションをアップグレードすると、カスタマイズは削除されます。

ダッシュボードを開くと、新しい総計値である目標とのギャップで、現在の売上と売上目標のギャップを把握できます。詳細テーブルでは、データセットを最後に更新してから変更された商談金額、完了予定日、売上予測分類が強調表示されます。この総計値は、データセットを最後に更新してから関連する変更が行われたかど

うかを理解するのに役立ちます。商談成立の数値や確定済みおよび予測される成立金額の詳細を表示するには、それらの値にマウスポインタを置きます。たとえば、上位の成立商談、上位の確定売上、予測成立率の上限と下限を表示できます。



セクション	説明
1.)Forecast Category Change	売上予測分類の変更。たとえば、この商談のカテゴリが「最善達成予測」に変更されます。
2.)Close Date Change	完了予定日の変更。
3.)Amount Change	成立金額の変更。

Revenue Operations Analytics のより詳細な制御で隠れたインサイトの発見

Revenue Operations Sales Forecast ダッシュボードは便利ですが、取り扱い商品についてもっと詳しく知りたいとは思いませんか? どの商品販売に成功し、どこに売上拡大の余地があるのかをより深く理解するために、Revenue Operations Sales Forecast ダッシュボードに商品データセットを追加しました。また、カスタム項目を商談金額として使用し、売上予測に最良の商談を反映させることもできます。以前は、商談金額項目が自動的に選択されていました。新しいデータセットを含めることにより、商品販売のより詳細な分析が可能になり、ホワイトスペース分析を実行できます。ホワイトスペースとは、クロスセルまたはアップセルの機会を提供し得る既存の販売にあるギャップを指します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Tableau CRM Analytics Studio で [作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。[Revenue Operations Analytics] を見つけて選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。既存の Revenue Operations Analytics アプリケーションがある場合、アップグレードすると新しい機能が表示されます。アプリケーションをアップグレードするには、アプリケーションのホームページにある [新しいバージョンをご利用いただけます] のリンクをクリックして、ウィザードの指示に従います。アプリケーションをアップグレードすると、カスタマイズは削除されます。

Revenue Operations Sales Manager 組み込みダッシュボードでどこからでも成立率の向上

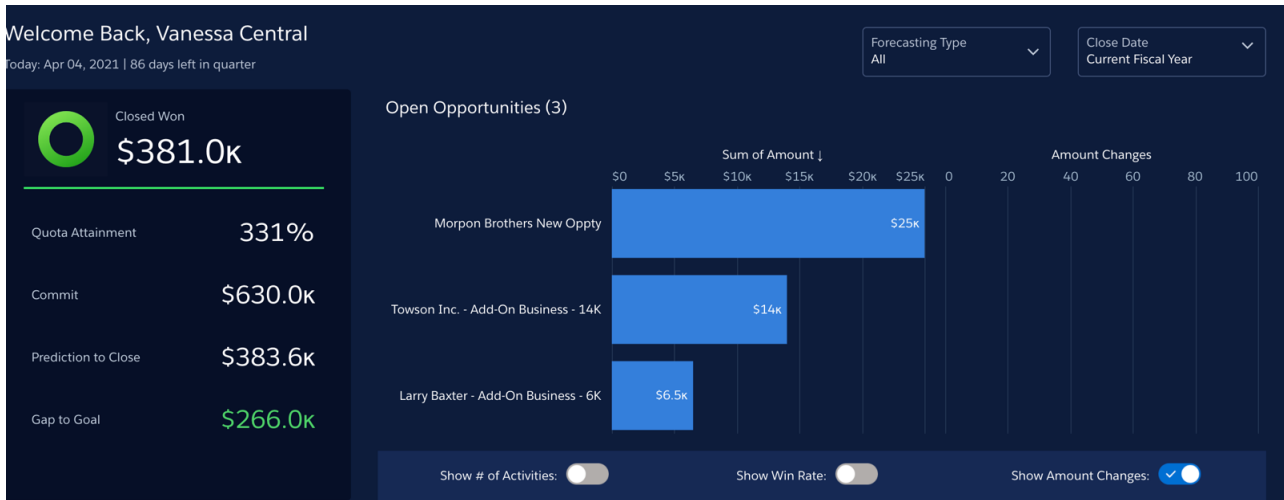
営業マネージャは、目標とのギャップ、進行中の商談、四半期の予測売上を一目で確認できるようにしたいと考えていることと思います。すべての関連統計を1か所で参照できる新しい Revenue Operations Sales Manager 組み込みダッシュボードを確認してください。このダッシュボードを最も便利な場所に埋め込んでください。以前のリリースでは、Analytics Studio からダッシュボードにアクセスし、重要な情報を見つけるのに数か所を確認していました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 新しい Sales Manager ダッシュボードを任意の Salesforce エクスペリエンスに埋め込み、営業チームの商談のグラフやデータを表示します。

ダッシュボードを埋め込む手順については、Salesforce ヘルプの「[Lightning ページへの Tableau CRM ダッシュボードの埋め込み](#)」を参照してください。

既存の Revenue Operations Analytics アプリケーションがある場合、アップグレードすると新しい機能が表示されます。アプリケーションをアップグレードするには、アプリケーションのホームページにある [新しいバージョンをご利用いただけます] のリンクをクリックして、ウィザードの指示に従います。アプリケーションをアップグレードすると、カスタマイズは削除されます。



Analytics アプリケーションの構築

AnalyticsStudio では、ダッシュボード間でウィジェットをコピーして貼り付けることでダッシュボードを迅速に作成し、拡張されたテキスト書式設定を使用してダッシュボードにスタイルを追加することができます。また、アプリケーションテンプレートを作成する際に開発者ツールをスキップすることもできます。

このセクションの内容:

ダッシュボード間でのウィジェットのコピー & ペーストを使用した生産性の大幅な向上

従来よりもさらに簡単にダッシュボードの作成と管理ができるようになりました。テキストやグラフなどのウィジェットをコピーして、別のダッシュボードに貼り付けた場合でも、元のウィジェットの配置、スタイル設定、クエリを維持することができます。同じダッシュボード内でウィジェットを複製することに慣れていれば、それと同じように複製できます。

拡張されたテキスト書式設定を使用したダッシュボードインサイトへの豊かな表現の追加

あなたのスタイルを見せてください! カスタム色、斜体、太字、サイズ、などをダッシュボードテキストに適用します。これは、重要なデータを強調し、ダッシュボードを見やすくして、説得力のあるデータストーリーを伝えるための適切な方法です。

Tableau CRM Analytics Studio でのテンプレートの直接的な作成および管理

数回のクリックでアプリケーションテンプレートを作成したいですか? このような場合、システム管理者ユーザが Analytics Studio から直接アプリケーションテンプレートを作成して管理できるようになりました。これまで、開発者は SFDX CLI または Workbench を使用してアプリケーションからテンプレートを作成、更新、削除していました。

Tableau CRM Direct Data での SQL の使用 (正式リリース)

Snowflake データに関する分析を拡張して、より多くのインサイトを発見するために、ライブデータセットに対して Structured Query Language (SQL) クエリを実行できるようになりました。SQL クエリを記述して、一般的なビジネスケース(コストと収益の比率など)を計算したり、高度な並び替えをデータに適用したり、ウィンドウ関数の数式を操作したりします。現在、正式リリースされているこの機能は、リンクウィジェット、SQL ステップのファセットの受信、および SQL クエリへの複数のデータベースの追加に対応しています。

気軽なカスタムタイムゾーンの試用 (ベータ)

データのタイムゾーンの変更がより簡単になりました。単一カスタムタイムゾーンを使用すると、カスタムタイムゾーンに切り替えたり、GMTに戻したりすることができるようになりました。カスタムタイムゾーンを含むダッシュボードを作成すると、カスタムタイムゾーンのみを使用するデータセットも表示されます。

ブレンドされたデータの追加の列オプションとウィンドウ関数の取得

複数のデータセットに関連する適切な情報に焦点を合わせることがさらに簡単になりました。データがブレンドされたクエリに列の条件を追加したり、Boolean ロジックを適用したりすることができます。ブレンドされたデータを分析する時間を節約するには、必要な列をコピーして修正します。また、ブレンドされたデータでウィンドウ関数を使用できるようになったため、さまざまなデータセットのデータを使用して、売上上の移動平均などの経営比率を計算できます。

比較テーブルでの Direct Data の機能紹介

Tableau CRM Direct Data for Snowflake の比較テーブルモードで、Snowflake データの表示と操作が行えるようになりました。列のスクロール、計算列の作成、および列の条件と条件ロジックの適用が簡単にでき、Snowflake に存在するデータからビジネスインサイトを導き出すことができます。

セマンティック検索を使用した項目によるダッシュボードとデータセットの検索

キーワードの完全一致以外にも Tableau CRM アセットを見つけることができます。セマンティック検索は、組織のデータ全体のオブジェクト項目やデータセット列のバックグラウンドビューを使用して検索を向上させます。特定の sObject またはデータセット項目を使用してダッシュボードを表示したり、特定の sObject 項目を含むデータセットを要求したりできます。セマンティック検索はすべてのデータを調べますが、検索結果はユーザのアクセス権、共有ルール、行レベルセキュリティに準拠してカスタマイズされます。

SQL および SAQL の新機能

グループ化された結果を絞り込んだり、SQL の HAVING と LIKE 関数を使用して文字列のパターンを検索したりすることができます。また、複数値項目がオプトインされ、SAQL で null ディメンションが無視されなくなりました。

ディメンションおよび日付の null 値の機能強化 (ベータ)

より簡単に null 値のレコードをデータセットで使用できるようになりました。レコードのディメンションまたは日付項目が空白のままになっている場合、エクスプローラやダッシュボードデザイナーのグラフおよびテーブルにハイフンとして表示されます。以前は、データセットに null 値を含めるために、アスタリスクなどのデフォルト値を割り当てていました。

アクセシビリティが向上したダッシュボードの使用

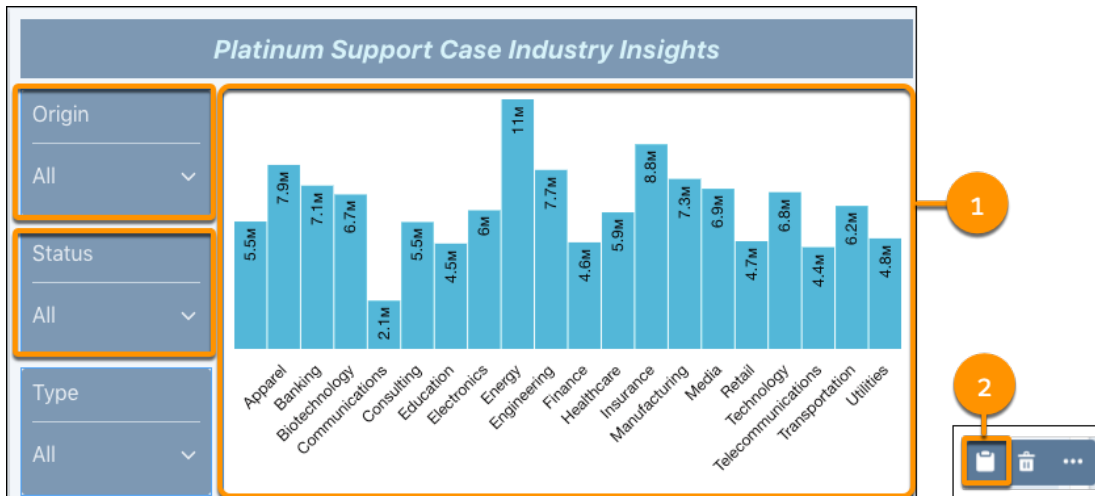
補助テキスト、キーボードコントロール、色のコントラストなどアクセシビリティが向上したダッシュボードでナビゲーションと操作を行います。たとえば、保存済みビューの管理、ボタンとアラートの操作、ウィジェットのツールチップの使用などがより簡単に実行できます。

ダッシュボード間でのウィジェットのコピー & ペーストを使用した生産性の大幅な向上

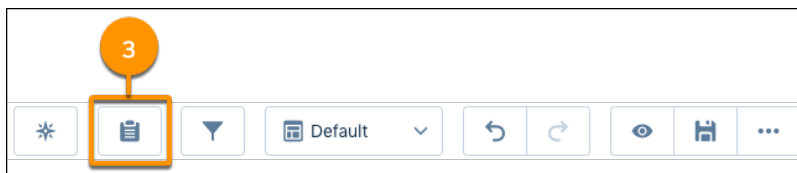
従来よりもさらに簡単にダッシュボードの作成と管理ができるようになりました。テキストやグラフなどのウィジェットをコピーして、別のダッシュボードに貼り付けた場合でも、元のウィジェットの配置、スタイル設定、クエリを維持することができます。同じダッシュボード内でウィジェットを複製することに慣れていれば、それと同じように複製できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: あるダッシュボードから別のダッシュボードにウィジェットをコピーして貼り付けるには、最初にウィジェットを選択します。1つ以上のウィジェットをコピーして貼り付けることができます。複数のウィジェットを選択するには、CtrlまたはCmdを使用します(1)。ウィジェットをコピーするには、Ctrl+CキーまたはCmd+Cキーを使用するか、コピーアイコン(2)をクリックします。



ウィジェットを同じダッシュボードまたは別のダッシュボードに貼り付けます。貼り付けるには、Ctrl+V キーまたはCmd+V キーを使用するか、貼り付けアイコン(3)をクリックします。貼り付けられたウィジェットは、元のレイアウト、スタイル設定、ソースクエリを維持します。既存のウィジェットがあるダッシュボードにウィジェットを貼り付けると、貼り付けたウィジェットはダッシュボードの使用可能な領域に配置されます。



関連トピック:

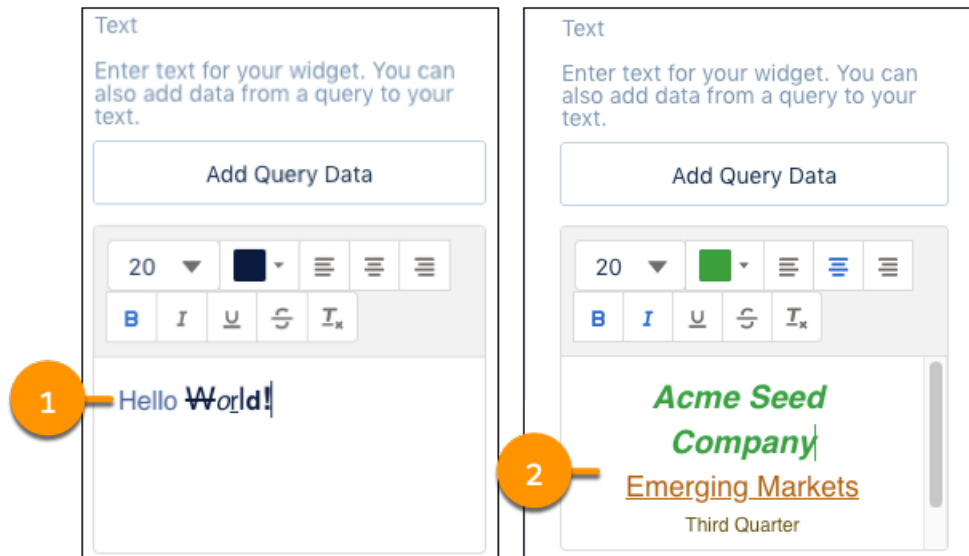
[Salesforce ヘルプ: Copy and Paste Widgets Across Dashboards \(ダッシュボード間でのウィジェットのコピーと貼り付け\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

拡張されたテキスト書式設定を使用したダッシュボードインサイトへの豊かな表現の追加

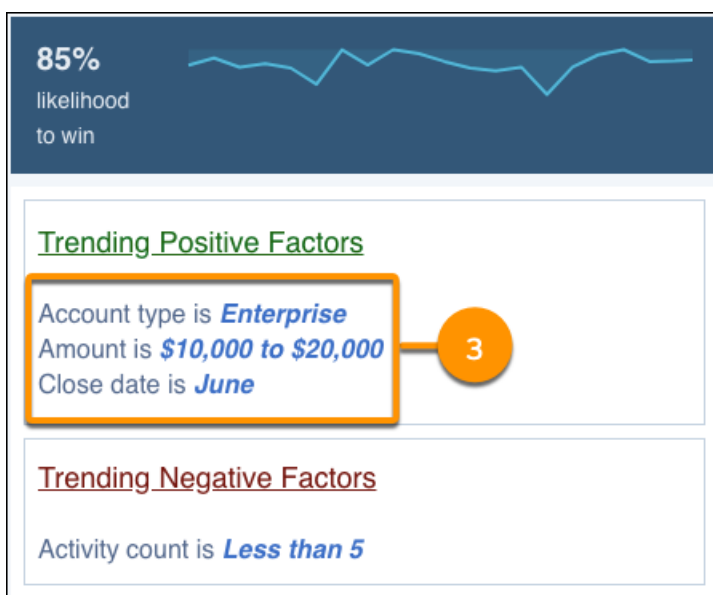
あなたのスタイルを見せてください! カスタム色、斜体、太字、サイズ、などをダッシュボードテキストに適用します。これは、重要なデータを強調し、ダッシュボードを見やすくして、説得力のあるデータストーリーを伝えるための適切な方法です。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

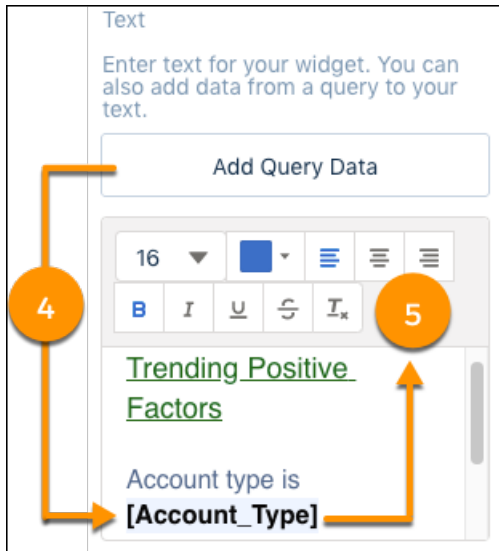
方法: テキストは、ユーザがダッシュボード内のデータを理解するのに役立ちます。テキストウィジェットの拡張された書式設定を使用して、テキストをさまざまな方法でデータのメッセージに一致させることができます。文字サイズを調整し、太字、斜体、下線、取り消し線の書式を単語や個々の文字に適用します (1)。標準色を使用するか、創造力を発揮してカスタマイズします。たとえば、カスタム色を使用して AcmeSeed Company のブランドに一致させます (2)。



クエリベースのテキストを含め、何が重要であるかを強調します。たとえば、データ (取引先種別、収益の範囲、完了予定日など) の値に応じて変化する動的テキストを書式設定します (3)。



クエリデータに基づくテキストを書式設定するには、まずクエリ項目を選択して追加します。たとえば、`[Account_Type]` 項目を追加します (4)。次に、テキストを強調表示して書式設定します (5)。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Enrich Your Data with Dashboard Text \(ダッシュボードテキストによるデータの強化\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: 条件付き書式を使用したデータの自動強調表示](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Tableau CRM Analytics Studio でのテンプレートの直接的な作成および管理

数回のクリックでアプリケーションテンプレートを作成したいですか? このような場合、システム管理者ユーザが Analytics Studio から直接アプリケーションテンプレートを作成して管理できるようになりました。これまで、開発者は SFDX CLI または Workbench を使用してアプリケーションからテンプレートを作成、更新、削除していました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ダッシュボード、レンズ、データセット、データフローなどのアセットで構成される Tableau CRM アプリケーションを作成します。アプリケーションをテンプレート化する準備が整ったら、Tableau CRM Analytics Studio でアプリケーションを開き、[作成] をクリックして、[テンプレート] を選択します。

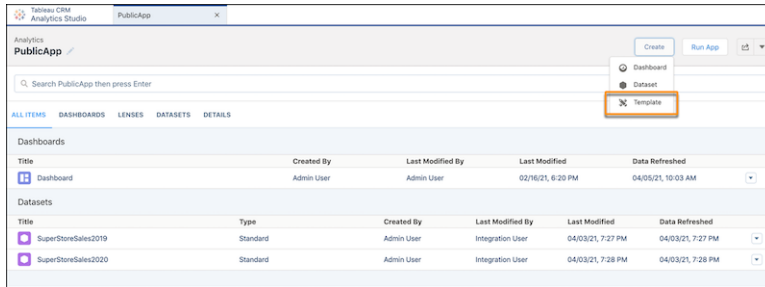


Tableau CRM フレームワークでは、事前作成済み Tableau CRM アプリケーションと同様に、カスタマイズして他の組織に配布可能な基本テンプレートをアプリケーションから作成できます。Analytics Studio のホームページで、[すべての項目] をクリックして、[テンプレート] タブを使用すると、テンプレートの更新、テンプレートと提供元アプリケーションの分離、およびテンプレートの削除を行えます。ウィザードの質問と実行時のルールを追加する場合は、テンプレートのカスタマイズが必要です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Tableau CRM テンプレートを使用した Tableau CRM アプリケーションの配布テンプレート \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 事前作成済み Tableau CRM アプリケーションのリリース \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Tableau CRM Direct Data での SQL の使用 (正式リリース)

Snowflake データに関する分析を拡張して、より多くのインサイトを発見するために、ライブデータセットに対して Structured Query Language (SQL) クエリを実行できるようになりました。SQL クエリを記述して、一般的なビジネスケース(コストと収益の比率など)を計算したり、高度な並び替えをデータに適用したり、ウィンドウ関数の数式を操作したりします。現在、正式リリースされているこの機能は、リンクウィジェット、SQL ステップのファセットの受信、および SQL クエリへの複数のデータベースの追加に対応しています。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: SQL for Tableau CRM Direct Data を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「Analytics」と入力し、[設定] を選択します。[SQL 設定] セクションで、[ライブデータセットの SQL を有効化] を選択して、変更内容を保存します。

ライブデータセットの SQL クエリを作成するには、Tableau CRM Analytics Studio で、データセットを開き、[クエリモード] をクリックします (1)。クエリに別のデータセットを含めるには、そのデータセットを追加します (2)。SQL クエリを編集し、[クエリを実行] をクリックして検証します (3)。ダッシュボードにクエリを追加するには、ダッシュボードにクエリレンズをクリップします (4)。

New Lens

Save

4

1

2

3

Query

```
1 SELECT "O_ORDERSTATUS" AS "O_ORDERSTATUS", SUM("O_TOTALPRICE") AS
"A" FROM "myns_stmfa_ORDERS" WHERE "O_ORDERPRIORITY" IS NOT NULL
AND "O_TOTALPRICE" BETWEEN 300000 AND 600000 GROUP BY
"O_ORDERSTATUS" ORDER BY "O_ORDERSTATUS" ASC LIMIT 250
```

O_ORDERSTATUS	A
F	13,814,335,687,611.22
O	13,811,826,198,571.96
P	1,063,217,878,517.67

気軽なカスタムタイムゾーンの試用 (ベータ)

データのタイムゾーンの変更がより簡単になりました。単一カスタムタイムゾーンを使用すると、カスタムタイムゾーンに切り替えたり、GMTに戻したりすることができるようになりました。カスタムタイムゾーンを含むダッシュボードを作成すると、カスタムタイムゾーンのみを使用するデータセットも表示されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: 単一カスタムタイムゾーンはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。単一カスタムタイムゾーンに関するフィードバックや提案は、[Trailblazer Community](#) からお寄せください。

方法: [Analytics の設定] で単一カスタムタイムゾーンを無効にします (ベータ)。

Time Zone Support (Beta)

Enable Tableau CRM Custom Time Zone Support

Org Supported Time Zone (GMT-07:00) Pacific Daylight Time (America/Los_Angeles)

Internal Time Zone
Greenwich Mean Time (GMT)

Default Dashboard Time Zone (GMT-07:00) Pacific Daylight Time (America/Los_Angeles)

Enable new date version for dashboard or lens

重要: データを GMT に戻すには、すべての接続、レシピ、およびデータフローのデータ同期を手動で実行します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: カスタムタイムゾーン値の処理 \(ベータ\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

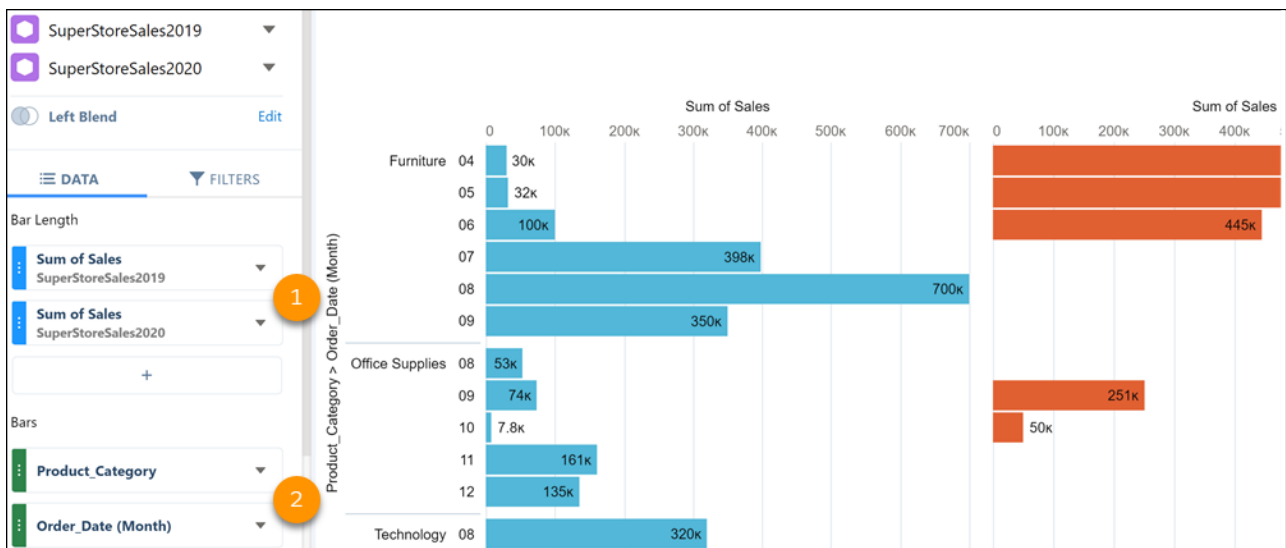
[Salesforce ヘルプ: 単一カスタムタイムゾーンのサポートの有効化 \(ベータ\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ブレンドされたデータの追加の列オプションとウィンドウ関数の取得

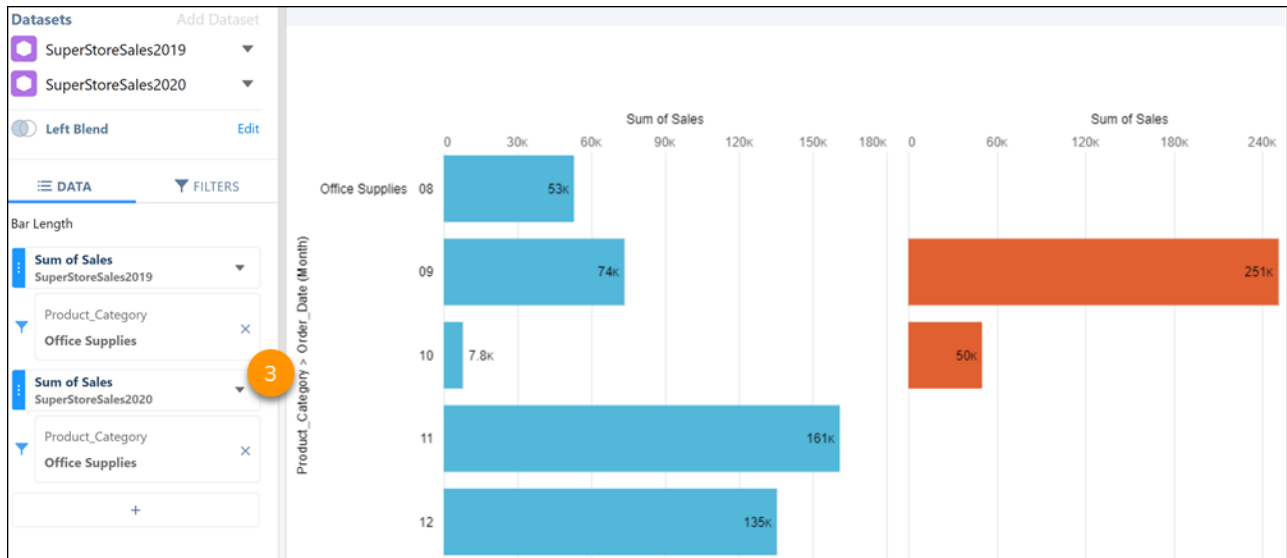
複数のデータセットに関連する適切な情報に焦点を合わせることがさらに簡単になりました。データがブレンドされたクエリに列の条件を追加したり、Boolean ロジックを適用したりすることができます。ブレンドされたデータを分析する時間を節約するには、必要な列をコピーして修正します。また、ブレンドされたデータでウィンドウ関数を使用できるようになったため、さまざまなデータセットのデータを使用して、売上の移動平均などの経営比率を計算できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 事務用品の売上について、連続する 2 年間の累計値を月ごとに比較したいとします。2 年間の売上データを含むレンズに、各年の [Sum of Sales (売上合計)] を追加します (1)。次に、商品カテゴリと注文日でデータをグループ化します (2)。



事務用品のみの売上を表示する検索条件を追加します (3)。



新しい列で、[新規カスタム集計項目を追加]をクリックします (4)。

The 'Select a measure' dialog shows the following fields available for aggregation:

Aggregation Function	Field Name	Table Name
SUM	Product_Base_Margin	SuperStoreSales2019
SUM	Sales	SuperStoreSales2019
SUM	Product_Base_Margin	SuperStoreSales2020
SUM	Sales	SuperStoreSales2020

1年目の月次累計値を計算します (5)。

		A	B	C
Product_Category ↑	Order_Date (Month) ↑	Sum of Sales	Sum of Sales	Count of Rows
Office Supplies	01	-	6,500	0
	02	-	2,000	0
	04	-	46,000	0
	05	-	19,000	0
	06	-	46,000	0
	07	-	4,500	0
	08	52,950	-	0
	09	73,500	251,000	14
	10	7,800	50,000	13
	11	160,960	-	0
	12	135,450	-	0

完了したら、列をコピーして、2年目の月次累計値を表示するように変更します (6)。

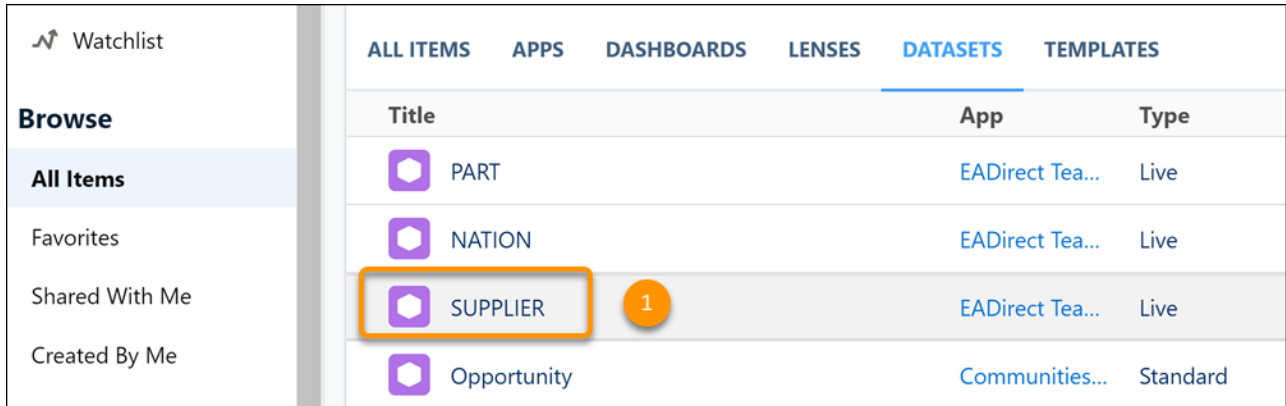
Month	Sum of Sales (Column 1)	Sum of Sales (Column 2)
08	53k	
09	74k	251k
10	7.8k	50k
11	161k	

比較テーブルでの Direct Data の機能紹介

Tableau CRM Direct Data for Snowflake の比較テーブルモードで、Snowflake データの表示と操作が行えるようになりました。列のスクロール、計算列の作成、および列の条件と条件ロジックの適用が簡単にでき、Snowflake に存在するデータからビジネスインサイトを導き出すことができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 比較テーブルモードで Snowflake データを詳細に調べるには、Tableau CRM Studio の Snowflake オブジェクトに関連付けられているライブデータセットを開きます (1)。



Watchlist			
Browse			
ALL ITEMS APPS DASHBOARDS LENSES DATASETS TEMPLATES			
Title	App	Type	
PART	EADirect Tea...	Live	
NATION	EADirect Tea...	Live	
SUPPLIER	EADirect Tea...	Live	1
Opportunity	Communities...	Standard	

エクスプローラのレンズで、[テーブルモード] アイコン (2) をクリックします。[比較テーブル] (3) を選択します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 比較テーブル列の操作](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: 比較テーブルで使用できるウィンドウ関数](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セマンティック検索を使用した項目によるダッシュボードとデータセットの検索

キーワードの完全一致以外にも Tableau CRM アセットを見つけることができます。セマンティック検索は、組織のデータ全体のオブジェクト項目やデータセット列のバックグラウンドビューを使用して検索を向上させます。特定の sObject またはデータセット項目を使用してダッシュボードを表示したり、特定の sObject 項目を含むデータセットを要求したりできます。セマンティック検索はすべてのデータを調べますが、検索結果はユーザーのアクセス権、共有ルール、行レベルセキュリティに準拠してカスタマイズされます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:セマンティック検索を開始するには、ホームページの検索バーで次の構文を使用します。

```
targetAssetType sourceAssetType:fieldName1,fieldName2
```

`targetAssetType` には `dashboard` または `dataset` を指定できます。`sourceAssetType` には、`object-field` または `dataset-field` を指定できます。`fieldName` は項目の `developerName` である必要があります。以下に例を示します。

- `activity.ActivityName` sObject 項目を使用してダッシュボードをリストするには、`dashboard object-field:activity.ActivityName` と入力します。
- `Opportunity.Amount` データセット項目を使用してダッシュボードをリストするには、`dashboard dataset-field:Opportunity.Amount` と入力します。
- `case.CaseNumber` sObject 項目を含むデータセットをリストするには、`dataset object-field:case.CaseNumber` と入力します。

The screenshot shows the Tableau CRM Analytics interface. On the left is a navigation sidebar with sections: Analytics (Home, Notifications, Subscriptions, Watchlist), Browse (All Items, Favorites, Shared With Me, Created By Me), and Collections (Joey's Collection, Sumit's sharing ...). The main content area displays a search bar with the query 'dataset object-field:case.CaseNumber'. Below the search bar, the 'Your Results' section shows 'Data Match (3)' and 'Search Results (0)'. A table lists the results:

Title	Type	App	Created By
ServiceCase	Dataset		
ServiceCaseHistory	Dataset		
Cases	Dataset		

SQL および SAQL の新機能

グループ化された結果を絞り込んだり、SQL の `HAVING` と `LIKE` 関数を使用して文字列のパターンを検索したりすることができます。また、複数值項目がオプトインされ、SAQL で `null` ディメンションが無視されなくなりました。

このセクションの内容:

SQL for Tableau CRM の概要 (ベータ)

SQL for Tableau CRM は Tableau CRM に対してクエリを実行できるクエリ言語です。Structured Query Language (SQL) は通常、リレーショナルデータベースに保存されているデータを操作するために使用されます。Tableau CRM は、ANSI SQL インターフェースを使用して Tableau CRM の高速メモリ内データストアにアクセスします。共有継承やカスタム会計年度カレンダーなど、Tableau CRM で使用される Salesforce 機能をネイティブにサポートします。このリリースでは、リンクウィジェット、ファセットの受信、SQL クエリへの複数データセット追加に対するサポートが追加されました。

SQL の HAVING 関数を使用したグループ化されたクエリ結果の絞り込み

SQL for Tableau CRM (ベータ) の HAVING 関数を使用して、グループ化列、集計関数 (sum () や count () など)、およびグルーピング関数 GROUP BY ROLLUP のグループ化された結果を絞り込むことができます。

SQL の LIKE 演算子を使用したパターンマッチングの調整

SQL for Tableau CRM (ベータ) の LIKE 比較演算子を使用すると、文字列の任意の場所にあるパターンを照合できます。

クエリ結果での複数值項目のオプション

SAQL の mv_to_string () 関数は、以前はデフォルトで複数值項目を返していました。複数值項目にインデックス付けすると、データフローが遅くなる可能性があるため、デフォルトで無効にし、有効化するオプションを追加しました。

ディメンションの null 処理によるクエリ精度の向上 (ベータ)

データセットに null ディメンションを含めることができるようになりました。この機能は、メジャーの null 処理の設定とは異なります。以前は、SAQL クエリは null 以外の値のみに制限されていました。

SQL for Tableau CRM の概要 (ベータ)

SQL for Tableau CRM は Tableau CRM に対してクエリを実行できるクエリ言語です。Structured Query Language (SQL) は通常、リレーショナルデータベースに保存されているデータを操作するために使用されます。Tableau CRM は、ANSI SQL インターフェースを使用して Tableau CRM の高速メモリ内データストアにアクセスします。共有継承やカスタム会計年度カレンダーなど、Tableau CRM で使用される Salesforce 機能をネイティブにサポートします。このリリースでは、リンクウィジェット、ファセットの受信、SQL クエリへの複数データセット追加に対するサポートが追加されました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

- ☑ **メモ:** SQL for Tableau CRM はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約

はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、[Trailblazer Community](#) に投稿してください。

理由: SQL for Tableau CRM では、以下の標準 SQL 機能がサポートされます。

- SELECT
- FROM
- WHERE
- GROUP BY
- GROUPING
- ROLLUP
- HAVING
- ORDER BY
- LIMIT
- OFFSET
- UNION
- CASE ステートメント
- COALESCE
- NULLIF

 **メモ:** これらの機能では、ANSI SQL でカバーされるケースのすべてはサポートされていません。詳細は、『SQL for Tableau CRM Developer Guide (SQL for Tableau CRM 開発者ガイド)』で各ステートメントを参照してください。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Analytics*」と入力し、[設定] を選択します。クエリ API で SQL を使用する場合は、[クエリ API で Tableau CRM データセットの SQL を有効化 (ベータ)] を選択します。エクスプローラで SQL を使用する場合は、[エクスプローラで Tableau CRM データセットの SQL を有効化 (ベータ)] も選択します。

関連トピック:

[SQL for Tableau CRM Developer Guide: Introducing SQL for Tableau CRM \(Beta\)](#) (SQL for Tableau CRM 開発者ガイド: SQL for Tableau CRM の概要(ベータ))(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

SQL の HAVING 関数を使用したグループ化されたクエリ結果の絞り込み

SQL for Tableau CRM (ベータ) の HAVING 関数を使用して、グループ化列、集計関数 (sum() や count() など)、およびグルーピング関数 GROUP BY ROLLUP のグループ化された結果を絞り込むことができます。

対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM で使用できます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 集計関数 count() で HAVING 句を使用する例を次に示します。このクエリは、各カテゴリで店舗数が 150 を超える都市のグループを返します。HAVING 句は 150 より大きい計数を返します。

```
SELECT Category, City, count(*) as cnt FROM "Superstore"
GROUP BY Category, City HAVING count(*) > 150
```

Category	City	cnt
Furniture	Los Angeles	154
	New York City	192

Category	City	cnt
Office Supplies	Houston	231
	Los Angeles	443
	New York City	552
	Philadelphia	312
	San Francisco	322
	Seattle	249
Technology	New York City	171

GROUP BY ROLLUP で HAVING を使用する方法の簡単な例を次に示します。このクエリは、各 Sub-Category の利益を返し、次に各 Category の小計に積み上げ集計し、最後にそれらを合計して総計を出します。この場合、HAVING は利益で絞り込みます。

```
SELECT Category, Sub_Category, Sum(Profit) as TotalProfit FROM "Superstore" GROUP BY ROLLUP (Category, Sub_Category) HAVING Sum(Profit) > 0;
```

Category	Sub-Category	TotalProfit	
Furniture	Chairs	26,590.17	
	Furnishings	13,059.14	
	-	18,451.27	
	Office Supplies	Appliances	18,138.01
Office Supplies	Art	6,527.79	
	Binders	30,221.76	
	Envelopes	6,964.18	
	Fasteners	949.52	
	Labels	5,546.25	
	Paper	34,053.57	
	Storage	21,278.83	
	-	122,490.8	
	Technology	Accessories	41,936.64
		Copiers	55,617.82
Machines		3,384.76	
Phones		44,515.73	
-		145,454.95	

Category	Sub-Category	TotalProfit
-	-	286,397.02

HAVING と WHERE は、目的の異なる絞り込み機能を提供します。SELECT ステートメントの論理実行では、WHERE はグルーピングまたは集計関数を実行する前に行を除外し、集計関数に渡すことができる行を選択します。WHERE は GROUP BY ステートメントの前になります。HAVING は必ず集計関数またはグループ化列で使用され、GROUP BY ステートメントの後になります。

関連トピック:

[SQL for Tableau CRM Developer Guide: HAVING Clause \(SQL for Tableau CRM 開発者ガイド: HAVING 句\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

SQL の LIKE 演算子を使用したパターンマッチングの調整

SQL for Tableau CRM (ベータ) の LIKE 比較演算子を使用すると、文字列の任意の場所にあるパターンを照合できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 文字列の 1 文字を照合するには、アンダースコア () を含めます。たとえば、_b_ は、任意の 1 文字、「b」、別の任意の 1 文字がこの順番で含まれる文字列と一致します。_1b は、任意の 1 文字、「1b」がこの順番で含まれる文字列と一致します。0 文字以上のシーケンスを照合するには、パーセント記号 (%) を使用します。文字列の任意の場所にあるシーケンスを照合するには、パターンの先頭と末尾をパーセント記号にする必要があります。

パターンのアンダースコアまたはパーセントのリテラル文字を照合するには、パターン文字列をバックスラッシュ (\) でエスケープする必要があります。

いくつかの例を見てみましょう。

この例では、顧客名の文字列に「ni」という文字が含まれているかどうかを確認します。文字列に「ni」が含まれている場合、条件は True に評価され、クエリでその名前が返されます。

```
SELECT Customer_Name as 'name'
FROM "Superstore"
WHERE Customer_Name LIKE "%ni%";
GROUP BY Customer_Name;
LIMIT 5;
```

name

Annie Thurman

Annie Zypern

Benjamin Venier

Berenike Kampe

name

Chad Cunningham

次のクエリでは、任意の1文字、パターン「lb」、0文字以上がこの順番で含まれる都市名が返されます。

```
SELECT City as 'city'
FROM "Superstore"
WHERE City LIKE "_lb%";
GROUP BY City;
```

city

Albuquerque

1つのアンダースコアが使用されているため、クエリでは Albuquerque が返されます。パターンの前に2つのアンダースコアがある場合、クエリではパターン「lb」の前に2文字がある結果が返されます。

```
SELECT City as 'city'
FROM "Superstore"
WHERE City LIKE "__lb%";
GROUP BY City;
```

city

Gilbert

Melbourne

パターンに一致するクエリ結果を除外するには、NOTを使用します。このクエリは、データセットにある「po」を含まない最初の5つの顧客名を返します。

```
SELECT Customer_Name as 'name'
FROM "Superstore"
WHERE Customer_Name NOT LIKE "%po%"
GROUP BY Customer_Name;
LIMIT 5;
```

name

Aaron Davies Bruce

Aaron Day

Aaron Dillon

Aaron Fuller Davidson

name
Aaron Riggs

関連トピック:

[SQL for Tableau CRM Developer Guide: LIKE Clause \(SQL for Tableau CRM 開発者ガイド: LIKE 句\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

クエリ結果での複数値項目のオプトイン

SAQL の `mv_to_string()` 関数は、以前はデフォルトで複数値項目を返していました。複数値項目にインデックス付けすると、データフローが遅くなる可能性があるため、デフォルトで無効にし、有効化するオプションを追加しました。

対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM で使用できます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Analytics*」と入力して [設定] を選択し、[Enable indexing of multivalue fields in Tableau CRM (Tableau CRM での複数値項目のインデックス付けを有効化)] を選択します。

Inherit sharing from Salesforce [i](#)

Before you enable this setting, read the limitations in [Salesforce Sharing Inheritance for Datasets](#)

Use priority scheduling for recipe and dataflow requests

Secure image sharing and downloading [i](#)

Maximum number of hours an app can be in progress:

Enable indexing of multivalue fields in Tableau CRM. [i](#)

Disable Recipe Input Dataset Caching [i](#)

Show all values in a multivalue field in alphabetical order returned by the `mv_to_string()` function. Otherwise, `mv_to_string()` shows only the first value in alphabetical order.

関連トピック:

[Tableau CRM SAQL リファレンス: mv_to_string\(\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Tableau CRM SAQL リファレンス: 複数値項目](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ディメンションの null 処理によるクエリ精度の向上 (ベータ)

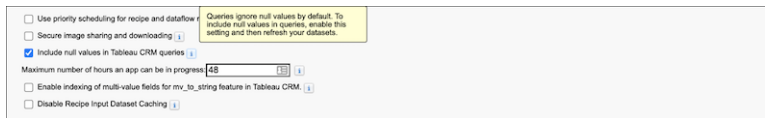
データセットに null ディメンションを含めることができるようになりました。この機能は、メジャーの null 処理の設定とは異なります。以前は、SAQL クエリは null 以外の値のみに制限されていました。

対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM で使用できます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: ディメンションの null 処理の設定はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。

Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関する義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。ディメンションのnull処理の設定に関するフィードバックや提案は、[Trailblazer Community](#) に投稿してください。

方法:ディメンションのnull処理の設定を有効にするには、Salesforceカスタマーサポートにご連絡ください。
[設定]から、[クイック検索]ボックスに「Analytics」と入力して[設定]を選択し、[Tableau CRM クエリにnullディメンション値を含める]を選択します。



次に、null処理設定が有効になっている場合のSAQL group-by関数の使用例を示します。

```
q = load "Superstore";
q = group q by 'Sub_Category';
q = foreach q generate 'Sub_Category' as 'Sub_Category', count() as 'count';
q = order q by 'Sub_Category' asc nulls first;
q = limit q 2000;
```

クエリが返す最初の値は、4つのnull行がグループ化された計数です。

Sub-Category	行数
-	4
Accessories	775
Appliances	466
Art	796
Binders	1,523
Bookcases	228
Chairs	617
Copiers	68
Envelopes	254
Fasteners	217
Furnishings	957
Labels	364
Machines	115
Paper	1,370
Phones	889

Sub-Category	行数
Storage	846
Supplies	190
Tables	319

関連トピック:

[Tableau CRM SAQL リファレンス: null 演算子](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)


[Tableau CRM SAQL リファレンス: group-by](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Tableau CRM SAQL リファレンス: group-by rollup](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ディメンションおよび日付の null 値の機能強化 (ベータ)

より簡単に null 値のレコードをデータセットで使用できるようになりました。レコードのディメンションまたは日付項目が空白のままになっている場合、エクスプローラやダッシュボードデザイナーのグラフおよびテーブルにハイフンとして表示されます。以前は、データセットに null 値を含めるために、アスタリスクなどのデフォルト値を割り当てていました。

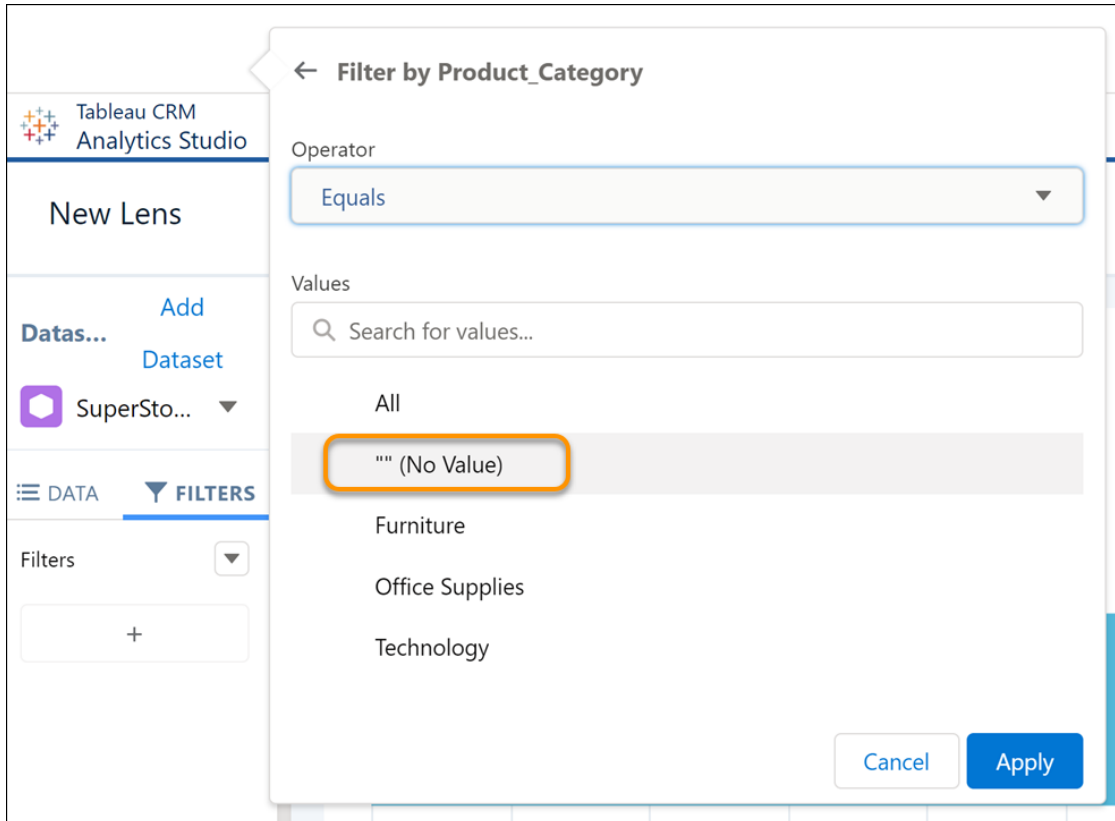
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

 **メモ:** Tableau CRM Direct Data のディメンションと日付に null 値を含める機能は、ベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、[Trailblazer Community](#) に投稿してください。

理由: 商品カテゴリが欠落しているセールスレコードを分析する必要があるとします。この項目を null 値で絞り込むと、目的のデータをより簡単に確認できます。また、null 値をグループ化、絞り込み、インタラクションを作成、および条件付き書式を適用したり、null グループ化をドリルダウンしたりすることもできます。ダッシュボードでは、null または null でない演算子を使用して、クエリをファセットし、グローバル検索条件を適用できます。

方法: null 処理の設定を有効にするには、Salesforce カスタマーサポートにご連絡ください。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「Analytics」と入力し、[設定] を選択します。[Tableau CRM クエリに null ディメンション値を含める] を選択して、設定を保存します。

null 値でディメンションを絞り込むには、検索条件パネルの値のリストから ["" (値なし)] を選択するか、[null] 演算子を使用します。null 値で日付を絞り込むには、[null] 演算子を選択します。



メモ: ダッシュボードでは、日付ウィジェットでの null および null でない演算子はサポートされていません。

アクセシビリティが向上したダッシュボードの使用

補助テキスト、キーボードコントロール、色のコントラストなどアクセシビリティが向上したダッシュボードでナビゲーションと操作を行います。たとえば、保存済みビューの管理、ボタンとアラートの操作、ウィジェットのツールチップの使用などがより簡単に実行できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ウィジェットをナビゲートする際に、追加されたコンテキストのツールチップを使用します。ツールチップをサポートしているウィジェットでツールチップを有効にするには、タブでウィジェットに移動します。[アクセシビリティナビゲーションを有効化する] ボタンが強調表示されます。Enter キーを押して、ウィジェットのツールチップを有効にします。

Count of Rows	Measure	#	Opportunity Name	Product Description	Product Name	Op
50	Count of Rows	1	Opportunity for Love [1247]	-	Courses	Gr
67	Count of Rows	2	Opportunity for Love [1247]	-	Light laptop	Gr
	Count of Rows	3	Opportunity for Park [1444]	-	-	Alt

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Tableau CRM ダッシュボードおよびレンズを作成するためのキーボードショートカット \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Einstein Discovery

レポート用 Einstein Discovery (旧称 Einstein データインサイト) を使用すると、レポート実行間でデータ分析の何が変更されたかを確認できます。モデルカードを使用して予測の透過性を高め、予測に関する重要な利用状況情報を文書化したり、伝えたりすることができます。あいまい一致によるカテゴリのバケット化と欠損値の代入を可能にする強化された機能エンジニアリングを使用して、より優れたモデルを作成できます。

このセクションの内容:

レポート用 Einstein Discovery を使用したレポートバージョンの比較およびインサイトの探索

レポート用 Einstein Discovery (旧称 Einstein データインサイト) を使用すると、レポート実行間でデータ分析の何が変更されたかをすぐに確認できます。Einstein によって変更の影響が集計されます。また、データにドリルダウンして詳細を横に並べて比較できます。インサイトの機能強化には、分析概要パネル、統計上重要なインサイトへの自動絞り込み、分析された列への影響の種別 (肯定的な影響または否定的な影響) による絞り込みなどがあります。

モデルカードによる予測の透過性の向上 (正式リリース)

Einstein Discovery には、予測に関する重要な利用状況情報を文書化したり、伝えたりするためのモデルカードが導入されています。モデルカードには、モデルのトレーニングに使用されるデータに関連付けられた統計が表示されます。また、予測の使用目的、設計の前提条件、対象利用者、機能と制限事項、その他の関連情報に関する省略可能な説明を表示することもできます。これらの詳細を開示することで、ユーザは予測を理解し、複数の予測を区別しやすくなります。これにより、予測が各自の使用事例に適しているかどうかについて、情報に基づいて倫理的な意思決定を行うことができます。

モデルパフォーマンスを改善するための欠損値の代入 (正式リリース)

不明なデータや問題のあるデータによる欠損値が多すぎると、モデルの品質が低下する可能性があります。Einstein Discovery で、データセットの数値の欠損値を代入できるようになりました。数値変数の統計的代入を有効にすると、Einstein Discovery は欠損値をデータの別のサブセットから派生する値に自動的に置き換えます。

スペルのあいまい一致を使用した予測の改善 (正式リリース)

Einstein Discovery には、スペルのバリエーションに対処するあいまい一致が導入され、スマートな分類と適切な予測を実現できます。カテゴリデータのスペルのバリエーションにより、実際には同じカテゴリに属している場合でも観測が別のカテゴリに分類されることがあります。大文字小文字の違い、複数形、略語、バリエーション (behavior と behaviour など) により、データをグループ化する方法についてあいまいさが生じます。項目のあいまい一致を有効にすると、Einstein は大文字小文字を無視するため、flavor、Flavor、flavour、flavors などのバリエーションがすべて同じカテゴリに属します。Einstein Discovery は予測時にデータを変換するため、データプレップ中の文字列の整理をスキップできます。

Salesforce 組織での外部モデルの実装 (パイロット)

本番ですばやく使用を開始できる外部で構築されたモデルで予測機能を強化します。Salesforce の外部で作成された TensorFlow または Python モデルをアップロードおよびリリースできるようになりました。データサイエンティストは、お気に入りのモデリングツールを使用して、慎重に作成されたモデルを設計、構築、テスト、調整できます。その後、そのモデルを Salesforce にアップロードしてリリースすると、ユーザはモデルの予測を使用して、より良い結果に向けて作業を開始することができます。

マルチクラスモデルを使用した複数のカテゴリの結果の予測 (パイロット)

Einstein Discovery には、最大 10 個のカテゴリの中で可能性の高い結果を予測できるマルチクラスモデルが導入されています。たとえば、保険会社は 9 個の保険契約のうちどの保険契約を申込人が選択する可能性があるかを予測できます。マルチクラスモデルのサポートにより、3 番目の使用事例が、Einstein Discovery すでにサポートされている数値およびバイナリ分類の使用事例に追加されます。マルチクラスモデルを使用すると、ビジネスのまったく新しい世界のソリューションの予測分析が Einstein Discovery により開始されます。

相対的な開始日を使用した時間ベースの予測の表示

Einstein 予測コンポーネントをカスタマイズすることにより、相対的な開始日を使用して時間ベースの予測を計算できるようになりました。たとえば、成立に 100 日かかると Einstein で予測される商談を作成するとします。デフォルトでは、商談が作成されてから 99 日後であっても、ページに 100 日と表示されます。ただし、相対的な日付である作成日に基づいて予測を行うと、99 日後にはページに 1 日と表示されます。また、予測の表示形式を残り時間: 1 日、または日付: 明日の日付とすることができます。

すべてのリリース済みモデルでの予測要求の監視

モデルマネージャでは、予測項目の選択に関係なく、利用状況の監視グラフにすべてのリリース済みモデルの予測とパフォーマンス警告の合計数が表示されるようになりました。以前は、このグラフには、自動予測項目を使用する Salesforce オブジェクトに関連付けられたモデルの活動統計のみが表示されていました。このリリースでは、モデルマネージャに予測 API 要求の追跡機能が追加されました。また、合計数には、モデルマネージャでは、Einstein Discovery in Tableau、REST API コール、Apex コール、一括スコアリングジョブ、Lightning ページおよび Experience ページに埋め込まれた予測、およびデータプレップレシピの Discovery 予測ノードから実行された予測要求が含まれるようになりました。ビジネス全体におけるモデルの使用状況をより包括的かつ正確に把握すると、モデルを調整して予測を改善できます。

Einstein Discovery のセンチメント分析を使用した非構造化データの価値のあるインサイトへの変換(パイロット)

コメント、アンケートデータ、その他の形式の顧客からのフィードバックには、データセットの中でも最も豊富な情報が含まれていることがよくあります。現在、Einstein Discovery は、ストーリー作成時に非構造化データを処理し、センチメントを肯定的、否定的、どちらでもないに分類しています。たとえば、「秋の新色が気に入った」は肯定的、「映画はまあまあだった」はどちらでもない、「あまりいい経験ではなかった」は否定的に分類されます。Einstein Discovery では、顧客の感情を検出し、この情報をタグ付けして有意義な分析を実施できます。以前は、このようなデータは多くの場合、センチメント分析に時間、予算、専門知識が必要なため、使用できないデータとみなされていました。

インサイト概要パネルを使用したインサイトフルなクイック分析の取得

まず、最も重要なインサイトを確認します。Einstein Discovery でストーリーを開くと、インサイト概要パネルが含まれるようになりました。一方のパネルにはストーリーの結果に肯定的な影響を与える変数、もう一方には否定的な影響を与える変数が示されています。これにより、目的の変数を探ことができ、一次および二次インサイトがこれまで以上に見つけやすくなります。

あらゆる場所での Einstein Discovery ストーリーのインサイトの消費

インサイト API を使用して、ストーリーから取得したインサイトを任意の Web サイト、アプリケーション、またはダッシュボードに埋め込みます。ストーリーとして生成されたインサイトには、選択されたストーリーの目標への影響を数値化した値と、その値の文章による説明が含まれています。インサイト API を使用すると、クライアントアプリケーションで、肯定的および否定的なインサイトの概要を取得して、インサイトの詳細をさらに照会して、独自の説明文にインサイトの値に適用することができます。

ストーリーの絞り込まれたレンズの保持

レンズ検索条件が保持され、時間を節約できるようになりました。絞り込まれたレンズからストーリーを作成する場合、Einstein Discovery ではストーリー設定の検索条件が保持されます。以前は、検索条件が削除され、再度作成する必要がありました。

リリース済みモデルの簡単な置き換え

Einstein Discovery の合理化されたナビゲーションでは、リリースされたモデルをこれまで以上に容易に置き換えることができます。以前にモデルをストーリーからリリースしている場合は、置き換えるモデルが Einstein Discovery により自動的に選択されます。

統合された改善項目の表示および詳細への容易なドリルダウン

Einstein Discovery では、Lightning レコードページと Experience ページの関連する改善項目が統合されました。統合ビューを展開して、基盤となる詳細を容易に確認できます。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

レポート用 Einstein Discovery を使用したレポートバージョンの比較およびインサイトの探索

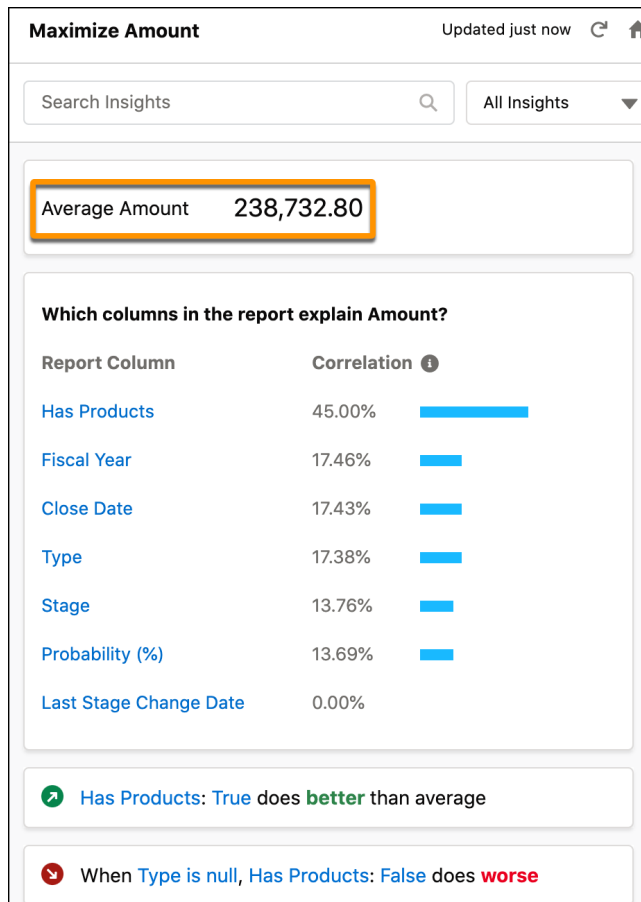
レポート用 Einstein Discovery (旧称 Einstein データインサイト) を使用すると、レポート実行間でデータ分析の何が変更されたかをすぐに確認できます。Einstein によって変更の影響が集計されます。また、データにドリルダウンして詳細を横に並べて比較できます。インサイトの機能強化には、分析概要パネル、統計上重要なインサイトへの自動絞り込み、分析された列への影響の種別(肯定的な影響または否定的な影響)による絞り込みなどがあります。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

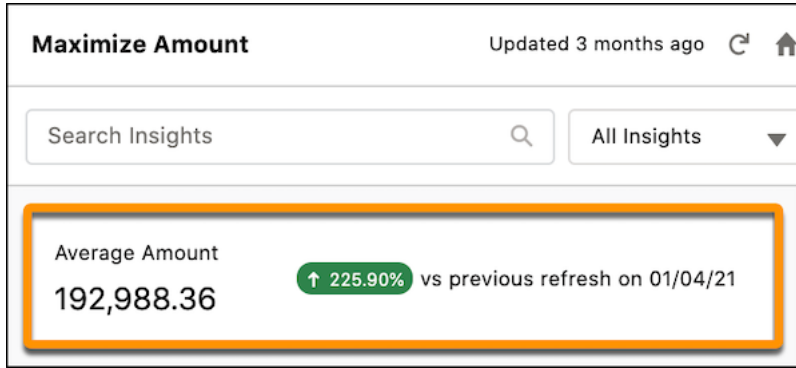
方法:レポートを開き、[分析]をクリックします。



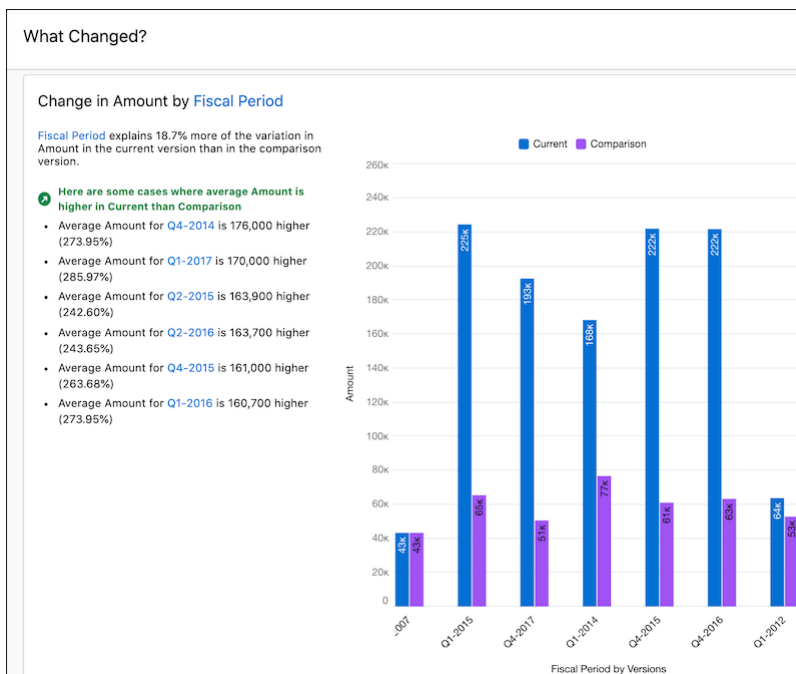
目標を選択して、分析を実行します。Einstein で、[インサイトを検索]ボックスのすぐ下に分析概要が表示されます。



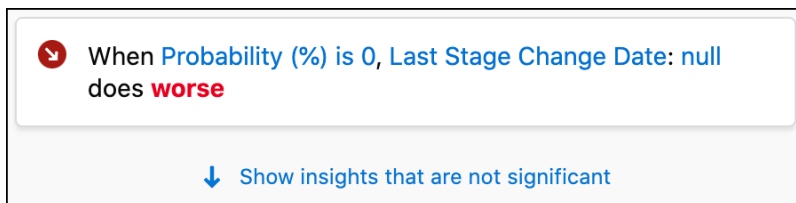
更新されたデータでレポートを実行して、新しい分析を作成します。Einstein にバージョン間の実質的な差を示す変更の概要が表示されます。



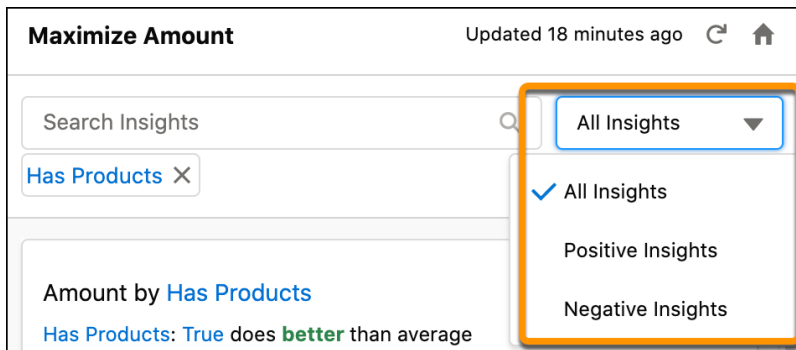
横に並べてバージョンを比較するには、[概要] をクリックします。



デフォルトでは、表示されるインサイトは統計的に最も重要なインサイトのみです。すべてのインサイトを表示するには、インサイトリストの最下部までスクロールして[重大でないインサイトを表示]をクリックします。



分析用に選択した目標への影響(肯定的または否定的)でインサイトリストを絞り込むことができます。



関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

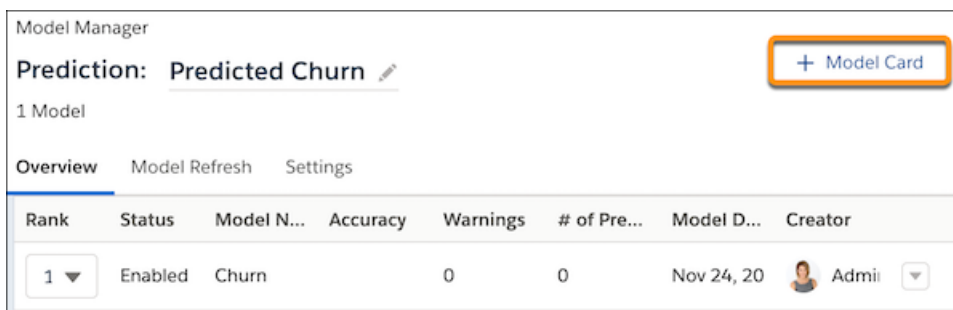
[Salesforce ヘルプ: レポート用 Einstein Discovery によるレポートの分析 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

モデルカードによる予測の透過性の向上 (正式リリース)

Einstein Discovery には、予測に関する重要な利用状況情報を文書化したり、伝えたりするためのモデルカードが導入されています。モデルカードには、モデルのトレーニングに使用されるデータに関連付けられた統計が表示されます。また、予測の使用目的、設計の前提条件、対象利用者、機能と制限事項、その他の関連情報に関する省略可能な説明を表示することもできます。これらの詳細を開示することで、ユーザは予測を理解し、複数の予測を区別しやすくなります。これにより、予測が各自の使用事例に適しているかどうかについて、情報に基づいて倫理的な意思決定を行うことができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: モデルマネージャで、予測を表示し、[+モデルカード] をクリックします。



フォームで、ユーザに表示する項目 ([主な使用目的] やその他の使用目的情報など) を入力し、作業を保存します。予測に複数のモデルがある場合は、詳細を表示するモデルをリストから選択します。

Edit Model Card

This model card describes the origin, intended use, factors, training metrics, training data, and other information about your prediction. Leave any optional field blank to omit it from the model card displayed to users.

Pre-view model card Disabled

Model Card

* Card Title

Show details for model
 Churn

Intended Use

What is the primary intended use for this prediction?

* Primary Intended Use Cases

Primary Intended Users

Out-of-Scope Use Case

Factors

Factors associated with prediction performance. Examples include demographic groups, environment conditions, and data collection methods.

Relevant Factors

Evaluation Factors

Details

Last Updated
11/24/2020

Updated By
Admin User

Version
1

Type
Binomial

Contact for More Information

Contact Name

Email Address

設定をプレビューするには、[モデルカードをプレビュー]を有効にします。

Edit Model Card

This model card describes the origin, intended use, factors, training metrics, training data, and other information about your prediction. Leave any optional field blank to omit it from the model card displayed to users.

Pre-view model card Enabled

 **メモ:** 入力された項目のみが表示され、空の項目は除外されます。

モデルカードには、モデルのトレーニングに使用されますデータに関連付けられたモデル総計 (モデルの品質評価、トレーニングデータセットの結果値の分布、変数と結果の相関関係など) も表示されます。

Edit Model Card

This model card describes the origin, intended use, factors, training metrics, training data, and other information about your prediction. Leave any optional field blank to omit it from the model card displayed to users. Pre-view model card Enabled

Model Card

Model Card for: Churn prediction

Show details for model

Churn ▼

Intended Use

Primary Intended Use Cases

Predict customer churn.

Primary Intended Users

Customer Support Reps and Account Executives

Out-of-Scope Use Case

Marketing

Details

Last Updated
11/24/2020

Updated By
Admin User

Version
1

Type
Binomial

Training Metrics
Model quality ratings based on training data

Training Model Performance

AUC ⓘ

0.861

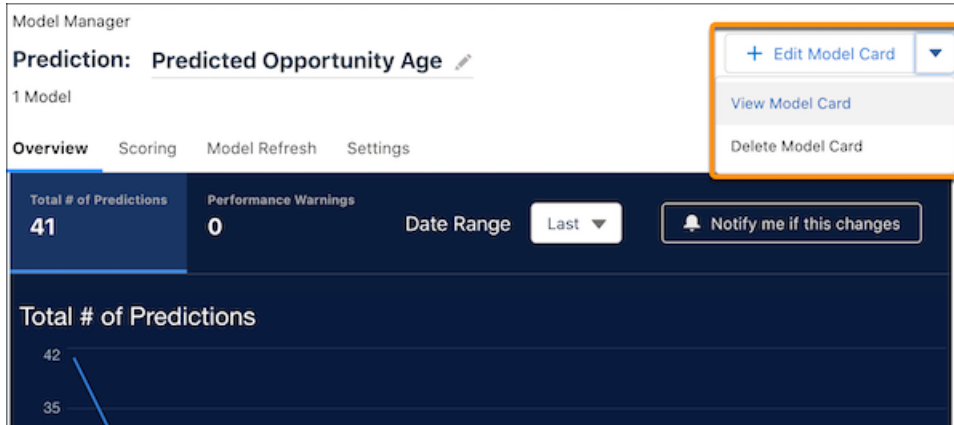
0.5 0.6 0.7 0.8 0.9 1

0.86

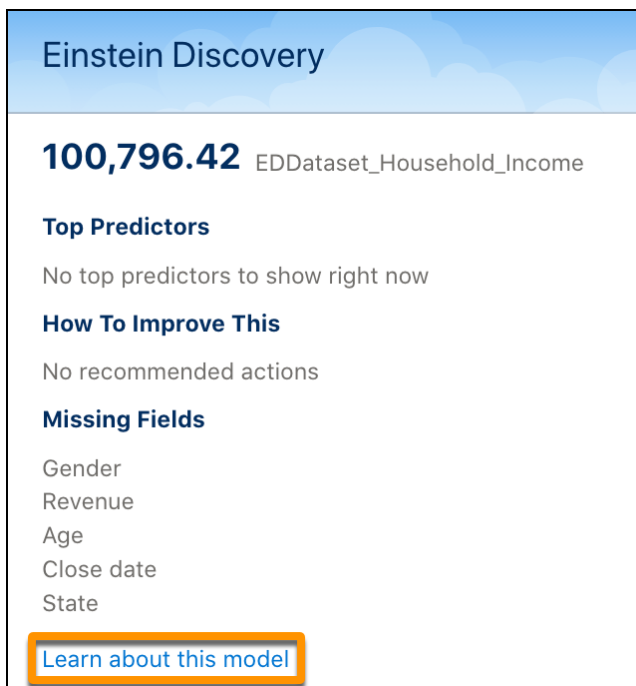
Random Chance Perfect Prediction

Metric	Value
Gini ⓘ	0.721
MCC ⓘ	0.501
Accuracy ⓘ	0.815
Threshold ⓘ	0.48

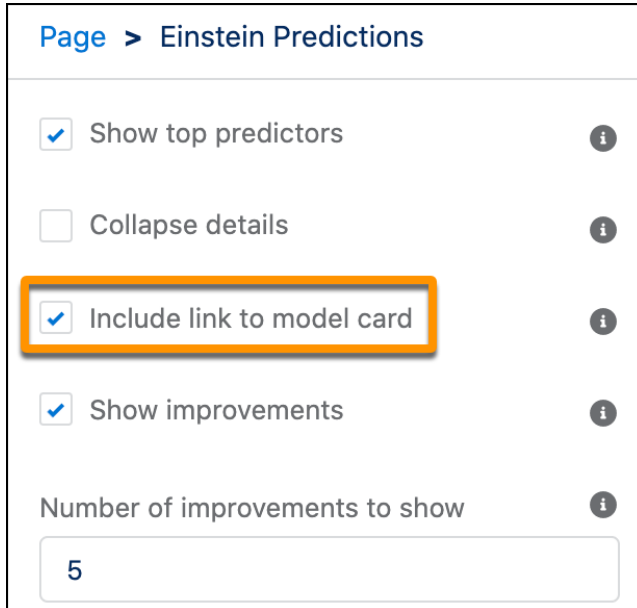
モデルカードを共有するには、.pdf ファイルとしてダウンロードします。モデルマネージャで予測定義を表示し、[モデルカードを編集] メニューから [モデルを表示] を選択して、[ダウンロード] をクリックします。



Lightning レコードページまたは Experience ページで、ユーザーにモデルカードの表示を許可することができます。



[このモデルについて] リンクを表示するには、Lightning アプリケーションビルダーまたはエクスペリエンスビルダーでページを編集し、Einstein 予測コンポーネントを設定して、[モデルカードへのリンクを含む]を有効にして保存します。



関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

モデルパフォーマンスを改善するための欠損値の代入 (正式リリース)

不明なデータや問題のあるデータによる欠損値が多すぎると、モデルの品質が低下する可能性があります。Einstein Discovery で、データセットの数値の欠損値を代入できるようになりました。数値変数の統計的代入を有効にすると、Einstein Discovery は欠損値をデータの別のサブセットから派生する値に自動的に置き換えます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由:代入が有効になっていない場合、Einstein Discovery は空の値または null 値のある観測を適切に処理します。欠損値が結果変数の場合、分析中に Einstein Discovery でその観測が省略されると、平均に組み込まれず、インサイトから除外されます。欠損値が、モデルで使用される説明変数の場合、Einstein Discovery で予測ではなく警告が生成されます。

代入が有効になっている場合、分析中に欠損値のある観測が問題なくカウントされます。たとえば、小売店のデータセットの利益列に多くの値が欠落しているとします。代入を使用すると、それらの欠損値を他のデータから派生する値(平方フィートまたは都市ごとの店舗あたりの平均利益など)に置き換えることができます。その結果、予測でより多くの観測を得ることができます。

方法:ストーリー設定で、値を代入する数値変数を選択し、[設定]サブタブをクリックして、[欠損値の代入]を選択します。代入値を派生する変数と、値の計算に使用する平均、中央値、最頻値の集計を選択します。

関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

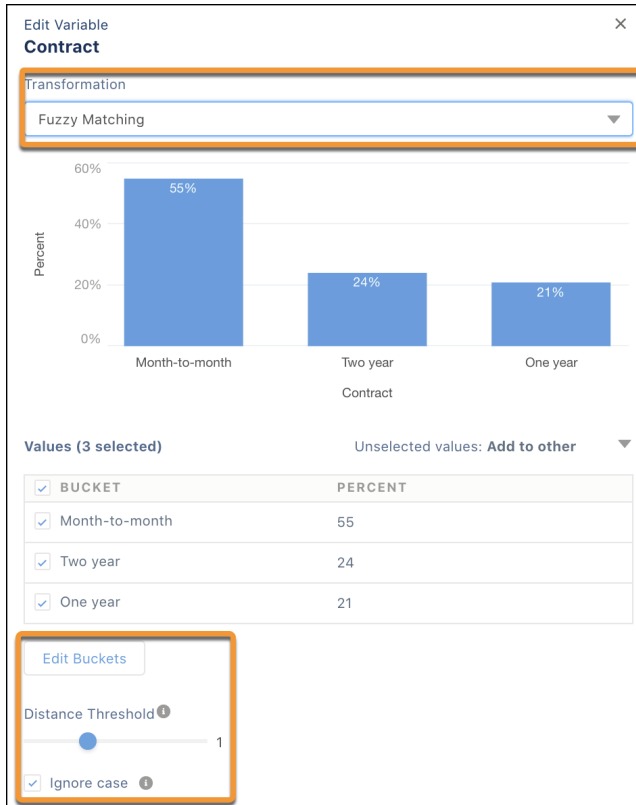
スペルのあいまい一致を使用した予測の改善 (正式リリース)

Einstein Discovery には、スペルのバリエーションに対処するあいまい一致が導入され、スマートな分類と適切な予測を実現できます。カテゴリデータのスペルのバリエーションにより、実際には同じカテゴリに属している場合でも観測が別のカテゴリに分類されることがあります。大文字小文字の違い、複数形、略語、バリエーション (behavior と behaviour など) により、データをグループ化する方法についてあいまいさが生じます。項目のあいまい一致を有効にすると、Einstein は大文字小文字を無視するため、flavor、Flavor、flavour、flavors などのバリエーションがすべて同じカテゴリに属します。Einstein Discovery は予測時にデータを変換するため、データプレップ中の文字列の整理をスキップできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: Einstein は、あいまい一致にレーベンシュタインアルゴリズムを使用します。デフォルトの編集距離は 1 に設定されています。これは、カテゴリ一致で 1 文字の編集が許可されることを意味します。flavors の例では、編集距離が 2 であるため、バリエーション flavored は別のカテゴリに属します。

方法: ストーリー設定で、スペルのバリエーションが含まれている変数を選択します。[変数を編集] で、[変換] ドロップダウンメニューをクリックし、[あいまい一致] を選択します。[距離のしきい値] の下にあるスライダーを使用して、編集距離を設定します。



関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

Salesforce 組織での外部モデルの実装 (パイロット)

本番ですばやく使用を開始できる外部で構築されたモデルで予測機能を強化します。Salesforceの外部で作成された TensorFlow または Python モデルをアップロードおよびリリースできるようになりました。データサイエンティストは、お気に入りのモデリングツールを使用して、慎重に作成されたモデルを設計、構築、テスト、調整できます。その後、そのモデルをSalesforceにアップロードしてリリースすると、ユーザはモデルの予測を使用して、より良い結果に向けて作業を開始することができます。

メモ: この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあり、SFDCの裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDCはこの機能を正式にリリースしない可能性があります。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。この機能は現状有姿のまま提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

この機能に関するフィードバックや提案は、[TrailblazerCommunity](#)の該当するIdeaExchangeグループに投稿してください。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: パイロットプログラムへの参加については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

TensorFlow または Python モデルに関連付けられているすべてのファイルを .zip ファイルにバンドルします。モデルマネージャを開き、[アップロード] をクリックし、[モデルをアップロード] ウィザードを起動します。

Upload a Model

This wizard guides you through the steps to upload an external model to Salesforce.

Enter model details

*Model Name
My TensorFlow model

Description
Sample TensorFlow model

Model Type
 Regression
 Binary Classification

Model Runtime ⓘ
TensorFlow

Cancel Next

モデルに関する詳細を指定します。次に、[次へ] をクリックして、モデルのすべての変数を指定します。

Upload a Model

Define the variables in the model

Variable Name *	Display Name	Data Type
model_variable_1	Model Variable 1	Text
model_variable_2	Model Variable 2	Numerical

Add

Einstein is here to help

What are the variables in the model?
Add all the variables in the model. Include the outcome variable that the model predicts, and at least one explanatory variable.

Back Next

[次へ] をクリックして、モデルで予測する結果を選択します。[次へ] をクリックして、モデルファイルが含まれる .zip ファイルを選択し、[完了] をクリックします。モデルは Salesforce 環境に今すぐリリースできます。モデルを後でリリースする場合は、[アップロードされたファイル] に追加して、[閉じる] をクリックします。

関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

マルチクラスモデルを使用した複数のカテゴリの結果の予測 (パイロット)

Einstein Discoveryには、最大10個のカテゴリの中で可能性の高い結果を予測できるマルチクラスモデルが導入されています。たとえば、保険会社は9個の保険契約のうちどの保険契約を申込人が選択する可能性があるかを予測できます。マルチクラスモデルのサポートにより、3番目の使用事例が、Einstein Discoveryですでにサポートされている数値およびバイナリ分類の使用事例に追加されます。マルチクラスモデルを使用すると、ビジネスのまったく新しい世界のソリューションの予測分析がEinstein Discoveryにより開始されます。

メモ: この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあり、SFDCの裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDCはこの機能を正式にリリースしない可能性があります。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。この機能は現状有姿のまま提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

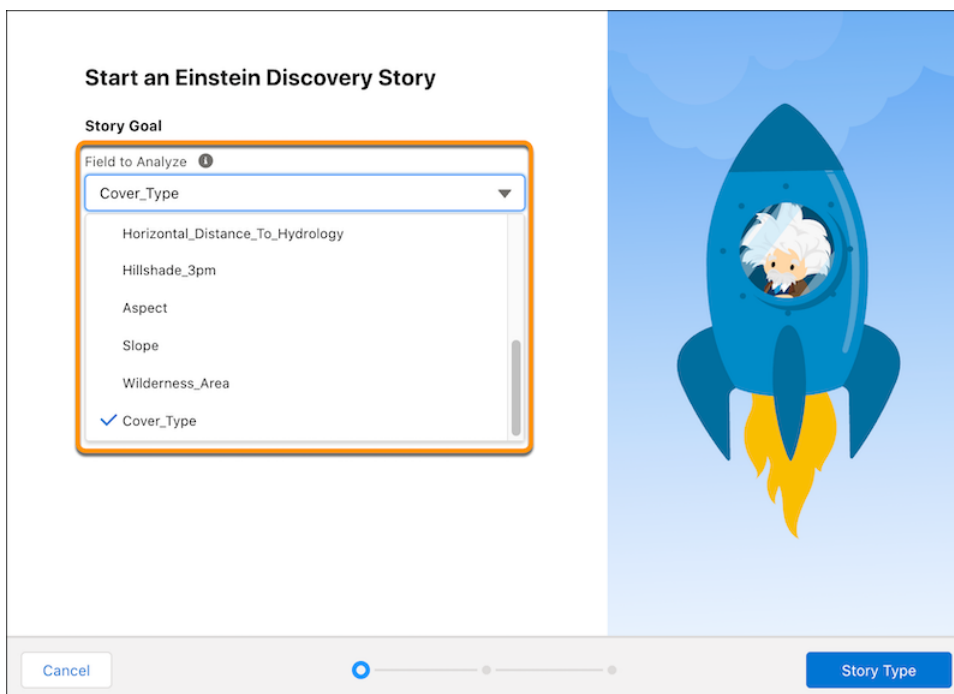
この機能に関するフィードバックや提案は、[Trailblazer Community](#)の該当するIdeaExchangeグループに投稿してください。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

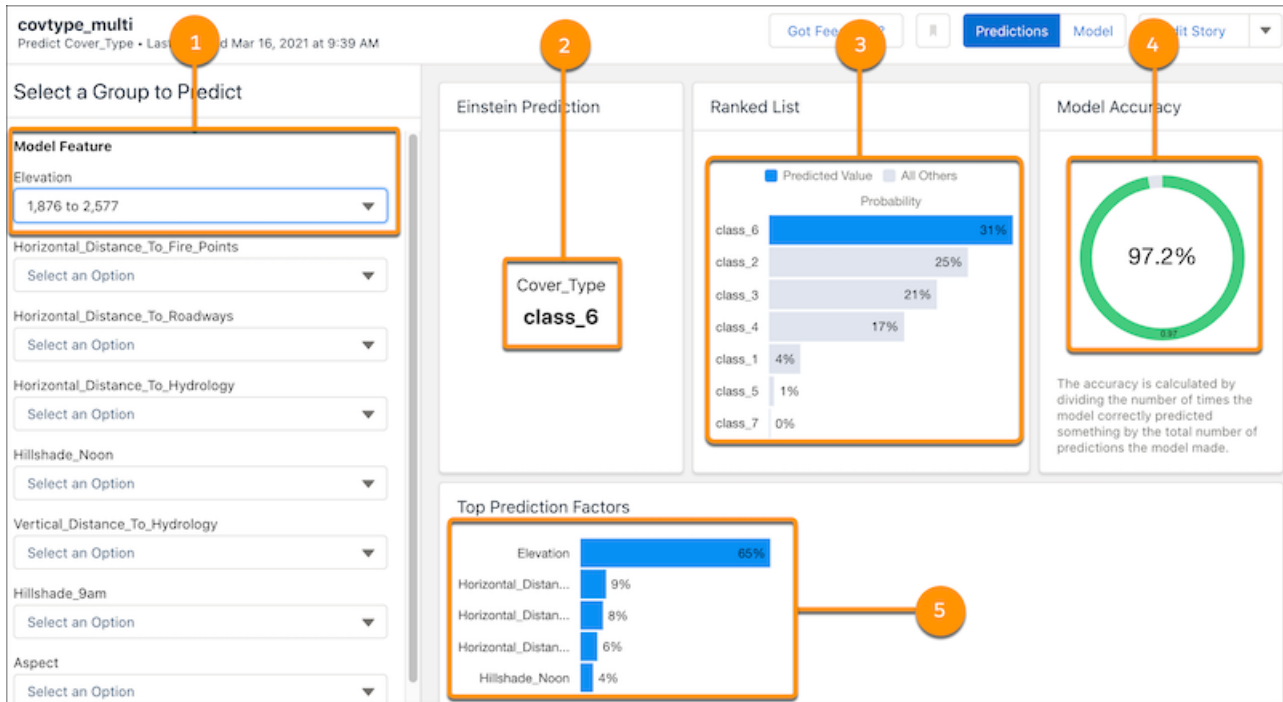
方法: パイロットプログラムへの参加については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

ストーリー作成時に、[分析する項目] リストで、3～10個の一意のカテゴリを含むテキスト列を選択します。

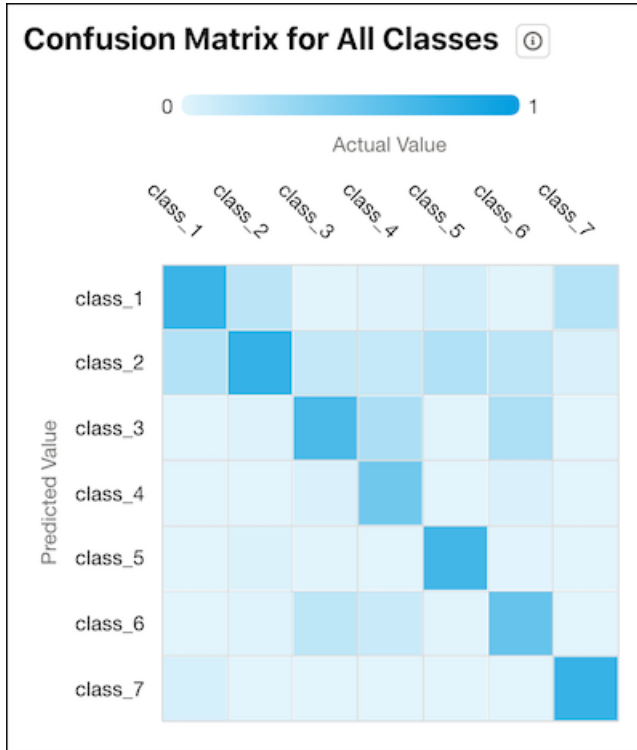
メモ: 最小化と最大化は、数値およびバイナリ分類の事例に関連していますが、マルチクラスモデルには関連していません。



ストーリーが作成されると、Einstein Discovery で予測モデルが生成され、[予測] タブが表示されます。このタブでは、さまざまなクラスおよびグループの What-If 確率計算を実行できます。予測するグループを選択します (1)。Einstein Discovery が最も可能性の高い結果として予測したクラス (2) に加えて、ランク付けされた確率 (3)、予測されたクラスのモデルの精度 (4)、上位の予測要素 (5) が表示されます。



マルチクラスモデルのモデル評価指標では、評価可能な統計がクラスごとに示されるほか、集計 (すべてのクラス) で示されます。たとえば、[すべてのクラスの混同行列] では、モデルで各クラスがどのような精度で予測されているかを一目で確認できます。



テーブル内で各クラスの行と列が交差する場所では、正方形の色がモデルの精度を示します。凡例は0から1までの色の進行を示し、1は100%の精度を表します。この例では、濃い青の対角線は真陽性の割合が高いことを示しています。

関連トピック:


[Einstein Discovery](#)

相対的な開始日を使用した時間ベースの予測の表示

Einstein 予測コンポーネントをカスタマイズすることにより、相対的な開始日を使用して時間ベースの予測を計算できるようになりました。たとえば、成立に100日かかると Einstein で予測される商談を作成するとします。デフォルトでは、商談が作成されてから99日後であっても、ページに100日と表示されます。ただし、相対的な日付である作成日に基づいて予測を行うと、99日後にはページに1日と表示されます。また、予測の表示形式を残り時間:1日、または日付:明日の日付とすることができます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:

 **メモ:** Einstein 予測コンポーネントは Lightning レコードページと Experience ページに埋め込むことができます。

Lightning アプリケーションビルダーで、レコードページを編集します。エクスペリエンスビルダーで、サイトページを編集します。

Einstein 予測コンポーネントを追加または設定します。設定パネルで、[予測を日付として計算]を選択し、その下にある設定を行います。

Calculate prediction as a date ⓘ

Start calculating date prediction from ⓘ
Created Date X

Time period ⓘ
Days X

Predicted date format ⓘ
Specific Date X

Show prediction history starting from ⓘ
Last change X

相対的な日付から予測を開始するには、[日付の予測の計算を開始する日付]をクリックして、オブジェクトの日付項目を選択します。次の [予測日付形式] を選択します。

- [残り時間] は、選択した [期間] に応じて予測の形式を設定します。
- [特定の日付] は、ログインしたユーザのロケール設定に応じて予測を日付形式で設定します。

下記は、残り時間 (1) と特定の日付 (2) の形式設定を比較した図です。



関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

[Salesforce ヘルプ: Lightning ページへの Einstein 予測の追加 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 予測 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

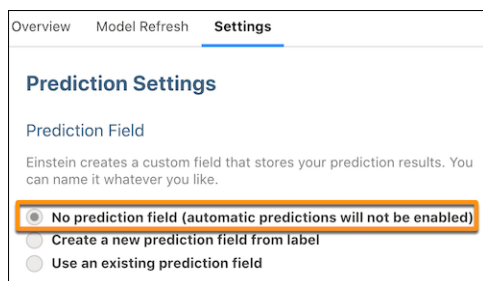
[Salesforce ヘルプ: エクスペリエンスビルダーでのページおよびコンポーネントの編集 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

すべてのリリース済みモデルでの予測要求の監視

モデルマネージャでは、予測項目の選択に関係なく、利用状況の監視グラフにすべてのリリース済みモデルの予測とパフォーマンス警告の合計数が表示されるようになりました。以前は、このグラフには、自動予測項目を使用する Salesforce オブジェクトに関連付けられたモデルの活動統計のみが表示されていました。このリリースでは、モデルマネージャに予測 API 要求の追跡機能が追加されました。また、合計数には、モデルマネージャでは、Einstein Discovery in Tableau、REST API コール、Apex コール、一括スコアリングジョブ、Lightning ページおよび Experience ページに埋め込まれた予測、およびデータプレップレシピの Discovery 予測ノードから実行された予測要求が含まれるようになりました。ビジネス全体におけるモデルの使用状況をより包括的かつ正確に把握すると、モデルを調整して予測を改善できます。


対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: モデルマネージャで、自動予測項目を使用しない任意の有効な予測定義を開きます。[設定] タブで [予測項目なし] が選択されていることを確認します。

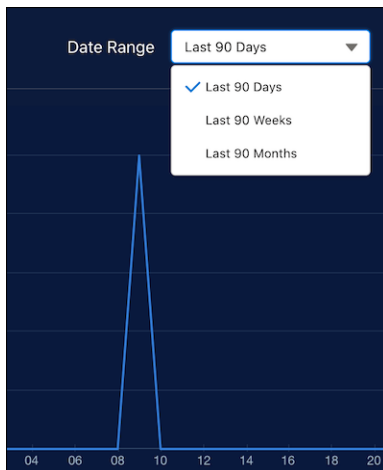


任意の提供元 (Apex、Einstein Discovery in Tableau など) からの予測 API 要求数を確認するには、[概要] タブに切り替えます。



 **メモ:** 現在、モデルマネージャでは、データフローの prediction 変換ノードからの予測要求は追跡されません。

グラフの日付範囲を変更するには、新しい日付セレクタを使用します。



関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

Einstein Discovery のセンチメント分析を使用した非構造化データの価値のあるインサイトへの変換 (パイロット)

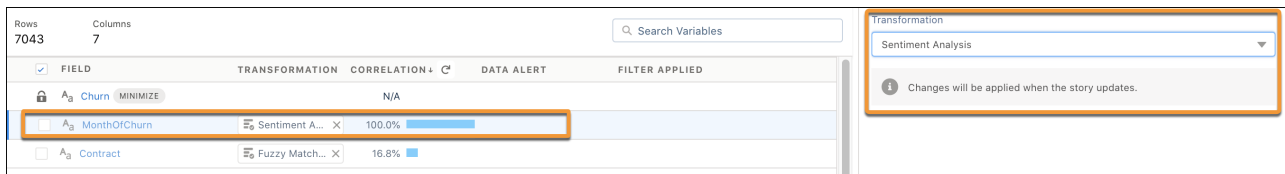
コメント、アンケートデータ、その他の形式の顧客からのフィードバックには、データセットの中でも最も豊富な情報が含まれていることがよくあります。現在、Einstein Discovery は、ストーリー作成時に非構造化データを処理し、センチメントを肯定的、否定的、どちらでもないに分類しています。たとえば、「秋の新色が気に入った」は肯定的、「映画はまあまあだった」はどちらでもない、「あまりいい経験ではなかった」は否定的に分類されます。Einstein Discovery では、顧客の感情を検出し、この情報をタグ付けして有意義な分析を実施できます。以前は、このようなデータは多くの場合、センチメント分析に時間、予算、専門知識が必要なため、使用できないデータとみなされていました。

メモ: この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあり、SFDCの裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDCはこの機能を正式にリリースしない可能性があります。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。

この機能に関するフィードバックや提案は、[TrailblazerCommunity](#)の該当するIdeaExchangeグループに投稿してください。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: パイロットプログラムへの参加については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。ストーリー設定で、非構造化データが含まれている変数を選択します。[変数を編集]で、[変換]ドロップダウンメニューをクリックし、[センチメント分析]を選択します。



関連トピック:

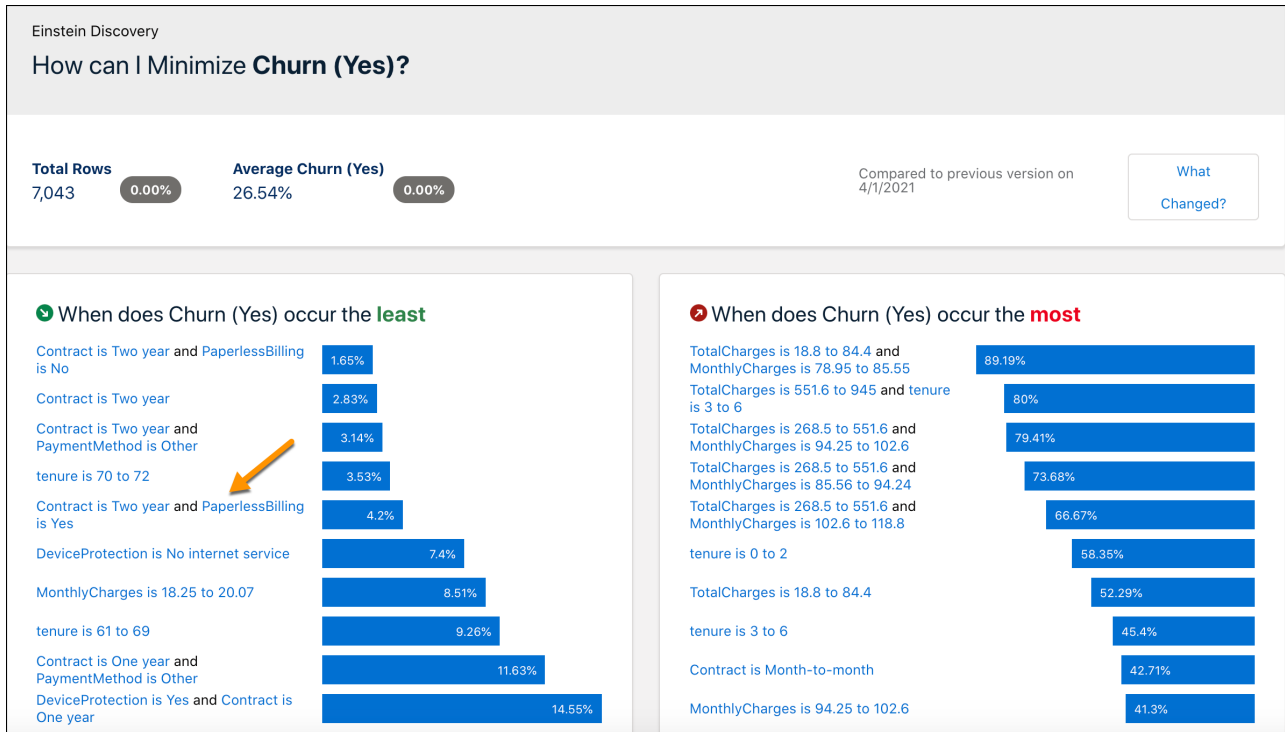
[Einstein Discovery](#)

インサイト概要パネルを使用したインサイトフルなクイック分析の取得

まず、最も重要なインサイトを確認します。Einstein Discovery でストーリーを開くと、インサイト概要パネルが含まれるようになりました。一方のパネルにはストーリーの結果に肯定的な影響を与える変数、もう一方には否定的な影響を与える変数が示されています。これにより、目的の変数を探ることができ、一次および二次インサイトがこれまで以上に見つけやすくなります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ストーリーを開きます。ページの中央にインサイト概要パネルが表示されます。一次および二次インサイトを含む、さらに詳細なインサイトを取得するには、いずれかのパネルで変数をクリックします。



関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

あらゆる場所での Einstein Discovery ストーリーのインサイトの消費

インサイト API を使用して、ストーリーから取得したインサイトを任意の Web サイト、アプリケーション、またはダッシュボードに埋め込みます。ストーリーとして生成されたインサイトには、選択されたストーリーの目標への影響を数値化した値と、その値の文章による説明が含まれています。インサイト API を使用すると、クライアントアプリケーションで、肯定的および否定的なインサイトの概要を取得して、インサイトの詳細をさらに照会して、独自の説明文にインサイトの値に適用することができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザー: API にアクセスしたり、API を実行したりするには、「Einstein Discovery を使用」システム権限が必要です。

関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

[Salesforce ヘルプ: プログラムによる説明的インサイトの取得 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ストーリーの絞り込まれたレンズの保持

レンズ検索条件が保持され、時間を節約できるようになりました。絞り込まれたレンズからストーリーを作成する場合、Einstein Discovery ではストーリー設定の検索条件が保持されます。以前は、検索条件が削除され、再度作成する必要がありました。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:絞り込まれたレンズを開くか、検索条件を指定してレンズを作成します。ストーリーの作成アイコン



をクリックします。



レンズ検索条件はストーリー設定に自動的に引き継がれ、変数とともに表示されます。

FIELD	TRANSFORMATION	CORRELATION	DATA ALERT	FILTER APPLIED
# Tenure	MAXIMIZE	N/A		<= 2
# Total Charges		75.9%	Strongest Predictors	
# Contract		49.7%	Strongest Predictors	
# Churn		16.1%	Duplicate	Not equal to false

関連トピック:

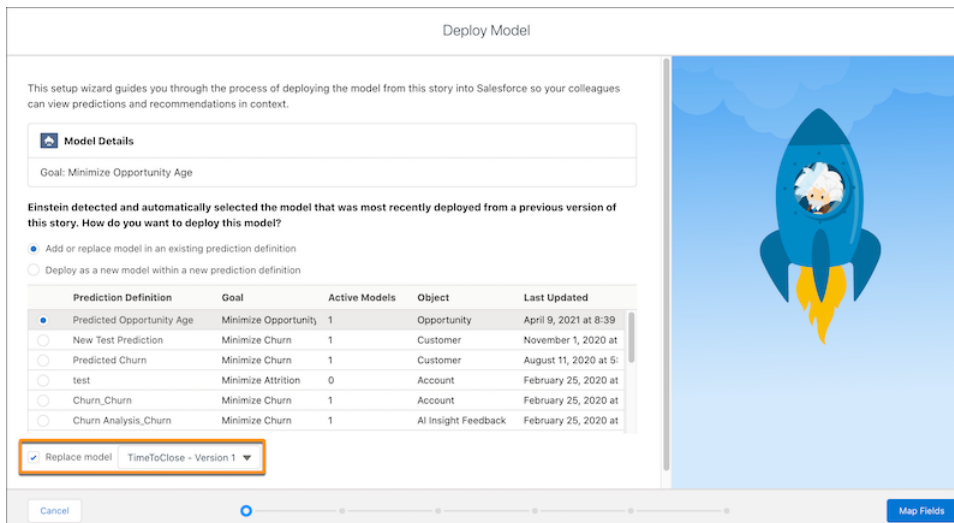
[Einstein Discovery](#)

リリース済みモデルの簡単な置き換え

Einstein Discovery の合理化されたナビゲーションでは、リリースされたモデルをこれまで以上に容易に置き換えることができます。以前にモデルをストーリーからリリースしている場合は、置き換えるモデルが Einstein Discovery により自動的に選択されます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:以前にリリースしたモデルが含まれているストーリーを開いて、[ストーリーを編集] メニューから [モデルをリリース] を選択します。予測定義と更新するモデルが Einstein Discovery により自動的に選択されます。



選択されたモデルを置き換える必要がない場合は、設定を変更して異なるアクションを実行します。

関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

[Salesforce ヘルプ:新しい予測定義または既存の予測定義へのリリース\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

統合された改善項目の表示および詳細への容易なドリルダウン

Einstein Discovery では、Lightning レコードページと Experience ページの関連する改善項目が統合されました。統合ビューを展開して、基盤となる詳細を容易に確認できます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:改善項目が表示されている Lightning レコードページまたは Experience ページを開きます。統合された改善項目が展開矢印付きで表示されます。

Likelihood of Churn

Not likely...

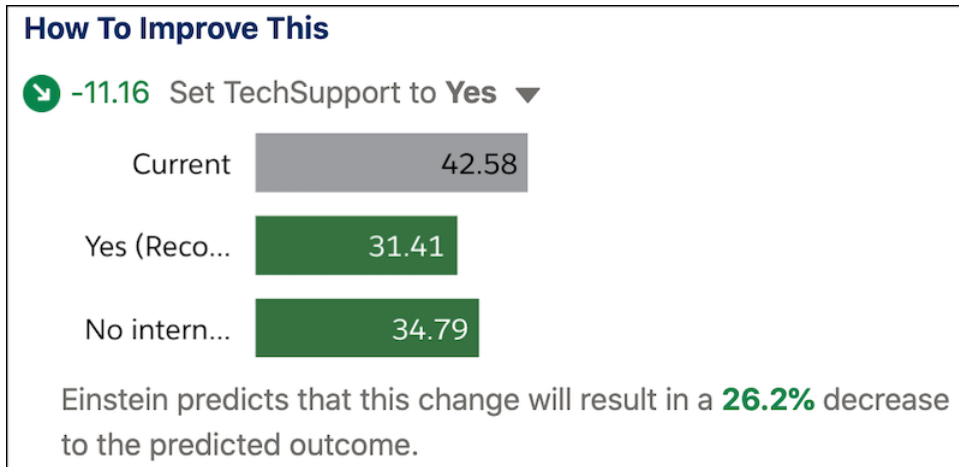
Top Predictors

- ↘ -2.4 Contract is **Two year**
- ↘ -1.68 Partner is **true** and Contract is **Two year**
- ↗ 1.66 InternetService is **Fiber optic**

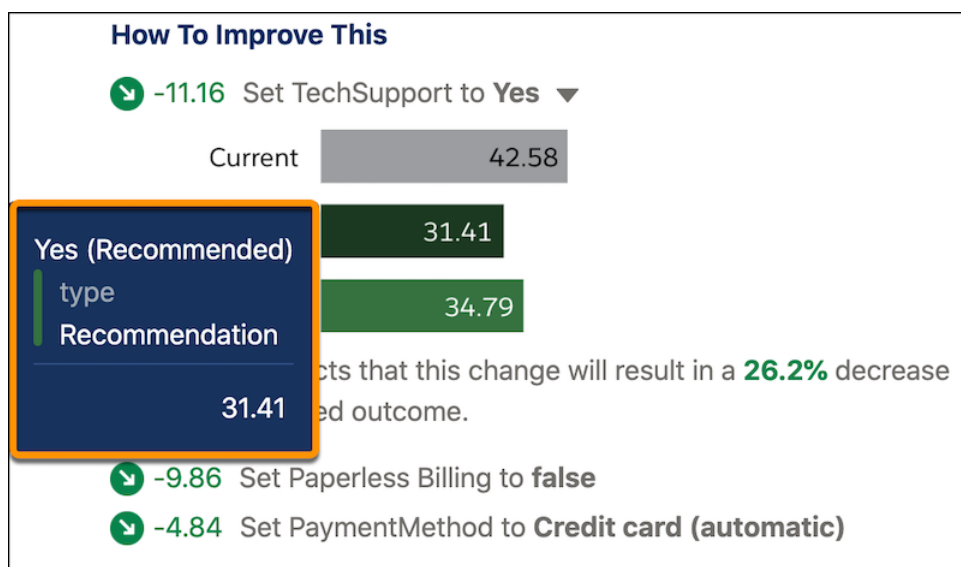
How To Improve This

- ↘ -11.16 Set TechSupport to **Yes** ▶
- ↘ -9.86 Set Paperless Billing to **false**
- ↘ -4.84 Set PaymentMethod to **Credit card (automatic)**

改善項目を展開すると、その詳細が表示されます。



棒にマウスポインタを置くと、詳しい情報が表示されます。



関連トピック:

[Einstein Discovery](#)

Salesforce データパイプライン

Salesforce データの大規模な変更と強化。

このセクションの内容:

Salesforce データパイプラインを使用した大規模な Salesforce データの強化

この新製品である Salesforce データパイプラインを Salesforce と併用することで、Salesforce データの変更と強化が可能です。CRM データが Salesforce 内外の複数のサービスに分散している場合は、Salesforce に集約できます。すべての CRM データがまとめられた単一のアクセス可能な信頼できるビューを作成して、組織内のユーザがよりスマートで迅速な意思決定を行えるようにします。また、データパイプラインを使用して Salesforce データを一括変換することもできます。サードパーティのツールを必要とすることも、信頼できる Salesforce 環境の外部にデータを持ち出すこともありません。外部の抽出、加工、読み込み (ETL) ツールやデータウェアハウスソリューションとは異なり、データパイプラインは Salesforce CRM にネイティブに組み込まれているため、更新を常に迅速かつ安全に行えます。高額で不安定な、パフォーマンスの低い外部システムを経由してデータを往復させる必要はありません。

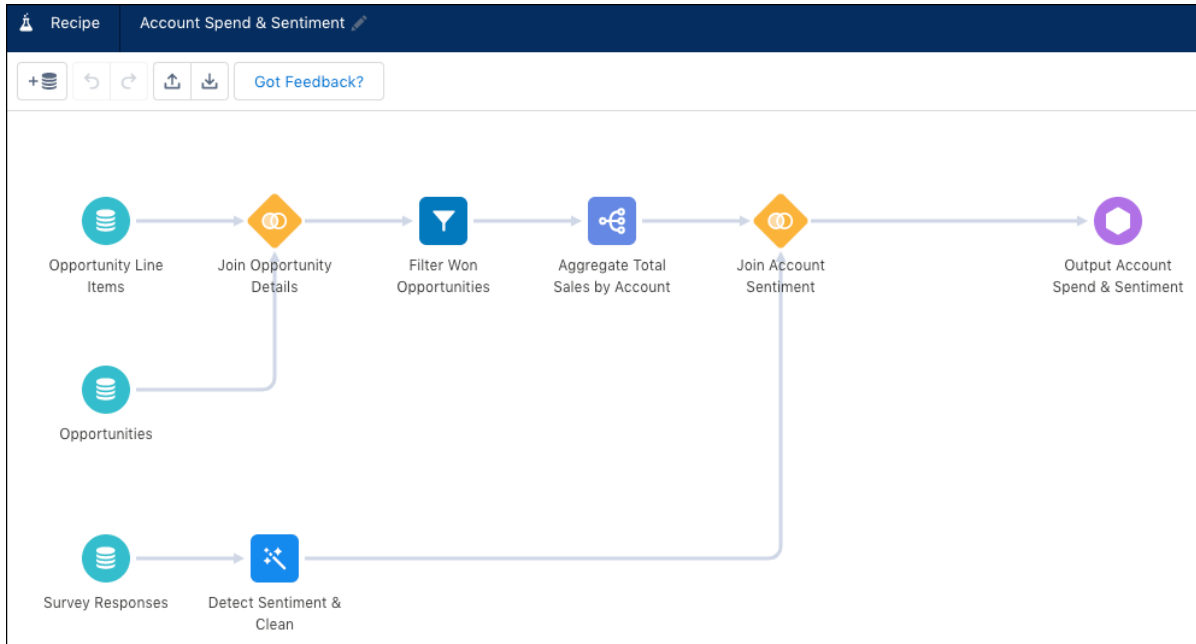
Salesforce データパイプラインを使用した大規模な Salesforce データの強化

この新製品である Salesforce データパイプラインを Salesforce と併用することで、Salesforce データの変更と強化が可能です。CRM データが Salesforce 内外の複数のサービスに分散している場合は、Salesforce に集約できます。すべての CRM データがまとめられた単一のアクセス可能な信頼できるビューを作成して、組織内のユーザがよりスマートで迅速な意思決定を行えるようにします。また、データパイプラインを使用して Salesforce データを一括変換することもできます。サードパーティのツールを必要とすることも、信頼できる Salesforce 環境の外部にデータを持ち出すこともありません。外部の抽出、加工、読み込み (ETL) ツールやデータウェアハウスソリューションとは異なり、データパイプラインは Salesforce CRM にネイティブに組み込まれているため、更新を常に迅速かつ安全に行えます。高額で不安定な、パフォーマンスの低い外部システムを経由してデータを往復させる必要はありません。

対象: Salesforce データパイプラインは、有料オプションで Enterprise Edition および Performance Edition で使用できません。

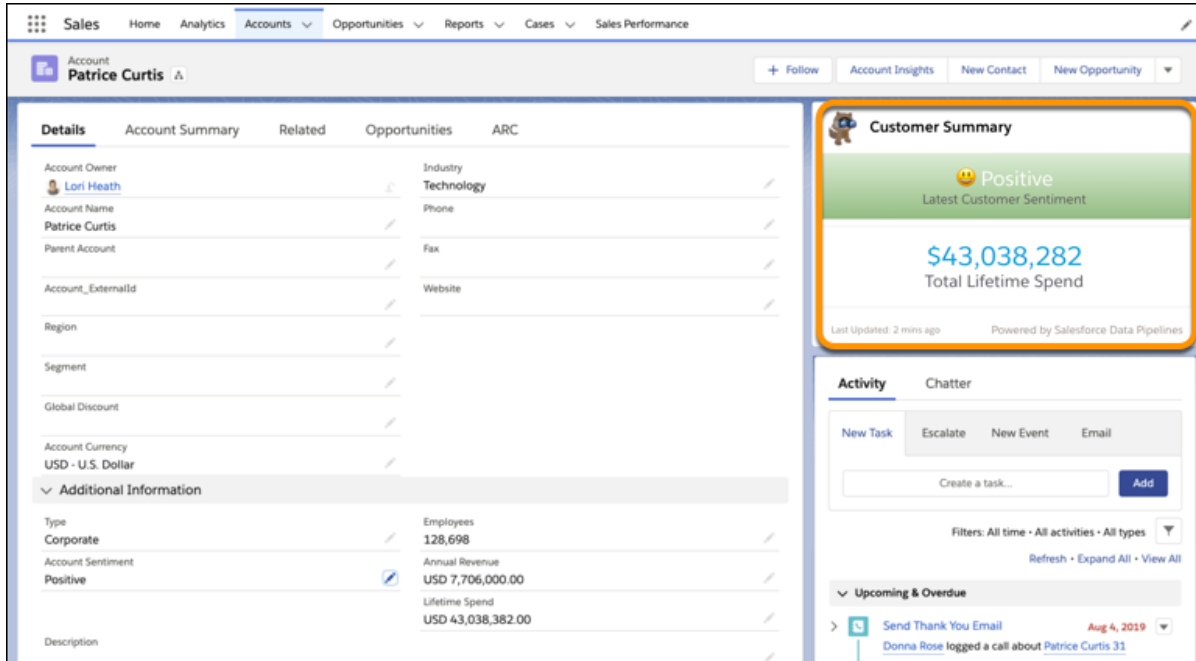
対象ユーザ: Government Cloud ユーザはデータパイプラインを使用できません。

理由: データパイプラインでは、ユーザが豊富な情報に基づいて意思決定を行うために必要な他の重要な情報を追加して、Salesforce のデータを強化することができます。たとえば、カスタマーサポートエージェントが大規模な取引先にプレミアムサービスを提供したり、満足していない顧客に積極的にアプローチしたりできるように、次のようなレシピを作成します。

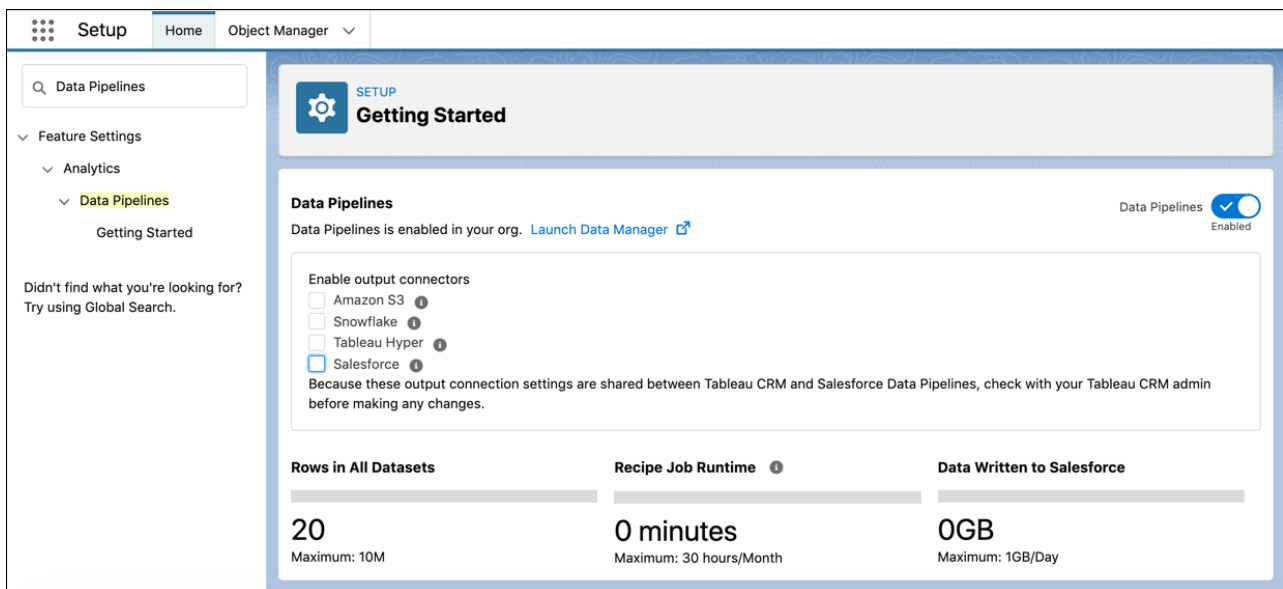


レシピは、Tableau CRMでソースデータを対象に読み込む前にソースデータに対して実行する一連の変換です。このレシピでは、各取引先の商談金額を集計して、各顧客の有効期間の支出額を計算します。このデータは、Salesforce オブジェクトである商談と商談品目から取得します。レシピには、Google サurveyに寄せられた顧客のコメントも取り込まれています。顧客が商品やサービスについてどのように感じているかを判断するために、レシピでは機械学習による変換を使用して、各顧客のコメントの全体的なセンチメントを自動的に検出されます。次に、センチメントとそれぞれの取引先が結合されます。最後に、有効期間の支出額とセンチメントがSalesforce のカスタムオブジェクトに書き込まれます。

この情報をサポートエージェントが利用できるようにするには、取引先詳細ページのLightning コンポーネントに情報を追加します。これで、エージェントがそれぞれの取引先に適切に対応できるようになります。

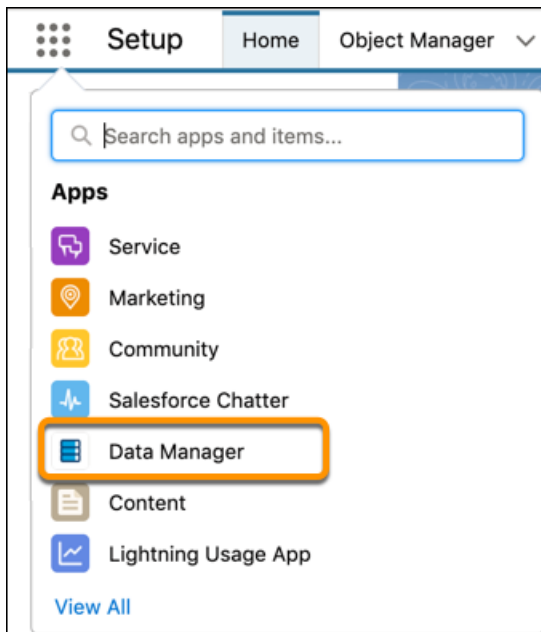


方法: データパイプラインを設定するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「データパイプライン」と入力し、[使用開始] を選択します。



データパイプラインが有効になっていることを確認してから、Salesforce などの対象にデータを書き込むための出力コネクタを有効にします。(データは Amazon S3、Snowflake、Tableau Online にも書き込めます。)データパイプラインと Tableau CRM を購入している場合、出力コネクタの設定は両方の製品に影響します。

設定が完了すると、ユーザはデータマネージャアプリケーションを使用して、データを抽出、加工して Salesforce に読み込むためのレシピを作成し、そのレシピの実行、スケジュール、監視を行うことができます。データマネージャアプリケーションを開くには、アプリケーションピッカーから [データマネージャ] を選択します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Data Pipelines \(Salesforce データパイプライン\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: Set Up Salesforce Data Pipelines \(Salesforce パイプラインの設定\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: Modify and Enrich Salesforce Data with Recipes \(レシピを使用した Salesforce データの変更と強化\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

すべてのユーザのための Tableau CRM

Tableau CRM のホームページがパーソナライズされ、より直観的になりました。組織全体の Tableau CRM 項目のコレクションを構築し、ホームページをカスタマイズしてチームと Analytics を共有することができます。

このセクションの内容:

[快適に作業できる新しい Tableau CRM ホームページ](#)

Tableau CRM に直感的でパーソナライズされた新しいインターフェースが搭載されました。Tableau CRM は、バックグラウンドで、フォローしている最新の項目に関する変更のインターフェースを自動的に更新し、他のユーザが表示している新しい項目のスマートなお勧めを構築します。システム管理者は、ユーザを出迎え、エンゲージメントを高めるために、選定された項目を作成してホームページに固定できます。また、ユーザは独自のコレクションセットを作成して、ホームページをパーソナライズすることもできます。

Tableau CRM コレクションでのインサイトの選定および共有

Tableau CRM コレクションは、レンズとダッシュボードのプレイリストのようなものです。コレクションでは、独自の項目グループを管理し、ホームページをパーソナライズできます。複数のアプリに分散している場合でも、関心のあるダッシュボードとレンズを追加することで、最適なコレクションを選定して整理された状態を維持できます。コレクション内の項目を好みに合わせて整理して、他のユーザーの入力を共有したり、取得したりすることができます。コレクションを選定したら、登録してお気に入りのインサイトを受信します。

複数の共有コレクションの登録

最も重要なレンズのコレクションを受信箱に直接配信する登録を使用して、ユーザーによる当て推量の分析を減らします。新しい Tableau CRM のコレクション機能の一部として、ユーザーはあなたが作成して共有したコレクションに登録できます。各ユーザーは4つのコレクションに登録できます。各コレクション登録には、ユーザーが Tableau CRM からメールを受信する独自のスケジュールがあります。コレクション登録にはレンズのみが表示されますが、ユーザーはダッシュボードウィジェットに直接登録できます。

スマートなおすすめによる関連ダッシュボードの検出

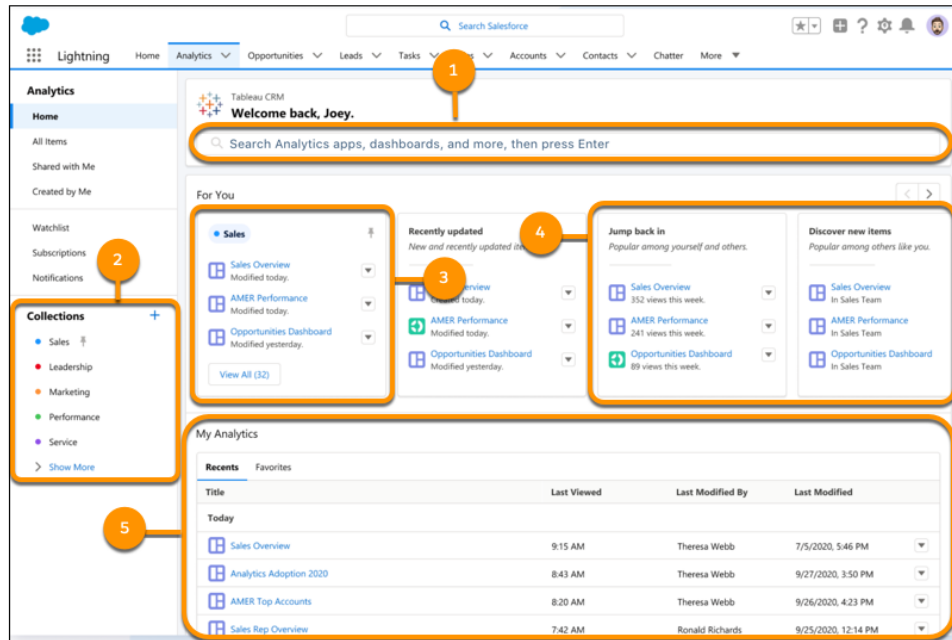
Tableau CRM ホームページの新しいスマートなおすすめカードによって、作業に関連するダッシュボードが表示されます。Tableau CRM の組織固有のビューから得たインテリジェンスを利用して、パーソナライズされたおすすめで重要な分析を特定し、現在人気の高いダッシュボードを表示し、これまで見たことのない分析を見つけやすくします。

快適に作業できる新しい Tableau CRM ホームページ

Tableau CRM に直感的でパーソナライズされた新しいインターフェースが搭載されました。Tableau CRM は、バックグラウンドで、フォローしている最新の項目に関する変更のインターフェースを自動的に更新し、他のユーザーが表示している新しい項目のスマートなおすすめを構築します。システム管理者は、ユーザーを出迎え、エンゲージメントを高めるために、選定された項目を作成してホームページに固定できます。また、ユーザーは独自のコレクションセットを作成して、ホームページをパーソナライズすることもできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: アプリケーションランチャーから [Tableau CRM Analytics Studio] を選択します。検索バー (1) でセマンティック検索を使用して、キーワードに完全に一致する以外の結果を検索します。[コレクション] (2) で、独自の項目グループを選定して共有します。信頼できるコンテンツ (3) をホームページに固定します。インテリジェントなおすすめを使用して、常に自分に最も関連する情報を表示し、新しいインサイトを確認します (4)。刷新された [最近] (5) タブで、最近アクセスしたコンテンツを簡単かつ即座に見つけます。



関連トピック:

[セマンティック検索を使用した項目によるダッシュボードとデータセットの検索](#)

[スマートなおすすめによる関連ダッシュボードの検出](#)

[Tableau CRM コレクションでのインサイトの選定および共有](#)

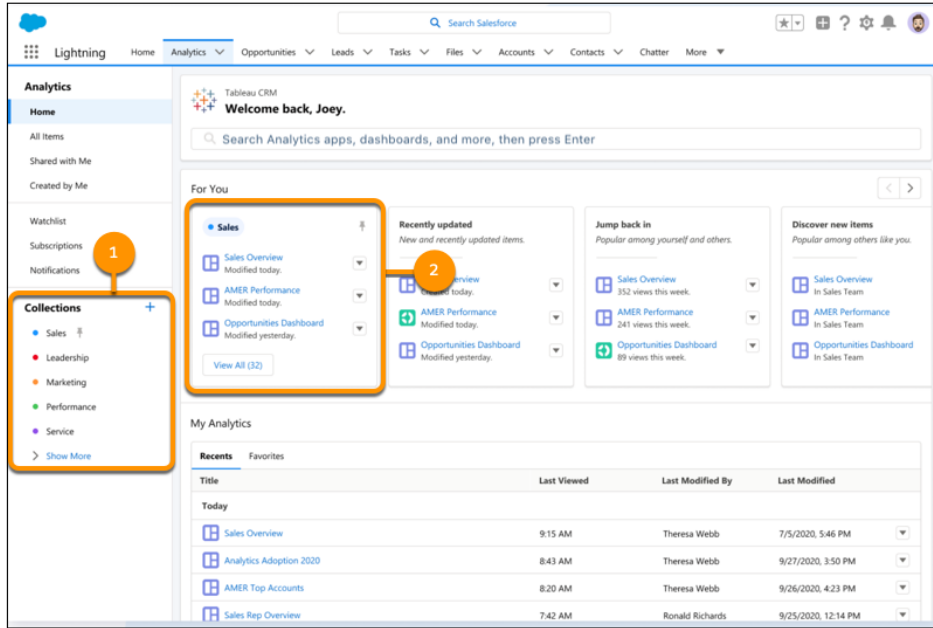
Tableau CRM コレクションでのインサイトの選定および共有

Tableau CRM コレクションは、レンズとダッシュボードのプレイリストのようなものです。コレクションでは、独自の項目グループを管理し、ホームページをパーソナライズできます。複数のアプリに分散している場合でも、関心のあるダッシュボードとレンズを追加することで、最適なコレクションを選定して整理された状態を維持できます。コレクション内の項目を好みに合わせて整理して、他のユーザーの入力を共有したり、取得したりすることができます。コレクションを選定したら、登録してお気に入りのインサイトを受信します。

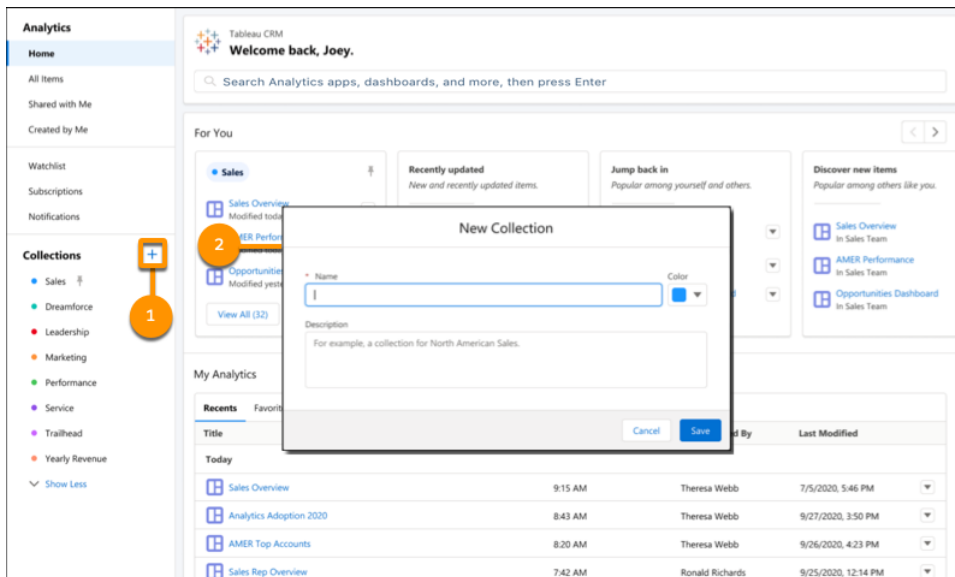
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザー: すべてのユーザーがコレクションを作成して共有できます。コレクションをホームページに固定するには、「Tableau CRM の管理」権限が必要です。

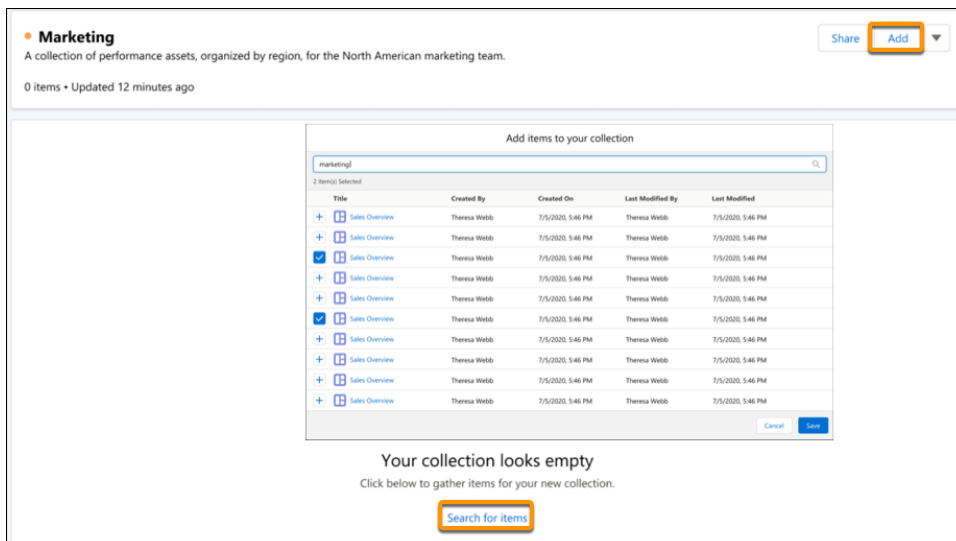
方法: 重要な項目のグループを作成し、ホームページをパーソナライズすることで、必要な項目にすばやくアクセスできるようになります (1)。さまざまな種別のユーザーを対象とし、ユーザーの特定のロールと機能に応じたホーム環境を提供するコレクションを固定します (2)。



コレクションを作成するには、+をクリックします(1)。**[新規コレクション]**ウィンドウ(2)で、コレクションの名前を入力し、コレクションの内容を記述します。

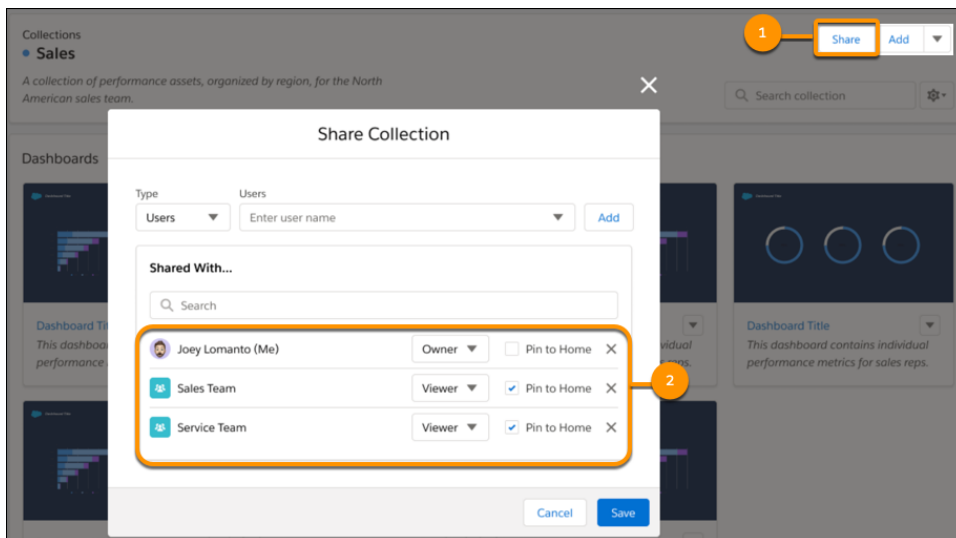


[項目を検索]または**[追加]**をクリックして、コレクションに項目を追加します。コレクション内の項目を並べ替えるには、項目をクリックして新しい場所にドラッグします。



[共有] (1) をクリックして、コレクションをユーザ、グループ、またはロールと共有します。ユーザには、[閲覧者]、[エディタ]、[マネージャ] ロールを付与できます。[閲覧者] はコレクションのコンテンツを表示できます。[エディタ] はコレクションの項目の追加、削除、および並べ替えを行えます。[マネージャ] は共有設定の変更、コレクションプロパティの編集、コレクションの削除を行えます。

「Tableau CRM の管理」権限を持つシステム管理者とマネージャは、[ホームに固定] (2) をオンにして、コレクションをユーザのホームページに追加できます。



関連トピック:

[複数の共有コレクションの登録](#)

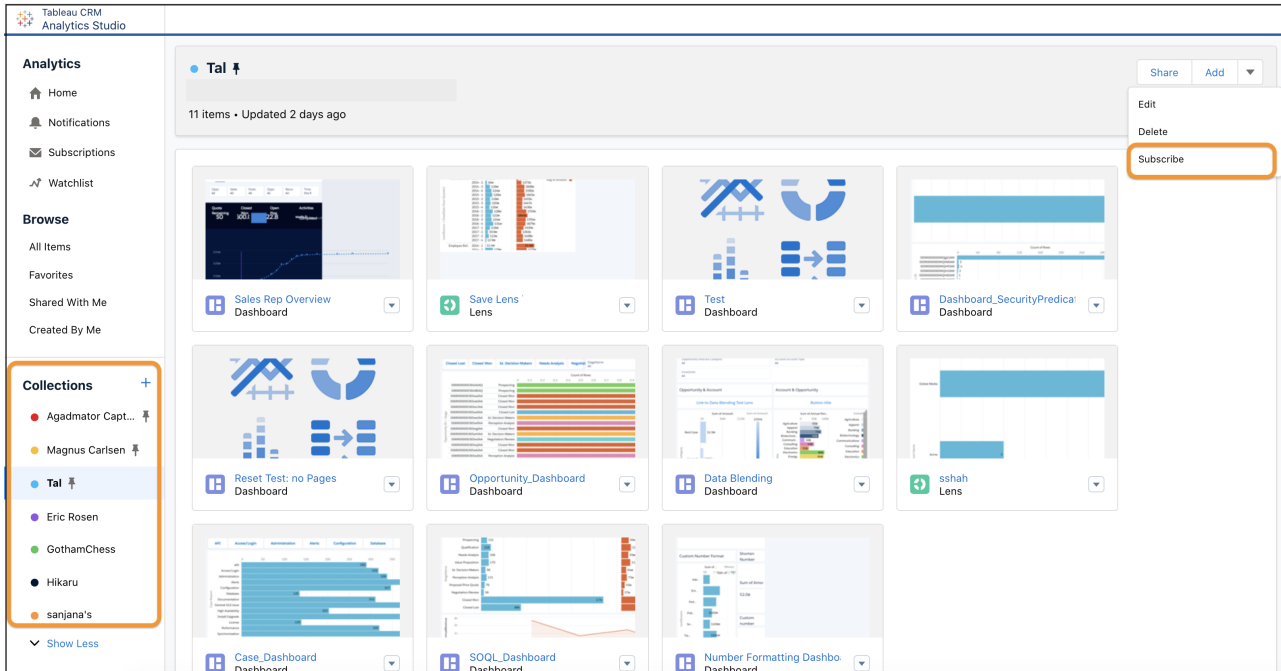
複数の共有コレクションの登録

最も重要なレンズのコレクションを受信箱に直接配信する登録を使用して、ユーザによる当て推量の分析を減らします。新しい Tableau CRM のコレクション機能の一部として、ユーザはあなたが作成して共有したコレクションに登録できます。各ユーザは4つのコレクションに登録できます。各コレクション登録には、ユーザが Tableau CRM からメールを受信する独自のスケジュールがあります。コレクション登録にはレンズのみが表示されますが、ユーザはダッシュボードウィジェットに直接登録できます。

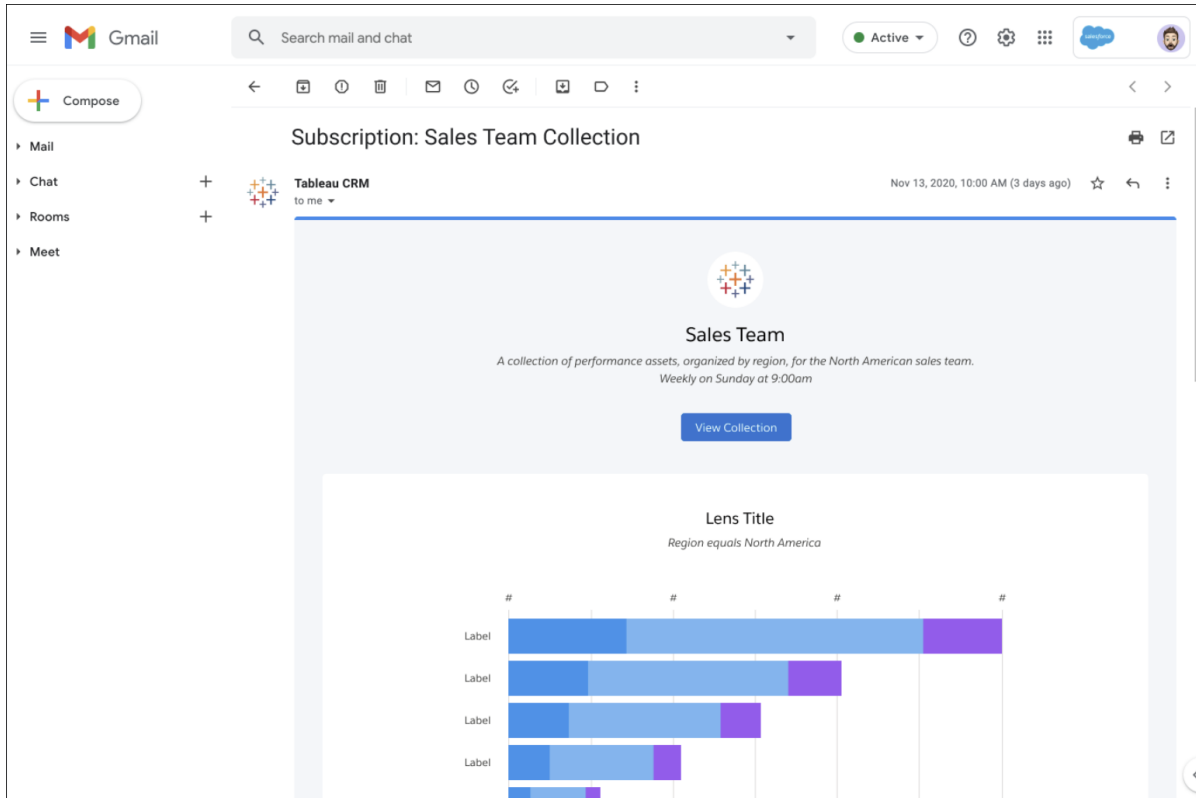
対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ:登録にアクセスするには、「登録メールを使用」ユーザ権限が必要です。ユーザがテーブルを登録して、登録メールでダウンロード済みのテーブルデータ (.csv 添付ファイル) を受信できるようにするには、「Analytics データのダウンロード」ユーザ権限も必要です。

方法:コレクションに登録するには、コレクションのページのメニューで [登録] を選択します。



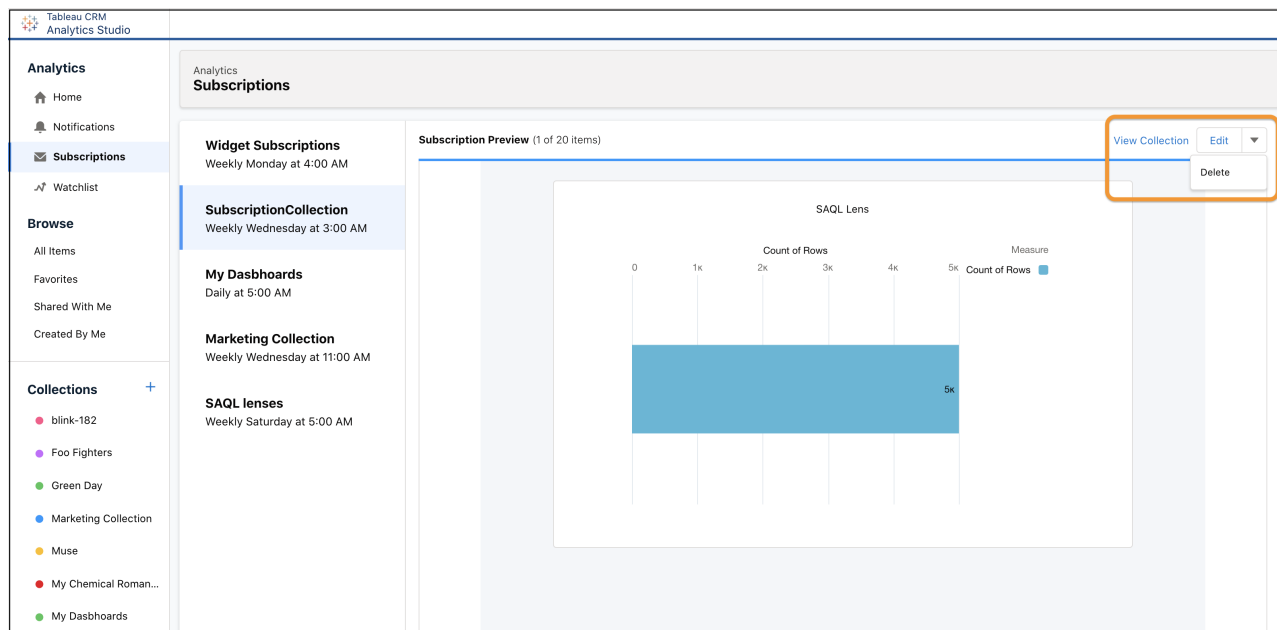
登録メールには、Tableau CRM ホームページのコレクションへのリンクと、各レンズへの直接リンクが含まれます。



このリリースでは、Salesforce Analytics Query Language (SAQL) 形式のレンズがグラフとテーブルとしてメールに表示されます。レンズが SAQL 形式でない場合、メールには Tableau CRM 内のレンズへのリンクのみが記載されます。レンズを SAQL に変換するには、エクスプローラのクエリモードでレンズを開き、クエリを実行して保存します。

ヒント: 他のユーザ用にコレクションを作成する場合、コレクション内の最初の20個のレンズが登録メールに含まれることに留意してください。ユーザが最も重要なレンズを受け取るように、コレクション内のサムネイルをスライドしてコレクションを選定します。レンズを SAQL 形式で保存し、ユーザにレンズへのアクセス権があることを確認してください。

ウィジェットやレンズの直接登録は、ウィジェットサブスクリプション(旧称「デフォルト」)でグループ化されるようになり、以前と同様に機能します。ウィジェットサブスクリプションまたはコレクション登録のいずれかを削除するには、登録のプレビューメニューを開き、[削除]を選択します。



関連トピック:

[Tableau CRM コレクションでのインサイトの選定および共有](#)

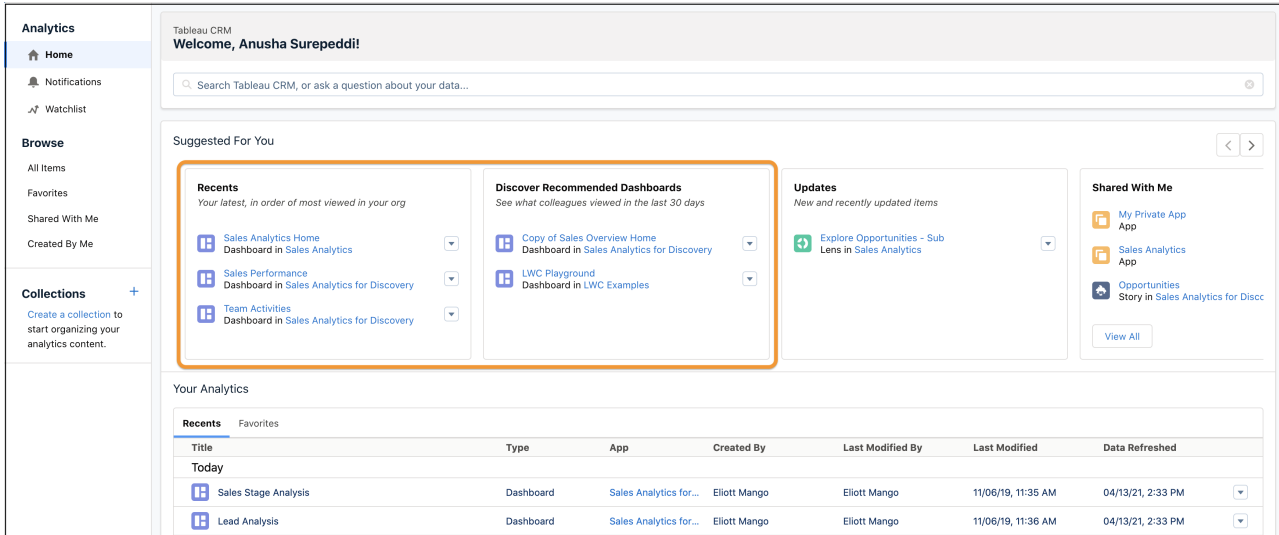
[Salesforce ヘルプ: Subscribe to Multiple Shared Collections \(複数の共有コレクションへの登録\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

スマートなおすすめによる関連ダッシュボードの検出

Tableau CRM ホームページの新しいスマートなおすすめカードによって、作業に関連するダッシュボードが表示されます。Tableau CRM の組織固有のビューから得たインテリジェンスを利用して、パーソナライズされたおすすめで重要な分析を特定し、現在人気の高いダッシュボードを表示し、これまで見たことのない分析を見つけやすくします。


対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:スマートなおすすめカードは[おすすめ]セクションに表示されます。組織で複数のユーザがダッシュボードを使用している場合、カードは Tableau CRM で作業を開始するとすぐに表示されます。



[最近参照したデータ]カードには、あなたが最近参照したダッシュボードのうち、組織内の同僚に人気の高いダッシュボードが表示されます。ダッシュボードは参照回数が多い順に表示されるため、あなたと使用パターンが似ているユーザがどのようなデータを参照しているのかを把握できます。

[おすすめのダッシュボードを検出]カードには、過去30日間の人気度に基づいて、これまで見たことがないけれども、あなたに関連する可能性があるダッシュボードが表示されます。同僚が参照しているのであれば、それらのダッシュボードから有益なインサイトを得られる可能性があります。

 **メモ:** おすすめは、Tableau CRM のユーザ共有ルールと行レベルのセキュリティに準拠します。スマートなおすすめカードに表示されるのはユーザにアクセス権があるダッシュボードのみです。

Analytics モバイルアプリケーション

Web タブを使って最小限のタップ回数で即座にダッシュボードを使用し、他のToDoを完了した後に簡単に自分のダッシュボードに戻ることができます。

このセクションの内容:

ダッシュボードの即座の操作

ダッシュボードを開いて使用するために、再度タップしなければならないことにうんざりしていませんか? Web タブにダッシュボードを追加することで、モバイルユーザがアクションの起動、リンクのタップ、検索条件の適用を即座に行うことができるようになりました。Web タブは新機能ではありませんが、Web タブを使用することでモバイルダッシュボードを迅速化できます。

高度なモバイルナビゲーションを使用したダッシュボードとアクション間の迅速な移動

従来よりも簡単にダッシュボードに戻ることができるようになりました。ダッシュボードリンクをタップして、ダッシュボードからレコードを作成します。その後、タップして戻っても、ダッシュボードの検索条件と設定は保持されます。

Tableau CRM for iOS および Android の最新バージョンの取得

最新の機能強化を活用し、バグ修正を適用するには、Tableau CRM for iOS および Android のバージョン 13.1 にアップグレードします。

ダッシュボードの即座の操作

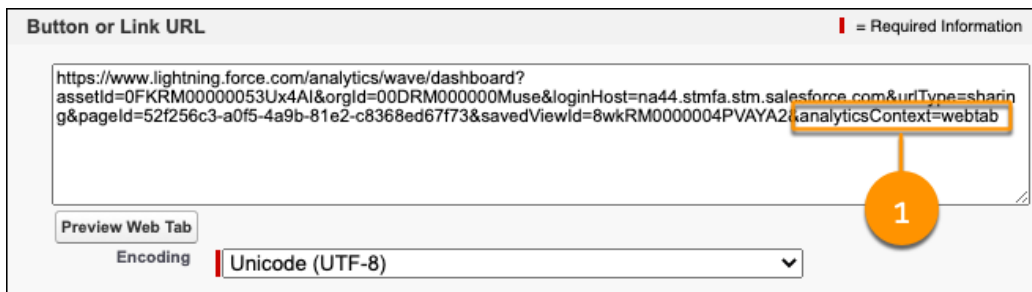
ダッシュボードを開いて使用するために、再度タップしなければならないことにうんざりしていませんか? Web タブにダッシュボードを追加することで、モバイルユーザがアクションの起動、リンクのタップ、検索条件の適用を即座に行うことができるようになりました。Web タブは新機能ではありませんが、Web タブを使用することでモバイルダッシュボードを迅速化できます。

対象: この変更は Lightning Experience および iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションの Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

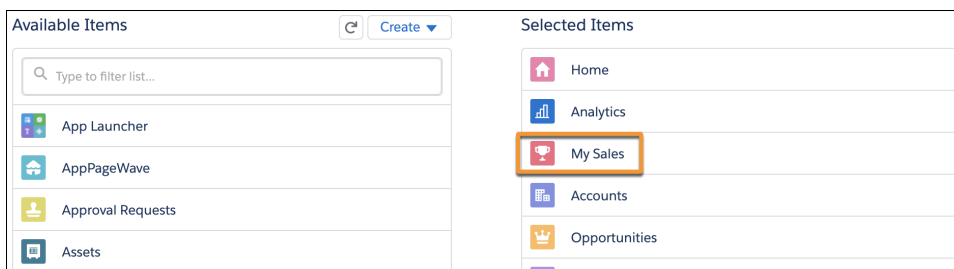
方法: ダッシュボードを即座に使用できるようにするには、Web タブを作成してダッシュボード URL を追加し、タブをユーザのナビゲーションに追加します。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「タブ」と入力し、[タブ] を選択します。Web タブを作成してカスタマイズします。たとえば、営業チームが営業商談の対話型ダッシュボードにアクセスできるように、[My Sales (私の売上)] タブを作成します。



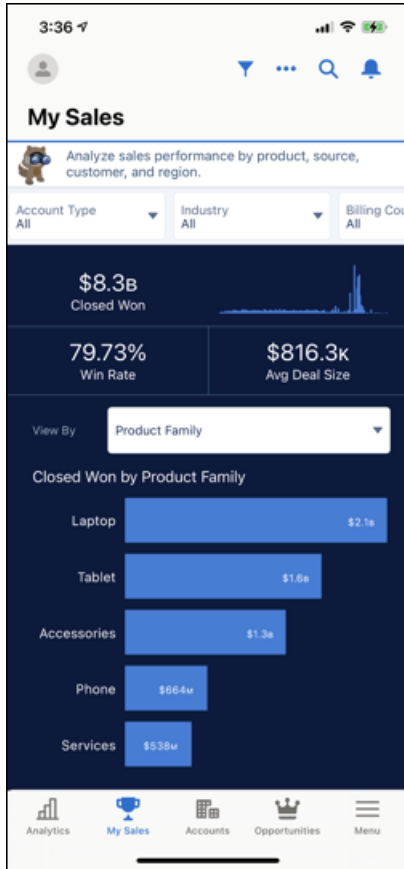
Web タブにダッシュボード URL を追加します。ダッシュボード URL を取得するには、デスクトップでダッシュボードを開いて [共有] を選択し、[URL を取得] を選択します。URL を Web タブに貼り付け、analyticsContext を analyticsTab から weftab に変更します (1)。



Lightning アプリケーションビルダーでユーザのナビゲーションにこのタブを追加します。



これで、ユーザはダッシュボードを即座に操作できます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Web タブの作成](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: Lightning アプリケーションのナビゲーションバー項目](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

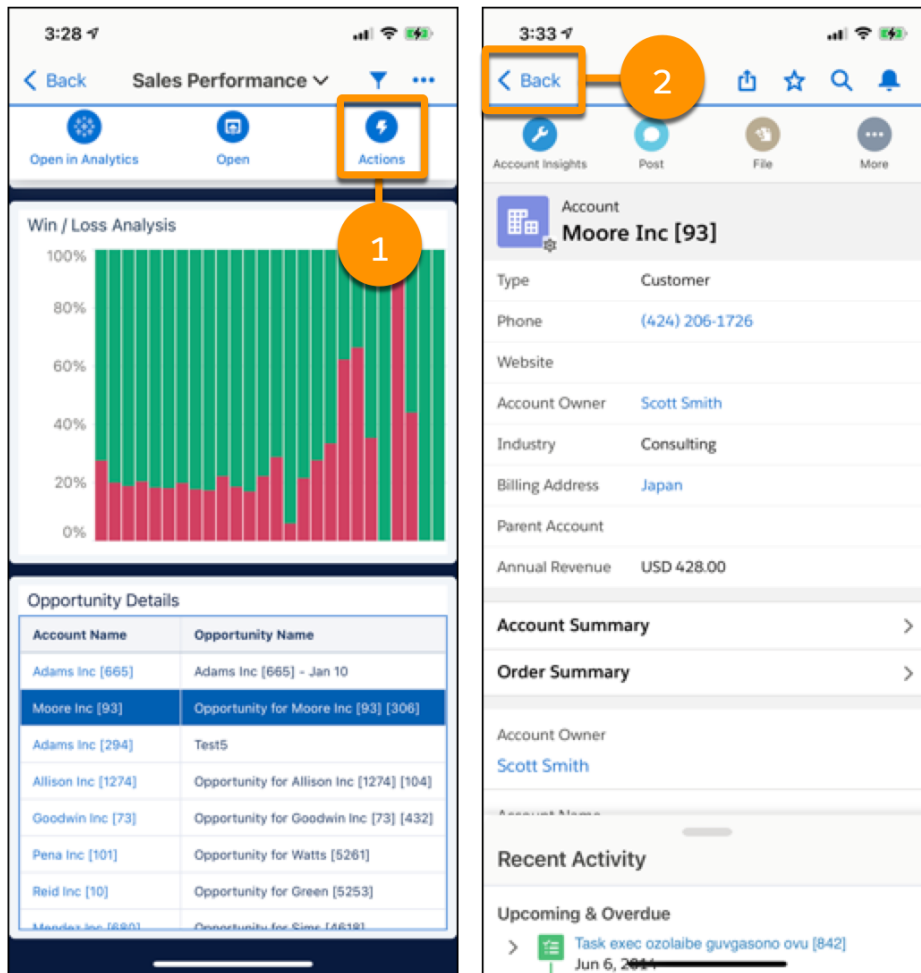
[Salesforce ヘルプ: モバイルデバイスでの組み込みダッシュボードの表示](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

高度なモバイルナビゲーションを使用したダッシュボードとアクション間の迅速な移動

従来よりも簡単にダッシュボードに戻ることができるようになりました。ダッシュボードリンクをタップして、ダッシュボードからレコードを作成します。その後、タップして戻っても、ダッシュボードの検索条件と設定は保持されます。

対象: この変更は Lightning Experience および iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションの Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:ダッシュボードのコンテキストが保持されるため、業務を円滑に進められます。たとえば、ダッシュボードアクションを使用して、ToDoを作成します(1)。その後、検索条件と設定が適用された状態のまま簡単にダッシュボードに戻ることができます(2)。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:使用する Analytics モバイル環境の選択\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

Tableau CRM for iOS および Android の最新バージョンの取得

最新の機能強化を活用し、バグ修正を適用するには、Tableau CRM for iOS および Android のバージョン 13.1 にアップグレードします。

対象:これらの変更は、Tableau CRM for iOS および Tableau CRM for Android に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:最新の機能強化を取得するには、App Store または Google Play から Tableau CRM をダウンロードします。

Tableau CRM for iOS の新機能を確認してください。

- バージョン 13.1 の新機能。
 - インターネットにアクセスせずに最新のインサイトを取得。オフラインデータが自動的に更新されるようになりました。
 - 接続していなくても全体像を把握。オフラインモードでもダッシュボードに画像が表示されるようになりました。
 - Tableau CRM Direct Data for Snowflake のサポートに加えて、ライブデータセットの SQL もサポート。
 - バグ修正。
- バージョン 13.0 の新機能。
 - リッチテキストのサポートを含む Summer '21 機能のサポート。
 - バグの修正や操作性の向上。

Tableau CRM for Android の新機能を確認してください。

- バージョン 13.1 の新機能。
 - Tableau CRM Direct Data for Snowflake のサポートに加えて、ライブデータセットの SQL もサポート。
 - 比較テーブルのマージされた列により、モバイルデバイスでも表形式のデータを簡単に読み込み、解析。
 - 範囲ウィジェットが更新され、デスクトップと表示が一致するようになりました。
 - バグ修正。
- バージョン 13.0 の新機能。
 - リッチテキストのサポートを含む Summer '21 機能のサポート。
 - バグの修正や操作性の向上。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 使用する Analytics モバイル環境の選択\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

コマース

Lightning Experience の Salesforce B2B2C Commerce では、エンドツーエンドの B2C ストアフロントコマースソリューションに Salesforce プラットフォームの機能を取り込むことができます。B2B Commerce には、システム管理者によるアプリケーションの設定と店舗マネージャによる商品の管理を容易にする機能強化と、Einstein Search の提案の強化、新しいチェックアウトとインテグレーションのオプションが含まれています。オムニチャネル在庫では、更新されたフローコアアクションが提供されます。Salesforce Order Management では、返品注文の管理と追跡ができる新しいフロー、注文データを Marketing Cloud で使用する機能、買い物客の新しいセルフサービス機能が導入されます。

このセクションの内容:

B2B2C Commerce (正式リリース)

B2B2C Commerce ライセンスで Lightning プラットフォームの機能を活用および拡張し、買い物客に応じてセルフサービスストアを構築します。B2B2C Commerce は Salesforce プラットフォーム上にネイティブに構築されています。B2B2C Commerce ソリューションを設定すると、Salesforce プラットフォームのすべての標準テクノロジーの信頼された機能、セキュリティ、拡張性を利用できます。B2B2C Commerce と B2B Commerce では、Salesforce Commerce のデータモデル、検索、おすすめ、ガイド付きストアフロント設定環境、共有された基本コンポーネント、およびパートナーエコシステムが共有されます。エンドツーエンドの D2C B2C ストアフロントを構築するための一貫した環境がこれらすべてで提供されます。B2B2C Commerce の概要については、「[Sell Direct to Consumers with Salesforce B2B2C Commerce \(Salesforce B2B2C Commerce を使用した顧客への直接販売\)](#)」動画を参照してください。

B2B Commerce for Lightning

B2B Commerce を有効にして、Commerce アプリケーション、オブジェクト、およびワークスペースにアクセスします。ストアマネージャは、ハイブリッドリストをカスタマイズして、商品をより簡単に管理できます。Einstein の検索の推奨結果が表示され、顧客は探している商品を見つけやすくなります。それだけではありません。

オムニチャネル在庫

オムニチャネル在庫の機能強化に、更新されたフローコアアクションがあります。

Salesforce Order Management

Salesforce Order Management では、新しい返品管理承認ワークフロー、フローでの新しい返品機能、Marketing Cloud で注文データを使用する機能、B2C Commerce のセルフサービスツールが追加されます。

B2B2C Commerce (正式リリース)

B2B2C Commerce ライセンスで Lightning プラットフォームの機能を活用および拡張し、買い物客に応じてセルフサービスストアを構築します。B2B2C Commerce は Salesforce プラットフォーム上にネイティブに構築されています。B2B2C Commerce ソリューションを設定すると、Salesforce プラットフォームのすべての標準テクノロジーの信頼された機能、セキュリティ、拡張性を利用できます。B2B2C Commerce と B2B Commerce では、Salesforce Commerce のデータモデル、検索、おすすめ、ガイド付きストアフロント設定環境、共有された基本コンポーネント、およびパートナーエコシステムが共有されます。エンドツーエンドの D2C B2C ストアフロントを構築するための一貫した環境がこれらすべてで提供されます。B2B2C Commerce の概要については、「[Sell Direct to Consumers with Salesforce B2B2C Commerce \(Salesforce B2B2C Commerce を使用した顧客への直接販売\)](#)」動画を参照してください。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition および Developer Edition で使用できます。

時期: B2B2C Commerce は、2021 年 6 月 15 日以降、Lightning Experience、Enterprise Edition および Developer Edition 組織で有効化できます。

対象ユーザー: この機能は、Salesforce B2B2C Commerce ライセンスを持つユーザーが使用できます。

理由: B2B2C Commerce では次のことができます。

- コマース管理者は Salesforce で Commerce オブジェクトにアクセスできます。
- コマース管理者とマーチャンダイザーは、Commerce アプリケーションを使用してストアのコンテンツ、エンタイトルメント、価格表を管理できます。
- コマース管理者は、買い物客が検索を使用して商品を見つけることができるように設定できます。

- コマース管理者とマーチャンダイザーは、B2Cストアフロントテンプレートと、コード不要のページ編集機能を使用して、エクスペリエンスビルダーの組み込み機能でストアを容易に作成できます。
- コマース管理者は、設定済みのデータインポート CSV ファイルを使用して、商品をカタログに効率的にインポートできます。
- コマース管理者は、Salesforce Order Management 機能 (支払収集、キャンセル、簡単な返品、および簡単な履行を含む) に統合された管理注文をインポートできます。
- 独立系ソフトウェアベンダー (ISV) は、システムインテグレーションパートナーと支払、税、および配送インテグレーションの充実したエコシステムを探索できます。

このセクションの内容:

Commerce 操作の統合

B2B2C、B2B、注文管理、およびパートナーエコシステム用の1つのグローバルプラットフォームと統合データモデルを使用してビジネスを成長させます。Salesforce プラットフォーム上に構築された B2B2C Commerce を使用すると、買い物客を注文ライフサイクル全体にわたって1つのビューで把握できます。

B2B2C Commerce を使用した完全機能のストアの迅速な開始

コードをほとんど使用しない設定とカスタマイズ、簡素化されたデータインポート、クラウド全体で共有されたワークフローを使用してコマースサイトの稼働を迅速に開始します。

人工知能を使用したパーソナライズされたショッピング体験の作成

Commerce Einstein のおすすすめと検索を使用して、買い物客がサイト訪問の目的である商品と追加の商品をドラッグアンドドロップで容易に見つけて購入できるようにします。組織全体にわたる顧客データを接続および管理して、人工知能により強化されたパーソナライズされた環境を提供します。

マーケティングから営業への顧客のジャーニーの接続

CRM 機能を備え、完全なエコシステムに接続された顧客ジャーニー (Salesforce Marketing から Salesforce Sales、Salesforce Commerce、Salesforce Service まで) を使用して、最速のパスを經由してデジタルトランスフォーメーションを完了します。AppExchange の支払、税、および配送インテグレーションとシステムインテグレートパートナーの充実したエコシステムを探索し、ビジネスを加速して実装コストを削減します。

Commerce 操作の統合

B2B2C、B2B、注文管理、およびパートナーエコシステム用の1つのグローバルプラットフォームと統合データモデルを使用してビジネスを成長させます。Salesforce プラットフォーム上に構築された B2B2C Commerce を使用すると、買い物客を注文ライフサイクル全体にわたって1つのビューで把握できます。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザー: この機能は、B2B2C Commerce ライセンスを持つユーザーが使用できます。

理由: 営業とサービスですでに使用しているプラットフォームで、標準の Commerce オブジェクトとコンポーネントを B2B2C、B2B、および注文管理で使用して、充実した統合 Commerce 環境を構築します。

コマース管理者とマーチャンダイザーは、共有された Commerce アプリケーションを使用して、B2B2C および B2B の使用事例でストアのカタログコンテンツ、商品、および価格表を管理できます。

B2B2C Commerce を使用した完全機能のストアの迅速な開始

コードをほとんど使用しない設定とカスタマイズ、簡素化されたデータインポート、クラウド全体で共有されたワークフローを使用してコマースサイトの稼働を迅速に開始します。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、B2B2C Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: B2C ストアフロントテンプレートとエクスペリエンスビルダーを使用して、ブランド設定された完全機能の Commerce 環境をコードではなくクリックで作成します。コマース管理者はデータインポート CSV ファイルを使用して B2B と B2B2C の両方の商品とカタログデータをすばやくインポートして、商品、カテゴリ、価格表、およびエンタイトルメントポリシー間の主要なオブジェクトリレーションを容易に作成および更新できます。

人工知能を使用したパーソナライズされたショッピング体験の作成

Commerce Einstein のおすすめと検索を使用して、買い物客がサイト訪問の目的である商品と追加の商品をドラッグアンドドロップで容易に見つけて購入できるようにします。組織全体にわたる顧客データを接続および管理して、人工知能により強化されたパーソナライズされた環境を提供します。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、B2B2C Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: 検索では次のことができます。

- 商品を検索可能または検索不可としてマークする
- 商品項目を検索可能にする
- 検索条件を追加する
- 検索結果とカテゴリページの表示設定を定義する

おすすめでは、次を取得できます。

- 活動の追跡 (実装は不要)
- 一般的な使用事例でのおすすめ (類似商品、補完商品、最近参照したデータ)
- おすすめのヘッダーテキストの定義
- 推奨する商品の数の制御
- 買い物客に表示することが推奨される商品の数の制御

マーケティングから営業への顧客のジャーニーの接続

CRM 機能を備え、完全なエコシステムに接続された顧客ジャーニー (Salesforce Marketing から Salesforce Sales、Salesforce Commerce、Salesforce Service まで) を使用して、最速のパスを経由してデジタルトランスフォーメーションを完了します。AppExchange の支払、税、および配送インテグレーションとシステムインテグレータパートナーの充実したエコシステムを探索し、ビジネスを加速して実装コストを削減します。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、B2B2C Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

B2B Commerce for Lightning

B2B Commerce を有効にして、Commerce アプリケーション、オブジェクト、およびワークスペースにアクセスします。ストアマネージャは、ハイブリッドリストをカスタマイズして、商品をより簡単に管理できます。Einstein の検索の推奨結果が表示され、顧客は探している商品を見つけやすくなります。それだけではありません。

このセクションの内容:

Commerce アプリケーション

B2B Commerce を有効にして、Commerce アプリケーションとオブジェクトの使用、商品ハイブリッドリストのカスタマイズ、および各ストアの商品リストの自動取得を行います。注文リストコンポーネントでは、注文の表示、管理、および並べ替えが可能です。また、ストアのカatalogにさらに商品を追加したり、ゲストがストアを閲覧しやすいようにしたりできます。

B2B Commerce 検索

Einstein の検索の推奨結果の取得、商品検索結果の並べ替え、価格の個別読み込み、検索結果がない場合のリダイレクトの除外を行います。

B2B Commerce チェックアウトとインテグレーション

チェックアウトフローから直接、管理または未管理の注文種別を自動的に作成するように選択できます。新しい支払コンポーネントを使用して、支払いをトークン化し、支払構造を作成します。

その他の変更

B2B Commerce for Lightning を向上させる小規模な変更について説明します。

Commerce アプリケーション

B2B Commerce を有効にして、Commerce アプリケーションとオブジェクトの使用、商品ハイブリッドリストのカスタマイズ、および各ストアの商品リストの自動取得を行います。注文リストコンポーネントでは、注文の表示、管理、および並べ替えが可能です。また、ストアのカatalogにさらに商品を追加したり、ゲストがストアを閲覧しやすいようにしたりできます。

このセクションの内容:

Commerce アプリケーションと Commerce オブジェクトを使用するための Commerce の有効化

企業間 (B2B) と企業対消費者 (B2C) のコマースソリューションを設計、構築、稼働して、小売業者、卸売業者、流通業者が商品やサービスをお客様のブランドから購入できるようにします。[コマースを有効化]を選択して、Commerce アプリケーションおよび Commerce オブジェクトへのアクセス権をオンにします。

ストアおよびカatalogへのより多くの商品の追加

B2B ストアで最大 100 万件の商品を追加できます。この数は 35 万件から増加しました。同じ増加がカatalogに適用され、最大 100 万件の商品を追加できます。バイヤーがより多くの在庫を使用できるようにします。

商品バリエーションのグループ化の正式リリース

検索結果で、商品のすべてのバリエーションを表示するか、バリエーションへのリンクを含む親商品のみを表示するかを選択できるようになりました。

商品ワークスペースでのハイブリッドリストのカスタマイズ

必要な情報を使用して商品ハイブリッドリストを作成、更新、保存します。表示する列を選択し、検索条件を追加し、最もわかりやすい名前ですべてのリストを保存できます。

各ストアの商品ハイブリッドリストの取得

各ストアに関連付けられている商品を容易に確認します。ストアの商品ハイブリッドリストは自動的に作成されます。商品ワークスペースのドロップダウンメニューからストアリストを選択して、在庫をストアごとに管理します。

ゲスト閲覧者に対する商品共有ルールの設定のスキップ

商品共有ルールを設定する必要がなくなったため、ストア用のゲスト閲覧設定の取得が簡単になりました。

注文リストコンポーネントを使用した確認と再注文

注文リストコンポーネントを使用して、ユーザが過去の注文をすべて確認できるようになりました。注文日を基準にして絞り込みと並び替えを行い、詳細を確認し、さらに再注文することもできます。また、アクションの非表示、表示ラベルの変更、および表示するフィールドの選択を行えます。注文概要履歴コンポーネントは、このコンポーネントに置き換えられます。

注文リストコンポーネントを使用するための注文メニュー項目の更新

[カスタマイズ可能なユーザプロファイルメニュー]の[注文]メニュー項目で、注文リストコンポーネントを使用できるようになりました。ユーザが注文リストページにアクセスできるようにするには、若干の更新を行う必要があります。この変更は、新しいコンポーネントの使用を希望する既存の組織にのみ適用されます。新しい組織がある場合やコンポーネントを更新していない場合は、何もする必要はありません。

ユーザ権限を使用した注文および出荷作業の委任

注文と出荷プロセスをサードパーティのツールと統合することで、時間を大幅に節約することができますが、誰もがアクセスできるようになっては本末転倒です。これには、「Commerce インテグレータ」と「Commerce 出荷ユーザ」の2つのユーザ権限を使用して、これらのプロセスにアクセスできるユーザを決定することで対応できます。

バイヤーアカウントとしての個人取引先の使用

ストアレコードに個人取引先と標準取引先を含めることができるようになりました。取引先は企業、取引先責任者は人というのが一般的ですが、ストアの場合はそうとは限りません。以前は、直接購入する個人が取引先である場合、これを表示するのは簡単ではありませんでした。

BuyerGroup および BuyerGroupMember 関連付けの変更によるパフォーマンスの向上

パフォーマンスと拡張性を向上させるために、BuyerGroup と BuyerGroupMember オブジェクト間のリレーションが更新されました。この更新により、バイヤーグループにアクセスできるユーザがバイヤーグループメンバーにアクセスできなくなりました。アクセスの問題を修正するには、ユーザに「すべて表示」または「すべて変更」権限を付与してください。また、この更新では共有ルールと積み上げ集計項目も変更されています。

B2B Commerce の事前設定済み権限セットの有効化

Commerce アプリケーションおよびオブジェクトへのアクセス権をユーザに付与するときの時間を節約します。バイヤーとバーヤーマネージャの権限セットがCommerce に組み込まれるようになりました。必要なアクセス権を1回のクリックで有効にできます。

Commerce アプリケーションと Commerce オブジェクトを使用するための Commerce の有効化

企業間 (B2B) と企業対消費者 (B2C) のコマースソリューションを設計、構築、稼働して、小売業者、卸売業者、流通業者が商品やサービスをお客様のブランドから購入できるようにします。[コマースを有効化]を選択して、Commerce アプリケーションおよび Commerce オブジェクトへのアクセス権をオンにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

対象ユーザー: この変更は、B2C Commerce ライセンスまたは B2B Commerce ライセンスを持つユーザーに適用されません。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Commerce」と入力し、[Commerce] > [設定] を選択します。[コマースを有効化] を選択します。次に、[コマースを起動] をクリックします。

ストアおよびカタログへのより多くの商品の追加

B2B ストアで最大 100 万件の商品を追加できます。この数は 35 万件から増加しました。同じ増加がカタログに適用され、最大 100 万件の商品を追加できます。バイヤーがより多くの在庫を使用できるようにします。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。


理由: 常に戦略に従って商品をストアに追加します。商品数が増えると、バイヤーが検索を実行するときや、ストアの検索インデックスを再構築するときのパフォーマンスが低下する可能性があります。

商品バリエーションのグループ化の正式リリース

検索結果で、商品のすべてのバリエーションを表示するか、バリエーションへのリンクを含む親商品のみを表示するかを選択できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 商品バリエーションをグループ化するには、検索設定の下で設定を調整し、結果レイアウトコンポーネントで一部のプロパティを変更します。

 **メモ:** Summer '21 より前に作成された組織がある場合、商品バリエーションのグループ化を明示的に有効にして、検索インデックスを再構築する必要があります。

商品ワークスペースでのハイブリッドリストのカスタマイズ

必要な情報を使用して商品ハイブリッドリストを作成、更新、保存します。表示する列を選択し、検索条件を追加し、最もわかりやすい名前でもリストを保存できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Experience Cloud サイトに適用されます。

対象ユーザー: この変更は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザーに適用されます。

各ストアの商品ハイブリッドリストの取得

各ストアに関連付けられている商品を容易に確認します。ストアの商品ハイブリッドリストは自動的に作成されます。商品ワークスペースのドロップダウンメニューからストアリストを選択して、在庫をストアごとに管理します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Experience Cloud サイトに適用されます。

対象ユーザ: この変更は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザに適用されます。

ゲスト閲覧者に対する商品共有ルールの設定のスキップ

商品共有ルールを設定する必要がなくなったため、ストア用のゲスト閲覧設定の取得が簡単になりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

注文リストコンポーネントを使用した確認と再注文

注文リストコンポーネントを使用して、ユーザが過去の注文をすべて確認できるようになりました。注文日を基準にして絞り込みと並び替えを行い、詳細を確認し、さらに再注文することもできます。また、アクションの非表示、表示ラベルの変更、および表示するフィールドの選択を行えます。注文概要履歴コンポーネントは、このコンポーネントに置き換えられます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

注文リストコンポーネントを使用するための注文メニュー項目の更新

[カスタマイズ可能なユーザプロファイルメニュー]の[注文]メニュー項目で、注文リストコンポーネントを使用できるようになりました。ユーザが注文リストページにアクセスできるようにするには、若干の更新を行う必要があります。この変更は、新しいコンポーネントの使用を希望する既存の組織にのみ適用されます。新しい組織がある場合やコンポーネントを更新していない場合は、何もする必要はありません。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [カスタマイズ可能なユーザプロファイルメニュー]コンポーネントで、[注文]メニュー項目を開きます。サイトページを注文概要リストに、URL を OrderSummary/OrderSummary/Default に更新します。

ユーザ権限を使用した注文および出荷作業の委任

注文と出荷プロセスをサードパーティのツールと統合することで、時間を大幅に節約することができますが、誰もがアクセスできるようになっては本末転倒です。これには、「Commerce インテグレータ」と「Commerce 出荷ユーザ」の2つのユーザ権限を使用して、これらのプロセスにアクセスできるユーザを決定することで対応できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 「Commerce インテグレータ」 権限を持つユーザはインテグレーションを処理して、外部の注文管理システムとの間で注文をエクスポートおよびインポートできます。「Commerce 出荷ユーザ」 権限で、ユーザに出荷管理システムへのアクセス権を付与します。アクセス権のレベルは、注文概要へのアクセス権と同じです。たとえば、ユーザに注文概要に対する「参照」アクセス権が付与されている場合は、出荷に対する「参照」アクセス権も付与されています。

バイヤーアカウントとしての個人取引先の使用

ストアレコードに個人取引先と標準取引先を含めることができるようになりました。取引先は企業、取引先責任者は人というのが一般的ですが、ストアの場合はそうとは限りません。以前は、直接購入する個人が取引先である場合、これを表示するのは簡単ではありませんでした。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

BuyerGroup および BuyerGroupMember 関連付けの変更によるパフォーマンスの向上

パフォーマンスと拡張性を向上させるために、BuyerGroup と BuyerGroupMember オブジェクト間のリレーションが更新されました。この更新により、バイヤーグループにアクセスできるユーザがバイヤーグループメンバーにアクセスできなくなりました。アクセスの問題を修正するには、ユーザに「すべて表示」または「すべて変更」権限を付与してください。また、この更新では共有ルールと積み上げ集計項目も変更されています。

対象: この機能は、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning B2B Commerce テンプレートで使用できます。

理由: 改善が行われただけでなく、この変更は共有ルールにも影響します。バイヤーグループで作成された共有ルールは、バイヤーグループメンバーに自動的に適用されません。また、所有者項目が BuyerGroupMember オブジェクトに追加されましたが、BuyerGroup オブジェクトの項目をフローの設定に利用することはできません。BuyerGroupMember の承認フローとワークフローを検証し、期待通りに動作することを確認してください。また、バイヤーグループメンバーからバイヤーグループの積み上げ集計項目はサポートされなくなりました。

方法: 自分自身やユーザがログインしたときに期待通りに表示されない場合は、権限を更新してください。「すべて表示」権限では、ユーザは他のユーザが追加したバイヤーグループメンバーを表示でき、「すべて変更」権限では、ユーザは他のユーザが追加したバイヤーグループメンバーを削除できます。

共有ルールを適切に機能させるには、バイヤーグループ用に作成した共有ルールをバイヤーグループメンバー用にも作成します。バイヤーグループメンバーの承認フローとワークフローを Sandbox 組織で検証します。

バイヤーグループの積み上げ集計項目をバイヤーグループメンバーから削除します。

B2B Commerce の事前設定済み権限セットの有効化

Commerce アプリケーションおよびオブジェクトへのアクセス権をユーザに付与するときの時間を節約します。バイヤーとバーヤーマネージャの権限セットが Commerce に組み込まれるようになりました。必要なアクセス権を 1 回のクリックで有効にできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

対象ユーザ: この変更は、B2C Commerce ライセンスまたは B2B Commerce ライセンスを持つユーザに適用されません。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「権限セット」と入力し、[権限セット] を選択します。使用可能な Commerce 権限セットのいずれかを選択します。

B2B Commerce 検索

Einstein の検索の推奨結果の取得、商品検索結果の並び替え、価格の個別読み込み、検索結果がない場合のリダイレクトの除外を行います。

このセクションの内容:

Einstein の検索の推奨結果の正式リリース (正式リリース)

B2B ストアでは、認証済みバイヤーとゲストバイヤーのパーソナライズされた商品検索の推奨結果が Einstein によって強化されます。バイヤーが正しい商品を迅速に見つけることができますようにします。

返される商品検索結果がない場合のリダイレクトの除外

B2B ストアの商品検索で結果が生成されない場合、バイヤーを [検索結果がありません] ページにリダイレクトできます。リダイレクトをスキップする場合は、結果なしの環境を検索結果ページに直接作成できるようになりました。

商品検索結果の並び替え

バイヤーが商品検索結果を最良の一致、名前の昇順または降順、商品 SKU の昇順または降順で並び替えることができますようにします。検索結果の並び替えを有効にするには、結果レイアウトコンポーネントで新しいプロパティを使用します。

商品の検索結果と価格の個別読み込み

B2B ストアでは、商品価格と商品検索結果が分離されています。つまり、それぞれ個別に読み込まれます。バイヤーにとっては読み込み時間が短縮され、ページのパフォーマンスが改善されます。

より迅速な検索結果の取得

デフォルトでは、ユーザエンタイトルメントチェックが検索インデックス再構築の一環として実行され、商品検索結果が返されるときにも再度実行されます。この 2 番目のチェックをスキップして検索パフォーマンスを向上します。

Einstein の検索の推奨結果の正式リリース (正式リリース)

B2B ストアでは、認証済みバイヤーとゲストバイヤーのパーソナライズされた商品検索の推奨結果が Einstein によって強化されます。バイヤーが正しい商品を迅速に見つけることができますようにします。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 検索の推奨結果を使用すると、バイヤーが入力を完了する前であっても、関連する検索語がバイヤーに表示されます。関連性は、バイヤーの最近の検索に基づいています。推奨結果は、バイヤーが [検索] 項目内をクリックしたときと、検索語の入力を開始したときの 2 つの時点で表示されます。

方法: エクスペリエンスビルダーで商品検索コンポーネントを選択します。プロパティエディタで、[検索の推奨結果を表示] をオンにします。

Connect REST API および Connect in Apex では、検索の提案がサポートされています。

返される商品検索結果がない場合のリダイレクトの除外

B2B ストアの商品検索で結果が生成されない場合、バイヤーを [検索結果がありません] ページにリダイレクトできます。リダイレクトをスキップする場合は、結果なしの環境を検索結果ページに直接作成できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 検索結果ページで結果なしのメッセージを維持するには、エクスペリエンスビルダーを開き、結果レイアウトコンポーネントでプロパティを設定します。簡単なエディタを使用して独自の HTML および結果なしのメッセージを入力できます。

商品検索結果の並び替え

バイヤーが商品検索結果を最良の一致、名前の昇順または降順、商品SKUの昇順または降順で並び替えることができるようにします。検索結果の並び替えを有効にするには、結果レイアウトコンポーネントで新しいプロパティを使用します。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

Connect REST API および Connect in Apex では、商品検索結果の並び替えがサポートされています。

方法: デフォルトの検索コンポーネントでカスタムスタイルを使用している場合、Sandboxでそのカスタマイズの確認、テスト、変更を行います。

商品の検索結果と価格の個別読み込み

B2B ストアでは、商品価格と商品検索結果が分離されています。つまり、それぞれ個別に読み込まれます。バイヤーにとっては読み込み時間が短縮され、ページのパフォーマンスが改善されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 結果と価格を分離することで、検索ページを増分的に読み込むことができ、ページの読み込み時間が短縮されます。商品の読み込みとその価格の読み込みに時間のずれがある場合、プレースホルダテキスト「Price loading... (価格の読み込み...)」が表示されます。

より迅速な検索結果の取得

デフォルトでは、ユーザエンタイトルメントチェックが検索インデックス再構築の一環として実行され、商品検索結果が返されるときにも再度実行されます。この2番目のチェックをスキップして検索パフォーマンスを向上します。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ストアの検索設定で、[結果表示設定] タブを開き、[検索の追加エンタイトルメントチェックをスキップ] を選択します。

B2B Commerce チェックアウトとインテグレーション

チェックアウトフローから直接、管理または未管理の注文種別を自動的に作成するように選択できます。新しい支払コンポーネントを使用して、支払いをトークン化し、支払構造を作成します。

このセクションの内容:

チェックアウトからの未管理および管理注文の作成

注文をより柔軟に作成できたらと考えたことはありませんか?このような場合は、チェックアウトフローが最適です。どの注文種別をシステムで最も効率的に処理できるかを判断し、既に作成された注文を変換する手動プロセスを省くことができます。[注文の有効化]アクション内で、デフォルトの注文種別を管理から未管理に変更すると、注文作成時に自動的に種別が割り当てられます。

Checkout 支払コンポーネントでの支払トークンの使用

支払トークン化を使用して、チェックアウトプロセスの早い段階で顧客情報を取得します。支払トークンを使用すると、支払情報を収集してトークンに変換し、重要な支払いの詳細を保存せずにチェックアウトプロセスに渡すことができます。チェックアウトフローの新しい支払コンポーネントには、トークン化機能が組み込まれており、デフォルトで柔軟性のある操作が可能です。

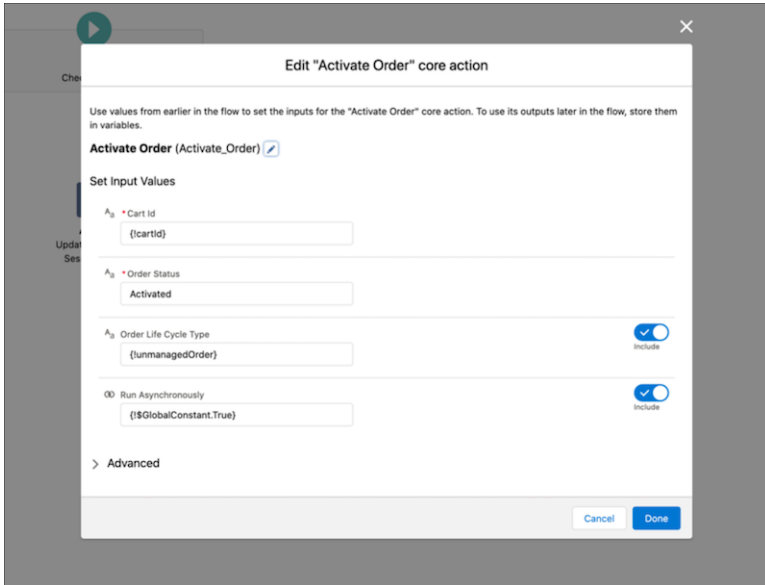
チェックアウトからの未管理および管理注文の作成

注文をより柔軟に作成できたらと考えたことはありませんか?このような場合は、チェックアウトフローが最適です。どの注文種別をシステムで最も効率的に処理できるかを判断し、既に作成された注文を変換する手動プロセスを省くことができます。[注文の有効化]アクション内で、デフォルトの注文種別を管理から未管理に変更すると、注文作成時に自動的に種別が割り当てられます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: チェックアウトフローにアクセスするには、B2B Commerce ライセンスが必要です。

方法: 注文を管理または未管理にするかを選択するには、チェックアウトフローに移動し、[注文の有効化]サブフローを選択します。[注文の有効化]アクションを開き、[注文ライフサイクル種別]入力項目を見つけます。未管理注文の場合は、`{!unmanagedOrder}`、管理注文の場合は `{!managedOrder}` と入力します。



Checkout 支払コンポーネントでの支払トークンの使用

支払トークン化を使用して、チェックアウトプロセスの早い段階で顧客情報を取得します。支払トークンを使用すると、支払情報を収集してトークンに変換し、重要な支払いの詳細を保存せずにチェックアウトプロセスに渡すことができます。チェックアウトフローの新しい支払コンポーネントには、トークン化機能が組み込まれており、デフォルトで柔軟性のある操作が可能です。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: チェックアウトフローにアクセスするには、B2B Commerce ライセンスが必要です。

方法: チェックアウトフローに支払コンポーネントを追加して、トークン化を使用すると、顧客は注文書またはクレジットカードで支払いができるようになります。

The screenshot shows a payment form with the following components:

- Purchase Order:** (Unselected)
- Credit Card:** (Selected)
 - Name on Card:** Him Jalpert
 - Card Type:** Visa
 - Card Number:** 1234123412341234
 - CVV:** (Masked with three asterisks)
 - Expiry Month:** 4
 - Expiry Year:** 2022
 - Billing Address:** 333 Seymour Street (Billing), Vancouver, BC V6B 5A7 Canada

A "Submit Payment" button is located at the bottom right of the form.

その他の変更

B2B Commerce for Lightning を向上させる小規模な変更について説明します。

このセクションの内容:

商品の増分、最小、および最大数量ルールの設定

商品購入に関する数量ルールを設定します。バイヤーが購入できる商品の最小金額と最大金額、および各増分で追加される商品の数量をバイヤーに通知します。ルール違反によりエラーが直ちにトリガされるため、バイヤーに直接通知されます。

注文概要履歴コンポーネントの廃止

注文概要コンポーネントは、新しい注文リストコンポーネントに置き換えられるようになりました。この新しいコンポーネントでは、注文日に基づいた絞り込みと並べ替えだけでなく、ユーザに表示する内容をより詳細に制御できます。

商品の増分、最小、および最大数量ルールの設定

商品購入に関する数量ルールを設定します。バイヤーが購入できる商品の最小金額と最大金額、および各増分で追加される商品の数量をバイヤーに通知します。ルール違反によりエラーが直ちにトリガされるため、バイヤーに直接通知されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 商品ワークスペースで増分、最小、および最大ルールを設定します。次に、エクスペリエンスビルダーでカート、商品の詳細カード、および結果レイアウトコンポーネントの表示プロパティを設定します。

[Connect REST API](#) および [Connect in Apex](#) では、数量ルールがサポートされています。

デフォルトの数量セレクトをすでに使用している場合は、既存の CSS クラスを更新して新しい数量セレクトに変更します。確定する前に Sandbox で変更を確認します。

注文概要履歴コンポーネントの廃止

注文概要コンポーネントは、新しい注文リストコンポーネントに置き換えられるようになりました。この新しいコンポーネントでは、注文日に基づいた絞り込みと並べ替えだけでなく、ユーザに表示する内容をより詳細に制御できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

オムニチャネル在庫

オムニチャネル在庫の機能強化に、更新されたフローコアアクションがあります。

このセクションの内容:

オムニチャネル在庫フローコアアクション

オムニチャネル在庫には、フローで使用する更新されたフローコアアクションが用意されています。

オムニチャネル在庫フローコアアクション

オムニチャネル在庫には、フローで使用する更新されたフローコアアクションが用意されています。

対象: この機能は Lightning Experience にあり、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、オムニチャネル在庫ライセンスを持つユーザが使用できます。

次のオムニチャネル在庫アクションが更新されました。

オムニチャネル在庫サービス予約の移行

新しいオプションを使用すると、目的地ロケーションに十分な在庫がなくても強制的に移行されます。

Salesforce Order Management

Salesforce Order Management では、新しい返品管理承認ワークフロー、フローでの新しい返品機能、Marketing Cloud で注文データを使用する機能、B2C Commerce のセルフサービスツールが追加されます。

このセクションの内容:

返品商品承認ワークフローによる返品管理

返品要求の開始から返品品目の物理的な受領、返金処理に至るまで、買い物客によって返品される品目のライフサイクルを可視化します。

フローでの新しい注文管理返品機能の使用

Salesforce Order Management には、フローで使用する新しいフローコアアクションが用意されています。

Marketing Cloud での注文データの使用

Salesforce Order Management の顧客データを使用して、注文後のアクションをトリガし、対象を絞ったマーケティングメッセージを Marketing Cloud で配信します。

買い物客へのセルフサービスツールの提供

注文を追跡して管理できるように、買い物客に注文情報のリアルタイムビューを提供します。

返品商品承認ワークフローによる返品管理

返品要求の開始から返品品目の物理的な受領、返金処理に至るまで、買い物客によって返品される品目のライフサイクルを可視化します。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、Salesforce Order Management Growth または Plus ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由:

デジタル販売チャネルでは、買い物客にオンライン購入した品目の返品を開始するための複数の方法を提供しています。新しい返品商品承認 (RMA) ワークフローを使用すると、サービスエージェントや業務マネージャは買い物客の返品注文を簡単に生成でき、倉庫スタッフは返品品目を受領したら返品注文を簡単にクローズして完了できます。

RMA ワークフローを使用して返品注文を作成すると、注文概要で返品注文の状態が最初から最後まで追跡されます。返品品目を受領して返品注文を完了すると、注文管理で次の処理が行われます。

- 変更注文を作成する。
- クレジットメモを生成し、返金を開始する。
- 注文概要と関連付けられたオブジェクトの財務情報を更新する。
- 注文概要と関連付けられたオブジェクトの注文品目数量を更新する。

方法:

新しい RMA ワークフローを使用するには、[RMA 品目を返品] フローと [RMA 請求書の作成と返金の確認] フローをコピーして有効化します。次に、[RMA 品目を返品] フローを注文概要 FlexiPage のアクション & おすすめコンポーネントに追加します。

既存のお客様は [プロセス例外を作成] フローも再コピーして有効化する必要があります。

フローでの新しい注文管理返品機能の使用

Salesforce Order Management には、フローで使用できる新しいフローコアアクションが用意されています。

対象: この機能は Lightning Experience にあり、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザー: この機能は、返品機能を備えた Salesforce Order Management ライセンスを持つユーザーが使用できます。

方法: Flow Builder で、[アクション] 要素をフローにドラッグします。[注文管理] カテゴリを選択して、[アクション] リストからアクションを選択します。

注文管理に、次の新しいアクションが追加されます。

返品注文を作成

注文概要に属する品目の返品注文および返品注文品目を作成します。

返品注文品目を返品

返品注文に属する返品注文品目を処理します。

Marketing Cloud での注文データの使用

Salesforce Order Management の顧客データを使用して、注文後のアクションをトリガし、対象を絞ったマーケティングメッセージを Marketing Cloud で配信します。

対象ユーザー: この機能には Salesforce Order Management ライセンスが必要であり、インテグレーションパッケージを有効にしている Marketing Cloud Connect および Journey Builder ユーザーがこの機能を使用できます。

理由: Salesforce Order Management のデータとアクションを、Marketing Cloud Connect を使用してネイティブインテグレーションを介して Marketing Cloud で使用できるようになりました。

このインテグレーションを使用すると、顧客データをさらに活用できます。任意のアクションをSalesforce Order Management から Marketing Cloud に直接送信し、注文後の取引メール (配送通知やキャンセル確認など) をトリガしたり、買い物客データを使用して対象を絞ったマーケティングキャンペーンを作成したりします。

関連トピック:

[Marketing Cloud リリースノート: Marketing Cloud Connect API v51 アップグレード \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Marketing Cloud Connect \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

買い物客へのセルフサービスツールの提供

注文を追跡して管理できるように、買い物客に注文情報のリアルタイムビューを提供します。

対象ユーザ: この機能は、Salesforce Order Management ライセンスと B2C Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: 新しいストアフロントリファレンスアーキテクチャ (SFRA) 注文管理カートリッジを使用して、買い物客をSalesforce Order Management 内のその注文履歴に接続することで、買い物客のセルフサービス機能を任意のB2C Commerce SFRA Web サイトに提供できます。

買い物客は、注文履歴と注文状況を含めリアルタイムの注文情報を参照できます。また、サービスエージェンメントとエンゲージすることなく、注文後のサービス要求 (キャンセルや返品など) を開始することもできます。

方法: この機能を使用するには、次の操作を行う必要があります。

- SFRA セルフサービスモジュールを B2C 環境にインストールして設定します。
- Salesforce Order Management の設定で [B2C セルフサービス] を有効化し、信頼接続を確立して、B2C Commerce で Salesforce Order Management から注文データを取得できるようにします。

カスタマイズ

Lightning Experience で直接、ユーザまたはグループにレコードアクセス権がある理由を簡単に確認できます。Salesforce 全体の新しいロケールと最新の形式を確認できます。また、外部サービスに対する機能強化により、公開されている API をより幅広く選択できます。

このセクションの内容:

共有

ユーザに Lightning Experience のレコードへのアクセス権が付与されている理由を確認し、大規模コミュニティまたはサイトユーザが所有するレコードをゲストユーザ共有ルールに含めるかどうかを選択します。

グローバル化

Salesforce で新しいロケールとプラットフォーム専用言語が使用できるようになりました。既存のロケールが最新の形式に更新されました。新しいロケール形式標準はリリース更新で有効にできます。

外部サービス

新たにより大規模な仕様サイズがサポートされ、スキーマ構造と使用事例のサポートが拡張されたおかげで、Slack や Okta などの公開されている API をより幅広く選択できます。外部サービスウィザードを使用し、スキーマで定義された各 API 操作を個別に選択して外部サービスに登録できます。

Lightning アプリケーションビルダー

評価にカスタムコンポーネントが新たに含まれるようになったパフォーマンス分析ツールから、レコードページをより正確な読み取れるようになりました。編集、作成、コピー中に処理される表示ルールの修正により、ユーザはより効率的にレコードページを操作できます。

項目

新しい無効な選択リストオプションを使用して、Salesforce 組織全体の健全性を保護できます。オブジェクトごとのカスタム項目に対する新しい制限により、AppExchange から追加の項目をインストールできます。

Einstein レコメンデーションビルダー

Einstein レコメンデーションビルダーを使用して、より迅速かつスマートにお勧めを構築できます。カスタムのお勧めを構築することも、テンプレートを使用することもできます。[部品-to-作業指示]テンプレートを使用して、フィールドサービスのお勧めをすばやく構築できます。

プロファイルと権限

権限の操作は継続的に改善されており、期限付きのユーザ割り当てにより柔軟性が向上しています。また、参照のみ標準プロファイルがカスタムプロファイルに変換されるようになりました。

AppExchange

AppExchange の 1 回限りの購入および定期的な購入で米国売上税が徴収されるようになりました。購入が課税対象かどうかの判別に納入先住所と免税状況が使用されます。

一般設定

CRUD 権限を定義して、どのユーザがバックグラウンド操作にアクセスできるかを制御して項目レベルアクセス権と共有ルールを改善できます。セキュアエージェント機能は Winter '22 で廃止されます。

共有

ユーザに Lightning Experience のレコードへのアクセス権が付与されている理由を確認し、大規模コミュニティまたはサイトユーザが所有するレコードをゲストユーザ共有ルールに含めるかどうかを選択します。

このセクションの内容:

Lightning Experience でのレコードアクセス権の理由の確認

ユーザにレコードへのアクセス権が付与されていますが、その理由は?役割?テリトリー?共有ルール?Lightning Experience のレコード共有階層から直接、ユーザにアクセス権がある理由を確認できるようになりました。以前は、Salesforce Classic に切り替えてこの情報を確認していました。[共有] ウィンドウだけでなく、アクションメニューで共有階層を使用できるようになりました。

大規模ユーザが所有するレコードの認証されていないゲストユーザとの共有

ゲストユーザ共有ルールを作成するときに、大規模コミュニティまたはサイトユーザが所有するレコードを含めるかどうかを選択します。デフォルトでは、ゲストユーザ共有ルールには、ルールの条件に一致し、認証済みユーザ、ゲストユーザ、キューが所有するレコードのみが含まれます。最近のセキュリティ強化のため、大規模ユーザが所有するレコードへのアクセス権をゲストユーザに付与する方法はこの設定のみになります。このオプションは、所有者に基づく共有ルールや条件に基づく共有ルールでは使用できません。

Lightning Experience でのレコードアクセス権の理由の確認

ユーザにレコードへのアクセス権が付与されていますが、その理由は? 役割? テリトリー? 共有ルール? Lightning Experience のレコード共有階層から直接、ユーザにアクセス権がある理由を確認できるようになりました。以前は、Salesforce Classic に切り替えてこの情報を確認していました。[共有] ウィンドウだけでなく、アクションメニューで共有階層を使用できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: レコードのアクションメニューから [共有階層] を選択します。ユーザ名の横にある [表示] をクリックします。表示されるテーブルには、ユーザに付与されているレコードアクセス権とその理由が表示されます。

The screenshot shows the Salesforce Lightning Experience interface for a record titled "Once in a Lifetime" (Opportunity). The record details include Account Name (Global Media), Close Date (3/25/2021), Amount, and Opportunity Owner (Jane Doring). The "Sharing" menu is open, and the "Sharing Hierarchy" option is highlighted with an orange box.

Opportunities > Once in a Lifetime > Sharing Hierarchy > Jane Doring

Jane Doring
5 items

Shared With	Reason for Access	Relationship	Opportunity Access
User: Jane Doring	Administrator	Self	Full Access
User: Jane Doring	Owner	Self	Full Access
All Internal Users	Opportunity Sharing Rule	Group Member	Read/Write
Group: Western US	Manual Sharing	Group Member	Read/Write
User: Jane Doring	Account Sharing	Self	Read/Write

- ☑ **メモ:** 共有階層は、取引先、商談、ケース、取引先責任者、リード、カスタムオブジェクトでのみ使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 共有の直接設定\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

大規模ユーザが所有するレコードの認証されていないゲストユーザとの共有

ゲストユーザ共有ルールを作成するときに、大規模コミュニティまたはサイトユーザが所有するレコードを含めるかどうかを選択します。デフォルトでは、ゲストユーザ共有ルールには、ルールの条件に一致し、認証済みユーザ、ゲストユーザ、キューが所有するレコードのみが含まれます。最近のセキュリティ強化のため、大規模ユーザが所有するレコードへのアクセス権をゲストユーザに付与する方法はこの設定のみになります。このオプションは、所有者に基づく共有ルールや条件に基づく共有ルールでは使用できません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべての [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[認証されていないゲストユーザへの大規模ユーザが所有するレコードへのアクセス権の付与](#)

グローバル化

Salesforce で新しいロケールとプラットフォーム専用言語が使用できるようになりました。既存のロケールが最新の形式に更新されました。新しいロケール形式標準はリリース更新で有効にできます。

このセクションの内容:

新しい言語とロケールによるグローバル顧客とのつながり

世界中でビジネスを行うために、中国語(マレーシア)、ハワイ語、ハイチクレオール語、カザフ語、サモア語、いくつかのロシア語のロケールがプラットフォーム専用言語として使用できるようになりました。ユーザは、これらの言語に関連する新しいロケールを選択することもできます。

ロケール形式の変更への準備

最新の形式を提供するために、Salesforce のロケール形式が更新されました。International Components for Unicode (ICU) 形式を使用する場合でも Oracle の Java Development Kit (JDK) 形式を使用する場合でも、形式の変更が与える影響を評価することをお勧めします。このリリースには、Common Locale Data Repository (CLDR) バージョン 38 を使用する ICU 68.2 と、CDLR バージョン 33 を使用する JDK バージョン 11 が含まれます。

ICU ロケール形式の有効化(以前にリリース済みの更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式を採用します。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。ICU 形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。このリリース更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

[州/国/テリトリー選択リスト] 設定ページの簡略化

州/国/テリトリー選択リストをより簡単に管理できるように、この設定ページが簡略化されました。

ノーフォーク島の標準タイムゾーンの名称変更

[[GMT+11:00] ノーフォーク島時(太平洋/ノーフォーク)] タイムゾーンが [[GMT+11:00] ノーフォーク島標準時(太平洋/ノーフォーク)] に変更されました。このタイムゾーンは、夏時間が有効になっていない場合に使用できません。

新しい言語とロケールによるグローバル顧客とのつながり

世界中でビジネスを行うために、中国語(マレーシア)、ハワイ語、ハイチクレオール語、カザフ語、サモア語、いくつかのロシア語のロケールがプラットフォーム専用言語として使用できるようになりました。ユーザーは、これらの言語に関連する新しいロケールを選択することもできます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: システム管理者は、次の新しいプラットフォーム専用言語を有効にできます。

- 中国語(マレーシア): zh_MY
- ハイチクレオール語: ht
- ハワイ語: haw
- カザフ語: kk
- ロシア語(アルメニア): ru_AM
- ロシア語(ベラルーシ): ru_BY
- ロシア語(カザフスタン): ru_KZ
- ロシア語(キルギスタン): ru_KG
- ロシア語(リトアニア): ru_LT
- ロシア語(モルドバ): ru_MD
- ロシア語(ポーランド): ru_PL
- ロシア語(ウクライナ): ru_UA
- サモア語: sm

ユーザーは、次の新しいロケールを選択できます。日時および通貨形式は、International Components for Unicode (ICU) と Oracle の Java Development Kit (JDK) のどちらのロケール形式を使用するのかによって異なります。

- 中国語(マレーシア): zh_MY
- ハイチクレオール語(ハイチ): ht_HT
- ハイチクレオール語(アメリカ): ht_US
- ハワイ語(アメリカ): haw_US
- ロシア語(アルメニア): ru_AM
- ロシア語(ベラルーシ): ru_BY
- ロシア語(キルギスタン): ru_KG
- ロシア語(リトアニア): ru_LT

- ロシア語 (モルドバ): ru_MD
- ロシア語 (ポーランド): ru_PL
- ロシア語 (ウクライナ): ru_UA
- サモア語 (サモア): sm_WS
- サモア語 (アメリカ): sm_US

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サポート言語 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: ロケールの概要 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ロケール形式の変更への準備

最新の形式を提供するために、Salesforce のロケール形式が更新されました。International Components for Unicode (ICU) 形式を使用する場合でも Oracle の Java Development Kit (JDK) 形式を使用する場合でも、形式の変更が与える影響を評価することをお勧めします。このリリースには、Common Locale Data Repository (CLDR) バージョン 38 を使用する ICU 68.2 と、CDLR バージョン 33 を使用する JDK バージョン 11 が含まれます。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: Salesforce で使用するロケールの日時、数値、通貨形式の変更を確認し、その影響を評価します。次に必要に応じて、検索条件、コード、およびコンポーネントをテストします。

関連トピック:

[ナレッジ記事: ICU Locale Format Changes in Summer '21 \(Summer '21 での ICU ロケール形式の変更\)](#)

[ナレッジ記事: JDK Locale Format Changes in Summer '21 \(Summer '21 での JDK ロケール形式の変更\)](#)

[ナレッジ記事: Salesforce 組織が ICU と JDK のどちらのロケール形式を使用しているかの判断](#)

[Salesforce ヘルプ: ロケールの概要 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式を採用します。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。ICU 形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。このリリース更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '22 で適用します。Winter '20 以降に作成された組織では、ICU ロケール形式がデフォルトで有効になっています。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、

Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。このリリース更新を有効にすると、ICU 形式を API バージョン 45.0 以降で使用できます。

方法: 本番環境でこの更新を有効化する前に、すべてのインストール済みパッケージに ICU 形式との互換性があることをパッケージプロバイダに確認します。次に、新しいロケールの影響を評価します。次の SOQL クエリを使用して、組織で使用されているロケールと各ロケールのユーザ数を検索します。

```
SELECT toLabel(LocaleSidKey) LocaleName, LocaleSidKey, Count(id) UserCount FROM User where IsActive=true GROUP BY LocaleSidKey
```

テストの推奨領域や、各ロケールの変更についての詳細は、Salesforce ヘルプの「グローバルに対応する新しい国際ロケール形式」を参照してください。

この更新を有効化するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。[ICU ロケール形式を有効化] で、テストと有効化の手順を実行します。

英語(カナダ) ロケール (en_CA) では、個別の有効化が必要です。[クイック検索] ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース] を選択します。[en_CA ロケールの ICU 形式を有効化] を選択して、変更内容を保存します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: グローバルに対応する新しい国際ロケール形式\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Winter '20 リリースノート: ICU ロケール形式の有効化\(リリース更新\)](#)

[ナレッジ記事: Salesforce 組織が ICU と JDK のどちらのロケール形式を使用しているかの判断](#)
[リリース更新のお知らせ](#)

[州/国/テリトリー選択リスト] 設定ページの簡略化

州/国/テリトリー選択リストをより簡単に管理できるように、この設定ページが簡略化されました。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: 更新された [州/国/テリトリー選択リスト] 設定ページでは、同じ機能を提供する簡略化されたリンクが使用されます。ステップをクリックすると、結果のページに関連する指示が表示されます。

Data Management >

State and Country/Territory Picklists [Help for this Page](#)

Enable State and Country/Territory Picklists

1. [Configure States, Countries, and Territories](#)

Before switching to state and country/territory picklist fields, you must find the corresponding text data stored using your Salesforce org's address fields and convert it into standard picklist values. The scan also identifies customizations that you must update because they use data stored using standard address fields.

2. [Scan for state and country/territory data.](#)
3. [Convert identified data.](#)
4. After you convert your data, or if you don't have any data, enable the state and country/territory picklists for standard address fields.

Complete steps 1-3 before enabling the state and country/territory picklists.

[Enable Picklists for Address Fields](#)

5. [Scan again for state and country/territory data. Identify new or uncovered data referenced in customizations or standard addresses.](#)

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 選択リストからの州と国の選択の許可](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ノーフォーク島の標準タイムゾーンの名称変更

[[GMT+11:00) ノーフォーク島時 (太平洋/ノーフォーク)] タイムゾーンが [[GMT+11:00) ノーフォーク島標準時 (太平洋/ノーフォーク)] に変更されました。このタイムゾーンは、夏時間が有効になっていない場合に使用できません。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サポートされているタイムゾーン](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

外部サービス

新たにより大規模な仕様サイズがサポートされ、スキーマ構造と使用事例のサポートが拡張されたおかげで、Slack や Okta などの公開されている API をより幅広く選択できます。外部サービスウィザードを使用して、スキーマで定義された各 API 操作を個別に選択して外部サービスに登録できます。

このセクションの内容:

[Summer '21 で廃止される従来の外部サービス](#)

より大規模で複雑なスキーマのサポートなど、従来のバージョンより幅広い機能セットが追加され、エラーメッセージとエラー回復が改善された外部サービスの新バージョンに置き換えられます。従来の外部サービスバージョンに関連したコンテンツはヘルプドキュメントから削除されました。

[外部サービスウィザードを使用した操作の選択](#)

個別の操作をスキーマから選択して Salesforce 外部サービスに含めることができるようになりました。外部サービスでサポートされない操作を除外することもできます。以前は、スキーマで定義されたすべての操作を含めていました。

[最大 1.5 MB の OpenAPI 仕様の登録](#)

最大スキーマ登録サイズが再び引き上げられ、今回は 100,000 文字から 150 万文字 (1.5 MB) まで引き上げられました。

[allOf OpenAPI 2.0 スキーマ構造の使用](#)

allOf を使用するスキーマを登録できるようになりました。Open API 仕様で、allOf プロパティを使用してモデル定義を結合したり拡張したりできます。allOf は、単独で検証されるオブジェクト定義の配列を取りますが、まとめて 1 つのオブジェクトを作成します。

additionalProperties OpenAPI 2.0 スキーマ構造の使用

スキーマ構造が増えたらどうでしょう? additionalProperties はどうでしょうか? 辞書、地図、または関連配列プロパティがあるオブジェクトを使用できます。OpenAPI 2.0 では、名前付きの properties はプロパティ種別が一致する Apex プロパティとしてアクセスできます。additionalProperties により、プロパティの値種別が共通する自由形式の地図または辞書プロパティを使用でき、これらは Apex で地図プロパティとしてアクセスできます。

Apex オブジェクト名の長さが最大 255 文字までに拡張

Apex オブジェクト名で最大 255 文字までサポートされるようになりました(以前は最大 40 文字)。このサポートは、複雑な操作に代表される仕様と、長いプロパティや要素が含まれるデータ構造に依存しています。以前は、Apex オブジェクト名の長さは 40 文字まででした。

MIME タイプの指定

外部サービススキーマで、consumes/produces メディアタイプディレクティブを使用して API で理解される MIME タイプを指定します。

フローと拡張外部サービスを使用した Apex ユニットテスト

フローと外部サービスを使用して Apex ユニットテストを実行できるようになりました。

Summer '21 で廃止される従来の外部サービス

より大規模で複雑なスキーマのサポートなど、従来のバージョンより幅広い機能セットが追加され、エラーメッセージとエラー回復が改善された外部サービスの新バージョンに置き換えられます。従来の外部サービスバージョンに関連したコンテンツはヘルプドキュメントから削除されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で従来の外部サービスバージョンを使用している組織に適用されます。

方法: まだ従来の登録を使用している場合、今から Winter '22 まではリストに表示されます。これらは削除できません。編集、再作成、フローでの従来の登録の使用など、従来の外部サービス登録に対して削除以外の操作を行うことはできません。

外部サービスウィザードを使用した操作の選択

個別の操作をスキーマから選択して Salesforce 外部サービスに含めることができるようになりました。外部サービスでサポートされない操作を除外することもできます。以前は、スキーマで定義されたすべての操作を含めていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:

[外部サービスを追加] ウィザードの最初の画面を完了して有効なスキーマをインポートしたら、2 番目の画面である [操作を選択] を使用して操作を選択します。

Add an External Service

Select Operations

You can select up to 25 operations and 25 unique objects per registration.

Operations
0 selected out of 4 available

<input type="checkbox"/>	Operation	Description	Input parameters	Output parameters
<input type="checkbox"/>	getAccount	Retrieves the account with specific name	accountName	200, 404, default, 400
<input type="checkbox"/>	updateAccount	Updates the account with specified name	accountName, accountType	400, 404, 200, default
<input type="checkbox"/>	addAccount	Add an account to the database	accountType, accountName	default, 201, 404, 409, 400
<input type="checkbox"/>	DeleteAccount	Deletes the account with specific name	accountName	204, default, 404, 400

Back Next

選択した操作は外部サービス登録にインポートされ、外部サービスアクションとしてSalesforceで使用できるようになります。

新しい外部サービスを登録したら、外部サービス登録によって自動的に生成されたアクションのメインのアクション選択機能を検索してフローを作成します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 外部サービスの登録](#)

最大 1.5 MB の OpenAPI 仕様の登録

最大スキーマ登録サイズが再び引き上げられ、今回は 100,000 文字から 150 万文字 (1.5 MB) まで引き上げられました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 以前の制限が適用されていたときよりはるかに多くのサービスを登録できるようになりました。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 外部サービスに関する考慮事項](#)

allOf OpenAPI 2.0 スキーマ構造の使用

allOf を使用するスキーマを登録できるようになりました。OpenAPI仕様で、allOf プロパティを使用してモデル定義を結合したり拡張したりできます。allOf は、単独で検証されるオブジェクト定義の配列を取りますが、まとめて1つのオブジェクトを作成します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: `allOf` では、スキーマオブジェクトプロパティ `discriminator` は無視されます。`discriminator` プロパティによって、その種別名によって参照されるスキーマが決定されます。`discriminator` プロパティは、フロー内で適切なスキーマプロパティ名に設定する必要があります。アクセスできるのは基本スキーマからのプロパティのみであり、`discriminator` スキーマ種別値によって指定されるスキーマからの構成プロパティはアクセスできません。アクションでの `allOf` の例については、「例:外部サービススキーマ」の「外部サービススキーマの例9」セクションを参照してください。

取り組み中の問題: OpenAPI 2.0 パーサーではオブジェクトプロパティ種別の `allOf` は無視されます。回避策として、`allOf` 宣言がある定義の下に名前付きの最上位スキーマオブジェクトを定義します。プロパティから名前付きスキーマオブジェクトを参照します。

関連トピック:

[外部リンク: OpenAPI Specification \(OpenAPI 仕様\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 外部サービスに関する考慮事項](#)

additionalProperties OpenAPI 2.0 スキーマ構造の使用

スキーマ構造が増えたらどうでしょうか? `additionalProperties` はどうでしょうか? 辞書、地図、または関連配列プロパティがあるオブジェクトを使用できます。OpenAPI 2.0 では、名前付きの `properties` はプロパティ種別が一致する Apex プロパティとしてアクセスできます。`additionalProperties` により、プロパティの種別が共通する自由形式の地図または辞書プロパティを使用でき、これらは Apex で地図プロパティとしてアクセスできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: OpenAPI 2.0 スキーマディレクティブの `properties` と `additionalProperties` は正式なオブジェクトプロパティおよび辞書プロパティとして表示されます。プロパティまたは追加プロパティ種別で宣言されている場合、OpenAPI 2.0 パーサーでどちらか一方が無視されます。この登録プロセスではエラーが発生しません。アクションでの `properties` と `additionalProperties` の例については、「例:外部サービススキーマ」の「外部サービススキーマの例9」セクションを参照してください。

この新しいサポートに関する考慮事項

- OpenAPI 2.0 の名前付き `properties` は、名前が同じでプロパティ種別が一致する Apex オブジェクトプロパティです。
- OpenAPI 2.0 の `additionalProperties` は名前プロパティと種別 `Map<String, Type>` の Apex プロパティにグループ化されます。ここで、`Type` は宣言された追加のプロパティ種別です。
- スタンドアロンの Apex 地図種別として宣言することもできますが、OpenAPI 2.0 の `additionalProperties` は常に Apex オブジェクトの地図プロパティとして宣言されます。その結果、追加のプロパティと一緒に定義された名前付きオブジェクトプロパティとして一貫して処理されます。
- OpenAPI 2.0 の `properties` と `additionalProperties` は共に OpenAPI パラメータスキーマまたは定義セクションのスキーマで宣言できます。オブジェクトプロパティ種別として宣言された場合、OpenAPI 2.0 パーサーでは `properties` または `additionalProperties` のいずれかが無視されます。オブジェクトプロパティ種別では、名前付きプロパティまたは追加プロパティのいずれかのみを定義する必要があります。両方は定義できません。この状況を回避するには、オブジェクトプロパティ定義を名前付きスキーマとして定義に配置し、名前を参照します。

- OpenAPI 2.0 パーサーでは、リテラル宣言と型指定のないスキーマが区別されません。
additionalProperties: true、additionalProperties: false、additionalProperties: {} などの宣言は型指定なしとして解釈されます。型指定のない追加プロパティは無視されます。任意の種別にできる追加プロパティを定義するための回避策はありません。
- フローでは地図プロパティが含まれる Apex オブジェクト種別にアクセスしたり操作したりできませんが、同じ Apex オブジェクト種別の変数に割り当てられている場合は透過的にコンテンツが保持されます。フローの地図データ構造を操作するには、地図データ構造にアクセスできる Apex の呼び出し可能なアクションを呼び出します。アクションでの外部サービスの地図の例については、「[例:外部サービススキーマ](#)」の「[外部サービススキーマの例 9](#)」セクションを参照してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:外部サービスに関する考慮事項](#)

Apex オブジェクト名の長さが最大 255 文字までに拡張

Apex オブジェクト名で最大 255 文字までサポートされるようになりました (以前は最大 40 文字)。このサポートは、複雑な操作に代表される仕様と、長いプロパティや要素が含まれるデータ構造に依存しています。以前は、Apex オブジェクト名の長さは 40 文字まででした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: この新しいサポートには次のような制限があります。

- 操作またはオブジェクトの API 参照名は、登録済みのスキーマから取得されます。名前は、最大 80 文字以内に収まる必要があります。ネストされたデータ構造の個別のオブジェクトまたは操作が 80 文字を超えなければ、ネストされたデータ構造には最大 255 文字まで仕様できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:外部サービスに関する考慮事項](#)

MIME タイプの指定

外部サービススキーマで、consumes/produces メディアタイプディレクティブを使用して API で理解される MIME タイプを指定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: サーバディレクティブ consumes/produces は操作の consumes/produces ディレクティブで上書きされない限り、すべての操作に適用されます。

この新しいサポートに関する考慮事項

- サポートされない consumes/produces ディレクティブを使用すると、スキーマ登録が無効になります。
- リクエストボディまたはレスポンスエンティティスキーマの宣言と互換性がない consumes/produces ディレクティブを使用すると、コールアウト中にエラーが発生します。
- consumes/produces ディレクティブがない場合、デフォルトは次のようになります。

- application/json — リクエストボディまたはレスポンスボディスキーマがオブジェクトまたは配列の場合
- text/plain — リクエストまたはレスポンススキーマボディが文字列や整数値などのプリミティブ型の場合
- リクエストボディパラメータがメソッド POST、PUT、PATCH について定義されていない場合、フォームデータリクエストパラメータがリクエストボディで application/x-www-form-urlencoded として送信されます。

関連トピック:

[外部リンク: MIME Types \(MIME タイプ\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 外部サービスに関する考慮事項](#)

フローと拡張外部サービスを使用した Apex ユニットテスト

フローと外部サービスを使用して Apex ユニットテストを実行できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Apex HTTP コールアウトの同じモック実装を使用できますが、フローテストのコンテキストでこれらを使用することもできます。以前は、外部サービスが含まれるフローや外部サービスが含まれる呼び出し可能なアクションを Apex ユニットテストすることはできませんでした。

方法: 外部サービスを使用した Apex ユニットテストの例については、次を参照してください。

- [Testing External Service Actions in Flow \(フローでの外部サービスアクションのテスト\)](#)
- 「[例: 外部サービススキーマ](#)」の「[外部サービススキーマの例 9](#)」セクション

Lightning アプリケーションビルダー

評価にカスタムコンポーネントが新たに含まれるようになったパフォーマンス分析ツールから、レコードページをより正確な読み取れるようになりました。編集、作成、コピー中に処理される表示ルールの修正により、ユーザはより効率的にレコードページを操作できます。

このセクションの内容:

[カスタム Lightning コンポーネント分析を使用したページパフォーマンスの改善](#)

Lightning レコードページのカスタム Lightning コンポーネントに関するインサイトを取得できます。Lightning アプリケーションビルダーの Lightning ページ分析ツールへの更新により、Lightning ページのより多くのパフォーマンス予測が提供されます。

[リポート種別パネルコンポーネントとリポート種別タブコンポーネントを使用したリポートプログラムと案件交渉および CPQ プロセスの統合](#)

リポート種別パネルコンポーネントを対応付けられたオブジェクトに追加します。使用可能なリポート種別を選択して適用します。リポート種別が適用されたら、[リポート種別] タブコンポーネントを使用して関連する給付階層を表示して変更します。

作成、編集、コピー時でも非表示のままになったアコーディオンコンポーネントとタブコンポーネント
動的フォーム対応ページのアコーディオンコンポーネントとタブコンポーネントの表示ルールが、作成、編集、コピー時に無視されなくなりました。たとえば、ユーザがレコードページを表示中に非表示になるアコーディオンコンポーネントに表示ルールがあるとします。ユーザが作成、編集、コピーするためにクリックすると、その非表示のアコーディオンコンポーネントのすべての項目と項目セクションが、作成、編集、コピーのウィンドウで非表示のままになるようになりました。

アプリケーションページの動的アクションバーの作成(パイロット)

すべての最も重要なアクションに1つの便利なバーでアクセスできます。Lightning アプリケーションビルダーを使用して、アプリケーションページで動的アクションバーコンポーネントを簡単に追加、ドラッグ、設定できます。標準アクションとカスタムグローバルアクションを使用してバーをカスタマイズします。

新しい Einstein Next Best Action コンポーネント属性の使用

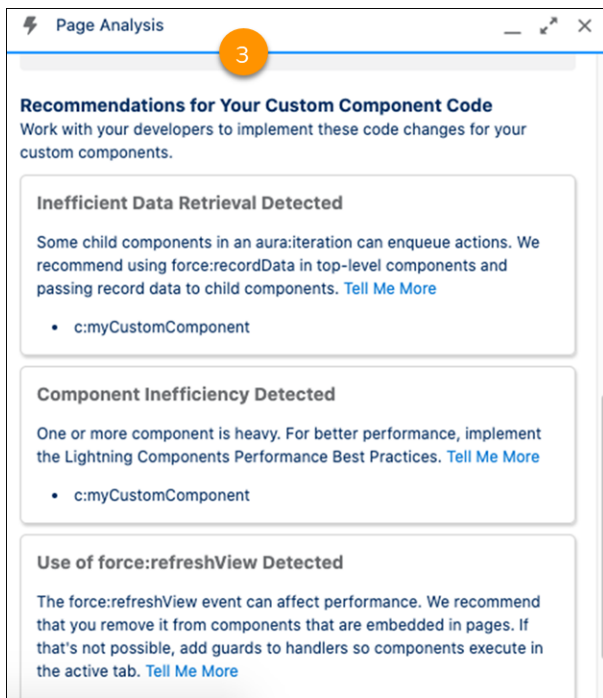
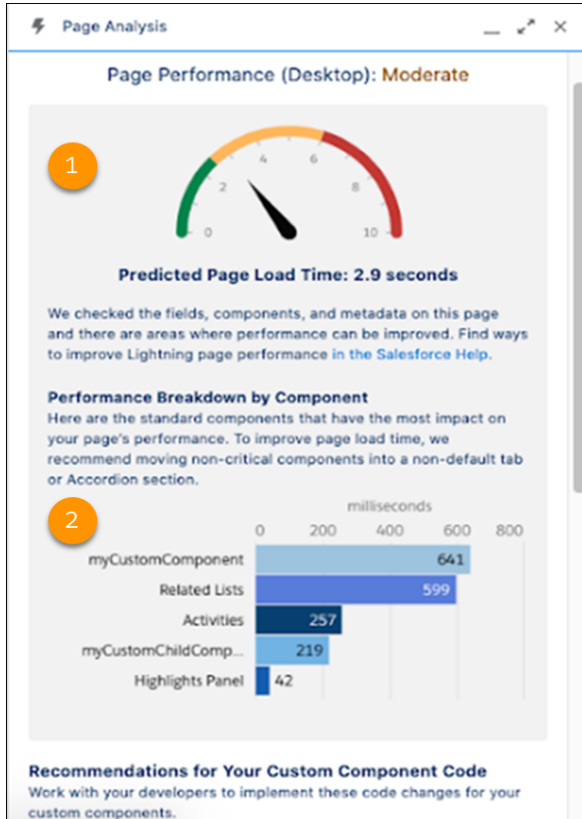
Einstein Next Best Action コンポーネントで、[戦略ソース]項目を使用して Strategy Builder に対する戦略を作成するために使用されていたビルダーを設定できるようになりました。このコンポーネントを使用する既存の Lightning ページ設定は影響を受けません。

カスタム Lightning コンポーネント分析を使用したページパフォーマンスの改善

Lightning レコードページのカスタム Lightning コンポーネントに関するインサイトを取得できます。Lightning アプリケーションビルダーの Lightning ページ分析ツールへの更新により、Lightning ページのより多くのパフォーマンス予測が提供されます。

対象:この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:レコードページのパフォーマンスの評価を表示するには、Lightning アプリケーションビルダーツールバーから[分析]をクリックします。Lightning レコードページのカスタム Lightning コンポーネントが分析され、デスクトップパフォーマンス分析カードの結果に組み込まれるようになりました。この分析には、ページの予測体験ページ時間 (EPT)、つまりページの読み込み時間 (1) とコンポーネントのパフォーマンス内訳カード (2) が含まれます。関連する場合、カスタムコンポーネントを最適化するためのおすすめも表示されます (3)。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Page Performance \(Lightning ページのパフォーマンス\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[外部リンク: デスクトップでの Lightning ページパフォーマンスに関する詳細情報の取得](#)

リポート種別パネルコンポーネントとリポート種別タブコンポーネントを使用したリポートプログラムと案件交渉および CPQ プロセスの統合

リポート種別パネルコンポーネントを対応付けられたオブジェクトに追加します。使用可能なリポート種別を選択して適用します。リポート種別が適用されたら、[リポート種別] タブコンポーネントを使用して関連する給付階層を表示して変更します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: リポート管理が有効になっている組織でのみ使用できます。

関連トピック:

[リポートプログラムの案件交渉および CPQ プロセスとの統合](#)

作成、編集、コピー時でも非表示のままになったアコーディオンコンポーネントとタブコンポーネント


動的フォーム対応ページのアコーディオンコンポーネントとタブコンポーネントの表示ルールが、作成、編集、コピー時に無視されなくなりました。たとえば、ユーザがレコードページを表示中に非表示になるアコーディオンコンポーネントに表示ルールがあるとします。ユーザが作成、編集、コピーするためにクリックすると、その非表示のアコーディオンコンポーネントのすべての項目と項目セクションが、作成、編集、コピーのウィンドウで非表示のままになるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

アプリケーションページの動的アクションバーの作成 (パイロット)

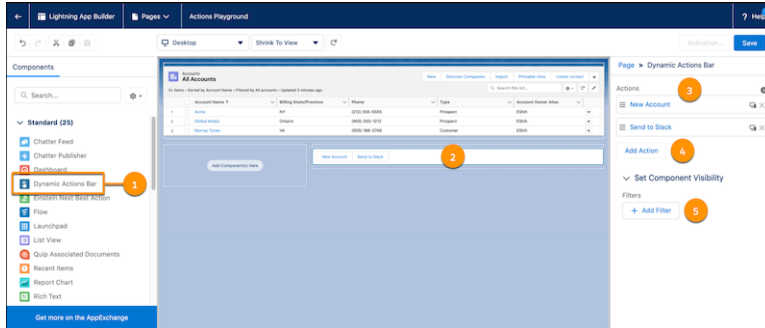
すべての最も重要なアクションに 1 つの便利なバーでアクセスできます。Lightning アプリケーションビルダーを使用して、アプリケーションページで動的アクションバーコンポーネントを簡単に追加、ドラッグ、設定できます。標準アクションとカスタムグローバルアクションを使用してバーをカスタマイズします。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** 動的アクションバーは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされま

せん。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

方法:動的アクションバーをLightning アプリケーションページに追加するには、最初にLightning アプリケーションビルダーでLightning アプリケーションページを作成または編集します。



Lightning アプリケーションビルダーで、[動的アクションバー] コンポーネント (1) をページの領域 (2) にドラッグして追加します。プロパティペインのアクションの順序 (3) によって、動的アクションバーでの順序が決まります。[アクションを追加] (4) をクリックして動的アクションバーにアクションを追加します。[検索条件を追加] (5) をクリックして動的アクションバーコンポーネントの表示検索条件を設定します。作業内容を保存します。

ページがまだ有効でない場合、[有効化] をクリックしてページの有効化オプションを選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning ページの標準コンポーネント \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

新しい Einstein Next Best Action コンポーネント属性の使用

Einstein Next Best Action コンポーネントで、[戦略ソース] 項目を使用して Strategy Builder に対する戦略を作成するために使用されていたビルダーを設定できるようになりました。このコンポーネントを使用する既存の Lightning ページ設定は影響を受けません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

項目

新しい無効な選択リストオプションを使用して、Salesforce 組織全体の健全性を保護できます。オブジェクトごとのカスタム項目に対する新しい制限により、AppExchange から追加の項目をインストールできます。

このセクションの内容:

選択リストのパフォーマンスの保護

新しい選択リストオプションを使用して、Salesforce 組織の健全性を保護できます。今後の使用のために無効な選択リスト値を意図的に作成できます。ただし、多数の無効な選択リスト項目があると、パフォーマンスの問題が起こる場合があります。

AppExchange を介したより多くのカスタム項目のインストール

組織の制限に関係なく、AppExchange パッケージを介して 100 個の追加のカスタム項目をインストールできるようになりました。

連動選択リストへのデフォルト値の事前入力

連動選択リストでレコードイベントにデフォルト値を事前入力できるようになりました。連動選択リストのデフォルト値は、取引先、商談、ケース、取引先責任者、リード、カスタムオブジェクトで使用できます。

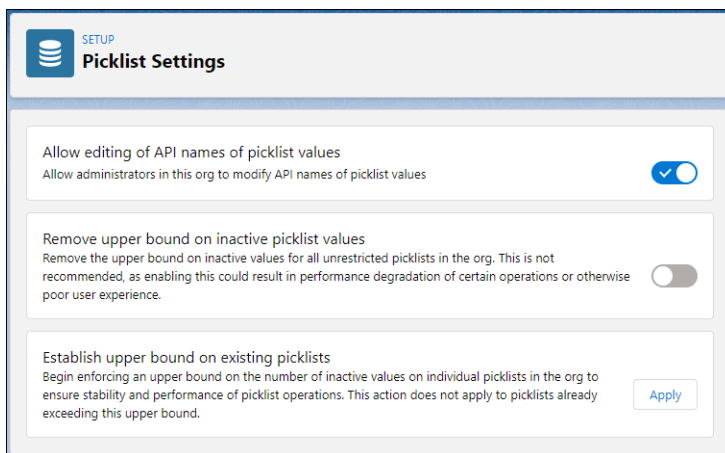
選択リストのパフォーマンスの保護

新しい選択リストオプションを使用して、Salesforce 組織の健全性を保護できます。今後の使用のために無効な選択リスト値を意図的に作成できます。ただし、多数の無効な選択リスト項目があると、パフォーマンスの問題が起こる場合があります。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Group Edition、Personal Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [選択リスト設定] ページの 2 つの新しい設定を使用して、無制限選択リストの無効な値を制御します。

- 無制限選択リストの無効な値の制限はデフォルトで 4,000 個に設定されます。データの作成中またはメタデータのリリース中にエラーが発生した場合など、トラブルシューティングのときにのみ [無効な選択リスト値の上限を削除] 設定を使用して制限を削除することをお勧めします。このオプションは、カスタム選択リストと標準選択リストに適用されます。4,000 個の制限は、制限付き選択リストおよびグローバル選択リスト値セットには適用されません。グローバル選択リスト値セットには、有効と無効を合わせて 1,000 の制限があります。
- [既存の選択リストに上限を適用] 設定では、選択リストに対してクエリが実行され、制限の条件を満たす無効な値を検索して、それらの選択リストに制限を適用できます。このオプションでは、標準選択リストにのみ上限が適用されます。



また、選択リストの詳細ページの新しいセクションには、使用されている有効な選択リスト値や無効な選択リスト値の数が許容最大数と共に表示されます。無制限選択リストの有効な選択リストの制限は 1,000 個で、無効な選択リストの制限は 4,000 個です。制限付き選択リストの制限は、有効な選択リストと無効な選択リス

トを組み合わせて 1,000 個です。表示されるのは、この合計数になります。この情報を使用して、有効な選択リスト値や無効な選択リスト値を最も多く使用している選択リスト項目を確認します。

Picklist Values Used	
Active picklist values	2 (1,000 max)
Inactive picklist values	1

Field Dependencies	
No dependencies defined.	

Validation Rules	
No validation rules defined.	

Values					
Action	Values	API Name	Default	Chart Colors	Modified By
Edit Del Deactivate	INVOICE	INVOICE	<input type="checkbox"/>	Assigned dynamically	oJjgp_BeEql 1/14/2015 2:55 PM
Edit Del Deactivate	LINE	LINE	<input type="checkbox"/>	Assigned dynamically	oJjgp_BeEql 1/14/2015 2:55 PM

Inactive Values			
Action	Values	API Name	Modified By
Del Activate	TAX	TAX	mZFAX_Ancfj 1/14/2015 2:55 PM

テキスト項目を選択リストに変換すると、現在のテキスト値が無効な選択リスト値に変換されます。変換中に上限を超えると、エラーが発生します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 無効な選択リスト値の管理 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

AppExchange を介したより多くのカスタム項目のインストール

組織の制限に関係なく、AppExchange パッケージを介して 100 個の追加のカスタム項目をインストールできるようになりました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Group Edition、Personal Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 各 Salesforce エディションには、作成してインストールできるオブジェクトごとのカスタム項目の数に制限があります。オブジェクトごとのカスタム項目数にこの新しい増加が適用されることで、AppExchange を介して 100 個の追加の項目をインストールできるようになります。たとえば、Unlimited Edition では、特定のオブジェクトに対して 800 個のカスタム項目を作成し、AppExchange パッケージを介して 100 個の項目をインストールできます。Enterprise Edition では、特定のオブジェクトに対して 500 個のカスタム項目を作成し、AppExchange パッケージを介して 400 個の項目をインストールできます。カスタム項目の合計数の上限は 900 個であるため、制限に近づいている場合は、不要になったカスタム項目を物理削除または消去することをお勧めします。

新しい 900 個の項目のハードリミットは、次のオブジェクトのみに適用されます。

- Account
- AccountContactRelation
- Asset
- Campaign
- CampaignMember
- Case

- Contact
- カスタムオブジェクト
- Individual
- KnowledgeArticleVersion
- Lead
- Opportunity
- OpportunityLineItem
- Order
- OrderItems (注文商品)
- Product2 (商品)
- Solution
- Users
- UserRole (ロール)

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:オブジェクトごとに許可されるカスタム項目\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

連動選択リストへのデフォルト値の事前入力

連動選択リストでレコードイベントにデフォルト値を事前入力できるようになりました。連動選択リストのデフォルト値は、取引先、商談、ケース、取引先責任者、リード、カスタムオブジェクトで使用できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[コンポーネントの参照:force:createRecord\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Einstein レコメンデーションビルダー

Einstein レコメンデーションビルダーを使用して、より迅速かつスマートにお勧めを構築できます。カスタムのお勧めを構築することも、テンプレートを使用することもできます。[部品-to-作業指示]テンプレートを使用して、フィールドサービスのお勧めをすばやく構築できます。

このセクションの内容:

おすすめテンプレートを使用した Field Service 作業指示での部品の推奨

部品を推奨することで、ユーザの時間を保存し、生産性を高めます。事前定義済みの Parts to Work Order テンプレートを使用して、作業指示の部品を簡単に推奨できます。また、設定を調整しておすすめを最適化できます。ルールベースのロジックを使用する代わりに、過去のデータから学習する Einstein を使用すればよりスマートなおすすめを構築できます。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

おすすめテンプレートを使用した Field Service 作業指示での部品の推奨

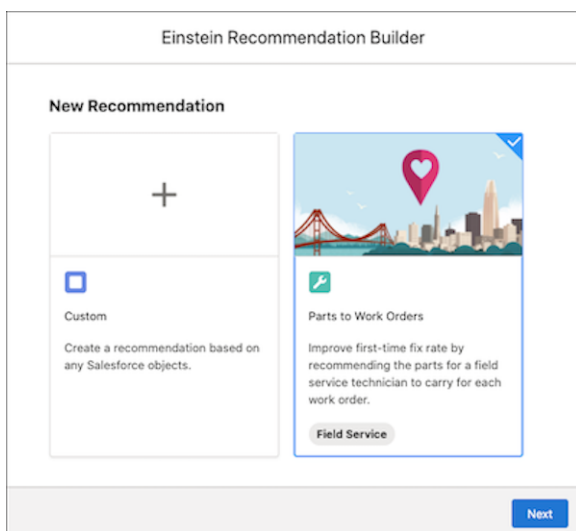
部品を推奨することで、ユーザの時間を保存し、生産性を高めます。事前定義済みの Parts to Work Order テンプレートを使用して、作業指示の部品を簡単に推奨できます。また、設定を調整しておすすめを最適化できます。ルールベースのロジックを使用する代わりに、過去のデータから学習する Einstein を使用すればよりスマートなおすすめを構築できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

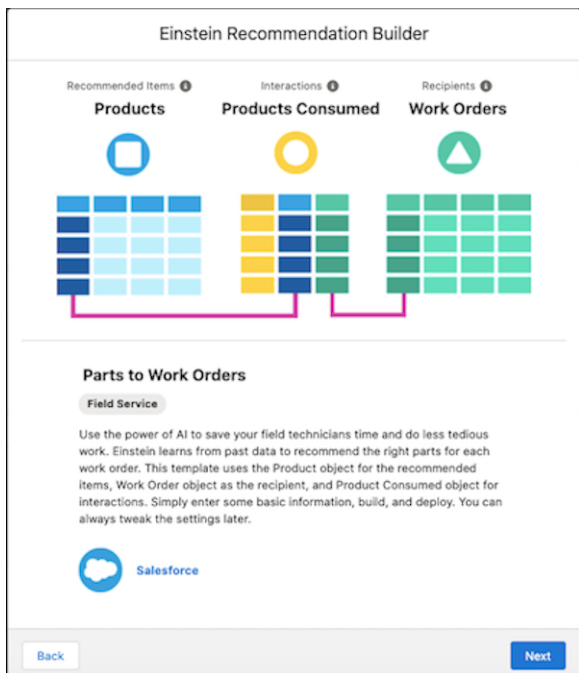
対象ユーザ: この機能は、Service Cloud Einstein および Lightning Platform Plus ライセンスで使用できます。

方法: 数回クリックするだけで組織レベルですべての Field Service 機能を有効にできます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「Field Service 設定」と入力し、フィールドサービス設定を有効にして保存します。テンプレートベースまたはカスタムのおすすめを構築できます。[部品-to-作業指示] を選択します。おすすめが構築されたら、スコアカードで結果を確認します。Einstein レコメンデーションビルダーの [設定] リストビューで、おすすめにアクセスできます。

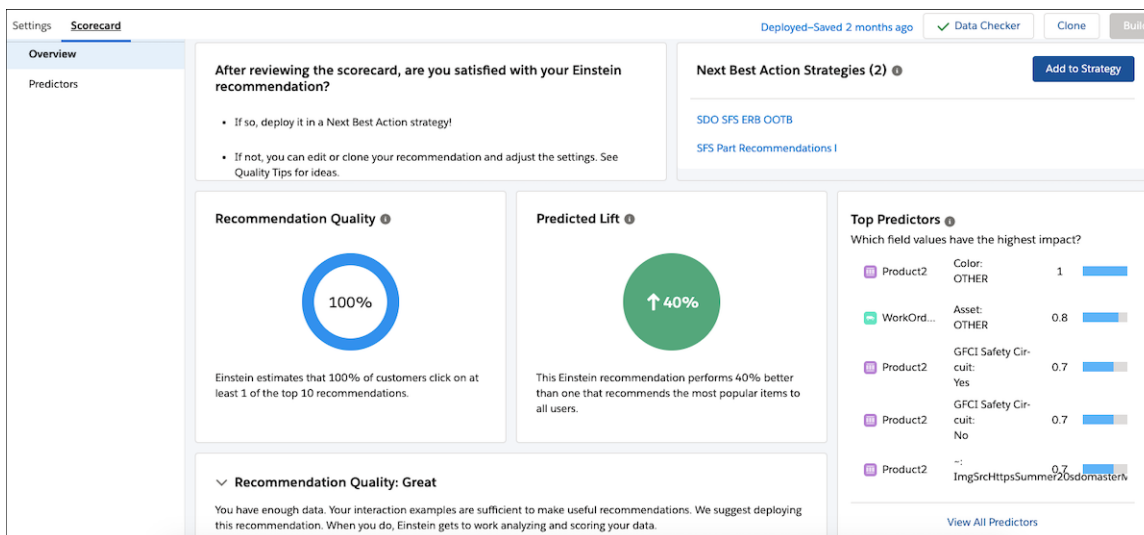
Field Service Lightning で、[部品-to-作業指示] テンプレートを使用するか、[カスタム] タイルを選択して最初からおすすめを構築します。



[部品-to-作業指示] テンプレートを選択すると、Einstein でフィールドサービスのおすすめに関連したオブジェクトが使用されます。



おすすめに名前を付けて構築します。構築の結果はおすすめのスコアカードに表示されます。



おすすめを反復する場合も問題ありません。コピーして設定を調整するだけです。

関連トピック:

[Field Service リリースノート](#)

プロフィールと権限

権限の操作は継続的に改善されており、期限付きのユーザ割り当てにより柔軟性が向上しています。また、参照のみ標準プロフィールがカスタムプロフィールに変換されるようになりました。

このセクションの内容:

権限セットおよび権限セットグループの権限の割り当ての有効期限の設定 (ベータ)

ユーザを権限セットまたは権限セットグループに割り当てるときに、指定した有効期限を選択します。ビジネス要件に基づいてユーザの権限が期限切れになるタイミングを制御します。

[有効期限のある権限セットグループの割り当て (ベータ)] オプションの有効化

割り当ての有効期限オプションが含まれる更新されたユーザインターフェースを使用するには、[有効期限のある権限セットグループの割り当て (ベータ)] を有効化します。このオプションは、[設定] の [ユーザ管理設定] ページにあります。


参照のみ標準プロフィールをカスタムプロフィールに変換 (更新、適用)

この更新により、参照のみ標準プロフィールがカスタムプロフィールに変換され、ビジネスニーズに応じてこのプロフィールの権限を編集できます。この更新は Spring '21 で最初に使用可能になり、Summer '21 で適用されます。

権限セットおよび権限セットグループの権限の割り当ての有効期限の設定 (ベータ)

ユーザを権限セットまたは権限セットグループに割り当てるときに、指定した有効期限を選択します。ビジネス要件に基づいてユーザの権限が期限切れになるタイミングを制御します。

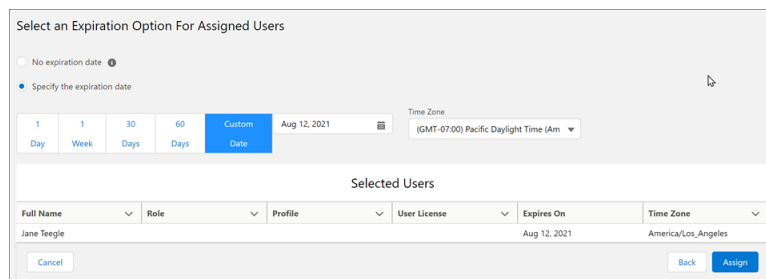
対象: この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Professional Edition、Group Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

-  **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

理由: 営業マネージャは、販売契約で使用される言語を評価するコンサルタントを求めているとします。コンサルタントが作業を行うことができるように、権限セットグループを使用して、契約オブジェクトへのアクセス権や他の権限をコンサルタントに付与します。プロジェクトには終了日があるため、終了日以降はコンサルタントが販売契約にアクセスできないようにする必要があります。ユーザに割り当てるときに、権限セットグループの有効期限とタイムゾーンを設定します。

方法: 権限セットまたは権限セットグループの有効期限は API を使用して設定できます。

権限セットグループの割り当ての有効期限オプションがあるユーザインターフェースを使用するには、[ユーザ管理設定] で [有効期限のある権限セットグループの割り当て (ベータ)] を有効にします。次に、ユーザを権限セットグループに割り当てるときに、目的の有効期限オプションを選択します。また、オプションとして有効期限なしも選択できます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Permission Set and Permission Set Group Assignment Expiration \(Beta\) \(権限セットと権限セットグループの割り当ての有効期限\(ベータ\)\)\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[\[有効期限のある権限セットグループの割り当て \(ベータ\)\] オプションの有効化](#)

[有効期限のある権限セットグループの割り当て (ベータ)] オプションの有効化

割り当ての有効期限オプションが含まれる更新されたユーザインターフェースを使用するには、[有効期限のある権限セットグループの割り当て (ベータ)] を有効化します。このオプションは、[設定] の [ユーザ管理設定] ページにあります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Professional Edition、Group Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Permission Set and Permission Set Group Assignment Expiration \(Beta\) \(権限セットと権限セットグループの割り当ての有効期限\(ベータ\)\)\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[権限セットおよび権限セットグループの権限の割り当ての有効期限の設定 \(ベータ\)](#)

参照のみ標準プロフィールをカスタムプロフィールに変換 (更新、適用)

この更新により、参照のみ標準プロフィールがカスタムプロフィールに変換され、ビジネスニーズに応じてこのプロフィールの権限を編集できます。この更新は Spring '21 で最初に使用可能になり、Summer '21 で適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Spring '21 で最初に使用可能になり、Summer '21 で適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: 参照のみ標準プロフィールが割り当てられたユーザは、設定の参照、レポートの実行とエクスポート、および他のレコードの参照 (編集は不可) が可能です。Salesforce の製品とサービスの拡張に伴い、Salesforce の機能を動作させるために、暗黙的または明示的な編集アクセス権を付与する権限がこのプロフィールに追加されました。

リスク許容度と参照のみの定義に合わせて参照のみプロフィールをカスタマイズできるようにするため、この更新プログラムによって参照のみ標準プロフィールがカスタムプロフィールに変換されます。この更新を適用したら、参照のみカスタムプロフィールを編集し、ビジネスニーズに応じて権限を削除または追加できるようになります。許可する操作や割り当て対象者を反映するように、プロフィールの名前を変更することもできます。

この変更の一環として、Essentials Edition では最大2つのカスタムプロファイルを作成でき、Professional Edition では最大3つのカスタムプロファイルを作成できるようになりました。変換したカスタム参照のみプロファイルは、この制限にカウントされます。

方法: この更新を適用する前に、参照のみプロファイルに含まれる権限を確認します。参照のみプロファイルに割り当てられたユーザに、含まれる権限を引き続き付与するかどうかを評価します。含まれる権限の完全なリストは、ナレッジ記事「[参照のみプロファイルからカスタムプロファイルへの変換](#)」を参照してください。

権限を確認したら、ユーザを新しいプロファイルに再割り当てするか、ユーザを再割り当てせずに既存の参照のみプロファイルを使用するかを決定します。既存の参照のみプロファイルを引き続き使用する場合は、変換後に参照のみ標準プロファイルの正しい名前を参照するようにカスタムコードを更新して、設定とリリースが損なわれないようにしてください。

この更新を確認するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。[参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換]で、テストと有効化の手順を実行します。

Spring '21 以降に作成された新規Salesforce組織では、参照のみプロファイルがありません。最小権限プロファイルベースとして最小アクセス標準プロファイルから開始し、カスタム権限セットを割り当て、ビジネスニーズに必要な参照アクセス権をこのユーザに付与することをお勧めします。

関連トピック:

[ナレッジ記事: Read Only Profile Conversion to Custom Profile \(カスタムプロファイルへの参照のみプロファイルの変換\)](#)

[リリース更新のお知らせ](#)

[Spring '21 リリースノート: 参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換 \(更新\)](#)

[Salesforce ヘルプ: プロファイル \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

AppExchange

AppExchange の1回限りの購入および定期的な購入で米国売上税が徴収されるようになりました。購入が課税対象かどうかの判別に納入先住所と免税状況が使用されます。

このセクションの内容:

[AppExchange 購入での米国売上税の徴収の準備](#)

AppExchange の1回限りの購入および定期的な購入で米国売上税が徴収されるようになりました。購入が課税対象かどうかの判別に納入先住所と免税状況が使用されます。

AppExchange 購入での米国売上税の徴収の準備

AppExchange の1回限りの購入および定期的な購入で米国売上税が徴収されるようになりました。購入が課税対象かどうかの判別に納入先住所と免税状況が使用されます。

時期: 米国売上税の徴収は 2021 年 6 月 1 日に開始されます。

理由: 米国の現地の税法に準拠するため、AppExchange の顧客から売上税が徴収され、現地の税務当局に送金されます。

次の要素に該当する場合、AppExchange の購入は課税対象になります。

- 納入先住所が米国内にある。
- 納入先住所を管轄する米国の州当局または現地当局により該当の取引に売上税が課されている。
- 購入が免税の対象ではない。

方法: 購入が課税対象かどうかの判別に納入先住所が使用されるため、納入先住所を登録する必要があります。

新規購入の場合、チェックアウト中に納入先住所を入力するように要求されます。

The screenshot shows the 'AppExchange Checkout' page. At the top, it says 'Let's get started' and provides a note: 'To install this product, we need your contact and billing details. If the provider offers a free trial, you won't be charged until the trial ends.' The form contains the following fields:

- First Name: Dee
- Last Name: Mato
- Email: dmato@example.com
- Billing Address: Country (United States), Street (1525 Birch Ter), City (Fremont), State (California), Zip/Postal (94536)
- Shipping Address: Country (United States), Street (1525 Birch Ter), City (Fremont), State (California), Zip/Postal (94536)
- A checkbox labeled 'Same as billing address' is checked.

A progress indicator at the bottom shows the current step is 1 of 3, and a 'Next' button is located at the bottom right.

既存の定期サブスクリプションの場合、登録されている請求先住所が自動的に取得され、納入先住所として保存されます。

納入先住所は AppExchange 請求書に表示されます。課税対象の購入の場合、請求書には売上税額も表示され、請求書合計には売上税が含まれます。

Northern Star				
Email:		Billed on: February 16,2021		
		Invoice #: in_1IKEN9IjEaf9BwqsMBR7wZ3g		
Billed to:		Shipping Address:		
Dee Mato		Dee Mato		
1 Main Birch Ter		1 Main Birch Ter		
Freemont, CA 94536		Freemont, CA 94536		
US		US		
Date	Description	Price	Quantity	Subtotal
Feb 13,2021 - Mar 13,2021	Subscription for Monthly without trial	\$ 10.00	10	\$ 100.00
			Subtotal	\$ 100.00
			Coupon	- \$ 50.00
			US Sales Tax	\$ 4.63
			InvoiceTotal	\$ 54.63

一般設定

CRUD 権限を定義して、どのユーザがバックグラウンド操作にアクセスできるかを制御して項目レベルアクセス権と共有ルールを改善できます。セキュアエージェント機能は Winter '22 で廃止されます。

このセクションの内容:

バックグラウンド操作へのアクセスのカスタマイズ

Summer '21 リリースで、BackgroundOperation 標準オブジェクトのアクセス権の設定が強化されました。システム管理者は CRUD 権限を定義して、どのユーザがバックグラウンド操作にアクセスできるかを制御できます。BackgroundOperation オブジェクトの項目レベルのアクセス権および共有ルールも強化されています。

分割ビューの一括アクションを使用した時間の節約

個別のリストページを開く必要はなく、分割ビューで複数のレコードを同時に操作できるようになりました。分割ビューのリストで項目を選択し、標準ビューまたはコンソールビューですべてにアクションを適用します。

Winter '22 で廃止されるセキュアエージェント

Sharepoint (社内) 用 Files Connect ライセンスをサポートするセキュアエージェント機能は Winter '22 で廃止されます。この後、これを [私の設定] ページからダウンロード可能なクライアントとして使用したり、SOAP API の標準オブジェクトとして使用したりできなくなります。Files Connect for SharePoint Online に移行するか、代替ソリューションを計画することをお勧めします。

バックグラウンド操作へのアクセスのカスタマイズ

Summer '21 リリースで、BackgroundOperation 標準オブジェクトのアクセス権の設定が強化されました。システム管理者は CRUD 権限を定義して、どのユーザがバックグラウンド操作にアクセスできるかを制御できます。BackgroundOperation オブジェクトの項目レベルのアクセス権および共有ルールも強化されています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。


対象ユーザ: Summer '21 リリースより前に作成された Salesforce 組織では、「設定・定義を参照する」権限を持つプロファイルとカスタム権限を持つユーザがバックグラウンド操作にアクセスできました。Summer '21 以降、システム管理者から「参照」アクセス権を付与されていてライセンスによって許可されているプロファイルのみがバックグラウンド操作を照会できます。CRUD は、リリース後 24 時間以内に自動的に有効になります。

バックグラウンド操作への項目レベルのアクセス権はユーザ権限によって決まります。

- 「設定・定義を参照する」権限を持つユーザは、BackgroundOperation オブジェクトのすべての項目を表示できます。
- 「設定・定義を参照する」権限を持たないユーザは、Id 項目、Name 項目、Type 項目、ParentKey 項目、Status 項目、CreatedBy 項目、ExpiresAt 項目、SubmittedAt 項目、FinishedAt 項目、StartedAt 項目、CreatedDate 項目、ProcessAfter 項目、Error 項目の値のみを表示できます。その他のすべての項目には null 値が表示されます。

新しい Type 項目に基づいてバックグラウンド操作を照会できます。さまざまなバックグラウンド操作種別の共有ルールを次に示します。

- Sweeper: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザまたはレコード所有者
- WebCart: B2B Commerce スーパーユーザまたは関連する Web カートの所有者
- AsyncQuery、ExternalChangeDataCapture、ExternalObject、XClean: 「設定・定義を参照する」権限を持つユーザまたはレコード所有者

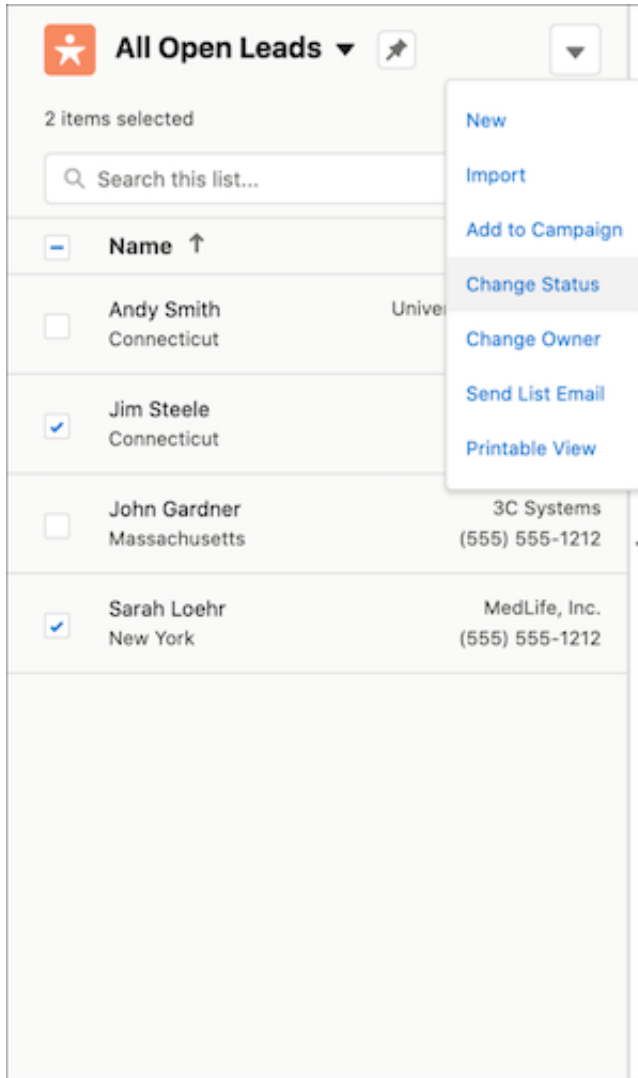
 **メモ:** BackgroundOperation オブジェクトに対する「すべての参照」権限または「すべてのデータの参照」権限を持つユーザは、すべてのバックグラウンド操作種別にアクセスできます。

分割ビューの一括アクションを使用した時間の節約

個別のリストページを開く必要はなく、分割ビューで複数のレコードを同時に操作できるようになりました。分割ビューのリストで項目を選択し、標準ビューまたはコンソールビューですべてにアクションを適用します。

対象: この変更は、Professional Edition、Developer Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience デスクトップに適用されます。

方法: リストのすべての項目で使用可能なアクションがある場合、分割ビューに自動的にチェックボックスが追加され、アクションドロップメニューの選択したレコードにアクションを追加できます。アクションを適用すると、項目は自動的に選択解除されます。分割ビューの一括アクションは、テーブルビューの一括アクションと同じロジックに従います。インライン編集は分割ビューではサポートされないため、チェックボックスはプロジェクトで一括アクションが使用可能な場合のみ表示されます。



Winter '22 で廃止されるセキュアエージェント

Sharepoint (社内) 用 Files Connect ライセンスをサポートするセキュアエージェント機能は Winter '22 で廃止されます。この後、これを [私の設定] ページからダウンロード可能なクライアントとして使用したり、SOAP API の標準オブジェクトとして使用したりできなくなります。FilesConnectforSharePointOnline に移行するか、代替ソリューションを計画することをお勧めします。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: セキュアエージェントは、Salesforce ファーストパーティデータセンターとお客様のデータセンターでホストされている Sharepoint との間の通信レイヤとして機能します。2021 年 10 月 1 日に SharePoint (社内) 用 Files Connect が廃止されるため、セキュアエージェント機能もその日に廃止されます。

関連トピック:

<https://help.salesforce.com/apex/HTViewSolution?urlname=Files-Connect-for-SharePoint-On-Premises-Retirement>

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント

Lightning Web コンポーネントを呼び出すクイックアクションを作成します。カスタム Lightning Web コンポーネントのスタイル設定フックを作成します。監査を使用して、ユーザがカスタム Lightning コンポーネントをいつ作成、変更、または削除したかを追跡します。ui 名前空間の Aura コンポーネントは廃止され、2021 年 5 月 1 日以降サポートされなくなります。

Einstein Vision および Language

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Vision API と Einstein Language API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

Salesforce Functions: Function を使用した Salesforce の拡張 (ベータ)

Salesforce Functions を使用すると、開発者は、業界標準のプログラミング言語とオープンソースコンポーネントで構築された、弾力的に拡張可能なカスタムビジネスロジックを使用して Salesforce を拡張できます。Salesforce Functions を使用すると、インフラストラクチャの負担が減るため、任意の言語とツールを使用して Functions-as-a-Service (FaaS) アプリケーションの構築と統合を行うことができます。

Visualforce

継続的なリリース更新では、Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールが禁止されます。別のリリース更新では、Visualforce Remoting API をコールする場合のセキュリティが強化されます。両方のリリース更新は、Winter '22 で適用されます。

Apex

Apex のリファレンスコンテンツが別の『Apex リファレンスガイド』として使用可能になりました。概念的な情報は引き続き『Apex 開発者ガイド』で提供されます。Transactions Finalizers 機能が正式リリースされました。新しいデータベースメソッドで AccessLevel パラメータがサポートされます。このパラメータを指定すると、デフォルトのシステムモードではなくユーザモードでデータベース操作を実行できるようになります。

API

Salesforce Platform API の従来のバージョンが廃止されました。新しいメタデータ API のドキュメントは書式が改良されて視認性が向上しました。また、新しい Warning ヘッダーが Platform REST API と Bulk API に追加されました。

パッケージ化

バージョン管理システムのブランチに基づいてパッケージバージョンを作成します。パッケージバージョンの作成時に実行される Apex テストへのアクセスを管理します。パッケージのリリースバージョンを指定して、パッケージの今後の機能をテストします。多要素認証を使用して、ライセンス管理組織の登録者サポートコンソールを保護します。

スクラッチ組織

スクラッチ組織は、専用かつ設定可能な Salesforce 環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。スクラッチ組織は、自分の個人的な開発環境として使用できます。または、自動テストのためにヘッドレススクラッチ組織を作成することもできます。本番組織や Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、または Dev Hub トライアル組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。継続的に新機能のサポートを追加していきます。

Sandbox

新しいツールを使用して、Sandbox で個人識別情報その他の機密データを保護できます。

プラットフォーム開発ツール

Salesforce Developer Experience (DX) を使用してアプリケーションを共同で作成し、継続的に配信します。Salesforce Developer Experience は、Customer 360 Platform での開発を容易にするオープンな統合環境です。

Lightning Design System

Salesforce Lightning Design System (SLDS) には、Salesforce Lightning の原則、設計言語、およびベストプラクティスに一致するユーザインターフェースを作成するリソースが含まれています。

AppExchange パートナー

AppExchange の App Analytics クエリ戦略のベストプラクティスを使用して、効率を高めてインサイトを取得します。利用状況総計値から AppExchange の App Analytics に切り替えて、管理パッケージの利用状況データをさらに掘り下げます。米国売上税の徴収に向けてユーザを準備します。更新された AppExchange の Marketplace Analytics ダッシュボードのリストから、何がリードの行動とチャットエンゲージメントを促進するのかを判断できます。

プラットフォームイベント


EventUuid 項目を使用して、プラットフォームイベントメッセージを識別します。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

Lightning コンポーネント

Lightning Web コンポーネントを呼び出すクイックアクションを作成します。カスタム Lightning Web コンポーネントのスタイル設定フックを作成します。監査を使用して、ユーザがカスタム Lightning コンポーネントをいつ作成、変更、または削除したかを追跡します。ui 名前空間の Aura コンポーネントは廃止され、2021 年 5 月 1 日以降サポートされなくなります。

-  **メモ:** 新規追加および変更された Lightning Web コンポーネント、Aura コンポーネント、Aura コンポーネントインターフェースを探していますか? 「開発」セクションの最後にある新規追加および変更された項目のリストを参照してください。

このセクションの内容:

UI 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

廃止されるコンポーネントのサポートは 2021 年 5 月 1 に終了します。従来のコンポーネントを廃止することで、パフォーマンス、アクセシビリティ、ユーザエクスペリエンス、国際化の点で最新の Web 標準に従うコンポーネントに集中できます。

Lightning Web コンポーネントを呼び出すクイックアクションの作成 (正式リリース)

ユーザの時間を節約し、クリックの回数を減らすには、Lightning Web コンポーネントを呼び出すクイックアクションを作成します。レコードページで、ウィンドウにコンポーネントを表示する画面アクションを作成するか、クリックで実行されるヘッドレスアクションを作成します。

Lightning Web コンポーネントのスタイル設定フックの作成

カスタムコンポーネントのスタイル設定フックを公開するには、CSS カスタムプロパティを使用します。また、CSS カスタムプロパティを使用すると、コードが読みやすくなり、更新しやすくなります。

設定変更履歴での Lightning コンポーネントの変更の監視

監査を使用して、ユーザがカスタム Lightning コンポーネントをいつ作成、変更、または削除したかを追跡します。監査履歴は、複数の開発者がコンポーネントで作業する場合に特に役立ちます。

新しいカスタム表示ラベルとコンポーネントの組み合わせのリリース

1つのリリースで新しいカスタム表示ラベルと既存の Lightning Web コンポーネントでのそのカスタム表示ラベルへの参照をリリースします。以前は、新しいカスタム表示ラベルをリリースしてから、2つ目のリリースで既存の Lightning Web コンポーネントでのそのカスタム表示ラベルへの参照を追加していました。

常に変更されるイベント対象

イベントハンドラが追加されたタイミングに関係なく、イベント対象は常に変更されます。

DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新

HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする自動 UI テストでは、継続的なメンテナンスが必要になります。Salesforce は、自動 UI テストがこのリリースに適応するようにサポートします。

Lightning Locker のマークアップのサニタイズの変更

Lightning Locker では、セキュリティを強化するためにマークアップのサニタイズが厳しくなりました。いくつかの潜在的な変異ベースのクロスサイトスクリプティング (mXSS) ベクトルが防止されます。無効なマークアップを使用する自己終了 `<iframe />` タグは DOM から削除されます。代わりに `<iframe>` タグと `</iframe>` タグを使用します。

Lightning コンポーネントのリリース更新

2つのリリース更新が適用されます。さらに、2つの新しいリリース更新と別の既存のリリース更新があります。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド](#)

[Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド](#)


ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

廃止されるコンポーネントのサポートは 2021 年 5 月 1 に終了します。従来のコンポーネントを廃止することで、パフォーマンス、アクセシビリティ、ユーザエクスペリエンス、国際化の点で最新の Web 標準に従うコンポーネントに集中できます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: Salesforce では、2021 年 5 月 1 日に ui 名前空間で Aura コンポーネントのサポートを終了します。2021 年 5 月 1 日以降もこれらのコンポーネントを引き続き使用することはできますが、その日付以降、これらのサポートケースは受け付けられなくなります。このプランの廃止は最初に Winter '20 で発表されました。

方法: 可能であれば、Lightning Web コンポーネント(LWC)に移行します。廃止されるコンポーネントを lightning 名前空間の対応するコンポーネントに置き換えます。これらのコンポーネントのほうが高速で効率的であり、Lightning Design System のスタイル設定を標準で使用できます。

 **メモ:** lightning 名前空間のコンポーネントには、Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントの 2 つのバージョンがあります。可能であれば、Lightning Web コンポーネントを使用することをお勧めします。Lightning Web コンポーネントは、HTML と最新の JavaScript を使用して作成されたカスタム HTML 要素です。Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネントは 1 つのページで共存および相互運用できます。どちらも Lightning コンポーネントとしてシステム管理者やエンドユーザーに表示されます。詳細は、『[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド](#)』を参照してください。

廃止される Aura コンポーネントとその推奨される代替コンポーネントを次に示します。

ui:actionMenuItem

代わりに、lightning:menuItem と lightning:buttonMenu を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、lightning-menu-item と lightning-button-menu を使用します。

ui:button

lightning:button、lightning:buttonIcon、または lightning:buttonIconStateful を使用します。ボタングループの場合、lightning:buttonGroup を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、lightning-button、lightning-button-icon、または lightning-button-icon-stateful を使用します。ボタングループの場合、lightning-button-group を使用します。

ui:checkboxMenuItem

代わりに、lightning:menuItem と lightning:buttonMenu を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、lightning-menu-item と lightning-button-menu を使用します。

ui:inputCheckbox

lightning:input と checkbox、toggle、または checkbox-button 型を使用します。チェックボックスグループの場合、代わりに lightning:checkboxGroup を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、lightning-input と checkbox、toggle、または checkbox-button 型を使用します。チェックボックスグループの場合、lightning-checkbox-group を使用します。

ui:inputCurrency

代わりに、`lightning:input` と `number` 型および `currency` フォーマッタを使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input` と `number` 型および `currency` フォーマッタを使用します。

ui:inputDate

代わりに、`lightning:input` と `date` 型を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input` と `date` 型を使用します。

ui:inputDateTime

代わりに、`lightning:input` と `datetime` 型を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input` と `datetime` 型を使用します。

ui:inputDefaultError

代わりに、`lightning:input` と組み込みの項目検証を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input` と組み込みの項目検証を使用します。

ui:inputEmail

代わりに、`lightning:input` と `email` 型を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input` と `email` 型を使用します。

ui:inputNumber

代わりに、`lightning:input` と `number` 型を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input` と `number` 型を使用します。

ui:inputPhone

代わりに、`lightning:input` と `phone` 型を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input` と `phone` 型を使用します。

ui:inputRadio

代わりに、`lightning:input` と `radio` 型を使用します。ラジオグループの場合、代わりに `lightning:radioGroup` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input` と `radio` 型を使用します。ラジオグループの場合、`lightning-radio-group` を使用します。

ui:inputRichText

代わりに `lightning:inputRichText` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input-rich-text` を使用します。

ui:inputSecret

代わりに、`lightning:input` と `password` 型を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、代わりに `lightning-input` と `password` 型を使用します。

ui:inputSelect

デスクトップでは `lightning:combobox` を使用し、モバイル画面では `lightning:select` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-combobox` コンポーネントを使用します。モバイル画面をサポートするには、HTML `select` 要素を使用します。

ui:inputSelectOption

代わりに、`lightning:select` または `lightning:combobox` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、HTML `select` 要素または `lightning-combobox` コンポーネントを使用します。

ui:inputText

代わりに、`lightning:input` と `text` 型を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input` と `text` 型を使用します。

ui:inputTextArea

代わりに `lightning:textarea` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-textarea` を使用します。

ui:inputURL

代わりに、`lightning:input` と `url` 型を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-input` と `url` 型を使用します。

ui:menu

代わりに `lightning:buttonMenu` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-button-menu` を使用します。

ui:menuItem

代わりに、`lightning:menuItem` と `lightning:buttonMenu` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-menu-item` と `lightning-button-menu` を使用します。

ui:menuItemSeparator

代わりに、`lightning:menuDivider` と `lightning:buttonMenu` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-menu-divider` と `lightning-button-menu` を使用します。

ui:menuList

代わりに `lightning:buttonMenu` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-button-menu` を使用します。

ui:menuTrigger

代わりに `lightning:buttonMenu` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-button-menu` を使用します。

ui:menuTriggerLink

代わりに `lightning:buttonMenu` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-button-menu` を使用します。

ui:message

代わりに `lightning:notificationsLibrary` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning/platformShowToastEvent` モジュールを使用します。

ui:outputCheckbox

代わりに `lightning:input` を使用します。 `type` を `checkbox` に設定し、 `readonly` を `true` に設定します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-input` と `checkbox` 型を使用し、 `readonly` を `true` に設定します。

ui:outputCurrency

代わりに `lightning:formattedNumber` を使用します。 `style` を `currency` に設定します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-formatted-number` を使用し、 `format-style` を `currency` に設定します。

ui:outputDate

代わりに `lightning:formattedDateTime` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-formatted-date-time` を使用します。

ui:outputDateTime

代わりに、 `lightning:formattedDateTime` または `lightning:formattedTime` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-formatted-date-time` または `lightning-formatted-time` を使用します。

ui:outputEmail

代わりに `lightning:formattedEmail` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-formatted-email` を使用します。

ui:outputNumber

代わりに `lightning:formattedNumber` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-formatted-number` を使用します。

ui:outputPhone

代わりに `lightning:formattedPhone` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-formatted-phone` を使用します。

ui:outputRichText

代わりに `lightning:formattedRichText` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-formatted-rich-text` を使用します。

ui:outputText

代わりに `lightning:formattedText` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-formatted-text` を使用します。

ui:outputTextArea

代わりに `lightning:formattedText` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-formatted-text` を使用します。

ui:outputURL

代わりに `lightning:formattedUrl` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、 `lightning-formatted-url` を使用します。

ui:radioMenuItem

代わりに、`lightning:menuItem` と `lightning:buttonMenu` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-menu-item` と `lightning-button-menu` を使用します。

ui:scrollerWrapper

このコンポーネントに相当する `lightning` 名前空間はありません。Salesforce モバイルアプリケーションでネイティブスクロールを使用できるようになったため、ラッパーは不要です。詳細は、「[改善されたスクロール](#)」を参照してください。

ui:spinner

代わりに `lightning:spinner` を使用します。

Lightning Web コンポーネントに移行する場合、`lightning-spinner` を使用します。

関連トピック:

[Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: UI 名前空間からのコンポーネントの移行](#)

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: Lightning Web コンポーネントへの Aura コンポーネントの移行](#)

Lightning Web コンポーネントを呼び出すクイックアクションの作成(正式リリース)

ユーザの時間を節約し、クリックの回数を減らすには、Lightning Web コンポーネントを呼び出すクイックアクションを作成します。レコードページで、ウィンドウにコンポーネントを表示する画面アクションを作成するか、クリックで実行されるヘッドレスアクションを作成します。

対象: この変更は、Professional Edition、Developer Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience デスクトップに適用されます。クイックアクションは Experience Cloud サイトでは使用できません。

理由: ユーザのワークフローに不可欠なカスタムコンポーネントに簡単にアクセスできるようにします。たとえば、ユーザが頻繁にレシピをレコードにアップロードする場合、`.png` ファイルのアップロードを促すカスタム `lightning-file-upload` コンポーネントを作成します。このコンポーネントは適切に機能しますが、ユーザはオブジェクトのページを開いてアクセスする必要があります。コンポーネントを画面アクションとして定義すると、ユーザはクイックアクションをクリックすることで、ページから移動することなくポップアップウィンドウでレシピをアップロードできます。

方法: Lightning Web コンポーネントをレコードページのクイックアクションとして設定するには、

`<component>.js-meta.xml` でメタデータを定義します。`lightning__RecordAction` 対象を定義し、ウィンドウで開く画面アクションの `ScreenAction` またはクリックしたときに実行されるヘッドレスアクションの `Action` として `actionType` を指定します。次に、ヘッドレスアクションの設定を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<LightningComponentBundle xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
  <apiVersion>52.0</apiVersion>
  <isExposed>true</isExposed>
  <targets>
    <target>lightning__RecordAction</target>
  </targets>
```

```

    <targetConfigs>
    <targetConfig targets="lightning__RecordAction">
      <actionType>Action</actionType>
    </targetConfig>
  </targetConfigs>
</LightningComponentBundle>

```


ヘッドレスアクションを使用するには、公開された `invoke()` メソッドをコンポーネントに追加します。

```

import { LightningElement, api } from "lwc";

declare default class HeadlessSimple extends LightningElement {
  @api invoke() {
    console.log("Hi, I'm an action.");
  }
}

```

 **メモ:** 現在、LWC クイックアクションは、レコードページでのみサポートされています。

関連トピック:

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: Lightning クイックアクション](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: Quick Actions](#) (クイックアクション)

Lightning Web コンポーネントのスタイル設定フックの作成

カスタムコンポーネントのスタイル設定フックを公開するには、CSS カスタムプロパティを使用します。また、CSS カスタムプロパティを使用すると、コードが読みやすくなり、更新しやすくなります。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: コンポーネントの API の一部としてコンポーネントのスタイル設定フックを文書化します。コンシューマは、スタイル設定フックの値を設定するだけで、コンポーネントのスタイルを変更できます。スタイルがどのように実装されているのかを把握する必要はありません。

方法: コンポーネントのスタイルシートで CSS カスタムプロパティを定義するには、プロパティに `--` というプロパティを付けます。プロパティの値を挿入するには、`var()` を使用します。

```

:host {
  --important-color: red;
}

.important {
  color: var(--important-color);
}

```

CSS カスタムプロパティは継承されます。継承されたプロパティは、Shadow DOM を貫通します。`color` などの一部の CSS プロパティも継承されます。CSS カスタムプロパティは継承されるため、コンシューマは DOM ツリーのより高いレベルで値を設定し、コンポーネントのスタイルを設定できます。

これらの CSS カスタムプロパティでは、2つのテーマ ([光] と [闇]) のスタイル設定フックが作成されます。省略可能な 2 番目のパラメータとして代替値を `var()` に渡します。

```
/* myComponent.css */

.light {
  background-color: var(--light-theme-background-color, lightcyan);
  color: var(--light-theme-text-color, darkblue);
}


.dark {
  background-color: var(--dark-theme-background-color, darkslategray);
  color: var(--dark-theme-text-color, ghostwhite);
}
```

コンシューマは、スタイル設定フックの値を設定して、テーマの色を変更できます。

```
/* consumerComponent.css */

:host {
  --light-theme-background-color: honeydew;
  --light-theme-text-color: darkgreen;
  --dark-theme-background-color: maroon;
  --dark-theme-text-color: ivory;
}
```

プレイグラウンドでこのコードを試すには、lwc.dev を参照してください。

 **メモ:** Spring '21 では CSS カスタムプロパティがサポートされているため、すぐに使用を開始できます。

関連トピック:


[MDN: Custom properties \(--\)](#); [CSS variables \(カスタムプロパティ \(--\)\): CSS 変数](#)

設定変更履歴での Lightning コンポーネントの変更の監視

監査を使用して、ユーザがカスタム Lightning コンポーネントをいつ作成、変更、または削除したかを追跡します。監査履歴は、複数の開発者がコンポーネントで作業する場合に特に役立ちます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Aura および Lightning Web コンポーネントに適用されます。

方法: 監査履歴を表示するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「設定変更履歴の参照」と入力し、[設定変更履歴の参照] を選択します。

 **メモ:** コンポーネントバンドルの構造により、同じ変更に対する複数のエントリが監査に表示されることがあります。ただし、タイムスタンプが同じであるため、エントリが同じ変更に対するものであることがわかります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 設定変更履歴を使用した設定変更の監視](#)

新しいカスタム表示ラベルとコンポーネントの組み合わせのリリース

1つのリリースで新しいカスタム表示ラベルと既存の Lightning Web コンポーネントでのそのカスタム表示ラベルへの参照をリリースします。以前は、新しいカスタム表示ラベルをリリースしてから、2つ目のリリースで既存の Lightning Web コンポーネントでのそのカスタム表示ラベルへの参照を追加していました。

対象: この変更は、メタデータ API または Salesforce Developer Experience (DX) を使用した Lightning Web コンポーネントのリリースに適用されます。

関連トピック:

[Salesforce DX 開発者ガイド](#)

常に変更されるイベント対象

イベントハンドラが追加されたタイミングに関係なく、イベント対象は常に変更されます。

対象: この変更は、Lightning Out と Visualforce に適用されます。

理由: Shadow DOM では、コンポーネントの内部の詳細が公開されることを防止するためにイベント対象の変更が不可欠です。変更前は、フレームワークが初期化される前にページに追加されたイベントリスナーにイベント対象の変更は適用されませんでした。変更後は、イベントハンドラが追加されたタイミングに関係なく、イベント対象が常に変更されます。この変更は、Lightning Out または Visualforce で実行されているアプリケーションに影響します。

方法: Lightning Web コンポーネントの内部の詳細へのアクセスを回避するためにイベントハンドラを更新することをお勧めします。コンポーネントにボタン要素があるとします。

```
<div onclick={handleClick}>
  <c-child>
    #shadow-root
      <button>Click me</button>
  </c-child>
</div>
```

以前のイベントの対象は、子コンポーネントのシャドウルートボタンでしたが、この変更により、イベントの対象が子コンポーネントのホスト要素 `c-child` になりました。

次のコードは機能しなくなります。

```
handleClick(event) {
  if (event.target.tagName === 'BUTTON') {
    // do something
  }
}
```

次の例のイベント対象では、代わりに子コンポーネントのホスト要素にアクセスします。

```
// After
handleClick(event) {
  if (event.target.tagName === 'C-CHILD') {
    // do something
  }
}
```

DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新

HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする自動 UI テストでは、継続的なメンテナンスが必要になります。Salesforce は、自動 UI テストがこのリリースに適応するようにサポートします。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

理由: 特に、Lightning Experience が最新の Web 標準に合わせて進化し続けるにつれて、変更が発生します。Salesforce は、この変更によるこのテストの脆弱性を指摘します。Salesforce は、ユーザが自動 UI テストから得られる価値と、この変更によりユーザにかかるメンテナンスの負荷を理解しています。Salesforce では、HTML、CSS、または DOM の下位互換性は保証されません。

方法: 自動 UI テストでロケータの破損などの問題が発生する可能性があります。問題の解決方法に関する推奨事項については、「[Test Automation Trailblazers](#)」コミュニティグループを参照してください。

Lightning Locker のマークアップのサニタイズの変更

Lightning Locker では、セキュリティを強化するためにマークアップのサニタイズが厳しくなりました。いくつかの潜在的な変異ベースのクロスサイトスクリプティング (mXSS) ベクトルが防止されます。無効なマークアップを使用する自己終了 `<iframe />` タグは DOM から削除されます。代わりに `<iframe>` タグと `</iframe>` タグを使用します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Experience Cloud サイト、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

Lightning コンポーネントのリリース更新

2つのリリース更新が適用されます。さらに、2つの新しいリリース更新と別の既存のリリース更新があります。

このセクションの内容:

[管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 \(更新、適用済み\)](#)

この更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、global アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

[Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 \(更新、適用済み\)](#)

この更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。このリリース更新は Apex setter の使用に影響しません。

[Lightning コンポーネントの安全な静的リソースの有効化 \(更新、延期\)](#)

このリリース更新は無期限に延期され、お客様への影響を少なくするために実装が変更されます。このリリース更新は、現在の形式では適用されません。有効にしないでください。

Aura コンポーネントへの安全なアクセス (更新)

この更新により、`access="public"` が設定された外部コンポーネントには、同じ名前空間内の他のコンポーネントまたは内部の Salesforce コンポーネントのみがアクセスできるようになります。この更新は、Winter '22 で適用されます。

Lightning アプリケーションの OAuth 範囲の適用 (更新)

この更新では、Lightning アプリケーションの認証に使用する OAuth トークンの範囲が適用されます。OAuth トークンの範囲は接続アプリケーションで定義されます。この変更により、Lightning アプリケーションでは、意図しない権限を使用して OAuth トークンを使用できなくなります。この更新は、Winter '22 で適用される予定です。

管理パッケージの `global` 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、適用済み)

この更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。


対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションで Aura コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: この更新は Summer '17 で作成されたもので、Sandbox 組織または本番組織を Summer '21 にアップグレードすると適用されます。一部の Sandbox の適用は、2021 年 4 月 4 日に開始されました。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: `global` が付いた Apex コントローラメソッドのみが、管理パッケージに追加されると、その管理パッケージの名前空間外の Aura コンポーネントによってアクセス可能になります。Apex 定義で `public` が付いたメソッドは、パッケージの名前空間に含まれる Aura コンポーネントでのみアクセス可能です。この更新を有効にすると、これらのルールが適用されます。

この更新の前は、パッケージ名前空間外の Aura コンポーネントから `global` 以外のメソッド (`global` アクセス修飾子が付いていない Apex コントローラメソッド) にアクセスできました。

この更新を有効にすると、管理パッケージの `global` 以外の Apex メソッドをコードで誤って使用している場合、そのメソッドをコールするサーバアクションは失敗します。パッケージによって `global` メソッドとして提供されるサポート対象 API メソッドのみを使用するように、コードを更新してください。

 **メモ:** パッケージ外の Aura コンポーネントは、名前空間以外のロック解除済みパッケージからインストールされた公開 Apex メソッドにアクセスできます。Aura コンポーネントは、別のパッケージからインストールするか、組織で作成できます。Apex メソッドにアクセスする場合、名前空間以外のロック解除済みパッケージは未管理パッケージと同様に扱われます。

方法: この更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。2021 年 4 月 4 日以降、組織が Summer '21 にアップグレードされたときに更新が自動的に適用されるまで、引き続き [設定] の [リリース更新] から更新を有効化または無効化できます。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力し、[リリース更新] を選択します。

- 「管理パッケージの `global` 以外のコントローラメソッドへのアクセスの無効化」を探して、[詳細を表示] または [使用開始] をクリックします。
- カスタム Aura コンポーネントが正しく動作することをテストします。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、適用済み)

この更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。このリリース更新は Apex setter の使用に影響しません。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、エクスペリエンスビルダーサイト、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Sandbox 組織または本番組織を Summer '21 にアップグレードすると、この更新が適用されます。一部の Sandbox の適用は、2021 年 4 月 4 日に開始されました。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: `counter` クラスプロパティの `private` getter を含む Apex クラスの例を見てみましょう。

```
public class EnforcePrivateGetter {
    @AuraEnabled

    public Integer counter { private get; set; }

    @AuraEnabled
    public static EnforcePrivateGetter GetRepro2()
    {
        EnforcePrivateGetter result = new EnforcePrivateGetter();
        result.counter = 2;
        return result;
    }
}
```

この更新が有効になると、この Aura コンポーネントは `{!v.apexObject.counter}` 式を使用して `private` getter にアクセスできなくなります。同じ制限が Lightning Web コンポーネントにも適用されます。

```
<aura:component controller="EnforcePrivateGetter" access="global">
    <aura:handler name="init" value="{!this}" action="{!c.doInit}"/>

    <aura:attribute type="EnforcePrivateGetter" name="apexObject" />

    counter = {!v.apexObject.counter} <br></br>
</aura:component>
```

JavaScript コントローラを次に示します。

```
{
    doInit : function(cmp, ev) {
```



```

var action = cmp.get("c.GetRepro2");

action.setCallback(this, function(response) {
    var state = response.getState();
    if (state === "SUCCESS") {
        cmp.set('v.apexObject', response.getReturnValue());
    }
    else if (state === "ERROR") {
        console.log('Error : ' + JSON.stringify(errors));
    }
});
$A.enqueueAction(action);
}
})

```

この更新が有効になった場合、修正方法は、getterの `private` アクセス修飾子を削除して、クラス変数定義を次のように変更することです。

```
public Integer counter { get; set; }
```

Apex プロパティを Apex クラス外で参照可能にするには、プロパティに `private` または `protected` アクセス修飾子を含めないようにします。

方法: この更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。2021 年 4 月 4 日以降、組織が Summer '21 にアップグレードされたときに更新が自動的に適用されるまで、引き続き [設定] の [リリース更新] から更新を有効化または無効化できます。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力し、[リリース更新] を選択します。
2. 「Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用」を探して、[詳細を表示] または [開始] をクリックします。
3. getter に `private` または `protected` アクセス修飾子を含む Apex クラスを使用するコンポーネントの動作をテストします。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

Lightning コンポーネントの安全な静的リソースの有効化 (更新、延期)

このリリース更新は無期限に延期され、お客様への影響を少なくするために実装が変更されます。このリリース更新は、現在の形式では適用されません。有効にしないでください。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、エクスペリエンスビルダーサイト、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: この更新は、無期限に延期されました。

理由:セキュリティを向上するため、この更新ではすべての静的リソースがlightningドメインではなくvisualforceドメインから提供されます。この変更により、静的リソースに含まれるスクリプトは、同じ発生元のセキュリティポリシーのために、lightningドメイン内のドキュメントにアクセスできなくなります。

関連トピック:

[Lightning コンポーネント開発者ガイド: \\$Resource](#)

[Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: 静的リソースへのアクセス
リリース更新のお知らせ](#)

Aura コンポーネントへの安全なアクセス (更新)

この更新により、`access="public"` が設定された外部コンポーネントには、同じ名前空間内の他のコンポーネントまたは内部のSalesforceコンポーネントのみがアクセスできるようになります。この更新は、Winter'22で適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションのLightning Experience およびSalesforce Classicに適用されます。

時期: この更新は、Summer'21から利用可能になり、Winter'22で適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: Auraでは、`access="public"` フラグを使用してカスタムコンポーネントのコンポーネントアクセス権が決定されます。この更新を適用しない場合、`access="public"` が設定されたカスタムコンポーネントのコンポーネントアクセス権が一貫して決定されません。

方法: この問題を修正すると、以前に検出されなかった他の問題が明らかになる可能性があります。たとえば、この更新の前は、`$A.getCallback()` でラップされていないコールバックはコンテキストを失っても正常に実行される可能性がありました。この更新の後には、コールバックがコンテキストを失うと、アクセス権チェックがエラーで失敗します。Winter'22でこのリリース更新が自動有効化される前に、Sandbox環境で次のテスト手順を実行し、リリース更新の影響を評価して、すべてのコンポーネントアクセス権エラーを修正することをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力し、[リリース更新] を選択します。
2. [Aura コンポーネントアクセス権の修正を有効化] で、リリース更新のテスト実行を有効にします。
3. カスタムコンポーネントを含むページをテストして、コンソールログに [Access Check Failed!] などのエラーメッセージがないかどうかを監視します。
4. 破損したコンポーネントを修正します。
5. 手動テストが完了したら、リリース更新のテスト実行を無効にして、コードの変更を本番に移行します。
6. 本番でリリース更新を有効にするか、リリース更新がWinter'22で自動有効化されるまで待ちます。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

Lightning アプリケーションの OAuth 範囲の適用 (更新)

この更新では、Lightning アプリケーションの認証に使用する OAuth トークンの範囲が適用されます。OAuth トークンの範囲は接続アプリケーションで定義されます。この変更により、Lightning アプリケーションでは、意図しない権限を使用して OAuth トークンを使用できなくなります。この更新は、Winter '22 で適用される予定です。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic およびカスタムモバイルアプリケーションで認証に OAuth を使用する Lightning アプリケーション (Lightning Out アプリケーションなど) に適用されます。

時期: この更新は、Summer '21 から利用可能になり、Winter '22 で適用される予定です。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: OAuth トークンを使用して Lightning アプリケーションにアクセスする場合、アプリケーションの要件に応じて OAuth 範囲が次のいずれかの値に設定されていることを確認します。

- Lightning アプリケーションへのアクセスを許可 (lightning)
- カスタムアプリケーションへのアクセスの提供 (visualforce)
- Web 経由のデータへのアクセスを提供 (web)
- フルアクセス (full)。このオプションは、他のオプションでは十分でない場合のみ使用してください。

この更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力し、[リリース更新] を選択します。
2. [Lightning アプリケーションの OAuth 範囲の適用] を探して、[詳細を表示] または [開始] をクリックします。
3. 認証に OAuth を使用する Lightning アプリケーションの動作をテストします。
4. Lightning Out アプリケーションを使用する場合は、引き続きアプリケーションが完全に機能することを確認します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: OAuth によるアプリケーションの認証](#)

[Salesforce ヘルプ: OAuth トークンおよび範囲](#)

[Salesforce ヘルプ: 接続アプリケーション](#)

[Salesforce ヘルプ: API インテグレーション用の OAuth 設定の有効化](#)

[リリース更新のお知らせ](#)

Einstein Vision および Language

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Vision API と Einstein Language API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

このセクションの内容:

[Einstein Vision](#)

Einstein Object Detection データセットの最大サイズが 2 GB から 10 GB に増加しました。Einstein OCR API へのコールで、よりわかりやすいエラーメッセージが返されるようになりました。

[Einstein Language](#)

Einstein Intent および固有表現抽出 (NER) (ベータ) では、デンマーク語、韓国語、スウェーデン語がサポートされています。Einstein NER エンドポイントをコールすると、API によって DATETIME エンティティが指定された言語のタイムゾーンに変換されます。

Einstein Vision

Einstein Object Detection データセットの最大サイズが 2 GB から 10 GB に増加しました。Einstein OCR API へのコールで、よりわかりやすいエラーメッセージが返されるようになりました。

このセクションの内容:

[モデルの精度を高めるためのより多くのデータのアップロード](#)

Einstein Object Detection の画像データセットの最大サイズが 2 GB から 10 GB に増加しました。この増加は、`image-detection` 種別のデータセットのみに適用されます。

[Einstein OCR コールのより詳細なエラーメッセージの取得](#)

問題が発生することがあります。光学式文字認識 (OCR) エンドポイントをコールしたときに、API でよりわかりやすいエラーメッセージが返されるようになりました。通常、エラーメッセージにはエラーの原因となった問題とその修正方法が明記されます。

関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Vision \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Vision の概要\)](#)

[Einstein リリースノート](#)

モデルの精度を高めるためのより多くのデータのアップロード

Einstein Object Detection の画像データセットの最大サイズが 2 GB から 10 GB に増加しました。この増加は、`image-detection` 種別のデータセットのみに適用されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset from a File Asynchronously \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: ファイルからデータセットを非同期的に作成する\)](#)

[Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset From a File Synchronously \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: ファイルからデータセットを同期的に作成する\)](#)

Einstein OCR コールのより詳細なエラーメッセージの取得

問題が発生することがあります。光学式文字認識(OCR) エンドポイントをコールしたときに、API でよりわかりやすいエラーメッセージが返されるようになりました。通常、エラーメッセージにはエラーの原因となった問題とその修正方法が明記されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 次のエンドポイントでは、改善されたエラーが返されます。テキストの検出 — POST /v2/vision/ocr

関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Detect Text \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: テキストの検出\)](#)

Einstein Language

Einstein Intent および固有表現抽出 (NER) (ベータ) では、デンマーク語、韓国語、スウェーデン語がサポートされています。Einstein NER エンドポイントをコールすると、API によって DATETIME エンティティが指定された言語のタイムゾーンに変換されます。

関連トピック:


[Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Language \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Language の概要\)](#)

[Einstein リリースノート](#)

Salesforce Functions: Function を使用した Salesforce の拡張 (ベータ)

Salesforce Functions を使用すると、開発者は、業界標準のプログラミング言語とオープンソースコンポーネントで構築された、弾力的に拡張可能なカスタムビジネスロジックを使用して Salesforce を拡張できます。Salesforce Functions を使用すると、インフラストラクチャの負担が減るため、任意の言語とツールを使用して Functions-as-a-Service (FaaS) アプリケーションの構築と統合を行うことができます。

対象:

-  **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

時期: Salesforce Functions (ベータ) は、Salesforce Summer '21 リリース後に開始される予定です。さらなるお知らせや詳細を developer.salesforce.com や「Salesforce Functions」Trailblazer Community でご確認ください。詳細が追加で公開されたときに[登録して通知を受け取れる](#)ようにしてください。

理由: Function は、Salesforce が管理する計算実行時間でオンデマンドで実行されます。使用事例には、複雑なビジネス上の計算、一括処理、リソースを大量に消費するオートメーションタスクなどがあります。Salesforce

Functions は、Salesforce プラットフォームによって完全に管理されます。Salesforce プラットフォームでは、安全な自動拡張環境でコードを呼び出すために必要な他のすべての処理が実行されます。

方法: Salesforce Functions SDK を使用して組織と通信する JavaScript または Java コードを記述します。Salesforce CLI を使用して Function を Salesforce Functions コンピュートクラウドにリリースします。次に、Apex を使用して Function を呼び出すと、Salesforce Functions インフラストラクチャが認証され、Function がオンデマンドで実行されます。

Visualforce

継続的なリリース更新では、Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールが禁止されます。別のリリース更新では、Visualforce Remoting API をコールする場合のセキュリティが強化されます。両方のリリース更新は、Winter '22 で適用されます。

これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、『[Visualforce 開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

Visualforce Remoting API の安全なコール (以前にリリース済みの更新)

Visualforce Remoting API では、JavaScript を使用して Apex コントローラのメソッドを Visualforce ページから直接コールします。API を適切に保護するために、コールにより厳格な検証が追加されました。この更新は、Winter '22 で適用されます。

Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (以前にリリース済みの更新)

Visualforce ページでは、API ナビゲーションコールが連続して実行されることがあり、不要な動作が発生する可能性があります。このリリース更新により、この API ナビゲーションコールパターンが回避され、最初のナビゲーションコールのみが実行されます。このリリース更新は Summer '20 で最初に使用可能になりました。

繰り返しコンポーネントの検証エラー防止

繰り返しコンポーネント内にある `<apex:selectList>` ページコンポーネントの値を選択したときに検証エラーが発生する場合、`skipValidationInRepeat` という新しい Boolean 属性を使用して、選択した値の検証をスキップします。

Visualforce Remoting API の安全なコール (以前にリリース済みの更新)

Visualforce Remoting API では、JavaScript を使用して Apex コントローラのメソッドを Visualforce ページから直接コールします。API を適切に保護するために、コールにより厳格な検証が追加されました。この更新は、Winter '22 で適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Spring '21 から利用可能になり、Winter '22 で適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: Visualforce JavaScript Remoting API のセキュリティを強化するため、この更新で Visualforce `$RemoteAction` グローバル変数に対する CSRF トークンの作成方法を変更します。この検証により、ゲストユーザーによる API Remoting コールがさらに保護されます。また、この更新では、Apex メソッドパラメータに対して、Visualforce `$RemoteAction` グローバル変数で使用される `{"apexType": "Object"}` パラメータが検証され、`apexType`

パラメータが無効な場合はエラーがスローされます。この検証により、ユーザはアクセスできない Apex オブジェクトや、Apex メソッドパラメータを満たさない Apex オブジェクトを提供できなくなります。

方法: Winter '22 でこのリリース更新が自動有効化される前に、Sandbox 環境で次のテスト手順を実行し、リリース更新の影響を評価して、すべての検証エラーを修正することをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力し、[リリース更新] を選択します。[Visualforce JavaScript Remoting の適用を有効化] で、テスト手順を実行します。ただし、このリリース更新はまだ有効化しないでください。
2. すべての Visualforce Remoting API の使用方法を見つけるには、アプリケーションコードを検索します。

Remoting API では、Apex コントローラメソッドが @RemoteAction アノテーション付きで呼び出されます。Apex コントローラメソッドでは、次の署名が使用されます。

```
@RemoteAction
global static String myMethod(String inputArgument) { ... }
```

Visualforce ページでは、次の JavaScript を使用して Apex コントローラメソッドが呼び出されます。

```
Visualforce.remoting.Manager.invokeAction(
    '{!$RemoteAction.MyController.myMethod}',
    myArgument,
    function(result, event){...}
    ...
```

3. 検証に失敗した Visualforce Remoting API コールを確認するには、リリース更新のテスト実行を有効にします。Remoting を使用する任意のページを手動でテストして、コンソールログで例外や失敗した検証がないかどうかを監視します。
4. 検証の各失敗を確認し、手順に従ってコード内の Visualforce Remoting API の使用方法を修正します。
エラーメッセージでは、検証の失敗の内容と問題の修正方法が特定されます。たとえば、エラーメッセージで apexType 値が Apex メソッドの引数種別を満たさないことが示された場合、apexType 値を正しい種別に変更します。
5. より複雑な失敗で簡単な解決策がない場合は、アプリケーションの一部を再設計しなければならないことがあります。詳細は、「[インターフェースパラメータによるリモートメソッドの宣言](#)」を参照してください。
たとえば、apexType 値にアクセスできない場合、無効な apexType 値を使用しないように Visualforce Remoting API の使用方法を再設計する必要があります。
6. 手動テストが完了したら、リリース更新のテスト実行を無効にして、コードの変更を本番に移行します。
7. 本番でリリース更新を有効にするか、リリース更新が Winter '22 で自動有効化されるまで待ちます。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

[Spring '21 リリースノート: Visualforce Remoting API の安全なコール](#)

Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (以前にリリース済みの更新)

Visualforce ページでは、API ナビゲーションコールが連続して実行されることがあり、不要な動作が発生する可能性があります。このリリース更新により、この API ナビゲーションコールパターンが回避され、最初のナビゲーションコールのみが実行されます。このリリース更新は Summer '20 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: Visualforce ページで連続したナビゲーションコールを実行すると、API コールどうしの競合によって不要な動作が発生する場合があります。問題を防止するため、今回のリリース更新では、最初の API ナビゲーションコールのみが受け入れられます。今回のリリース更新により、組織において予測可能で安定した動作が保証されます。

方法: この API ナビゲーションパターンを使用するすべての Visualforce ページに影響が及びます。影響を受けるすべての Visualforce ページを確認してください。Salesforce では、将来のリリースで代替りとなるパターンを提供する予定です。あるいは、Lightning コンポーネントを使用するようにページを編集してください。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

繰り返しコンポーネントの検証エラー防止

繰り返しコンポーネント内にある `<apex:selectList>` ページコンポーネントの値を選択したときに検証エラーが発生する場合、`skipValidationInRepeat` という新しい Boolean 属性を使用して、選択した値の検証をスキップします。

Apex

Apex のリファレンスコンテンツが別の『Apex リファレンスガイド』として使用可能になりました。概念的な情報は引き続き『Apex 開発者ガイド』で提供されます。Transactions Finalizers 機能が正式リリースされました。新しいデータベースメソッドで `AccessLevel` パラメータがサポートされます。このパラメータを指定すると、デフォルトのシステムモードではなくユーザモードでデータベース操作を実行できるようになります。これらの機能強化についての詳細は『Apex 開発者ガイド』と『Apex リファレンスガイド』を参照してください。

このセクションの内容:

[Apex リファレンス情報が『Apex 開発者ガイド』から『Apex リファレンスガイド』に移動](#)

Summer '21 で、Apex リファレンスコンテンツが『Apex 開発者ガイド』から新しい『Apex リファレンスガイド』に移動します。概念的な情報はすべて引き続き『Apex 開発者ガイド』で提供されます。

[Transaction Finalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け \(正式リリース\)](#)

Summer '21 では Transaction Finalizers 機能が正式リリースされます。

ユーザモードデータベース操作による Apex コードの保護(パイロット)

Apex がデータベース操作をユーザモードまたはシステムモードのどちらで実行するかを宣言できるようになりました。新しいデータベースメソッドで `AccessLevel` パラメータがサポートされます。このパラメータを指定すると、デフォルトのシステムモードではなくユーザモードでデータベース操作を実行できるようになります。

関連トピック:

Apex: [新規および変更された項目](#)

Apex リファレンス情報が『Apex 開発者ガイド』から『Apex リファレンスガイド』に移動

Summer '21 で、Apex リファレンスコンテンツが『Apex 開発者ガイド』から新しい『Apex リファレンスガイド』に移動します。概念的な情報はすべて引き続き『Apex 開発者ガイド』で提供されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

Transaction Finalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け(正式リリース)

Summer '21 では Transaction Finalizers 機能が正式リリースされます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: `System.FinalizerContext` インターフェースには4つのメソッドがあります。

- `getAsyncApexJobId` メソッド: この Finalizer が定義されているキュー可能ジョブの ID を返します。
- `getRequestId` メソッド: Finalizer の実行と Finalizer が関連付けられているキュー可能ジョブの両方で共有される要求 ID を返します。この共有 ID は、キュー可能ジョブとそれに関連付けられている Finalizer のログを絞り込むのに役立ちます。
- `getResult` メソッド: Finalizer が関連付けられている親非同期 Apex キュー可能ジョブの結果を表す `System.ParentJobResult` 列挙を返します。この列挙の有効な値は、`SUCCESS` と `UNHANDLED_EXCEPTION` です。
- `getException` メソッド: `getResult` が `UNHANDLED_EXCEPTION` の場合はキュー可能ジョブが失敗し、それ以外の場合は `null` になる例外を返します。


アクションをキュー可能ジョブに関連付けるには、Finalizer インターフェースを実装する必要があります。1つの Finalizer インスタンスのみを任意のキュー可能ジョブに関連付けることができます。execute メソッドの Finalizer の実装では、1つの非同期 Apex ジョブ(キュー可能ジョブ、実行予定ジョブ、一括処理ジョブ)をキューに追加できます。Finalizer の実装ではコールアウトを使用できます。

Transaction Finalizers の実装についての詳細(例を含む)は、『Apex 開発者ガイド』の「[Transaction Finalizers](#)」を参照してください。

ユーザモードデータベース操作による Apex コードの保護 (パイロット)

Apexがデータベース操作をユーザモードまたはシステムモードのどちらで実行するかを宣言できるようになりました。新しいデータベースメソッドで `AccessLevel` パラメータがサポートされます。このパラメータを指定すると、デフォルトのシステムモードではなくユーザモードでデータベース操作を実行できるようになります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

 **メモ:** Apexのユーザモードデータベース操作は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforceにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。この機能は、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。この機能に関するフィードバックや提案は、[Trailblazer Community](#) に投稿してください。

理由: デフォルトでは、Apex コードはシステムモードで実行され、実行ユーザ権限は考慮されません。Apex のセキュリティコンテキストを強化するために、ユーザモードで Apex を呼び出すことでデータベース操作のユーザモードアクセスを指定できます。システムモードとは異なり、ユーザモードでは実行ユーザの項目レベルセキュリティ (FLS)、共有ルール、CRUD 権限が考慮されます。

方法: パイロットプログラムへの参加については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

Apexがデータベース操作を実行する2つのモードを表す新しいクラスオブジェクトが追加されます。この新しいクラスを使用して実行モードをユーザモードまたはシステムモードとして定義します。次の新しいメソッドでクラスオブジェクトを渡すことができます。

- Database.query のメソッド
- Search.query のメソッド
- Database DML のメソッド (insert、update、upsert、merge、delete、undelete、convertLead)

API

Salesforce Platform API の従来のバージョンが廃止されました。新しいメタデータ API のドキュメントは書式が改良されて視認性が向上しました。また、新しい Warning ヘッダーが Platform REST API と Bulk API に追加されました。

このセクションの内容:

[Platform API の従来のバージョンの廃止およびサポートの終了](#)

このリリース以降、Salesforce Platform API の従来のバージョン 20.0 以前が廃止され、Salesforce でサポートされなくなります。

視認性が向上した新しいメタデータ API ドキュメント

新しいメタデータ API リファレンスドキュメントに含まれる項目テーブルが3列から2列になりました。項目のデータ型と説明が同じ列に記載されます。さらに、新しいドキュメントには他にも細かな書式の変更があります (親種別情報が別のセクションになるなど)。同じ情報がすべて引き続きページ上に表示されません。

Warning ヘッダー

Platform REST API と Bulk API では、非推奨バージョンの API を使用している場合など、警告がある場合は Warning ヘッダーが返されるようになりました。

フローの画面コンポーネントのデフォルト値を選択肢リソースに使用

Flow メタデータ型の FlowScreenField サブタイプで defaultValu 項目を選択肢リソースに使用できるようになりました。FlowScreenField サブタイプの fieldType 項目値が RadioButtons、DropDownBox、MultiSelectCheckboxes、または MultiSelectPicklist の場合、defaultValu 項目がサポートされるようになりました。FlowScreenField に defaultValu 項目と defaultSelectedChoiceReference 項目の両方を設定することはできません。

非同期 SOQL ジョブの表示に必要な追加の権限

非同期 SOQL ジョブの状況を表示するには、BackgroundOperation オブジェクトへの参照アクセス権が必要になりました。以前は、このジョブは追加の権限なしで表示されました。

メタデータ API を使用した AppExchange パッケージの最大 35,000 ファイルのリリースおよび取得

メタデータ API を使用して AppExchange パッケージの最大 35,000 ファイルをリリースおよび取得できるようになりました。以前の制限は 31,000 ファイルでした。ファイルの制限の緩和により、より大きな AppExchange パッケージに対応できます。

Platform API の従来のバージョンの廃止およびサポートの終了

このリリース以降、Salesforce Platform API の従来のバージョン 20.0 以前が廃止され、Salesforce でサポートされなくなります。

対象: この変更は次の API バージョンに影響します。

SOAP API

7.0、8.0、9.0、10.0、11.0、11.1、12.0、13.0、14.0、15.0、16.0、17.0、18.0、19.0、20.0


REST API

20.0

Bulk API

16.0、17.0、18.0、19.0、20.0

この変更は、Professional Edition (API アクセス有効)、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に適用されます。

 **メモ:** Summer '22 がリリースされるまでは、これらの従来の API バージョンを引き続き使用できますが、Summer '22 がリリースされると、これらの従来のバージョンは廃止されて使用できなくなります。これらの従来のバージョンが廃止されると、これらのバージョンの API を使用しているアプリケーションは中断されます。要求は失敗し、要求されたエンドポイントが無効化されていることを示すエラーメッセージが表示されます。

対象ユーザ: この変更は、API が有効になっているすべての組織のエディションに影響し、Salesforce Classic と Lightning Experience の両方に適用されます。

理由: アプリケーションでカスタム機能を作成するときの Salesforce 環境全体を改善するために、開発は最新の API バージョンの強化に焦点を絞って行われます。

方法: Summer '22 リリースの前に、アプリケーションを現在の API バージョンで機能するように変更またはアップグレードする必要があります。

詳細は、ナレッジ記事「[Salesforce Platform API バージョン 7.0 ～ 20.0 の廃止](#)」およびリリース更新通知「[Salesforce Platform API バージョン 7.0 ～ 20.0 の廃止](#)」を参照してください。(設定] から、[クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力します)。

Salesforce Platform API Versions 7.0 through 20.0 Retirement

📅 COMPLETE STEPS BY: MAY 10, 2022 ⓘ

Versions 7.0 through 20.0 of the Salesforce Platform SOAP, REST, and Bulk APIs will be deprecated and no longer supported in the Summer '21 release. Applications should be modified to consume the latest available API version.

ENDOFLIFE

0% 0 of 1

Enforcement Scheduled: Summer '22 ⓘ [View Details](#) [Get Started](#)

視認性が向上した新しいメタデータ API ドキュメント

新しいメタデータ API リファレンスドキュメントに含まれる項目テーブルが 3 列から 2 列になりました。項目のデータ型と説明が同じ列に記載されます。さらに、新しいドキュメントには他にも細かな書式の変更があります(親種別情報が別のセクションになるなど)。同じ情報がすべて引き続きページ上に表示されます。

理由: これらの書式の変更により一貫性が保たれ、ドキュメントに目を通しやすくなり、モバイルでの操作性が向上します。

Warning ヘッダー

Platform REST API と Bulk API では、非推奨バージョンの API を使用している場合など、警告がある場合は Warning ヘッダーが返されるようになりました。

方法: アクションを実行する必要があるかどうかをこのヘッダーで確認します。ヘッダーの例:

Warning: 299 - "This API is deprecated and will be removed by Summer '22. Please see <https://help.salesforce.com/articleView?id=000351312> for details."

フローの画面コンポーネントのデフォルト値を選択肢リソースに使用

Flow メタデータ型の FlowScreenField サブタイプで defaultValue 項目を選択肢リソースに使用できるようになりました。FlowScreenField サブタイプの fieldType 項目値が RadioButtons、DropDownBox、MultiSelectCheckboxes、または MultiSelectPicklist の場合、defaultValue 項目がサポートされるようになりました。FlowScreenField に defaultValue 項目と defaultSelectedChoiceReference 項目の両方を設定することはできません。

理由: 選択肢を表示する画面コンポーネントのデフォルト値を設定できます。Flow Builder はデフォルト値に選択された内容をさまざまな方法で処理します。

デフォルト値	デフォルトの選択
画面コンポーネントに関連付けられた選択肢のリストに含まれる選択肢リソース	引き続き defaultSelectedChoiceReference に保存される。
画面コンポーネントに関連付けられた選択肢のリストに含まれない選択肢リソース	defaultValue に保存される。
FlowElementReferenceOrValue	defaultValue に保存される。実行時に、この選択と値が一致する選択肢が選択されます。

フローの実行時にデフォルト値が選択肢オプションの事前選択に使用される方法についての詳細は、「[選択肢を表示する任意の画面コンポーネントのデフォルト値の設定](#)」(ページ 364)を参照してください。

非同期 SOQL ジョブの表示に必要な追加の権限

非同期 SOQL ジョブの状況を表示するには、BackgroundOperation オブジェクトへの参照アクセス権が必要になりました。以前は、このジョブは追加の権限なしで表示されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法: システム管理者として、[設定] から、参照アクセス権を必要とするユーザに割り当てられた権限セットに移動します。[オブジェクト設定] で BackgroundOperation 標準オブジェクトの「参照」アクセス権を有効にします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: オブジェクトの権限の編集 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス: BackgroundOperation](#)

メタデータ API を使用した AppExchange パッケージの最大 35,000 ファイルのリリースおよび取得

メタデータ API を使用して AppExchange パッケージの最大 35,000 ファイルをリリースおよび取得できるようになりました。以前の制限は 31,000 ファイルでした。ファイルの制限の緩和により、より大きな AppExchange パッケージに対応できます。

関連トピック:

[メタデータ API 開発者ガイド: メタデータの制限](#)

[メタデータ API 開発者ガイド: zip ファイルを使用したメタデータのリリースと取得](#)

パッケージ化

バージョン管理システムのブランチに基づいてパッケージバージョンを作成します。パッケージバージョンの作成時に実行される Apex テストへのアクセスを管理します。パッケージのリリースバージョンを指定して、パッケージの今後の機能をテストします。多要素認証を使用して、ライセンス管理組織の登録者サポートコンソールを保護します。

このセクションの内容:

[ロック解除済みパッケージと第二世代管理パッケージのブランチの活用](#)

ソース制御システム (SCS) でブランチを使用する開発チームは多くの場合、SCS の特定のブランチのメタデータに基づいてパッケージバージョンを作成します。パッケージバージョンがどのブランチに基づいているかを簡単に識別できるように、ブランチ属性が拡張されました。パッケージバージョンまたはパッケージ連動関係のブランチ名は、`sfdx-project.json` ファイルで指定するか、Salesforce CLI を使用してコマンドラインで直接指定できます。

[パッケージバージョンの作成時に実行される Apex テストへのアクセスを管理](#)

記述する Apex テストによっては、ユーザーに特定の権限セットまたは権限セットライセンスが必要な場合があります。以前は、テスト固有の権限を各 Apex テストに追加する必要がありました。`sfdx-project.json` ファイルの `apexTestAccess` 設定を使用して、パッケージ内のすべての Apex テストに権限セットと権限セットライセンスを割り当てることができるようになりました。

[今後のリリースに基づくパッケージバージョンの作成](#)

Salesforce メジャーリリースの移行中、パッケージバージョンを作成するときに [プレビュー] または [前] を指定できるようになりました。Spring '21 で、[前] のリリースを指定できるようになりました。パッケージのリリースバージョンを指定すると、組織がどの Salesforce リリースを使用しているかに関係なく、今後追加される機能をテストし、回帰テストを実行し、顧客をサポートできます。

[登録者組織へのログインで多要素認証を要求 \(更新、延期\)](#)

この更新は、すべてのお客様の Salesforce 製品で多要素認証 (MFA) を有効にする Salesforce 要件の一部です。Winter '21 にリリースされたこの更新は、Summer '21 に自動的に有効化される予定でしたが、より大規模な Salesforce の要件に合わせて Spring '22 に変更されました。この更新は、ライセンス管理組織 (LMO) にログインするときに MFA を要求することで、登録者組織へのアクセスを保護します。

権限セットと権限セットグループを使用した機能へのアクセス権の配布

権限セットと権限セットグループを使用して、ロック解除済みパッケージで企業全体に機能へのアクセス権を配布します。開発チームは、更新された機能に含まれる権限の更新を簡単に配布および管理できるようになりました。以前は、権限セットと権限セットグループはロック解除済みパッケージで部分的にサポートされていました。

ロック解除済みパッケージと第二世代管理パッケージのブランチの活用

ソース制御システム(SCS)でブランチを使用する開発チームは多くの場合、SCSの特定のブランチのメタデータに基づいてパッケージバージョンを作成します。パッケージバージョンがどのブランチに基づいているかを簡単に識別できるように、ブランチ属性が拡張されました。パッケージバージョンまたはパッケージ連動関係のブランチ名は、`sfdx-project.json` ファイルで指定するか、Salesforce CLI を使用してコマンドラインで直接指定できます。

対象: この変更は、第二世代管理パッケージとロック解除済みパッケージに適用されます。

関連トピック:

[Salesforce DX 開発者ガイド: Use Branches in Second-Generation Managed Packaging \(第二世代管理パッケージでの分岐の使用\)](#)

[Salesforce DX 開発者ガイド: Use Branches in Unlocked Packaging \(ロック解除済みパッケージでの分岐の使用\)](#)

パッケージバージョンの作成時に実行される Apex テストへのアクセスを管理

記述する Apex テストによっては、ユーザに特定の権限セットまたは権限セットライセンスが必要な場合があります。以前は、テスト固有の権限を各 Apex テストに追加する必要がありました。`sfdx-project.json` ファイルの `apexTestAccess` 設定を使用して、パッケージ内のすべての Apex テストに権限セットと権限セットライセンスを割り当てることができるようになりました。

対象: この変更は、第二世代管理パッケージとロック解除済みパッケージに適用されます。

対象ユーザ: ユーザには、システム管理者プロファイルまたは「第二世代パッケージの作成および更新」権限が必要です。

方法: `sfdx-project.json` ファイルで権限セットと権限セットライセンスを割り当てます。これらの権限は、パッケージバージョンの作成時に Apex テストが実行される時にコンテキスト内のユーザに割り当てられません。

```
"apexTestAccess": {
  "permissionSets": [
    "Permission_Set_1",
    "Permission_Set_2"
  ],
  "permissionSetLicenses": [
    "SalesConsoleUser"
  ]
}
```

```
    ]
  }
```

関連トピック:

[Salesforce DX 開発者ガイド: Specify Unpackaged Metadata or Apex Access for Package Version Creation Tests \(パッケージバージョン作成テストでのパッケージ化されていないメタデータまたは Apex アクセス権の指定\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 権限セットライセンス](#)

今後のリリースに基づくパッケージバージョンの作成

Salesforce メジャーリリースの移行中、パッケージバージョンを作成するときに [プレビュー] または [前] を指定できるようになりました。Spring '21 で、[前] のリリースを指定できるようになりました。パッケージのリリースバージョンを指定すると、組織がどの Salesforce リリースを使用しているかに関係なく、今後追加される機能をテストし、回帰テストを実行し、顧客をサポートできます。

対象: この変更は、Salesforce CLI を使用して作成された第二世代管理パッケージとロック解除済みパッケージに適用されます。

対象ユーザー: ユーザには、システム管理者プロファイルまたは「第二世代パッケージの作成および更新」権限が必要です。

方法: 今後の Salesforce リリースバージョンに基づいてパッケージバージョンを作成するには、次の内容を含むスクラッチ組織定義ファイルを作成します。

```
{
  "release": "preview"
}
```

Sfdx-project.json ファイルで、作成するパッケージバージョンのリリースバージョンに対応するように sourceApiVersion を設定します。

次に、パッケージバージョンを作成するときに、スクラッチ組織定義ファイルを指定します。

```
sfdx force:package:version:create --package pkgA --definitionfile
config/project-scratch-def.json
```

関連トピック:

[Salesforce DX 開発者ガイド: Salesforce リリースの移行中にパッケージの特定のリリースを対象設定](#)

登録者組織へのログインで多要素認証を要求 (更新、延期)

この更新は、すべてのお客様の Salesforce 製品で多要素認証 (MFA) を有効にする Salesforce 要件の一部です。Winter '21 にリリースされたこの更新は、Summer '21 に自動的に有効化される予定でしたが、より大規模な Salesforce の要件に合わせて Spring '22 に変更されました。この更新は、ライセンス管理組織 (LMO) にログインするときに MFA を要求することで、登録者組織へのアクセスを保護します。

対象: この変更は、第一世代および第二世代管理パッケージのサポートに使用されるライセンス管理組織に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この変更により、管理パッケージの支援が必要な登録者は、組織にアクセスするユーザの ID を検証することでセキュリティをさらに強化できます。また、この変更により、登録者組織にログインするユーザの制御と説明責任も強化されます。

方法: この更新をテストして適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。[登録者組織へのログインで多要素認証を要求] を探し、テストと有効化の手順に従います。

MFA を使用してライセンス管理組織セッションが確立されていない場合、この更新により、登録者サポートコンソールへのアクセスの試行がブロックされます。

関連トピック:

[多要素認証 \(MFA\) を有効にするための今後の要件](#)

[リリース更新](#)

[ISVforce ガイド: 登録者組織へのログイン](#)

権限セットと権限セットグループを使用した機能へのアクセス権の配布

権限セットと権限セットグループを使用して、ロック解除済みパッケージで企業全体に機能へのアクセス権を配布します。開発チームは、更新された機能に含まれる権限の更新を簡単に配布および管理できるようになりました。以前は、権限セットと権限セットグループはロック解除済みパッケージで部分的にサポートされていました。

対象: この変更はロック解除済みパッケージに適用されます。

方法: ロック解除済みパッケージの権限セットまたは権限セットグループに次のコンポーネントを含めることができます。

- ユーザ権限
- 標準オブジェクト権限とカスタムオブジェクト権限
- 項目権限
- メタデータ API で公開される設定エンティティ
 - カスタム設定
 - カスタムメタデータ型
 - フロー
 - カスタム権限
 - アプリケーション (タブセット)
 - 外部データソース
 - Visualforce ページ
 - Apex のクラス

ライセンスによって制約されない権限セットと、ユーザまたは権限セットのライセンスによって制約される権限セットの両方がサポートされています。

スクラッチ組織

スクラッチ組織は、専用かつ設定可能な Salesforce 環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。スクラッチ組織は、自分の個人的な開発環境として使用できます。または、自動テストのためにヘッドレススクラッチ組織を作成することもできます。本番組織や Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、または Dev Hub トライアル組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。継続的に新機能のサポートを追加していきます。

詳細は、『Salesforce DX 開発者ガイド』の「スクラッチ組織」を参照してください。

このセクションの内容:

スクラッチ組織の組織シェイプの更新 (ベータ)

Summer '21 でスクラッチ組織の組織シェイプが強化されました。ソース組織が Dev Hub 組織と異なる場合、組織シェイプを使用してスクラッチ組織を作成する前に、ソース組織で Dev Hub 組織 ID を再入力します。

スクラッチ組織の組織シェイプの更新 (ベータ)

Summer '21 でスクラッチ組織の組織シェイプが強化されました。ソース組織が Dev Hub 組織と異なる場合、組織シェイプを使用してスクラッチ組織を作成する前に、ソース組織で Dev Hub 組織 ID を再入力します。

対象: この変更は、Developer Edition、Group Edition、および Enterprise Edition に適用されます。

方法: Dev Hub 組織 ID を再入力する手順は、次のとおりです。

1. 管理者として、ソース組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「組織シェイプ」と入力し、[組織シェイプ] を選択します。
3. ソース組織で、スクラッチ組織の作成に使用している 15 文字の Dev Hub 組織 ID を入力します。最大 50 の Dev Hub 組織 ID を指定できます。

Sandbox

新しいツールを使用して、Sandbox で個人識別情報その他の機密データを保護できます。

このセクションの内容:

Data Mask を使用してより多くのデータ型を保護

強化された機能により、新しい強力な方法ですべての機密データを保護できます。システム管理者は Data Mask を使用して Sandbox のデータを自動的にマスクできます。

Data Mask を使用してより多くのデータ型を保護

強化された機能により、新しい強力な方法ですべての機密データを保護できます。システム管理者は Data Mask を使用して Sandbox のデータを自動的にマスクできます。

対象:

この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

対象ユーザ:

システム管理者プロフィールを持つユーザは、Data Mask をインストールまたは更新できます。

理由:

次の機能強化が Data Mask で使用できます。

- Work.com および Industry 製品で Data Mask を使用できるようになりました。
- 拡張されたマスキングルールにより、User オブジェクトの User.username 項目は常に一意にマスクされます。
- Boolean チェックボックスデータをマスクできるようになりました。
- 現在サポートされている API バージョンは v50.0 です。

方法:

Data Mask は本番組織にインストールして実行する管理パッケージです。その後、本番組織で作成された任意の Sandbox からマスクプロセスを実行します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Data Mask](#)

プラットフォーム開発ツール

Salesforce Developer Experience (DX) を使用してアプリケーションを共同で作成し、継続的に配信します。Salesforce Developer Experience は、Customer 360 Platform での開発を容易にするオープンな統合環境です。

このセクションの内容:[Platform アプリケーションの簡単な開発](#)

Salesforce DX ツールセットには、Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能と Salesforce CLI が含まれます。チームに最も適した、ビジネスニーズを満たすツールを選択してください。毎週、この両方のツールの新しいバージョンがリリースされています。

Platform アプリケーションの簡単な開発

Salesforce DX ツールセットには、Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能と Salesforce CLI が含まれます。チームに最も適した、ビジネスニーズを満たすツールを選択してください。毎週、この両方のツールの新しいバージョンがリリースされています。

Salesforce Extensions for Visual Studio Code (Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能)

この拡張機能パックには、軽量で拡張可能な VS Code エディタを使用して Customer 360 Platform 上で開発を行うためのツールが含まれます。[最近の更新](#)についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

Salesforce CLI

Salesforce CLI を使用して、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクルの制御を行うことができます。最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

関連トピック:

[Salesforce Extensions for Visual Studio Code \(Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能\)](#)

[Salesforce CLI 設定ガイド](#)

[Salesforce CLI コマンドリファレンス](#)

[Salesforce DX 開発者ガイド](#)

Lightning Design System

Salesforce Lightning Design System (SLDS) には、Salesforce Lightning の原則、設計言語、およびベストプラクティスに一致するユーザインターフェースを作成するリソースが含まれています。

既存のコンポーネントの動作の更新およびバグの修正は頻繁に実施されます。最新の変更については、[Lightning Design System のドキュメントの「What's New \(新機能\)」](#)を参照してください。このページでは、変更を完了した日付を基準に変更がリストされています。これらの変更は、次回の Salesforce メジャーリリースでもまとめられます。Summer '21 の特長をいくつか紹介します。

このセクションの内容:

[ダブルダッシュの BEM 表記の廃止を延期](#)

Lightning Design System でのダブルダッシュ (--) の BEM 表記は Summer '21 で廃止され、1つのアンダースコア表記 () に置き換えられる予定でした。この廃止が無期限に延期されました。

[デフォルトフォントはシステム UI フォント](#)

SLDS 設計トークンは、オペレーティングシステムの UI が提供するネイティブの sans-serif フォントをデフォルトで使用するようになりました。Salesforce Sans は使用されなくなりました。

[設計トークンでの新しい Salesforce カラーシステムの使用](#)

多くの SLDS 設計トークンで新しい Salesforce カラーシステムが使用されるようになりました。

[Lightning Design System コンポーネントブループリントの更新](#)

次の機能強化やバグ修正により、SLDS コンポーネントブループリントおよびユーティリティをより活用できるようになりました。

ダブルダッシュの BEM 表記の廃止を延期

Lightning Design System でのダブルダッシュ (--) の BEM 表記は Summer '21 で廃止され、1つのアンダースコア表記 () に置き換えられる予定でした。この廃止が無期限に延期されました。

理由: ダブルダッシュは、コメントを含む XML ファイルではサポートされないため、この変更が予定されました。この表記の変更は、最初に 2017 年 5 月 25 日の Salesforce Lightning Design System (SLDS) リリース 2.3.1 で発表され、Winter '21 および Spring '21 リリースノートで再度発表されました。

方法: Summer '21 では、ダブルダッシュの BEM 表記は SLDS 2.13.0 ~ SLDS 2.15.0 バージョンで引き続き使用できます。この廃止は延期されますが、CSS で `--` を `_` に置き換えることをお勧めします。たとえば、`slds-button--brand` を `slds-button_brand` に置き換えます。SLDS 2.12.2 以前のバージョンを使用している場合、これらのバージョンに対して何も変更が行われていないため、スタイルは引き続き機能します。それ以降の SLDS バージョンを使用している場合、両方の表記スタイルが引き続き無期限に機能します。

VSCoDe を使用して開発している場合、SLDS Validator 拡張機能を使用してコード内の BEM 表記を修正してください。この拡張機能は [スタンドアロン](#) としてだけでなく、[Salesforce Extension Pack](#) の一部としても使用できます。

デフォルトフォントはシステム UI フォント

SLDS 設計トークンは、オペレーティングシステムの UI が提供するネイティブの sans-serif フォントをデフォルトで使用するようになりました。Salesforce Sans は使用されなくなりました。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。詳細は、「[ネイティブフォントを使用した読みやすさの向上](#)」(ページ 81)を参照してください。

設計トークンでの新しい Salesforce カラーシステムの使用

多くの SLDS 設計トークンで新しい Salesforce カラーシステムが使用されるようになりました。

理由: 新しい Salesforce カラーシステムは、Salesforce 製品全体で段階的に導入されます。詳細は、Medium の記事「[Introducing the Salesforce Color System \(Salesforce カラーシステムのご紹介\)](#)」を参照してください。

Lightning Design System コンポーネントブループリントの更新

次の機能強化やバグ修正により、SLDS コンポーネントブループリントおよびユーティリティをより活用できるようになりました。

Lightning Design System スタイル設定フック (ベータ) は、一部のコンポーネントブループリントで Winter '21 に導入されました。このリリースでは、次の追加コンポーネントブループリントにスタイル設定フックが追加されています。

- ポップオーバー
- リッチテキストエディタ

「[Blueprint Overview \(ブループリントの概要\)](#)」に、どのコンポーネントにスタイル設定フックがあるかが示されています。ブループリントと使用可能なスタイル設定フックを表示するには、コンポーネントをクリックします。

SLDS コンポーネントブループリントに対する次の最新の更新により、UI を強化します。

ビルダーヘッダー

上部バーのアクションが更新され、色にいくつかの軽微な変更が加えられました。

状況テキストおよびポップオーバー付きアラートの 2 つのツールバーアイコンとバリエーションが追加されました。

ドロップダウン項目に `aria-expanded` が追加されました。

ボタンアイコン

警告アイコンのスタイルクラスが追加されました。

ボタン

タッチスタイルの `line-height` スタイル設定フック割り当てが変更されました。

デュエル選択リスト

利用可能な横方向のスペースをすべて使用するように応答クラスが変更されました。

アイコン

`Product_quantity_rules` という標準およびユーティリティアイコンが追加されました。

ページヘッダー

複数のスタイルでの不正なアノテーションが修正されました。

パネル

パネルヘッダー内に、パネル全体に影響するセカンダリアクションを保持する新しい `.slds-panel__header-actions` 要素が追加されました。新しい要素内に閉じるボタンがあります。

パネルを切り替えるボタンに `aria-expanded` および `aria-controls` が追加されました。

ポップオーバー

スタイル設定フックが有効になっています。

このベースポップオーバーには、次の変更があります。

- フッター背景が明示的に `$color-background` 設計トークンに設定されるようになりました。
- ヘッダーは本文の一部になり、プロンプトバリエーションと一致するように [メディアオブジェクト](#) にラップされるようになりました。
- ヘッダーの下境界線が削除されました。
- アイコンがある新しいバリエーション
- ヘッダーの上にバッジがある新しいバリエーション

次のポップアップバリエーションが変更されました。

- 警告およびエラーバリエーションは、フッター背景色が透明で、本文はヘッダーに合わせてインデントされています。
- プロンプトバリエーションフッターは、ベースポップオーバーに一致するように上境界線の色と幅が変更されました。
- ウォークスルーバリエーションのフッター背景色が `$palette-blue-20` に変更され、ヘッダー背景画像が削除されました。

次のポップアップバリエーションが新規追加されました。

- ライトブランドとダークブランド。新しい `.slds-popover_brand`、`.slds-popover_brand-dark`、`.slds-popover_brand-top`、`.slds-popover_brand-left`、`.slds-popover_brand-bottom`、`.slds-popover_brand-right` セレクタが含まれます。
- `.Slds-popover_prompt` セレクタで新しいセレクタを使用するプロンプトブランド。

リッチテキストエディタ

スタイル設定フックが有効になっています。

タブ

有効なタブと通知のあるタブのアクセシビリティの色のコントラストルールに一致するように、未保存のタブインジケータのアスタリスクの色が調整されました。

スタイル設定フックが追加されました。

タブの親コンテナの表面色を表示するように、`.slds-tabs_default` から白の `background-color` が削除されました。

モバイルのタブにある `back` アイコンは、`chevronleft` に置き換えられました。これはパネルから継承された変更であり、ドリルインされた状態間でアイコンの一貫性を保ちます。

AppExchange パートナー

AppExchange の App Analytics クエリ戦略のベストプラクティスを使用して、効率を高めてインサイトを取得します。利用状況総計値から AppExchange の App Analytics に切り替えて、管理パッケージの利用状況データをさらに掘り下げます。米国売上税の徴収に向けてユーザを準備します。更新された AppExchange の Marketplace Analytics ダッシュボードのリストから、何がリードの行動とチャットエンゲージメントを促進するのかを判断できます。

このセクションの内容:

ベストプラクティスを使用した AppExchange の App Analytics クエリ戦略の最適化

1日、1週間、1か月の App Analytics クエリの実行を計画すれば、データの取得にかかる時間が短縮され、取得するデータ量が増えます。SOAP API の `AppAnalyticsQueryRequest` オブジェクトで新たに使用可能になった 4 つの項目がクエリ戦略の計画で鍵を握ります: `FileType`、`FileCompression`、`AvailableSince`、`QuerySubmittedTime`。

利用状況総計値の廃止

利用状況総計値は Winter '22 で廃止される予定です。すぐに AppExchange の App Analytics に切り替えてください。登録者が AppExchange ソリューションをどのように操作しているかに関する豊富な利用状況データが提供されます。

米国売上税の徴収に対する AppExchange ユーザの準備

AppExchange では、チェックアウトが有効になっている購入に対して米国売上税の徴収がサポートされるようになりました。現地の税務当局が定めるとおりに税が徴収され、送金されます。購入が課税対象かどうかの判別に顧客の納入先住所と免税状況が使用されます。

更新された AppExchange の Marketplace Analytics ダッシュボードにおけるリードの行動ドライバなどの参照

リードの行動は、AppExchange リストにおける顧客エンゲージメントの判断基準です。リードの行動は、お客様がソリューションに強い関心を持っていることを示すものであり、営業チームが見込み客を直接フォローアップするために使用できるためです。新しいリードの行動とリードの行動タイムラインの視覚化では、最も多くのリードの行動を促進しているリストの活動とリソースが表示されます。新しいチャットエンゲージメント視覚化では、AppExchange チャット実装のパフォーマンスに関するインサイトが提供されます。

ベストプラクティスを使用した AppExchange の App Analytics クエリ戦略の最適化

1 日、1 週間、1 か月の App Analytics クエリの実行を計画すれば、データの取得にかかる時間が短縮され、取得するデータ量が増えます。SOAP API の AppAnalyticsQueryRequest オブジェクトで新たに使用可能になった4つの項目がクエリ戦略の計画で鍵を握ります: FileType、FileCompression、AvailableSince、QuerySubmittedTime。

対象: この変更は、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: AppExchange の App Analytics は、セキュリティレビューに合格した管理パッケージでのみ使用できません。

理由: AppExchange パートナーのソリューションでは、大量の利用状況データが生成されます。これらの新しい項目により、ファイルサイズを削減して、指定した期間中、取得するデータのチャンクを小さくすることができます。

方法: FileType と FileCompression を使用して、App Analytics ファイルのダウンロードサイズを小さくしてダウンロード時間を短縮します。以前に実行した AppAnalyticsQueryRequest クエリを再実行して、遅れて到着するデータをまとめて取り込むキャッチアップクエリを作成します。キャッチアップクエリでは、元のクエリの日時に設定された AvailableSince 項目を使用します。元のクエリの日時を確認するには、元のクエリの AppAnalyticsQueryRequest ID を使用して QuerySubmittedTime を取得します。

AppExchange の App Analytics を有効化するには、ケースを登録します。パートナーコミュニティにログインして、[サポート]を選択し、[新規ケース]をクリックします。[他の AppExchange トピック] | [ケースを作成] を選択します。次に、選択リストから [App Analytics を有効化] を選択します。

関連トピック:

[AppExchange App Analytics Best Practices \(AppExchange の App Analytics のベストプラクティス\)](#)

[SOAP API 開発者ガイド: AppAnalyticsQueryRequest](#)

[新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト](#)

利用状況総計値の廃止

利用状況総計値は Winter '22 で廃止される予定です。すぐに [AppExchange の App Analytics](#) に切り替えてください。登録者が AppExchange ソリューションをどのように操作しているかに関する豊富な利用状況データが提供されます。

対象: この変更は、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: AppExchange の App Analytics は、セキュリティレビューに合格した管理パッケージでのみ使用できません。

方法: AppExchange の App Analytics を有効化するには、ケースを登録します。パートナーコミュニティにログインして、[サポート] を選択し、[新規ケース] をクリックします。[他の AppExchange トピック] | [ケースを作成] を選択します。次に、選択リストから [App Analytics を有効化] を選択します。

関連トピック:

[AppExchange App Analytics \(AppExchange アプリケーションの Analytics\)](#)

[SOAP API 開発者ガイド: AppAnalyticsQueryRequest](#)

[SOAP API 開発者ガイド: MetricsDataFile](#)

[利用状況総計値](#)

米国売上税の徴収に対する AppExchange ユーザの準備

AppExchange では、チェックアウトが有効になっている購入に対して米国売上税の徴収がサポートされるようになりました。現地の税務当局が定めるとおりに税が徴収され、送金されます。購入が課税対象かどうかの判別に顧客の納入先住所と免税状況が使用されます。

時期: 米国売上税の徴収は 2021 年 6 月 1 日に開始されます。

理由: 米国の州および現地管轄の税法に準拠するため、AppExchange の顧客から売上税が徴収され、顧客の現地の税務当局に送金されます。

次の要素に該当する場合、AppExchange の購入は課税対象になります。

- 顧客の納入先住所が米国内にある。
- 顧客の納入先住所を管轄する米国の州当局または現地当局により該当の取引に売上税が課されている。
- 顧客の購入が免税の対象ではない。

方法: 購入が課税対象かどうかの判別に顧客の納入先住所が使用されるため、すべての顧客が納入先住所を登録する必要があります。新規購入の場合、顧客はチェックアウト中に納入先住所を入力する必要があります。既存の定期サブスクリプションの場合、顧客の請求先住所が Stripe (Salesforce のチェックアウト支払パートナー) から自動的に取得され、AppExchange の納入先住所として保存されます。

The screenshot shows the 'AppExchange Checkout' page. At the top, it says 'Let's get started' and includes a note: 'To install this product, we need your contact and billing details. If the provider offers a free trial, you won't be charged until the trial ends.' There is a small cartoon cat icon. Below this, there are input fields for 'First Name' (Dee), 'Last Name' (Mato), and 'Email' (dmato@example.com). The form is divided into 'Billing Address' and 'Shipping Address' sections. Both sections have a 'Country' dropdown set to 'United States', a 'Street' field with '1525 Birch Ter', a 'City' field with 'Fremont', and a 'State' dropdown set to 'California'. The 'Shipping Address' section also has a 'Zip/Postal' field with '94536'. A checkbox labeled 'Same as billing address' is checked. At the bottom right, there is a blue 'Next' button.

すべての請求書に顧客の納入先住所が表示されます。課税対象の購入の請求書には売上税額も表示され、請求書合計には売上税が含まれます。

Northern Star				
Email:		Billed on: February 16,2021		
		Invoice #: in_1IKEN9JEAf9BwqsMBR/wZ3g		
Billed to:		Shipping Address:		
Dee Mato		Dee Mato		
1 Main Birch Ter		1 Main Birch Ter		
Freemont, CA 94536		Freemont, CA 94536		
US		US		
Date	Description	Price	Quantity	Subtotal
Feb 13,2021 - Mar 13,2021	Subscription for Monthly without trial	\$ 10.00	10	\$ 100.00
			Subtotal	\$ 100.00
			Coupon	-\$ 50.00
			US Sales Tax	\$ 4.63
			InvoiceTotal	\$ 54.63

更新された AppExchange の Marketplace Analytics ダッシュボードにおけるリードの行動ドライバなどの参照

リードの行動は、AppExchange リストにおける顧客エンゲージメントの判断基準です。リードの行動は、お客様がソリューションに強い関心を持っていることを示すものであり、営業チームが見込み客を直接フォローアップするために使用できるためです。新しいリードの行動とリードの行動タイムラインの視覚化では、最も多くのリードの行動を促進しているリストの活動とリソースが表示されます。新しいチャットエンゲージメント視覚化では、AppExchange チャット実装のパフォーマンスに関するインサイトが提供されます。

対象: 更新された Marketplace Analytics ダッシュボードは Salesforce パートナーコミュニティで使用できます。

対象ユーザー: Marketplace Analytics は資格のある Salesforce パートナーが使用できます。Marketplace Analytics でチャット総計値を表示するには、AppExchange チャットが必要です。詳細は、Salesforce パートナーコミュニティの「[AppExchange Chat \(AppExchange チャット\)](#)」を参照してください。

理由: これまで Marketplace Analytics では、発生したリードの行動の総数のみがリストに表示されていました。現在は、リードの行動タイムライン(1)とリードの行動(2)の視覚化により、リードの行動の総数に対するデモ、[今すぐ入手] クリック、その他の活動の貢献度をさらに詳細なレベルで確認することができます。



AppExchange チャットでは、リスト上で営業担当とチャットボットが顧客とライブでエンゲージできます。新しいチャットエンゲージメントの視覚化 (3) を利用すると、このやり取りの傾向を把握するのに役立ちます。たとえば、視覚化を使用して、Live Chat の最も込み合う曜日を確認すれば、それに合わせてスタッフの割り当てを決定することができます。



方法: Marketplace Analytics ダッシュボードを表示するには、Salesforce パートナーコミュニティにログインし、[公開] をクリックして、[分析] タブに移動します。

プラットフォームイベント

EventUuid 項目を使用して、プラットフォームイベントメッセージを識別します。

このセクションの内容:

EventUuid 項目を使用したイベントメッセージの識別と照合

プラットフォームイベントメッセージにイベントメッセージを識別する EventUuid 項目が含まれるようになりました。これは、APIバージョン 52.0 以降を使用する登録者が使用できます。この項目を使用して、公開および受信したイベントメッセージを照合します。この照合では、受信したイベントの UUID と公開コールの SaveResult で返された UUID が比較されます。これにより、配信されていないイベントメッセージを見つけて再公開できます。

EventUuid 項目を使用したイベントメッセージの識別と照合

プラットフォームイベントメッセージにイベントメッセージを識別する EventUuid 項目が含まれるようになりました。これは、API バージョン 52.0 以降を使用する登録者が使用できます。この項目を使用して、公開および受信したイベントメッセージを照合します。この照合では、受信したイベントの UUID と公開コールの SaveResult で返された UUID が比較されます。これにより、配信されていないイベントメッセージを見つけて再公開できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: イベント公開は非同期です。検証や制限のエラーなど、一部の失敗は SaveResult に返されますが、非同期エラーは返されません。まれに、キューに登録された公開操作がシステムエラーにより失敗し、イベントメッセージが配信されないことがあります。EventUuid 項目を使用して、キューに登録されたイベントメッセージのうちどれが公開に失敗したかを判断して再公開できるようになりました。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

このセクションの内容:

[Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目](#)

新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI を容易に作成します。

[Apex: 新規および変更された項目](#)

次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

[ConnectApi \(Connect in Apex\): 新規および変更されたクラスおよび Enum](#)

Connect in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。B2B Commerce for Lightning の新機能 (注文配送、商品数量ルール、検索並び替えルールおよび提案など) を活用します。ゲストユーザーが使用できる B2B Commerce for Lightning のメソッドが増えました。ExperienceCloud サイトのナビゲーションメニュー項目を取得します。

[API: 新規および変更された項目](#)

API バージョン 52.0 では、より多くのデータオブジェクトとメタデータ型にアクセスできます。

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目

新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI を容易に作成します。

このセクションの内容:

[新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント](#)

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

[新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール](#)

モジュールを使用して、Lightning Web コンポーネントでさらに多くのことを実行できます。

新規追加または変更された Aura コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

新しいコンポーネント

次のコンポーネントは新規追加されたもので、API バージョン 52.0 以降が必要です。

lightning-quick-action-panel

Salesforce Lightning Design System (SLDS) モーダルと同じスタイルを使用してクイックアクションモーダルを作成します。このコンポーネントを使用すれば、画面アクションをカスタマイズしながらも、すべてのアクションで一貫性のある UI を保持できます。lightning__RecordAction 対象で lightning-quick-action-panel を使用して、レコードページでカスタムコンポーネントをクイックアクションとして使用します。詳細は、「[Lightning Web コンポーネントを呼び出すクイックアクションの作成 \(正式リリース\)](#)」(ページ 262)を参照してください。

lightning-service-cloud-voice-toolkit-api

このコンポーネントでは、Service Cloud Voice ツールキット API のイベントリスナーおよびメソッドにアクセスできるため、各自のコンポーネントでサービスエージェントとの通話中に発生するイベントをリスンできるようになります。詳細は、「[Service Cloud Voice ツールキット API での顧客向けにカスタマイズされたリユーシオンの構築](#)」(ページ 686)を参照してください。

変更された Lightning Web コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

lightning-button-icon

次の属性が新規追加されました。

- aria-haspopup — ボタンに対話形式のポップアップ要素があることを示します。有効な値は、true、false、menu、listbox、tree、grid、dialog です。

lightning-formatted-text

次の属性が変更されました。

- value — linkify が true の場合、プロトコルなしで指定された URL では、ホストドメインのプロトコルが使用されます。たとえば、ホストドメインが https:// プロトコルを使用している場合、value="See www.example.com" を指定すると、リンクは https://www.example.com と表示されます。

lightning-formatted-url

次の属性が変更されました。

- href — プロトコルなしで指定された URL では、ホストドメインのプロトコルが使用されます。たとえば、ホストドメインが https:// プロトコルを使用している場合、href="www.example.com" を指定すると、リンクは https://www.example.com と表示されます。

lightning-datatable

次の属性は、支援技術の <table> 要素に関するキャプションまたは説明を提供するための新規属性です。いずれか一方を使用し、両方は使用しないことをお勧めします。

- `aria-label` — 支援技術のデータベースに表示ラベルを付けます。属性とその値は表示される <table> 要素に渡されます。
- `aria-labelledby` — テーブルのキャプションまたは説明用の表示可能な説明テキストを含む要素の ID または ID リストを指定します。

lightning-helptext

次の属性が新規追加されました。

- `alternative-text` — ボタンアイコンの補助テキスト。この値のデフォルトは「ヘルプ」です。

lightning-input-address

次の属性が新規追加されました。

- `country-disabled` — 国項目が無効でユーザが操作できないかどうかを指定します。この値のデフォルトは `false` です。

lightning-pill

次の属性が変更されました。

- `href` — プロトコルなしで指定された URL では、ホストドメインのプロトコルが使用されます。たとえば、ホストドメインが `https://` プロトコルを使用している場合、`href="www.example.com"` を指定すると、リンクは `https://www.example.com` と表示されます。

関連トピック:

[コンポーネントライブラリ](#)

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール

モジュールを使用して、Lightning Web コンポーネントでさらに多くのことを実行できます。

新しいモジュール

次のモジュールを使用できるようになりました。

lightning/cmsDeliveryApi (ベータ)

このモジュールには、1つのワイヤアダプタ `listContent` が含まれています。Experience Cloud サイトの公開された CMS コンテンツバージョンを取得するには、このワイヤアダプタを使用します。

```
import { LightningElement, wire } from "lwc";
import Id from '@salesforce/community/Id';
import { listContent } from 'lightning/cmsDeliveryApi';

export default class ListContentDemo extends LightningElement {

  @wire(listContent, {communityId: '$Id'})
  cmsRecords;
}
```

詳細は、「Access CMS Content with an LWC Wire Adapter (Beta) (LWC ワイヤアダプタを使用した CMS コンテンツへのアクセス)」を参照してください。

lightning/uiListsApi

このモジュールには、1つのワイヤアダプタ `getListInfoByName` が含まれています。リストビューのメタデータを取得するには、このワイヤアダプタを使用します。

```
import { LightningElement, wire } from 'lwc';
import { getListInfoByName } from 'lightning/uiListsApi';
import ACCOUNT_OBJECT from '@salesforce/schema/Account';

export default class ListInfoExample extends LightningElement {
  @wire(getListInfoByName, { objectApiName: ACCOUNT_OBJECT, listViewApiName:
  'AllAccounts' })
  propertyOrFunction;
}
```

lightning/analyticsWaveApi (ベータ)

このモジュールには、Tableau CRM 機能を実装するための複数のワイヤアダプタとメソッドが含まれています。

- `executeQuery` — SAQL で記述されたクエリを実行します。
- `getAnalyticsLimits` — 組織の Tableau CRM の制限を返します。
- `getDataflowJob` — ID でデータフロージョブを返します。
- `getDataflowJobNode` — データフロージョブの1つのノードを返します。
- `getDataflowJobNodes` — データフロージョブのすべてのノードを返します。
- `getDataflowJobs` — データフロージョブのコレクションを返します。
- `getDataset` — ID でデータセットを返します。
- `getDatasets` — データセットのコレクションを返します。
- `getRecipe` — ID でレシピを返します。
- `getRecipes` — レシピのコレクションを返します。
- `getReplicatedDatasets` — 複製データセット (接続済みオブジェクトとも呼ばれる) のコレクションを返します。
- `getSchedule` — ID でアセットのスケジュールを返します。
- `getWaveFolders` — フォルダ (Tableau CRM アプリケーションとも呼ばれる) のコレクションを返します。
- `getXmd` — データセット ID、データセットバージョン ID、XMD 種別で XMD を返します。
- `createDataflowJob` — データ同期のデータフロージョブを開始します。
- `updateDataflowJob` — データ同期のデータフロージョブを停止します。
- `deleteDataset` — ID でデータセットを削除します。
- `deleteRecipe` — ID でレシピを削除します。
- `updateSchedule` — ID でアセットのスケジュールを作成します。

これらのワイヤアダプタを使用してクエリを実行したり、データフローやレシピのデータ同期をスケジュールおよび実行したり、Tableau CRM アセット情報を取得したりします。

```
import { LightningElement, wire } from "lwc";
import { executeQuery } from 'lightning/analyticsWaveApi';

export default class ExecuteQueryDemo extends LightningElement {
  query = '...'; // generate SAQL query for this string
  queryLanguage = 'Saql';
  timezone = undefined;
  metadata = undefined;

  get computedQuery() {
    if (!this.query) { return undefined; }
    return {
      query: this.query,
      queryLanguage: this.queryLanguage, //optional
      timezone: this.timezone, //optional
      metadata: this.metadata //optional
    };
  }

  @wire(executeQuery, {query: '$computedQuery'})
  onExecuteQuery({data, error}) {
    if (error) { console.log('QUERY ERROR:', error); }
    else if (data) {
      // Display or process the query results
      console.log('QUERY RESULT RECORDS:', data.results.records);
    }
  }
}
```

変更されたモジュール

このモジュールは廃止されました。

lightning/uiListApi (廃止)

このモジュールとそのワイヤアダプタ `getListUi` は廃止されたため、今後は更新されません。代わりに `lightning/uiListsApi` と `getListInfoByName` ワイヤアダプタを使用してください。

新規追加または変更された Aura コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

変更された Aura コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

lightning:button

次の属性が新規追加されました。

- `ariaHasPopup` — ボタンに対話型のポップアップ要素があることを示します。有効な値は、`true`、`false`、`menu`、`listbox`、`tree`、`grid`、`dialog` です。

lightning:buttonIcon

次の属性が新規追加されました。

- `ariaHasPopup` — ボタンに対話型のポップアップ要素があることを示します。有効な値は、`true`、`false`、`menu`、`listbox`、`tree`、`grid`、`dialog` です。

lightning:flow

次の属性が変更されました。

- `onstatuschange` — 新しい `errors` パラメータは、インタビューの状況が変更されたときや新しい画面が表示されたときに発生したエラーを返します。各エラーに対して、このパラメータには `message` と `errorCode` が含まれます。

lightning:formattedText

次の属性が変更されました。

- `value` — `linkify` が `true` の場合、プロトコルなしで指定された URL では、ホストドメインのプロトコルが使用されます。たとえば、ホストドメインが `https://` プロトコルを使用している場合、`value="See www.example.com"` を指定すると、リンクは `https://www.example.com` と表示されます。

lightning:formattedUrl

次の属性が変更されました。

- `href` — プロトコルなしで指定された URL では、ホストドメインのプロトコルが使用されます。たとえば、ホストドメインが `https://` プロトコルを使用している場合、`href="www.example.com"` を指定すると、リンクは `https://www.example.com` と表示されます。

lightning:datatable

次の属性は、支援技術の `<table>` 要素に関するキャプションまたは説明を提供するための新規属性です。いずれか一方を使用し、両方は使用しないことをお勧めします。

- `ariaLabel` — データテーブルに支援技術のラベルを付けます。このラベルは `aria-label` 属性として、表示される `<table>` 要素に渡されます。
- `ariaLabelledby` — テーブルのキャプションまたは説明用の表示可能な説明テキストを含む要素の ID または ID リストを指定します。

lightning:helptext

次の属性が新規追加されました。

- `alternativeText` — ボタンアイコンの補助テキスト。この値のデフォルトは `Help` です。

lightning:inputAddress

次の属性が新規追加されました。

- `countryDisabled` — 国項目が無効になっていてユーザが国項目を操作できないかどうかを示します。この値のデフォルトは `false` です。

lightning:pill

次の属性が変更されました。

- `href` — プロトコルなしで指定された URL では、ホストドメインのプロトコルが使用されます。たとえば、ホストドメインが `https://` プロトコルを使用している場合、`href="www.example.com"` を指定すると、リンクは `https://www.example.com` と表示されます。

wave:waveDashboard

次の属性が新規追加されました。

- `pageId` — Tableau CRM 組み込みダッシュボードの初期化で使コンポーネントが使用するページIDを指定します。この属性は省略可能です。ページIDが指定されていない場合は、コンポーネントはデフォルトのダッシュボードページを使用して初期化されます。

関連トピック:

[コンポーネントライブラリ](#)

Apex: 新規および変更された項目

次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

詳細は、『[Apex リファレンスガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

[CommercePayments 名前空間](#)

CommercePayments 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

[Functions \(ベータ\)](#)

Functions 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

[LxScheduler 名前空間](#)

LxScheduler 名前空間には、次の新規クラスおよびメソッドがあります。

[System 名前空間](#)

System 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

[Wave 名前空間](#)

Wave 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

関連トピック:

Apex: [新機能](#)

CommercePayments 名前空間

CommercePayments 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

暗号化された支払ゲートウェイトークンの値を設定する

`CommercePayments.PaymentMethodTokenizationResponse` クラスの新しい `setGatewayTokenEncrypted(gatewayTokenEncrypted)` メソッドを使用します。

Functions (ベータ)

Functions 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

- ☑ **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。このベータサービスの使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

Function の呼び出し時に Salesforce Functions プロジェクト情報を指定する。

`Function.get(functionName)` メソッドでは、Function 名に加え、文字列パラメータの一部として Salesforce Functions プロジェクト名を取り込むようになりました。

新しい列挙

失敗した Salesforce Functions 呼び出しのエラーの種類情報を識別する

新しい `FunctionErrorType` 列挙を使用して `FunctionInvocationError` のエラーの種類を識別します。

変更されたインターフェース

失敗した Salesforce Functions 呼び出しのエラーの種類情報を取得する

新しい `FunctionInvocationError.getType()` メソッドを使用して `FunctionInvocationError` のエラーの種類を取得します。

LxScheduler 名前空間

LxScheduler 名前空間には、次の新規クラスおよびメソッドがあります。

新規クラス

作業種別グループとサービステリトリーに基づいて予定時間枠または対応可能なサービスリソースを取得する `lxscheduler.SchedulerResources` クラスで次のメソッドを使用します。

- `getAppointmentCandidates(getAppointmentCandidatesInput)` — このメソッドは対応可能なサービスリソースのリストを返します。
- `getAppointmentSlots(getAppointmentSlotsInput)` — このメソッドは、指定された作業種別グループとテリトリーに基づいてリソースの対応可能な予定時間枠のリストを返します。
- `setAppointmentCandidatesMock(expectedResponse)` — このメソッドは `getAppointmentCandidates` メソッドのテスト実行時にモックオブジェクトを設定します。

- `setAppointmentSlotsMock(expectedResponse)` — このメソッドは `getAppointmentSlots` メソッドのテスト実行時にモックオブジェクトを設定します。

作業種別グループとサービステリトリーに基づいて使用可能な予定候補を取得する

`lxscheduler.GetAppointmentCandidatesInput` クラスを使用します。

`lxscheduler.GetAppointmentCandidatesInput` クラスのインスタンスを作成する

`lxscheduler.GetAppointmentCandidatesInputBuilder` クラスで次のメソッドを使用します。

- `build()` — このメソッドは `lxscheduler.GetAppointmentCandidatesInput` オブジェクトのインスタンスを返します。
- `setAccountId(accountId)` — このメソッドは関連付けられた取引先の ID を設定します。
- `setAllowConcurrent(allowConcurrent)` — このメソッドは同時予定のスケジュールを許可します。
- `setApiVersion(apiVersion)` — このメソッドは API バージョンを設定します。
- `setEndTime(endTime)` — このメソッドはスケジュール終了時刻を指定された時刻に設定します。
- `setFilterByResources(filterByResources)` — このメソッドはサービスリソース ID のカンマ区切りリストを使用したリソースの絞り込みを有効にします。
- `setSchedulingPolicy(schedulingPolicyId)` — このメソッドは `AppointmentSchedulingPolicy` オブジェクトの ID を設定します。
- `setStartTime(startTime)` — このメソッドはスケジュール開始時刻を指定された時刻に設定します。
- `setTerritoryIds(territoryIds)` — このメソッドはサービステリトリー ID を設定します。
- `setWorkType(workType)` — このメソッドは実行する作業の種別を設定します。
- `setWorkTypeGroupId(workTypeGroupId)` — このメソッドは作業種別グループの ID を設定します。

指定された作業種別グループとテリトリーに基づいてリソースの予定時間枠を取得する

`lxscheduler.GetAppointmentSlotsInput` クラスを使用します。

`lxscheduler.GetAppointmentSlotsInput` クラスのインスタンスを作成する

`lxscheduler.GetAppointmentSlotsInputBuilder` クラスで次のメソッドを使用します。

- `build()` — このメソッドは `lxscheduler.GetAppointmentSlotsInput` オブジェクトのインスタンスを返します。
- `setAccountId(accountId)` — このメソッドは関連付けられた取引先の ID を設定します。
- `setAllowConcurrent(allowConcurrent)` — このメソッドは同時予定のスケジュールを許可します。
- `setApiVersion(apiVersion)` — このメソッドは API バージョンを設定します。
- `setEndTime(endTime)` — このメソッドはスケジュール終了時刻を指定された時刻に設定します。
- `setPrimaryResourceId(primaryResourceId)` — このメソッドはプライマリリソースの ID を設定します。
- `setSchedulingPolicy(schedulingPolicyId)` — このメソッドは `AppointmentSchedulingPolicy` オブジェクトの ID を設定します。
- `setStartTime(startTime)` — このメソッドはスケジュール開始時刻を指定された時刻に設定します。
- `setTerritoryIds(territoryIds)` — このメソッドはサービステリトリー ID を設定します。
- `setWorkType(workType)` — このメソッドは実行する作業の種別を設定します。
- `setWorkTypeGroupId(workTypeGroupId)` — このメソッドは作業種別グループの ID を設定します。

作業の種別に関する詳細を設定する

`lxscheduler.WorkType` クラスを使用します。

`lxscheduler.WorkType` クラスのインスタンスを作成する

`lxscheduler.WorkTypeBuilder` クラスで次のメソッドを使用します。

- `build()` — このメソッドは `lxscheduler.WorkType` オブジェクトのインスタンスを返します。
- `setBlockTimeAfterAppointmentInMinutes(blockTimeAfterAppointmentInMinutes)` — このメソッドは予定が使用不可とみなされた後の期間 (分) を設定します。
- `setBlockTimeBeforeAppointmentInMinutes(blockTimeBeforeAppointmentInMinutes)` — このメソッドは予定が使用不可とみなされるまでの期間 (分) を設定します。
- `setDurationInMinutes(durationInMinutes)` — このメソッドは行動の長さ (分) を設定します。
- `setId(id)` — このメソッドは作業種別の ID を指定された ID に設定します。
- `setOperatingHoursId(operatingHoursId)` — このメソッドは営業時間の重複を設定します。
- `setSkillRequirements(skillRequirements)` — このメソッドは作業種別の特定のタスクを完了するために必要なスキルのリストを設定します。
- `setTimeFrameEndInMinutes(timeFrameEndInMinutes)` — このメソッドは期間の終わりを設定します。
- `setTimeFrameStartInMinutes(timeFrameStartInMinutes)` — このメソッドは期間の始まりを設定します。

作業種別の特定のタスクを完了するために必要なスキルを設定する

`lxscheduler.SkillRequirement` クラスを使用します。

`lxscheduler.SkillRequirement` クラスのインスタンスを作成する

`lxscheduler.SkillBuilderBuilder` クラスで次のメソッドを使用します。

- `build()` — このメソッドは `lxscheduler.SkillRequirement` オブジェクトのインスタンスを返します。
- `setSkillId(skillId)` — このメソッドは作業を実行するために必要なスキルを設定します。
- `setSkillLevel(skillLevel)` — このメソッドは作業を実行するために必要なスキルのレベルを設定します。

System 名前空間

System 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

廃止: `System.Site` のメソッド `getBaseInsecureUrl()`

`System.Site` クラスの `getBaseInsecureUrl()` メソッドはバージョン 52.0 以降ではサポートされません。

Wave 名前空間

Wave 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

新規クラス

Tableau CRM のレンズアセットに関する情報を取得する

新しい `Lenses` クラスで次のメソッドを使用します。 `getLenses` メソッドを使用して Tableau CRM のレンズアセットのコレクションを取得します。 `getLens` メソッドを使用して1つのレンズアセットを記述します。

ConnectApi (Connect in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum

Connect in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。 B2B Commerce for Lightning の新機能(注文配送、商品数量ルール、検索並び替えルールおよび提案など)を活用します。 ゲストユーザが使用できる B2B Commerce for Lightning のメソッドが増えました。 Experience Cloud サイトのナビゲーションメニュー項目を取得します。

ConnectApi 名前空間の Apex クラスでは、多くの Connect REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の ConnectApi クラスが使用されます。 ConnectApi 名前空間は *Connect in Apex* と呼ばれます。

このセクションの内容:

[新規および変更された Connect in Apex クラス](#)

次のクラスが新規追加または変更されました。

[新規および変更された Connect in Apex 入力クラス](#)

次の入力クラスが新規追加または変更されました。

[新規および変更された Connect in Apex 出力クラス](#)

次の出力クラスが新規追加または変更されました。

[新規および変更された Connect in Apex Enum](#)

次の Enum が新規追加または変更されました。

関連トピック:

[Connect REST API](#)

[Apex リファレンスガイド: ConnectApi 名前空間](#)

[Connect REST API 開発者ガイド](#)

新規および変更された Connect in Apex クラス

次のクラスが新規追加または変更されました。

B2B Commerce for Lightning

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.CommerceBuyerExperience` クラスに含まれます。

注文配送品目を取得する

- `getOrderShipmentItems(webstoreId, shipmentId)`
- `getOrderShipmentItems(webstoreId, shipmentId, effectiveAccountId)`
- `getOrderShipmentItems(webstoreId, shipmentId, effectiveAccountId, fields)`
- `getOrderShipmentItems(webstoreId, shipmentId, effectiveAccountId, fields, pageToken, pageSize)`
- `getOrderShipmentItems(webstoreId, shipmentId, effectiveAccountId, fields, pageToken, pageSize, sortOrder)`

注文配送を取得する

- `getOrderShipments(webstoreId, orderSummaryId)`
- `getOrderShipments(webstoreId, orderSummaryId, effectiveAccountId)`
- `getOrderShipments(webstoreId, orderSummaryId, effectiveAccountId, fields)`
- `getOrderShipments(webstoreId, orderSummaryId, effectiveAccountId, fields, pageSize, pageToken)`
- `getOrderShipments(webstoreId, orderSummaryId, effectiveAccountId, fields, pageSize, pageToken, sortOrder)`

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.CommerceCatalog` クラスに含まれます。

商品カテゴリを取得する

- `getProductCategoryChildren(webstoreId, effectiveAccountId, parentProductCategoryId, fields, excludeFields, mediaGroups, excludeMedia)`

商品の数量ルール情報を取得する

- `getProduct(webstoreId, productId, effectiveAccountId, fields, excludeFields, mediaGroups, excludeMedia, excludeEntitlementDetails, excludePrimaryProductCategory, excludeVariationInfo, excludeAttributeSetInfo, excludeQuantityRule)`

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.CommerceSearch` クラスに含まれます。

ライブインデックスの並び替えルールを取得する

- `getSortRules(webstoreId)`

商品検索の提案を取得する

- `getSuggestions(webstoreId, effectiveAccountId, searchTerm, maxResults)`

商品の検索

- `searchProducts(webstoreId, effectiveAccountId, productSearchInput)`

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.CommerceSearchSettings` クラスに含まれます。

インデックスを取得する

- `getCommerceSearchIndex(webstoreId, indexId)`
- `getCommerceSearchIndexes(webstoreId)`

インデックスを作成する

- `createCommerceSearchIndex(webstoreId)`

商取引の支払

この新しいメソッドは、`ConnectApi.Payments` クラスに含まれます。

トークン化のために支払ゲートウェイに支払方法を送信する

- `tokenizePaymentMethod(tokenizePaymentMethodInput)`

ナビゲーションメニュー

この新しいメソッドは、`ConnectApi.NavigationMenu` クラスに含まれます。

Experience Cloud サイトのナビゲーションメニュー項目を取得する

- `getCommunityNavigationMenu(communityId, navigationLinkSetId, navigationLinkSetDeveloperName, publishStatus, includeImageUrl, addHomeMenuItem, menuItemTypesToSkip)`

Salesforce カスタマーデータプラットフォーム (CDP)

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.CdpQuery` クラスに含まれます。

Salesforce CDP メタデータを取得する

- `getAllMetadata()`

プロファイルカテゴリ内のデータモデルオブジェクトの **Salesforce CDP** メタデータを取得する

- `getProfileMetadata()`

プロファイルカテゴリ内の1つのデータモデルオブジェクトの **Salesforce CDP** メタデータを取得する

- `getProfileMetadata(dataModelName)`

検索条件を使用して **Salesforce CDP** プロファイルデータモデルオブジェクトを照会する

- `queryProfileApi(dataModelName, filters, fields, batchSize, offset, orderBy)`

検索条件と検索キーを使用して **Salesforce CDP** プロファイルデータモデルオブジェクトを照会する

- `queryProfileApi(dataModelName, id, searchKey, filters, fields, batchSize, offset, orderBy)`

検索条件と検索キーを使用して **Salesforce CDP** プロファイルデータモデルオブジェクトと子オブジェクトを照会する

- `queryProfileApi(dataModelName, id, childDataModelName, searchKey, filters, fields, batchSize, offset, orderBy)`

検索条件と検索キーを使用して **Salesforce CDP** プロファイルデータモデルオブジェクトと計算済みインサイトオブジェクトを照会する

- `queryProfileApi(dataModelName, id, ciName, searchKey, dimensions, measures, filters, fields, batchSize, offset, orderBy)`

データモデルオブジェクト、レイクオブジェクト、統合されたオブジェクト、およびリンクされたオブジェクト間で Salesforce CDP データを同期的に照会する

- `queryANSISql(input)`

Salesforce CDP インサイトメタデータを取得する

- `getInsightsMetadata()`

計算済みインサイトオブジェクトの Salesforce CDP メタデータを取得する

- `getInsightsMetadata(ciName)`

Salesforce CDP の計算済みインサイトオブジェクトを照会する

- `queryCalculatedInsights(ciName, dimensions, measures, orderby, filters, batchSize, offset)`

Salesforce Order Management


この新しいメソッドは、`ConnectApi.FulfillmentOrder` クラスに含まれます。

複数の `FulfillmentOrder` の請求書を作成する

- `createMultipleInvoices(invoicesInput)`

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.ReturnOrder` クラスに含まれます。

ReturnOrders と ReturnOrderLineItems を作成する

-  **メモ:** このメソッドはバージョン 50.0 で使用できましたが、ドキュメントには記載されていませんでした。

- `createReturnOrder(returnOrderInput)`

ReturnOrderLineItems を処理する

- `returnItems(returnOrderId, returnItemsInput)`

新規および変更された Connect in Apex 入力クラス

次の入力クラスが新規追加または変更されました。

B2B Commerce for Lightning

`ConnectApi.DistinctValueRefinementInput`

この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- `values` — 属性値のカンマ区切りのリスト。

`ConnectApi.ProductSearchGroupingInput`

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `groupingOption` — 検索結果のグルーピングオプション。値は次のとおりです。
 - `NoGrouping` — 検索結果はグループ化されません。
 - `VariationParent` — 検索結果はバリエーションの親でグループ化されます。
- `topProductType` — 検索結果の商品グループごとに返される上位の商品種別。値は次のとおりです。

- VariationParent

ConnectApi.ProductSearchInput

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- categoryId — カテゴリ ID は、このカテゴリまたはそのサブカテゴリの商品の結果を返します。
- fields — 検索結果で返される商品項目。検索結果には、アクセス権のある項目が含まれます。指定しない場合、アクセスできるすべての項目が返されます。
- grouping — 検索結果の商品をグループ化するかどうかと、グループ化する方法を指定します。
- includePrices — 検索結果に商品の価格を含めるか (true)、否か (false) を指定します。指定しない場合は、デフォルトの false になります。
- includeQuantityRule — 検索結果に商品の購入数量ルール情報を含めるか (true)、否か (false) を指定します。指定しない場合は、デフォルトの false になります。
- page — 返すページの数。0 から開始します。値を指定しないか 0 を指定した場合、最初のページが返されます。
- pageSize — ページあたりの項目数を指定します。有効な値は 1 ~ 200 です。指定しない場合、デフォルトは [検索] > [結果表示設定] > [結果表示の上限] の [ページあたりの結果数] で指定した値です。
- refinements — 検索結果の絞り込み。
- searchTerm — スペースで区切られた最大 32 個の検索語のリスト。
- sortRuleId — 検索結果の商品の順序を指定する並び替えルールの ID。

ConnectApi.RefinementInput

この新しい入力クラスは抽象クラスであり、ConnectApi.DistinctValueRefinementInput のスーパークラスです。次のプロパティがあります。

- attributeType — 属性型を検索します。値は次のとおりです。
 - Custom
 - ProductAttribute
 - Standard
- nameOrId — 属性の API 参照名。
- type — 検索ファセット種別。値は次のとおりです。
 - DistinctValue

商取引の支払

ConnectApi.PaymentMethodTokenizationInput

この新しい入力クラスは ConnectApi.BaseRequest のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- address — 支払方法の住所。
- cardPaymentMethod — カード支払方法のオブジェクト表現。
- paymentGatewayId — カード支払方法の支払ゲートウェイの ID。

フィールドサービス

ConnectApi.ShiftsFromPatternInput

この入力クラスには、次の新しいプロパティがあります。

- `status` — シフトの状況。デフォルト値は、次のとおりです。
 - `Confirmed`
 - `Published`
 - `Tentative`

Salesforce CDP

ConnectApi.CdpQueryInput

この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- `sql` — ANSI 標準の SQL クエリ。

Salesforce Order Management

ConnectApi.MultipleFulfillmentOrderInvoicesInputRepresentation

この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- `fulfillmentOrderIds` — 請求書の作成の対象である `FulfillmentOrders` の ID。

ConnectApi.ReturnItemsInputRepresentation

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `returnOrderItemDeliveryCharges` — 配送料を表す、返品する `ReturnOrderLineItems` のリスト。
- `returnOrderItems` — 処理方法に関するデータに加えて、商品を表し、処理する `ReturnOrderLineItems` のリスト。

ConnectApi.ReturnOrderInputRepresentation

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `orderSummaryId` — 返品される品目が含まれる `OrderSummary` の ID。
- `returnOrderLifeCycleType` — `ReturnOrder` の `LifeCycleType`。これは、関連付けられた注文概要の `LifeCycleType` に一致する必要があります。
- `returnOrderLineItems` — `ReturnOrderLineItems` を作成するためのデータのリスト。
- `status` — `ReturnOrder` を割り当てる状況。この値は、`ReturnOrder` オブジェクトの [状況] 選択リストのエントリに一致する必要があります。

ConnectApi.ReturnOrderItemDeliveryChargeInputRepresentation

この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- `returnOrderLineItemId` — 返品する `ReturnOrderLineItem` の ID。

ConnectApi.ReturnOrderItemInputRepresentation

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `quantityReceived` — 受け取られた返品注文品目の数量。この値は標準機能では使用されませんが、カスタマイズで使用するために提供されています。

- `quantityRejected` — 返品を拒否された返品注文品目の数量。この値は標準機能では使用されませんが、カスタマイズで使用するために提供されています。
- `quantityReturned` — 返品された返品注文品目の数量。この値は 0 よりも大きい値にする必要があります。この値に `quantityToCancel` を加えたものが予想される返品数量を下回っている場合、返品予定の残りの数量が新しい返品注文品目に追加されます。
- `quantityToCancel` — 返品されていないため削除する返品注文品目の数量。この値に `quantityReturned` を加えたものが予想される返品数量を下回っている場合、返品予定の残りの数量が新しい返品注文品目に追加されます。
- `reasonForRejection` — 拒否された数量がある場合、拒否された理由。この値は標準機能では使用されませんが、カスタマイズで使用するために提供されています。
- `returnOrderLineItemId` — 返品注文品目 ID。

ConnectApi.ReturnOrderLineItemInputRepresentation

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `canReduceShipping` — 関連付けられた送料を返金できるかどうか。
- `orderItemSummaryId` — 関連付けられた `OrderItemSummary` の ID。
- `quantityExpected` — 返品されると予想される数量。
- `quantityReceived` — すでに物理的に返品された数量。この値は標準機能では使用されませんが、カスタマイズで使用するために提供されています。
- `reasonForReturn` — 返品の原因。この値は、`ReturnOrderLineItem` オブジェクトの `ReasonForReturn` 選択リストのエントリに一致する必要があります。

新規および変更された Connect in Apex 出力クラス

次の出力クラスが新規追加または変更されました。

B2B Commerce for Lightning

ConnectApi.CartItem

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `itemizedAdjustmentAmount` — 今後の使用のために予約されています。

ConnectApi.CartItemProduct

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `purchaseQuantityRule` — 商品の購入数量ルール (存在する場合)。

ConnectApi.CartSummary

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `totalProductAmountAfterAdjustments` — 商品総額。
- `totalPromotionalAdjustmentAmount` — 今後の使用のために予約されています。

ConnectApi.CommerceSearchIndex

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `completionDate` — インデックスの完了日時。
- `createdDate` — インデックスの作成日。

- `creationType` — インデックスの作成種別。値は次のとおりです。
 - `Manual`
 - `Scheduled`
- `id` — インデックスの ID。
- `indexStatus` — インデックスの状況。値は次のとおりです。
 - `Completed`
 - `Failed`
 - `InProgress`
- `indexUsage` — インデックスの使用状況。値は次のとおりです。
 - `Live`
 - `OutOfUse`
- `message` — インデックス状況の詳細なメッセージ。

ConnectApi.CommerceSearchIndexCollection

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `indexes` — 最大2個のインデックスのリスト。完了したライブインデックスと、進行中の使用されていないインデックスまたは最近失敗した使用されていないインデックスを返します。

ConnectApi.DistinctFacetValue

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `displayName` — ファセット値の表示名。
- `nameOrId` — 属性の API 参照名。
- `productCount` — ファセット値に一致する検索結果の商品数。

ConnectApi.DistinctValueSearchFacet

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `values` — 検索結果で見つかったファセットの値。表示名がアルファベット順に並び替えられます。

ConnectApi.FacetValue

この新しい出力クラスは抽象クラスであり、`ConnectApi.DistinctFacetValue` のスーパークラスです。次のプロパティがあります。

- `type` — 検索ファセット種別。値は次のとおりです。
 - `DistinctValue`

ConnectApi.FieldValue

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `value` — 項目の値。

ConnectApi.OrderShipment

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `expectedDeliveryDate` — 推定配送日。
- `fields` — 要求された項目の対応付け。
- `orderSummaryId` — 注文概要の ID。

- shipmentId — 配送の ID。
- shipmentNumber — 配送の数。
- status — 配送の状況。

ConnectApi.OrderShipmentCollection

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- count — コレクション内の返されるレコードの総数。
- currentPageToken — 注文配送の現在のページを識別するトークン。
- currentPageUrl — 注文配送の現在のページへの URL。
- nextPageToken — 注文配送の次のページを識別するトークン。
- nextPageUrl — 注文配送の次のページへの URL。
- previousPageToken — 注文配送の前のページを識別するトークン。
- previousPageUrl — 注文配送の前のページへの URL。
- shipments — 注文配送のコレクション。
- sortOrder — 注文配送の並び替え順。値は次のとおりです。
 - ExpectedDeliveryDateAsc — 最も古い推定配送日で並び替えます。
 - ExpectedDeliveryDateDesc — 最も新しい推定配送日で並び替えます。
 - ShipmentNumberAsc — 配送番号の昇順 (0 ~ 9) で並び替えます。
 - ShipmentNumberDesc — 配送番号の降順 (9 ~ 0) で並び替えます。

ConnectApi.OrderShipmentItem

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- fields — 要求された項目の対応付け。
- orderItemSummaryId — 注文品目概要の ID。
- product — 注文品目概要に対応付けられた商品。
- productId — 商品の ID。
- quantity — 商品の数量。
- shipmentId — 配送の ID。
- shipmentItemId — 配送品目の ID。

ConnectApi.OrderShipmentItemCollection

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- count — ページ内の返されるレコードの総数。
- currentPageToken — 注文配送品目の現在のページを識別するトークン。
- currentPageUrl — 注文配送品目の現在のページへの URL。
- items — 注文配送品目のコレクション。
- nextPageToken — 注文配送品目の次のページを識別するトークン。
- nextPageUrl — 注文配送品目の次のページへの URL。
- previousPageToken — 注文配送品目の前のページを識別するトークン。
- previousPageUrl — 注文配送品目の前のページへの URL。

- `sortOrder` — 注文配送品目の並び替え順。値は次のとおりです。
 - `IdAsc` — ID が英数字の昇順 (A ~ Z, 0 ~ 9) で並び替えられます。
 - `IdDesc` — ID が英数字の降順 (Z ~ A, 9 ~ 0) で並び替えられます。

ConnectApi.ProductCategoryDetailCollection

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `productCategories` — 商品カテゴリの詳細のリスト。

ConnectApi.ProductDetail

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `purchaseQuantityRule` — 商品の購入数量ルール (存在する場合)。

ConnectApi.ProductSearchResults

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `categories` — 検索結果のカテゴリ。
- `facets` — 検索結果のファセット。
- `locale` — 検索結果のロケール。
- `productsPage` — 検索結果の商品のページ。

ConnectApi.ProductSearchSuggestionsResults

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `recentSearchSuggestions` — ユーザの最近の検索に基づく提案。

ConnectApi.ProductSummary

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `defaultImage` — 商品のデフォルト画像。
- `fields` — 商品に属する項目の対応付け。
- `id` — 商品の ID。
- `name` — 商品の名前。
- `prices` — 商品の価格。
- `productClass` — 商品のクラス。値は次のとおりです。
 - `Simple`
 - `Variation`
 - `VariationParent`
- `purchaseQuantityRule` — 商品の購入数量ルール (存在する場合)。
- `variationAttributeSet` — 商品に関連付けられているバリエーション属性セット。

ConnectApi.ProductSummaryCollection

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `currencyIsoCode` — 商品に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- `pageSize` — 検索結果のページあたりの商品数。
- `products` — 商品概要のコレクション。
- `total` — 検索結果の商品の合計数。

ConnectApi.PurchaseQuantityRule

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `increment` — 購入可能な数量の増分値。
- `maximum` — 購入可能な最大数量。
- `minimum` — 購入可能な最小数量。

ConnectApi.SearchCategory

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `category` — カテゴリに関する情報。
- `children` — 検索結果が空でなかったカテゴリの第1レベルの子カテゴリ。
- `productCount` — カテゴリに属する検索結果の商品数。

ConnectApi.SearchFacet

この新しい出力クラスは抽象クラスであり、`ConnectApi.DistinctValueSearchFacet` のスーパークラスです。次のプロパティがあります。

- `attributeType` — 属性型を検索します。値は次のとおりです。
 - `Custom`
 - `ProductAttribute`
 - `ProductCategory`
 - `Standard`
- `displayName` — ファセットの表示名。
- `displayRank` — ファセットの表示ランク。有効な値は1～50です。
- `displayType` — ファセットの表示種別。値は次のとおりです。
 - `CategoryTree`
 - `DatePicker`
 - `MultiSelect`
 - `SingleSelect`
- `facetType` — 検索ファセット種別。値は次のとおりです。
 - `DistinctValue`
- `nameOrId` — 属性のAPI参照名。

ConnectApi.SearchSuggestion

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `value` — 検索の提案。

ConnectApi.SortRule

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `direction` — 並び替えルールの方角。値は次のとおりです。
 - `Ascending` — 英数字の昇順(A～Z、0～9)で並び替えられます。
 - `Default` — 昇順または降順の方角がない場合、デフォルトの順序で並び替えられます。たとえば、関連性で並び替えられます。

- Descending — 英数字の降順 (Z ~ A、9 ~ 0) で並び替えられます。
- label — 並び替えルールの表示ラベル。
- nameOrId — 並び替えルール項目の名前 (並び替えルールがカスタム項目に基づいている場合は ID)。
- sortRuleId — 並び替えルールの ID。
- type — 並び替えルールのタイプ。値は次のとおりです。
 - Custom — カスタム項目または商品以外のオブジェクトの並び替えルール。
 - ProductBased — 商品の並び替えルール。
 - Relevancy — 関連性の並び替えルール。

ConnectApi.SortRulesCollection

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- sortRules — 並び替えルールのコレクション。

CMS 管理コンテンツ

ConnectApi.ManagedContentChannel

この出力クラスには、次の変更されたプロパティと新しいプロパティがあります。

- domain — チャンネルに割り当てられたドメインの ID または名前。
- domainId — このプロパティは使用できなくなりました。この情報は新しい domain プロパティで返されます。

商取引の支払

ConnectApi.PaymentMethodTokenizationGatewayResponse

この新しい出力クラスは `ConnectApi.AbstractGatewayResponse` のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- gatewayToken — ゲートウェイから送信される支払方法トークン。

ConnectApi.PaymentMethodTokenizationResponse

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- error — 支払方法のトークン化プロセスのエラー表現。ゲートウェイのトークン化プロセスでエラーが発生した場合にのみ送信されます。
- gatewayResponse — 支払ゲートウェイからのトークン化された支払方法の値が含まれる応答。
- paymentGatewayLogs — ゲートウェイで発生したトークン化プロセスに関する詳細が表示されるログ。
- paymentMethod — トークン化された支払方法オブジェクトのオブジェクト表現。

Experience Cloud

ConnectApi.Community

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `builderBasedSnaEnabled` — [サービスは利用できません] ページが自動生成されるエクスペリエンスビルダーベースのページなのか (`true`)、[ワークスペース]>[管理]>[ページ] で設定された静的リソースページなのか (`false`) を指定します。

ナビゲーションメニュー

`ConnectApi.NavigationMenuItem`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `actionType` — ナビゲーションメニュー項目の URL 種別またはイベント。値は次のとおりです。
 - `Event` — イベントベースのナビゲーション。
 - 📌 **メモ:** `Event` は内部のみで使用され、カスタムコンポーネントでは使用できません。
 - `ExternalLink` — Experience Cloud サイト外の URL。
 - `InternalLink` — Experience Cloud サイト内の相対 URL。
- `actionValue` — ナビゲーションメニュー項目のルート URL またはイベントの完全修飾名。
- `imageUrl` — ナビゲーションメニュー項目の画像の URL。
- `label` — ナビゲーションメニュー項目の表示ラベル。
- `subMenu` — ナビゲーションメニュー項目のサブメニュー。
- `target` — ナビゲーションメニュー項目の対象。値は次のとおりです。
 - `CurrentWindow` — ナビゲーションメニュー項目は現在のウィンドウで開きます。
 - `NewWindow` — ナビゲーションメニュー項目は新しいウィンドウで開きます。

`ConnectApi.NavigationMenuItemCollection`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `menuItems` — ナビゲーションメニュー項目のリスト。

パーソナライズ

`ConnectApi.FormulaScope`

この出力クラスには、次の変更されたプロパティと新しいプロパティがあります。

- `contextValues` — このプロパティは使用できなくなりました。代わりに、`contextValuesMap` プロパティを使用してください。
- `contextValuesMap` — 範囲のコンテキスト値の対応付け。

Salesforce CDP

`ConnectApi.CdpQueryMetadataOutput`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `metadata` — メタデータセット。

`ConnectApi.CdpQueryOutput`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `data` — 結果のデータセット。

- `done` — クエリが完了したか (`true`)、否か (`false`) を指定します。
- `endTime` — クエリの終了時刻。
- `metadata` — 結果のメタデータセット。
- `queryId` — クエリ ID。
- `rowCount` — 結果のデータセット内の行数。
- `startTime` — クエリの開始時刻。

Salesforce Order Management

`ConnectApi.MultipleFulfillmentOrderInvoicesOutputRepresentation`

この新しい出力クラスは `ConnectApi.BaseOutputRepresentation` のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- `invoiceIds` — このコールによって作成された請求書の ID のリスト。

`ConnectApi.ReturnItemsOutputRepresentation`

この新しい出力クラスは `ConnectApi.BaseOutputRepresentation` のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- `changeOrderId` — このコールによって実行される `ReturnOrderLineItem` 処理を表す変更注文の ID。
- `returnLineItemSplits` — このコールによって処理される部分的な返品の子の数量を表すプロパティのリスト。リストの各要素には、分割された `ReturnOrderLineItem` の ID と、残りの数量が保持されている部分的に処理された `ReturnOrderLineItem` の ID が含まれます。

`ConnectApi.ReturnOrderItemSplitLineOutputRepresentation`

この新しい出力クラスは `ConnectApi.BaseOutputRepresentation` のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- `newReturnOrderItemId` — 残りの返品数量を保持する新しい `ReturnOrderLineItem` の ID。
- `originalReturnOrderItemId` — 元の `ReturnOrderLineItem` の ID。

`ConnectApi.ReturnOrderOutputRepresentation`

この新しい出力クラスは `ConnectApi.BaseOutputRepresentation` のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- `returnOrderId` このコールによって作成された `ReturnOrder` の ID。

新規および変更された Connect in Apex Enum

次の Enum が新規追加または変更されました。

これらの Enum についての詳細は、『*Apex リファレンスガイド*』の「`ConnectApi` の列挙」を参照してください。

`ConnectApi.CommerceSearchAttributeType`

この新しい Enum には次の値があります。

- `Custom`
- `ProductAttribute`
- `ProductCategory`
- `Standard`

ConnectApi.CommerceSearchFacetDisplayType

この新しい Enum には次の値があります。

- CategoryTree
- DatePicker
- MultiSelect
- SingleSelect

ConnectApi.CommerceSearchFacetType

この新しい Enum には次の値があります。

- DistinctValue

ConnectApi.CommerceSearchGroupingOption

この新しい Enum には次の値があります。

- NoGrouping — 検索結果はグループ化されません。
- VariationParent — 検索結果はバリエーションの親でグループ化されます。

ConnectApi.CommerceSearchIndexCreationType

この新しい Enum には次の値があります。

- Manual
- Scheduled

ConnectApi.CommerceSearchIndexStatus

この新しい Enum には次の値があります。

- Completed
- Failed
- InProgress

ConnectApi.CommerceSearchIndexUsage

この新しい Enum には次の値があります。

- Live
- OutOfUse

ConnectApi.CommerceSearchSortRuleDirection

この新しい Enum には次の値があります。

- Ascending — 英数字の昇順 (A ~ Z, 0 ~ 9) で並び替えられます。
- Default — 昇順または降順の方向がない場合、デフォルトの順序で並び替えられます。たとえば、関連性で並び替えられます。
- Descending — 英数字の降順 (Z ~ A, 9 ~ 0) で並び替えられます。

ConnectApi.CommerceSearchSortRuleType

この新しい Enum には次の値があります。

- Custom — カスタム項目または商品以外のオブジェクトの並び替えルール。
- ProductBased — 商品の並び替えルール。
- Relevancy — 関連性の並び替えルール。

ConnectApi.CommerceSearchTopProductType


この新しい Enum には次の値があります。

- VariationParent

ConnectApi.NavigationMenuItemActionType

この新しい Enum には次の値があります。

- Event — イベントベースのナビゲーション。

 **メモ:** Event は内部のみで使用され、カスタムコンポーネントでは使用できません。

- ExternalLink — Experience Cloud サイト外の URL。
- InternalLink — Experience Cloud サイト内の相対 URL。

ConnectApi.NavigationMenuItemOpenTarget

この新しい Enum には次の値があります。

- CurrentWindow — ナビゲーションメニュー項目は現在のウィンドウで開きます。
- NewWindow — ナビゲーションメニュー項目は新しいウィンドウで開きます。

ConnectApi.NavigationMenuItemType

この新しい Enum には次の値があります。

- Event — ログイン、ログアウト、アカウントの切り替えなどのイベント。
- ExternalLink — サイト外の URL。
- GlobalAction — ユーザは、他のレコードに関連しないレコードを作成できます。
- InternalLink — サイト内の相対 URL。
- MenuLabel — メニューの表示ラベル。
- NavigationalTopic — サイトのナビゲーショントピックへのリンクを示すドロップダウンリスト。
- SalesforceObject — 取引先、ケース、取引先責任者、カスタムオブジェクトなどのオブジェクト。
- SystemLink — ビルダー、ワークスペース、または設定へのリンクなどのシステムリンク。

ConnectApi.OrderShipmentItemSort

この新しい Enum には次の値があります。

- IdAsc — ID が英数字の昇順 (A ~ Z, 0 ~ 9) で並び替えられます。
- IdDesc — ID が英数字の降順 (Z ~ A, 9 ~ 0) で並び替えられます。

ConnectApi.OrderShipmentSort

この新しい Enum には次の値があります。

- ExpectedDeliveryDateAsc — 最も古い推定配送日で並び替えます。
- ExpectedDeliveryDateDesc — 最も新しい推定配送日で並び替えます。
- ShipmentNumberAsc — 配送番号の昇順 (0 ~ 9) で並び替えます。
- ShipmentNumberDesc — 配送番号の降順 (9 ~ 0) で並び替えます。

API: 新規および変更された項目

API バージョン 52.0 では、より多くのデータオブジェクトとメタデータ型にアクセスできます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

こうした新規追加または変更された標準プラットフォームイベントのチャンネルに登録することで、Salesforce からリアルタイム通知を受信します。

REST API

REST API ではエラー処理と重複ルール管理が改善されました。

Connect REST API

Connect REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce と統合します。B2B Commerce for Lightning の新機能 (注文配送、商品数量ルール、検索並び替えルールおよび提案など) を活用します。Einstein 記事レコメンデーションおよび Einstein 返信レコメンデーションランタイム総計値を取得します。

Tableau CRM REST API

Tableau CRM REST API を使用して、Tableau CRM リソースをコレクションとしてグループ化および共有します。アセットスケジュールを取得します。licenseType でデータセットとレシピを取得します。

ユーザインターフェース API

レコードレイアウトの保存オプションを取得します。

Bulk API 2.0

Bulk API 2.0 ドキュメントが刷新されました! 両方の Bulk API 開発者ガイドが統合され、ガイドを使用しやすくなりました。

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

Tooling API では、オブジェクトおよび項目が新規追加および変更されました。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

Salesforce 全体

組織で有効になっている、割り当てられている、または使用可能である機能ライセンスの数に関する情報を取得します。

新しい ActiveFeatureLicenseMetric オブジェクトを使用します。

組織で有効になっているまたは割り当てられている権限セットライセンスの数に関する情報を取得します。

新しい ActivePermSetLicenseMetric オブジェクトを使用します。

組織で有効になっているまたは割り当てられているプロフィールの数に関する情報を取得します。

新しい ActiveProfileMetric オブジェクトを使用します。

アプリケーション内ガイダンスのエラーおよび警告の詳細を参照する

新しい PromptError オブジェクトを使用します。

PromptError を共有することが許可されているユーザを判別する

新しい `PromptErrorOwnerSharingRule` オブジェクトを使用します。

PromptError へのアクセス権を持つユーザを表示する

新しい `PromptErrorShare` オブジェクトを使用します。

対象プロンプトを使用したページの特定の要素の参照 (ベータ)

複数のプロンプト種別から選択するには、`PromptVersion` オブジェクトで新しい `DisplayType` 項目を使用します。

対象プロンプトをページ要素に配置して関連付ける (ベータ)

対象プロンプトを配置する場所を決定するには、`PromptVersion` オブジェクトで新しい `ElementRelativePosition` 項目と `ReferenceElementContext` 項目を使用します。

Analytics

ライセンスの種類で **Analytics** アセットを照会する

新しい `AnalyticsLicensedAsset` オブジェクトを使用します。

AppExchange

AppExchange App Analytics の結果ファイルをダウンロードするときのサイズと時間を減らす

`AppAnalyticsQueryRequest` オブジェクトで新しい `FileType` 項目と `FileCompression` 項目を使用します。全体的なクエリ戦略を最適化するには、「[AppExchange App Analytics Best Practices](#)」(AppExchange App Analytics のベストプラクティス)を参照してください。

AppExchange App Analytics キャッチアップクエリを作成して到着が遅延したデータを取得する

AppExchange App Analytics クエリを再実行してキャッチアップクエリを作成します。元のクエリを実行した日時に設定された新しい `AvailableSince` 項目を `AppAnalyticsQueryRequest` オブジェクトに含めます。日時を調べるには、元のクエリの `AppAnalyticsQueryRequest ID` を使用して `AppAnalyticsQueryRequest` オブジェクトの新しい `QuerySubmittedTime` 項目を取得します。キャッチアップクエリについての詳細は、「[AppExchange App Analytics Best Practices](#)」(AppExchange App Analytics のベストプラクティス)を参照してください。

利用状況総計値の廃止

利用状況総計値と `MetricsDataFile` API オブジェクトは Winter'22 で廃止される予定です。すぐに [AppExchange の App Analytics](#) に切り替えてください。登録者が AppExchange ソリューションをどのように操作しているかに関する豊富な利用状況データが提供されます。

Commerce Order Management

注文品目に適用された特定のプロモーションを特定する。

`OrderAdjustmentGroupSummary` および `OrderItemAdjustmentLineSummary` オブジェクトで新しい `AdjustmentCauseId` 項目を使用します。

プロモーションにランキングを適用する。

`OrderItemAdjustmentLineSummary` オブジェクトで新しい `Priority` 項目を使用します。

返品が処理中であることを示す。

`OrderItemSummary` オブジェクトの `Status` 項目で新しい `ReturnInitiated` オプションを使用します。

注文概要に関連付けられている購入注文日を表示する。

OrderSummary オブジェクトで新しい PODate 項目を使用します。

注文概要で注文された一意の商品の合計数を表示する。

OrderSummary オブジェクトで新しい OrderProductLineCount 項目を使用します。

商取引の支払

暗号化された支払方法トークンをカード支払方法とデジタルウォレットに記録する。

カード支払方法とデジタルウォレットで新しい GatewayTokenEncrypted 項目を使用します。

GatewayTokenEncrypted は Salesforce の従来の暗号化を使用して支払方法トークンの値を保存します。デジタルウォレットやカード支払方法の暗号化されていない GatewayToken 項目ではなく、この項目を使用することをお勧めします。

カスタマイズ

指定したユーザの権限セットの割り当てが期限切れになる日付を選択する

PermissionSetAssignment オブジェクトで新しい ExpirationDate 項目を使用します。

権限セットの割り当てが有効かどうかを示す

PermissionSetAssignment オブジェクトで新しい IsActive 項目を使用します。

種別でバックグラウンド操作を照会する

BackgroundOperation オブジェクトで新しい Type 項目を使用します。

Einstein 自動化

フローインタビューのフローバージョン ID を取得する

FlowInterview オブジェクトで新しい FlowVersionViewId 項目を使用します。

イベントモニタリング

ユーザ種別に関する情報を取得する

一部のイベントログファイルの種別で新しい USER_TYPE 項目を使用します。これは、たとえば、イベントに関連付けられたユーザが認証されているかゲストユーザであるかを示すことができます。

次のイベントログファイルの種別に USER_TYPE 項目が含まれます。

- Apex REST API
- Apex SOAP
- Apex トリガ
- API
- 非同期レポート
- Aura 要求
- コンソール
- ログイン
- マルチブロックレポート

- 1つのコマース利用状況
- キューにある実行
- レポート
- REST API
- サイト
- URI
- Visualforce 要求

API 合計使用量イベント種別で API バージョンの使用を確認する

EventLogFile オブジェクトで新しい API 合計使用量イベントを使用します。このイベント種別は、使用中の API バージョンの確認やバージョン廃止の管理に役立ちます。

Experience Cloud

ContentDocumentLink オブジェクトをレイアウトに追加する

ContentDocumentLink オブジェクトの属性 `layoutable` が `true` になりました。

エクスペリエンスビルダーベースの [サービスは利用できません] ページを有効にする

既存の Networks オブジェクトで `OptionsExperienceBundleBasedSnaOverrideEnabled` 項目を `true` に設定します。

関数

組織で使用可能な Salesforce Functions を把握する

新しい FunctionReference オブジェクトを使用して組織が接続されている Functions を調査します。

新しい FunctionInvocationRequest オブジェクトを使用して組織からの Function 呼び出しの状況を取得します。

Salesforce Functions への組織の接続の状況を確認する

新しい SfFunctionsConnection オブジェクトを使用して、組織が Salesforce Functions にどのように接続されているかを調査します。

Industry Cloud: 保険

手数料取得可能イベントの手数料の値を計算する

新しい CommissionSchedule オブジェクトを使用します。

1つ以上の手数料取得可能イベントの特定の商品または制作者に適用される手数料を計算します。

新しい CommissionScheduleAssignment オブジェクトを使用します。

制作者手数料の機能強化

ProducerCommission オブジェクトに、CommissionSchedule および CommissionScheduleAssignment オブジェクトに関連する CommissionScheduleId、MaxCommissionAmount、MinCommissionAmount、ParentProducerCommissionId、ProcessingProducerId、ProducerProductionCode などの新規項目が追加されました。

保険契約を複数の Salesforce 組織で使用する

Vlocity および Salesforce InsurancePolicy オブジェクトが Salesforce コアに統合されます。ほとんどのカスタム項目は標準項目に置き換えられます。Vlocity 商品モデルは現在 Salesforce コアには含まれていないため、3つのカスタム項目 (AttributesSelectedValues__c、ContractLineItemId__c、ProductCode__c) は残ります。

セールス

商談の完了予定日、金額、フェーズ名、売上予測分類の経時変化を調べる

新しい `RecentFieldChange` および `FieldChangeSnapshot` オブジェクトを使用します。

フェーズおよび活動の最新情報と商談日数を把握する

`Opportunity` オブジェクトで新しい `AgeInDays`、`LastActivityInDays`、`LastStageChangeDate`、および `LastStageChangeInDays` 項目を使用します。 `LastStageChangeDate` 項目以外の商談の項目にアクセスするにはパイプライン検査を有効にする必要があります。

売上予測種別を作成および管理するためのより多くのオプションを取得する

新しい `ForecastingSourceDefinition` および `ForecastingTypeSource` オブジェクトを使用します。

`ForecastingType` オブジェクトで、新しい `IsPlatformType` 項目および新しい `delete()` 属性を使用します。

指定された期間内で更新または削除された `ForecastingItem` レコードを表示する

`ForecastingItem` オブジェクトで新しい `getUpdated()` および `getDeleted()` 属性を使用します。

コンテンツメモに関するフローを作成する

`ContentNote` オブジェクトで新しい参照項目 `LatestContentId` を使用します。

Salesforce が SMTP 認証に使用する SASL メカニズムを指定する

既存の `EmailRelay` オブジェクトで新しい `AuthType` 項目を使用します。

セキュリティと ID

サイトで許可される Cookie 種別を制御する

`Site` オブジェクトで新しい `OptionsCookieConsent` 項目を使用します。

システム管理サイトの URL をカスタムドメインにリダイレクトする

`Site` オブジェクトで新しい `OptionsRedirectToCustomDomain` 項目を使用します。

サイトの Visualforce ページをキャッシュする方法を選択する

`Site` オブジェクトで新しい `OptionsCachePublicVFPagesInProxyServers` 項目を使用します。

ドメインに HSTS プリロード登録を許可する

`Domain` オブジェクトで新しい `OptionsHstsPreload` 項目を使用します。

削除: `Site` オブジェクトの `OptionsCspUpgradeInsecureRequests` および `OptionsRequireHttps` 項目を削除

これらの項目は API バージョン 52.0 以降では削除されています。API バージョン 51.0 以前では、この項目の値は無視されます。

サービス

エージェント作業から新しい会話後作業機能(ベータ)にアクセスする

`AgentWork` オブジェクトで新しい `AfterConversationActualTime` 項目を使用します。 `ActiveTime` と `HandleTime` の説明も更新されました。

サービスチャネルから新しい会話後作業機能(ベータ)にアクセスする

`ServiceChannel` オブジェクトで新しい `AfterConvoWorkMaxTime` および `HasAfterConvoWorkTimer` 項目を使用します。

音声通話の接続元種別を指定する

VoiceCall オブジェクトで新しい `SourceType` 項目を使用します。

サービス設定アシスタントタスクの状況を表示する

新しい `ServiceSetupProvisioning` オブジェクトを使用します。このオブジェクトには、サービス設定アシスタントが有効になっている場合にアクセスできます。

チャットの会話エントリにアクセスするための権限を有効にする

チャットの `ConversationEntry` オブジェクトを使用するには、新しい「会話エントリを利用」ユーザ権限を有効にします。

派遣作業員がサービス予定に近づいていることを顧客に通知する

`AssignedResource` オブジェクトで新しい `ApptAssistantInfoUrl` および `LocationStatus` 項目を使用します。

Field Service の一貫性があり的を絞ったサービス提供の作業計画を作成する

新しいオブジェクト `WorkPlan`、`WorkPlanSelectionRule`、`WorkPlanTemplate`、`WorkPlanTemplateEntry`、`WorkStep`、`WorkStepStatus`、`WorkStepTemplate` を使用します。

作業負荷履歴とインテリジェントな予測を作成してコンタクトセンターの今後の作業量に合った計画を立てる

新しいオブジェクト `Workload`、`WorkloadUnit`、`WorkforceCapacity`、`WorkDemographic`、`WorkforceCapacityUnit` を使用します。

ワークフォースエンゲージメントのシフトスケジュール機能を使用して適切なタイミングで適切なシフトに適切なエージェントを配置する

新しいオブジェクト `SchedulingConstraint`、`SchedulingRule`、`SchedulingRuleParameter`、`ServiceResourcePreference` を使用します。

MyTrailhead 学習モジュールをエージェントに割り当て、エージェントは完了時にスキルを獲得する

新しい `SkillLevelDefinition` および `SkillLevelProgress` オブジェクトを使用します。

関係演算子を使用して Field Service のシフトのサービス予定条件を定義する

`RecordsetFilterCriteria` オブジェクトで新しい `FilteredObject` 項目と `SourceObject` 項目、`RecordsetFilterCriteriaRule` オブジェクトで `Operator` 項目を使用します。`RecordsetFilterCriteriaRule` オブジェクトで `CriteriaField` 項目の更新された選択リスト値を使用します。

Field Service 組織設定を表示する

新しい `FieldServiceOrgSettings` オブジェクトを使用します。

Work.com**従業員-ユーザのプロビジョニングプロセスの詳細を表示する。**

従業員-ユーザプロビジョニングプロセスの詳細を表示するには、新しい `EmpUserProvisioningProcess` および `EmpUserProvisionProcessErr` オブジェクトを使用します。

ナレッジ記事レコードタイプを1つのチケットカテゴリに対応付ける。

ナレッジ記事レコードタイプを1つのチケットカテゴリに対応付けるには、新しい `AssociatedKnowledgeArticleTypeMapping` オブジェクトを使用します。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

こうした新規追加または変更された標準プラットフォームイベントのチャンネルに登録することで、Salesforce からリアルタイム通知を受信します。

開発

プラットフォームイベントメッセージを識別する

すべての標準プラットフォームイベントとカスタムプラットフォームイベントで新しい `EventUuid` 項目を使用します。イベントメッセージを公開し、`SaveResult` で `UUID` を受信している場合、この項目を使用して、公開および配信されたイベントメッセージを照合します。

セキュリティと ID: リアルタイムイベントモニタリング

権限セットと権限セットグループへの変更の監視(パイロット)

セキュリティポリシーで新しい `PermissionSetEventStore` オブジェクトを使用し、`PermissionSetEvent` を使用してリアルタイム通知を行います。

REST API

REST API ではエラー処理と重複ルール管理が改善されました。

動作の変更: **Composite** 要求のエラー処理を改善

参照 ID に無効な文字 (文字、数字、アンダースコア以外の文字) が含まれる **Composite** 要求の API の動作が変更されました。

- API バージョン 52.0 以降では、要求全体が HTTP 状況コード 400 で失敗するようになりました。(以前のリリースでは、無効な文字を使用するサブ要求は成功しましたが、すべての連動サブ要求が失敗しました)。
- この Summer '21 リリース以降、要求で API バージョン 51.0 以前が使用されている場合、応答内の参照 ID は、「[」や「]」を含んでも切り捨てられなくなります。

この変更は、以下に影響します。

- `/services/data/vXX.X/composite`
- `/services/data/vXX.X/composite/graph`

詳細は、『*REST API 開発者ガイド*』の「**Composite サブ要求の結果**」を参照してください。

重複ルールオプションを設定して重複レコードの管理方法を制御する

REST API で重複ルールヘッダーを使用します。このヘッダーは SOAP API の `DuplicateRuleHeader` と同じ機能を提供します。

ユーザがレコードの作成、更新、または更新/挿入を行うと、既存のレコードと重複するレコードが作成されることがあります。重複ルール管理を使用して、重複レコードの検出方法を示す一致ルールを作成します。重複レコードの作成をブロックするのか、ユーザに警告を確認させて重複の作成を許可するのかを指定します。重複レコードの検索時に現在のユーザの共有ルールとシステム共有ルールのどちらを使用するかを指示します。

変更されたコール

次のコールは、API バージョン 52.0 で変更されました。

変更されたコール

/limits

/limits レスポンスボディの DailyApiRequests セクションが簡略化されました。情報が不完全であったため、応答でさまざまな接続アプリケーション別の使用状況が示されることはなくなります。今後、このセクションは次のように表示されます。

```
"DailyApiRequests" : {
  "Max" : 15000,
  "Remaining" : 4667
},
```

/composite

/composite の動作が改善されました。

- 連動サブ要求で使用できるのは、親要求で明示的に選択された項目のみです。
- 連動サブ要求で Null 値の項目にアクセスできるようになりました (親要求で明示的に選択されている項目であることが前提)。

これらの変更は、バージョン 52.0 が /composite 要求自体で指定されている場合にのみ適用されます。要求の `urls` パラメータで指定されているバージョンはこれに影響を与えません。

Connect REST API

Connect REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce と統合します。B2B Commerce for Lightning の新機能 (注文配送、商品数量ルール、検索並び替えルールおよび提案など) を活用します。Einstein 記事レコメンデーションおよび Einstein 返信レコメンデーションランタイム総計値を取得します。

このセクションの内容:

[新規および変更された Connect REST API リソース](#)

次のリソースが新規追加または変更されました。

[新規および変更された Connect REST API リクエストボディ](#)

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

[新規および変更された Connect REST API レスポンスボディ](#)

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

関連トピック:

[ConnectApi \(Connect in Apex\): 新規および変更されたクラスおよび Enum](#)

[Connect REST API 開発者ガイド](#)

[Apex リファレンスガイド: ConnectApi 名前空間](#)

新規および変更された Connect REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

B2B Commerce for Lightning

注文配送を取得する

新規 `/commerce/webstores/webstoreId/order-summaries/orderSummaryId/shipments` リソースに対して GET 要求を実行します。

配送品目を取得する

新規 `/commerce/webstores/webstoreId/shipments/shipmentId/items` リソースに対して GET 要求を実行します。

商品カテゴリを取得する

新規 `/commerce/webstores/webstoreId/product-categories/children` リソースに対して GET 要求を実行します。

商品の数量ルール情報を取得する

`/commerce/webstores/webstoreId/products/productId` リソースに対して GET 要求を実行します。

ライブインデックスの並び替えルールを取得する

新規 `/commerce/webstores/webstoreId/search/sort-rules` リソースに対して GET 要求を実行します。

商品検索の提案を取得する

新規 `/commerce/webstores/webstoreId/search/suggestions` リソースに対して GET 要求を実行します。

B2B2C Commerce

.csv ファイルを使用して商品カタログを B2B または B2C ストアにインポートする

新しい Product Import Input リクエストボディを使用して、新規

`/commerce/management/webstores/webstoreId/product-import` リソースに対して POST 要求を実行します。

Commerce Einstein

ストアの Commerce Einstein リリースの状況を取得する

新規 `/commerce/einstein/webstores/webstoreId/status` リソースに対して GET 要求を実行します。

ストアの Commerce Einstein 設定を取得する

新規 `/commerce/einstein/webstores/webstoreId/configuration` リソースに対して GET 要求を実行します。

ストアの Commerce Einstein 活動をエクスポートするジョブをキューに追加する

新しい Commerce Einstein Activity Job Input を使用して、新規

`/commerce/einstein/webstores/webstoreId/activities/export-jobs` リソースに対して POST 要求を実行します。

ストアの Commerce Einstein 活動のエクスポートジョブの状況を取得する

新規 `/commerce/einstein/webstores/webstoreId/activities/export-jobs/jobId` リソースに対して GET 要求を実行します。

ストアのエクスポートされた Commerce Einstein 活動ファイルをダウンロードする

新規 `/commerce/einstein/webstores/webstoreId/activities/export-jobs/jobId/file-content` リソースに対して GET 要求を実行します。

ストアの Commerce Einstein 活動を消去するジョブをキューに追加する

新しい Commerce Einstein Activity Job Input を使用して、新規 `/commerce/einstein/webstores/webstoreId/activities/purge-jobs` リソースに対して POST 要求を実行します。

ストアの Commerce Einstein 活動の消去ジョブの状況を取得する

新規 `/commerce/einstein/webstores/webstoreId/activities/purge-jobs/jobId` リソースに対して GET 要求を実行します。

Einstein のおすすめ**ケースチャンネル種別の Einstein 記事レコメンデーションランタイム総計値を取得する**

新規 `/connect/article-recommendations/metrics/runtime/case` リソースに対して GET 要求を実行します。

チャットチャンネル種別の Einstein 返信レコメンデーションランタイム総計値を取得する

新規 `/connect/reply-recommendations/metrics/runtime/chat` リソースに対して GET 要求を実行します。

Salesforce カスタマーデータプラットフォーム (CDP)**Salesforce CDP メタデータを取得する**

新規 `/ssot/metadata` リソースに対して GET 要求を実行します。

プロフィールカテゴリ内のデータモデルオブジェクトの Salesforce CDP メタデータを取得する

新規 `/ssot/profile/metadata` リソースに対して GET 要求を実行します。

プロフィールカテゴリ内の1つのデータモデルオブジェクトの Salesforce CDP メタデータを取得する

新規 `/ssot/profile/metadata/dataModelName` リソースに対して GET 要求を実行します。

検索条件を使用して Salesforce CDP プロファイルデータモデルオブジェクトを照会する

新規 `/ssot/profile/dataModelName` リソースに対して GET 要求を実行します。

検索条件と検索キーを使用して Salesforce CDP プロファイルデータモデルオブジェクトを照会する

新規 `/ssot/profile/dataModelName/id` リソースに対して GET 要求を実行します。

検索条件と検索キーを使用して Salesforce CDP プロファイルデータモデルオブジェクトと子オブジェクトを照会する

新規 `/ssot/profile/dataModelName/id/childDataModelName` リソースに対して GET 要求を実行します。

検索条件と検索キーを使用して Salesforce CDP プロファイルデータモデルオブジェクトと計算済みインサイトオブジェクトを照会する

新規 `/ssot/profile/dataModelName/id/calculated-insights/calculatedInsightName` リソースに対して GET 要求を実行します。

データモデルオブジェクト、レイクオブジェクト、統合されたオブジェクト、およびリンクされたオブジェクト間で Salesforce CDP データを同期的に照会する

新しい Salesforce CDP Query Input リクエストボディを使用して、新規 `/ssot/query` リソースに対して POST 要求を実行します。

Salesforce CDP インサイトメタデータを取得する

新規 `/ssot/insight/metadata` リソースに対して GET 要求を実行します。

計算済みインサイトオブジェクトの Salesforce CDP メタデータを取得する

新規 `/ssot/insight/metadata/calculatedInsightName` リソースに対して GET 要求を実行します。

Salesforce CDP の計算済みインサイトオブジェクトを照会する

新規 `/ssot/insight/calculated-insights/calculated-insight-name` リソースに対して GET 要求を実行します。


Salesforce Order Management

複数の `FulfillmentOrder` の請求書を作成する

新しい Multiple Fulfillment Order Invoices Input リクエストボディを使用して、新規 `/commerce/fulfillment/fulfillment-orders/actions/create-multiple-invoices` リソースに対して POST 要求を実行します。

`ReturnOrders` を作成する

新しい Return Order Input リクエストボディを使用して、新規 `/commerce/returns/return-orders` リソースに対して POST 要求を実行します。

 **メモ:** このリソースはバージョン 50.0 で使用できましたが、ドキュメントには記載されていませんでした。

`ReturnOrderLineItems` を処理する

新しい Return Items Input リクエストボディを使用して、新規 `/commerce/returns/return-orders/returnOrderId/actions/return-items` リソースに対して POST 要求を実行します。

新規および変更された Connect REST API リクエストボディ

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

B2B Commerce for Lightning

Product Search Grouping Input (正式リリース)

このリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `groupingOption` — 検索結果のグルーピングオプション。値は次のとおりです。
 - `NoGrouping` — 検索結果はグループ化されません。

- VariationParent — 検索結果はバリエーションの親でグループ化されます。
- topProductType — 検索結果の商品グループごとに返される上位の商品種別。値は次のとおりです。
 - VariationParent

Product Search Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- grouping (正式リリース) — 検索結果の商品をグループ化するかどうかと、グループ化する方法を指定します。
- includeQuantityRule — 検索結果に商品の購入数量ルール情報を含めるか (true)、否か (false) を指定します。指定しない場合は、デフォルトの false になります。
- sortRuleId — 検索結果の商品の順序を指定する並び替えルールの ID。

B2B2C Commerce

Product Import Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- allOrNone — インポートできない行があった場合に処理を停止するか (true)、処理を続行して部分的なインポートを行うか (false) を指定します。
- commerceEntitlementPolicyId — インポート先のエンタitlementメントポリシーの ID。
- contentVersionId — .csv ファイルのコンテンツバージョン ID。
- pricebookId — インポート先の価格表の ID。
- productCatalogId — インポート先の商品カタログの ID。
- sampleData — インポートするサンプル .csv ファイル。値は次のとおりです。
 - B2BSampleData — B2B サンプルデータセット。
 - Camera — カメラストアのサンプルデータセット。
 - Coffee — コーヒーストアのサンプルデータセット。
 - Hardware — ハードウェアストアのサンプルデータセット。
 - NorthernTrail — アウトドアグッズストアのサンプルデータセット。
 - NorthernTrailLarge — 大規模アウトドアグッズストアのサンプルデータセット。
 - Simple — 2 個の商品のサンプルデータセット。
- strikethroughPricebookId — インポート先の取り消し線付き価格表の ID。

Commerce Einstein

Commerce Einstein Activity Job Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- cookieId — Cookie の ID。
- userId — ユーザの ID。

Conversations

Conversation Entry Update Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `relatedRecords` — 会話エントリに関連付けるレコードの ID のリスト。

Experience Cloud サイト

Community Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `templateParams` — テンプレート固有のパラメータの対応付け。

Field Service

Shifts from Pattern Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `status` — シフトの状況。デフォルト値は、次のとおりです。
 - Confirmed
 - Published
 - Tentative

Salesforce CDP

Salesforce CDP Query Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `sql` — ANSI 標準の SQL クエリ。

Salesforce Order Management

Multiple Fulfillment Order Invoices Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `fulfillmentOrderIds` — 請求書の作成の対象である `FulfillmentOrders`。

Return Items Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `returnOrderItemDeliveryCharges` — 配送料を表す、返品する `ReturnOrderLineItems` のリスト。
- `returnOrderItems` — 処理方法に関するデータに加えて、商品を表し、処理する `ReturnOrderLineItems` のリスト。

Return Order Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `orderSummaryId` — 返品される品目が含まれる `OrderSummary` の ID。 `OrderSummary` の `OrderLifeCycleType` は「管理済み」である必要があります。
- `returnOrderLifeCycleType` — `ReturnOrder` の `LifeCycleType`。値は次のとおりです。
- `returnOrderLineItems` — `ReturnOrderLineItems` を作成するためのデータのリスト。

- `status` — `ReturnOrder` を割り当てる状況。この値は、`ReturnOrder` オブジェクトの [状況] 選択リストのエントリに一致する必要があります。

Return Order Item Delivery Charge Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `returnOrderLineItemId` — 返品する `ReturnOrderLineItem` の ID。

Return Order Item Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `quantityReceived` — 受け取られた `ReturnOrderLineItem` の数量。この値は 0 以上でなければなりません。この値は標準機能では使用されませんが、カスタマイズで使用するために提供されています。
- `quantityRejected` — 返品を拒否された `ReturnOrderLineItem` の数量。この値は 0 以上でなければなりません。この値は標準機能では使用されませんが、カスタマイズで使用するために提供されています。
- `quantityReturned` — 返品された `ReturnOrderLineItem` の数量。この値は 0 よりも大きい値にする必要があります。この値に `quantityToCancel` を加えたものが予想される返品数量を下回っている場合、返品予定の残りの数量が新しい `ReturnOrderLineItem` に追加されます。
- `quantityToCancel` — 返品されていないため削除する `ReturnOrderLineItem` の数量。この値は 0 以上でなければなりません。この値に `quantityReturned` を加えたものが予想される返品数量を下回っている場合、返品予定の残りの数量が新しい `ReturnOrderLineItem` に追加されます。
- `reasonForRejection` — 拒否された数量がある場合、拒否された理由。この値は標準機能では使用されませんが、カスタマイズで使用するために提供されています。
- `returnOrderLineItemId` — `ReturnOrderLineItem` の ID。

Return Order Line Item Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `canReduceShipping` — 関連付けられた送料を返金できるかどうか。
- `orderItemSummaryId` — 関連付けられた `OrderItemSummary` の ID。
- `quantityExpected` — 返品されると予想される数量。
- `quantityReceived` — すでに物理的に返品された数量。
- `reasonForReturn` — 返品の原因。この値は、`ReturnOrderLineItem` オブジェクトの `ReasonForReturn` 選択リストのエントリに一致する必要があります。

新規および変更された Connect REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

B2B Commerce for Lightning

Cart Item

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `itemizedAdjustmentAmount` — 今後の使用のために予約されています。

Cart Item Product

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `purchaseQuantityRule` — 商品の購入数量ルール (存在する場合)。

Cart Summary

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `totalProductAmountAfterAdjustments` — 商品総額。
- `totalPromotionalAdjustmentAmount` — 今後の使用のために予約されています。

Order Shipment

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `expectedDeliveryDate` — 推定配送日。
- `fields` — 要求された項目の対応付け。
- `orderSummaryId` — 注文概要の ID。
- `shipmentId` — 配送の ID。
- `shipmentNumber` — 配送の数。
- `status` — 配送の状況。

Order Shipment Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `count` — コレクション内の返されるレコードの総数。
- `currentPageToken` — 注文配送の現在のページを識別するトークン。
- `currentPageUrl` — 注文配送の現在のページへの URL。
- `nextPageToken` — 注文配送の次のページを識別するトークン。
- `nextPageUrl` — 注文配送の次のページへの URL。
- `previousPageToken` — 注文配送の前のページを識別するトークン。
- `previousPageUrl` — 注文配送の前のページへの URL。
- `shipments` — 注文配送のコレクション。
- `sortOrder` — 注文配送の並び替え順。値は次のとおりです。
 - `ExpectedDeliveryDateAsc` — 最も古い推定配送日で並び替えます。
 - `ExpectedDeliveryDateDesc` — 最も新しい推定配送日で並び替えます。
 - `ShipmentNumberAsc` — 配送番号の昇順 (0 ~ 9) で並び替えます。
 - `ShipmentNumberDesc` — 配送番号の降順 (9 ~ 0) で並び替えます。

Order Shipment Item

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `fields` — 要求された項目の対応付け。
- `orderItemSummaryId` — 注文品目概要の ID。
- `product` — 注文品目概要に対応付けられた商品。
- `productId` — 商品の ID。
- `quantity` — 商品の数量。
- `shipmentId` — 配送の ID。
- `shipmentItemId` — 配送品目の ID。

Order Shipment Item Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `count` — ページ内の返されるレコードの総数。
- `currentPageToken` — 注文配送品目の現在のページを識別するトークン。
- `currentPageUrl` — 注文配送品目の現在のページへの URL。
- `items` — 注文配送品目のコレクション。
- `nextPageToken` — 注文配送品目の次のページを識別するトークン。
- `nextPageUrl` — 注文配送品目の次のページへの URL。
- `previousPageToken` — 注文配送品目の前のページを識別するトークン。
- `previousPageUrl` — 注文配送品目の前のページへの URL。
- `sortOrder` — 注文配送品目の並び替え順。値は次のとおりです。
 - `IdAsc` — ID が英数字の昇順 (A ~ Z、0 ~ 9) で並び替えられます。
 - `IdDesc` — ID が英数字の降順 (Z ~ A、9 ~ 0) で並び替えられます。

Product Category Detail Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `productCategories` — 商品カテゴリの詳細のリスト。

Product Detail

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `purchaseQuantityRule` — 商品の購入数量ルール (存在する場合)。

Product Search Suggestions Results

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `recentSearchSuggestions` — ユーザの最近の検索に基づく提案。

Product Summary

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `purchaseQuantityRule` — 商品の購入数量ルール (存在する場合)。

Purchase Quantity Rule

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `increment` — 購入可能な数量の増分値。
- `maximum` — 購入可能な最大数量。
- `minimum` — 購入可能な最小数量。

Search Suggestion

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `value` — 検索の提案。

Sort Rule

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `direction` — 並び替えルールの方向。値は次のとおりです。
 - `Ascending` — 英数字の昇順 (A ~ Z、0 ~ 9) で並び替えられます。

- Default — 昇順または降順の方向がない場合、デフォルトの順序で並び替えられます。たとえば、関連性で並び替えられます。
- Descending — 英数字の降順 (Z ~ A、9 ~ 0) で並び替えられます。
- label — 並び替えルールの表示ラベル。
- nameOrId — 並び替えルール項目の名前 (並び替えルールがカスタム項目に基づいている場合は ID)。
- sortRuleId — 並び替えルールの ID。
- type — 並び替えルールのタイプ。値は次のとおりです。
 - Custom — カスタム項目または商品以外のオブジェクトの並び替えルール。
 - ProductBased — 商品の並び替えルール。
 - Relevancy — 関連性の並び替えルール。

Sort Rules Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- sortRules — 並び替えルールのコレクション。

B2B2C Commerce

Product Import

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- allOrNone — インポートできない行があった場合に処理を停止するか (true)、処理を続行して部分的なインポートを行うか (false) を指定します。
- commerceEntitlementPolicyId — インポート先のエンタイトルメントポリシーの ID。
- commerceEntitlementProductsCreated — インポートにより作成されたエンタイトルメント商品の数。
- contentVersionId — インポートされた .csv ファイルの ID。
- endTime — インポートが終了した時刻 (Unix エポックタイムスタンプ)。
- errorMessage — エラーメッセージ (インポートが失敗した場合)。
- numberError — 処理に失敗した .csv レコードの数。
- numberSuccess — 正常に処理された .csv レコードの数。
- numberToProcess — データソース内の .csv レコードの数。
- pricebookEntriesCreated — インポートにより作成された価格表エントリの数。
- pricebookEntriesUpdated — インポートにより更新された価格表エントリの数。
- pricebookId — インポート先の価格表の ID。
- processTime — インポートプロセスにかかった時間 (Unix エポックタイムスタンプ)。
- productCatalogId — インポート先の商品カタログの ID。
- productCategoriesCreated — インポートにより作成された商品カタログの数。
- productCategoryProductsCreated — インポートにより作成された商品カテゴリ商品の数。
- productsCreated — インポートにより作成された商品の数。
- productsUpdated — インポートにより更新された商品の数。

- `sampleData` — インポートされたサンプル .CSV ファイル。値は次のとおりです。
 - `B2BSampleData` — B2B サンプルデータセット。
 - `Camera` — カメラストアのサンプルデータセット。
 - `Coffee` — コーヒーストアのサンプルデータセット。
 - `Hardware` — ハードウェアストアのサンプルデータセット。
 - `NorthernTrail` — アウトドアグッズストアのサンプルデータセット。
 - `NorthernTrailLarge` — 大規模アウトドアグッズストアのサンプルデータセット。
 - `Simple` — 2 個の商品のサンプルデータセット。
- `startTime` — インポートが開始された時刻 (Unix エポックタイムスタンプ)。
- `startedBy` — インポートを開始したユーザの ID。
- `status` — インポートの状況。
- `webstoreId` — インポート先のストアの ID。

CMS 管理コンテンツ

Managed Content Channel

このレスポンスボディには、次の変更されたプロパティと新しいプロパティがあります。

- `domain` — チャンネルに割り当てられたドメインの ID または名前。
- `domainId` — このプロパティは使用できなくなりました。この情報は新しい `domain` プロパティで返されます。

Commerce Einstein

Commerce Einstein Activity Export Job

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `fileUrl` — ジョブの完了後にエクスポートファイルをダウンロードするための URL。
- `fileUrlExpiration` — ファイルダウンロード URL の有効期限 (ジョブの完了から 30 日後)。
- `jobId` — ジョブの ID。
- `statusCode` — ジョブの状況コード。値は次のとおりです。
 - `Completed` — ジョブが完了しました。
 - `NoData` — エクスポートジョブが完了しましたが、データがありません。
 - `Pending` — ジョブが進行中です。
- `url` — ジョブリソースへの URL。

Commerce Einstein Activity Purge Job

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `jobId` — ジョブの ID。
- `statusCode` — ジョブの状況コード。値は次のとおりです。
 - `Completed` — ジョブが完了しました。
 - `NoData` — エクスポートジョブが完了しましたが、データがありません。

- Pending — ジョブが進行中です。
- url — ジョブリソースへの URL。

Commerce Einstein Configuration

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- activityTrackingEnabled — サイトの活動の追跡が有効になっているか (true)、否か (false) を指定します。
- host — Commerce Einstein API のホスト名。
- siteId — Commerce Einstein のサイト ID。
- tenant — Commerce Einstein のテナントの識別子。

Commerce Einstein Status

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- statusCode — リリースの状況コード。値は次のとおりです。
 - DataError
 - InProgress
 - InternalError
 - NotDeployed
 - Success
- url — 状況リソースへの URL。

会話

Conversation Entry

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- relatedRecords — 会話エントリに関連付けられているレコードの ID のリスト。

Einstein のおすすめ

Article Recommendations Runtime Metric

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- activeUserCount — おすすめが表示されたエージェントの数。
- attachCount — おすすめが添付された回数。
- detachCount — おすすめが添付解除された回数。
- dismissCount — おすすめが破棄された回数。
- engagementCount — おすすめがクリックされて開かれたり、マウスポインタが置かれたり、添付されたり、添付解除されたり、破棄されたりした回数。
- engagementUserCount — おすすめをクリックして開いたり、マウスポインタを置いたり、添付したり、添付解除したり、破棄したりしたエージェントの数。
- hoverOrOpenCount — おすすめがクリックされて開かれたり、マウスポインタが置かれたりした回数。
- metricsDate — 総計値の計算日。
- recommendationCount — 表示されたおすすめの数。

- `recommendationDisplayedRecordsCount` — おすすめが表示されたレコードの数。
- `recommendationEngagementRecordsCount` — エージェントがおすすめをクリックして開いたり、マウスポインタを置いたり、添付したり、添付解除したり、破棄したりしたレコードの数。

Article Recommendations Runtime Metrics

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `articleRecommendationsRuntimeMetrics` — 記事レコメンデーション総計値のコレクション。

Reply Recommendations Metric

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `activeAgentCount` — おすすめが表示されたエージェントの数 (MAU)。
- `agentsEngaged` — おすすめを操作したエージェントの数。
- `conversationsCount` — おすすめが提供された一意の会話の数。
- `conversationsWithEngagements` — おすすめを使用した個別の会話の数 (投稿または編集のインタラクション)。
- `metricsDate` — 総計値の計算日。
- `recommendationsCount` — エージェントに表示されたおすすめの数。
- `recommendationsEditCount` — エージェントがおすすめを編集した回数。
- `recommendationsNotHelpfulCount` — エージェントがおすすめが役に立たないと示した回数。
- `recommendationsPostCount` — エージェントがおすすめを投稿した回数。

Reply Recommendations Metrics

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `replyRecommendationsRuntimeMetrics` — 返信レコメンデーション総計値のコレクション。

Experience Cloud

Community

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `builderBasedSnaEnabled` — [サービスは利用できません] ページが自動生成されるエクスペリエンスビルダーベースのページなのか (`true`)、[ワークスペース]>[管理]>[ページ] で設定された静的リソースページなのか (`false`) を指定します。

パーソナライズ

Formula Scope

このレスポンスボディには、次の変更されたプロパティと新しいプロパティがあります。

- `contextValues` — このプロパティは使用できなくなりました。代わりに、`contextValuesMap` プロパティを使用してください。
- `contextValuesMap` — 範囲のコンテキスト値の対応付け。

Salesforce CDP

Salesforce CDP Query Metadata Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `metadata` — メタデータセット。

Salesforce CDP Query Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `data` — 結果のデータセット。
- `done` — クエリが完了したか (`true`)、否か (`false`) を指定します。
- `endTime` — クエリの終了時刻。
- `metadata` — 結果のメタデータセット。
- `queryId` — クエリ ID。
- `rowCount` — 結果のデータセット内の行数。
- `startTime` — クエリの開始時刻。

Salesforce Order Management

Multiple FulfillmentOrder Invoices Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `invoiceIds` — 作成された請求書の ID のリスト。

Return Items Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `changeOrderId` — このコールによって実行される `ReturnOrderLineItem` 処理を表す変更注文の ID。
- `errors` — 返されたエラー。
- `returnLineItemSplits` — このコールによって処理される部分的な返品の残りの数量を表すプロパティのリスト。リストの各要素には、分割された `ReturnOrderLineItem` の ID と、残りの数量が保持されている部分的に処理された `ReturnOrderLineItem` の ID が含まれます。
- `success` — トランザクションが成功したかどうかを示します。

Return Order Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `returnOrderId` — 作成された `ReturnOrder` の ID。

Tableau CRM REST API

Tableau CRM REST API を使用して、Tableau CRM リソースをコレクションとしてグループ化および共有します。アセットスケジュールを取得します。 `licenseType` でデータセットとレシピを取得します。

このセクションの内容:

[新規および変更された Tableau CRM REST API リソース](#)

次のリソースが新規追加または変更されました。

[新規および変更された Tableau CRM REST API リクエストボディ](#)

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

[新規および変更された Tableau CRM REST API レスポンスボディ](#)

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

新規および変更された Tableau CRM REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

Tableau CRM アセットスケジュールを取得する

`/wave/asset/assetId/schedule` リソースに対して GET 要求を実行します。

ID でダッシュボードを取得する

新しい `ids` 要求パラメータを指定して、`/wave/dashboards` リソースに対して GET 要求を実行します。

Tableau CRM リソースのコレクションを取得する

新しい `/wave/collections/` リソースに対して GET 要求を実行します。要求パラメータを使用して、結果を絞り込むことができます。

新しい Tableau CRM コレクションを作成する

`WaveCollectionInputRepresentation` リソースを指定して、新しい `/wave/collections/` リソースに対して POST 要求を実行します。

Tableau CRM リソースのコレクション内の項目を取得する

新しい `/wave/collections/collectionId/items` リソースに対して GET 要求を実行します。

Tableau CRM リソース項目を既存のコレクションに追加する

`WaveCollectionItemInputRepresentation` リソースを指定して、新しい `/wave/collections/collectionId/items` リソースに対して POST 要求を実行します。

コレクション内の既存の Tableau CRM リソース項目を更新する

`WaveCollectionItemListInputRepresentation` リソースを指定して、新しい `/wave/collections/collectionId/items` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

Tableau CRM リソース項目を既存のコレクションから削除する

新しい `/wave/collections/collectionId/items/collectionItemId` リソースに対して DELETE 要求を実行します。

ライセンスの種類でデータセットを取得する

新しい `licenseType` 要求パラメータを指定して、`/wave/dataset` リソースに対して GET 要求を実行します。

ライセンスの種類でレシピを取得する

新しい `licenseType` 要求パラメータを指定して、`/wave/recipes` リソースに対して GET 要求を実行します。

新規および変更された Tableau CRM REST API リクエストボディ

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

Abstract Bucket Algorithm Input (AbstractBucketAlgorithmInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `Type` — アルゴリズムの種別。有効な値は、`Typographic Clustering` です。

Bucket Setup Input (BucketSetupInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `algorithm` — バケット化アルゴリズム。

Compact Form Source Input (CompactFormSourceInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `filters` — コンパクトフォーム取得元列の検索条件。

DataConnectorInput (DataConnectorInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `connectorHandler` — 接続元コネクタのコネクタハンドラ。有効な値は、次のとおりです。
 - `Base`
 - `Legacy`

Dynamic Data Input (DynamicDataInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `richTextContext` — コレクションのリッチテキストコンテンツブロック。

Recipe Conversion Detail Input (RecipeConversionDetailInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `conversionDetailId` — 変換の詳細の ID。
- `message` — 変換の詳細のメッセージ。
- `nodeName` — 変換の詳細のレシピノードの名前。
- `severity` — 変換の詳細の重大度。有効な値は、`UserInfo` および `Warning` です。

Recipe Input (RecipeInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `conversionDetails` — 変換の詳細のコレクション。

Rich Text Content Block Input (RichTextContentBlockInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `attributes` — テキスト属性値の対応付け。
- `insert` — テキストコンテンツ。

Schema Field Input (SchemaFieldInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `errorType` — 出力するエラー値。

Sql Step Input (SqlStepInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `receiveFacetSource` — 受信ファセットの取得元の設定。

Time Series Input Confidence Interval High Low (TimeSeriesInputConfidenceIntervalHighLow)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `high` — 高信頼区間。
- `low` — 低信頼区間。

Time Series Parameters Input (TimeSeriesParametersInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `confidenceIntervalFields` — 信頼区間項目の対応付け。

Typographic Cluster Input (TypographicClusterInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `distanceThreshold` — 編集距離のしきい値。
- `ignoreCase` — ケースが無視されるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

Wave Collection Input (WaveCollectionInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `color` — コレクションの設定済みの色。
- `description` — コレクションの説明。
- `label` — コレクションの表示ラベル。
- `pins` — コレクションの固定のリスト。
- `shares` — コレクションに対して定義された共有ルール of リスト。
- `type` — コレクションの種別。有効な値は、`Static` です。

Wave Collection Item Input (WaveCollectionItemInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `assetType` — コレクションに追加する項目のアセットタイプ。有効な値は、`Dashboard` および `Lens` です。
- `id` — コレクションの ID。
- `itemId` — コレクションに追加する項目の ID。

Wave Collection Item List Input (WaveCollectionItemListInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `items` — コレクション内の項目のリスト。

Wave Collection Pin Input (WaveCollectionPinInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `pinnedFor` — コレクションの固定の対象であるユーザまたはグループの ID。
- `pinnedForType` — コレクションの固定の対象である種別。有効な値は、`Group`、`Role`、`User` です。
- `type` — 固定ルールが適用されるコレクション固定種別。有効な値は、`All`、`Desktop`、`Mobile` です。

新規および変更された Tableau CRM REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

Abstract Bucket Algorithm (AbstractBucketAlgorithmRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `Type` — アルゴリズムの種別。有効な値は、`Typographic Clustering` です。

Base Templated Asset Representation (BaseTemplatedAppRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `templateAssetSourceName` — アセットの作成元であるテンプレートの名前。
- `templateSourceId` — アセットの作成元であるテンプレートの ID。

Bucket Setup (BucketSetupRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `algorithm` — バケット化アルゴリズム。

Collection Pin (CollectionPinRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `id` — コレクション固定ルールの ID。
- `pinnedFor` — コレクションの固定の対象であるユーザまたはグループの ID。
- `type` — 固定ルールが適用されるコレクション固定種別。有効な値は、`All`、`Desktop`、`Mobile` です。

Compact Form Source (CompactFormSourceRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `filters` — コンパクトフォーム取得元列の検索条件。

Dataset (DatasetRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `currentVersionSupportsNewDates` — 現在のバージョンのデータセットが新しい日付形式をサポートしているか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `licenseAttributes` — データセットに関連付けられた Tableau CRM ライセンス属性。

DataConnector (DataConnectorRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `connectorHandler` — 接続元コネクタのコネクタハンドラ。有効な値は、次のとおりです。
 - `Base`
 - `Legacy`

DataConnectorType (DataConnectorTypeRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `supportedConnectorHandlers` — サポートされているコネクタハンドラのリスト。有効な値は、次のとおりです。
 - `Base`
 - `Legacy`

Dynamic Data (DynamicDataRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `richTextContext` — リッチテキストコンテンツブロックのコレクション。

Filter Parameters (FilterParametersRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `filterBooleanLogic` — 検索条件の Boolean ロジック。

Load Connected Dataset (LoadConnectedDatasetRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `filter` — プッシュダウン検索条件。

Recipe Collection (RecipeCollectionRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `nextPageUrl` — コレクションのコンテンツの次のページを取得する URL。
- `totalSize` — コレクションの要素の合計数。
- `url` — コレクションを取得する URL。

Recipe Conversion Detail (RecipeConversionDetailRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `conversionDetailId` — 変換の詳細の ID。
- `message` — 変換の詳細のメッセージ。
- `nodeName` — 変換の詳細のレシピノードの名前。
- `severity` — 変換の詳細の重大度。有効な値は、`UserInfo` および `Warning` です。

Recipe (RecipeRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `conversionDetails` — レシピ形式を R3 (データプレップ) に変換するときのアップコンバートの詳細のコレクション。

Rich Text Content Block (RichTextContentBlockRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `attributes` — テキスト属性値の対応付け。
- `insert` — テキストコンテンツ。

Schedule (ScheduleRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `assetId` — スケジュールが属しているアセット ID。

Schema Field (SchemaFieldRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `errorType` — 出力するエラー値。

Sql Step (SqlStepRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `receiveFacetSource` — 受信ファセットの取得元の設定。

Template (TemplateRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `createdBy` — テンプレートを作成したユーザ。
- `createdDate` — テンプレートの作成日時。
- `lastModifiedBy` — テンプレートを最後に更新したユーザ。
- `lastModifiedDate` — テンプレートの最終更新日時。

Time Series Output Confidence Interval High Low (TimeSeriesOutputConfidenceIntervalHighLow)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `high` — 高信頼区間。
- `low` — 低信頼区間。

Time Series Parameters (TimeSeriesParametersRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `confidenceIntervalFields` — 信頼区間項目の対応付け。

Typographic Cluster (TypographicClusterRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `distanceThreshold` — 編集距離のしきい値。
- `ignoreCase` — ケースが無視されるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

Wave Collection Item List (WaveCollectionItemListRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `collectionItems` — コレクション項目のリスト。
- `nextPageToken` — より多くのレコードがある場合の次のページトークン。
- `totalCount` — リスト内の項目の合計数。

Wave Collection Item (WaveCollectionItemRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `assetType` — コレクション項目のアセットタイプ。
- `collectionItemId` — コレクション項目とアセットタイプ間の関連付けの ID。
- `files` — コレクション項目のファイル。
- `folder` — コレクション項目のフォルダメタデータ。
- `visibility` — コレクション項目のアセット表示。

Wave Collection List (WaveCollectionListRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `collections` — コレクションのリスト。
- `nextPageToken` — より多くのレコードがある場合の次のページトークン。
- `totalCount` — リスト内のコレクションの合計数。

Wave Collection (WaveCollectionRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `collectionType` — コレクションの種別。
- `color` — コレクションの設定済みの色。
- `isPinned` — 現在のユーザのコレクションが固定されているか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `itemList` — コレクション内の項目のリスト。
- `itemsUrl` — コレクション内の項目への URL。
- `pins` — コレクションの固定のリスト。
- `shares` — コレクションに対して定義された共有ルールのリスト。

Wave Features (WaveFeaturesRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `canManageTemplatesInStudio` — Tableau CRM Analytics Studio を介したテンプレート管理が現在のユーザで有効になっているか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `orgHasRecipeDirectData` — 現在のユーザがデータにレシピから直接アクセスできるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `userHasInsightsAdmin` — 現在のユーザが Tableau CRM システム管理者か (`true`)、否か (`false`) を示します。

ユーザインターフェース API

レコードレイアウトの保存オプションを取得します。

レコードレイアウトの保存オプションを取得する

Record Layout レスポンスボディの新しい `saveOptions` プロパティは、レコードレイアウトの保存オプションのリストを返します。保存オプションでは、特定のレイアウトを使用してオブジェクトが作成または変更されたときに実行する動作を定義します。

Case や **CaseComment** が作成または更新されたときにメール通知を送信する

`/ui-api/records` や `/ui-api/records/{recordId}` を介してレコードを作成または更新するときに新しい `triggerOtherEmail` および `triggerUserEmail` 要求パラメータを使用します。

`triggerOtherEmail` を使用して、組織外のユーザにメールを送信するかどうかを指定します。Salesforce ユーザインターフェースで、このメールは、ケースの取引先責任者の作成、編集、削除によってトリガされます。

`triggerUserEmail` を使用して、組織のユーザにメールを送信するかどうかを指定します。Salesforce ユーザインターフェースで、このメールはパスワードのリセット、ユーザの作成、ケースへのコメントの追加によってトリガされます。

Account、**Case**、または **Lead** を作成または更新する場合に割り当てルールを指定する

`/ui-api/records` や `/ui-api/records/{recordId}` を介してレコードを作成または更新するときに新しい `useDefaultRule` 要求パラメータを使用します。

Case または Lead の場合、デフォルト (`active`) の割り当てルールを使用するかどうかを指定します。Account の場合、Account の更新時にすべてのテリトリ割り当てルールを適用するかどうかを指定します。

Bulk API 2.0

Bulk API 2.0 ドキュメントが刷新されました! 両方の Bulk API 開発者ガイドが統合され、ガイドを使用しやすくなりました。

Bulk API 2.0 と Bulk API ドキュメントの統合

『Bulk API 2.0 開発者ガイド』と『Bulk API 開発者ガイド』が『Bulk API 2.0 および Bulk API 開発者ガイド』という1つのガイドに統合されました。統合に加え、主要な機能強化として2つのAPIの比較、統合されたLimitsセクション、ナビゲーションの簡略化などが行われています。

対象: 新しい統合されたガイドは『Bulk API 2.0 および Bulk API 開発者ガイド』です。

以前のバージョンの Bulk API 2.0 ドキュメントを見つけるには、「Bulk API 2.0 以前のドキュメント」を参照してください。

クライアント項目がイベントモニタリングのためのクライアント ID 文字列を返す

Sforce-Call-Options 要求ヘッダーの client 項目値を使用します (例: API をコールするクライアントをイベントログファイルで追跡する場合など)。

方法: Sforce-Call-Options 要求ヘッダーの使用方法についての詳細は、以下を参照してください。

- [Bulk API 2.0: Sforce Call Options ヘッダー](#)

Warning ヘッダー

非推奨バージョンの API を使用している場合など、新しい警告を見つけるには新しい Warning ヘッダーを使用します。

方法: アクションを実行する必要があるかどうかをこのヘッダーで確認します。詳細は、以下を参照してください。

- [Bulk API 2.0: Warnings ヘッダー](#)

 **メモ:** 現時点では、このヘッダーを含む応答 (警告) がない可能性があります。

ヘッダーの例:

```
Warning: 299 - "This API is deprecated and will be removed by Summer '22. Please see https://help.salesforce.com/articleView?id=000351312 for details."
```

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

Tooling API では、オブジェクトおよび項目が新規追加および変更されました。

カスタマイズ

項目のコンプライアンス分類に基づいてユーザによる項目の表示を制御する新しい FieldRestrictionRule オブジェクトを使用します。

セールス

売上予測種別を作成および管理するためのより多くのオプションを取得する

新しい `ForecastingSourceDefinition`、`ForecastingType`、および `ForecastingTypeSource` オブジェクトを使用します。

売上予測ページのオブジェクトの詳細リストに表示するオブジェクト種別と項目のデータ型を制御する

新しい `ForecastingTypeObjectListSettings`、`ForecastingObjectListLabelMapping`、`ForecastingObjectListSelectedSettings`、`ForecastingObjectListSettings`、および `ForecastingObjectListUnselectedSettings` オブジェクトを使用します。

指定された機能に対して含めるか、除外する IP アドレスの範囲を指定する

新しい `IPAddressRange` オブジェクトを使用します。

セキュリティと ID

着信ネットワーク接続に関連付けられるアクセス元 IP アドレス範囲を表示する

`InboundNetworkConnProperty` オブジェクトで `PropertyName` 項目の `SourceIpRanges` 値を使用します。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

Salesforce 全体

対象プロンプトを使用したページの特定の要素の参照 (ベータ)

複数のプロンプト種別から選択するには、`Prompt` メタデータ型の `PromptVersion` サブタイプで新しい `displayType` 項目を使用します。

対象プロンプトをページ要素に配置して関連付ける (ベータ)

対象プロンプトを配置する場所を決定するには、`Prompt` メタデータ型の `PromptVersion` サブタイプで新しい `elementRelativePosition` 項目と `referenceElementContext` 項目を使用します。

Analytics

Analytics の新機能を有効にする

`AnalyticsSettings` メタデータ型で新しい項目を使用して、次の機能を有効にします。

- `enableSqlDataset` 項目を使用して、Tableau CRM SQL データセットの使用を有効にします。
- `enableWaveIndexMVDimV2` 項目を使用して、Tableau CRM の複数値ディメンションをインデックス付ける機能を有効にします。

廃止: `AnalyticsSettings` メタデータ型の `enableReportCrtAutoAddPref` 項目を廃止

この項目は API バージョン 52.0 では非推奨です。

コマース

フローで B2B Commerce のプロモーション機能を使用してカート内のプロモーションに価格を設定する

`Flow` メタデータ型の `FlowActionCall` サブタイプで `actionType` 項目から新しいチェックアウトフローのアクションを使用します。

- `calcCartPromotionsAction` を使用してカートのプロモーションに価格を設定します。

ストアの検索結果に商品のバリエーションを表示する方法を決定します。

WebStoreTemplate メタデータ型で新しい `productGrouping` 項目を使用します。

ストアの有効なチェックアウト期間とチェックアウト有効期限を設定します。

WebStoreTemplate メタデータ型で新しい `checkoutTimeToLive` 項目と `checkoutValidAfterDate` 項目を使用します。

フローで ReturnOrders と ReturnOrderLineItems を作成する

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで `actionType` 項目から Order Management (注文管理) の新しい `createReturnOrder` アクションを使用します。

フローで ReturnOrderLineItems を処理する

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで `actionType` 項目から注文管理の新しい `returnReturnOrderItems` アクションを使用します。

カスタマイズ

大規模コミュニティまたはサイトユーザが所有するレコードをゲストユーザ共有ルールに含めるかどうかを示す

SharingGuestRule メタデータ型で新しい `includeHVUOwnedRecords` 項目を使用します。

項目のコンプライアンス分類に基づいてユーザによる項目の表示を制御する

新しい FieldRestrictionRule メタデータ型を使用します。

データ処理エンジン

データ処理エンジン定義でレコードの階層パスを取得する

BatchCalcJobDefinition メタデータ型の BatchCalcJobHierarchyPath メタデータサブタイプを使用します。

相対計算変換を定義してレコードをパーティション分割し、各パーティション内でレコードを並び替える

BatchCalcJobDefinition メタデータ型の BatchCalcJobTransform メタデータサブタイプで `partitionBy` 項目と `orderBy` 項目を使用します。

Einstein

ドラフト AI アプリケーションを作成する

AIApplication 型の `status` 項目で `Draft` 値を使用します。

Einstein 自動化

セクションと列を使用して項目を整理することでフロー画面のレイアウトを改善する (正式リリース)

Flow メタデータ型の FlowScreenField サブタイプで次の項目と値を使用します。

- 画面項目がセクションであることを指定するには、`fieldType` 項目の `RegionContainer` 値を使用します。
- セクション内の画面項目が列であることを指定するには、`fieldType` 項目の `Region` 値を使用します。
- 列をセクションに追加するか、画面項目を列に追加するには、`fields` 項目を使用します。

詳細は、Salesforce リリースノートの「[Flow Builder での複数列画面の作成 \(正式リリース\)](#)」を参照してください。

フローの実行をトリガするか、現在のトランザクションでレコードの項目値が変更された場合は結果を実行する

Flow メタデータ型の既存の FlowCondition メタデータサブタイプの FlowComparisonOperator 列挙で新しい isChanged 演算子を使用します。Flow Builder で isChanged 演算子は右側に Boolean の true/false 値を使用します。

動作の変更: Flow メタデータ型の FlowScreenField サブタイプで defaultValue 項目を選択肢リソースに使用可能

FlowScreenField サブタイプの fieldType 項目値が RadioButtons、DropDownBox、MultiSelectCheckboxes、または MultiSelectPicklist の場合、defaultValue 項目がサポートされるようになりました。詳細は、Salesforce リリースノートの「[フローの画面コンポーネントのデフォルト値を選択肢リソースに使用](#)」を参照してください。

コレクション内のデータの並び替えと制限

Flow メタデータ型で新しい collectionProcessors 項目を使用します。

詳細は、Salesforce リリースノートの「[コレクション内のデータの並び替えと制限](#)」を参照してください。

Experience Cloud

カラーパレットを LWR サイトのセクションに割り当てる

ExperienceBundle 型の views フォルダの view_name.json ファイルで新しい scopedBrandingSetID プロパティを使用します。このプロパティは community_layout:section コンポーネントに固有のプロパティです。

カラーパレットを LWR サイトおよびサイトセクションに適用する

ExperienceBundle 型の brandingSets フォルダの brandingSets_name.json ファイルで新しい brandingSetType プロパティを使用します。ブランドセットに保存されたカラーパレットはサイト全体またはサイトの特定のセクションに適用できます。

フィールドサービス

作業指示または作業指示品目の作業計画と作業手順を自動的に生成する

FieldServiceSettings メタデータ型で新しい enableWorkPlansAutoGeneration 項目を使用します。

カスタム項目をテンプレートから作業計画と作業手順に対応付ける

FieldServiceSettings メタデータ型で新しい objectMappingItem 項目を使用します。

Functions (ベータ)

組織で使用可能な Salesforce Functions を把握する

新しい FunctionReference メタデータ型を使用して組織が接続されている Functions を調査します。

インテリジェントフォームリーダー

ドキュメント種別を使用してフォームから情報を抽出して対応付ける

新しい OcrSampleDocument メタデータ型を使用します。

インテリジェントフォームリーダーを使用してフォームと Salesforce オブジェクトを対応付ける
新しい `OcrTemplate` メタデータ型を使用します。

セールス

売上予測種別を作成および管理するためのより多くのオプションを取得する

新しい `ForecastingSourceDefinition`、`ForecastingType`、および `ForecastingTypeSource` メタデータ型を使用します。

売上予測ページのオブジェクトの詳細リストに表示するオブジェクト種別と項目のデータ型を制御する

新しい `ForecastingTypeObjectListSettings`、`ForecastingObjectListLabelMapping`、`ForecastingObjectListSelectedSettings`、`ForecastingObjectListSettings`、および `ForecastingObjectListUnselectedSettings` メタデータ型を使用します。

パイプライン検査を有効にして営業チームに総計値、商談、最新の変更を含む統合パイプラインビューを提供する

`OpportunitySettings` メタデータ型で新しい `enablePipelineInspection` 項目と `enableExpandedPipelineInspectionSetup` 項目を使用します。

組織の IP アドレス範囲のリリースと取得を行う

新しい `ipAddressRange` メタデータ型を使用します。

セキュリティと ID

システム管理サイトの URL をカスタムドメインにリダイレクトする

`CustomSite` メタデータ型で新しい `redirectToCustomDomain` 項目を使用します。

サイトの Visualforce ページをキャッシュする方法を選択する

`CustomSite` メタデータ型で新しい `cachePublicVisualforcePagesInProxyServers` 項目を使用します。

廃止: `SiteSettings` メタデータ型の `enableVisualforceApiAccessAllowed` 項目を廃止

この項目は API バージョン 52.0 では非推奨です。

サーバ側コールバック中に OAuth 応答の `state` パラメータで提供された不明な URL へのリダイレクトをブロックする

`CommunitiesSettings` メタデータ型で `blockEmbeddedLoginUnknownURLRedirect` 項目を使用します。

外部アプリケーションでカスタマーデータプラットフォーム (CDP) の取り込み API サービスにアクセスできるようにする

`ConnectedApp` メタデータ型の `ConnectedAppOauthConfig` メタデータサブタイプで `scopes` 項目の `CDPIngest` 値を使用します。

期限が切れたブラウザタブをカスタムログアウト URL にリダイレクトする

`SecuritySettings` メタデータ型の `SessionSettings` メタデータサブタイプで `useLocalStorageForLogoutUrl` 項目を使用します。

着信ネットワーク接続に関連付けられるアクセス元 IP アドレス範囲を表示する

`InboundNetworkConnection` メタデータ型の `InboundNetworkConnProperty` メタデータサブタイプで `propertyName` 項目の `SourceIpRanges` 値を使用します。

削除: `CustomSite` メタデータ型の `cspUpgradeInsecureRequests` 項目と `requireHttps` 項目を削除

これらの項目は API バージョン 52.0 以降では削除されています。API バージョン 51.0 以前では、この項目の値は無視されます。

サービス

ワークフォースエンゲージメント製品を有効化して、機械学習ベースの売上予測を使用するように選択する新しい `WorkforceEngagementSettings` メタデータ型を使用します。

サービス設定アシスタントを有効化する

新しい `ServiceSetupAssistantSettings` メタデータ型を使用します。

Einstein 分類アプリケーション、**Einstein ケース分類**と **Einstein ケースラップアップ**を有効にする

新しい `EinsteinAgentSettings` メタデータ型を `CaseClassificationSettings` メタデータ型の代わりに使用します。

Service Cloud Voice 機能を有効にする

`ServiceCloudVoiceSettings` メタデータ型を使用します。

オムニチャネルのスキルベースのルーティング用の呼び出し可能なアクションを作成する

`Flow` メタデータ型の `FlowActionCall` メタデータサブタイプで `actionType` 項目の新しい `skillsBasedRouting` 値を使用します。

Field Service の作業プラン用の呼び出し可能なアクションを作成する

`Flow` メタデータ型の `FlowActionCall` メタデータサブタイプで `actionType` 項目の新しい `addWorkPlans`、`addWorkSteps`、`deleteWorkPlans`、および `generateWorkPlans` 値を使用します。

一元化された情報源

計算済みインサイトに関する定義を取得する

新しい `MktCalcInsightObjectDef` メタデータ型を使用します。

Einstein

Einstein リードスコアリングにはガイド付き設定フローがあり、より正確な結果が得られるようにリードの区分をスコア付けするオプションが用意されています。パーソナライズ、自然言語検索、アクション可能なインスタント結果を含む Einstein Search のすべての機能が正式リリースされ、無料で使用できます。Einstein ケースラップアップを含む Einstein 分類ツールが拡張および機能強化され、正式リリースされました。Salesforce Einstein で提供されるすべての機能を使用すれば、作業の生産性を高め、より正確でパーソナライズされた結果を得ることができます。

Salesforce 全体

Einstein Search (正式リリース)

AI を搭載したスマートな検索をユーザに提供します。Einstein Search のすべての機能が正式リリースされ、無料で使用できます。パーソナライズによって、ユーザの活動に基づく関連性の高い検索結果が返されます。自然言語検索 (NLS) を使用すると、ユーザは一般的な単語や語句をクエリに入力して検索結果を絞り込むことができます。そして、アクション可能な UI によって、ユーザは検索ボックスから直接、ケースの登録や取引先責任者の作成といった操作を実行できます。

Analytics

Einstein Discovery

レポート用 Einstein Discovery (旧称 Einstein データインサイト) を使用すると、レポート実行間でデータ分析の何が変更されたかを確認できます。モデルカードを使用して予測の透過性を高め、予測に関する重要な利用状況情報を文書化したり、伝えたりすることができます。あいまい一致によるカテゴリのバケット化と欠損値の代入を可能にする強化された機能エンジニアリングを使用して、より優れたモデルを作成できます。

カスタマイズ

Einstein レコメンデーションビルダー

Einstein レコメンデーションビルダーを使用して、より迅速かつスマートにおすすみを構築できます。カスタムのおすすみを構築することも、テンプレートを使用することもできます。[部品-to-作業指示]テンプレートを使用して、フィールドサービスのおすすみをすばやく構築できます。

開発

Einstein Vision および Language

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Vision API と Einstein Language API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

Einstein 自動化

Einstein ボット

入力のおすすめ、言語ベースのインテントセット、3つの新しいベータ言語による言語機能拡張により、顧客が日常的に使用する言語でボットがより多くの顧客にリーチできるようにします。ベータになった記事の回答では、ナレッジ記事を異なる顧客グループに提供するためのナレッジデータカテゴリを作成できます。インテント管理一括アクションを使用すると、発言を簡単に移動させることができます。

Industries

インテリジェントフォームリーダー

インテリジェントフォームリーダーを使用すると、ユーザは、スキャンされてアップロードされたファイルから項目データをコピーできます。まず、一般的なドキュメント種別の対応付けテンプレートを設定します。次に、インテリジェントフォームリーダーを使用して、アップロードされたファイルの重要なデータを認識し、コピーすることで、ドキュメント駆動型のビジネスプロセスを高速化します。

セールス

Sales Cloud Einstein

より正確なスコアを得るためにさまざまな種別のリードを個別にスコアリングし、ガイド付き設定を使用して Einstein リードスコアリングをより簡単に設定します。

サービス

Einstein for Service

Salesforce では、Einstein で管理者やエージェントの生産性を高められ方法を常に模索しています。正式リリースされた Einstein ケースラップアップは、エージェントが顧客とのチャットを終了したときにケース項目を予測します。また、エージェントが使用するために新しい返信や更新済みの返信を公開できるように、Einstein 返信レコメンデーションで返信テンプレートが更新されたときに通知されます。

Einstein 自動化

Salesforce フロー、Einstein ボット、OmniStudio、Flow Orchestrator (パイロット) を使用してインテリジェントなワークフローを作成します。Salesforce 用 Mulesoft コンポーザを使用して任意のシステムにわたって統合します。Einstein レコメンデーションビルダーと Einstein Next Best Action を使用して、パーソナライズされたおすす​​めを作成して提供します。

このセクションの内容:

Salesforce 用 Mulesoft コンポーザ

Salesforce 用 MuleSoft コンポーザ (コンポーザ) を使用すると、Salesforce 内からコードではなくクリックでデータのプロセスの自動化を容易に作成できます。さまざまなシステムに保存された情報を接続する安全なプロセスを作成する場合、顧客とビジネスのリアルタイムの統合ビューを作成します。

OmniStudio

OmniStudio で提供される一連のサービス、コンポーネント、データモデルオブジェクトを組み合わせ、IndustryCloud アプリケーションを作成します。Salesforce および外部ソースのデータを使用して、ガイド付きインタラクションを作成します。

Einstein レコメンデーションビルダー

Einstein は過去のデータから学習し、パーソナライズされた AI 駆動のおすす​​めを顧客に提供できるようにします。[部品-to-作業指示] テンプレートを使用するとフィールドサービスのおすす​​めをより迅速に作成できます。

Salesforce フロー

複数列レイアウト、レコード項目、選択リストとその他の選択肢コンポーネントの機能強化によって、リッチなフロー画面を迅速に作成できます。レコードトリガフローでデバッグが可能になりました。また、トリガレコードの指定した項目が変更されたかどうかに基づく条件と ISCHANGED、ISNEW、PRIORVALUE 数式関数がサポートされるようになりました。MuleSoft Anypoint Platform API によって、外部サービスを使用したフローの呼び出し可能アクションをすばやく生成できます (パイロット)。

Einstein ボット

入力のおすす​​め、言語ベースのintentセット、3つの新しいベータ言語による言語機能拡張により、顧客が日常的に使用する言語でボットがより多くの顧客にリーチできるようにします。ベータになった記事の回答では、ナレッジ記事を異なる顧客グループに提供するためのナレッジデータカテゴリを作成できます。intent管理一括アクションを使用すると、発言を簡単に移動させることができます。

Salesforce 用 Mulesoft コンポーザ

Salesforce 用 MuleSoft コンポーザ (コンポーザ) を使用すると、Salesforce 内からコードではなくクリックでデータのプロセスの自動化を容易に作成できます。さまざまなシステムに保存された情報を接続する安全なプロセスを作成する場合、顧客とビジネスのリアルタイムの統合ビューを作成します。

対象: Salesforce 用 Mulesoft コンポーザは、Lightning Experience が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料で使用できます。

コンポーザのリリースノートとヘルプは、[「Salesforce 用 Mulesoft コンポーザ」](#)を参照してください。

OmniStudio

OmniStudio で提供される一連のサービス、コンポーネント、データモデルオブジェクトを組み合わせて、Industry Cloud アプリケーションを作成します。Salesforce および外部ソースのデータを使用して、ガイド付きインタラクションを作成します。

対象: OmniStudio は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料で使用でき、Lightning Experience、Experience Builder サイト、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションで機能します。

OmniStudio FlexCard

条件に基づいてスタイルを要素に適用します。FlexCard を Salesforce プラットフォーム外で実行します。選択可能な項目を FlexCard に作成し、データ JSON との間でオブジェクトの追加と削除を行います。データ JSON とアクションデバッグを使用してプレビューで FlexCard をデバッグします。子の FlexCard を自身に再帰的に追加します。FlexCard に SDK からのデータを提供します。

OmniScripts

OmniScript を再起動し、OmniScript を Adobe Experience Manager にリリースします。

OmniStudio データパックおよび IDX ワークベンチ

古いデータパックを OmniStudio にインポートします。

OmniStudio リリースノートおよびドキュメントについては、[「OmniStudio Foundation \(OmniStudio の基礎\)」](#)を参照してください。OmniStudio の価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

Einstein レコメンデーションビルダー

Einstein は過去のデータから学習し、パーソナライズされた AI 駆動ののおすすめを顧客に提供できるようにします。[部品-to-作業指示]テンプレートを使用するとフィールドサービスのおすすめをより迅速に作成できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Einstein レコメンデーションビルダー](#)

Salesforce フロー

複数列レイアウト、レコード項目、選択リストとその他の選択肢コンポーネントの機能強化によって、リッチなフロー画面を迅速に作成できます。レコードトリガフローでデバッグが可能になりました。また、トリガレコードの指定した項目が変更されたかどうかに基づく条件と ISCHANGED、ISNEW、PRIORVALUE 数式関数がサポートされるようになりました。MuleSoft Anypoint Platform API によって、外部サービスを使用したフローの呼び出し可能アクションをすばやく生成できます (パイロット)。

このセクションの内容:

Flow Builder

複数列画面を作成することによって、より多くの画面スペースを利用できます。レコードトリガフローでは、レコードの以前の値や、トリガレコードが新規作成または変更されたかどうかに基づいてロジックを実行できます。選択肢が表示される画面コンポーネントでデフォルト値、選択リストの必須設定、コンポーネントの種類を切り替えるオプションがサポートされるようになりました。画面にレコード項目を簡単に追加できます。

フローのデバッグ

Flow Builder でレコードトリガフローをデバッグします。特定の時間に再開するように設定された一時停止要素のある自動起動フローをデバッグします。新しいリストビューや改善されたエラーメールから失敗したフローインタビューをデバッグします。デバッグの詳細を展開して、トランザクションがコミットされたかロールバックされたかを確認します。

フローおよびプロセスの管理

画面フローインタビューログエントリは 1 時間あたり 75,000 件に制限されています。フロー要求のアクセスできない項目を絞り込むプロセス自動化設定は、API バージョン 51.0 以前で実行されるフローにのみ適用されます。[時間ベースのワークフロー] ページにフローのスケジュール済みパスとプロセスのスケジュール済みアクションに関連するオブジェクトが表示されるようになりました。

フロー拡張

MuleSoft Anypoint Platform API で外部サービスを使用してフローの呼び出し可能なアクションをすばやく生成します (パイロット)。

フローおよびプロセスのリリース更新

Flow Builder で差し込み項目を使用して関連レコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。フローおよびプロセスによる CPU 時間消費が正確に測定され、適用されるようになりました。一時停止中のインタビューを、一時停止前と同じコンテキストと同じユーザアクセス権で再開します。プロセスでレコード項目の元の値を評価できるようになります。

API バージョン 52.0 でのフローおよびプロセス実行時の改善

この更新は、API バージョン 52.0 以降で実行されるように設定されているフローとプロセスにのみ影響します。バージョン管理された更新では、都合に合わせてフローおよびプロセスごとに実行時の動作の変更をテストおよび採用できます。フローの実行時 API バージョンを変更するには、Flow Builder でフローを開いて、フローバージョンのプロパティを編集します。プロセスの実行時 API バージョンを変更するには、プロセスビルダーでプロセスを開いて、そのプロパティを編集します。

Flow Builder

複数列画面を作成することによって、より多くの画面スペースを利用できます。レコードトリガフローでは、レコードの以前の値や、トリガレコードが新規作成または変更されたかどうかに基づいてロジックを実行できます。選択肢が表示される画面コンポーネントでデフォルト値、選択リストの必須設定、コンポーネントの種類を切り替えるオプションがサポートされるようになりました。画面にレコード項目を簡単に追加できます。

このセクションの内容:

Flow Builder での複数列画面の作成 (正式リリース)

各フロー画面を複数のセクションと列に分割し、視覚的な魅力がある効果的なレイアウトを作成できます。コードは 1 行も書きません。複数列画面レイアウトは反応型のため、携帯電話では列が画面に合わせて垂直に積み上げられます。正式リリースとなったこの機能には、ベータリリース以降の変更が含まれます。Einstein Next Best Action コンポーネントおよびアクション & おすすめコンポーネントから開始されたフローでセクションコンポーネントがサポートされるようになりました。セクション内のコンポーネントの表示ラベルがトランスレーションワークベンチでサポートされるようになりました。

開始要素と決定要素の条件ロジックでの [変更済み] の使用

レコードトリガフローの開始要素と決定要素の条件ロジックで新しい [変更済み] 演算子を使用できます。[変更済み] 演算子を使用すると、現在のトランザクションでレコードの特定の項目値が変更されたかどうかを確認する条件を定義できます。

レコードトリガフロー数式での ISCHANGED、ISNEW、PRIORVALUE の使用

新規レコードおよび更新されたレコードのレコードトリガフローで、ISCHANGED、ISNEW、PRIORVALUE 数式関数がサポートされるようになりました。これらの関数を含むプロセスビルダーまたはワークフロールールの数式をレコードトリガフローにコピーできます。これらのいずれの数式関数もレコードが削除されたときにトリガされるフローでは使用できません。

選択肢を表示する任意の画面コンポーネントのデフォルト値の設定

選択肢コンポーネントのデフォルト値を設定する必要がある場合、コンポーネントで選択リスト選択肢セットまたはレコード選択肢セットを使用するときの制限事項や複雑な回避策が不要になりました。任意のフローリソースを使用してデフォルト値を設定できるようになりました。レコードクエリ、アクション、または別のコンポーネントを使用できます。または、選択リスト選択肢セットを使用するとき特定の選択リスト値を手動で選択できます。以前は、デフォルト値に選択できるのは選択肢リソースのみでした。

選択リストの必須設定の正確な制御

すべての選択リストコンポーネントについて、画面フローで選択リストを必須にできるようになりました。API バージョン 52.0 以降では、画面フローで省略可能な選択リストも設定できます。

フロー画面作成中の選択肢コンポーネントの切り替え

フロー画面で最初に 1 つの選択肢コンポーネント (ラジオボタンなど) を使用し、その後初めからやり直さずに別の選択肢リスト (選択リストなど) に簡単に変更できるようになりました。新しい [ユーザが複数のオプションを選択できるようにする] 項目と [コンポーネントの種類] 項目を使用してこの変更を行います。

コレクション内のデータの並び替えと制限

コレクション並び替え要素を使用して、収集されたデータに優先順位を付けたり制限したりできるようになりました。また、並び替え後のコレクション変数内の残りの項目を制限することもできます。たとえば、ユーザが選択した商品のコレクションを好みや価格で並び替えることができます。また、レコードコレクション変数を優先度が上位 100 件の取引先まで減らし、そのコレクション変数が大きなループで処理されるときにフローの要素制限に達しないようにすることもできます。以前は値を並び替えることは不可能でした。また、大きなコレクションをループ処理するとき、コレクション変数の大きな値や小さな値を分けたり、フローの制限に達しないようにしたりすることは困難でした。

プレビュー可能なフロー画面コンポーネントの増加

Flow Builder で画面を作成しているときにキャンバス上でより多くの標準コンポーネントをプレビューできるようになりました。設定がコンポーネントにどのように影響するかをすぐに把握できます。選択したコンポーネントが適切なものかどうかを簡単に判断できます。以前は Flow Builder で使用可能な標準画面コンポーネントの半分以上では、キャンバス上でプレビューではなくプレースホルダが使用されていました。

レコードトリガフローでの項目の直接更新

レコードトリガフローのレコード更新要素で新しいオプションを使用すると、フローをトリガしたレコードを直接更新できます。以前は決定要素を使用してトリガレコードの検索条件を設定していましたが、レコード更新要素を使用できるようになりました。レコード更新要素では更新できる項目のみが表示され、新しいオプションはすべてのレコードトリガフローとスケジュールトリガフローで使用できます。これらの変更によって、レコードが保存される前と後に実行されるレコードトリガフローを簡単に切り替えることができます。既存の保存前レコードトリガフローで割り当て要素を使用してフローをトリガしたレコードの値を設定している場合はこの変更の影響を受けません。

Salesforce フローのアクセシビリティ機能の強化

フロー画面エクスペリエンスのフォーカスの管理が改善されました。現在のフロー画面にエラーがある場合には、フォーカスはエラーがある最初の項目に設定されます。現在のフロー画面にエラーがない場合には、[前へ]または[次へ]を使用すると適切な画面が表示され、フォーカスはその画面の最初のフォーカス可能な項目に設定されます。さらに、スクリーンリーダーがより多くのコンポーネントに関連付けられた表示ラベルを読めるようになりました。対象となるコンポーネントには、通貨、複数選択リスト、名前、数値、選択リスト、ラジオボタン、URL が含まれます。

フロー画面の条件付き表示を一目で確認

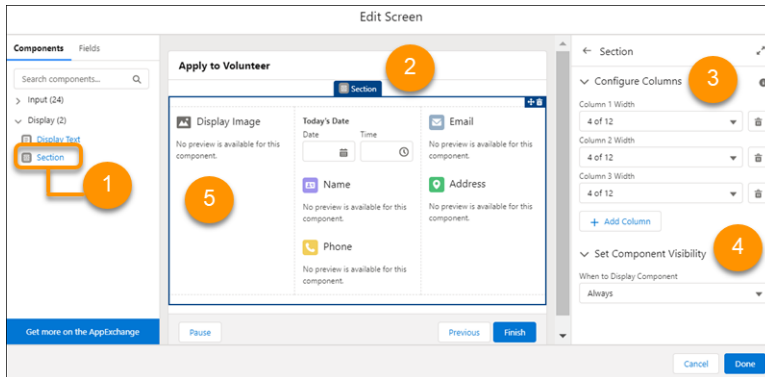
条件付き表示が見やすくなりました。Flow Builder では、条件付き表示ルールが設定されているコンポーネントと項目の横に表示アイコンが表示されるようになりました。また、1つ以上の条件付き表示ルールが設定されているコンポーネントまたは項目を選択すると、[コンポーネントの表示を設定] セクションまたは [項目の表示を設定] セクションが自動的に展開されます。

Flow Builder での複数列画面の作成 (正式リリース)

各フロー画面を複数のセクションと列に分割し、視覚的な魅力がある効果的なレイアウトを作成できます。コードは1行も書きません。複数列画面レイアウトは反応型のため、携帯電話では列が画面に合わせて垂直に積み上げられます。正式リリースとなったこの機能には、ベータリリース以降の変更が含まれます。Einstein Next Best Action コンポーネントおよびアクション & おすすめコンポーネントから開始されたフローでセクションコンポーネントがサポートされるようになりました。セクション内のコンポーネントの表示ラベルがトランスレーションワークベンチでサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。複数列画面はフローの Lightning ランタイムでのみサポートされます。

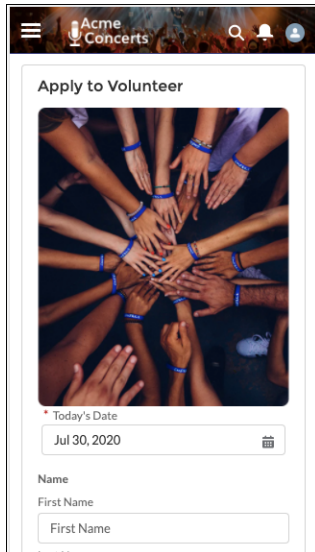
方法: Flow Builder では、セクションコンポーネントを使用して画面コンポーネントを複数の列に容易に配置できます。次のサンプル画面では、セクションに同じ幅の3つの列が含まれます。



Flow Builder で画面を編集するときに、セクションコンポーネント (1) を画面キャンバス (2) にドラッグします。セクションコンポーネントの属性で、列を追加してその幅を設定します (3)。セクションを常に表示しない場合は、そのコンポーネントの表示を変更します (4)。次に、他の画面コンポーネントを画面キャンバスの列 (5) にドラッグします。

実行時に、前の例の画面は次のように表示されます。

携帯電話では同じ画面が次のように表示されます。



関連トピック:

[メタデータ API](#)

開始要素と決定要素の条件ロジックでの「変更済み」の使用

レコードトリガフローの開始要素と決定要素の条件ロジックで新しい「変更済み」演算子を使用できます。「変更済み」演算子を使用すると、現在のトランザクションでレコードの特定の項目値が変更されたかどうかを確認する条件を定義できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 開始要素では、「変更済み」演算子はレコードが更新されたときにトリガされるフローに使用できます。レコードが作成または削除されたときにトリガされるフローでは「変更済み」演算子を使用できません。開始要素を編集してトリガを設定するときに、フローをトリガする条件として「レコードが更新された」または「レコードが作成または更新された」オプションを選択し、フローを実行するタイミングとして「レコードが保存された後」オプションを選択します。オブジェクトの条件を設定する場合は、選択したオブジェクトの項目と共に「変更済み」演算子を使用します。「変更済み」演算子を使用した条件を True にすると、項目値が変更された場合にフローの実行がトリガされます。条件を False にすると、項目値が変更されなかった場合にフローの実行がトリガされます。

メモ: 開始要素では、条件で「変更済み」演算子を選択すると、更新されたレコードでフローを実行するタイミングを変更することはできません。

決定要素では、「変更済み」演算子を \$Record グローバル変数の項目値と共に使用します。\$Record グローバル変数にはトリガレコードが含まれています。「変更済み」演算子を使用した条件を True にすると、項目値が変更された場合に結果が実行されます。条件を False にすると、項目値が変更されなかった場合に結果が実行されます。

- 📌 **メモ:** 決定要素では、条件で [変更済み] 演算子を選択すると、更結果を実行するタイミングを変更することはできません。

関連トピック:

[Salesforce Winter '21 リリースノート: 特定のレコードが変更された場合にのみフローパスを使用](#)

レコードトリガフロー数式での ISCHANGED、ISNEW、PRIORVALUE の使用

新規レコードおよび更新されたレコードのレコードトリガフローで、ISCHANGED、ISNEW、PRIORVALUE 数式関数がサポートされるようになりました。これらの関数を含むプロセスビルダーまたはワークフロールールの数式をレコードトリガフローにコピーできます。これらのいずれの数式関数もレコードが削除されたときにトリガされるフローでは使用できません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

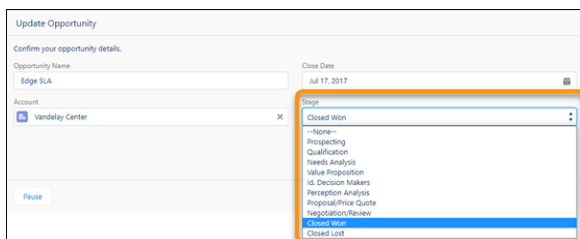
方法: ISCHANGED と PRIORVALUE を含む数式をレコードトリガフローにコピーするときには、オブジェクトの代わりに \$Record グローバル変数を使用します。たとえば、レコードトリガフローの数式で ISCHANGED(account.x) を使用するには、ISCHANGED(\$Record.x) に変更します。ISNEW にはパラメータがないため、変更は必要ありません。

選択肢を表示する任意の画面コンポーネントのデフォルト値の設定

選択肢コンポーネントのデフォルト値を設定する必要がある場合、コンポーネントで選択リスト選択肢セットまたはレコード選択肢セットを使用するときの制限事項や複雑な回避策が不要になりました。任意のフローリソースを使用してデフォルト値を設定できるようになりました。レコードクエリ、アクション、または別のコンポーネントを使用できます。または、選択リスト選択肢セットを使用するとき特定の選択リスト値を手動で選択できます。以前は、デフォルト値に選択できるのは選択肢リソースのみでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: ユーザに商談の詳細を更新することを依頼しやすくする画面フローを使用するとします。ユーザが商談のフェーズを設定するときに、[フェーズ] 選択リストで商談レコードの現在のフェーズが事前に選択されるようにします。この画面に表示された [フェーズ] 選択リストでは、[商談成立] が事前に選択されています。



実行時に、選択肢の値がコンポーネントのデフォルト値と一致すると、その選択肢が事前選択されます。デフォルト値がフローの参照である場合は、照合の前にその参照が解決されます。フローを保存して実行すると、選択肢に表示されるリストでデフォルト値が事前選択されます。

ユーザが1つのオプションを選択する選択肢コンポーネント (選択リストとラジオボタン) では、最初に一致した選択肢が事前選択されます。

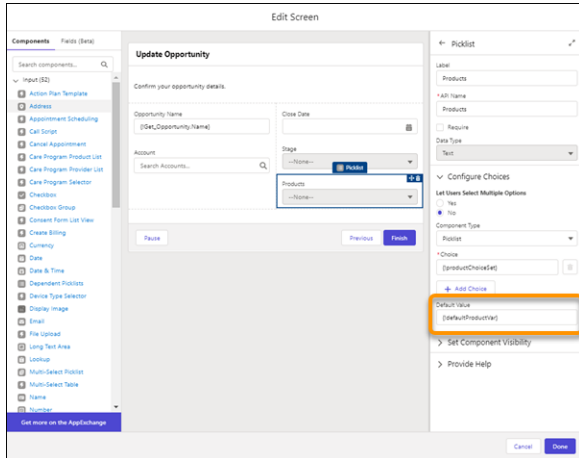
ユーザが複数のオプションを選択する選択肢コンポーネント (複数選択リストとチェックボックスグループ) では、一致するすべての選択肢が事前選択されます。

ユーザが複数のオプションを選択する選択肢コンポーネントで複数のデフォルト値を指定するには、値をセミコロンで区切ります。解決されたデフォルト値にセミコロンが含まれる場合 (Red;Blue)、各値は別個のデフォルトとして扱われます。たとえば、「Red」と「Blue」の両方をデフォルト値に設定するには、「Red;Blue」と入力します。実行時には、値が「Red」または「Blue」のすべての選択肢オプションが事前選択されます。選択肢が入力と完全に一致する「Red;Blue」である場合、その選択肢は選択されません。

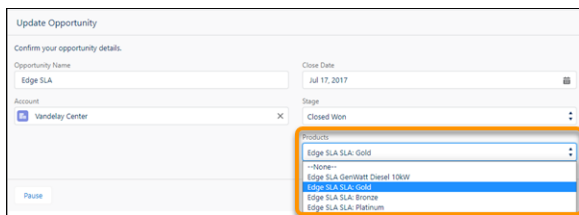
実行時には選択肢オプションが次のように事前選択されます。

デフォルト値	実行時に選択肢オプションが事前選択される基準
コンポーネントの選択肢オプションのリストに含まれている選択肢リソース	選択された選択肢の API 参照名との一致。
コンポーネントの選択肢オプションのリストに含まれていない選択肢リソース	選択肢リソースの解決された値。選択肢の値が解決されたデフォルト値と一致すると、その選択肢が選択されます。
フロー内の別のリソース (レコード取得要素からの参照など)	フローリソースの解決された値。選択肢の値が解決されたデフォルト値と一致すると、その選択肢が選択されます。
手動で入力された値	手動で入力された値。選択肢の値が手動で入力された値と一致すると、その選択肢が選択されます。

デフォルト値の設定は、選択可能なオプションを追加した後に行う方が理にかなっているため、[デフォルト値]項目は[データ型]項目の下から選択肢オプションの下に移動されました。デフォルト値を設定するには、1つ以上の選択肢を追加します。



方法: 画面コンポーネントの選択肢を設定するときに、選択肢リソースを追加します。[デフォルト値]項目では、選択リスト値または別のフローリソース(変数、レコード変数の項目、手動入力値など)を指定します。フローを保存して実行すると、デフォルト値に基づいてオプションが事前選択されます。



選択肢オプションは重複せず、選択肢の順序は保持されます。

関連トピック:

[メタデータ API](#)

選択リストの必須設定の正確な制御

すべての選択リストコンポーネントについて、画面フローで選択リストを必須にできるようになりました。APIバージョン 52.0 以降では、画面フローで省略可能な選択リストも設定できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。APIバージョン 52.0 以降で実行されるフローでは、バージョン管理された更新によって実行時に選択リストオプションのリストの先頭に [なし] 選択リストオプションが自動的に追加されます。Flow Builder の選択リストコンポーネントの [必須] チェックボックスの追加はバージョン管理されません。

理由: 選択リストコンポーネントには常に選択されたオプションがあります。デフォルト値が提供されない場合、選択リストでは常にリストの最初のオプションが選択されます。以前の API バージョンでは、選択リストにデフォルト値がない場合は、リストの最初のオプションが自動的に選択されていました。[なし] 選択リストオプションがない場合は、必須の選択リストでは自動的に最初のオプションが選択され、実行時に必須確認をトリガしない状態で開始されます。選択リストコンポーネントにはオプションが選択されていないことを示

すオプションがなかったため、独自のオプションを作成してユーザが別のオプションを選択したことを検証する必要がありました。以前は、選択リストコンポーネントには選択リストがフロー画面で必須かどうかを設定するオプションがありませんでした。

方法: [--なし--] 選択リストオプションがオプションのリストに表示され、選択リストの先頭に自動的に追加されます。そのため、Flow Builder で適切な選択リスト値を使用して選択リストの必須設定を正確に評価できます。[--なし--] 選択リストオプションを選択することはオプションをまったく選択しないことと同等で、このオプションは null として扱われます。

The screenshot displays the Salesforce Flow Builder interface for creating a new screen. The title bar at the top right reads "New Screen". On the left, there is a "Components" panel with a search bar and a list of component types: Number, Password, Phone, Picklist, Radio Buttons, Review Inbound or Outbo..., Review Service Appointm..., Select Appointment Type, and Select Service Appointme... The "Picklist" component is highlighted in blue. The main canvas on the right shows a "[Flow Label]" section with a "Picklist" component. The component is labeled "* New_Picklist" and has a dropdown menu with "--None--" selected. Below the component are two buttons: "Pause" and "Previous". At the bottom of the components panel, there is a blue button that says "Get more on the AppExchange".

[必須] チェックボックスオプションは、選択リストコンポーネントの設定時に使用できます。

関連トピック:

[API バージョン 52.0 でのフローおよびプロセス実行時の改善](#)

フロー画面作成中の選択肢コンポーネントの切り替え

フロー画面で最初に1つの選択肢コンポーネント(ラジオボタンなど)を使用し、その後初めからやり直さずに別の選択肢リスト(選択リストなど)に簡単に変更できるようになりました。新しい[ユーザが複数のオプションを選択できるようにする]項目と[コンポーネントの種類]項目を使用してこの変更を行います。

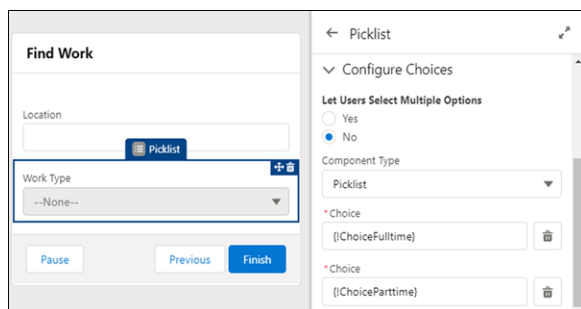
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: フロー画面には、チェックボックスグループ、複数選択リスト、選択リスト、ラジオボタンの4種類の選択肢コンポーネントがあります。チェックボックスグループおよび複数選択リストコンポーネントを使用すると、フローユーザは複数の選択肢を選択できます。選択リストおよびラジオボタンコンポーネントでは、ユーザが選択できるのは1つです。選択リスト種別のコンポーネントは、チェックボックスグループやラジオボタンよりも使用するフロー画面スペースが小さくなります。[ユーザが複数のオプションを選択できるようにする]項目と[コンポーネントの種類]項目を使用すると、すでに画面上にある選択肢コンポーネントを最小限の再設定で変更できます。

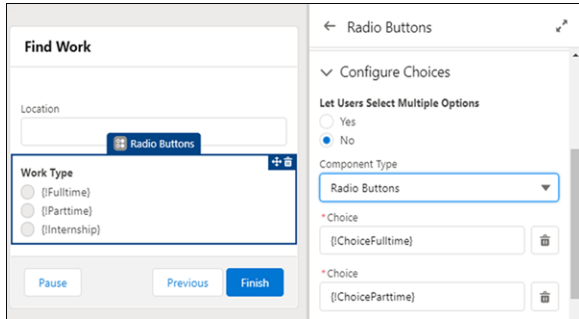
方法: フロー画面に選択肢コンポーネントを配置し、テキストデータ型の選択肢を使用するように設定します。次に、[ユーザが複数のオプションを選択できるようにする]項目と[コンポーネントの種類]項目で異なる設定を選択します。

すべての複数選択肢コンポーネントではテキストデータ型が使用されますが、ラジオボタンと選択リストでは数値や Boolean 選択肢も使用できます。[ユーザが複数のオプションを選択できるようにする]で[はい]を選択すると、[データ型]が自動的に[テキスト]に設定され、テキスト以外の選択肢リソースはコンポーネント設定からクリアされます。

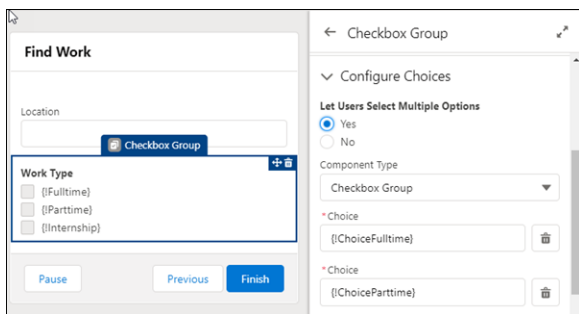
たとえば、最初はユーザに作業種別を表示するためにテキストデータ型の選択リストを選択します。



選択できる作業種別は3つしかありません。ユーザが選択リストをプルダウンしなくても3つのオプションが見えるように、[コンポーネントの種類]項目で[ラジオボタン]を選択します。



この例では、フローユーザに使用可能な作業種別が見えるようになりましたが、選択できるのは1つの種類の作業のみです。ユーザが複数のオプションを選択できるようにするには、[ユーザが複数のオプションを選択できるようにする]で[はい]を選択し、[コンポーネントの種類]項目で[チェックボックスグループ]を選択します。



これで、フローユーザは使用可能な作業種別を見て複数のオプションを選択できるようになりました。

コレクション内のデータの並び替えと制限

コレクション並び替え要素を使用して、収集されたデータに優先順位を付けたり制限したりできるようになりました。また、並び替え後のコレクション変数内の残りの項目を制限することもできます。たとえば、ユーザが選択した商品のコレクションを好みや価格で並び替えることができます。また、レコードコレクション変数を優先度が上位100件の取引先まで減らし、そのコレクション変数が大きなループで処理されるときにフローの要素制限に達しないようにすることもできます。以前は値を並び替えることは不可能でした。また、大きなコレクションをループ処理するとき、コレクション変数の大きな値や小さな値を分けたり、フローの制限に達しないようにしたりすることは困難でした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。コレクション並び替え要素は、API バージョン 50.0 以降で実行されるフローでのみ使用できます。

方法: コレクション並び替え要素をキャンバスにドラッグします。または、自動レイアウトの場合は ⊕ をクリックして [コレクション並び替え] を選択します。

コレクション変数を選択します (1)。レコードコレクション変数または Apex で定義されたコレクション変数の場合は、[並び替え] (2) にコレクションを並び替える項目を入力します。[並び替えオプションを追加] (3) をクリックすると、さらに2つまで並び替え項目を追加できます。コレクション変数に含まれる値のリストが1つである場合は、[並び替え] 項目は自動的に設定され、非表示になります。

選択リストを含むすべてのテキストベースの項目はアルファベット順に並び替えられます。Boolean 項目は [並び替え順] が [昇順] に設定されている場合には [False] が先に並び替えられ、[降順] に設定されている場合は [True] が先に並び替えられます。

コレクションの項目数を減らすには、[項目の最大数を設定] (1) を選択し、項目に表示される件数の最大数を入力します (2)。

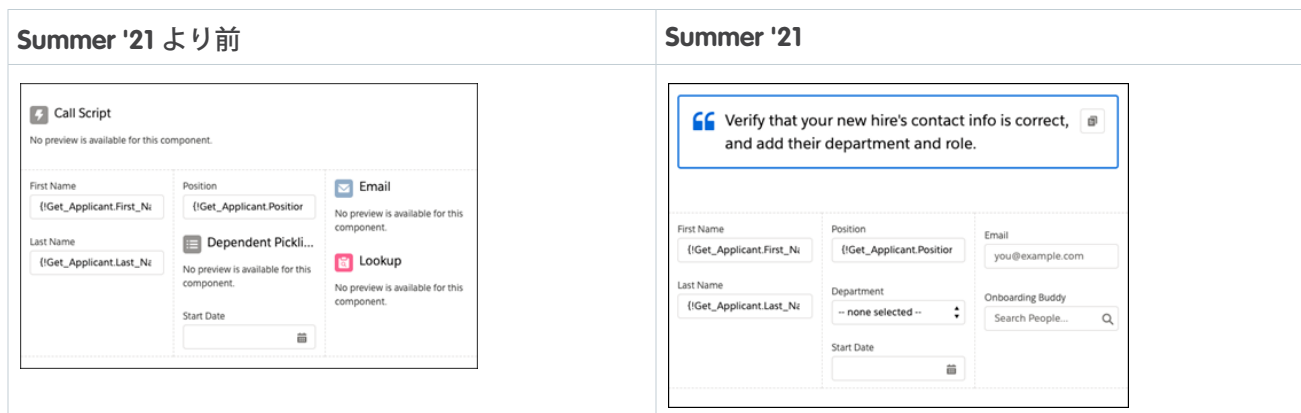
プレビュー可能なフロー画面コンポーネントの増加

Flow Builder で画面を作成しているときにキャンバス上でより多くの標準コンポーネントをプレビューできるようになりました。設定がコンポーネントにどのように影響するかをすぐに把握できます。選択したコンポーネントが適切なものかどうかを簡単に判断できます。以前は Flow Builder で使用可能な標準画面コンポーネントの半分以上では、キャンバス上でプレビューではなくプレースホルダが表示されていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: コンポーネントを設定してすぐに、キャンバス上のコンポーネントで変更を確認します。コンポーネントは、必須属性値を設定した後にのみプレビューできます。

プレビューできるコンポーネントは、住所、コールスクリプト、連動選択リスト、メール、表示画像、ファイルのアップロード、ルックアップ、名前、電話、スライダ、切り替え、URL です。さらに、ほとんどのチェックアウトフローコンポーネントもプレビューできます。以前は、キャンバス上の画面コンポーネントにプレースホルダが表示されていたが、プレビューが表示されるようになりました。



方法: 画面を作成するときに、画面コンポーネントを追加し、必須属性を設定します。Flow Builder のキャンバスにコンポーネントのプレビューが表示されます。

画面を作成するときにはフローは実行されていないため、参照は解決できません。そのため、属性値に手動で入力された値ではなく `{!myVar}` などの参照が含まれている場合は、プレビューされるコンポーネントに値を渡すことはできません。また、コンポーネントの必須属性が参照に設定されている場合は、コンポーネントのプレビューは表示されません。

画面コンポーネントのプレビューでは、設定に基づいてコンポーネントの初期状態が表示されます。コンポーネントを設定した後にキャンバスにエラーが表示される場合は、ユーザがフローを実行したときに同じエラーが画面に表示されます。たとえば、ルックアップコンポーネントの取得元オブジェクトの API 参照名を存在しないオブジェクトに設定すると、そのことを示すエラーメッセージが表示されます。以前は、オブジェクトの API 参照名が間違っていることを知るには、フローを実行する必要がありました。

レコードトリガフローでの項目の直接更新

レコードトリガフローのレコード更新要素で新しいオプションを使用すると、フローをトリガしたレコードを直接更新できます。以前は決定要素を使用してトリガレコードの検索条件を設定していましたが、レコード更新要素を使用できるようになりました。レコード更新要素では更新できる項目のみが表示され、新しいオプションはすべてのレコードトリガフローとスケジュールトリガフローで使用できます。これらの変更によって、レコードが保存される前と後に実行されるレコードトリガフローを簡単に切り替えることができます。既存の保存前レコードトリガフローで割り当て要素を使用してフローをトリガしたレコードの値を設定している場合はこの変更の影響を受けません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: レコード更新要素をレコードトリガフローに追加します。保存前レコードトリガフローでは [更新するレコードを検索してその値を設定する方法] の 3 つのオプションすべてが表示されますが、選択できるのは最初のオプションのみです。この例では、取引先の保存前レコードトリガフローを設定しています。

最初のオプションを使用する場合は、フローをトリガしたレコードの項目のみを更新できます。保存後レコードトリガフローで関連レコードの項目を更新するには、他のオプションのいずれかを選択します。

メモ: レコードが更新されたときにトリガされるフローで [変更済み] 演算子を使用するには、開始要素で条件の要件を設定します。

この新しいオプションを使用してスケジュールトリガフローレコードを直接更新することもできます。

Salesforce フローのアクセシビリティ機能の強化

フロー画面エクスペリエンスのフォーカスの管理が改善されました。現在のフロー画面にエラーがある場合には、フォーカスはエラーがある最初の項目に設定されます。現在のフロー画面にエラーがない場合には、[前へ]または[次へ]を使用すると適切な画面が表示され、フォーカスはその画面の最初のフォーカス可能な項目に設定されます。さらに、スクリーンリーダーがより多くのコンポーネントに関連付けられた表示ラベルを読めるようになりました。対象となるコンポーネントには、通貨、複数選択リスト、名前、数値、選択リスト、ラジオボタン、URLが含まれます。

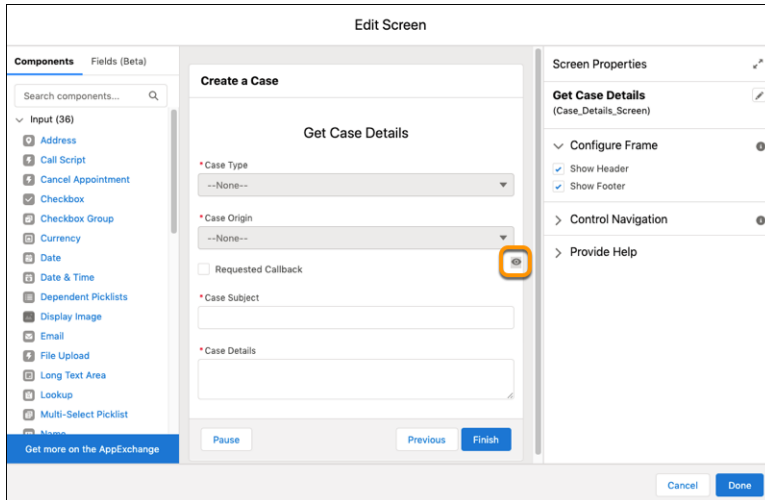
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

フロー画面の条件付き表示を一目で確認

条件付き表示が見やすくなりました。Flow Builder では、条件付き表示ルールが設定されているコンポーネントと項目の横に表示アイコンが表示されるようになりました。また、1つ以上の条件付き表示ルールが設定されているコンポーネントまたは項目を選択すると、[コンポーネントの表示を設定] セクションまたは [項目の表示を設定] セクションが自動的に展開されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: Flow Builder で画面要素を編集するときに、1つ以上の条件付き表示ルールが設定されているコンポーネントと項目の横に表示アイコン (👁) が表示されます。



フローのデバッグ

Flow Builder でレコードトリガフローをデバッグします。特定の時間に再開するように設定された一時停止要素のある自動起動フローをデバッグします。新しいリストビューや改善されたエラーメールから失敗したフローインタビューをデバッグします。デバッグの詳細を展開して、トランザクションがコミットされたかロールバックされたかを確認します。

このセクションの内容:

レコードトリガフローのデバッグ

Flow Builder ではレコードトリガフローのデバッグ方法を容易に設定できます。保存前更新および保存後更新を行うすべてのレコードトリガフローで、レコードを選択し、デバッグ実行をトリガできるようになりました。以前は、Flow Builder ではレコードトリガフローのデバッグは提供されませんでした。

失敗したフローへの迅速なアクセス

メールを経由せずに、新しい[失敗したフローインタビュー]リストビューに直接アクセスできます。フローに失敗したインタビューがある場合に、1か所ですべてを確認できるようになりました。一時停止中のフローインタビューと失敗したフローインタビューを含むカスタムリストビューを作成できます。以前は、失敗したフローインタビューのデバッグを開始するためにフローエラーメール内のリンクをクリックしていました。

Flow Builder の一時停止要素の後のフローのデバッグ

一時停止要素が実行された後もフローのデバッグを続行できるようになりました。一時停止条件が満たされた場合は、フローを再開する一時設定を選択できます。特定の時間に実行される一時停止設定のみがサポートされています。以前は Flow Builder でフローのデバッグを行うときに、一時停止要素の後にフローを再開することはできませんでした。

トランザクションがコミットされたタイミングを確認するためのフローのデバッグ

スケジュールトリガフローとトリガがない自動起動フローに、コミットされたトランザクションやエラーのためにロールバックされたトランザクションのデバッグの詳細が表示されるようになりました。フローが失敗した場合にフローをデバッグして、失敗前にコミットされたトランザクションによってレコードの変化がデータベースに永続的に保存されたかどうかを調べることができます。

フローエラーメールの読みやすさの向上

フローエラーメールの件名行に、わかりにくいフローのAPI参照名ではなくフローバージョン表示ラベルが表示されます。メールの本文では、フローインタビューのバッチが失敗した場合の Flow Builder でのフローインタビューのデバッグに関するテキストがより明確になりました。新しいテキストは「Debug one of the failed interviews in Flow Builder. (Flow Builder で失敗したインタビューのいずれかをデバッグしてください。)」となります。

ボタン1つでフローをデバッグ

キャンバスでデバッグするかデバッグの詳細のみを表示するかを選択せずに、よりすばやくフローをデバッグします。フローによって、キャンバス上でデバッグできるかデバッグの詳細のみが表示されるかが決まるようになりました。たとえば、自動起動フローはトリガの有無に関わらずキャンバス上でデバッグできますが、画面フローはデバッグの詳細でのみデバッグできます。

レコードトリガフローのデバッグ

Flow Builder ではレコードトリガフローのデバッグ方法を容易に設定できます。保存前更新および保存後更新を行うすべてのレコードトリガフローで、レコードを選択し、デバッグ実行をトリガできるようになりました。以前は、Flow Builder ではレコードトリガフローのデバッグは提供されませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [デバッグ] をクリックすると、デバッグ設定オプションが表示されます。

- [デバッグオプション] で [開始条件の要件をスキップ] オプションを使用すると、デバッグ実行のために選択したレコードが、開始要素で指定した条件の要件を満たしていなくても、フローを実行できます。
- [別のユーザとしてフローを実行] オプションを使用すると、指定したユーザとしてフローでアクションを実行したり、レコードを作成、更新、削除したりできます。
- [別のユーザとしてフローを実行] オプションを使用すると、指定したユーザとしてフローでアクションを実行したり、レコードを作成、更新、削除したりできます。
- レコードトリガフローのデバッグでは [ロールバックモードでフローを実行します] オプションが常に有効になっているため、Salesforce レコードのデータを完全に変更することなくフローを実行できます。インタビューによるデータベースの変更は、デバッグ実行の終了後にすべてロールバックされます。デバッグ実行では現在のフローのみが実行され、その他のレコードトリガ自動化は実行されません。
- [トリガレコード] ではデバッグ実行用のレコードを選択でき、このレコードが作成、更新、または削除されたとしてフローがトリガされます。
- [レコードが次の場合にフローを実行] オプションでは、レコードが作成されたとしてフローを実行するか、レコードが更新されたとしてフローを実行するかを選択できます。[作成済み] と [更新済み] オプションのデバッグ実行の動作は、レコードトリガフローで ISCHANGED 数式関数を使用しているか、前のレコードのグローバル変数を使用する数式関数を使用しているかによって異なります。
 - ISCHANGED 数式関数を使用しており、レコードが作成されたとしてフローを実行する場合、ISCHANGED 関数は常に True を返します。ISCHANGED 数式関数を使用しており、レコードが更新されたとしてフローを実行する場合、ISCHANGED 関数は常に False を返します。
 - 前のレコードのグローバル変数を使用する数式関数を使用しており、レコードが作成されたとしてフローを実行する場合、数式からの戻り値は null です。レコードが更新されたとしてフローを実行した場合の戻り値は、デバッグ実行で使用された現在のレコードと同じ値です。

失敗したフローへの迅速なアクセス

メールを経由せずに、新しい[失敗したフローインタビュー]リストビューに直接アクセスできます。フローに失敗したインタビューがある場合に、1か所ですべてを確認できるようになりました。一時停止中のフローインタビューと失敗したフローインタビューを含むカスタムリストビューを作成できます。以前は、失敗したフローインタビューのデバッグを開始するためにフローエラーメール内のリンクをクリックしていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 一時停止中のフローインタビューと失敗したフローインタビューのデータをサポートするために、[一時停止日付]列が[一時停止または失敗した日付]に変更されました。新しい[インタビューの状況]列にはフローインタビューが一時停止したか失敗したかが表示されます。失敗したフローインタビューのインタビュー状況は[エラー]です。

これらのフロー種別の失敗したフローインタビューは保存され、Flow Builder の [失敗したフローインタビュー] リストビューから開くことができます。

- 画面フロー
- レコードトリガフロー
- スケジュールトリガフロー
- トリガされていない自動起動フロー

Classic の [インタビューの状況] に対するリストビュー検索条件を選択するときには、[実行中]、[一時停止]、[完了]、[エラー]の値が表示されます。リストビューに表示できるのは、インタビューの状況が[一時停止]または[エラー]のフローインタビューのみです。[一時停止中のフローインタビュー] コンポーネントには、[一時停止または失敗した日付]列が表示されますが、コンポーネントに表示されるのは一時停止中のフローインタビューのみです。

方法: [設定] の [一時停止中のフローインタビュー] は [一時停止中および失敗したフローインタビュー] に変更されました。[設定] ページには、一時停止中または失敗したフローインタビューのリストビューが含まれるようになりました。リストビューには、[共有設定] や [表示する項目を選択] などのリストビューコントロールが追加されました。

[設定] から、[クイック検索] ボックスに「フロー」と入力し、[一時停止中および失敗したフローインタビュー] を選択します。デフォルトのリストビューは [一時停止中のフローインタビュー] です。

Flow Builder でフローインタビューを開くには、インタビューの表示ラベルをクリックします。

Interview Label ?	Flow API Name	Type	Last Modified	Current Flow API Name	Flow Interview GUID			
New Customer Application 3/30/2021...	New_Customer_Application	1	Screen Flow	bjme	3/30/2021, 5:11 P...	New_Customer_Applicati...	1	16971919c03d082d3a493c546b178851a...

Flow Builder の一時停止要素の後のフローのデバッグ

一時停止要素が実行された後もフローのデバッグを続行できるようになりました。一時停止条件が満たされた場合は、フローを再開する一時設定を選択できます。特定の時間に実行される一時停止設定のみがサポートされています。以前は Flow Builder でフローのデバッグを行うときに、一時停止要素の後にフローを再開することはできませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: フローをデバッグし、[デバッグの一時停止要素の動作] を選択します。

Debug flow

Debug Options

Debug pause element behavior

Run flow as another user ⓘ

Run flow in rollback mode

Input Variables

This flow has no variables that allow input access, or all its input variables are collection variables or Apex-defined variables, which aren't supported for input when debugging.

一時停止設定を選択し、フローのデバッグを続行します。

```

graph TD
    Start[Start  
Autolaunched Flow] --> GetRecords[Get Records  
Get Accounts]
    GetRecords --> Pause[Pause  
Pause]
    Pause -- "April 15, 2021" --> Assignment[Assignment  
Set Name]
  
```

Debug Details

Basic Debug Log

Base Time = 4/15/2021 12:00 AM
 Offset Number = 0
 Offset Unit = null
 Result
 Paused at 2021-04-15T17:24:51Z.
 The interview was paused at 2021-04-15T17:24:51Z.

Choose Pause Element Configuration

Pause Paths ⓘ

April_15_2021 ▼

Path configuration: This element will pause when all pause conditions are met.

Continue the Debug Run

特定の時間に実行される一時停止設定の一時停止条件が満たされず、フローにデフォルトのパスがない場合は、フローは再開されません。

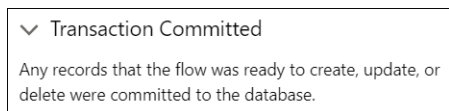
トランザクションがコミットされたタイミングを確認するためのフローのデバッグ

スケジュールトリガフローとトリガがない自動起動フローに、コミットされたトランザクションやエラーのためにロールバックされたトランザクションのデバッグの詳細が表示されるようになりました。フローが失敗した場合にフローをデバッグして、失敗前にコミットされたトランザクションによってレコードの変化がデータベースに永続的に保存されたかどうかを調べることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: たとえば、あるフローにレコード作成要素、レコード更新要素、そして外部システムにコールするアクション要素が含まれているとします。レコード作成要素とレコード更新要素はレコードを変更するため、トランザクションはアクション要素が実行される前にコミットされます。このフローはアクション要素の後に失敗します。

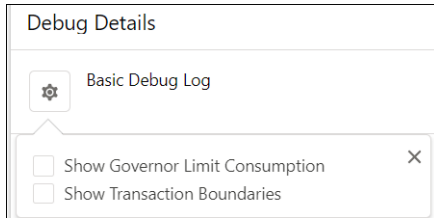
以前は、フローをデバッグして、デバッグ実行中にトランザクションがどこでコミットされたかを確認することはできませんでした。今回のリリースでは、レコード更新要素の後にレコードの変化を含むトランザクションがコミットされたことをすばやく確認できるようになりました。



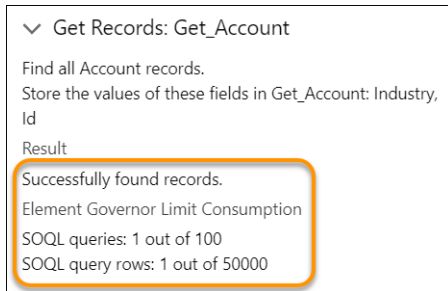
トランザクションがコミットされた場合でも、次のアクションのコミットされたトランザクションはデバッグの詳細に表示されません。

- archiveKnowledgeArticles
- cancelOrderItemSummariesPreview
- cancelOrderItemSummariesSubmit
- contentWorkspaceEnableFolders
- createFulfillmentOrder
- createInvoiceFromFulfillmentOrder
- createServiceReport
- getEligibleProgramRebateTypes
- massUpdateAccountForecast
- massUpdateSalesAgreement
- print
- publishKnowledgeArticles
- recalculateForecast
- refreshActualsCalculation
- submitDigitalFormResponse

方法: Flow Builder でフローをデバッグし、[デバッグの詳細] から [基本のデバッグログ] をクリックします。[ガバナ制限消費を表示]、[トランザクションの境界を表示]、またはその両方を選択します。



[デバッグの詳細にクエリ制限を表示]チェックボックスはデバッグフローウィンドウからデバッグの詳細に移動したため、詳細を確認するときに選択することができます。



フローエラーメールからフローをデバッグすると、ガバナ制限はデバッグの詳細に表示されません。

フローエラーメールの読みやすさの向上

フローエラーメールの件名行に、わかりにくいフローの API 参照名ではなくフローバージョン表示ラベルが表示されます。メールの本文では、フローインタビューのバッチが失敗した場合の Flow Builder でのフローインタビューのデバッグに関するテキストがより明確になりました。新しいテキストは「Debug one of the failed interviews in Flow Builder. (Flow Builder で失敗したインタビューのいずれかをデバッグしてください。)」となります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

ボタン1つでフローをデバッグ

キャンバスでデバッグするかデバッグの詳細のみを表示するかを選択せずに、よりすばやくフローをデバッグします。フローによって、キャンバス上でデバッグできるかデバッグの詳細のみが表示されるかが決まるようになりました。たとえば、自動起動フローはトリガの有無に関わらずキャンバス上でデバッグできますが、画面フローはデバッグの詳細でのみデバッグできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: フローのデバッグを開始するには、[デバッグ]をクリックします。

フローおよびプロセスの管理

画面フローインタビューログエントリは1時間あたり 75,000 件に制限されています。フロー要求のアクセスできない項目を絞り込むプロセス自動化設定は、API バージョン 51.0 以前で実行されるフローにのみ適用されません。[時間ベースのワークフロー]ページにフローのスケジュール済みパスとプロセスのスケジュール済みアクションに関連するオブジェクトが表示されるようになりました。

このセクションの内容:

新しいフローインタビューログエントリ制限によるパフォーマンスの向上

ページの読み込み時間などのパフォーマンスを向上させるために、新たにフローインタビューログエントリオブジェクトのログレコードが1時間あたり 75,000 件に制限されます。元の制限は過去 31 日間のログレコードが1か月あたり 700 万件というものであり、この制限も引き続き適用されます。

Flow Builder での参照のみの項目の永続的な除外

フローでレコードを作成または更新するときに、レコード変数のシステム項目やその他の参照のみの項目が除外されるようになりました。以前は、Salesforce の [プロセスの自動化設定] の [フロー要求のアクセスできない項目を絞り込む] を有効にしていました。この設定がすべてのフローに対して永続的に有効になりました。この設定を変更できるのは、API バージョン 51.0 以前で実行されるように設定されているフローのみできます。

[時間ベースのワークフロー] ページでのより多くの関連するオブジェクトの表示

フローまたはプロセスの新しいバージョンでは、フローのスケジュール済みパスまたはプロセスのスケジュール済みアクションに関連するオブジェクトを表示できるようになりました。以前は、[設定] の [時間ベースのワークフロー] ページに、ワークフローアクションに関連するオブジェクトのみが表示されました。

新しいフローインタビューログエントリ制限によるパフォーマンスの向上

ページの読み込み時間などのパフォーマンスを向上させるために、新たにフローインタビューログエントリオブジェクトのログレコードが1時間あたり 75,000 件に制限されます。元の制限は過去 31 日間のログレコードが1か月あたり 700 万件というものであり、この制限も引き続き適用されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 1時間あたりの制限に達すると、その1時間の残り時間にはフローインタビューログエントリオブジェクトへの総計値の記録が停止されます。制限に達したためにフローインタビューが一時停止し、制限に達していない後の時間に再開されると、総計値の記録が続行されます。組織が 700 万レコードの制限に達していなくても、経過日数が 31 日を超えたすべてのログは自動的に削除されます。

Flow Builder での参照のみの項目の永続的な除外

フローでレコードを作成または更新するときに、レコード変数のシステム項目やその他の参照のみの項目が除外されるようになりました。以前は、Salesforce の [プロセスの自動化設定] の [フロー要求のアクセスできない項目を絞り込む] を有効にしていました。この設定がすべてのフローに対して永続的に有効になりました。この設定を変更できるのは、API バージョン 51.0 以前で実行されるように設定されているフローのみできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。レコードの作成または更新時のシステム項目やその他の参照のみの項目の永続的な除外は、API バージョン 52.0 以降で実行されるフローでのみ使用できます。

[時間ベースのワークフロー] ページでのより多くの関連するオブジェクトの表示

フローまたはプロセスの新しいバージョンでは、フローのスケジュール済みパスまたはプロセスのスケジュール済みアクションに関連するオブジェクトを表示できるようになりました。以前は、[設定] の [時間ベースのワークフロー] ページに、ワークフローアクションに関連するオブジェクトのみが表示されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

フロー拡張

MuleSoft Anypoint Platform API で外部サービスを使用してフローの呼び出し可能なアクションをすばやく生成します (パイロット)。

フローおよびプロセスのリリース更新

Flow Builder で差し込み項目を使用して関連レコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。フローおよびプロセスによる CPU 時間消費が正確に測定され、適用されるようになりました。一時停止中のインタビューを、一時停止前と同じコンテキストと同じユーザアクセス権で再開します。プロセスでレコード項目の元の値を評価できるようになります。

このセクションの内容:

フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 (更新、適用)

この更新により、Flow Builder が差し込み項目を使用して関連レコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Spring '21 に延期され、さらに Summer '21 に再び延期されました。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新が Summer '21 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定 (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効化すると、Salesforce はすべてのフローおよびプロセスにより消費された CPU 時間を正確に測定し、記録し、制限できます。以前は、消費された CPU 時間が誤っていたり、トランザクション内の後で発生する他の自動化 (Apex トリガなど) に誤って結び付けられたりすることがありました。トランザクション単位の最大 CPU 時間消費の制限を超える原因となったパフォーマンスのボトルネックを適切に特定できるようになりました。また、CPU 時間が正確にカウントされるようになったため、要素、条件ノード、またはアクションが実行されてトランザクションが CPU 制限を超えると、フローおよびプロセスが失敗します。この制限を超える可能性が高いすべての複雑なフローとプロセスをテストすることをお勧めします。

同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効化すると、一時停止中の自動起動フローが常に一時停止前と同じコンテキストと同じユーザアクセス権で再開されます。この更新は、Winter '22 で適用されます。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

この更新は Summer '19 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Winter '21 に延期され、さらに Winter '22 に再び延期されました。この更新は Summer '23 に再び延期されました。このリリース更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。

画面フローの利用状況の分析 (以前にリリース済みの更新)

この更新により、レポートを使用して画面フローに関する実行時の詳細を調べられるようになります。使用パターンを発見することで、ユーザ向けの画面フローを最適化できます。この更新は、画面フローの実行時総計値をまだ取得していない Salesforce 組織で使用できます。

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)

この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。この更新は、Spring '19 でリリースされ、Spring '21 で適用される予定でしたが、Spring '22 に延期されます。2020 年 7 月 10 日より前に Summer '20 を受け取った Salesforce 組織では、この更新は有効化されました。組織がこれに該当し、更新を無効化した場合、更新を Spring '22 で有効化する必要があります。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新が Spring '22 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールは無効化 (更新、延期)

更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールは無効化」が Spring '22 で適用されることがスケジュールされました。この更新により、フローまたはプロセスの実行ユーザに、そのフローまたはプロセスによって呼び出される Apex クラスへの明示的なアクセス権が不要になります。

フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 (更新、適用)

この更新により、Flow Builder が差し込み項目を使用して関連レコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Spring '21 に延期され、さらに Summer '21 に再び延期されました。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新が Summer '21 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Summer '21 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この更新を有効にすると、関連レコードにアクセスするフロー差し込み項目は、実行ユーザのオブジェクト権限、項目レベルのアクセス権、およびレコードレベルのアクセス権 (共有ルールなど) に従います。

たとえば、取引先責任者の所有者が他のユーザと取引先責任者を明示的に共有しない限り取引先責任者が非公開になる組織について考えてみます。

この更新が有効になっていない場合、取引先責任者の所有者ではないユーザが、差し込み項目を使用して取引先責任者レコードの項目にケースの Contact ID 項目経由でアクセスするフローを実行すると、フローインタビューはレコードレベルのセキュリティを無視して項目にアクセスします。

```
{!caseRecord.Contact.LastName}
```

この更新を有効にすると、実行ユーザのレコードレベルのアクセス権が適用されるため、フローインタビューは項目にアクセスできません。

方法:この更新は、事前に Sandbox 組織でテストしてから本番組織で有効化することをお勧めします。差し込み項目を使用してオブジェクトレベルのセキュリティ、項目レベルのセキュリティ、またはレコードレベルのセキュリティを持つ関連レコードの項目にアクセスするすべてのフローパスをテストします。たとえば、フローを実行するユーザとは共有されていない関連レコードの項目に差し込み項目を使用してアクセスするフローをテストします。

この更新を適用するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。[フローの差し込み項目でデータアクセス権を適用]で、テストと有効化の手順を実行します。

問題が発生した場合は、Salesforce カスタマーサポートまでご連絡ください。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

[フローおよびプロセスのリリース更新](#)

[Spring '21 リリースノート: フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 \(更新、延期\)](#)

フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定 (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効化すると、Salesforce はすべてのフローおよびプロセスにより消費された CPU 時間を正確に測定し、記録し、制限できます。以前は、消費された CPU 時間が誤っていたり、トランザクション内の後で発生する他の自動化 (Apex トリガなど) に誤って結び付けられたりすることがありました。トランザクション単位の最大 CPU 時間消費の制限を超える原因となったパフォーマンスのボトルネックを適切に特定できるようになりました。また、CPU 時間が正確にカウントされるようになったため、要素、条件ノード、またはアクションが実行されてトランザクションが CPU 制限を超えると、フローおよびプロセスが失敗します。この制限を超える可能性が高いすべての複雑なフローとプロセスをテストすることをお勧めします。

対象:この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期:この更新は、Summer'22 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法:この更新を適用するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。「フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定」リリース更新を取得するには、テストおよび有効化の手順を実行します。

フローまたはプロセスによりトランザクションが CPU 時間の制限を超えた場合、それらは失敗します。複雑なフローやプロセスでは、この制限を超える可能性が高くなります。フローまたはプロセスの CPU 使用時間を減らすには、要素、数式、およびクロスオブジェクト参照の数を減らします。各要素、条件ノード、アクションで使用されている CPU 時間はデバッグログで確認できます。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

[フローおよびプロセスのリリース更新](#)

[Spring '21 リリースノート: フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定 \(更新\)](#)

同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効化すると、一時停止中の自動起動フローが常に一時停止前と同じコンテキストと同じユーザアクセス権で再開されます。この更新は、Winter '22 で適用されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Winter '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: 自動起動フローが時間ベースの再開イベント後に再開すると、フローは共有なしのシステムコンテキストで実行されます。フローは、一時停止前のコンテキストやユーザアクセス権には関係なく、常にこの方法で再開されます。この更新を有効化すると、常に一時停止前と同じコンテキストと同じ権限でフローが再開されます。

たとえば、レコード A を編集する権限を持っていないユーザがカスタムボタンをクリックして自動起動フローを実行したとします。まず、自動起動フローはユーザコンテキストで実行されます。フローを一時停止して再開すると、フローはシステムコンテキストで実行され、レコード A を編集できるようになります。この更新を有効化することで、実行ユーザが編集権を持たないレコードをフローが編集してしまうことを防止できます。

この更新は、特定の時間に再開するように設定された一時停止要素のある自動起動フローにのみ影響します。

この更新により、ユーザがアクセス権を持たないレコードを意図せずに作成または編集してしまうことを防止できるため、Salesforce 組織のセキュリティが強化されます。

方法: 自動起動フローインタビューを一時停止して、時間ベースの再開イベント後に再開すると、エラーとなることがあります。フローインタビューのエラーを回避するには、各一時停止要素後のすべてのフロー要素を実行するのに必要な権限が実行ユーザに割り当てられていることを確認してください。または、常にシステムコンテキストで実行されるように自動起動フローを設定することもできます。

この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。「同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する」のテストと有効化の手順に従ってください。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

[フローおよびプロセスのリリース更新](#)

[Spring '21 リリースノート: 同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する \(以前にリリース済みの更新\)](#)

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

この更新は Summer '19 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Winter '21 に延期され、さらに Winter '22 に再び延期されました。この更新は Summer '23 に再び延期されました。このリリース更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期:この更新は、Summer'23 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法:この更新を適用するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。[プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価]で、テストと有効化の手順を実行します。

[レコードに指定の変更が行われた場合にのみアクションを実行しますか?] オプションが選択されているプロセスがある場合、または条件で `ISCHANGED()` 関数を使用している場合、この更新によってプロセスが異なっ動作する可能性があります。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

[フローおよびプロセスのリリース更新](#)

[Spring '21 リリースノート: プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 \(更新、延期\)](#)

画面フローの利用状況の分析 (以前にリリース済みの更新)

この更新により、レポートを使用して画面フローに関する実行時の詳細を調べられるようになります。使用パターンを発見することで、ユーザ向けの画面フローを最適化できます。この更新は、画面フローの実行時総計値をまだ取得していない Salesforce 組織で使用できます。

対象:この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期:Salesforce は、この更新を Spring '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由:この更新により、画面フローの実行時の詳細がフローインタビューログレコードとフローインタビューログエントリレコードに保存されます。[サンプルフローレポート:画面フロー]レポートを実行して、そのデータの分析をすぐに開始できます。

また、[画面フロー] カスタムレポートタイプを使用してカスタムレポートを作成することもできます。または、フローインタビューログオブジェクトおよびフローインタビューログエントリオブジェクトを使用してカスタムレポートタイプを作成できます。次に、ユーザはこのカスタムレポートタイプを使用してカスタムレポートを作成できます。

方法:この更新を適用するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。「画面フローの利用状況の分析」リリース更新を取得するには、テストと有効化の手順を実行します。

ユーザが画面フローの実行や操作を行うと、利用状況データが収集され、[サンプルフローレポート:画面フロー]レポートで使用できるようになります。レポートを実行し、画面フローからのデータが含まれていることを確認します。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

[フローおよびプロセスのリリース更新](#)

[Spring '21 リリースノート: 画面フローの利用状況の分析\(更新\)](#)

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)

この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。この更新は、Spring '19 でリリースされ、Spring '21 で適用される予定でしたが、Spring '22 に延期されます。2020 年 7 月 10 日より前に Summer '20 を受け取った Salesforce 組織では、この更新は有効化されました。組織がこれに該当し、更新を無効化した場合、更新を Spring '22 で有効化する必要があります。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新が Spring '22 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: プロセスおよびフローで、数式はレコード変数や参照関係項目を介してレコードの項目を参照できます。実行時に、レコード変数や参照関係項目が null の場合、数式で null が返されることがあります。それ以外の場合は、未対応の例外が返されます。この更新により、レコード変数や参照関係項目が null の場合、数式で常に null 値が返されるようになります。この更新は差し込み項目には影響しません。

たとえば、取引先を更新すると、プロセスが開始され、アクションを実行する前に条件がチェックされます。条件には、取引先の [親取引先] 項目を介して親取引先の名前を参照する数式が含まれています。[親取引先] 項目は参照関係項目です ([Account].Parent.Name)。

参照関係項目の値が null の場合、数式で null が返されます。この更新を行わないと、数式で null ではなく未対応の例外が返されることがあります。

時期: この更新は、Spring '22 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。参照関係項目やレコード変数項目を参照するすべてのプロセスおよびフローの数式をテストします。プロセスの場合、条件やアクションに数式があります。フローの場合、リソースや入力コンポーネントの入力規則に数式があります。この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」の場合、テストおよび有効化ステップを実行します。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

[フローおよびプロセスのリリース更新](#)

[Spring '21 リリースノート: プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 \(更新、延期\)](#)

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」が Spring '22 で適用されることがスケジュールされました。この更新により、フローまたはプロセスの実行ユーザーに、そのフローまたはプロセスによって呼び出される Apex クラスへの明示的なアクセス権が不要になります。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期:元々 Spring '20 でリリースされたこの更新が 2 度の延期を経て、Spring '22 で適用されることがスケジュールされました。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

対象ユーザ:この更新を適用できるのは、更新「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求」を有効にしている Salesforce 組織のみです。

更新「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求」を有効にしている場合は、更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」によって組織が元の望ましい状態に戻ります。この状態では、Apex を呼び出すために Flow Builder で構築したフローやプロセスビルダーで構築したプロセスで、Apex クラスへのユーザアクセス権が不要になります。ユーザがフローまたはプロセスを実行できる場合は、その Apex アクションに暗黙的にアクセスできます。

メモ:

- いずれのリリース更新も、ユーザアクセスが制限されることのない、フローの従来の Apex アクション (Apex プラグイン) には影響ありません。
- Spring '21 で Apex を呼び出したときにフローまたはプロセスが失敗するようになったときは、早目にこの更新を有効にすることをお勧めします。この更新を有効にすると、通常「このフローで未対応の障害が発生しました」というメッセージを表示するこれらのエラーが修正されます。詳細は、既知の問題「[Restricted Access Causing Flows to Fail in Spring '21 \(Spring '21 の制限されたアクセスに起因するフローの失敗\)](#)」を参照してください。

方法: Apex を呼び出すフローまたはプロセスがある場合は、次の準備手順を実行することを強くお勧めします。

- プロファイルまたは権限セットを使用して Apex クラスへのアクセス権をユーザに付与した場合は、そのアクセス権を取り消して、最小権限の原則を適用することをお勧めします。ただし、最初に、ユーザがフローやプロセスの実行以外の理由でこれらの Apex クラスにアクセスする必要がないことを確認します。
- フローに対するデフォルトのユーザアクセス権を上書きすることを検討します。デフォルトでは、ユーザにフローユーザ機能ライセンス、「フローを実行」権限、「フローの管理」権限があればフローを実行できます。フローごとに、デフォルトの動作を上書きして、有効化されたプロファイルまたは権限セットにアクセスを制限することをお勧めします。

たとえば、Experience Cloud サイトで認証されていないゲストユーザがフローを実行できないようにするには、フローのユーザアクセスを、有効になっているプロファイルまたは権限セットに制限します。次に、特定のプロファイルまたは権限セットを有効にして、適切なユーザにアクセス権を付与します。

メモ: 準備手順についての詳細は、[リリース更新「「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」の準備](#)」ナレッジ記事を参照してください。

この準備手順は、セキュリティのベストプラクティスとして推奨されます。ただし、必須ではありません。更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」を有効にしても、既存の実装には影響ありません。たとえば、ユーザの権限セットとプロファイルで引き続き Apex クラスへの明示的なアクセス権を付与できます。

この更新を適用するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。[Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化]で、テストと有効化の手順に従います。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

[フローおよびプロセスのリリース更新](#)

[Spring '21 リリースノート: Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 \(更新、延期\)](#)

API バージョン 52.0 でのフローおよびプロセス実行時の改善

この更新は、APIバージョン52.0以降で実行されるように設定されているフローとプロセスにのみ影響します。バージョン管理された更新では、都合に合わせてフローおよびプロセスごとに実行時の動作の変更をテストおよび採用できます。フローの実行時APIバージョンを変更するには、Flow Builder でフローを開いて、フローバージョンのプロパティを編集します。プロセスの実行時APIバージョンを変更するには、プロセスビルダーでプロセスを開いて、そのプロパティを編集します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

コレクション並び替え要素を使用したコレクション内のデータの並び替えと制限

このバージョン管理された更新では、APIバージョン50.0以降で実行されるフローのコレクション並び替え要素が有効になります。

レコードの作成または更新時のシステム項目やその他の参照のみの項目の除外

[プロセスの自動化設定]の[フロー要求のアクセスできない項目を絞り込む]がすべてのフローに対して永続的に有効になりました。この設定を変更できるのは、APIバージョン51.0以前で実行されるように設定されているフローのみできます。

詳細は、「[Flow Builder での参照のみの項目の永続的な除外](#)」を参照してください。

フローでの差し込み項目の改善

数式値を参照する差し込み項目の項目レベルのアクセス権が適用されるようになり、ページ読み込み時間などのパフォーマンスが向上しました。

画面フローでは、項目レベルのアクセス権が適用された場合に差し込み項目がより一貫して null 値を返すようになりました。たとえば、レコードへのアクセス権がないユーザが差し込み項目を使用して数式から返されない項目値を参照するとします。この場合に差し込み項目が null 値を返すようになりました。

差し込み項目がサポートされていないデータ型の値を参照すると、エラーメッセージが表示されるようになりました。差し込み項目が取引先レコードやカスタム Apex オブジェクトなどの複雑なデータオブジェクトの数値を参照すると、項目は数値を返すようになりました。また、この項目では値が10進数値に変換されません。

差し込み項目を使用してレコード変数項目 (`{!$Record.Owner.Group.DeveloperName}` など) を介してグループを参照する場合、実行時に差し込み項目でグループの値にアクセスできます。APIバージョン51.0以前では、差し込み項目で値にアクセスできず、フローで `[Error resolving $Record.Owner.Group.Id because it hasn't been set or`

assigned.(\$Record.Owner.Group.Id の解決中にエラーが発生しました。設定されていないか、割り当てられていません)] のエラーが返されます。

実行時の選択リストコンポーネントの先頭への [--なし--] の追加

API バージョン 52 以降で実行されるフローでは、このバージョン管理された更新によって、フローの実行時にすべての選択リストコンポーネントの先頭に [--なし--] 選択リスト値が自動的に追加されます。

有効な通貨の値のみを表示

複数の通貨を有効にした場合、画面フローには有効な通貨の値のみが表示されるようになりました。以前は、有効な通貨と無効な通貨がオプションとして表示されました。

[レコードを取得] 要素で関連オブジェクトの正確なパーセント数式項目値を取得

[レコードを取得] 要素で関連オブジェクトのパーセント型数式項目にアクセスしたときに、正確な値が返されるようになりました。API バージョン 51.0 以前では、関連オブジェクトの [レコードを取得] 要素でアクセスしたパーセント型数式項目は 100 で除算されなかったため、不正確な値が返されました。

すべてのフロートリガ種別でループ後に [レコードの更新] 要素を一括で実行

API バージョン 52 以降で実行されるフローでは、CRUD 操作とアクションはすべてのフロートリガ種別でループ後に完全に一括処理されます。

関連トピック:

[コレクション内のデータの並び替えと制限](#)

[選択リストの必須設定の正確な制御](#)

Einstein ボット

入力のおすすめ、言語ベースのインテントセット、3つの新しいベータ言語による言語機能拡張により、顧客が日常的に使用する言語でボットがより多くの顧客にリーチできるようになります。ベータになった記事の回答では、ナレッジ記事を異なる顧客グループに提供するためのナレッジデータカテゴリを作成できます。インテント管理一括アクションを使用すると、発言を簡単に移動させることができます。

このセクションの内容:

[入力のおすすめを使用した複数言語での発言の迅速な生成 \(ベータ\)](#)

入力のおすすめが簡単に設定できるようになりました。また、複数言語がサポートされるようになりました。この機能では既存のチャットデータを使用してインテントモデルを強化しますが、必要な発言が 75% 少なくなり、これまでより早く使用を開始できます。[言語] 項目を使用すると、特定の言語で発言を分類し、発言のおすすめを生成できます。

[記事の回答を使用したボットのナレッジ機能の強化 \(ベータ\)](#)

ボット管理者は、記事の回答を使用してボットがナレッジ記事からの回答を提供するようになります。記事の回答では、顧客の質問に対する回答を会話形式でナレッジ記事のいくつかの項目を含めて提供します。ベータになったこの機能には、スマートな更新がいくつか含まれており、その 1 つであるナレッジデータカテゴリ区分では、顧客区分に合わせてナレッジカテゴリをまとめることができます。Lightning Web コンポーネントを使用して、リッチテキストの回答を表示したり、画像や html などのリッチコンテンツをメッセージに追加します。

より少ない発言でのインテントモデルの使用開始

Einstein ボットがインテントモデルを作成するために必要な発言が少なくなり、より短時間で自然言語処理を開始できるようになりました。インテントあたり最少20件のインテントでインテントモデルを作成できます。

Einstein ボットが新しい NLP 言語に対応 (ベータ)

Einstein ボットで使用できる言語が増えると、顧客が希望する言語で顧客に連絡できるようになります。Einstein ボットがデンマーク語、韓国語、スウェーデン語の自然言語処理をベータとしてサポートするようになりました。

インテント管理の強化によるボット作成の迅速化

Einstein ボットビルダーのインテント管理環境がアップグレードされ、ボットを迅速に拡張できるようになりました。ダイアログのコピーでは貼付された発言を含めるオプションがサポートされるようになりました。また、発言をインテント間で、またはインテントセットに一括移動できます。

言語ベースのインテントセットを使用したスマートなインテントモデルの作成

発言に言語のタグ付けを使用することによって、インテントセットをさらに活用できます。インテントセットに複数の言語を含められるようになり、発言を新しい言語に一括割り当てできます。ボットのトレーニングでは、ボットの言語と一致する発言に重点が置かれるため、モデルが顧客に合わせて調整されます。

Boolean サポートのアップグレード

アップグレードされた Einstein ボットの言語モデルでは、顧客が「はい」または「いいえ」のバリエーションを発言したときに、より良く理解できるようになりました。英語の Boolean サポートが強化されたことにより、顧客が質問に応えるさまざまな言い方を取得できます。ベータになったマルチ言語の Boolean サポートによって、12 種類以上の言語で顧客が「はい」または「いいえ」と言ったときにボットが理解できるようになりました。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)


入力のおすすめを使用した複数言語での発言の迅速な生成 (ベータ)

入力のおすすめが簡単に設定できるようになりました。また、複数言語がサポートされるようになりました。この機能では既存のチャットデータを使用してインテントモデルを強化しますが、必要な発言が75%少なくなり、これまでより早く使用を開始できます。[言語]項目を使用すると、特定の言語で発言を分類し、発言のおすすめを生成できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザー: この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: Einstein ボットのメインページで入力のおすすめを有効にできます。入力のおすすめを起動するには、新しいインテントから [おすすめを取得] をクリックするか、発言の横にある [類似項目を検索] をクリックします。システム管理者は、発言の横にある [類似項目を検索] をクリックしてインテントセット内で入力のおすすめを起動できます。

- 入力のお勧めを有効にするには、プロファイルにチャットトランスクリプトオブジェクトに対する[すべて表示]アクセス権が必要です。
 - 入力のお勧めで高品質のお勧めを提供するには、言語あたり少なくとも2,500のチャットトランスクリプトレコードが必要です。
 - 入力のお勧めは、オランダ語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語をサポートしています。
-  **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

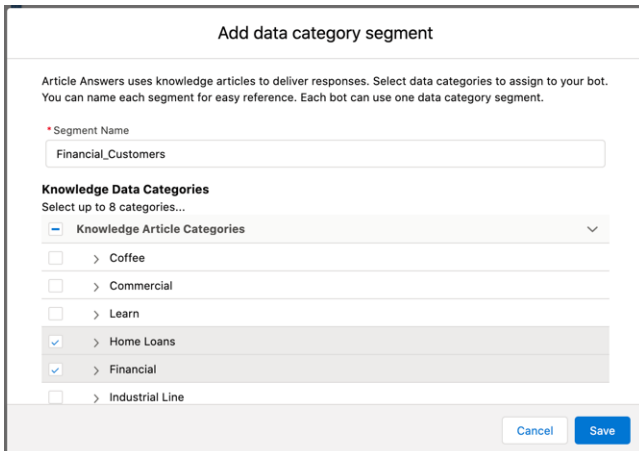
記事の回答を使用したボットのナレッジ機能の強化 (ベータ)

ボット管理者は、記事の回答を使用してボットがナレッジ記事からの回答を提供するようにできます。記事の回答では、顧客の質問に対する回答を会話形式でナレッジ記事のいくつかの項目を含めて提供します。ベータになったこの機能には、スマートな更新がいくつか含まれており、その1つであるナレッジデータカテゴリ区分では、顧客区分に合わせてナレッジカテゴリをまとめることができます。Lightning Web コンポーネントを使用して、リッチテキストの回答を表示したり、画像やhtmlなどのリッチコンテンツをメッセージに追加します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Einstein ボット」と入力し、[Einstein ボット] を選択し、[記事の回答] の横にある [使用開始] をクリックします。



Add data category segment

Article Answers uses knowledge articles to deliver responses. Select data categories to assign to your bot. You can name each segment for easy reference. Each bot can use one data category segment.

* Segment Name

Knowledge Data Categories
 Select up to 8 categories...

> Knowledge Article Categories

> Coffee

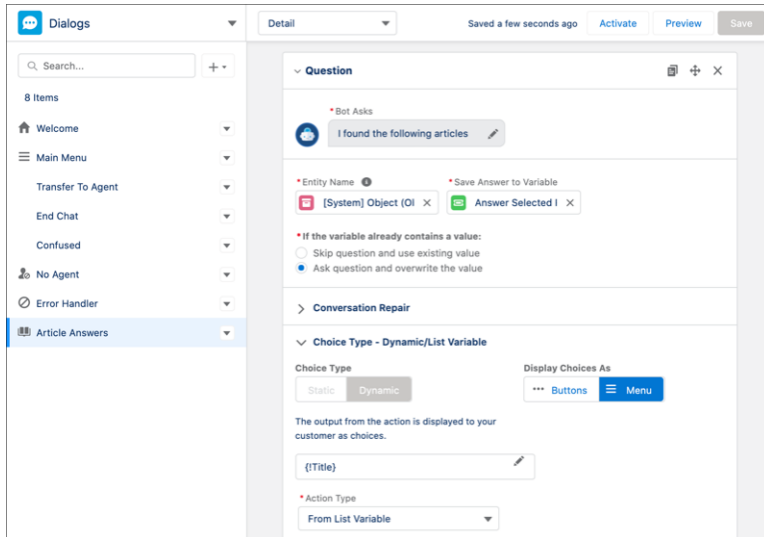
> Commercial

> Learn

> Home Loans

> Financial

> Industrial Line



- ☑ **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

より少ない発言でのインテントモデルの使用開始

Einstein ボットがインテントモデルを作成するために必要な発言が少なくなり、より短時間で自然言語処理を開始できるようになりました。インテントあたり最少 20 件のインテントでインテントモデルを作成できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザー: この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

- ☑ **メモ:** インテントあたり 20 件の発言での Einstein ボットインテントモデルは、ブラジルポルトガル語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語をサポートしています。「[特定の言語のボットの作成](#)」にサポート対象言語として記載されていて 20 件の発言のサポートに含まれていない言語では、インテントあたり 50 件以上の発言が必要です。

Einstein ボットが新しい NLP 言語に対応 (ベータ)

Einstein ボットで利用できる言語が増えると、顧客が希望する言語で顧客に連絡できるようになります。Einstein ボットがデンマーク語、韓国語、スウェーデン語の自然言語処理をベータとしてサポートするようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザー: この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

- ☑ **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

インテント管理の強化によるボット作成の迅速化

Einstein ボットビルダーのインテント管理環境がアップグレードされ、ボットを迅速に拡張できるようになりました。ダイアログのコピーでは貼付された発言を含めるオプションがサポートされるようになりました。また、発言をインテント間で、またはインテントセットに一括移動できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

言語ベースのインテントセットを使用したスマートなインテントモデルの作成

発言に言語のタグ付けを使用することによって、インテントセットをさらに活用できます。インテントセットに複数の言語を含められるようになり、発言を新しい言語に一括割り当てできます。ボットのトレーニングでは、ボットの言語と一致する発言に重点が置かれるため、モデルが顧客に合わせて調整されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Einstein Intent* セット」と入力すると、インストール済みのすべてのインテントセットが表示されます。インテントセットをクリックして、言語と一括アクションのツールにアクセスします。

The screenshot shows the 'Einstein Intent Sets' configuration page for 'Lookup Appointment'. The interface is in English. On the left, there is a section for 'Utterances (7)' with a language dropdown set to 'English - 7'. Below this is a table of utterances with columns for 'Utterance', 'Last Modified', 'Find Similar', and a delete icon. The first three utterances are selected. On the right, there is an 'Intent Details' panel showing the name 'Lookup Appointment', total utterances '18', and the date modified 'Feb 13, 2019'.

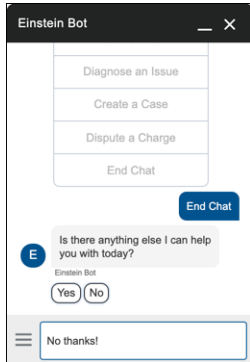
Utterance	Last Modified	Find Similar	Delete
<input checked="" type="checkbox"/> I would like to check the appoint...	Mar 22, 2021	Find Similar	X
<input checked="" type="checkbox"/> Lookup my appointment details	Mar 22, 2021	Find Similar	X
<input checked="" type="checkbox"/> find my appointment information	Mar 19, 2021	Find Similar	X
<input type="checkbox"/> lookup my car repair appointment	Mar 19, 2021	Find Similar	X
<input type="checkbox"/> can you lookup my repair appoint...	Mar 19, 2021	Find Similar	X
<input type="checkbox"/> tell me about my service appoint...	Mar 19, 2021	Find Similar	X
<input type="checkbox"/> I'd like to lookup my appointment	Mar 19, 2021	Find Similar	X

Boolean サポートのアップグレード

アップグレードされた Einstein ボットの言語モデルでは、顧客が「はい」または「いいえ」のバリエーションを発言したときに、より良く理解できるようになりました。英語の Boolean サポートが強化されたことにより、顧客が質問に答えるさまざまな言い方を取得できます。ベータになったマルチ言語の Boolean サポートによって、12種類以上の言語で顧客が「はい」または「いいえ」と言ったときにボットが理解できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザー: この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。



- 📌 **メモ:** マルチ言語の Boolean サポートはベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとしてします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

Experience Cloud

新しい[サービスは利用できません]ページを使用して常にサイトの継続性を保ち、専用のCDN証明書を使用してブランドとサイトのセキュリティを保護できます。Build Your Own (LWR) テンプレートがより広範囲に正式リリースされ、これを使用して、ページセクションのカラーパレットを含む新しいブランドシステムを活用できます。また、サポートが終了された Internet Explorer 11 にも別れを告げます。

💡 **ヒント:** 最近の [Experience Cloud への名称変更](#)により、新しい用語がいくつか取り入れられました。それぞれの内容を把握するのは大変かもしれません。概要は次のとおりです。

- **エクスペリエンスビルダーサイト** (旧称「Lightning コミュニティ」) は、エクスペリエンスビルダーでカスタマイズするテンプレートベースのサイトです。Lightning Web Runtime (LWR) の使用開始に伴い、さらに明確にするため2つの新しい用語が追加されました。
 - **LWR サイト**は、Build Your Own (LWR) テンプレートなど、最新の LWR ベースのテンプレートを使用して構築されます。
 - **Aura サイト**は、カスタマーサービス、Partner Central、カスタマー取引先ポータルなど、Aura で実行されるオリジナルのテンプレートを使用して構築されます。
- **Salesforce タブ + Visualforce サイト**は、Visualforce を使用して開発するサイトです。

どの新機能がサイトに適用されるかを識別しやすくするため、このリリースノートでは **LWR サイト**、**Aura サイト**、**Visualforce サイト** という用語を使用しています。

このセクションの内容:

エクスペリエンスビルダーサイト

新しい [サービスは利用できません] ページを使用してサイトの継続性を保ち、サイトの SEO の検出可能性を損なわずに訪問者を 1 つのページから別のページにリダイレクトできます。

開発者の生産性

強化された Build Your Own (LWR) テンプレートを使用して LWR サイトをより効率的に開発してブランド設定し、専用の CDN 証明書を使用してブランドとサイトのセキュリティを保護できます。

ゲストユーザセキュリティ

大規模ユーザが所有するレコードへのアクセス権を認証されていないゲストユーザに付与できます。また、データを保護するためにゲストサイトユーザレコードで使用されるメールアドレスが更新されます。

セキュリティと共有

Experience Cloud ユーザやサイトへの訪問者を保護します。

その他の変更

Experience Cloud を向上させる小規模な変更について説明します。

エクスペリエンスビルダーサイト

新しい [サービスは利用できません] ページを使用してサイトの継続性を保ち、サイトの SEO の検出可能性を損なわずに訪問者を 1 つのページから別のページにリダイレクトできます。

このセクションの内容:

エクスペリエンスビルダーサイトでの Internet Explorer 11 のサポートの終了

エクスペリエンスビルダーサイトの IE11 の延長サポートは 2020 年 12 月 31 日に終了しました。ユーザが IE11 を使用してエクスペリエンスビルダーサイトにアクセスしようとする、古いブラウザを使用していることと、更新するか別のブラウザを使用して環境を改善する必要があることを通知するウィンドウが表示されます。新機能はサポートされていますが、最新のブラウザでのみ使用できます。

カスタマイズ可能な [サービスは利用できません] ページを使用したビジネス継続性の維持 (正式リリース)

Salesforce ではサイトの継続性が維持されるように常に努めていますが、まれにサイトがダウンする状況に遭遇していることも把握しています。サイトが使用できなくなっても、顧客とのつながりを維持し、ブランドの継続性を保って、ケースを作成することはできます。エクスペリエンスビルダーの [サービスは利用できません] ページを使用して、ブランドに適合するようにメッセージや画像を設定します。顧客からのケースの受信を続行するには、[サービスは利用できません] ページから直接メール-to-ケースを含めます。[サービスは利用できません] ページはサイトが使用できないときに顧客に表示されますが、サイトが使用できる場合は顧客のエクスペリエンスに変更はありません。

エクスペリエンスビルダーサイトへのユーザのリダイレクト

Salesforce サイト以外の URL から同じドメインにあるエクスペリエンスビルダーサイトの URL にユーザをリダイレクトできるようになりました。この機能により、Web ページの検出可能性と SEO エクイティも保たれます。

正規 URL を使用した重複コンテンツの検索の制御

正規 URL を選択して、複数の URL を使用する 1 つのページまたは類似するコンテンツが含まれる異なるページを統合します。SEO を改善し、サイトの一連の重複ページで最も代表的なページが検索ボットで検索されるようにします。

エクスペリエンスビルダーサイトの画像への補助テキストの追加

補助テキストは、視覚障害のあるユーザまたは弱視ユーザがスクリーンリーダーを使用して、ページに表示されている画像の理解を深めるのに役立ちます。ユーザは、数式やフィードを使用してエクスペリエンスビルダーサイトに画像を追加するときに補助テキストを追加できるようになりました。

パスコンポーネントを介した納入商品状況の確認

パスコンポーネントを納入商品ページに追加して、サイトユーザがその状況を確認できるようにします。

Einstein 予測コンポーネントでのモデルカードの表示および時間ベースの予測のカスタマイズ

ユーザは、表示された予測に関連付けられたモデルカードを表示できます。相対的な開始日を使用して時間ベースの予測を計算します。予測を残り時間または日付として表示するように書式設定します。

エクスペリエンスビルダーサイトでの Internet Explorer 11 のサポートの終了

エクスペリエンスビルダーサイトの IE11 の延長サポートは 2020 年 12 月 31 日に終了しました。ユーザが IE11 を使用してエクスペリエンスビルダーサイトにアクセスしようとすると、古いブラウザを使用していることと、更新するか別のブラウザを使用して環境を改善する必要があることを通知するウィンドウが表示されます。新機能はサポートされていますが、最新のブラウザでのみ使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#) に適用されます。LWR サイトでは IE11 がサポートされませんでした。

カスタマイズ可能な [サービスは利用できません] ページを使用したビジネス継続性の維持 (正式リリース)

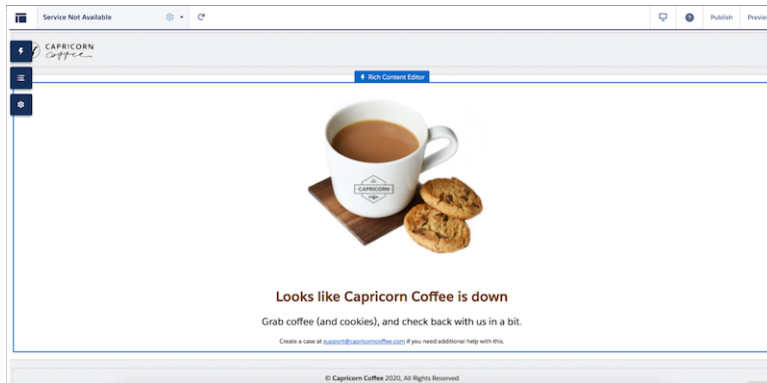
Salesforce ではサイトの継続性が維持されるように常に努めていますが、まれにサイトがダウンする状況に遭遇していることも把握しています。サイトが使用できなくなっても、顧客とのつながりを維持し、ブランドの継続性を保って、ケースを作成することはできます。エクスペリエンスビルダーの [サービスは利用できません] ページを使用して、ブランドに適合するようにメッセージや画像を設定します。顧客からのケースの受信を続行するには、[サービスは利用できません] ページから直接メール-to-ケースを含めます。[サービスは利用できません] ページはサイトが使用できないときに顧客に表示されますが、サイトが使用できるときは顧客のエクスペリエンスに変更はありません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#) と [LWR サイト](#) に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、標準のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) システムを有効にしている次のテンプレートを使用しているサイトで使用できます: Build Your Own (LWR)、B2C (LWR)、Partner Central、B2B Commerce、Customer Service、Build Your Own、Help Center、Customer Account Portal。

方法: エクスペリエンスビルダーの HTML エディタコンポーネントを使用して、[サービスは利用できません] ページをカスタマイズします。リッチコンテンツエディタコンポーネントをページに追加して独自のテキストおよび画像を追加できます。サイトがダウンしてもユーザがケースを作成できるようにメール-to-ケースを含

めることができます。または、サイトが使用できないときに顧客が他のオブジェクトのレコードを作成できるように AppExchange のメール-to パッケージを含めることもできます。すでにカスタム静的リソースを使用しているサイトでは、[サービスは利用できません] ページは有効になりません。[エクスペリエンスビルダー]>[管理]>[ページ]に移動して、[エクスペリエンスビルダーの自動生成された [サービスは利用できません] ページを使用] を選択し、カスタム静的リソースからエクスペリエンスビルダーの [サービスは利用できません] ページに切り替えます。エクスペリエンスビルダーサイトと Visualforce サイトの両方を使用している場合、両方で同じ [サービスは利用できません] ページを表示できます。カスタマイズしたエクスペリエンスビルダーの [サービスは利用できません] ページを保存したら、静的リソースとして Visualforce サイトに追加できます。



- ☑ **メモ:** スクラッチ組織で [サービスは利用できません] ページを使用している場合、PublishExpBuilderBasedSna および PublishAuraExpBuilderBasedSna 機能をスクラッチ組織設定に追加します。

エクスペリエンスビルダーサイトへのユーザのリダイレクト

Salesforce サイト以外の URL から同じドメインにあるエクスペリエンスビルダーサイトの URL にユーザをリダイレクトできるようになりました。この機能により、Web ページの検出可能性と SEO エクイティも保たれます。

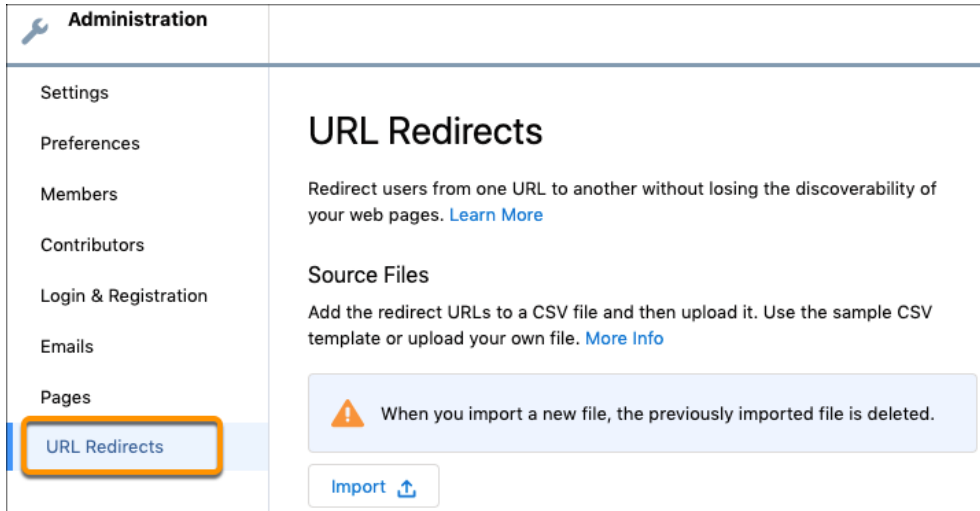
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#) と [LWR サイト](#) に適用されます。

方法: この機能を使用して、Salesforce 外部のページから同じドメインにあるエクスペリエンスビルダーサイトにユーザをリダイレクトします。この機能により、ページを Experience Cloud に移行した際にサイトの検出可能性と SEO エクイティも保たれます。

URL リダイレクトを設定するには、まずエクスペリエンスワークスペースで [管理] をクリックします。[URL リダイレクト] ページから、リダイレクト元 URL とリダイレクト先 URL を CSV ファイルを追加します。


- ☑ **メモ:** リダイレクト元 URL は Salesforce 外部のページです。リダイレクト先 URL はユーザのリダイレクト先となるエクスペリエンスビルダーサイトです。

どこから始めればよいかわからない場合は、サンプル CSV テンプレートを使用して URL を追加できます。次に、[インポート] をクリックしてファイルをアップロードします。



ファイルサイズが 10,240 バイト以下でアップロードに成功した場合、[URL リダイレクト] ページに最後のインポートの概要が表示されます。

ファイルサイズが 10,240 バイトを超えているか、以前にインポートされた URL の総数が 100 件を超えている場合、インポートの状況を通知するメールが届きます。

 **メモ:** 新しい CSV ファイルをインポートすると、前回インポートしたリダイレクトファイルは上書きされます。URL を既存のインポート済み URL リストに追加する場合、新しい URL をエクスポートして既存のファイルに追加することをお勧めします。その後、CSV ファイルを再度インポートします。

正規 URL を使用した重複コンテンツの検索の制御

正規 URL を選択して、複数の URL を使用する 1 つのページまたは類似するコンテンツが含まれる異なるページを統合します。SEO を改善し、サイトの一連の重複ページで最も代表的なページが検索ボットで検索されるようにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#) と [LWR サイト](#) (ページ 394) に適用されます。

理由: 正規化されていないと、検索エンジンで同じまたは類似するすべての URL が一意のページとみなされ、いくつかの SEO の問題が発生する可能性があります。

- 検索エンジンで一意のコンテンツが見落とされる可能性がある。
- コンテンツの重複が多すぎると、コンテンツのランキングが低下する可能性がある。
- ランク付けされたコンテンツに最適な URL が反映されない。

方法: 標準ページの正規 URL を設定するには、エクスペリエンスビルダーの [ページのプロパティ] タブを開きます。[SEO] タブを選択し、[Head タグを編集] を選択します。正規 URL で表示されるプロパティを入力します。

```
<link rel="canonical" href="https://mysite.com/s/canonicalURL">
```

動的データのあるレコードページの場合、正規 URL を保存するオブジェクトのカスタム項目を作成することをお勧めします。詳細は、「[正規 URL タグ](#)」を参照してください。

エクスペリエンスビルダーサイトの画像への補助テキストの追加

補助テキストは、視覚障害のあるユーザまたは弱視ユーザがスクリーンリーダーを使用して、ページに表示されている画像の理解を深めるのに役立ちます。ユーザは、数式やフィードを使用してエクスペリエンスビルダーサイトに画像を追加するときに補助テキストを追加できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#) と [LWR サイト](#) に適用されます。

方法: ユーザが投稿またはコメントに画像を追加するときに、新しい [補助テキスト] 項目が表示されます。この項目には画像の名前が自動的に入力されますが、ユーザは必要に応じて補助テキストを変更し、詳細を追加できます。

パソコンポーネントを介した納入商品状況の確認

パソコンポーネントを納入商品ページに追加して、サイトユーザがその状況を確認できるようにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#) に適用されます。

Einstein 予測コンポーネントでのモデルカードの表示および時間ベースの予測のカスタマイズ

ユーザは、表示された予測に関連付けられたモデルカードを表示できます。相対的な開始日を使用して時間ベースの予測を計算します。予測を残り時間または日付として表示するように書式設定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#) に適用されます。

対象ユーザ: Einstein 予測コンポーネントは、Tableau CRM Plus ライセンスまたは Einstein Predictions ライセンスのいずれかを持つお客様が使用できます。この各ライセンスは有料オプションで使用できます。予測をページに表示するには、ユーザの Salesforce アカウントに「Einstein Discovery のおすすめを表示」権限が割り当てられている必要があります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein 予測 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[モデルカードによる予測の透過性の向上 \(正式リリース\)](#)

[相対的な開始日を使用した時間ベースの予測の表示](#)

開発者の生産性

強化された Build Your Own (LWR) テンプレートを使用して LWR サイトをより効率的に開発してブランド設定し、専用の CDN 証明書を使用してブランドとサイトのセキュリティを保護できます。

このセクションの内容:

Build Your Own (LWR) がすべてのユーザにリリース

Build Your Own (LWR) テンプレートが Salesforce CMS を購入しなくてもサポートされるすべてのエディションで使用できるようになりました。以前は、このテンプレートは Developer Edition で使用でき、Salesforce CMS を購入した場合には Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition で使用できました。

より簡単な LWR サイトのブランド設定

Build Your Own (LWR) テンプレートを使用して作成されたサイトなどの LWR サイトには、広範なブランドプロパティが含まれる [テーマ] 領域が含まれるようになりました。ブランドの最適なバージョンが反映されるようにカラーパレット、Salesforce CMS 画像、テキストスタイルを使用してサイトを構築します。

--dxp スタイル設定フックを使用した Lightning Web コンポーネントのブランド設定 (正式リリース)

Lightning Web Runtime (LWR) には、--d xp スタイル設定フックを使用する新しいブランドシステムが含まれています。新しいシステムを使用して、基本およびカスタム Lightning Web コンポーネントをより簡単に変更して、LWR サイト全体で一貫性のあるデザインを実現できます。

特権スクリプトを使用した LWR サイトの Shadow DOM のバイパス

特権スクリプトを使用すると、サードパーティ JavaScript ライブラリが LWR サイトのコンポーネントにアクセスできるようになります。LWR サイトは、そのすべての要素を Shadow DOM でカプセル化するため、サードパーティライブラリはコンポーネントとやりとりできません。このスクリプトを使用すると、Google アナリティクスや Google タグマネージャなどのライブラリが Shadow DOM をバイパスできるようになります。

CDN 専用の証明書を使用したサイトのパフォーマンスの改善 (正式リリース)

単一証明書のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) を採用して、ブランドやサイトのセキュリティを保護します。Salesforce CMS または Experience Cloud ライセンスを購入すると、CDN の 10 個の単一ドメイン証明書と 48 テラバイト (5 テラバイトから増加) のトラフィックを得られます。証明書は CDN によって管理されるため、設定すればあとはお任せです。

SOAP API での Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目の非表示

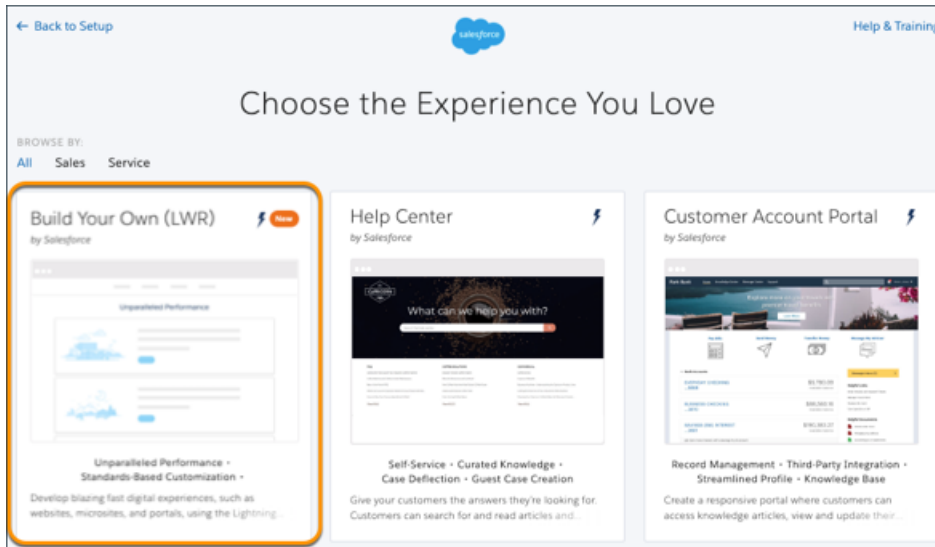
ニックネームが有効になっているサイトからユーザが API コールを実行した場合に、SOAP API 内で Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目を非表示にできるようになりました。

Build Your Own (LWR) がすべてのユーザにリリース

Build Your Own (LWR) テンプレートが Salesforce CMS を購入しなくてもサポートされるすべてのエディションで使用できるようになりました。以前は、このテンプレートは Developer Edition で使用でき、Salesforce CMS を購入した場合には Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition で使用できました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。テンプレートは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

理由: 新しい Lightning Web Runtime (LWR) により提供されるこのカスタマイズ可能なテンプレートを使用して、Web サイト、マイクロサイト、ポータルなど、非常に高速なデジタル環境を開発できます。



ヒント: Build Your Own (LWR) は、いくつかのコンポーネントおよび最も重要なページのみを提供する最小限のテンプレートです。このテンプレートは Lightning Web コンポーネントの開発と Salesforce DX、ユーザーインターフェース API、Apex の操作に慣れている開発者に最適です。

関連トピック:

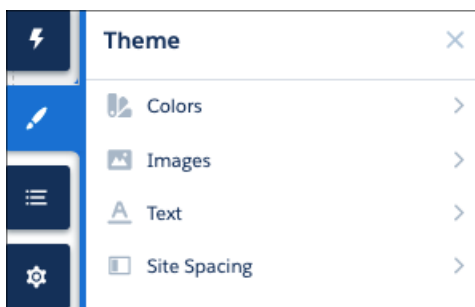
[LWR Sites for Experience Cloud Developer Guide \(Experience Cloud の LWR サイト開発者ガイド\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

より簡単な LWR サイトのブランド設定

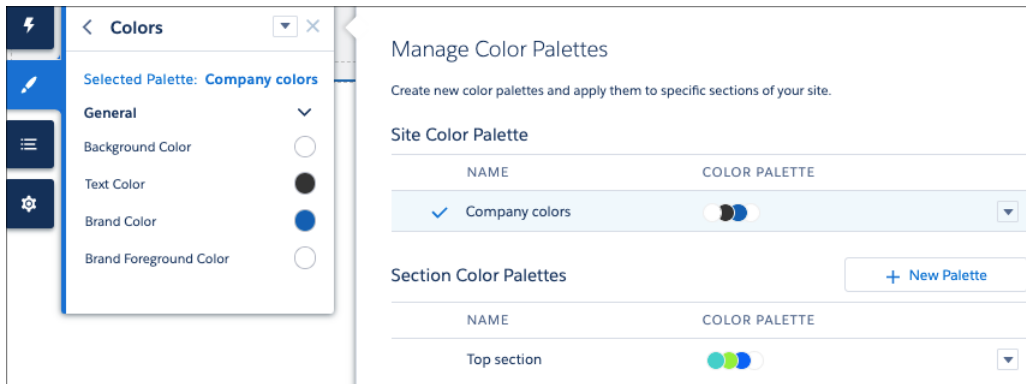
Build Your Own (LWR) テンプレートを使用して作成されたサイトなどの LWR サイトには、広範なブランドプロパティが含まれる [テーマ] 領域が含まれるようになりました。ブランドの最適なバージョンが反映されるようにカラーパレット、Salesforce CMS 画像、テキストスタイルを使用してサイトを構築します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

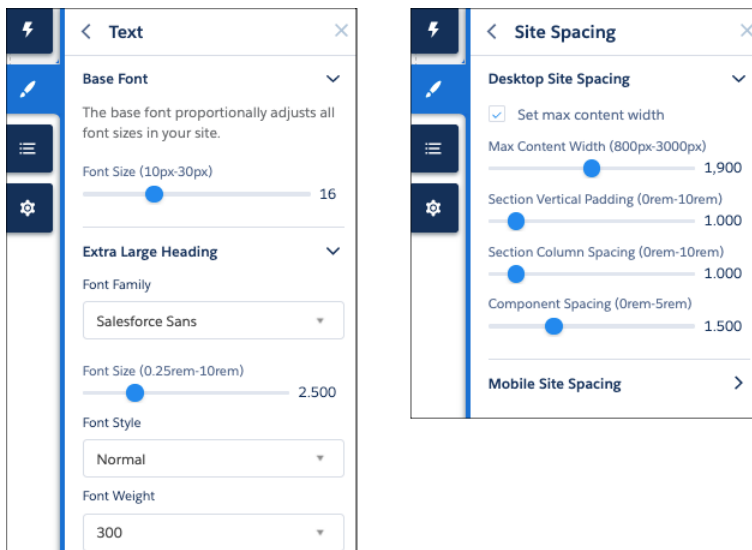
方法: エクスペリエンスビルダーで、[テーマ] パネルを開き、さまざまな色、画像、テキスト、サイトスペーシングプロパティから選択します。



メインサイトの色とは異なるカラーパレットを作成し、ページの特定のセクションに適用することで、ページをより魅力的なものにします。また、[画像] タブで Salesforce CMS ワークスペースから画像を選択してロゴやブラウザアイコン (お気に入りアイコン) を作成します。



[テキスト] タブで、すべての種別のテキスト (リンクやボタンを含む) の動的なフォントスタイル、ヘッダー、飾りから選択します。カスタムフォントをサイトに追加するには、[設定] > [詳細] > [ヘッドマークアップを編集] をクリックして、[ヘッドマークアップ] でカスタムフォントファミリー名を定義します。また、デスクトップビューとモバイルビューについて、サイトのコンテンツの最大幅、セクションのpadding、およびセクションの列やコンポーネントのスペーシングも調整します。



ヒント: [テーマ] パネルの各プロパティは新しい `--dxp` スタイル設定フックに対応付けられ、これはカスタム Lightning Web コンポーネントを作成するときに使用できます。

--dxp スタイル設定フックを使用した Lightning Web コンポーネントのブランド設定 (正式リリース)

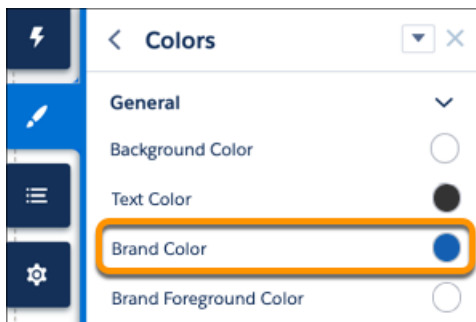
Lightning Web Runtime (LWR) には、--dxp スタイル設定フックを使用する新しいブランドシステムが含まれています。新しいシステムを使用して、基本およびカスタム Lightning Web コンポーネントをより簡単に変更して、LWR サイト全体で一貫性のあるデザインを実現できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

理由: Salesforce Lightning Design System (SLDS) では現在、基本コンポーネントのスタイル設定フックが使用されません。スタイル設定フックでは CSS カスタムプロパティが使用されます。これは、セレクタの範囲内のすべての子孫にカスケードされる CSS 内の変数です。

関連付けられたバリエーションや状態を含めて、サイトのすべてのコンポーネントでブランドを正確に反映するには、数百件のスタイル設定フック定義が必要になることがよくあります。しかし、この新しい --dxp スタイル設定フックは、下位レベルのコンポーネントのスタイル設定フックに対応付けられるカスタムプロパティを減らしたセットになっています。そのため、多数の個別のコンポーネントに影響する1つのフックを設定し、サイト全体をはるかに簡単にブランド設定できます。

[LWR サイトの新しい \[テーマ\] パネル](#) のブランドプロパティを使用するカスタムボタンコンポーネントを開発したいと考えているとします。[テーマ] パネルの各プロパティは --dxp スタイル設定フックに対応付けられます。この場合、サイトの [ブランドの色] をボタンの背景色として使用するために、コンポーネントは --dxp-g-brand グローバルスタイル設定フックを参照します。



```
.my-custom-button-component {
  background-color: var(--dxp-g-brand);
  color: var(--dxp-g-brand-contrast);
}
```

また、ユーザが [テーマ] パネルの [ブランドの色] プロパティを更新すると、そのプロパティに関連付けられたフックを使用する Lightning Web コンポーネントが自動的に更新されます。

方法: Summer '21 より前に作成された LWR サイトで --dxp スタイル設定フックを使用するには、DXP ブランドスタイルシートを追加します。Summer '21 で作成された新しい LWR サイトには、自動的にこれらのスタイルシートが含まれます。

[設定]>[詳細]>[ヘッドマークアップを編集]をクリックし、次のコードをヘッドマークアップエディタに含めます。

```
<link rel="stylesheet" href="{ basePath
}/assets/styles/salesforce-lightning-design-system.min.css?{ versionKey }" />
<link rel="stylesheet" href="{ basePath
}/assets/styles/dxp-site-spacing-styling-hooks.min.css?{ versionKey }" />
<link rel="stylesheet" href="{ basePath }/assets/styles/dxp-styling-hooks.min.css?{
versionKey }" />
<link rel="stylesheet" href="{ basePath }/assets/styles/dxp-slds-extensions.min.css?{
versionKey }" />
```

ヒント: LWR サイトで使用するために --dxp スタイル設定フックを使用するカスタム Lightning Web コンポーネントを作成する場合、Aura サイトでもコンポーネントを使用できます。Aura サイトの[テーマ]パネルにはさまざまなブランドプロパティが含まれていますが、これらのプロパティは新しいスタイル設定フックに十分に対応付けられます。

特権スクリプトを使用した LWR サイトの Shadow DOM のバイパス

特権スクリプトを使用すると、サードパーティ JavaScript ライブラリが LWR サイトのコンポーネントにアクセスできるようになります。LWR サイトは、そのすべての要素を Shadow DOM でカプセル化するため、サードパーティライブラリはコンポーネントとやりとりできません。このスクリプトを使用すると、Google アナリティクスや Google タグマネージャなどのライブラリが Shadow DOM をバイパスできるようになります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [LWR サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[LWR Sites for Experience Cloud Developer Guide \(Experience Cloud の LWR サイト開発者ガイド\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

CDN 専用の証明書を使用したサイトのパフォーマンスの改善 (正式リリース)

単一証明書のコンテンツ配信ネットワーク(CDN)を採用して、ブランドやサイトのセキュリティを保護します。Salesforce CMS または Experience Cloud ライセンスを購入すると、CDN の 10 個の単一ドメイン証明書と 48 テラバイト (5 テラバイトから増加) のトラフィックを得られます。証明書は CDN によって管理されるため、設定すればあとはお任せです。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびモバイルでアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、CMS を購入したユーザまたは Customer Community、Customer Community Plus、Partner Community、および External Apps ライセンスを使用しているユーザに適用されます。


方法: サイトのドメインを設定するときに、単一証明書ドメインオプションを選択します。その他のブランド証明書やトラフィック許容量の増加については、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

SOAP API での Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目の非表示

ニックネームが有効になっているサイトからユーザが API コールを実行した場合に、SOAP API 内で Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目を非表示にできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

方法: [設定] > [デジタルエクスペリエンス] > [設定] で [ニックネームが有効になっているサイト内から API コールが実行された場合に、SOAP API 内でサイトユーザの名および姓項目を非表示にする] を有効にします。2021 年 2 月 18 日以降に作成された組織ではこの設定はデフォルトでオンになっています。

 **メモ:** この設定は、サイトごとに設定される [ニックネームを表示] 設定と連携します。名前項目を非表示にする各サイトで、[ニックネームを表示] を有効にします。各サイトでエクスペリエンスワークスペースにアクセスします ([設定][デジタルエクスペリエンス][すべてのサイト][各サイトの) ワークスペース)。[管理] ワークスペースで [ニックネームを表示] を有効にして保存します。

ゲストユーザセキュリティ

大規模ユーザが所有するレコードへのアクセス権を認証されていないゲストユーザに付与できます。また、データを保護するためにゲストサイトユーザレコードで使用されるメールアドレスが更新されます。

このセクションの内容:

認証されていないゲストユーザへの大規模ユーザが所有するレコードへのアクセス権の付与

ゲストユーザ共有ルールを作成するときに、大規模コミュニティまたはサイトユーザが所有するレコードを含めるかどうかを選択します。デフォルトでは、ゲストユーザ共有ルールには、ルールの条件に一致し、認証済みユーザ、ゲストユーザ、キューが所有するレコードのみが含まれます。ExperienceCloud サイトのセキュリティ強化のため、大規模ユーザが所有するレコードへのアクセス権をゲストユーザに付与する方法はこの設定のみになります。

ゲストユーザのメールアドレスの更新 (更新)

ExperienceCloud または Salesforce サイトを作成すると、ゲストサイトユーザが自動的に作成されます。Summer '21 リリースより前に作成されたサイトでは、サイトゲストユーザレコードのメールアドレスが、サイトを作成した Salesforce ユーザのメールアドレスになっていました。Summer'21 リリース以降、ゲストサイトユーザレコードで使用するダミーメールアドレスが生成されます。

ゲストユーザライセンスの更新

Spring '21 より前に作成されたサイトの認証されていないゲストユーザを、提供されるユーザライセンスに更新します。このライセンスは自動的に更新されます。

認証されていないゲストユーザへの大規模ユーザが所有するレコードへのアクセス権の付与

ゲストユーザ共有ルールを作成するときに、大規模コミュニティまたはサイトユーザが所有するレコードを含めるかどうかを選択します。デフォルトでは、ゲストユーザ共有ルールには、ルールの条件に一致し、認証済みユーザ、ゲストユーザ、キューが所有するレコードのみが含まれます。ExperienceCloudサイトのセキュリティ強化のため、大規模ユーザが所有するレコードへのアクセス権をゲストユーザに付与する方法はこの設定のみになります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべての [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

対象ユーザ: このオプションは、大規模ユーザがいる場合にのみ使用できます。大規模ユーザには、External Apps、Customer Community、High Volume Customer Portal、Customer Portal、および Authenticated Website のライセンスの種類が含まれます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「共有設定」と入力し、[共有設定] を選択します。オブジェクトの [共有ルール] 関連リストで、[新規] をクリックして [条件に基づくゲストユーザアクセス] ルールタイプを選択します。条件を指定した後で、大規模ユーザが所有するレコードを共有するには、[大規模ユーザが所有するレコードを含める] を選択します。

このオプションは、ゲストユーザ共有ルールでのみ使用できます。所有者に基づく共有ルールや条件に基づく共有ルールでは使用できません。共有ルールを作成した後でこのチェックボックスを編集することはできません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 大規模コミュニティまたはサイトのユーザについて \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: ゲストユーザ共有ルールの作成 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ゲストユーザのメールアドレスの更新 (更新)

ExperienceCloud または Salesforce サイトを作成すると、ゲストサイトユーザが自動的に作成されます。Summer'21 リリースより前に作成されたサイトでは、サイトゲストユーザレコードのメールアドレスが、サイトを作成した Salesforce ユーザのメールアドレスになっていました。Summer'21 リリース以降、ゲストサイトユーザレコードで使用するダミーメールアドレスが生成されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

方法: Summer'21 リリースより前に作成されたサイトの場合、各サイトのゲストサイトユーザレコードをチェックして、使用されているメールが公開可能であることを確認します。ゲストサイトユーザレコードを作成するために使用されるメールアドレスには、レコードの作成以外に機能的な目的はありません。公開しても問題ないメールアドレスを使用してください。

組織のリリース更新をチェックして、サイトのゲストユーザレコードのメールアドレスの変更方法に関する詳細を確認します。

ゲストユーザライセンスの更新

Spring'21 より前に作成されたサイトの認証されていないゲストユーザを、提供されるユーザライセンスに更新します。このライセンスは自動的に更新されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[サイトのゲストユーザを最新のライセンスに更新](#)

セキュリティと共有

Experience Cloud ユーザやサイトへの訪問者を保護します。

このセクションの内容:

[Experience Cloud サイトおよび Salesforce サイトでのセキュアな HTTPS 接続の適用](#)

HTTPS 接続の適用や HTTP 要求のアップグレードを行う設定が有効になりましたが、これらは必須でありデフォルトで適用されるため削除されました。これらの変更は、カスタムドメインで提供されているかどうかに関係なく、すべてのサイトに適用されます。サイトを介してコンテンツをホストするカスタムドメインの HSTS 事前読み込み登録を許可しておくことをお勧めします。こうすることで、HTTP リダイレクト中の攻撃を回避して保護することができます。

[ログインプロセス中の顧客の保護](#)

不明な URL へのリダイレクトをブロックすることで、組み込みログインで Experience Cloud サイトに正常にログインした顧客を保護します。

[メールアドレスの変更の確認による Experience Cloud ユーザの保護](#)

セキュリティ脅威に対してユーザアカウントを保護するために、[メールアドレスの変更に対してメール確認が必要] 設定が自動的に有効化されるようになりました。この設定が有効になっている場合、Experience Cloud サイトユーザはメールアドレスの変更を確認する必要があります。

Experience Cloud サイトおよび Salesforce サイトでのセキュアな HTTPS 接続の適用

HTTPS 接続の適用や HTTP 要求のアップグレードを行う設定が有効になりましたが、これらは必須でありデフォルトで適用されるため削除されました。これらの変更は、カスタムドメインで提供されているかどうかに関係なく、すべてのサイトに適用されます。サイトを介してコンテンツをホストするカスタムドメインの HSTS 事前読み込み登録を許可しておくことをお勧めします。こうすることで、HTTP リダイレクト中の攻撃を回避して保護することができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

理由: 次の設定は有効化されて削除されました。

- [ドメインの詳細] ページの [Strict Transport Security ヘッダーを有効化]

- [セッションの設定] ページの [Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトの HSTS]
- [サイトの詳細] ページの [セキュアな接続 (HTTPS) が必要]
- [サイトの詳細] ページの [すべての要求を HTTPS にアップグレード]

状態チェックのスコア計算にはこれらの設定が使用されていたため、この変更によりスコアに軽微な影響が及ぶ可能性があります。

関連トピック:

[ドメインでのセキュアな HTTPS 接続の適用](#)

[HSTS プリロードを使用したドメインへのセキュアな接続のみの許可](#)

[Salesforce ヘルプ: \[状態チェック\] のスコアの計算方法 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

ログインプロセス中の顧客の保護

不明な URL へのリダイレクトをブロックすることで、組み込みログインで Experience Cloud サイトに正常にログインした顧客を保護します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[不明な URL への顧客のリダイレクトをブロック](#)

メールアドレスの変更の確認による Experience Cloud ユーザの保護

セキュリティ脅威に対してユーザアカウントを保護するために、[メールアドレスの変更に対してメール確認が必要] 設定が自動的に有効化されるようになりました。この設定が有効になっている場合、ExperienceCloud サイトユーザはメールアドレスの変更を確認する必要があります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[Experience Cloud ユーザ、パートナー、顧客のメールアドレス変更時に確認が必要 \(更新、適用済み\)](#)

その他の変更

Experience Cloud を向上させる小規模な変更について説明します。

このセクションの内容:

Mobile Publisher アプリケーションでのタブナビゲーションの使用

タブメニューを使用して、モバイルデバイスでのサイトのナビゲーションをシンプルにします。タブは画面の下部に常に表示されるため、Mobile Publisher アプリケーション内をすばやく簡単に (片手でも) 移動できます。

サイトの SEO の改善

要求をサイトのシステム管理 URL から、サイトを提供する HTTPS カスタムドメインにリダイレクトして Experience Cloud サイトの検索エンジン最適化 (SEO) を改善します。

サイトの認証済みユーザのパフォーマンスの改善

Web ブラウザでサイトの Visualforce ページをキャッシュして、認証済みユーザの環境を改善します。

Lightning Experience の [設定] でのナレッジのトピックの有効化

トピックを使用すると、ナレッジ記事を整理したり、Experience Cloud サイトのメンバーがナレッジ記事を使用できるようにしたりできます。サイトのナレッジを有効にするときに、Lightning Experience の [設定] でナレッジや他のオブジェクトのトピックを簡単に有効化できるようになりました。この機能は、Salesforce Classic のみで使用可能でした。

プロフィールページでのユーザのすべての活動の表示

ユーザのプロフィールフィードを表示して、[すべての更新] 検索条件を選択すると、グループやトピックページおよびレコードでユーザがコメントした投稿も表示されるようになりました。

Customer Community ライセンスを使用した ToDo の作成、編集、削除

Customer Community ライセンスを使用して ToDo を更新します。ユーザは、自分が所有する ToDo を作成、編集、削除できます。また、他のユーザの ToDo を作成したり、他のユーザと共有している ToDo を更新したりすることもできます。

Mobile Publisher アプリケーションでのタブナビゲーションの使用

タブメニューを使用して、モバイルデバイスでのサイトのナビゲーションをシンプルにします。タブは画面の下部に常に表示されるため、Mobile Publisher アプリケーション内をすばやく簡単に (片手でも) 移動できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Mobile Publisher アプリケーションでアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

サイトの SEO の改善

要求をサイトのシステム管理 URL から、サイトを提供する HTTPS カスタムドメインにリダイレクトして Experience Cloud サイトの検索エンジン最適化 (SEO) を改善します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

関連トピック:

[カスタムドメインへのサイトトラフィックのリダイレクト](#)

サイトの認証済みユーザのパフォーマンスの改善

Web ブラウザでサイトの Visualforce ページをキャッシュして、認証済みユーザの環境を改善します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Experience Cloud サイトの Visualforce ページに適用されます。

関連トピック:

[認証済みユーザ用にサイトの Visualforce ページのキャッシュ](#)

Lightning Experience の [設定] でのナレッジのトピックの有効化

トピックを使用すると、ナレッジ記事を整理したり、Experience Cloud サイトのメンバーがナレッジ記事を使用できるようにしたりできます。サイトのナレッジを有効にするときに、Lightning Experience の [設定] でナレッジや他のオブジェクトのトピックを簡単に有効化できるようになりました。この機能は、Salesforce Classic のみで使用可能でした。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Lightning Experience の \[設定\] でのオブジェクトのトピックの有効化](#)

プロフィールページでのユーザのすべての活動の表示

ユーザのプロフィールフィールドを表示して、[すべての更新] 検索条件を選択すると、グループやトピックページおよびレコードでユーザがコメントした投稿も表示されるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

Customer Community ライセンスを使用した ToDo の作成、編集、削除

Customer Community ライセンスを使用して ToDo を更新します。ユーザは、自分が所有する ToDo を作成、編集、削除できます。また、他のユーザの ToDo を作成したり、他のユーザと共有している ToDo を更新したりすることもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura サイト](#)、[LWR サイト](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

対象ユーザ: この変更は Customer Community および Customer Community Login ライセンスに適用されます。

方法: カスタマーコミュニティプロフィールおよびカスタマーコミュニティログインプロフィールで [ToDo の編集] を有効にしてこのアクセス権をユーザに付与します。

フィールドサービス

パスを使用して作業者が正しく作業を開始できるようにガイドし、作業者が納入商品の設定状況を把握できるようにします。作業プランを使用して作業を完了するためのガイド付きステップで作業者が順調に作業できるようにして、共通の作業プランおよび作業ステップのテンプレートを 사용하여サービスマネージャが作業プランを簡単に管理できるようにします。レコメンデーションビルダーを使用して作業指示の部品を Einstein で推奨できるようにするか、これを使用してビジネスニーズに合ったカスタムのおすすめを構築します。

このセクションの内容:

おすすめテンプレートを使用した Field Service 作業指示での部品の推奨

Einstein レコメンデーションビルダーを使用して、より迅速かつスマートにおすすめを構築できます。事前定義済みの Parts to Work Order テンプレートを使用して、作業指示の部品を簡単に推奨できます。また、設定を調整しておすすめを最適化できます。ルールベースのロジックを使用する代わりに、過去のデータから学習する Einstein を使用すればよりスマートなおすすめを構築できます。

納入商品設定の合理化とバーチャルの紙吹雪での成功の祝福

納入商品オブジェクトのパスを作成し、作業者が納入商品の設定状況を把握できるようにして、顧客の環境を改善します。納入商品が指定されたパスフェーズに到達したときに、バーチャルの紙吹雪をまいて作業者の進行状況を承認します。

作業プランを使用した一貫したサービスの提供(正式リリース)

作業プランで指示されたステップでフィールドサービスチームをガイドし、作業指示を完了できるように後押しします。最前線の作業員やバックオフィスの作業員は、割り当てをより短時間で完了でき、迷うことが少なくなります。

Field Service Scheduling

派遣担当者がよりきめ細かく制御できるようにしてルール違反チェックを簡略化します。増加した拡張一致作業ルールを使用して、作業に対応できる作業員を特定できます。作業のスケジュール設定を簡単にするため、特定の日または週に不在となる作業員を派遣担当者に示すことができます。シフトパターンが更新されており、より効率的にシフトを作成して割り当てることができます。

Field Service Mobile アプリケーション

オフラインの作業員向けに複数のレコードの選択と共有を簡略化します。会社が自分の位置を記録して共有するタイミングを派遣作業員が把握できるようにして、顧客が派遣作業員の位置をより正確に確認できるようにします。

おすすめテンプレートを使用した Field Service 作業指示での部品の推奨

Einstein レコメンデーションビルダーを使用して、より迅速かつスマートにおすすめを構築できます。事前定義済みの Parts to Work Order テンプレートを使用して、作業指示の部品を簡単に推奨できます。また、設定を調整しておすすめを最適化できます。ルールベースのロジックを使用する代わりに、過去のデータから学習する Einstein を使用すればよりスマートなおすすめを構築できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能は、Service Cloud Einstein および Lightning Platform Plus ライセンスで使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Field Service 設定」と入力し、[Einstein レコメンデーションビルダー] 項目のサービス設定を有効にして保存します。Einstein レコメンデーションビルダーで、テンプレートベースまたはカスタムのおすすめを構築します。[部品-to-作業指示] を選択します。おすすめが構築されたら、スコアカードで結果を確認します。[設定] リストビューからおすすめにアクセスします。

納入商品設定の合理化とバーチャルの紙吹雪での成功の祝福

納入商品オブジェクトのパスを作成し、作業者が納入商品の設定状況を把握できるようにして、顧客の環境を改善します。納入商品が指定されたパスフェーズに到達したときに、バーチャルの紙吹雪をまいて作業者の進行状況を承認します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および iOS と Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: パスによるユーザーのガイド \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

作業プランを使用した一貫したサービスの提供 (正式リリース)

作業プランで指示されたステップでフィールドサービスチームをガイドし、作業指示を完了できるように後押しします。最前線の作業員やバックオフィスの作業員は、割り当てをより短時間で完了でき、迷うことが少なくなります。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンのモバイルアプリケーションで使用できます。

方法: [作業プラン設定] で、[テンプレートおよび選択ルールから作業プランと作業ステップを生成] を選択します。次に、作業指示オブジェクトのページレイアウトを編集し、Lightning アプリケーションビルダーを使用して作業プラン Lightning コンポーネントを追加します。

サービスマネージャは、作業プランテンプレートと作業ステップテンプレートから作業指示の作業プランを作成できます。作業ステップテンプレートは、複数のプランで共通のステップを再利用するのに役立ちます。また、選択ルールを追加して作業プランの作業指示への割り当てを自動化することもできます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Create Work Plans \(作業プランの作成\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Field Service Scheduling

派遣担当者がよりきめ細かく制御できるようにしてルール違反チェックを簡略化します。増加した拡張一致作業ルールを使用して、作業に対応できる作業員を特定できます。作業のスケジュール設定を簡単にするため、特定の日または週に不在となる作業員を派遣担当者に示すことができます。シフトパターンが更新されており、より効率的にシフトを作成して割り当てることができます。

このセクションの内容:

ルール検証チェックの制限によるスケジュール設定の合理化

自動ルール違反チェックの頻度とトリガを管理して、派遣担当者がオンデマンドでルールを検証してより効率的にスケジュール設定できるようにします。カスタム権限を使用すると、派遣担当者はガントチャートまたはリストからサービス予定のルールを手動でチェックしたり、読み込まれたすべてのサービスで [ルールを確認] ボタンを使用したりできます。

予定をスケジュールするときの作業者とサービスのマッチングの改善

サービス予定をスケジュールして最適化するために使用できる候補のリストを絞り込むために、最大5つの拡張一致作業ルールをスケジュールポリシーに適用できます。

ルーティングおよび最適化用の Sandbox サービスのオフロード

番地レベルのルーティング (SLR) および最適化サービス用の独立したリモートサイトを使用するように Salesforce Sandbox を設定します。Salesforce 本番環境の稼働状況をスムーズに保つため、Sandbox では SLR と最適化サービス用に Winter '21 で追加された専用リモートサイトを使用することが必須になりました。

カレンダーでの予定とシフトの横での不在の表示

派遣担当者は、シフトをより正確にスケジュールできるように、シフトカレンダーで作業者の不在を確認し、予定済みであるか予期されていないかを確認できるようになりました。

パターンからシフトを作成するときに追加する情報の増加

シフトパターンに対する最新の更新により、シフトの作成がさらに簡単になりました。割り当て済みリソースのシフト状況など、より多くの詳細を事前に設定したり、最大365日分のパターンを使用したりできます。パターンからシフトを作成するときに、テリトリー、リソース、またはその両方を割り当てることもできます。

ルール検証チェックの制限によるスケジュール設定の合理化

自動ルール違反チェックの頻度とトリガを管理して、派遣担当者がオンデマンドでルールを検証してより効率的にスケジュール設定できるようにします。カスタム権限を使用すると、派遣担当者はガントチャートまたはリストからサービス予定のルールを手動でチェックしたり、読み込まれたすべてのサービスで [ルールを確認] ボタンを使用したりできます。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。

方法: [Field Service 設定] で [Dispatcher Console UI (ディスパッチャコンソール UI)] を選択し、[Gantt Configurations (ガントチャート設定)] を選択します。[ルール検証] で、ルール検証の頻度を設定し、派遣担当者が行ったものでない間接的なガントチャートの更新によってルール検証の計算がトリガされるかどうかを制御します。既存の Salesforce 組織ではデフォルトの頻度は [常に] であり、新規組織でのデフォルトは [オンデマンド] です。

派遣担当者が手動でルールをチェックできるようにするには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「ユーザ」と入力し、[権限セット] を選択します。[Field Service Dispatcher Permissions (Field Service Dispatcher 権限)] をク

リックし、[カスタム権限] をクリックします。[編集] をクリックし、必須の権限を選択して追加し、保存します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ガントチャート上のルール違反のチェック \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Field Service のカスタム権限の設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

予定をスケジュールするときの作業者とサービスのマッチングの改善

サービス予定をスケジュールして最適化するために使用できる候補のリストを絞り込むために、最大5つの拡張一致作業ルールをスケジュールポリシーに適用できます。

対象: この変更は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [Guided Setup (ガイド付き設定)] の [Customize Scheduling Policies (スケジュールポリシーをカスタマイズ)] ページから、またはスケジュールポリシーの [Scheduling Policy Work Rules (スケジュールポリシー作業ルール)] 関連リストから作業ルールをスケジュールポリシーに追加できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 作業ルールタイプ: 拡張一致 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ルーティングおよび最適化用の Sandbox サービスのオフロード

番地レベルのルーティング (SLR) および最適化サービス用の独立したリモートサイトを使用するように Salesforce Sandbox を設定します。Salesforce 本番環境の稼働状況をスムーズに保つため、Sandbox では SLR と最適化サービス用に Winter '21 で追加された専用リモートサイトを使用することが必須になりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。これは、Winter '21 より前の Field Service 管理パッケージでインストールされた Sandbox に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「リモートサイトの設定」と入力し、[リモートサイトの設定] を選択します。FSL_GIS_SB サイトと FSL_Optimize_SB サイトを有効化します。最適化ユーザを再認証して番地レベルのルーティングを有効にします。SLR を登録するには、Field Service Admin アプリケーションで [Field Service 設定]

タブを選択し、[スケジュール]を選択します。[ルーティング]を選択して[登録] ボタンが表示されたらクリックします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: リモートサイトの設定](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: 最適化の設定](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

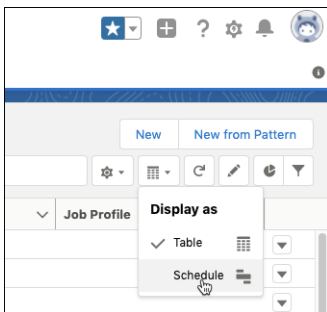
[Salesforce ヘルプ: Sandbox 更新後の設定](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カレンダーでの予定とシフトの横での不在の表示

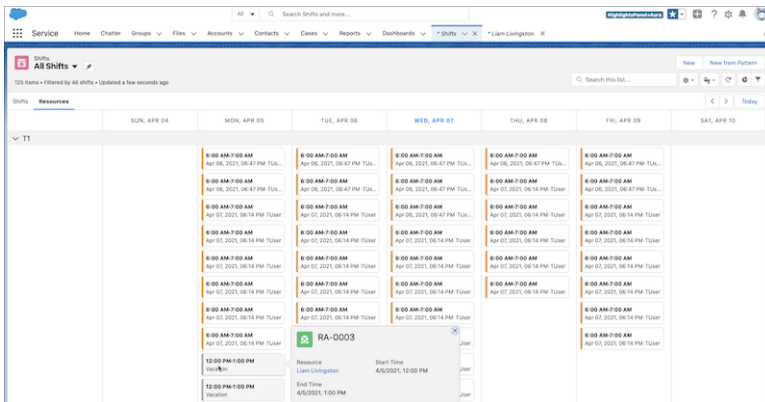
派遣担当者は、シフトをより正確にスケジュールできるように、シフトカレンダーで作業者の不在を確認し、予定済みであるか予期されていないかを確認できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [すべてのシフト] または任意のリストビューを選択し、[表示] ドロップダウンメニューから [スケジュール] ビューを開きます。



[リソース] をクリックして予定と一緒にリソースの休暇やその他の不在をカレンダーで確認します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:シフトスケジュールの表示\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

パターンからシフトを作成するときに追加する情報の増加

シフトパターンに対する最新の更新により、シフトの作成がさらに簡単になりました。割り当て済みリソースのシフト状況など、より多くの詳細を事前に設定したり、最大365日分のパターンを使用したりできます。パターンからシフトを作成するときに、テリトリー、リソース、またはその両方を割り当てすることもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [パターンから新規作成] アクションを使用して、割り当てられたサービスリソースの状況とそのテリトリーを確認します。一連の繰り返されるシフトまたは日付が定義されたシフトを作成し、最大1年間のパターンを使用します。パターンを適用したら、これによってパターンの出現数に基づいてシフトが作成されます。たとえば、4回の出現で1年間のパターンを適用すると、4年間のシフトが作成されます。また、パターンからシフトを作成するときに最初にテリトリーを割り当てなくてもリソースを割り当てられるようになりました。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:パターンからのレコードの作成\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Field Service Mobile アプリケーション

オフラインの作業員向けに複数のレコードの選択と共有を簡略化します。会社が自分の位置を記録して共有するタイミングを派遣作業員が把握できるようにして、顧客が派遣作業員の位置をより正確に確認できるようにします。

このセクションの内容:**[ブリーフケースビルダー \(正式リリース\)](#)**

ブリーフケースビルダーを使用して、オフラインレコードデータをユーザが使用できるようにするためのより適切な方法を探索します。ブリーフケースビルダーでは、選択したユーザおよび接続アプリケーションに基づいてレコードデータを効率的に絞り込むことで、フィールドサービス作業員とオフラインで共有するレコードを選択できます。また、柔軟で使いやすく、派遣作業員のニーズに対応するオフラインプラットフォーム環境を作成できるようになりました。

[位置共有に関する透過性の向上](#)

[場所の設定] で会社がその位置を記録して共有するタイミングに関する詳細に派遣作業員がアクセスできるようにすれば、派遣作業員からの信頼を獲得できます。

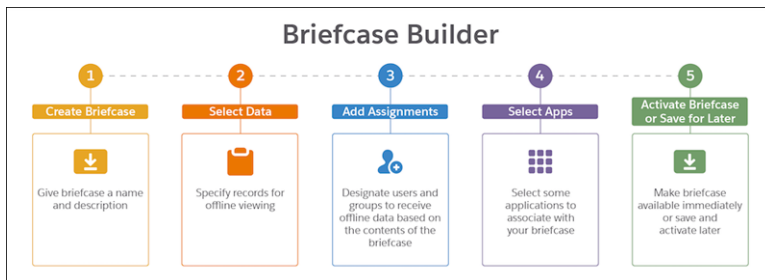
予定アシスタントの位置精度の向上

顧客が予定を待っている間に派遣作業員の位置をより正確に確認できるようにします。作業者が予定先に向かっていているときに、予定アシスタントでは [設定] で地理位置情報に設定した更新頻度ではなく 60 秒ごとに作業員の位置が更新されます。

ブリーフケースビルダー (正式リリース)

ブリーフケースビルダーを使用して、オフラインレコードデータをユーザが使用できるようにするためのより適切な方法を探索します。ブリーフケースビルダーでは、選択したユーザおよび接続アプリケーションに基づいてレコードデータを効率的に絞り込むことで、フィールドサービス作業員とオフラインで共有するレコードを選択できます。また、柔軟で使いやすく、派遣作業員のニーズに対応するオフラインプラットフォーム環境を作成できるようになりました。

対象: ブリーフケースビルダーツールは、Field Services (FS) が有効になっている Lightning Experience デスクトップとすべての Salesforce 組織に適用されます。このツールでは、iOS および Android 用の Salesforce Field Service モバイルアプリケーションがサポートされます。



方法: ブリーフケースを作成し、名前を付けて、オブジェクトを選択して、オフラインでユーザに表示するレコードのみを取得する検索条件を適用します。次に、ブリーフケースを表示するユーザおよびグループを割り当てて、接続アプリケーションをブリーフケースに関連付け、ブリーフケースをすぐにまたは後で有効化できます。

関連トピック:

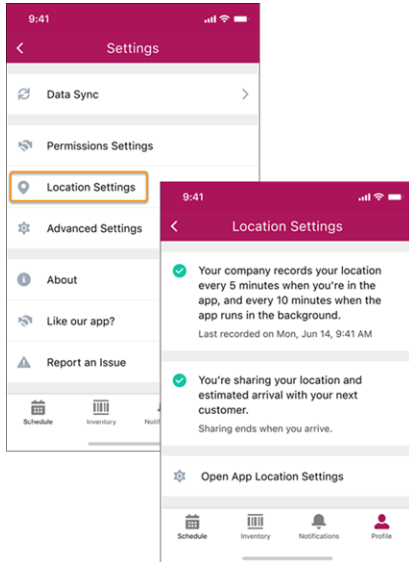
[Salesforce ヘルプ: Field Service Mobile アプリケーションのオフラインプライミング \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

位置共有に関する透過性の向上

[場所の設定] で会社がその位置を記録して共有するタイミングに関する詳細に派遣作業員がアクセスできるようにすれば、派遣作業員からの信頼を獲得できます。

対象: この変更は、Field Service for iOS に適用されます。

方法: 派遣作業員は、[場所の設定] で共有の詳細にアクセスします。



予定アシスタントの位置精度の向上

顧客が予定を待っている間に派遣作業員の位置をより正確に確認できるようにします。作業者が予定先に向かっていているときに、予定アシスタントでは [設定] で地理位置情報に設定した更新頻度ではなく 60 秒ごとに作業者の位置が更新されます。

対象: この変更は、Field Service for Android/iOS に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Configure Geolocation Settings for Appointment Assistant \(予定アシスタントの地理位置情報設定の定義\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Industries

業界固有のソリューションは、インテリジェンスと柔軟性が高くなります。Financial Services Cloud では、インテリジェントなドキュメントの自動化機能により、同意および開示の承認の管理が容易になります。Health Cloud では、インテリジェントなおすすめを使用して、予定のスケジュールを簡略化および最適化できます。Consumer Goods は、訪問実行の設定アシスタントとデスクトップサポートによって、従来よりも便利になっています。Manufacturing Cloud では、販売計画の修正や販売予測およびスケジュールの絞り込みを簡単に行うことができます。ロイヤルティ管理では、プロモーションのパーソナライズや特典アクションのカスタマイズを行うことができます。また、リベート管理では、新しい方法で支払の管理および計算を行うことができます。Public Sector Solutions では、データ入力と対応付けを自動化するツールが導入され、品質と効率を改善できます。Sustainability Cloud には、エネルギーパフォーマンスと排出量の絞り込みと視覚化を行う機能が追加されています。データ処理エンジン、決定テーブル、一括管理では、データを管理および活用するための新しい項目と機能が提供されます。

このセクションの内容:

Financial Services Cloud

新しい金融取引管理データモデルを使用して、チームのコラボレーションを強化できます。インテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、同意書および開示ドキュメントを管理し、認証要求フォームを生成して、ユーザの応答を追跡できます。支店管理の作業の関連付け機能を拡張する関連付けエンジンを使用して、思いどおりにチームの成果を追跡できます。保険契約コンポーネントの新しいオプションにより、表示される情報をより詳細に制御できます。Einstein リレーションインテリジェンスを Actionable Relationship Center に追加して、推奨されたレコードとリレーションを簡単に表示して追加できます。さらに、アクションプラン、インタラクション概要、インテリジェントフォームリーダーに対する機能強化を利用できます。

Health Cloud

インテリジェントな予定管理の導入により、最適な予定オプションが自動的に推奨されるようになり、コンタクトセンターとスケジュールスタッフは、ファーストコールでの解決を増やし、無断キャンセルを減らすことができます。また、堅牢な提供者検索機能のパフォーマンスと操作性も向上しています。

Consumer Goods Cloud

Consumer Goods 訪問実行アプリケーションを使用してデスクトップでモバイル機能を実行できます。Consumer Goods 設定アシスタントを使用して簡単に Consumer Goods Cloud を設定できます。署名 ToDo を訪問に追加してストアマネージャの満足度を追跡できます。営業マネージャは、訪問を割り当てるときにフィールド営業担当者の対応可能状況を確認してスケジュールの競合を回避できます。

Manufacturing Cloud

新機能と機能強化により、販売計画と取引先売上予測を簡単に管理できます。より多くの商品が含まれるように有効または承認済みの販売計画を修正できます。取引先売上予測と販売計画スケジュールを期間で絞り込むことができます。有効、承認済み、キャンセル済み、期限切れの販売計画の名前、説明、取引先責任者の詳細を更新します。[API アップロードを手動で使用] オプションを使用して、過去のスケジュールの商品の実績数を更新します。

ロイヤルティ管理

ホームページから、ロイヤルティプログラムの全体像を把握します。含まれているテンプレートを使用して、特典アクションを作成します。特典アクションの入力変数を作成および定義します。

リベート管理

払い戻し階層と給付階層を直接 CPQ プロセスおよび案件交渉に統合します。エンドツーエンドの配送プログラムとデビットプログラムをシームレスに作成して管理します。リベートプログラムに対する獲得金額を計算することで、収益と債務に関連するあいまいさを減らします。サブアカウントのトランザクションを積み上げ集計して、取引先階層に基づいて払い戻し支払を行います。リベートプログラムに応じて、払い戻しトランザクションの測定単位を簡単に換算できます。

Public Sector Solutions

インテリジェントなドキュメントの自動化とインテリジェントフォームリーダーを使用して、アップロードされたファイルのデータを認識し、コピーすることで、ドキュメント駆動型プロセスを高速化します。検査管理の機能強化により、検査エクスペリエンスが向上します。公共セクタポータルの変更により、苦情の処理方法の追跡が改善されます。

Sustainability

SustainabilityCloudに追加された機能を使用して、商業用建物全体の燃料種別ごとにエネルギー強度のパフォーマンスの絞り込み、分析、およびベンチマーク評価を実行できます。また、データギャップ補足プロセスは2つの新しい方法を含めて更新されています。追加されたスコープ3バリューチェーン分析では、新しいレコードタイプ、ページレイアウト、貨物運搬の項目などと共に、会社のスコープ3温室効果ガス排出を分類、視覚化、説明できるようになりました。

データ処理エンジン

データ処理エンジンを使用して、項目の階層やそのデータトレンドについて学習します。定義JSONをアップロードまたはダウンロードします。使用しなくなった定義を削除します。ビルダーから定義を実行します。実行はいつでもキャンセルできます。

決定テーブル

入力項目ロジックで結果を提供するための条件を定義します。データセットリンクで複数の取得元オブジェクトからデータを取得します。

一括管理

一括管理ジョブはいつでもキャンセルできます。前回の一括処理ジョブの実行で失敗したレコードを再送信します。

Einstein リレーションインサイト

さまざまなデータソースを探索して、人と会社間の重要なリレーションを検出し、見込み客や商談を識別します。Web ページの構造化されていないデータからインサイトを抽出し、Salesforce レコードなどの構造化された情報に変換します。これらのインサイトを使用して、取引先責任者および取引先の優先度を付けて、リードを強化し、営業チームの生産性を向上させます。調査に関連する人と会社のネットワークを構築し、商談成立を迅速化します。

インテリジェントフォームリーダー

インテリジェントフォームリーダーのメタデータAPIと設定オブジェクトを使用して、外部フォームの情報を抽出し、Salesforce オブジェクトに保存します。

一般的な Industries 開発者向けリソースの利用

一部の Industries クラウドには、オブジェクト、呼び出し可能なアクション、API、イベントなど、2つ以上のクラウドに役立つコンポーネントがあります。これらの多目的コンポーネント、およびそれらを業種の自動化プロセスで機能させる方法について学ぶことができる中心的な場所が作成されました。

Financial Services Cloud

新しい金融取引管理データモデルを使用して、チームのコラボレーションを強化できます。インテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、同意書および開示ドキュメントを管理し、認証要求フォームを生成して、ユーザの応答を追跡できます。支店管理の作業の関連付け機能を拡張する関連付けエンジンを使用して、思いどおりにチームの成果を追跡できます。保険契約コンポーネントの新しいオプションにより、表示される情報をより詳細に制御できます。Einstein リレーションインテリジェンスを Actionable Relationship Center に追加して、推奨されたレコードとリレーションを簡単に表示して追加できます。さらに、アクションプラン、インタラクション概要、インテリジェントフォームリーダーに対する機能強化を利用できます。

このセクションの内容:

金融取引管理

新しい金融取引管理機能を使用して、金融取引のライフサイクルを管理し、法規制に準拠する方法で商談関連の情報を関係者と共有します。

支店管理および関連付けエンジン (ベータ)

レコードのリンクが自動化され、新しい関連付けエンジンのおかげで作業の追跡と関連付けを容易に行うことができます。リードや取引先などのレコードを支店などの関連するエンティティと関連付けるルールを定義できます。また、レポート可能な支店管理オブジェクトにより、生産性とパフォーマンスに関するインサイトが得られます。

インテリジェントなドキュメントの自動化

新しいインテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、同意書および開示ドキュメントを管理し、認証要求フォームを生成して、ユーザの応答を追跡できます。同意と開示の認証は、多くのビジネスプロセスで重要なステップとなっています。同意書の例としては、毎年のプライバシーポリシーや、金融データの共有に関する開示説明などがあります。

インタラクション概要

インタラクション概要コンポーネントで、コンポーネント内のインタラクション概要レコードのより優れた検索機能が提供されるようになりました。このコンポーネントがモバイルデバイスでサポートされるようになったため、バンカーとファイナンシャルアドバイザーは外出先でインタラクション概要を取得および更新できます。

Financial Services Cloud の保険

保険契約コンポーネントの新しいオプションにより、コンポーネントに表示する情報をより詳細に制御できます。

Actionable Relationship Center (ARC)

個人取引先を使用して取引先と取引先責任者のリレーションを作成し、ARC で関連リストを表示または非表示にします。

インテリジェントフォームリーダー

インテリジェントフォームリーダーを使用すると、ユーザは、スキャンされてアップロードされたファイルから項目データをコピーできます。まず、一般的なドキュメント種別の対応付けテンプレートを設定します。次に、インテリジェントフォームリーダーを使用して、アップロードされたファイルの重要なデータを認識し、コピーすることで、ドキュメント駆動型のビジネスプロセスを高速化します。

リテールバンキング向け Customer 360 ガイド

リテールバンキング向け Customer 360 ガイドが導入されます。オンボーディングとサービスプロセスを最適化して、銀行の顧客満足度を高めます。このガイドのアセットは、リテールバンキング業界でビジョンを構築し、デジタルトランスフォーメーションのためのプランを作るのに役立ちます。アーキテクチャの図とビジネスシナリオによって、Salesforce 製品を業界のベストプラクティスと組み合わせてビジネス機能を拡張する方法が示されます。ソリューションキットによって、Salesforce 推奨のクロスクラウドのソリューションを一般的な小売の使用事例に実装する方法が示されます。

Financial Services Cloud のその他の変更

Financial Services Cloud のその他の機能強化で、より多くの操作を実行できるようになりました。

Financial Services Cloud の新規および変更済みのオブジェクト

新規および更新済みの Financial Services Cloud オブジェクトおよび項目で、より多くの操作を実行できるようになりました。

REST API

Financial Services Cloud の REST API の次のコールが機能強化されました。

データ処理エンジンの可用性の制限

データ処理エンジンは Government Cloud および Government Cloud Plus では使用できません。

金融取引管理

新しい金融取引管理機能を使用して、金融取引のライフサイクルを管理し、法規制に準拠する方法で商談関連の情報を関係者と共有します。

このセクションの内容:

金融取引ライフサイクルの追跡と管理

新しい金融取引管理データモデルを使用して、商談チームが金融取引ライフサイクルを効果的に追跡できるようにします。商談関連のインタラクションのあらゆる側面を管理し、法規制に準拠するロールベースのデータ共有オプションを利用できます。

複数のユーザまたはグループとの金融取引の共有

商談チームが法規制に準拠する方法で金融取引を一度に複数の関係者と簡単に共有できるようにします。新しい[関係者の管理]コンポーネントを金融取引レコードページに追加すると、複数のユーザまたはグループを関係者としてレコードに追加でき、コンポーネント内からロールを割り当てることもできます。このコンポーネントでは、レコードに追加するユーザまたはグループの提案リストも提供されます。

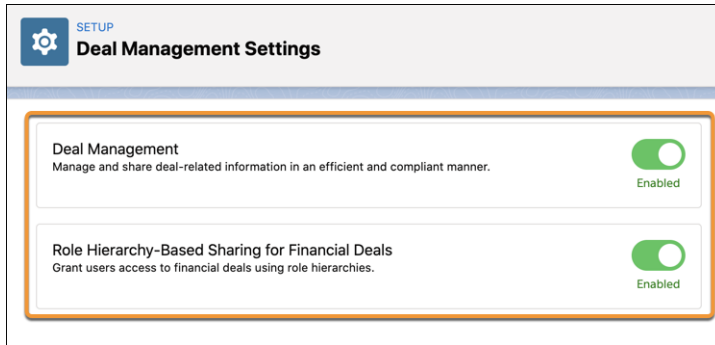
金融取引ライフサイクルの追跡と管理

新しい金融取引管理データモデルを使用して、商談チームが金融取引ライフサイクルを効果的に追跡できるようにします。商談関連のインタラクションのあらゆる側面を管理し、法規制に準拠するロールベースのデータ共有オプションを利用できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 商談チームは、メモを記録し、商談フェーズ、商談の状況、商談が成立する確率などを指定できます。機密情報を含む商談レコードを、関連する関係者のみと共有してコンプライアンスを維持できます。金融取引オブジェクトの準拠データ共有 (CDS) が有効になっている場合、取引チームは関係者の管理コンポーネントを商談レコードページに追加し、同時に複数のユーザまたはグループとレコードを共有できます。このコンポーネントでは、関係者としてレコードに追加するユーザまたはグループの提案リストが提供されます。コンポーネントを設定してから、関係者種別を選択して関係者ロールを割り当てることができます。

方法: 金融取引管理機能を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「商談管理」と入力し、[商談管理設定] を選択します。

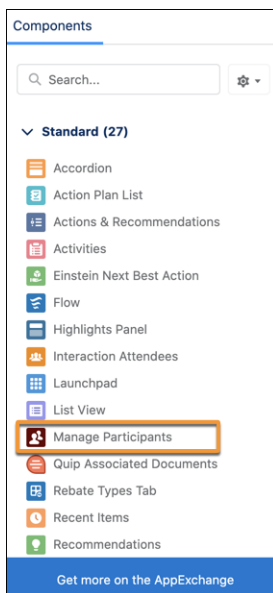


複数のユーザまたはグループとの金融取引の共有

商談チームが法規制に準拠する方法で金融取引を一度に複数の関係者と簡単に共有できるようにします。新しい[関係者の管理]コンポーネントを金融取引レコードページに追加すると、複数のユーザまたはグループを関係者としてレコードに追加でき、コンポーネント内からロールを割り当てることもできます。このコンポーネントでは、レコードに追加するユーザまたはグループの提案リストも提供されます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 金融取引レコードページを編集します。[コンポーネント]メニューに移動して、[関係者の管理]コンポーネントをレコードページレイアウトにドラッグします。金融取引オブジェクトが準拠データ共有に対応していることを確認します。



コンポーネントを設定してから、関係者種別を選択できます。これらの種別のユーザまたはグループが提案として表示されます。提案リストをカスタマイズするには、[関係者の管理]コンポーネントの任意の場所をクリックして選択します。プロパティペインの[提案リストの関係者種別]で[選択]をクリックします。必要な関係者種別を選択済みリストに移動し、[OK]をクリックします。取引先ユーザのみと金融取引を共有できます。

支店管理および関連付けエンジン (ベータ)

レコードのリンクが自動化され、新しい関連付けエンジンのおかげで作業の追跡と関連付けを容易に行うことができます。リードや取引先などのレコードを支店などの関連するエンティティと関連付けるルールを定義できます。また、レポート可能な支店管理オブジェクトにより、生産性とパフォーマンスに関するインサイトが得られます。

このセクションの内容:

関連付けエンジンを使用した思いどおりの方法でのチームの成果の追跡 (ベータ)

リードや取引先などのレコードを、支店、取引先責任者、ユーザなどの関連するエンティティと自動的にリンクするための独自のルールを定義できます。レコードのリンクは、ルールの条件を満たす場合にバックグラウンドで実行されます。さらに、作業の関連付け、生産性、またはカスタムパフォーマンスインジケータに関する豊富なデータも提供されます。

支店管理のレポート可能なオブジェクトを使用したパフォーマンスの測定

支店管理のレポート可能なオブジェクトを Lightning レポートに含めることで、生産性とパフォーマンスに関するインサイトを得ることができます。

関連付けエンジンを使用した思いどおりの方法でのチームの成果の追跡 (ベータ)

リードや取引先などのレコードを、支店、取引先責任者、ユーザなどの関連するエンティティと自動的にリンクするための独自のルールを定義できます。レコードのリンクは、ルールの条件を満たす場合にバックグラウンドで実行されます。さらに、作業の関連付け、生産性、またはカスタムパフォーマンスインジケータに関する豊富なデータも提供されます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 新しい関連付けエンジン (ベータ) により、支店管理機能に付属する自動レコードリンク機能が拡張されます。支店管理では、新規または更新済みの取引先やリードを特定の支店に自動的に関連付けることができます。関連付けエンジンでは、あらゆる種類の新規または更新済みのレコードを支店などの関連するエンティティに関連付けるための独自のルールを定義できます。

関連付けルール条件を定義するには、[設定] の [関連付けエンジン設定] ページを使用します。既存のルール条件を編集するか、[新規条件] をクリックして作成します。[参照オブジェクト] 項目と [イベント種別] 項目によって、新規レコードの作成など、どのオブジェクトイベントによってルールが評価されるかが決定されます。[前提条件] セクションには、true の場合に新しい関連付けが作成される数式が含まれます。

Edit Criteria

Rule Details

* Name: * API Name: Last update date time: 30.03.2021 20:49 GMT

* Association Type: Description:

Expression

* Reference Object: * Event Type:

* Precondition

Insert:

Activation

* Activate to automatically attribute future object events to the user's currently selected branch

関連トピック:

[Financial Services Cloud システム管理者ガイド: Association Engine \(関連付けエンジン\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Financial Services Cloud システム管理者ガイド: Branch Management \(支店管理\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

支店管理のレポート可能なオブジェクトを使用したパフォーマンスの測定

支店管理のレポート可能なオブジェクトを Lightning レポートに含めることで、生産性とパフォーマンスに関するインサイトを得ることができます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 主要な支店管理オブジェクトをすべてレポートで使用できるようになりました。最初に、支店に関連したオブジェクトを参照するレポートタイプを定義し、そのタイプを使用してレポートを作成します。新たにレポート可能になったオブジェクトには、バンカー、支店ユニット、支店ユニット顧客などがあります。

新しい支店関連のレポートタイプを作成するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「レポート」と入力し、[レポートタイプ] を選択します。[新規カスタムレポートタイプ] をクリックします。[主オブジェクト] 選択リストで、[支社] をはじめとする支店管理オブジェクトのいずれかを選択します。レポートタイプに関する追加情報を入力し、[次へ] をクリックします。

New Custom Report Type Help for this Page

Step 1. Define the Custom Report Type Step 1 of 2

Report Type Focus I = Required Information

Specify what type of records (rows) will be the focus of reports generated by this report type.
Example: If reporting on "Contacts with Opportunities with Partners," select "Contacts" as the primary object.

Primary Object:

Identification

Report Type Label:

Report Type Name: i

Description:

Note: Description will be visible to users who create reports.

Store in Category:

Deployment

A report type with deployed status is available for use in the report wizard. While in development, report types are visible only to authorized administrators and their delegates.

Deployment Status: In Development Deployed

Next Cancel

主オブジェクトにレポート可能な関連オブジェクトもある場合、次のページで関連付けることができます。作業内容を保存します。

Report Types

New Custom Report Type Help for this Page

Branch Bankers

Step 2. Define Report Records Set Step 2 of 2

This report type will generate reports about Branch Units. You may define which related records from other objects are returned in report results by choosing a relationship to another object.

A Branch Units Primary Object

B Bankers

A to B Relationship:

Each "A" record must have at least one related "B" record.

"A" records may or may not have related "B" records.

Previous Save Cancel

新しいレポートタイプを使用するには、レポートを作成するときに選択します。次に、検索条件を変更して、詳細の概要を示してレポートをカスタマイズします。

支店ユニットが主オブジェクトである場合、支店ユニット顧客や支店ユニット関連レコードなどの一部の支店管理オブジェクトは関連オブジェクトとして表示されません。これらのオブジェクトについてレポートするには、支店ユニット顧客または支店ユニット関連レコードを主オブジェクトとして使用してレポートタイプを作成します。その後、必要に応じて生成されたレポートデータを支店ユニット名でグループ化できます。

インテリジェントなドキュメントの自動化

新しいインテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、同意書および開示ドキュメントを管理し、認証要求フォームを生成して、ユーザの応答を追跡できます。同意と開示の認証は、多くのビジネスプロセスで重要なステップとなっています。同意書の例としては、毎年のプライバシーポリシーや、金融データの共有に関する開示説明などがあります。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 最初に、ユーザの同意または開示が必要になるビジネスプロセス用の認証フォームレコードとデータ使用目的レコードを定義します。フォームのコンテンツをテキストまたは PDF ドキュメントとしてインポートし、ロケールごとに複数のバージョンのコンテンツを管理できます。

認証要求を作成して、ユーザが署名するための同意フォームと開示フォームを生成します。1つの認証要求で、法規制やビジネスプロセスの要件に基づいて1つ以上の認証フォーム要求を作成できます。

ユーザが各要求を確認したか、署名したか、拒否したか、またユーザが応答を行った方法とタイミングを追跡できます。必要に応じて、検証および監査を目的として、ユーザのメールアドレス、IPアドレス、同意時の地理的位置などのユーザ応答に関する追加情報を取得します。

このセクションの内容:

ロケール固有の同意および開示のドキュメントバージョンの管理

認証フォームの同意および開示のバージョンを管理します。時間の経過に伴って変化する規制やポリシーをサポートし、言語と場所に基づいて顧客に適切な同意および開示情報を提示します。

オンデマンドでの同意認証要求の生成

取引先、金融口座、その他の顧客が関連するレコードと一緒に、顧客からの同意および開示の認証を管理します。新しいインテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、データ使用目的のために複数の認証要求を生成できます。

顧客からの同意および開示の認証の収集

機密データを取得または共有する前に、必ず顧客が情報開示ポリシーに同意していることを確認します。インテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、ユーザに提示される同意および開示の認証要求を監視し、ユーザの応答を追跡できます。このプロセスでは、別のユーザまたはグループの代理での同意もサポートされます。

関連トピック:

http://help.salesforce.com/articleView?id=sf.admin_document_automation.htm

ロケール固有の同意および開示のドキュメントバージョンの管理

認証フォームの同意および開示のバージョンを管理します。時間の経過に伴って変化する規制やポリシーをサポートし、言語と場所に基づいて顧客に適切な同意および開示情報を提示します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 最初に、フォームの発効日やユーザ署名が必要かどうか、フォームでサポートする関連規制などの詳細を指定する認証フォームレコードを作成します。

Authorization Form
Good Faith Loan Estimate Disclosure

Revision Number	Effective From Date	Effective To Date	Default Auth Form Text
1	4/1/2021	4/1/2022	Good Faith Estimate Disclosure English 2021

Related **Details**

Information

Name	Good Faith Loan Estimate Disclosure	Revision Number	1
Effective From Date	4/1/2021	Effective To Date	4/1/2022
Default Auth Form Text	Good Faith Estimate Disclosure English 2021	Is Signature Required	<input type="checkbox"/>
Associated Regulation	1024.7 GFEwege	Consent Duration Day Count	30

各フォームではデフォルトの認証フォームテキストレコードを指定し、このレコードには同意を要求するときに顧客に表示されるテキストが格納されるか、レコードからこのテキストにリンクします。サポートする各ロケールおよび言語の認証フォームテキストレコードを追加します。

Authorization Form
Mortgage Servicing Disclosure

Revision Number	Effective From Date	Effective To Date	Default Auth Form Text
			Mortgage Servicing Disclosure English 2022

Related **Details**

Authorization Form Text (6) New

Name	
Mortgage Servicing Disclosure English 2020	▼
Mortgage Servicing Disclosure English 2021	▼
Mortgage Servicing Disclosure English 2019	▼
Mortgage Servicing Disclosure Spanish 2021	▼
Mortgage Servicing Disclosure English 2022	▼
Mortgage Servicing Disclosure Spanish 2022	▼

[View All](#)

認証フォームテキストレコードに使用するテキスト全文を含めることも、このレコードからテキストがあるURLにリンクすることもできます。一度にロケールで有効にできるのは1つの認証フォームテキストレコードのみです。

The screenshot shows the 'Details' view of an 'Authorization Form Text' record. The record name is 'Mortgage Servicing Disclosure Spanish 2021'. The 'Information' section includes fields for Name, Full Authorization Form Uri, Summary Auth Form Text (containing Spanish text about loan services), Content Document, and Last Activation Date Time. The 'Authorization Form' field is linked to 'Mortgage Servicing Disclosure'. Other fields include Locale (Spanish (Ecuador)), Is Active (checked), and Is Read Only (checked).

オンデマンドでの同意認証要求の生成

取引先、金融口座、その他の顧客が関連するレコードと一緒に、顧客からの同意および開示の認証を管理します。新しいインテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、データ使用目的のために複数の認証要求を生成できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 最初に、ユーザの同意または開示が必要になるビジネスプロセス用の認証フォームレコードとデータ使用目的レコードを定義します。規制やビジネスプロセスの要件に基づいて、各目的について1つまたは複数の認証フォームのデータ使用を指定できます。

The screenshot shows the 'Data Use Purpose' record for 'Mortgage Initiation'. The 'Legal Basis' is 'Truth in Lending Act'. The 'Related' section shows a list of 'Authorization Form Data Uses (2)'. The list includes two entries: 'Mortgage Initiation- 1024.7 GFE' linked to 'Good Faith Estimate Disclosure', and 'Mortgage Initiation- RESPA' linked to 'Mortgage Servicing Disclosure'. There is a 'View All' link at the bottom of the list.

特定のデータ使用目的について認証要求を作成して、ユーザが署名するための同意フォームと開示フォームを生成します。1つの認証要求で、データ使用に基づいて顧客のために1つ以上の認証フォーム要求を作成できます。

たとえば、住宅ローンの開始プロセス中に、ローン担当者は住宅ローン開示認証要求を作成できます。住宅ローン開始のデータ使用目的には、2つの認証フォームに関連する、2つの個別の使用がリストされます。そ

の後、要求によって、住宅ローン提供開示フォームやローン費用の見積書開示フォームを含めて、借主が署名するための複数の認証要求フォームが生成されます。

Name	Authorization Form Text	Response Status	Latest Authorization Form Consent
IARF-0000000011	Mortgage Servicing Disclosure Engl...	New	
IARF-0000000012	Good Faith Estimate Disclosure Eng...	New	

顧客からの同意および開示の認証の収集

機密データを取得または共有する前に、必ず顧客が情報開示ポリシーに同意していることを確認します。インテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、ユーザに提示される同意および開示の認証要求を監視し、ユーザの応答を追跡できます。このプロセスでは、別のユーザまたはグループの代理での同意もサポートされます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ユーザが各要求を確認したか、署名したか、拒否したか、またユーザが応答を行った方法とタイミングを追跡できます。必要に応じて、検証および監査を目的として、ユーザのメールアドレス、IPアドレス、同意時の地理的位置などのユーザ応答に関する追加情報を取得します。

Info Authorization Request
Mortgage Disclosures - Jarndyce

Data Use Purpose: [Mortgage Initiation](#) | Pertains To: [John Jarndyce](#) | Consenter: [John Jarndyce](#) | Response Status: [Seen](#)

Related | Details

Info Authorization Request History (1)

Date	Field	User	Original Value	New Value
4/8/2021, 7:21 PM	Created.	Anne Carter		

[View All](#)

Authorizable Form Request Records (0) [New](#)

Info Authorization Request Forms (2) [New](#)

Name	Authorization Form Text	Response Status	Latest Authorization Form Cons...
IARF-0000000011	Mortgage Servicing Disclosure En...	Seen	Mortgage servicing consent - Jarn...
IARF-0000000012	Good Faith Estimate Disclosure En...	Signed	

[View All](#)

認証要求に対するユーザの応答を記録するには、情報認証要求ページで[関連]タブをクリックします。情報認証要求フォームリストでいずれかの項目を選択します。そのフォーム自体でのシンプルな応答を取得できます。または、認証フォーム同意レコードを追加して、署名したユーザ、署名したタイミング、署名時にいた場所に関するその他の詳細を取得します。

Authorization Form Consent
Mortgage servicing consent

Consent Giver: [John Jarndyce](#) | Authorization Form Text: [Mortgage Servicing Disclosure English 2022](#) | Consent Captured Source | Consent Captured Source Type: [Phone](#)

Related | **Details**

Information

Name	Mortgage servicing consent	Consent Giver	John Jarndyce
Authorization Form Text	Mortgage Servicing Disclosure English 2022	Consent Captured Source	
Consent Captured Source Type	Phone	Info Authorization Request Form	
Consent Captured Date Time	4/8/2021, 12:00 PM	Consent Expiration Date Time	5/6/2021, 12:00 PM
Content Version		Status	Signed
Email			
Location			
Browser			
IP			

インテリジェントなドキュメントの自動化オブジェクトはエクスペリエンスビルダーライセンスで使用できるため、顧客のためにセルフサービスの認証ステップをデザインすることもできます。

インタラクション概要

インタラクション概要コンポーネントで、コンポーネント内のインタラクション概要レコードのより優れた検索機能が提供されるようになりました。このコンポーネントがモバイルデバイスでサポートされるようになったため、バンカーとファイナンシャルアドバイザーは外出先でインタラクション概要を取得および更新できます。

このセクションの内容:

検索の改善によるインタラクション概要の検索時間の短縮

バンカーとファイナンシャルアドバイザーは過去のインタラクション概要をすばやく検索して確認し、次のミーティングへの適切な準備を整えることができます。インタラクション概要のタイトル、ミーティングメモ、次のステップ、またはカスタムテキスト項目に基づいてレコードを検索できます。

新しい概念の直感的なインターフェースを使用したインタラクション概要またはインタラクションの共有

バンカーとファイナンシャルアドバイザーは、インタラクションやインタラクション概要を法規制に準拠する方法で複数の関係者と一度に簡単に共有できます。以前は、一度に1人の関係者としかレコードを共有できませんでした。新しい関係者の管理コンポーネントをインタラクションまたはインタラクション概要レコードページに追加すると、複数のユーザまたはグループを関係者としてレコードに追加したり、コンポーネント内からロールを割り当てたりできます。このコンポーネントでは、レコードに追加するユーザまたはグループの提案リストも提供されます。

外出先でのインタラクション概要へのアクセス

バンカーとファイナンシャルアドバイザーは、モバイルデバイスでのインタラクション概要コンポーネントのサポートを利用して、外出先でインタラクション概要を作成、更新、または検索できるようになりました。

検索の改善によるインタラクション概要の検索時間の短縮

バンカーとファイナンシャルアドバイザーは過去のインタラクション概要をすばやく検索して確認し、次のミーティングへの適切な準備を整えることができます。インタラクション概要のタイトル、ミーティングメモ、次のステップ、またはカスタムテキスト項目に基づいてレコードを検索できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

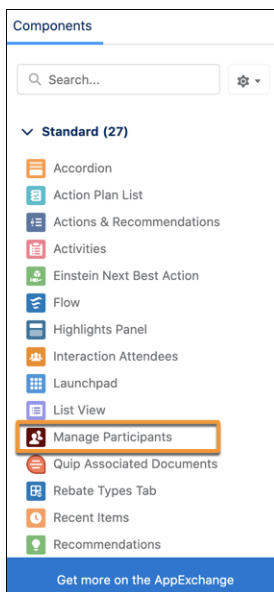
方法: インタラクション概要コンポーネントを取引先ページに追加して、バンカーとファイナンシャルアドバイザーがインタラクション概要を検索できるようにします。また、検索クエリで *Joe Sm** のようにワイルドカード文字のアスタリスク (*) を使用することもできるようになりました。このコンポーネントでは、インタラクション概要を読み込むための無限スクロールもサポートされます。

新しい概念の直感的なインターフェースを使用したインタラクション概要またはインタラクションの共有

バンカーとファイナンシャルアドバイザーは、インタラクションやインタラクション概要を法規制に準拠する方法で複数の関係者と一度に簡単に共有できます。以前は、一度に1人の関係者としてしかレコードを共有できませんでした。新しい関係者の管理コンポーネントをインタラクションまたはインタラクション概要レコードページに追加すると、複数のユーザまたはグループを関係者としてレコードに追加したり、コンポーネント内からロールを割り当てたりできます。このコンポーネントでは、レコードに追加するユーザまたはグループの提案リストも提供されます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: インタラクション概要またはインタラクションレコードページを編集します。[コンポーネント]メニューに移動して、[関係者の管理]コンポーネントをレコードページレイアウトにドラッグします。準拠データ共有でインタラクションおよびインタラクション概要オブジェクトが有効になっていることを確認します。



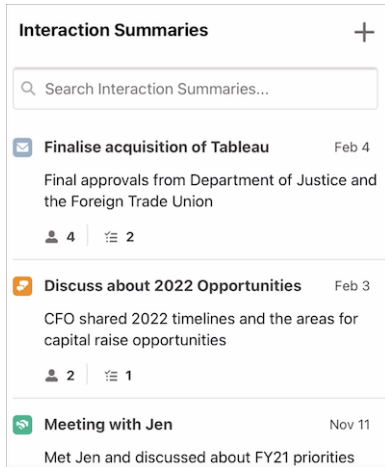
コンポーネントを設定してから、関係者種別を選択できます。これらの種別のユーザまたはグループが提案として表示されます。提案リストをカスタマイズするには、[関係者の管理]コンポーネントの任意の場所をクリックして選択します。プロパティペインの[提案リストの関係者種別]で[選択]をクリックします。必要な関係者種別を選択済みリストに移動し、[OK]をクリックします。

外出先でのインタラクション概要へのアクセス

バンカーとファイナンシャルアドバイザーは、モバイルデバイスでのインタラクション概要コンポーネントのサポートを利用して、外出先でインタラクション概要を作成、更新、または検索できるようになりました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: インタラクション概要コンポーネントをモバイルデバイスのホームまたは取引先ページレイアウトに追加します。



Financial Services Cloud の保険

保険契約コンポーネントの新しいオプションにより、コンポーネントに表示する情報をより詳細に制御できます。

このセクションの内容:

保険契約コンポーネントの機能強化

保険契約コンポーネントをさらにカスタマイズして、より関連性の高い詳細を表示できるようになりました。

Analytics for Insurance アプリケーションデータのカスタマイズ

ウィザードが強化され、より柔軟にアプリケーションをカスタマイズできるようになりました。金融口座取引データまたは保険契約請求データに基づいてアプリケーションを作成できます。また、活動データを絞り込み、日付別に ToDo と行動を確認できます。

保険契約コンポーネントの機能強化

保険契約コンポーネントをさらにカスタマイズして、より関連性の高い詳細を表示できるようになりました。

このセクションの内容:

無効な保険契約のみを表示するように保険契約を絞り込む

保険エージェントはクライアントにより良いサービスを提供するために、無効な保険契約に関するインサイトをすばやく取得できます。保険契約コンポーネントには、無効な保険契約がすべて表示されるようになりました。

保険契約または請求リンクのリストのカスタムリンクテキストを定義

保険エージェントがクライアントの保険契約や請求に簡単に移動できるようにします。たとえば、エージェントのニーズに合わせてローカライズされた表示ラベルを使用して、デフォルトのリンクテキストを変更したり、カスタムリンクテキストを作成したりできるようになりました。

複数の保険契約関連オブジェクトから関連レコードを表示

顧客の保険契約および請求を保険エージェントが包括的に把握できるようにします。Financial Services Cloudの機能強化により、表示される詳細情報が増えました。保険契約コンポーネントをカスタマイズして、各保険契約レコードの関連リストとして保険契約資産オブジェクトを追加できます。以前は、請求オブジェクトのみを保険契約レコードの関連リストとして追加できました。コンポーネントには、それらのオブジェクトの関連レコードが別々のタブで表示されます。

拡張関連リストでの保険契約関連の詳細の表示

保険契約コンポーネントでは、拡張関連リストを選択するときに最大10列の表示、列のサイズ変更と並び替え、一括アクションの実行、およびテキストの折り返しを行うことができます。デフォルトで、保険契約コンポーネントでは保険契約関連リストを表示するために基本関連リスト種別が使用されます。

保険契約レコードのクイックアクションの操作

保険エージェントはタブを切り替えることなく、さまざまな保険契約関連のタスクを実行できるようになりました。保険契約コンポーネント内から、保険契約レコードの標準およびカスタムのクイックアクションを起動できます。

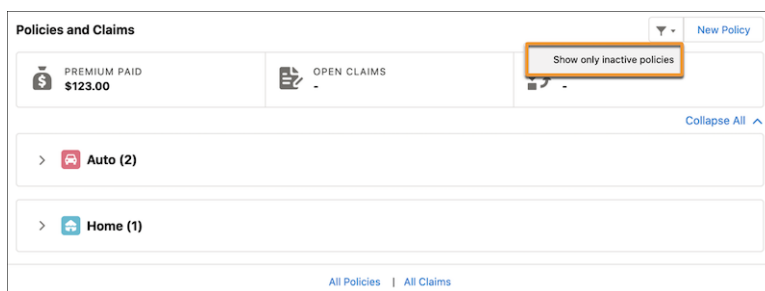
無効な保険契約のみを表示するように保険契約を絞り込む

保険エージェントはクライアントにより良いサービスを提供するために、無効な保険契約に関するインサイトをすばやく取得できます。保険契約コンポーネントには、無効な保険契約がすべて表示されるようになりました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: 保険契約コンポーネントのリストの上部で、検索条件アイコンをクリックして[無効な保険契約のみを表示]を選択します。



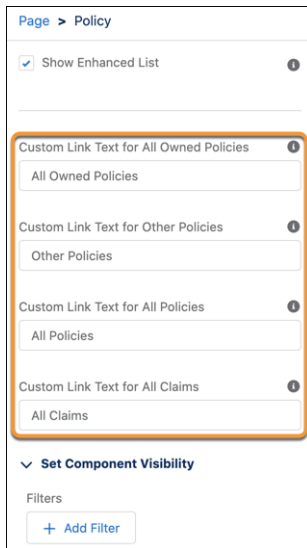
保険契約または請求リンクのリストのカスタムリンクテキストを定義

保険エージェントがクライアントの保険契約や請求に簡単に移動できるようにします。たとえば、エージェントのニーズに合わせてローカライズされた表示ラベルを使用して、デフォルトのリンクテキストを変更したり、カスタムリンクテキストを作成したりできるようになりました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: レコードページを編集し、保険契約コンポーネントを選択します。レコードページとコンポーネントの設定方法に応じて、テキスト項目のデフォルト値、所有しているすべての保険契約のカスタムリンクテキスト、その他の保険契約のカスタムリンクテキスト、すべての保険契約のカスタムリンクテキスト、またはすべての請求のカスタムリンクテキストをニーズに合ったテキスト値で上書きします。



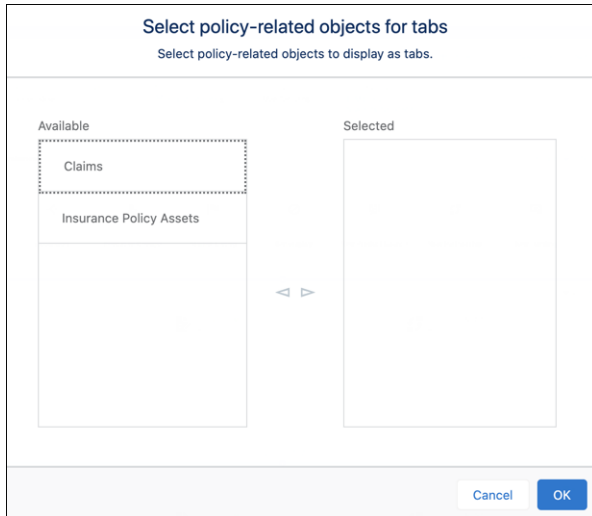
複数の保険契約関連オブジェクトから関連レコードを表示

顧客の保険契約および請求を保険エージェントが包括的に把握できるようにします。Financial Services Cloudの機能強化により、表示される詳細情報が増えました。保険契約コンポーネントをカスタマイズして、各保険契約レコードの関連リストとして保険契約資産オブジェクトを追加できます。以前は、請求オブジェクトのみを保険契約レコードの関連リストとして追加できました。コンポーネントには、それらのオブジェクトの関連レコードが別々のタブで表示されます。

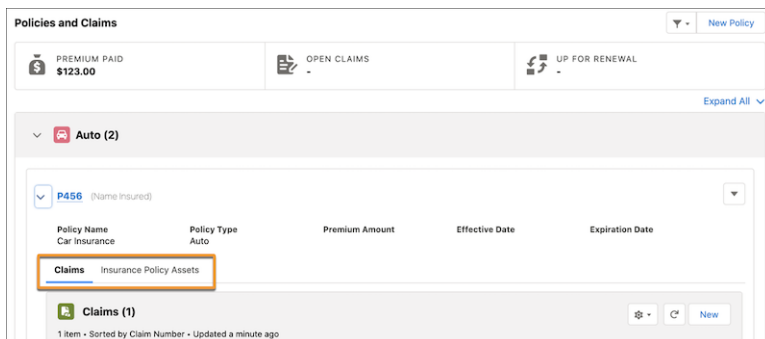
対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: レコードページを編集します。[保険契約] コンポーネントの任意の場所をクリックして選択します。プロパティペインの[タブの保険契約関連オブジェクトを選択]で[選択]をクリックします。必要なオブジェクトを[選択済み]リストに移動し、リスト内で上下にドラッグして並び替えて[OK]をクリックします。オブジェクトの順序により、保険契約コンポーネントのタブの順序が決まります。関連リストとして追加できるのは、請求と保険契約資産のみです。



複数の関連タブがある保険契約コンポーネントは次のようになります。



拡張関連リストでの保険契約関連の詳細の表示

保険契約コンポーネントでは、拡張関連リストを選択するときに最大 10 列の表示、列のサイズ変更と並び替え、一括アクションの実行、およびテキストの折り返しを行うことができます。デフォルトで、保険契約コンポーネントでは保険契約関連リストを表示するために基本関連リスト種別が使用されます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに FSC Insurance 権限セットが必要です。


方法: 取引先または世代ページを編集します。[保険契約] コンポーネントの任意の場所をクリックして選択します。[プロパティ] ペインで、[拡張リストを表示] を選択します。

保険契約レコードのクイックアクションの操作

保険エージェントはタブを切り替えることなく、さまざまな保険契約関連のタスクを実行できるようになりました。保険契約コンポーネント内から、保険契約レコードの標準およびカスタムのクイックアクションを起動できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、ユーザーに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: 保険契約コンポーネントで、保険契約グループを展開し、保険契約レコードの右上隅にある  アイコンをクリックします。ドロップダウンメニューで必要なアクションをクリックして起動します。

Policy Name	Policy Type	Premium Amount	Effective Date	Expiration Date
P456 (Name Insured)	Auto			

Analytics for Insurance アプリケーションデータのカスタマイズ

ウィザードが強化され、より柔軟にアプリケーションをカスタマイズできるようになりました。金融口座取引データまたは保険契約請求データに基づいてアプリケーションを作成できます。また、活動データを絞り込み、日付別に ToDo と行動を確認できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud for Insurance が有効になっている Professional Edition、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Tableau CRM に適用されます。

対象ユーザー: Analytics for Insurance テンプレートからアプリケーションを作成するには、FSC Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

方法: Tableau CRM Analytics Studio から、[作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。[Analytics for Insurance] を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

Actionable Relationship Center (ARC)

個人取引先を使用して取引先と取引先責任者のリレーションを作成し、ARCで関連リストを表示または非表示にします。

このセクションの内容:

ARC での世帯へのメンバーの追加

ユーザは、ARC で新規または既存の個人取引先を世帯に追加できるようになりました。以前は、メンバーリレーションカードから世帯にメンバーを追加しようとすると、選択または作成できるのは取引先責任者レコードのみだったため、エラーが発生していました。この変更により、ユーザは正常に取引先と取引先責任者のリレーションを作成できます。

ARC の関連リストを表示または非表示

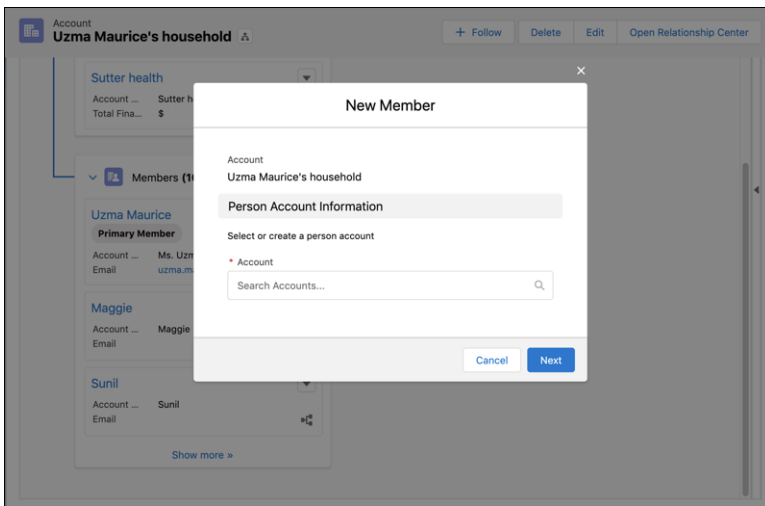
関連リストがデフォルトで非表示になり、ユーザが使用可能なスペースが広がりました。グループのリレーションと関連リストのリレーションをすべて1つのビューで表示する場合、新しい [関連リストを表示] 切り替えを使用できます。

ARC での世帯へのメンバーの追加

ユーザは、ARC で新規または既存の個人取引先を世帯に追加できるようになりました。以前は、メンバーリレーションカードから世帯にメンバーを追加しようとすると、選択または作成できるのは取引先責任者レコードのみだったため、エラーが発生していました。この変更により、ユーザは正常に取引先と取引先責任者のリレーションを作成できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: メンバーリレーションカードから、[新規] をクリックします。次に、個人取引先を作成するか、既存の個人取引先を検索します。

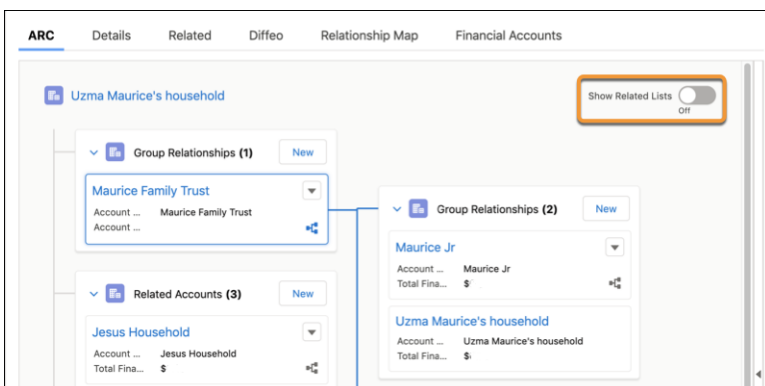


ARC の関連リストを表示または非表示

関連リストがデフォルトで非表示になり、ユーザが使用可能なスペースが広がりました。グループのリレーションと関連リストのリレーションをすべて1つのビューで表示する場合、新しい [関連リストを表示] 切り替えを使用できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ARC の関連リストではユーザに全体像が示されますが、必要でない場合、追加されているすべてのカードを表示すると圧倒される場合があります。デフォルトで関連リストを非表示にすることで、ユーザにより合理的な環境が提供されると共に、読み込み時間が短くなります。



インテリジェントフォームリーダー

インテリジェントフォームリーダーを使用すると、ユーザは、スキャンされてアップロードされたファイルから項目データをコピーできます。まず、一般的なドキュメント種別の対応付けテンプレートを設定します。次に、インテリジェントフォームリーダーを使用して、アップロードされたファイルの重要なデータを認識し、コピーすることで、ドキュメント駆動型のビジネスプロセスを高速化します。

このセクションの内容:

対応付けの自動生成

カスタムフォームをインテリジェントフォームリーダーにアップロードすると、カスタムフォーム項目が自動的に対応付け定義に抽出されます。または、同じドキュメントから別の対応付けを作成するときに、サンプルドキュメントを再利用してすでに抽出されている項目にデータを取り込みます。別のカスタムフォームを追加したり、項目を追加したり、自動抽出された項目を編集したりして、対応付けをさらにカスタマイズします。

カスタムフォームページ間のナビゲーションの改善

対応付け定義ページに、カスタムフォームとフォームページ間を移動するオプションが追加されました。ズームインボタンとズームアウトボタンを使用するか、ビューをサムネイルからリストビューに変更できます。カスタムフォームページでは、抽出された項目が強調表示されるため、対応付けでそれらの項目に直感的かつ簡単にアクセスできます。

ドキュメント種別の対応付け間でフォーム項目を共有

サンプルドキュメントがない場合は、ドキュメント種別で定義された項目を共有する対応付けを作成できます。デフォルト項目のサムネイルには、ドキュメント種別で定義された対応付けが含まれます。項目はドキュメント種別に自動的に関連付けられるため、以前の対応付けを再利用することもできます。

部分的に対応付けられたフォーム項目の保存

対応付けには通常、カスタムフォームから自動抽出されるか手動で追加される項目が含まれます。いくつかのフォーム項目のみを対象オブジェクト項目に対応付け、それに対応付けられていないフォーム項目と共に保存できるようになりました。

関連トピック:

Einstein [リリースノート](#)

http://help.salesforce.com/articleView?id=sf.form_reader.htm

対応付けの自動生成

カスタムフォームをインテリジェントフォームリーダーにアップロードすると、カスタムフォーム項目が自動的に対応付け定義に抽出されます。または、同じドキュメントから別の対応付けを作成するときに、サンプルドキュメントを再利用してすでに抽出されている項目にデータを取り込みます。別のカスタムフォームを追加したり、項目を追加したり、自動抽出された項目を編集したりして、対応付けをさらにカスタマイズします。

対象: この変更は、AWSTextract1000LimitAddOn が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、複数のクラウドで使用できます。

理由: 自動抽出により、データの精度が向上し、手動によるデータ入力量が削減されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「インテリジェントフォームリーダー」と入力し、[インテリジェントフォームリーダー]を選択します。[新規対応付け]をクリックし、対応付け名と一意のAPI参照名を定義します。[フォーム種別]で、対応付けを作成するフォームの種別を選択します。たとえば、ドロップダウンで[カスタムフォーム]を選択します。フォームリーダーがカスタムフォームから項目を自動抽出できるようにするには、[ファイルをアップロード]をクリックしてサンプルフォームをアップロードします(1)。[対象オブジェクト]で、フォーム項目に対応付けるオブジェクトを選択し、[次へ]をクリックします。

対応付け定義ページで、抽出されたフォームがサムネイル(2)として表示され、抽出状況の詳細が示されます。自動抽出されたキーは、[フォーム項目]列に表示されます(3)。[対象オブジェクト項目]列で、フォーム項目に対応付ける項目を選択します(4)。必要に応じて、フォームを追加したり(5)、項目を追加したり、自動抽出された項目を編集したりします。

保存したら、同じサンプルドキュメントを使用して対応付け定義を作成するときに、対応付けを再利用できません。

関連トピック:

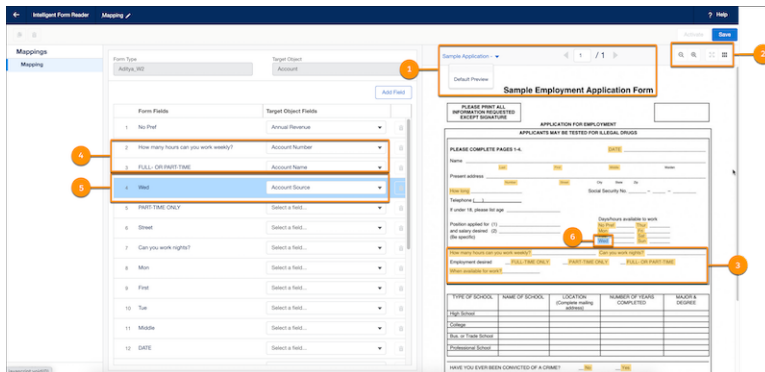
[インテリジェントフォームリーダー](#)(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタムフォームページ間のナビゲーションの改善

対応付け定義ページに、カスタムフォームとフォームページ間を移動するオプションが追加されました。ズームインボタンとズームアウトボタンを使用するか、ビューをサムネイルからリストビューに変更できます。カスタムフォームページでは、抽出された項目が強調表示されるため、対応付けでそれらの項目に直感的かつ簡単にアクセスできます。

対象: この変更は、AWSTextract1000LimitAddOn が有効になっている Developer Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、複数のクラウドで使用できます。

方法: 対応付けを作成するか、既存の対応付けを開きます。アップロードされたカスタムフォームの各ページはサムネイルとして表示されます。ページ上の項目の対応付けを指定または変更するには、サムネイルを選択し、[フォーム項目]列に項目が入力されたページ全体を表示します。ナビゲーションボタンを使用して、カスタムフォームとページ間を移動します (1)。ビューをサムネイルからリストビューに変更するか、ズームオプションを使用できます (2)。ページ (3、4) およびフォーム項目行 (5、6) で強調表示されている項目は、対応付けでの双方向の直感的なナビゲーションに役立ちます。



関連トピック:

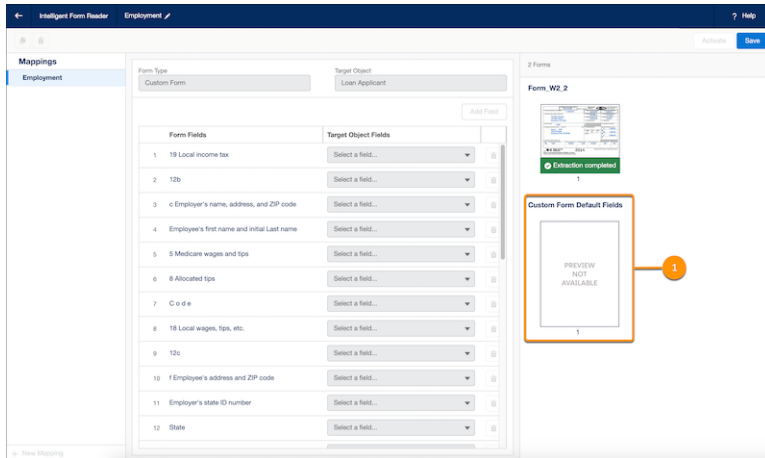
[インテリジェントフォームリーダー](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ドキュメント種別の対応付け間でフォーム項目を共有

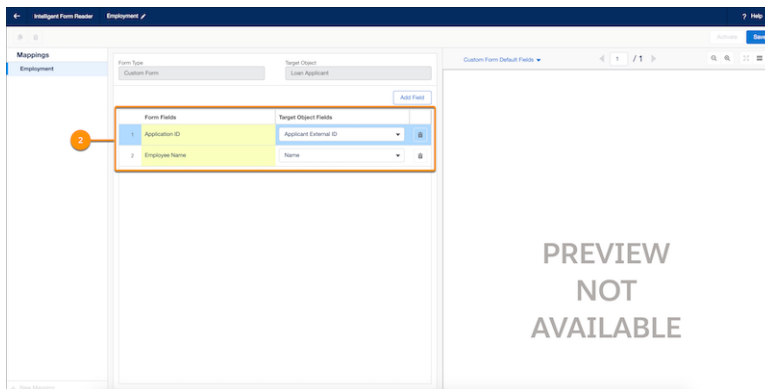
サンプルドキュメントがない場合は、ドキュメント種別で定義された項目を共有する対応付けを作成できます。デフォルト項目のサムネイルには、ドキュメント種別で定義された対応付けが含まれます。項目はドキュメント種別に自動的に関連付けられるため、以前の対応付けを再利用することもできます。

対象: この変更は、AWSTextract1000LimitAddOn が有効になっている Developer Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、複数のクラウドで使用できます。

方法: 対応付けを作成するか、既存の対応付けを開きます。特定のサンプルドキュメントに関係なく、[フォーム項目]列にこのドキュメント種別に一般的に関連付けられる項目を入力するには、ドキュメント種別サムネイルを選択します (1)。



必要なフォーム項目を編集して、対象オブジェクト項目に対応付け (2)、対応付け定義を保存します。



関連トピック:

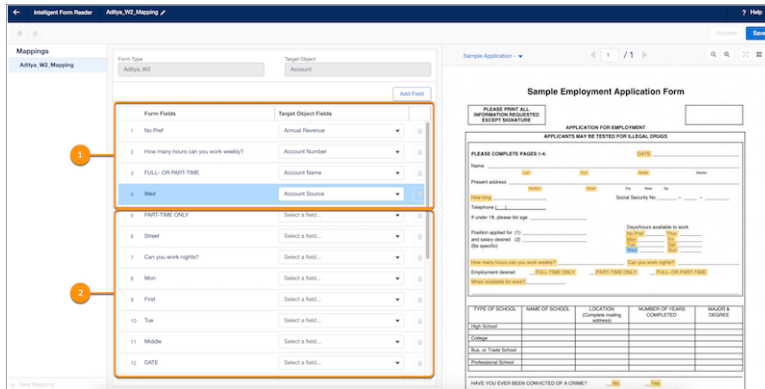
[インテリジェントフォームリーダー](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

部分的に対応付けられたフォーム項目の保存

対応付けには通常、カスタムフォームから自動抽出されるか手動で追加される項目が含まれます。いくつかのフォーム項目のみを対象オブジェクト項目に対応付け、それを対応付けられていないフォーム項目と共に保存できるようになりました。

対象: この変更は、AWSTextract1000LimitAddOn が有効になっている Developer Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、複数のクラウドで使用できます。

方法: 対応付けを作成するか、既存の対応付けを編集します。[フォーム項目] 列には、自動抽出または追加されたすべての項目が表示されます。必要なフォーム項目を対象オブジェクト項目に対応付け (1)、対応付け定義を保存します。対応付けられていないフォーム項目も保存され、後で編集できます (2)。



関連トピック:

[インテリジェントフォームリーダー](#)(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リテールバンキング向け Customer 360 ガイド

リテールバンキング向け Customer 360 ガイドが導入されます。オンボーディングとサービスプロセスを最適化して、銀行の顧客満足度を高めます。このガイドのアセットは、リテールバンキング業界でビジョンを構築し、デジタルトランスフォーメーションのためのプランを作るのに役立ちます。アーキテクチャの図とビジネスシナリオによって、Salesforce 製品を業界のベストプラクティスと組み合わせてビジネス機能を拡張する方法が示されます。ソリューションキットによって、Salesforce 推奨のクロスクラウドのソリューションを一般的な小売の使用事例に実装する方法が示されます。

このセクションの内容:

リテールバンキングのビジネスシナリオの探索

ビジネスシナリオは、組織のビジネス機能と目標を達成するために必要なソリューション間のギャップを埋めるのに役立ちます。各シナリオについて、価値実現までの時間を短縮し、組織の機能を構築するためのロードマップを定義できるさまざまな Salesforce ソリューションを発見します。

Salesforce ソリューションキットを使用したクロスクラウドソリューションの解決

Salesforce ソリューションキットは、複雑なクロスクラウドの使用事例のソリューションを実装するために役立ちます。各ソリューションキットには、特定の商品、設定、ベストプラクティスのお勧めが含まれています。

関連トピック:

[リテールバンキング向け Customer 360 ガイド](#)

リテールバンキングのビジネスシナリオの探索

ビジネスシナリオは、組織のビジネス機能と目標を達成するために必要なソリューション間のギャップを埋めるのに役立ちます。各シナリオについて、価値実現までの時間を短縮し、組織の機能を構築するためのロードマップを定義できるさまざまな Salesforce ソリューションを発見します。

方法: リテールバンキング向け Customer 360 ガイドの4つのビジネスシナリオにアクセスします。

- Optimize Customer Onboarding (顧客オンボーディングの最適化)
- Enable Operational Compliance (オペレーショナルコンプライアンスの有効化)
- Elevate Digital Experiences (デジタルエクスペリエンスの強化)
- Transform Service Engagements (サービスエンゲージメントの変換)

Salesforce ソリューションキットを使用したクロスクラウドソリューションの解決

Salesforce ソリューションキットは、複雑なクロスクラウドの使用事例のソリューションを実装するために役立ちます。各ソリューションキットには、特定の商品、設定、ベストプラクティスのおすすめが含まれています。

- **リテールバンキングのケースを回避**—リテールバンキングに関連した大量のカスタマーサービス要求を管理します。
- **金融サービスの顧客にシームレスなジャーニーを提供**—MarketingCloud ツールとジャーニーを使用して、金融サービスの顧客を獲得、オンボード、エンゲージします。
- **バンキングの予定をスケジュール**—地域で管理されている、または顧客が希望するソーシャルディスタンスを確保するために、顧客が予定をスケジュールできるようにするスケーラブルなプロセスを実装します。

Financial Services Cloud のその他の変更

Financial Services Cloud のその他の機能強化で、より多くの操作を実行できるようになりました。

このセクションの内容:

アクションプランへの ToDo 連動関係の追加

新しい ToDo 連動関係機能を使用して、アクションプランのすべての ToDo が最新でアクション可能であることを確認できます。アクションプランテンプレートで、後続の ToDo を開始するために事前に完了しておく必要がある前提ToDoを定義します。アクションプランが使用されている場合、ToDoはその前提が完了した場合のみ生成されます。

アクションプランへの ToDo 連動関係の追加

新しい ToDo 連動関係機能を使用して、アクションプランのすべての ToDo が最新でアクション可能であることを確認できます。アクションプランテンプレートで、後続の ToDo を開始するために事前に完了しておく必要がある前提ToDoを定義します。アクションプランが使用されている場合、ToDoはその前提が完了した場合のみ生成されます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ToDo をアクションプランテンプレートに追加するときは、[使用可能な ToDo] リストから1つ以上の前提ToDoを選択します。

[アクションプランテンプレート] ページの [ToDo] リストには、各 ToDo の前提が表示されます。[完了までの日数] 値で ToDo の日数が表示され、これには前提を完了する日数は含まれません。

SUBJECT	PREREQUISITE TASKS	PRIORITY	DAYS TO COMPLETE	ASSIGNED TO	REQUIRED
Hold review meeting	Pull account performance ...	High_api	1	Account Manager	<input checked="" type="checkbox"/>
Pull account performan...	Schedule review meeting ...	Normal	2	Account Manager	<input checked="" type="checkbox"/>
Research new investme...	Schedule review meeting ...	Normal	2	Account Manager	<input type="checkbox"/>
Schedule review meetin...		High_api	7	Account Manager	<input checked="" type="checkbox"/>

すべての前提が完了したら、後続の ToDo が自動的に作成され、アクションプランの ToDo リストに追加されます。

Financial Services Cloud の新規および変更済みのオブジェクト

新規および更新済みの Financial Services Cloud オブジェクトおよび項目で、より多くの操作を実行できるようになりました。

アクションプラン

アクションプランテンプレート項目間の終了-開始の連動関係を定義する

新しい Action Plan Template Item Dependency オブジェクトを使用します。

支店管理

オブジェクトイベントが発生したときに自動的にレコードを関連付けるための条件を定義する
新しい `RelatedRecordAssocCriteria` オブジェクトを使用します。

準拠データ共有

AccountParticipant オブジェクトの投稿および変更追跡フィードを表示する
新しい `AccountParticipantFeed` オブジェクトを使用します。

AccountParticipant オブジェクトの項目の値に対する変更履歴を表示する
新しい `AccountParticipantHistory` オブジェクトを使用します。

OpportunityParticipant オブジェクトの投稿および変更追跡フィードを表示する
新しい `OpportunityParticipantFeed` オブジェクトを使用します。

OpportunityParticipant オブジェクトの項目の値に対する変更履歴を表示する
新しい `OpportunityParticipantHistory` オブジェクトを使用します。

商談管理

金融機関が取り組んでいる商談を特定する
新しい `FinanciaDeal` オブジェクトを使用します。

商談が共有されているユーザまたはグループを表示する
新しい `FinancialDealParticipant` オブジェクトを使用します。

商談に関与しているパートナーや競合他社などの関係者を表示する
新しい `FinancialDealParty` オブジェクトを使用します。

商談で銀行によって提供される商品 (サービス) を特定する
新しい `FinancialDealProduct` オブジェクトを使用します。

保険

InsurancePolicyAsset オブジェクトの検索可能を取得する
`InsurancePolicyAsset` オブジェクトを検索できるようになりました。

インテリジェントなドキュメントの自動化

開示を認証するレコードを識別する
新しい `AuthFormRequestRecord` オブジェクトを使用します。

同意を求めるためにユーザに表示されるフォームを管理する
新しい `AuthorizationForm` オブジェクトを使用します。

特定のフォームに対するユーザの同意を取得する
新しい `AuthorizationFormConsent` オブジェクトを使用します。

データ使用目的で表示されるフォームを指定する
新しい `AuthorizationFormDataUse` オブジェクトを使用します。

期間とロケールに基づいてフォームのテキストバージョンを管理する

新しい `AuthorizationFormText` オブジェクトを使用します。

データ使用を制御する規制を定義する

新しい `DataUseLegalBasis` オブジェクトを使用します。

機密データを開示する正当な理由を指定する

新しい `DataUsePurpose` オブジェクトを使用します。

データ使用目的で1つ以上のフォームに対する同意をユーザに求める

新しい `InfoAuthorizationRequest` オブジェクトを使用します。

同意を求めるために特定の認証フォームをユーザに表示する

新しい `InfoAuthRequestForm` オブジェクトを使用します。

インテリジェントフォームリーダー

サンプルドキュメントのページの項目を定義する

新しい `OcrSampleDocumentPage` オブジェクトを使用して、OCR サンプルドキュメントのページを定義します。

`OcrSampleDocument` オブジェクトで追加された項目

- `ContentAssetId` 項目を使用して、関連付けられたコンテンツアセットを識別します。
- `NamespacePrefix` 項目を使用して、名前空間プレフィックスを管理パッケージに割り当てます。

`OcrSampleDocumentField` オブジェクトで追加された項目

- `FieldLabelMaxX` 項目を使用して、項目の境界ボックスの右端を示します。
- `FieldLabelMaxY` 項目を使用して、項目の境界ボックスの下端を示します。
- `FieldLabelMinX` 項目を使用して、項目の境界ボックスの左端を示します。
- `FieldLabelMinY` 項目を使用して、項目の境界ボックスの上端を示します。
- `OcrSampleDocumentPageId` 項目を使用して、関連付けられた OCR サンプルドキュメントページを識別します。

`OcrTemplate` オブジェクトで追加された項目

`NamespacePrefix` 項目を使用して、名前空間プレフィックスを管理パッケージに割り当てます。

インタラクション概要

インタラクションが共有されているユーザまたはグループを表示する

新しい `InteractionParticipant` オブジェクトを使用します。

Interaction の新規項目

インタラクションの一意の参照 ID を表示する

新しい `Reference Identifier` 項目を使用します。

インタラクションの説明を保存する

新しい `Description` 項目を使用します。

InteractionAttendee の新規項目

出席者がインタラクション主催者かどうかを示す

新しい `IsOrganizer` 項目を使用します。

インタラクションに対する出席者の反応を表示する

新しい `AttendeeResponse` 項目を使用します。

出席者のメールアドレスを表示する

新しい `EmailAddress` 項目を使用します。

InsurancePolicyAsset の新規項目

保険契約資産が有効かどうかを示す

新しい `IsActive` 項目を使用します。

REST API

Financial Services Cloud の REST API の次のコールが機能強化されました。

住宅ローン

住宅ローン申請の作成または更新に外部 ID が不要に

POST または PATCH 要求に `externalId` を含めなくても、住宅ローン申請の更新または更新/挿入できるようになりました。引き続き `externalId` 項目をキー値として使用できますが、必須ではありません。API エンドポイントは変更されていません。この変更は、v52.0 以降に適用されます。

データ処理エンジンの可用性の制限

データ処理エンジンは Government Cloud および Government Cloud Plus では使用できません。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、リベート管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

時期: これは、Spring '21 リリースにも適用されます。データ処理エンジンが Government Cloud および Government Cloud Plus で使用可能になったらお知らせいたします。

Health Cloud

インテリジェントな予定管理の導入により、最適な予定オプションが自動的に推奨されるようになり、コンタクトセンターとスケジュールスタッフは、ファーストコールでの解決を増やし、無断キャンセルを減らすことができます。また、堅牢な提供者検索機能のパフォーマンスと操作性も向上しています。

このセクションの内容:

インテリジェントな予定管理

コールセンターエージェントと各部門のスケジュール担当者は Health Cloud を使用して、柔軟性が高く直感的かつインテリジェントなコンソールスケジュール操作で適切な予定をすばやく予約できるようになりました。複数のスケジュールシステムとのインタラクションをバックグラウンドで1つのインターフェースに一元化できます。

提供者ネットワーク管理

提供者ネットワーク管理により、保険会社などの支払者は、簡単に提供者を各自のネットワークに取り込んで管理し、そのメンバーのケアを最適化できます。

提供者検索の機能強化

オンデマンドで提供者データを更新したり、必須項目を指定したり、連動項目値を設定したりできます。

提供者レコードの更新/挿入

新しい API を使用すると、Health Cloud のデータを更新/挿入して、医師と、医師に関連する提供者データモデル内のすべてのオブジェクトと項目(NPI、提供者の専門分野、提供者の分類など)を表すことができます。

Health Cloud 提供者コールセンター学習マップを使用したジャーニーの開始

Health Cloud 提供者コールセンター学習マップを使用して成功への道をたどります。学習マップに従って、ジャーニーの各ステップの対象リソースを使用して、Health Cloud 提供者コールセンターの計画と設定を行うことができます。1 か所でヘルプトピック、ホワイトペーパー、Trailhead モジュールを確認し、コールセンターの稼働をすぐに開始できます。

FHIR R4 サポートの機能強化

Health Cloud の Fast Healthcare Interoperability Resources (FHIR) R4 との互換性が向上しました。Health Cloud では、さらに2つの FHIR リソースと2つの FHIR データ型のサポートが追加されます。また、Spring '21 で開発された一部のオブジェクトは、FHIR R4 仕様により厳密に一致するように拡張されています。

利用管理

利用管理を使用すると、支払者は管理プロセスを合理化して治療の評価を迅速に行うことができます。この迅速な審査プロセスにより、患者は最高の治療を受け、ヘルスケアのコストを削減できます。

インテリジェントなドキュメントの自動化

同意および開示ドキュメントを管理したり、承認要請フォームを生成したり、ユーザの応答を追跡したりする機能がインテリジェントなドキュメントの自動化に追加されました。

インテリジェントフォームリーダー

スキャン済みファイルからより多くの値を取得する機能がインテリジェントフォームリーダーに追加されました。

Health Cloud のサイトユーザアクセス権の有効化

新しい Health Cloud for Experience Cloud Site 権限セットライセンスとその機能固有の権限セットを利用して、サイトユーザが Health Cloud の機能とオブジェクトを使用できるようになりました。

個人取引先の最適化

一部のデータベースクエリをスキップすることでユーザのパフォーマンスを向上させることができる、新しい設定が追加されました。

Health Cloud の新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

Connect REST API

Health Cloud REST API の次のコールが機能強化されました。

Apex: 新しい項目

Health Cloud の新しいクラス、インターフェース、列挙を次に示します。

インテリジェントな予定管理

コールセンターエージェントと各部門のスケジュール担当者は Health Cloud を使用して、柔軟性が高く直感的かつインテリジェントなコンソールスケジュール操作で適切な予定をすばやく予約できるようになりました。複数のスケジュールシステムとのインタラクションをバックグラウンドで1つのインターフェースに一元化できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。来院可能性予測機能には、Einstein Analytics Prediction アドオンライセンスと1つ以上のヘルスケア用 Tableau CRM ライセンス (管理用) が必要です。

理由: Health Cloud では、その中心的なタッチポイント (予定) の管理をサポートすることで、より完全な患者ジャーニーを実現できるようになりました。

- **スケジュール担当者:** 効率的なワークフローにより、コールセンターエージェントとスケジュール担当者は、異なるバックエンドスケジュールシステム、Fax、メールスレッド、通話の移動に費やす時間を減らすことができます。
- **患者:** Health Cloud と電子健康カルテシステム間で時間枠および予定レコードをリアルタイムで同期できるようになったため、患者の満足度を高めることができます。待ち時間が短縮され、電話の予約が効率化され、適切な提供者への割り当てが高速化されます。
- **提供者:** Health Cloud での予定のスケジュールは、コストのかかる無断キャンセルを減らすのに役立ちます。また、予定プロセスをプログラム登録やリモートデバイス監視などの他のエンゲージメントタッチポイントに直接結び付けて、統一された一貫性のある患者ケアエクスペリエンスを実現できます。

方法: インテリジェントな予定管理は、スケジュールシステムへのユーザインターフェースとして機能し、Health Cloud の拡張された提供者検索機能を活用して、何千もの候補から最も適切な提供者を見つけます。MuleSoft などのミドルウェアを使用して、FHIR に従った API を介してスケジュールシステムにシームレスに接続したり、Salesforce Scheduler から直接すべての活動を促進したりします。

省略可能な Einstein Analytics Prediction アドオンライセンスを使用すると、類似する患者の過去の来院率に基づいて、患者が来院する可能性が最も高い時間を強調表示できます (1)。これにより、コールセンターエージェントは患者が来院する可能性の高い予定を予約できます。

ユーザは、割り当てられた提供者(主ケア提供者など)をリストの上部で確認できるため、以前よりもすばやくスケジュールできます (2)。その直下で、昨年患者を診た提供者を確認できます。

外部スケジュールシステムから Health Cloud に予定や更新を通知できるため、エージェントやスケジュール担当者の情報が最新の状態に保たれます。そのため、エージェントやスケジュール担当者は Health Cloud で常に各自の患者の最新のビューを得ることができます (3)。

検索条件をカスタマイズして、ユーザが提供者を見つけやすくすることができます。独自の必須項目を指定したり、連動選択リストを設定したりすることもできます。

提供者ネットワーク管理

提供者ネットワーク管理により、保険会社などの支払者は、簡単に提供者を各自のネットワークに取り込んで管理し、そのメンバーのケアを最適化できます。

メモ: Vlocity Health and Insurance (Vlocity 医療および保険) パッケージの提供者募集機能と資格認定申請機能が Health Cloud で完全にサポートされます。Vlocity パッケージを使用する必要はありません。Vlocity Health and Insurance (Vlocity 医療および保険) の資格認定申請機能については、[Velocity に関するドキュメント](#)を参照してください。

このセクションの内容:

新しい Health Cloud データモデルを使用した提供者とネットワークの統合

Health Cloud データモデルで提供者の申込および資格認定がサポートされるようになったため、支払者は簡単に提供者をネットワークに登録できます。強化されたデータモデルには、支払者組織が提供者をネットワークに統合するために使用できる新しいオブジェクトが含まれます。提供者は支払者ネットワークへの参加を申し込みことができ、資格認定の専門家は承認の情報を確認および検証できます。

新しい Health Cloud データモデルを使用した提供者とネットワークの統合

Health Cloud データモデルで提供者の申込および資格認定がサポートされるようになったため、支払者は簡単に提供者をネットワークに登録できます。強化されたデータモデルには、支払者組織が提供者をネットワークに統合するために使用できる新しいオブジェクトが含まれます。提供者は支払者ネットワークへの参加を申し込みことができ、資格認定の専門家は承認の情報を確認および検証できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: このデータモデルを使用するには、Salesforce 組織で Health Cloud ライセンスと Health Cloud 提供者ネットワーク管理アドオンライセンスがプロビジョニングされている必要があります。


関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud_object_reference/meta/health_cloud_object_reference/hc_provider_data_model.htm

https://help.salesforce.com/articleView?id=sf.admin_provider_relationship.htm

提供者検索の機能強化

オンデマンドで提供者データを更新したり、必須項目を指定したり、連動項目値を設定したりできます。

 **メモ:** Vlocity Health and Insurance (Vlocity 医療および保険) パッケージの提供者募集機能と資格認定申請機能が Health Cloud で完全にサポートされるようになりました。Vlocity パッケージを使用する必要はありません。

このセクションの内容:

検索可能な項目をオンデマンドで更新

Health Cloud 提供者項目は 6 時間ごとに更新されますが、更新をテストするのに待機する必要はありません。Sandbox で提供者検索を設定し、テキストとデータを更新してから、設定を本番に移行します。

必須提供者検索項目の指定

提供者検索フォームをカスタマイズします。必要な項目を [提供者名]、[施設名]、[専門分野] 必須項目に追加します。

提供者検索結果のコピーによるメンバーの問い合わせへの迅速な対応

ユーザは、アイコンをクリックして検索結果の提供者の詳細をクリップボードにコピーできるようになりました。少ないクリックとキーストロークで提供者の問い合わせに迅速に対応できます。

連動選択リストを使用した選択の合理化

無効なオプションが対象から除外される連動選択リストを使用して、ユーザに適切かつ迅速な結果を提供します。たとえば、ユーザが [都道府県] 項目でウィスコンシンを選択した場合、[提供者] 項目にはウィスコンシンで運営している提供者のみが表示されます。

複数選択リストを使用した提供者検索結果の改善

複数選択に基づく検索では、ユーザにより包括的な結果を提供できます。複数選択リストを使用すると、検索結果で完全一致と部分一致がユーザに返されます。カスタム複数選択リストが実行されるように提供者検索を設定できるようになりました。以前は、テキスト項目と単一選択リストしか使用できませんでした。

提供者の迅速な検出

コールセンターのオペレータは、先行入力項目を使用して、患者の適切な情報をすばやく見つけることができます。

検索可能な項目をオンデマンドで更新

Health Cloud 提供者項目は 6 時間ごとに更新されますが、更新をテストするのに待機する必要はありません。Sandbox で提供者検索を設定し、テキストとデータを更新してから、設定を本番に移行します。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

http://help.salesforce.com/articleView?id=sf.admin_create_provider_search_data.htm

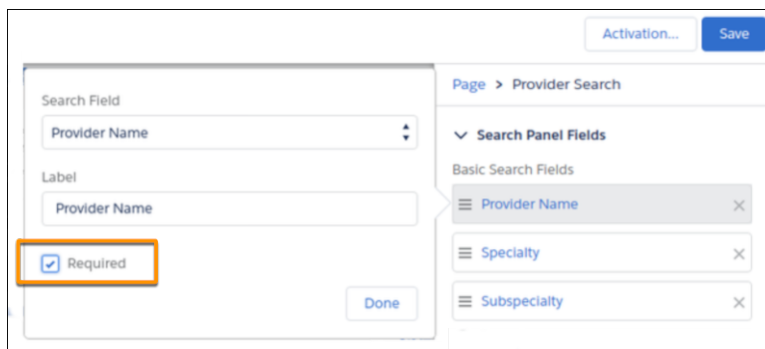
必須提供者検索項目の指定

提供者検索フォームをカスタマイズします。必要な項目を [提供者名]、[施設名]、[専門分野] 必須項目に追加します。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザーには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

方法: アプリケーションビルダーで、提供者検索コンポーネントを編集します。[検索パネル項目] で、項目をクリックして [必須] オプションをオンまたはオフにします。



提供者検索結果のコピーによるメンバーの問い合わせへの迅速な対応

ユーザーは、アイコンをクリックして検索結果の提供者の詳細をクリップボードにコピーできるようになりました。少ないクリックとキーストロークで提供者の問い合わせに迅速に対応できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 提供者検索結果の [コピー] アイコンを有効にするには、まずページの提供者検索コンポーネントを設定する必要があります。Lightning アプリケーションビルダーで提供者検索コンポーネントが含まれるページを開き、[アクションバーを表示] チェックボックスをオンにします。

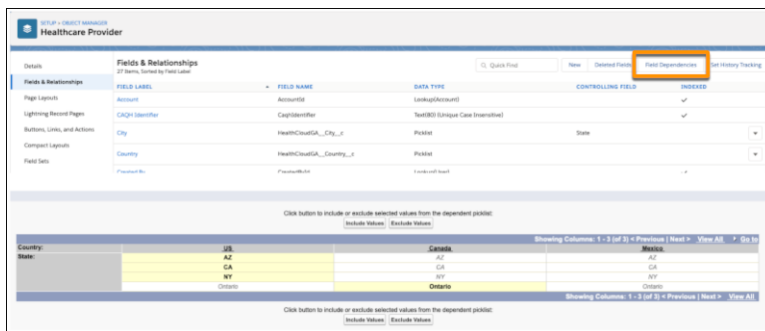
連動選択リストを使用した選択の合理化

無効なオプションが対象から除外される連動選択リストを使用して、ユーザに適切かつ迅速な結果を提供します。たとえば、ユーザが [都道府県] 項目でウィスコンシンを選択した場合、[提供者] 項目にはウィスコンシンで運営している提供者のみが表示されます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

方法: オブジェクトマネージャで、オブジェクトを選択して、その [項目とリレーション] セクションに移動します。[項目の連動関係] をクリックし、目的に合った項目値の階層を指定します。



メモ: 制御項目には最大 300 個の連動項目を使用できますが、連動項目には 1 つの制御項目しか使用できません。

複数選択リストを使用した提供者検索結果の改善

複数選択に基づく検索では、ユーザにより包括的な結果を提供できます。複数選択リストを使用すると、検索結果で完全一致と部分一致がユーザに返されます。カスタム複数選択リストが実行されるように提供者検索を設定できるようになりました。以前は、テキスト項目と単一選択リストしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ケア提供者検索設定」と入力し、[ケア提供者検索設定] を選択します。次に、ヘルスケア提供者オブジェクトまたはヘルスケア担当医師の施設オブジェクトのカスタム複数選択リストをケア提供者検索可能項目オブジェクトのカスタムテキスト項目に対応付ける検索設定を作成します。

関連トピック:

http://help.salesforce.com/articleView?id=sf.provider_search_custom_fields.htm


提供者の迅速な検出

コールセンターのオペレータは、先行入力項目を使用して、患者の適切な情報をすばやく見つけることができます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

方法: ユーザは、[検索] をクリックして絞り込まれた結果を確認する必要はありません。ユーザがテキスト項目または選択リスト項目に 3 文字以上入力すると、一致するレコードがすぐに表示されます。たとえば、[提供者名] に「anu」と入力すると、名が Anu、Anupama、Anushri などの提供者がポップアップされます。適切な一致が表示されない場合、ワンクリックでより詳細な結果を取得できます。

 **メモ:** [高度な検索を表示] リンクは、システム管理者が高度な項目を指定した場合にのみが表示されるようになりました。高度な項目がない場合、このリンクはユーザに表示されません。

提供者レコードの更新/挿入

新しい API を使用すると、Health Cloud のデータを更新/挿入して、医師と、医師に関連する提供者データモデル内のすべてのオブジェクトと項目 (NPI、提供者の専門分野、提供者の分類など) を表すことができます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この変更は、バージョン 52.0 以降の Salesforce API で使用できます。

理由: 更新/挿入では、ヘルスケア提供者レコード項目のデータの更新と新規項目の挿入が 1 回のコールで実行されます。たとえば、既存の提供者取引先の稼働時間を更新すると同時に提供者種別を指定することができます。

Health Cloud 提供者コールセンター学習マップを使用したジャーニーの開始

Health Cloud 提供者コールセンター学習マップを使用して成功への道をたどります。学習マップに従って、ジャーニーの各ステップの対象リソースを使用して、Health Cloud 提供者コールセンターの計画と設定を行うことができます。1 か所でヘルプトピック、ホワイトペーパー、Trailhead モジュールを確認し、コールセンターの稼働をすぐに開始できます。



方法:トレイルの各停止位置をクリックすると、ジャーニーの該当のフェーズをサポートするコンテンツのページが表示されます。ユーザの質問に答えて、ユーザを正しい方向に導くように、教育リソースを徹底的に調べて最適なコンテンツをまとめました。

関連トピック:

<https://hcprovider.herokuapp.com/>

FHIR R4 サポートの機能強化

Health Cloud の Fast Healthcare Interoperability Resources (FHIR) R4 との互換性が向上しました。Health Cloud では、さらに 2 つの FHIR リソースと 2 つの FHIR データ型のサポートが追加されます。また、Spring '21 で開発された一部のオブジェクトは、FHIR R4 仕様により厳密に一致するように拡張されています。

🚨 重要:

- Summer'22 リリース以降、新しい顧客はパッケージ化された EHR オブジェクトにレコードを作成できません。このパッケージ化された EHR オブジェクトには、FHIR R4 に従ったデータモデル内にそれに対応する標準オブジェクトがあります。
- Health Cloud での今後のすべての開発は、FHIR R4 に従ったデータモデルに構築されます。EHR データモデルのパッケージ化されたオブジェクトは今後の開発には使用されません。

このセクションの内容:

StoreHealth Cloud により多くの種類の臨床データを保存

Health Cloud では、FHIR リソースの DocumentReference と Device、および FHIR データ型の Timing と Annotation がサポートされるようになりました。これらのリソースとデータ型のサポートを追加することで、HealthCloud とその臨床データモデルは、より多くの種類のヘルスケア情報を保存できるようになりました。

FHIR リソースとの連携の強化

Health Cloud は、Spring '21 リリースからサポートされていた FHIR リソースとより緊密に連携するようになりました。機能強化には、新しい子オブジェクトと既存のオブジェクトの新しい項目が含まれます。

FHIR R4 に従ったデータモデルでのレポートの実行

FHIR R4 に従ったデータモデルで健康カルテを包括的に把握するためのレポートを作成します。

臨床データモデルのオブジェクトに対するサイトユーザアクセス権の有効化

適切な権限セットライセンスと Experience Cloud Site 用 FHIR R4 権限セットを持っているサイトユーザが、臨床データモデルのオブジェクトにアクセスできるようになりました。

StoreHealth Cloud により多くの種類の臨床データを保存

Health Cloud では、FHIR リソースの DocumentReference と Device、および FHIR データ型の Timing と Annotation がサポートされるようになりました。これらのリソースとデータ型のサポートを追加することで、HealthCloud とその臨床データモデルは、より多くの種類のヘルスケア情報を保存できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: DocumentReference は、診断の概要オブジェクトと新しい診断の概要の詳細子オブジェクトの機能強化を使用してサポートされます。Device は、納入商品オブジェクトと、ケア登録済み機器オブジェクトの機能強化を使用してサポートされます。Timing と Annotation は、新しい活動タイミングオブジェクトと作成者メモオブジェクトを使用してサポートされます。

FHIR リソースとの連携の強化

Health Cloud は、Spring '21 リリースからサポートされていた FHIR リソースとより緊密に連携するようになりました。機能強化には、新しい子オブジェクトと既存のオブジェクトの新しい項目が含まれます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由:

- 薬剤オブジェクトには、成分関連情報を保存するための新しい子オブジェクトとして薬効成分があります。新しい項目を使用して、バッチ番号と有効期限を薬剤レコードに保存することもできます。
- 健康状態オブジェクトには、新しい子オブジェクト (健康状態の詳細) があり、身体部位と左右差の 0 対多の値がサポートされます。
- 取引先オブジェクトには、個人取引先および組織レコードのソースシステム情報をサポートするための [ソースシステム ID] 項目と [ソースシステム変更済み] 項目があります。
- コードセットバンドルレコードは、新しい [種別] 項目を使用して種別ごとにグループ化できます。
- ケア観察オブジェクトには、観察値の導出に使用されるレコードを指定するための新しい項目 [派生ソース] があります。
- 患者免疫付与レコードは、[メーカーアカウント] 項目を使用して、メーカーを表す組織レコードを参照できます。
- 機器とドキュメントの参照値をサポートするために、さまざまなオブジェクトにケア登録済み機器オブジェクトと診断の概要オブジェクトへの参照が追加されました。

FHIR R4 に従ったデータモデルでのレポートの実行

FHIR R4 に従ったデータモデルで健康カルテを包括的に把握するためのレポートを作成します。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この変更は、Spring '21 リリースで 2021 年 3 月の第 1 週に使用可能になります。

臨床データモデルのオブジェクトに対するサイトユーザアクセス権の有効化

適切な権限セットライセンスと Experience Cloud Site 用 FHIR R4 権限セットを持っているサイトユーザが、臨床データモデルのオブジェクトにアクセスできるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この権限セットは 2021 年 7 月 15 日から使用できます。

対象ユーザ: この権限セットは、Health Cloud for Experience Cloud Site 権限セットライセンスを割り当てられているユーザが使用できます。

方法: サイトユーザがこのオブジェクトにアクセスできるようにするには、サイトユーザに Health Cloud for Experience Cloud Site 権限セットライセンスと Experience Cloud Site 用 FHIR R4 権限セットを割り当てます。

利用管理

利用管理を使用すると、支払者は管理プロセスを合理化して治療の評価を迅速に行うことができます。この迅速な審査プロセスにより、患者は最高の治療を受け、ヘルスケアのコストを削減できます。

このセクションの内容:

患者ケアを改善するための利用管理の合理化

改善された Health Cloud 利用管理データモデルを使用すると、ケア要請承認の業務を効率化できます。このデータモデルにより、提供者と支払者はケア要請でより多くの情報を提供できます。また、承認サイクル時間の短縮や承認の改善が実現し、メンバーが迅速にケアを受けられるようになります。

FHIR R4 に従った項目を使用した正確な情報の取得

Health Cloud 利用管理データモデルに FHIR R4 に従った項目が含まれるようになり、コード化された重要な情報を取得できるようになりました。HealthCareProcedure および HealthCareDiagnosis エンティティを参照する既存の項目は保持されていますが、CodeSets および CodeSetBundles を参照する新しい項目を使用することを強くお勧めします。

利用管理オブジェクトに対するアクセス権の Experience Cloud ユーザへの付与

利用管理データオブジェクトの「作成」、「参照」、「更新」、または「削除」権限を Experience Cloud ユーザに付与できるようになりました。

患者ケアを改善するための利用管理の合理化

改善された Health Cloud 利用管理データモデルを使用すると、ケア要請承認の業務を効率化できます。このデータモデルにより、提供者と支払者はケア要請でより多くの情報を提供できます。また、承認サイクル時間の短縮や承認の改善が実現し、メンバーが迅速にケアを受けられるようになります。

対象: 利用管理ユーザインターフェースは、Lightning Experience でのみ使用できます。Lightning Experience または Salesforce Classic のいずれかで利用管理を設定できます。この機能は、Health Cloud が有効になっている組織で使用できます。

対象ユーザ: ユーザには、Health Cloud および Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが割り当てられている必要があります。また、ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud 利用管理の権限セットも必要です。

理由: 提供者は、事前承認要請を支払者に申請するときに、診断、薬品要請、サービス要請レコードを作成して、それらを要請に関連付けることができます。その後、支払者組織の UM 臨床医や正看護師などの審査担当者は、必要に応じて要請の審査、評価、エスカレーションを行うことができます。メディカルディレクターは、要請を承認または拒否し、決定の理由を入力できます。支払者、提供者、メンバーは、各自の要請の状況を参照および追跡できます。このレベルの透過性を実現することで、カスタマーエクスペリエンスとメンバーの信頼が向上します。

FHIR R4 に従った項目を使用した正確な情報の取得

Health Cloud 利用管理データモデルに FHIR R4 に従った項目が含まれるようになり、コード化された重要な情報を取得できるようになりました。HealthCareProcedure および HealthCareDiagnosis エンティティを参照する既存の項目は保持されていますが、CodeSets および CodeSetBundles を参照する新しい項目を使用することを強くお勧めします。

対象: 利用管理ユーザインターフェースは、Lightning Experience でのみ使用できます。Lightning Experience または Salesforce Classic のいずれかで利用管理を設定できます。この機能は、Health Cloud が有効になっている組織で使用できます。

対象ユーザ: ユーザには、Health Cloud および Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが割り当てられている必要があります。また、ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud 利用管理の権限セットも必要です。

利用管理オブジェクトに対するアクセス権の Experience Cloud ユーザへの付与

利用管理データオブジェクトの「作成」、「参照」、「更新」、または「削除」権限を Experience Cloud ユーザに付与できるようになりました。

対象: 利用管理ユーザインターフェースは、Lightning Experience でのみ使用できます。Lightning Experience または Salesforce Classic のいずれかで利用管理を設定できます。この機能は、Health Cloud が有効になっている組織で使用できます。

対象ユーザ: Health Cloud ユーザには、Health Cloud および Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが割り当てられている必要があります。また、ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud 利用管理の権限セットも必要です。外部ユーザには、Customer Community、Customer Community Plus、Partner Community、External Apps のいずれかの標準外部プロファイルが必要です。

インテリジェントなドキュメントの自動化

同意および開示ドキュメントを管理したり、承認要請フォームを生成したり、ユーザの応答を追跡したりする機能がインテリジェントなドキュメントの自動化に追加されました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 同意および開示の承認は、多くのビジネスプロセスで重要なステップになります。同意書の例としては、毎年のプライバシーポリシーや、金融データの共有に関する開示説明などがあります。

方法: 最初に、ユーザの同意または開示が必要になるビジネスプロセス用の認証フォームレコードとデータ使用目的レコードを定義します。フォームコンテンツをテキストまたはPDFドキュメントとしてインポートしたり、地域ごとに複数のバージョンのコンテンツを管理することもできます。

認証要求を作成して、ユーザが署名するための同意フォームと開示フォームを生成します。法的規制やビジネスプロセスの要件に基づいて、1つの承認要請で1つ以上の承認フォーム要請を生成できます。

ユーザが各要求を確認したか、署名したか、拒否したか、またユーザが応答を行った方法とタイミングを追跡できます。必要に応じて、検証および監査を目的として、ユーザのメールアドレス、IPアドレス、同意時の地理的位置などのユーザ応答に関する追加情報を取得します。

このセクションの内容:

ロケール固有の同意および開示のドキュメントバージョンの管理

地域や期間に基づいて、異なるバージョンの同意および開示フォームテキストを管理します。

オンデマンドでの同意認証要求の生成

取引先、金融口座、その他の顧客が関連するレコードと一緒に、顧客からの同意および開示の認証を管理します。新しいインテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、データ使用目的のために複数の認証要求を生成できます。

顧客からの同意および開示の認証の収集

機密データを取得または共有する前に顧客が情報開示ポリシーに同意していることを確認してください。インテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、ユーザに提示される同意および開示の認証要求を監視し、ユーザの応答を追跡できます。このプロセスでは、誰かが別の個人またはグループの代わりに同意することもできます。

関連トピック:

http://help.salesforce.com/articleView?id=sf.admin_document_automation.htm

ロケール固有の同意および開示のドキュメントバージョンの管理

地域や期間に基づいて、異なるバージョンの同意および開示フォームテキストを管理します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 時間とともに変わっていく規制およびポリシーに対応し、言語や場所に基づいて適切な同意および開示情報を顧客に提供します。

方法: 最初に、フォームの発効日やユーザ署名が必要かどうか、フォームでサポートする関連規制などの詳細を指定する認証フォームレコードを作成します。

Revision Number	Effective From Date	Effective To Date	Default Auth Form Text
1	4/1/2021	4/1/2022	Good Faith Estimate Disclosure English 2021

Information	
Name	Revision Number
Good Faith Loan Estimate Disclosure	1
Effective From Date	Effective To Date
4/1/2021	4/1/2022
Default Auth Form Text	Is Signature Required
Good Faith Estimate Disclosure English 2021	<input type="checkbox"/>
Associated Regulation	Consent Duration Day Count
1024.7 GFEwege	30

各フォームではデフォルトの認証フォームテキストレコードを指定し、このレコードには同意を要求するときに顧客に表示されるテキストが格納されるか、レコードからこのテキストにリンクします。サポートする地域や言語ごとに承認フォームテキストレコードを追加します。

Revision Number	Effective From Date	Effective To Date	Default Auth Form Text
			Mortgage Servicing Disclosure English 2022

Authorization Form Text (6)	
Name	
Mortgage Servicing Disclosure English 2020	
Mortgage Servicing Disclosure English 2021	
Mortgage Servicing Disclosure English 2019	
Mortgage Servicing Disclosure Spanish 2021	
Mortgage Servicing Disclosure English 2022	
Mortgage Servicing Disclosure Spanish 2022	

認証フォームテキストレコードに使用するテキスト全文を含めることも、このレコードからテキストがあるURLにリンクすることもできます。一度にロケールで有効にできるのは1つの認証フォームテキストレコードのみです。

The screenshot shows the 'Details' view of an 'Authorization Form Text' record. The record name is 'Mortgage Servicing Disclosure Spanish 2021'. The 'Summary Auth Form Text' field contains the text: 'El servicio de este préstamo puede transferirse a un administrador de préstamos diferente. "Servicio" se refiere a cobrar sus pagos de capital, intereses y depósito en garantía, si corresponde, así como al envío de estados de cuenta mensuales o anuales, e'. The 'Is Active' and 'Is Read Only' checkboxes are both checked. The 'Locale' is set to 'Spanish (Ecuador)'.

オンデマンドでの同意認証要求の生成

取引先、金融口座、その他の顧客が関連するレコードと一緒に、顧客からの同意および開示の認証を管理します。新しいインテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、データ使用目的のために複数の認証要求を生成できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 同意承認ステップをビジネスプロセスに統合して、プライバシーに関する規制およびポリシーへの準拠を促進します。

方法: 最初に、ユーザの同意または開示が必要になるビジネスプロセス用の認証フォームレコードとデータ使用目的レコードを定義します。規制やビジネスプロセスの要件に基づいて、各目的について1つまたは複数の認証フォームのデータ使用を指定できます。

The screenshot shows the 'Related' section of a 'Data Use Purpose' record. It displays a table of 'Authorization Form Data Uses' with 2 records. The first record is 'Mortgage Initiation- 1024.7 GFE' linked to the 'Good Faith Estimate Disclosure' authorization form. The second record is 'Mortgage Initiation- RESPA' linked to the 'Mortgage Servicing Disclosure' authorization form. There is a 'View All' link at the bottom of the table.

特定のデータ使用目的について認証要求を作成して、ユーザが署名するための同意フォームと開示フォームを生成します。1つの認証要求で、データ使用に基づいて顧客のために1つ以上の認証フォーム要求を作成できます。

たとえば、住宅ローンの開始プロセス中に、ローン担当者は住宅ローン開示認証要求を作成できます。住宅ローン開始のデータ使用目的には、2つの認証フォームに関連する、2つの個別の使用がリストされます。その後、要求によって、住宅ローン提供開示フォームやローン費用の見積書開示フォームを含めて、借主が署名するための複数の認証要求フォームが生成されます。

Date	Field	User	Original Value	New Value
4/6/2021, 7:21 PM	Created.	Anne Carter		

Name	Authorization Form Text	Response Status	Latest Authorization Form Consent
IARF-0000000011	Mortgage Servicing Disclosure Eng...	New	
IARF-0000000012	Good Faith Estimate Disclosure Eng...	New	

顧客からの同意および開示の認証の収集

機密データを取得または共有する前に顧客が情報開示ポリシーに同意していることを確認してください。インテリジェントなドキュメントの自動化機能を使用して、ユーザーに提示される同意および開示の認証要求を監視し、ユーザーの応答を追跡できます。このプロセスでは、誰かが別の個人またはグループの代わりに同意することもできます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 同意および開示の承認をビジネスプロセスに組み込んで、プライバシーに関する規制への準拠を促進します。

方法: ユーザーが各要求を確認したか、署名したか、拒否したか、またユーザーが応答を行った方法とタイミングを追跡できます。必要に応じて、検証および監査を目的として、ユーザーのメールアドレス、IPアドレス、同意時の地理的位置などのユーザー応答に関する追加情報を取得します。

Info Authorization Request
Mortgage Disclosures - Jarndyce

Data Use Purpose: [Mortgage Initiation](#) | Pertains To: [John Jarndyce](#) | Consenter: [John Jarndyce](#) | Response Status: [Seen](#)

Related | Details

Info Authorization Request History (1)

Date	Field	User	Original Value	New Value
4/8/2021, 7:21 PM	Created.	Anne Carter		

[View All](#)

Authorizable Form Request Records (0) [New](#)

Info Authorization Request Forms (2) [New](#)

Name	Authorization Form Text	Response Status	Latest Authorization Form Cons...
IARF-0000000011	Mortgage Servicing Disclosure En...	Seen	Mortgage servicing consent - Jarn...
IARF-0000000012	Good Faith Estimate Disclosure En...	Signed	

[View All](#)

認証要求に対するユーザの応答を記録するには、情報認証要求ページで[関連]タブをクリックします。情報認証要求フォームリストでいずれかの項目を選択します。そのフォーム自体でのシンプルな応答を取得できます。または、認証フォーム同意レコードを追加して、署名したユーザ、署名したタイミング、署名時にいた場所に関するその他の詳細を取得します。

Authorization Form Consent
Mortgage servicing consent

Consent Giver: [John Jarndyce](#) | Authorization Form Text: [Mortgage Servicing Disclosure English 2022](#) | Consent Captured Source | Consent Captured Source Type: [Phone](#)

Related | **Details**

Information

Name	Mortgage servicing consent	Consent Giver	John Jarndyce
Authorization Form Text	Mortgage Servicing Disclosure English 2022	Consent Captured Source	
Consent Captured Source Type	Phone	Info Authorization Request Form	
Consent Captured Date Time	4/8/2021, 12:00 PM	Consent Expiration Date Time	5/6/2021, 12:00 PM
Content Version		Status	Signed
Email			
Location			
Browser			
IP			

インテリジェントなドキュメントの自動化オブジェクトはエクスペリエンスビルダーライセンスで使用できるため、顧客のためにセルフサービスの認証ステップをデザインすることもできます。

インテリジェントフォームリーダー

スキャン済みファイルからより多くの値を取得する機能がインテリジェントフォームリーダーに追加されました。

このセクションの内容:

対応付けの自動生成

カスタムフォームをアップロードして、インテリジェントフォームリーダーでカスタム項目が自動的に対応付け定義に抽出されるようにします。または、同じドキュメントから別の対応付けを作成するときに、サンプルドキュメントを再利用してすでに抽出されている項目にデータを取り込みます。フォーム項目の自動抽出により、データの精度が向上し、手動による作業負荷が軽減されます。別のカスタムフォームを追加したり、項目を追加したり、自動抽出された項目を編集したりして、対応付けをさらにカスタマイズします。

カスタムフォームページ間のナビゲーションの改善

対応付け定義ページに、カスタムフォームとフォームページ間を移動するオプションが追加されました。ズームインボタンとズームアウトボタンを使用するか、ビューをサムネイルからリストビューに変更できます。カスタムフォームページでは、抽出された項目が強調表示されるため、対応付けでそれらの項目に直感的かつ簡単にアクセスできます。

ドキュメント種別の対応付け間でフォーム項目を共有

サンプルドキュメントがない場合は、ドキュメント種別で定義された項目を共有する対応付けを作成できます。デフォルト項目のサムネイルには、ドキュメント種別で定義された対応付けが含まれます。項目はドキュメント種別に自動的に関連付けられるため、以前の対応付けを再利用することもできます。

対応付けのドラフトの保存

対応付けには通常、カスタムフォームから自動抽出されるか手動で追加される項目が含まれます。いくつかのフォーム項目のみを対象オブジェクト項目に対応付け、それを対応付けられていないフォーム項目と共にドラフトとして保存できるようになりました。

関連トピック:

http://help.salesforce.com/articleView?id=sf.form_reader.htm

対応付けの自動生成

カスタムフォームをアップロードして、インテリジェントフォームリーダーでカスタム項目が自動的に対応付け定義に抽出されるようにします。または、同じドキュメントから別の対応付けを作成するときに、サンプルドキュメントを再利用してすでに抽出されている項目にデータを取り込みます。フォーム項目の自動抽出により、データの精度が向上し、手動による作業負荷が軽減されます。別のカスタムフォームを追加したり、項目を追加したり、自動抽出された項目を編集したりして、対応付けをさらにカスタマイズします。

対象: この変更は、AWSTextract1000LimitAddOnが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、複数のクラウドで使用できます。

理由: フォーム項目の自動抽出は、正しいデータの取得の精度と効率を向上させ、対応付け定義に項目を入力する手動作業を軽減します。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「インテリジェントフォームリーダー」と入力し、[インテリジェントフォームリーダー] を選択します。[新規対応付け] をクリックし、対応付け名と一意の API 参照名を定義します。[フォーム種別] で、対応付けを作成するフォームの種別を選択します。たとえば、ドロップダウンで [カスタムフォーム] を選択します。フォームリーダーがカスタムフォームから項目を自動抽出できるようにするには、[ファイルをアップロード] をクリックしてサンプルフォームをアップロードします (1)。[対象オブジェクト] で、フォーム項目に対応付けるオブジェクトを選択し、[次へ] をクリックします。

対応付け定義ページで、抽出されたフォームがサムネイル(2)として表示され、抽出状況の詳細が示されます。自動抽出されたキーは、[フォーム項目]列に表示されます(3)。(対象オブジェクト項目]列で、フォーム項目を対応付ける項目を選択します(4)。必要に応じて、フォームを追加したり(5)、項目を追加したり、自動抽出された項目を編集したりします。

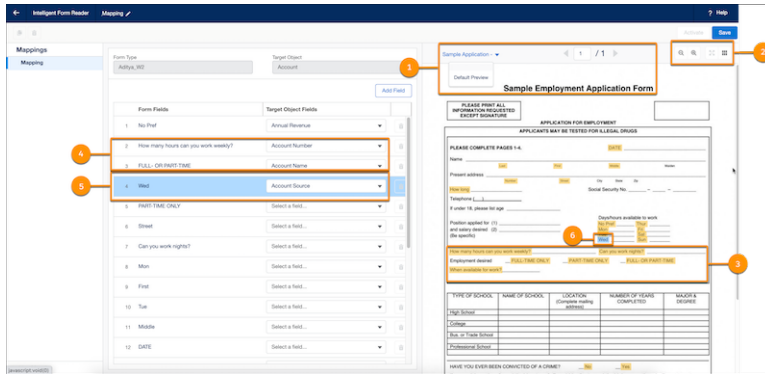
保存したら、同じサンプルドキュメントを使用して対応付け定義を作成するときに、対応付けを再利用できます。

カスタムフォームページ間のナビゲーションの改善

対応付け定義ページに、カスタムフォームとフォームページ間を移動するオプションが追加されました。ズームインボタンとズームアウトボタンを使用するか、ビューをサムネイルからリストビューに変更できます。カスタムフォームページでは、抽出された項目が強調表示されるため、対応付けでそれらの項目に直感的かつ簡単にアクセスできます。

対象: この変更は、AWSTextract1000LimitAddOn が有効になっている Developer Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、複数のクラウドで使用できます。

方法: 対応付けを作成するか、既存の対応付けを開きます。アップロードされたカスタムフォームの各ページはサムネイルとして表示されます。ページ上の項目の対応付けを指定または変更するには、サムネイルを選択し、[フォーム項目]列に項目が入力されたページ全体を表示します。ナビゲーションボタンを使用して、カスタムフォームとページ間を移動します(1)。ビューをサムネイルからリストビューに変更するか、ズームオプションを使用できます(2)。ページ(3、4)およびフォーム項目行(5、6)で強調表示されている項目は、対応付けでの双方向の直感的なナビゲーションに役立ちます。

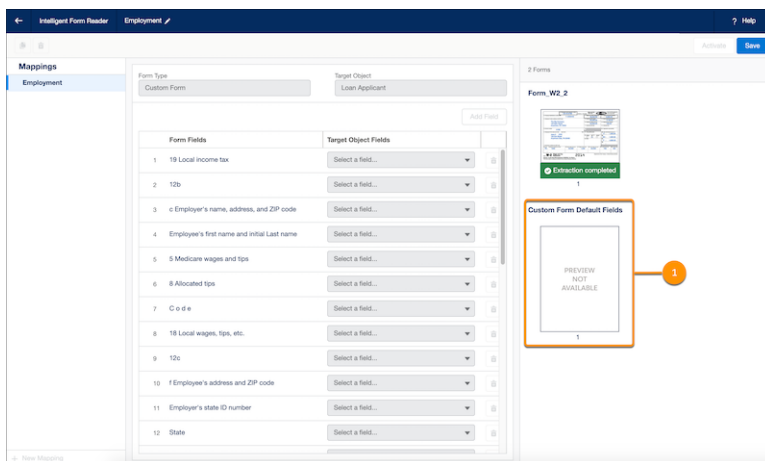


ドキュメント種別の対応付け間でフォーム項目を共有

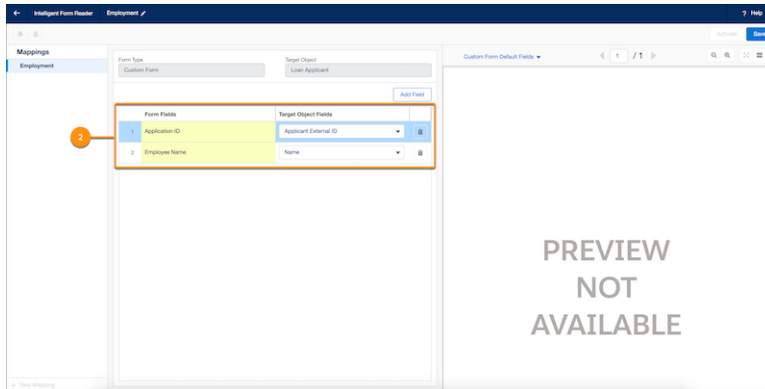
サンプルドキュメントがない場合は、ドキュメント種別で定義された項目を共有する対応付けを作成できます。デフォルト項目のサムネイルには、ドキュメント種別で定義された対応付けが含まれます。項目はドキュメント種別に自動的に関連付けられるため、以前の対応付けを再利用することもできます。

対象: この変更は、AWSTextract1000LimitAddOn が有効になっている Developer Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、複数のクラウドで使用できます。

方法: 対応付けを作成するか、既存の対応付けを開きます。特定のサンプルドキュメントに関係なく、[フォーム項目] 列にこのドキュメント種別に一般的に関連付けられる項目を入力するには、ドキュメント種別サムネイルを選択します (1)。



必要なフォーム項目を編集して、対象オブジェクト項目に対応付け (2)、対応付け定義を保存します。

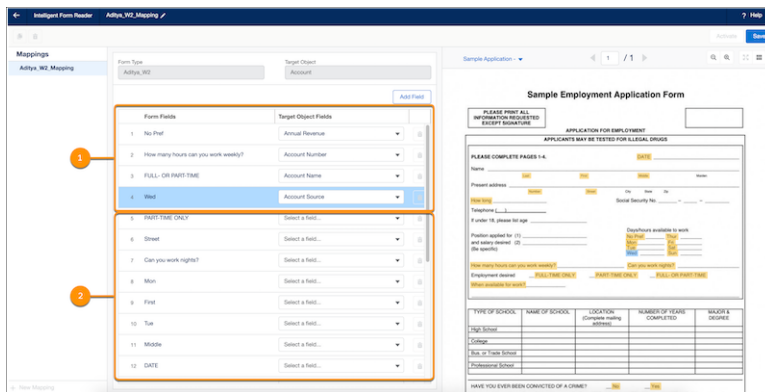


対応付けのドラフトの保存

対応付けには通常、カスタムフォームから自動抽出されるか手動で追加される項目が含まれます。いくつかのフォーム項目のみを対象オブジェクト項目に対応付け、それを対応付けられていないフォーム項目と共にドラフトとして保存できるようになりました。

対象: この変更は、AWSTextract1000LimitAddOn が有効になっている Developer Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、複数のクラウドで使用できます。

方法: 対応付けを作成するか、既存の対応付けを編集します。[フォーム項目] 列には、自動抽出または追加されたすべての項目が表示されます。必要なフォーム項目を対象オブジェクト項目に対応付け (1)、対応付け定義を保存します。対応付けられていないフォーム項目も保存され、後で編集できます (2)。



Health Cloud のサイトユーザアクセス権の有効化

新しい Health Cloud for Experience Cloud Site 権限セットライセンスとその機能固有の権限セットを利用して、サイトユーザが Health Cloud の機能とオブジェクトを使用できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この権限セットライセンスとその権限セットは 2021 年 7 月 15 日から使用できます。

対象ユーザ: Health Cloud for Experience Cloud Site 権限セットライセンスは、Health Cloud 用の Customer Community、Health Cloud 用の Customer Community Plus、または Health Cloud 用の外部アプリケーションを使用している組織で使用できます。

方法: サイトユーザが Health Cloud のオブジェクトと機能にアクセスできるようにするには、まずこの権限セットライセンスをサイトユーザに割り当てます。権限セットライセンスを割り当てた後、必要に応じて機能固有の権限セットをユーザに割り当てます。

個人取引先の最適化

一部のデータベースクエリをスキップすることでユーザのパフォーマンスを向上させることができる、新しい設定が追加されました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

理由: [主取引先責任者] は、取引先と取引先責任者レコードを接続するために個人モデルで使用されるカスタム項目です。個人取引先モデルでは、[個人取引先責任者]項目が使用されます。組織の開始時に個人データモデルを使用してユーザを表していた場合、患者の概念に関連する一部の UI コンポーネントとすべてのトリガ (取引先、取引先責任者、商談、リードトリガなど) は、まだ主取引先責任者を参照しています。これらの連動関係を削除すると、ユーザのパフォーマンスを向上させることができます。

方法: [設定] の [カスタム設定] セクションで、新しい [主取引先責任者 ID を無効化] オプションを選択するだけです。

Health Cloud の新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition に適用されます。

インテリジェントな予定管理

インテリジェントな予定のスケジュールを設定する

新しい ApptBookingConfig オブジェクトを使用します。

外部スケジュールシステムに接続するためのエンドポイントを定義する

新しい ApptBookingUrlConfig オブジェクトを使用します。

ヘルスケアの配送活動を記録する

新しい ClinicalEncounter オブジェクトを使用します。

特定の医療従事者を特定の施設にリンクする

新しい HealthcarePractitionerFacility オブジェクトを使用します。

ヘルスケアサービスの種別をケア専門分野にリンクする

新しい WorkTypeCareSpecialty オブジェクトを使用します。

ヘルスケアサービスの種別をコードにリンクする

新しい WorkTypeCodeSetBundle オブジェクトを使用します。

FHIR R4 に従ったデータモデル

定期的なサイクルで繰り返される活動のタイミング情報を指定する

新しい `ActivityTiming` オブジェクトを使用します。

メモとその作成者の情報を別のレコードに追加する

新しい `AuthorNote` オブジェクトを使用します。

FHIR システムの機器情報を Health Cloud に保存する

`CareRegisteredDevice` および `Asset` オブジェクトで新しい項目や既存の項目を使用します。

FHIR システムのドキュメント参照情報を Health Cloud に保存する

`DiagnosticSummary` オブジェクトで新しい項目や既存の項目を使用します。

ドキュメント参照の詳細を `DiagnosticSummary` レコードに追加する

新しい `DiagnosticSummaryDetail` オブジェクトを使用します。

部位および左右差を `HealthCondition` レコードに追加する

新しい `HealthConditionDetail` オブジェクトを使用します。

成分情報を `Medication` レコードに追加する

新しい `MedicinalIngredient` オブジェクトを使用します。

薬剤のバッチおよび有効期限情報を指定する

`Medication` オブジェクトで新しい `BatchNumber` および `ExpirationDateTime` 項目を使用します。

コードセットバンドルの種別を指定する

`CodeSetBundle` オブジェクトで新しい `Type` 選択リストを使用します。

`PatientImmunization` レコードのワクチンメーカーの取引先情報を指定する

`PatientImmunization` オブジェクトで新しい `ManufacturerAccountId` 項目を使用します。

観察の派生ソースに関する情報を指定する

`CareObservation` オブジェクトで新しい `DerivationSourceId` 項目を使用します。

個人取引先および組織を表すレコードのソースシステム情報を指定する

`Account` オブジェクトで新しい `SourceSystemIdentifier` および `SourceSystemModifiedDate` 項目を使用します。

サービス要請の理由が記載されたドキュメント参照および診断レポート情報を指定する

`ClinicalServiceRequestDetail` オブジェクトで更新された `DetailRecordId` 項目を使用します。

臨床アラートを発生させたエンティティとして機器を指定する

`ClinicalAlert` オブジェクトで更新された `RaisedById` 項目を使用します。

薬剤要請の要請者または実施者として機器を指定する

`MedicationRequest` オブジェクトで更新された `RequesterId` および `PerformerId` 項目を使用します。

サービス要請の要請者または実施者として機器を指定する

`ClinicalServiceRequest` オブジェクトで更新された `RequesterId` および `PerformerId` 項目を使用します。

医療処置を実施するために移植された、または使用された機器を指定する

`PatientMedicalProcedureDetail` オブジェクトで更新された `DetailRecordId` 項目を使用します。

提供者と専門委員会による認可の事業 ID を追加する

更新された `Identifier` オブジェクトを使用します。

提供者ネットワーク管理データモデル

提供者の申込フォームに関連付けられたケースを記録する

新しい `ApplicationCase` オブジェクトを使用します。

提供者の分類を専門分野に関連付ける

新しい `CareSpecialtyTaxonomy` オブジェクトを使用します。

提供者のビジネスライセンスに関する情報を保存する

`BusinessLicense` オブジェクトで新しい `LicenseNumber`、`Description`、`IssueDate`、`LicenseClass`、`IsPrimaryLicense` 項目を使用します。

提供者のビジネスライセンスを表すレコードのソースシステム情報を指定する

`BusinessLicense` オブジェクトで新しい `SourceSystemUpdateDate` 項目を使用します。

提供者に対して行われた法的手段に関連する日付を保存する

`CareProviderAdverseAction` オブジェクトで新しい `IncidentDate`、`IncidentReportedDate`、`ActionIssueDate` 項目を使用します。

提供者に対して行われた法的手段に関連する保険情報を保存する

`CareProviderAdverseAction` オブジェクトで新しい `InsuranceProviderName` および `InsurancePolicyNumber` 項目を使用します。

法的手段に関与する提供者に請求された違約金額を指定する

`CareProviderAdverseAction` オブジェクトで新しい `PenaltyAmount` 項目を使用します。

提供者に対する法的手段に関与する規制機関についての詳細を保存する

`CareProviderAdverseAction` オブジェクトで新しい `RegulatoryBody` および `RegulatoryBodyType` 項目を使用します。

分類レコード間の階層関係を確立する

`CareTaxonomy` オブジェクトで新しい `ParentTaxonomyId` 項目を使用します。

提供者の申込フォームに関する詳細情報を保存する

`IndividualApplication` オブジェクトで新しい `ContactId`、`ApplicationReferenceNumber`、`HealthcareProviderId` 項目を使用します。

提供者の学歴に関する詳細を保存する

`PersonEducation` オブジェクトで新しい `CertificateIdentifier`、`InstitutionAddress`、`ProgramName` 項目を使用します。

提供者に関連付けられた職歴に関する詳細を保存する

`PersonEmployment` オブジェクトで新しい `HealthcareProviderId`、`EmploymentType`、`Description`、`VerificationStatus`、`VerificationDate` 項目を使用します。

利用管理データモデル

事前承認プロセスを管理する審査担当者を追加する

新しい `CareRequestReviewer` オブジェクトを使用します。

メンバープラン情報を `CareRequest` レコードに保存する

`CareRequest` オブジェクトで新しい `MemberPrimaryPlan` および `MemberSecondaryPlan` 項目を使用します。

拒否された事前承認要請の異議の理由を指定する

CareRequest オブジェクトで新しい AppealRequestReasonType 項目を使用します。

拒否された事前承認要請の通知時刻を記録する

CareRequest オブジェクトで新しい InitialDenialNotificationTime および ReconsiderationDenialNotificationTime 項目を使用します。

決定に対する不満の種別を指定する

CareRequest オブジェクトで新しい GrievanceType 項目を使用します。

要請に関する追加情報を保存する

CareRequest オブジェクトで新しい IsReadmission および ReferenceCareRequestCase 項目を使用します。

調剤された薬剤に関する情報を記録する

CareRequestDrug オブジェクトで新しい MedicationCode、DecisionDate、DispensingPharmacy 項目を使用します。

薬剤要請の臨床的決定に関する詳細を指定する

CareRequestDrug オブジェクトで新しい ClinicalDetermination、ClinicalDeterminationNote、ClinicalDeterminationReason 項目を使用します。

医療サービスの拡張を要請する理由に関する情報を保存する

CareRequestExtension オブジェクトで新しい RequestExtensionReason および RequestExtnDecisionDateTime 項目を使用します。

再開された要請に関する詳細を保存する

CareRequestExtension オブジェクトで新しい ReopenedBy、ReopenDecisionDateTime、ReopenRequestOutcome、ReopenRequestType 項目を使用します。

要請の結果に関する詳細を指定する

CareRequestExtension オブジェクトで新しい RequestOutcome および RequestOutcomeDesc 項目を使用します。

要請の結果に関する詳細を指定する

CareRequestExtension オブジェクトで新しい RequestOutcome、RequestOutcomeDesc、AppealEffectuationDateTime 項目を使用します。

要請で行われた独立審査に関する詳細を取得する

CareRequestExtension オブジェクトで新しい IsIndependentReviewRequired、IndependentReviewDetermination、IndependentReviewDeterminationDate、IndependentReviewSubmissionDate 項目を使用します。

ケア要請に関する追加の詳細を保存する

CareRequestExtension オブジェクトで新しい PriorDischargeStatus、ResolutionDescription、HealthcareProvider 項目を使用します。

患者の入院期間に関する情報を保存する

CareRequestItem オブジェクトで新しい CumulativeLengthOfStay、ApprovedLengthOfStay、RequestedLengthOfStay 項目を使用します。

患者が受けたケアのレベルに関する情報を保存する

CareRequestItem オブジェクトで新しい ApprovedLevelOfCare、CurrentLevelOfCare、DeniedLevelOfCare、ModifiedLevelOfCare、RequestedLevelOfCare 項目を使用します。

要請されたサービスの開始日と終了日を指定する

CareRequestItem オブジェクトで新しい RequestedServiceStartDate および RequestedServiceEndDate 項目を使用します。

承認されたサービスの開始日と終了日を指定する

CareRequestItem オブジェクトで新しい ApprovedServiceStartDate および ApprovedServiceEndDate 項目を使用します。

ケア要請の臨床的決定に関する詳細を指定する

CareRequestItem オブジェクトで新しい ClinicalDetermination、ClinicalDeterminationNote、ClinicalDeterminationReason 項目を使用します。

要請の決定が行われた日付を記録する

CareRequestItem オブジェクトで新しい DecisionDate 項目を使用します。

業界で定義されたコードを使用して情報を保存する

コードセットおよびコードセットバンドルを参照する新しい項目を使用して情報を保存します。

- CareBarrierType オブジェクトの DiagnosisCodeSet 項目。
- CareDiagnosis オブジェクトの DiagnosisCodeSet、DischargeDiagnosisCodeSet、ModifiedDiagnosisCodeSet 項目。
- CareInterventionType オブジェクトの ProcedureCodeSet 項目。
- CareRequestType オブジェクトの ModifierCodeSet、ProcedureCodeSet、ModifiedProcedureCodeSet 項目。

Connect REST API

Health Cloud REST API の次のコールが機能強化されました。

ケアサービス

Care Diagnosis Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- careRequestReviewers — ケア要請確認者に関連付けられたケア診断。
- diagnosisCodeSet — 診断コードセット。
- dischargeDiagnosisCodeSet — ケア診断に関連付けられた退院診断コードセット。
- modifiedDiagnosisCodeSet — ケア診断に関連付けられた変更済み診断コードセット。

Care Request Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- appealEffectuationDateTime — 異議要請の結果の発効日。
- appealRequestReasonType — 異議要請の理由。
- careRequestReviewers — ケア要請確認者に関連付けられたケア要請。

- grievanceType — 不満の種別。
- healthCareProvider — ケア要請に関連付けられたヘルスケア提供者。
- independentReviewDetermination — 独立審査による決定。
- independentReviewDeterminationDate — 独立審査による決定の日付。
- independentReviewSubmissionDate — 独立審査の審査要請が送信された日付。
- initialDenialNotificationTime — 最初のケア要請が却下された日付。
- isIndependentReviewRequired — 独立審査が必要かどうかを示します。
- isReadmission — ケア要請の目的が再入院かどうかを示します。
- memberPrimaryPlan — メンバーの主保険プラン。
- memberSecondaryPlan — メンバーの第2保険プラン。
- priorDischargeStatus — メンバーの以前の退院状況。
- reconsiderationDenialNotificationTime — 再考拒否通知の時刻。
- referenceCareRequestCase — ケア要請に関連付けられた参照ケア要請ケース番号。
- reopenDecisionDateTime — 要請が再開された日時。
- reopenRequestOutcome — 再開要請の結果。
- reopenRequestType — 再開要請の種別。
- reopenedBy — ケア要請を再開したユーザ。
- reopenedByUserId — ケア要請を再開したユーザのID。
- requestExtensionReason — ケア延長の要請の理由。
- requestExtnDecisionDateTime — ケア要請の延長の決定日。
- requestOutcome — 要請の結果。
- requestOutcomeDesc — 要請結果の説明。
- resolutionDescription — 苦情、異議、不満に対して提供される解決策の詳細。

Care Request Drug Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- careRequestReviewers — ケア要請確認者に関連付けられたケア要請薬品。
- clinicalDetermination — 薬品要請の臨床的決定。
- clinicalDeterminationNote — 臨床的決定に関連するメモ。
- clinicalDeterminationReason — 臨床的決定の理由。
- decisionDate — この薬品要請の決定が行われた日時。
- dispensingPharmacy — 薬品を調剤する薬局。
- medicationCode — ケア要請薬品のコード。

Care Request Items Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- approvedLengthOfStay — 要請された入院日数。
- approvedLevelOfCare — 承認された患者ケアのレベル。
- approvedServiceEndDate — 患者が受けた承認済みサービスの終了日。

- `approvedServiceStartDate` — ケア要請確認者に関連付けられたケア要請品目。
- `clinicalDetermination` — 臨床的決定に関連するメモ。
- `clinicalDeterminationReason` — 臨床的決定の理由。
- `cumulativeLengthOfStay` — 患者の入院日数。
- `currentLevelOfCare` — 患者が受けているケアのレベル。
- `decisionDate` — このケア要請品目の最終決定が行われた日時。
- `deniedLevelOfCare` — 却下された患者ケアのレベル。
- `modifiedLevelOfCare` — 変更された患者ケアのレベル。
- `modifiedProcedureCodeSet` — ケア要請品目に関連付けられた変更済みサービス、薬品、または機器のコードセット。
- `modifierCodeSet` — ケア要請品目に関連付けられたサービスコードの修飾子コードセット。
- `procedureCodeSet` — ケア要請品目に関連付けられたサービス、薬品、または機器のコードセット。
- `requestedLengthOfStay` — 要請された入院日数。
- `requestedLevelOfCare` — 患者の要請ケアレベル。
- `requestedServiceEndDate` — 要請されたサービスの終了日。
- `requestedServiceStartDate` — 要請されたサービスの開始日。

Care Request Reviewer Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `id` — ケア要請確認者の ID。
- `reviewDate` — ケア要請が審査された日付。
- `reviewer` — ケア要請を審査したユーザの名前。
- `reviewerNotes` — 審査に関連するメモ。
- `reviewerType` — ケア要請を審査した確認者の種別。
- `Status` — ケア要請の状況。

Reopened By Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `username` — ケア要請を再開したユーザ。

Apex: 新しい項目

Health Cloud の新しいクラス、インターフェース、列挙を次に示します。

新規クラス

外部スケジュールシステムでヘルスケア予定を予約するための一連のオプションを渡す

`healthcloudext.BookAppointmentRequest` クラスで次のメソッドを使用します。このクラスには、次のプロパティがあります。

- `appointmentType` — 予定の種別を表します。
- `note` — 予定に関する省略可能な追加情報を表します。

- `serviceType` — 予定で実行されるサービスの種別を指定します。
- `slot` — 予定に割り当てられた時間枠を表します。
- `sourceFacilityId` — ヘルスケア施設 ID を表します。
- `sourcePatientId` — ソースシステム内の患者の ID を表します。
- `sourcePractitionerId` — 受診でケアを実行している個人を表します。
- `sourceSystem` — 患者レコードの取得元であるソースシステムの名前を表します。

外部スケジュールシステムから予定に関する情報を取得する

`healthcloudext.BookAppointmentResponse` クラスを使用します。このクラスには、次のプロパティがあります。このクラスには、次のプロパティがあります。

- `appointmentId` — Health Cloud 内の予定の一意の識別子を表します。
- `jsonResponse` — JSON としてエンコードされた外部スケジュールシステムからの応答を表します。
- `note` — 予定に追加された省略可能な追加情報を表します。
- `patientId` — Health Cloud 内の患者の一意の識別子を表します。
- `slotEnd` — 空き時間枠が終了する日時を表します。
- `slotStart` — 空き時間枠が開始する日時を表します。
- `sourceAppointmentId` — ソースシステム内の予定の一意の識別子を表します。
- `sourcePatientId` — ソースシステム内の患者の ID を表します。
- `sourceSystem` — レコードの取得元である外部スケジュールシステムの名前を表します。
- `status` — 予定の状況を表します。

ヘルスケア予定をキャンセルするための一連のオプションを渡す

`healthcloudext.CancelAppointmentRequest` クラスを使用します。このクラスには、次のプロパティがあります。

- `appointmentId` — Health Cloud 内の予定の一意の ID。
- `appointmentType` — 予定の種別を表します。
- `cancelationReason` — 予定のキャンセルの理由を表します。
- `serviceType` — 予定で実行されるサービスの種別を指定します。
- `slot` — 予定に割り当てられた時間枠を表します。
- `sourceFacilityId` — ヘルスケア施設 ID を表します。
- `sourcePatientId` — ソースシステム内の患者の ID を表します。
- `sourcePractitionerId` — 受診でケアを実行している医師の ID を表します。
- `sourceSystem` — レコードの取得元である外部スケジュールシステムの名前。

外部スケジュールシステムから予定のキャンセルに関する情報を取得する

`healthcloudext.CancelAppointmentResponse` クラスを使用します。このクラスには、次のプロパティがあります。

- `externalAppointmentId` — 外部スケジュールシステムからの予定識別子を表します。
- `jsonResponse` — JSON としてエンコードされた外部スケジュールシステムからの応答を表します。
- `serviceAppointmentId` — 更新するサービス予定の ID を表します。

- `status` — ヘルスケア予定の状況を表します。

患者のニーズに一致する提供者の空き時間枠を見つけるための一連のオプションを渡す

`healthcloudext.FindSlotsRequest` クラスを使用します。このクラスには、次のプロパティがあります。

- `slotRangeEdn` — 時間枠の日付範囲の開始を表します。
- `slotRangeStart` — 時間枠の日付範囲の終了を表します。

時間枠の状況を取得するための一連のオプションを渡す

`healthcloudext.GetSlotStatusRequest` クラスで次のメソッドを使用します。このクラスには、次のプロパティがあります。

- `slotId` — 予定に割り当てられた外部スケジュールシステム内の時間枠の一意の識別子。
- `slotSourceSystem` — 時間枠レコードの取得元である外部スケジュールシステムの名前。
- `slotSourceSystemId` — 要求の取得元であるソースシステムの ID を表します。

ヘルスケア予定の時間枠の詳細を取得する

`healthcloudext.Slot` クラスを使用します。このクラスには、次のプロパティがあります。

- `slotEnd` — 予定の時間枠が終了する日時を表します。
- `slotStart` — 予定の時間枠が開始する日時を表します。
- `slotStatus` — ヘルスケア予定の時間枠の状況を表します。
- `sourceSlotId` — 外部スケジュールシステム内の時間枠の ID を表します。
- `sourceSystem` — レコードの取得元である外部スケジュールシステムの名前を表します。

新規インターフェース

実装クラスで外部ソースシステムと通信できるようにして、外部の予定予約システムから予定情報を取得する新しい `healthcloudext.AppointmentBookingInterop` インターフェースを使用します。

新しい列挙

ヘルスケア予定の可能な状況を指定する

新しい `healthcloudext.BookingStatus` 列挙を使用します。この列挙には次の値があります:

- `Canceled`
- `NoShow`
- `Proposed`
- `Rejected`
- `Scheduled`

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud_object_reference/meta/health_cloud_object_reference/apex_namespace_healthcloudext.htm

Consumer Goods Cloud

Consumer Goods 訪問実行アプリケーションを使用してデスクトップでモバイル機能を実行できます。Consumer Goods 設定アシスタントを使用して簡単に Consumer Goods Cloud を設定できます。署名ToDoを訪問に追加してストアマネージャの満足度を追跡できます。営業マネージャは、訪問を割り当てるときにフィールド営業担当者の対応可能状況を確認してスケジュールの競合を回避できます。

このセクションの内容:

Consumer Goods 訪問実行アプリケーションを使用した仮想訪問の実行

デスクトップですべての訪問実行モバイル機能を使用して、店舗を仮想的に監視します。新しい Consumer Goods 訪問実行アプリケーションを使用すれば、営業担当は店舗に行くことなく店舗訪問を完了できます。

Consumer Goods 設定アシスタントの使用開始

一元的なインターフェースとなったため、Consumer Goods をより迅速に設定し、関連する技術的なドキュメントにアクセスできます。また、進行状況インジケータに進捗状況が表示されます。

署名ToDoを使用した質の高い訪問実行の確保

署名ToDoを訪問に追加して、ストアマネージャの訪問ToDoに対する満足度を把握します。署名ToDoでは、フィールド営業担当者は訪問ToDoが完了した後にストアマネージャのサインオフを取得する必要があります。

Salesforce カレンダーインテグレーションによる訪問の計画の機能強化

営業マネージャは、訪問を割り当てるときにフィールド営業担当者の対応可能状況を確認してスケジュールの競合を回避できます。営業マネージャが訪問を作成してフィールド営業担当者に割り当てると、その訪問が Salesforce カレンダーに表示されるようになりました。フィールド営業担当者は、カレンダーでスケジュールされた訪問を確認し、それに従ってその日の行動を計画できます。

商品の取引先階層を使用した在庫状況の管理 (パイロット)

営業マネージャが小売店の親取引先に割り当てた商品が自動的にその取引先階層のすべての店舗で利用できるようになります。以前は、営業マネージャが商品を個別に各店舗に割り当てていました。

Consumer Goods Cloud のその他の機能強化

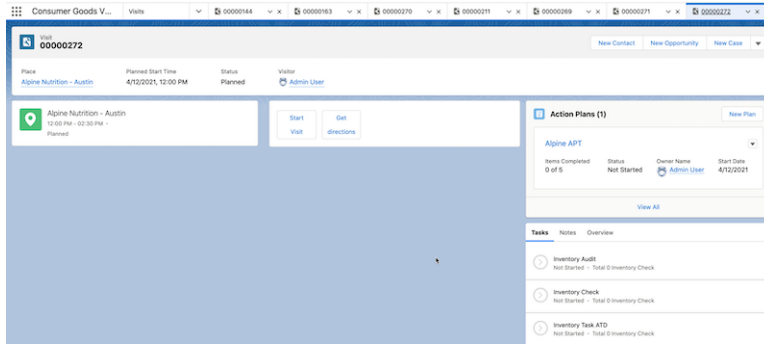
その他の小さくても重要な Consumer Goods Cloud の変更について説明します。

Consumer Goods 訪問実行アプリケーションを使用した仮想訪問の実行

デスクトップですべての訪問実行モバイル機能を使用して、店舗を仮想的に監視します。新しい Consumer Goods 訪問実行アプリケーションを使用すれば、営業担当は店舗に行くことなく店舗訪問を完了できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから、[Consumer Goods 訪問実行] を選択します。

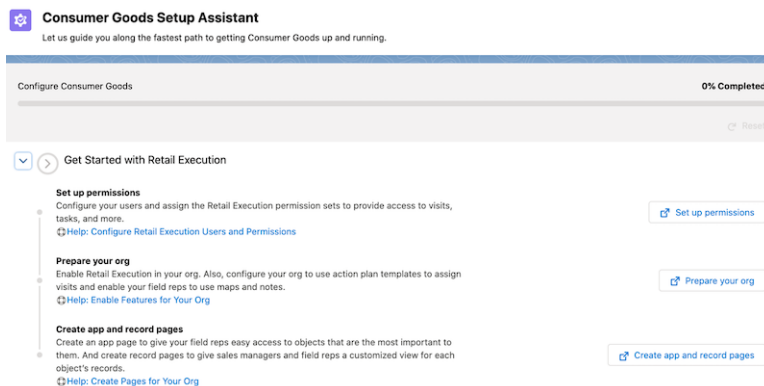


Consumer Goods 設定アシスタントの使用開始

一元的なインターフェースとなったため、Consumer Goods をより迅速に設定し、関連する技術的なドキュメントにアクセスできます。また、進行状況インジケータに進捗状況が表示されます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから Consumer Goods アプリケーションを見つけて開き、[Consumer Goods 設定アシスタント] タブをクリックします。



署名 ToDo を使用した質の高い訪問実行の確保

署名 ToDo を訪問に追加して、ストアマネージャの訪問 ToDo に対する満足度を把握します。署名 ToDo では、フィールド営業担当者は訪問ToDoが完了した後にストアマネージャのサインオフを取得する必要があります。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

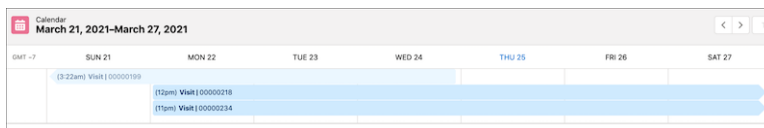
方法: アクションプランテンプレートを作成するときに [新規署名 ToDo] をクリックします。

Salesforce カレンダーインテグレーションによる訪問の計画の機能強化

営業マネージャは、訪問を割り当てるときにフィールド営業担当者の対応可能状況を確認してスケジュールの競合を回避できます。営業マネージャが訪問を作成してフィールド営業担当者に割り当てると、その訪問が Salesforce カレンダーに表示されるようになりました。フィールド営業担当者は、カレンダーでスケジュールされた訪問を確認し、それに従ってその日の行動を計画できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「訪問カレンダー設定」と入力し、[訪問カレンダー設定] を選択します。[訪問を Salesforce カレンダーに追加] を有効にします。



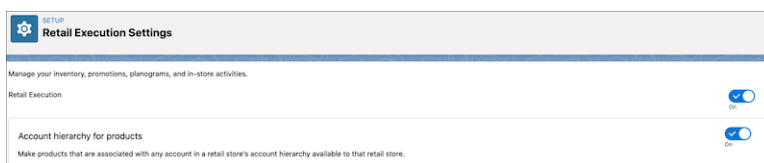
商品の取引先階層を使用した在庫状況の管理 (パイロット)

営業マネージャが小売店の親取引先に割り当てた商品が自動的にその取引先階層のすべての店舗で利用できるようになります。以前は、営業マネージャが商品を個別に各店舗に割り当てていました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

メモ: 商品の取引先階層は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「リテールエグゼキューション設定」と入力し、[リテールエグゼキューション設定] を選択します。[商品の取引先階層] を有効にします。



Consumer Goods Cloud のその他の機能強化

その他の小さくても重要な Consumer Goods Cloud の変更について説明します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

訪問の実行時により多くの情報を取得

ToDo の最中に観測を記録するときに、フィールド営業担当者は画像をはじめとする訪問、調査タスク、訪問の重要業績評価指標 (KPI) の関連ファイルをアップロードできるようになりました。

複数の店舗グループへの店舗の割り当て

小売店または小売店グループレコードページで、[小売店グループ割り当て] 関連リストを使用して小売店を複数の小売店グループに割り当てます。店舗は自動的にすべての小売店グループから KPI を継承します。

発注可能な有効な商品

フィールド営業担当者は、商品が有効とマークされていて、発注日が商品の有効な日付範囲内である場合、発注することができます。また、営業マネージャがアクションプランを訪問に追加して在庫ToDoの小売訪問 KPI を生成した場合、小売訪問 KPI は有効な商品でのみ生成されます。

有効な商品注文の作成

注文作成中に商品に必ず通貨が関連付けられるように、取引先で [取引先通貨] 項目が必須になりました。

Manufacturing Cloud

新機能と機能強化により、販売計画と取引先売上予測を簡単に管理できます。より多くの商品が含まれるように有効または承認済みの販売計画を修正できます。取引先売上予測と販売計画スケジュールを期間で絞り込むことができます。有効、承認済み、キャンセル済み、期限切れの販売計画の名前、説明、取引先責任者の詳細を更新します。[API アップロードを手動で使用] オプションを使用して、過去のスケジュールの商品の実績数を更新します。

このセクションの内容:

顧客要件に対応するための販売計画の修正

取引先マネージャは、より多くの商品が含まれるように有効または承認済みの販売計画を修正できるようになりました。新しい商品品目が導入されるか、より多くの商品が含まれるように既存の品目が拡張されたときに、取引先マネージャが顧客向けの新しい販売計画を作成する必要はありません。

時間検索条件を使用した取引先販売予測と販売計画スケジュールの管理

時間検索条件オプションにより、取引先マネージャは重要な販売予測データの絞り込み、表示、更新を行うことができます。また、特定の範囲または選択した期間の取引先売上予測を保存することもできます。

Manufacturing Cloud の新しい呼び出し可能なアクション

Manufacturing Cloud のこの新しい呼び出し可能なアクションで、より多くの操作を実行できるようになりました。

Manufacturing Cloud の新しいアクション種別値

Manufacturing Cloud に新しい `actionType` 列挙値が追加されました。

顧客要件に対応するための販売計画の修正

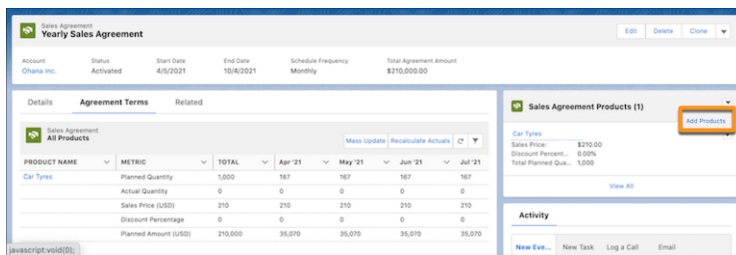
取引先マネージャは、より多くの商品が含まれるように有効または承認済みの販売計画を修正できるようになりました。新しい商品品目が導入されるか、より多くの商品が含まれるように既存の品目が拡張されたときに、取引先マネージャが顧客向けの新しい販売計画を作成する必要はありません。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が有効になっている Enterprise Edition Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、「製造販売計画」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: 有効な販売計画ページの [計画期間] タブで、[商品を追加] をクリックします。追加の商品を選択して販売計画に追加します。次に、修正済みの販売計画の承認を申請します。

手動で承認済みの販売計画を [ドラフト] 状況に変更し、[計画期間] タブで [商品を追加] をクリックします。追加の商品を選択して販売計画に追加します。次に、修正済みの販売計画の承認を申請します。



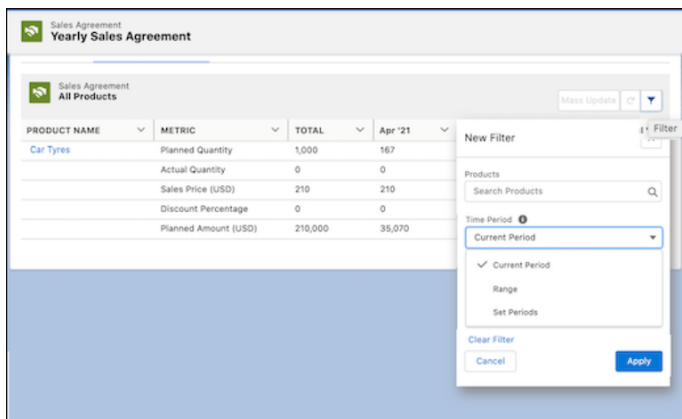
時間検索条件を使用した取引先販売予測と販売計画スケジュールの管理

時間検索条件オプションにより、取引先マネージャは重要な販売予測データの絞り込み、表示、更新を行うことができます。また、特定の範囲または選択した期間の取引先売上予測を保存することもできます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が有効になっている Enterprise Edition Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、「製造販売計画」権限セットと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [販売計画] の [計画期間] タブ、または [取引先] の [販売予測] タブで検索条件アイコンをクリックし、必要な期間を選択します。



Manufacturing Cloud の新しい呼び出し可能なアクション

Manufacturing Cloud のこの新しい呼び出し可能なアクションで、より多くの操作を実行できるようになりました。

高度な取引先販売予測を計算する

新しい `calculateAdvancedAccountForecast` 標準アクションを使用して、販売予測セットに関連付けられた数式に基づいて、取引先の販売予測を計算します。

Manufacturing Cloud の新しいアクション種別値

Manufacturing Cloud に新しい `actionType` 列挙値が追加されました。

フローで **Manufacturing Cloud** アクションを使用して、販売予測セットに関連付けられた数式に基づいて、取引先の販売予測を計算する

Flow メタデータ型の `FlowActionCall` サブタイプの `actionType` 項目で新しい `calculateAdvancedAccountForecast` 列挙値を使用します。

ロイヤルティ管理

ホームページから、ロイヤルティプログラムの全体像を把握します。含まれているテンプレートを使用して、特典アクションを作成します。特典アクションの入力変数を作成および定義します。

このセクションの内容:

再利用可能なプロモーションメールのカスタマイズ

パーソナライズされたメールでロイヤルティプログラムメンバーにエンゲージします。新しいロイヤルティプロモーションコンテンツブロックをメールまたはメールテンプレートに直接ドラッグします。オーディエンスを選択し、コンテンツをプレビューしてテストします。コードではなく、クリックでプロモーションを送信します。

Marketing Cloud Connect で使用できるロイヤルティ管理オブジェクト

Marketing Cloud Connect API v51 を使用して、ロイヤルティ管理データを Marketing Cloud にインポートできるようになりました。

Salesforce アプリケーションからのメンバー情報の表示

ロイヤルティメンバープロフィールカードを使用して、個人または法人のプロファイルの理解を深め、メンバーアクションを実行します。メンバーのロイヤルティプログラム、メンバーシップの状況と階層、対象および対象外の通貨残高、メンバーシップ特典、Salesforce アプリケーションからの最近のトランザクションを表示します。

Service Cloud との統合

最もロイヤルティの高い顧客に対してサービスチームメンバーがより良いサービスを提供し、コネクテッドエクスペリエンスを作成できるようにします。ケースを作成し、ロイヤルティメンバープロフィールの項目に入力します。

ホームページによる作業の迅速な開始

ロイヤルティ管理にログインすると、ロイヤルティプログラムの概要が表示され、重要な情報を確認できるようになりました。ホームページには、最近更新されたプロモーションとロイヤルティプログラムパートナーが表示されます。

含まれているテンプレートを使用した特典アクションの作成

新しいロイヤルティ管理テンプレートを使用して、バウチャーの発行、サポートエンタイトルメントの割り当て、無料サンプルの提供、市場開発資金の割り当てなど、一般的なシナリオの特典アクションを作成します。また、テンプレートを参照として使用して、カスタムアクションを設定することもできます。

特典アクションでの入力変数の定義

ユーザが柔軟に特典アクションの動作を変更できるようにします。特典アクションを作成するときに、入力変数を作成および定義します。ユーザは、[特典をアクションに対応付ける]画面でこれらの値を入力できます。

取引仕訳でのパートナーとパートナー商品の検証

さらなるポイント計算プロセスを実行する前に、新しい[取引仕訳でのパートナーとパートナー商品の検証]ジョブを使用して、発生した取引仕訳レコードを検証します。

項目レベルセキュリティの設定

オブジェクトへのアクセス権を許可しても、そのオブジェクトの個々の項目へのアクセスは制限する必要がある場合は、項目レベルセキュリティを使用します。たとえば、給与担当マネージャは、特定の従業員のみが給与の項目にアクセス可能にすることができます。項目レベルセキュリティを設定して、特定の項目を参照、編集、および削除するユーザのアクセス権限を制限できます。

エンドユーザ言語の有効化

ロイヤルティ管理で、アラビア語、チェコ語、英語(英国)、ヘブライ語、ハンガリー語、ポルトガル語(ヨーロッパ)のエンドユーザ言語がサポートされるようになりました。

プロモーションを通じて獲得したポイントの表示と追跡

[台帳]画面の新しい[プロモーション]項目を使用して、プロモーションをロイヤルティ取引に関連付けます。プロモーションIDを[クレジットポイント]、[デビットポイント]、[ポイントを調整]アクションに追加して、プロモーションで獲得したポイントを追跡しやすくなります。また、後続の取引で使用できる場合、取引仕訳からプロモーションIDを継承することもできます。

区分メンバーシップの検証

取引のポイントをクレジット処理またはデビット処理するときにメンバーがプロモーションの対象区分に属していることを検証します。Salesforce クエリ API では、Salesforce CDP をクエリして区分メンバーシップを確認します。このAPIを使用して、プロモーションバウチャーに対するメンバーの評価を検証することもできます。

フローテンプレートを介したプロモーションの履行の有効化

フローでは、入力のプロモーションに基づいて、バウチャーを発行するかどうかや、ロイヤルティプログラムメンバーにポイントを付与するかどうかを決定します。累積プロモーションの場合、ロイヤルティプログラムメンバーのプロモーションレコードを作成したり、該当する進行状況で更新したりします。

[登録が必須] チェックボックスをオンにして登録の詳細を入力

新しいプロモーションを作成する場合、[登録が必須]チェックボックスをオンにした後でのみ、登録の開始日と終了日を入力できます。

キャンペーンに関連付けられたプロモーションの表示

キャンペーンレコードページで、キャンペーンに関連付けられたすべてのプロモーションを表示できるようになりました。

取引仕訳に関連付けられたバウチャーの表示

取引仕訳レコードページで、取引仕訳に関連付けられたすべてのバウチャーを表示できるようになりました。

Hyperforce でのロイヤルティプログラムの実行

ロイヤルティ管理を Hyperforce で使用できるようになりました。Hyperforce でロイヤルティプログラムを作成、管理、実行できます。

データ処理エンジンの可用性の制限

データ処理エンジンは Government Cloud および Government Cloud Plus では使用できません。Salesforce 組織が Government Cloud または Government Cloud Plus にある場合、データ処理エンジン定義を作成したり、ロイヤルティ管理で提供されているテンプレート定義をコピーしたりできません。

ロイヤルティ管理の新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

ロイヤルティ管理の新しいオブジェクトと更新されたオブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

ロイヤルティ管理の新しいメタデータ型

ロイヤルティ管理には新しいメタデータ型があります。

ロイヤルティ管理の新しい Tooling API オブジェクト

Tooling API を使用して、ロイヤルティ管理の設定オブジェクトを操作します。

再利用可能なプロモーションメールのカスタマイズ

パーソナライズされたメールでロイヤルティプログラムメンバーにエンゲージします。新しいロイヤルティプロモーションコンテンツブロックをメールまたはメールテンプレートに直接ドラッグします。オーディエンスを選択し、コンテンツをプレビューしてテストします。コードではなく、クリックでプロモーションを送信します。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理および Marketing Cloud が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Marketing Cloud にログインし、コンテンツビルダーに移動します。[作成] をクリックし、[メールメッセージ] または [メールテンプレート] をクリックします。

Marketing Cloud Connect で使用できるロイヤルティ管理オブジェクト

Marketing Cloud Connect API v51 を使用して、ロイヤルティ管理データを Marketing Cloud にインポートできるようになりました。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理および Marketing Cloud が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[リリースノート: Marketing Cloud Connect API v51 アップグレード \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Salesforce アプリケーションからのメンバー情報の表示

ロイヤルティメンバープロフィールカードを使用して、個人または法人のプロファイルの理解を深め、メンバーアクションを実行します。メンバーのロイヤルティプログラム、メンバーシップの状況と階層、対象および対象外の通貨残高、メンバーシップ特典、Salesforce アプリケーションからの最近のトランザクションを表示します。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーを使用して、ロイヤルティメンバープロフィールカードをオブジェクトのレコードページに追加します。[編集ページ] をクリックします。Lightning アプリケーションビルダーが起動したら、左側のパネルからロイヤルティメンバープロフィールカードをドラッグします。[取引先責任者] または [取引先] 項目と関連リストを設定します。変更内容を保存して、[有効化] をクリックします。

The screenshot shows the Salesforce Service Console interface. The main content area displays a case record for 'Product not received' with details like Case Number (00001006), Case Owner (John Smith), Status (New), and Priority (Medium). A 'Loyalty Member Profile' card is highlighted with an orange border, showing membership information for Jack Boyle (Silver), including contact details, enrollment date (4/1/2020), and a points balance of 279115. Below the profile, there are sections for 'Transaction Journals (3+)' and 'Vouchers (3)', each listing recent activity with details like journal type, date, and voucher code.

Service Cloud との統合

最もロイヤルティの高い顧客に対してサービスチームメンバーがより良いサービスを提供し、コネクテッドエクスペリエンスを作成できるようにします。ケースを作成し、ロイヤルティメンバープロフィールの項目に入力します。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから、[ロイヤルティ管理] を見つけて選択します。[ロイヤルティプログラム] ページに移動し、ロイヤルティプログラムメンバーをクリックして、[ケース] 関連リストの [新規] をクリックします。

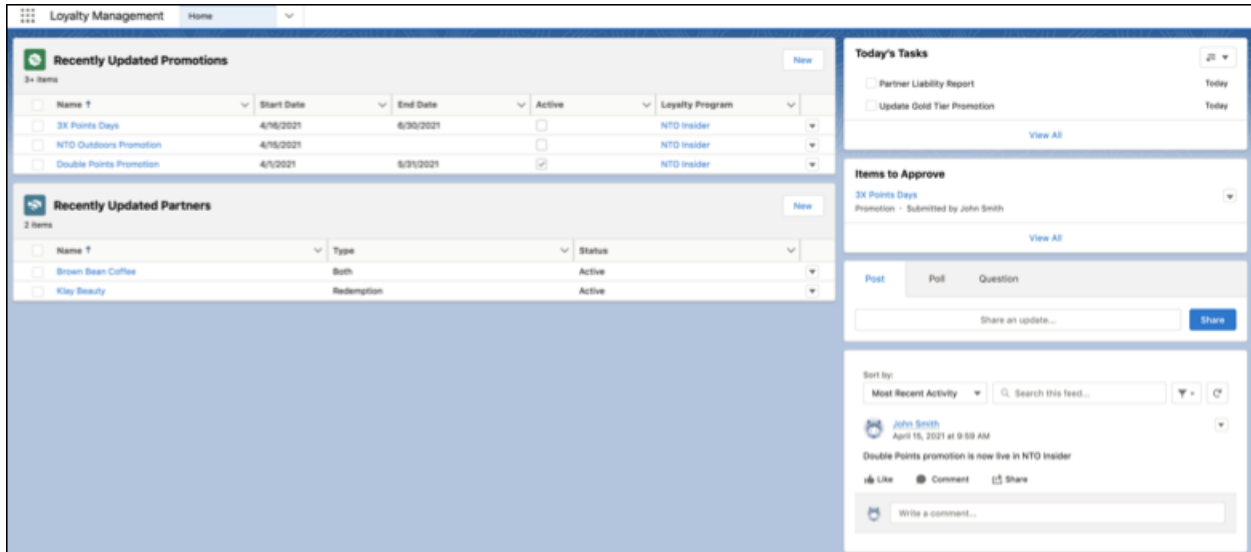
The screenshot displays the Salesforce interface for a Loyalty Program Member. At the top, the member's name 'John Smith' and ID '100004' are shown, along with 'Edit', 'Delete', and 'Clone' buttons. Below this, a summary row lists 'Contact: John Smith', 'Loyalty Program: Rewards', 'Member Status: Active', and 'Member Type: Individual'. The main content area is divided into two columns. The left column, titled 'Details', contains a 'Program Member Detail' section with fields for Member Type, Contact, Membership Number, Enrollment Date, Associated Corporate Membership, Last Activity Date, Last Modified By, Loyalty Program, Account, Referred By, Enrollment Channel, Member Status, and Statement Last Generated Date. The right column contains related lists: 'Loyalty Program Member Promotion (0)', 'Vouchers (0)', 'Transaction Journals (0)', and 'Cases (1)'. The 'Cases (1)' list is highlighted with an orange border and contains one entry with Case ID 00001005, Status New, Subject 'Reward points not ...', and Case Reason 'Existing problem'. Below the cases list is a 'View All' link. At the bottom, the 'Contact Details' section shows Name (Mr. John Smith), Title, Email, Account Name (John Smith), and Phone.

ホームページによる作業の迅速な開始

ロイヤルティ管理にログインすると、ロイヤルティプログラムの概要が表示され、重要な情報を確認できるようになりました。ホームページには、最近更新されたプロモーションとロイヤルティプログラムパートナーが表示されます。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ロイヤルティ」と入力し、[ロイヤルティ管理] を選択します。デフォルトで [ホーム] ページが表示されます。

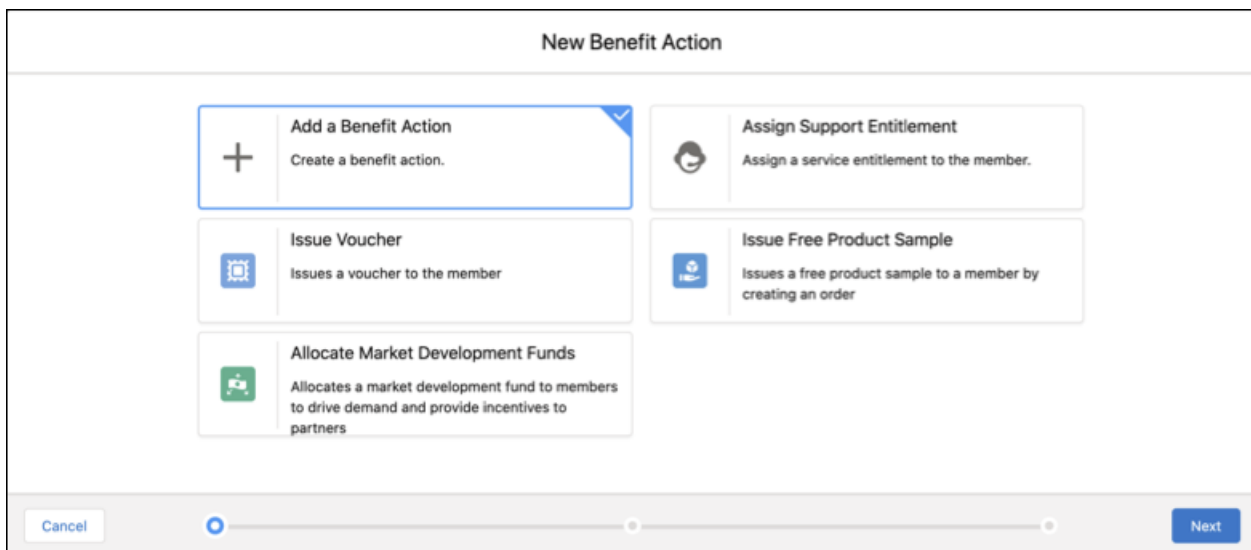


含まれているテンプレートを使用した特典アクションの作成

新しいロイヤルティ管理テンプレートを使用して、バウチャーの発行、サポートエンタイルメントの割り当て、無料サンプルの提供、市場開発資金の割り当てなど、一般的なシナリオの特典アクションを作成します。また、テンプレートを参照として使用して、カスタムアクションを設定することもできます。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。一部のテンプレートでは、Service Cloud または Experience Cloud が有効になっている必要があります。

方法: アプリケーションランチャーから、[ロイヤルティ管理]を見つけて選択します。[特典アクション]に移動して、使用可能なテンプレートの1つを選択します。事前に入力された入力変数を確認してから、特典アクションを保存して使用します。



特典アクションでの入力変数の定義

ユーザが柔軟に特典アクションの動作を変更できるようにします。特典アクションを作成するときに、入力変数を作成および定義します。ユーザは、[特典をアクションに対応付ける]画面でこれらの値を入力できます。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから、[ロイヤルティ管理]を見つけて選択します。[特典アクション]に移動します。[新規]をクリックします。[フロー]を選択し、それを入力変数に関連付けます。特典アクションを保存して有効にします。

取引仕訳でのパートナーとパートナー商品の検証

さらなるポイント計算プロセスを実行する前に、新しい [取引仕訳でのパートナーとパートナー商品の検証] ジョブを使用して、発生した取引仕訳レコードを検証します。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定]から、[データ処理エンジン]を検索して選択します。「取引仕訳でのパートナーとパートナー商品の検証」ジョブを検索します。

Job Name	Process Type	Active	Template	Last Modifie...	Package Name	Package State
Credit Non-Qualifying Points to Members	Loyalty	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			Managed-Installed
Credit Qualifying Points to Members	Loyalty	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			Managed-Installed
Expire Activity Based Non-Qualifying Points	Loyalty	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			Managed-Installed
Expire Fixed Non-Qualifying Points	Loyalty	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			Managed-Installed
Reset Qualifying Points	Loyalty	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			Managed-Installed
Validate Partners and Partner Products in Transaction Journals	Loyalty	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			Managed-Installed

項目レベルセキュリティの設定

オブジェクトへのアクセス権を許可しても、そのオブジェクトの個々の項目へのアクセスは制限する必要がある場合は、項目レベルセキュリティを使用します。たとえば、給与担当マネージャは、特定の従業員のみが給与の項目にアクセス可能にすることができます。項目レベルセキュリティを設定して、特定の項目を参照、編集、および削除するユーザのアクセス権を制限できます。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「プロファイル」と入力し、[プロファイル] を選択します。プロファイルの設定を更新するには、そのプロファイルの [項目レベルセキュリティ] セクションに移動します。エンティティを選択し、そのエンティティの項目へのアクセス権を編集します。

ロイヤルティ管理の場合、次のエンティティに対して項目レベルセキュリティが有効になります。

- LoyaltyProgramMember
- LoyaltyProgramCurrency
- LoyaltyTierGroup
- LoyaltyMemberCurrency
- LoyaltyMemberTier
- LoyaltyProgramPartner
- TransactionJournal
- Voucher
- Promotion
- Benefit
- MemberBenefit

エンドユーザ言語の有効化

ロイヤルティ管理で、アラビア語、チェコ語、英語(英国)、ヘブライ語、ハンガリー語、ポルトガル語(ヨーロッパ)のエンドユーザ言語がサポートされるようになりました。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

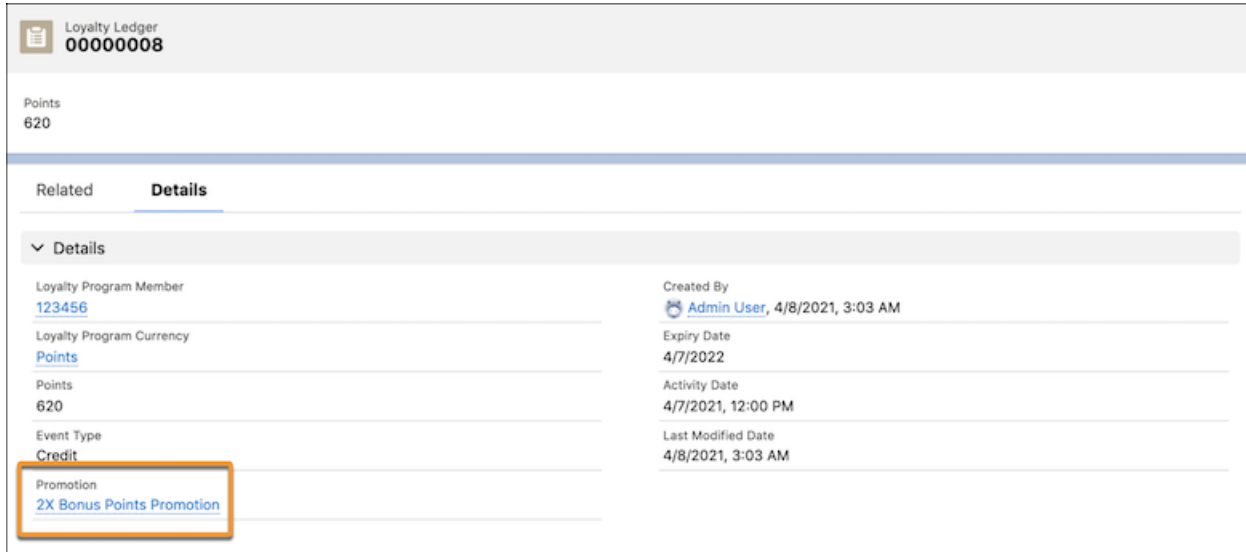
方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「会社の設定」と入力し、[言語設定] を選択します。エンドユーザ言語のチェックボックスをオンにします。[使用可能な言語] ウィンドウから、有効にする言語を選択し、[選択済みの言語] ウィンドウに移動します。その後、ユーザは [言語とタイムゾーン] に移動して言語を更新できます。

プロモーションを通じて獲得したポイントの表示と追跡

[台帳] 画面の新しい [プロモーション] 項目を使用して、プロモーションをロイヤルティ取引に関連付けます。プロモーションIDを [クレジットポイント]、[デビットポイント]、[ポイントを調整] アクションに追加して、プロモーションで獲得したポイントを追跡しやすくなります。また、後続の取引で使用できる場合、取引仕訳からプロモーションIDを継承することもできます。

対象:この変更は、B2C-Loyalty または B2C-Loyalty Plus ライセンスでロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:アプリケーションランチャーから、[ロイヤルティ管理] を見つけて選択します。[取引仕訳] または [台帳] 画面に移動して、関連付けられたプロモーション ID を表示します。



区分メンバーシップの検証

取引のポイントをクレジット処理またはデビット処理するときメンバーがプロモーションの対象区分に属していることを検証します。Salesforce クエリ API では、Salesforce CDP をクエリして区分メンバーシップを確認します。この API を使用して、プロモーションバウチャーに対するメンバーの評価を検証することもできます。

対象:この変更は、B2C ライセンスでロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織では Salesforce CDP が有効になっている必要があります。

関連トピック:

リリースノート: Salesforce CDP を有効化してパーソナライズされたカスタマーエクスペリエンスを作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リリースノート: Salesforce CDP オブジェクトを使用したエンタープライズ全体の照会(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

フローテンプレートを紹介したプロモーションの履行の有効化

フローでは、入力のプロモーションに基づいて、バウチャーを発行するかどうかや、ロイヤルティプログラムメンバーにポイントを付与するかどうかを決定します。累積プロモーションの場合、ロイヤルティプログラムメンバーのプロモーションレコードを作成したり、該当する進行状況で更新したりします。

対象:この変更は、B2C-Loyalty または B2C-Loyalty Plus ライセンスでロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「フロー」と入力して、[フロー] を選択します。プロモーション履行フローは、[すべてのフロー] の下にリストされます。これを新しいフローとして保存してから使用します。

[登録が必須] チェックボックスをオンにして登録の詳細を入力

新しいプロモーションを作成する場合、[登録が必須] チェックボックスをオンにした後でのみ、登録の開始日と終了日を入力できます。

対象: この変更は、B2C-Loyalty または B2C-Loyalty Plus ライセンスでロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから、[ロイヤルティ管理] を見つけて選択します。[ロイヤルティプログラム] タブに移動して、ロイヤルティプログラムを選択します。[ロイヤルティエクスペリエンス] タブで、[プロモーション] をクリックし、[新規] をクリックします。

キャンペーンに関連付けられたプロモーションの表示

キャンペーンレコードページで、キャンペーンに関連付けられたすべてのプロモーションを表示できるようになりました。

対象: この変更は、B2C-Loyalty または B2C-Loyalty Plus ライセンスでロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] > [オブジェクトマネージャ] > [取引先] > [ページレイアウト] に移動します。関連リストで [キャンペーン] を探してドラッグします。ページレイアウトを保存します。

取引仕訳に関連付けられたバウチャーの表示

取引仕訳レコードページで、取引仕訳に関連付けられたすべてのバウチャーを表示できるようになりました。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから、[ロイヤルティ管理] を見つけて選択します。[ロイヤルティプログラム] タブに移動して、ロイヤルティプログラムを選択します。ロイヤルティプログラムレコードページで、ロイヤルティプログラムメンバーを選択します。ロイヤルティプログラムメンバーのレコードページで、[取引仕訳] をクリックします。

Hyperforce でのロイヤルティプログラムの実行

ロイヤルティ管理を Hyperforce で使用できるようになりました。Hyperforce でロイヤルティプログラムを作成、管理、実行できます。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この更新は、Spring '21 リリースから使用可能になります。

方法:Hyperforce でのロイヤルティ管理の使用方法についての詳細は、Salesforce 担当者にお問い合わせください。

関連トピック:

[ナレッジ記事:Hyperforce について - 一般情報と FAQ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[法律文書:Salesforce Unified Cloud \(Hyperforce\) Security, Privacy and Architecture \(Salesforce 統合クラウド \(Hyperforce\) のセキュリティ、プライバシー、およびアーキテクチャ\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

データ処理エンジンの可用性の制限

データ処理エンジンは Government Cloud および Government Cloud Plus では使用できません。Salesforce 組織が Government Cloud または Government Cloud Plus にある場合、データ処理エンジン定義を作成したり、ロイヤルティ管理で提供されているテンプレート定義をコピーしたりできません。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: これは、Spring '21 リリースにも適用されます。データ処理エンジンが Government Cloud および Government Cloud Plus で使用可能になったらお知らせいたします。

ロイヤルティ管理の新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

ロイヤルティ管理の新しいオブジェクトと更新されたオブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

特典アクションに関連付けられたフローの表示

既存の BenefitAction オブジェクトで新しい FlowDefinition 項目を使用します。

特典アクションパラメータの定義済みの値を指定する

新しい BenefitActionParameterValue オブジェクトを使用します。

特典アクションで使用されるフロー入力パラメータを指定する

新しい BenefitActionParameter オブジェクトを使用します。

特典アクションフローのメンバー特典IDを保存する入力変数の名前を表示する

既存の BenefitAction オブジェクトで新しい MemberBenefitVariableName 項目を使用します。

特典アクションのフローを実行するとき使用されるランタイム値を指定する

新しい BenefitParameterValue オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムメンバーをケースに関連付ける

新しい LoyaltyProgramMemberCase オブジェクトを使用します。

プライマリロイヤルティプログラムを指定する

既存の LoyaltyProgram オブジェクトで新しい IsPrimary 項目を使用します。

バウチャーあたりのコストを指定する

既存の `VoucherDefinition` オブジェクトで新しい `CostPerVoucher` 項目を使用します。

プロモーションで発行されるバウチャーの最大数を指定する

既存の `Promotion` オブジェクトで新しい `MaximumVoucherCount` 項目を使用します。

パートナーの獲得取引と受け取り取引のポイントあたりのコストを指定する

既存の `LoyaltyProgramPartner` オブジェクトで新しい `AccrualCostperUnit` および `RedemptionCostperUnit` 通貨項目を使用します。

プロモーションを取引仕訳に関連付ける

既存の `TransactionJournal` オブジェクトで新しい `PromotionId` 項目を使用します。

台帳に関連付けられているプロモーションを表示する

既存の `LoyaltyLedger` オブジェクトで新しい `PromotionId` 項目を使用します。

これまでにプロモーションで獲得したポイントの合計を表示する

既存の `Promotion` オブジェクトで新しい `CurrentPointCount` 項目を使用します。

プロモーションで負うことのできる最大負債を指定する

既存の `Promotion` オブジェクトで新しい `MaximumLiabilityAmount` 項目を使用します。

これまでにプロモーションで負った負債の合計を表示する

既存の `Promotion` オブジェクトで新しい `CurrentLiabilityAmount` 項目を使用します。

プロモーションに適用される取引仕訳の種別を表示する

既存の `Promotion` オブジェクトで新しい `TransactionJournalType` 項目を使用します。

プロモーションを適用するとき特定の係数でポイントを乗算するのか、除算するのかを指定する

既存の `Promotion` オブジェクトで新しい `IsPointsWithFactor` 項目を使用します。

ポイントを乗算または除算する係数を指定する

既存の `Promotion` オブジェクトで新しい `PointFactor` 項目を使用します。

ロイヤルティ管理の新しいメタデータ型

ロイヤルティ管理には新しいメタデータ型があります。

特典に対して自動的にトリガできるアクションを作成する

新しい `BenefitAction` メタデータ型を使用します。

ロイヤルティ管理の新しい Tooling API オブジェクト

Tooling API を使用して、ロイヤルティ管理の設定オブジェクトを操作します。

特典に対して自動的にトリガできるアクションの詳細に関する情報を保存する

新しい `BenefitAction` オブジェクトを使用します。

リベート管理

払い戻し階層と給付階層を直接CPQプロセスおよび案件交渉に統合します。エンドツーエンドの配送プログラムとデビットプログラムをシームレスに作成して管理します。リベートプログラムに対する獲得金額を計算することで、収益と債務に関連するあいまいさを減らします。サブアカウントのトランザクションを積み上げ集計して、取引先階層に基づいて払い戻し支払を行います。リベートプログラムに応じて、払い戻しトランザクションの測定単位を簡単に換算できます。

このセクションの内容:

リベートプログラムの案件交渉および CPQ プロセスとの統合

過去のインセンティブパフォーマンスを考慮して、適格条件を使用してテンプレートの払い戻しとインセンティブを作成します。対象リベート種別を表示して、注文、見積、商談、販売計画、使用可能な標準またはカスタムオブジェクトレコードに適用します。

エンドツーエンドの配送プログラムとデビットプログラムの作成と管理

商品を割引価格で顧客に販売し、これらのトランザクションに対してリベート要求を送信して、パートナーのビジネスの成長を後押しします。要求を自動的に検証して支払を処理することで、運営効率を向上させます。

取引先階層の払い戻し支払の管理

サブアカウントのトランザクションを積み上げ集計して、取引先階層に基づいてリベート支払を管理します。トランザクションは、トランザクションの通貨でサブアカウントレベルで記録できます。自動プロセスによってトランザクションが親レベルに積み上げ集計され、契約の親取引先に報奨が付与されます。

リベートプログラムに対する債務の可能性の計算

リベートプログラムに対する獲得金額を計算することで、収益と債務に関連するあいまいさを減らします。事前定義された潜在的な階層で利用可能なトランザクションに対する払い戻しを計算します。セールストランザクション、注文、または請求書に基づいて標準的な単一の獲得率で獲得を計算します。または、より具体的な予測では、売上予測、販売契約、その他のセールス計画データなどの計画データに対して獲得します。

複数の測定単位があるリベートトランザクションの支払の計算

個別のリベートプログラムに応じて、リベートトランザクションの測定単位を簡単に換算できます。リベートは、設定されている期間について計算されます。トランザクションは、たとえば7キログラムや10リットルなど、独自の測定単位で記録されます。支払を計算するときに、トランザクションはトランザクションの測定単位からリットルやキログラムなどのリベート種別の測定単位に換算されることがあります。

リベート管理の新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

これらの新しいリベート管理オブジェクトと変更されたリベート管理オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

リベート管理用 Einstein Discovery を使用したリベート主導の売上げの増加 (ベータ)

リベート管理用 Einstein Discovery アプリケーションを使用して、リベート主導の売上予測を表示し、可能性の高い取引先を特定してリベートプログラムに追加し、上位のリベートプログラムを顧客に推奨します。

リベート管理の新しい呼び出し可能なアクション

リベート管理のこの新しい呼び出し可能なアクションで、より多くの操作を実行できるようになりました。

リベート管理の新しいアクション種別値

リベート管理に新しい `actionType` 列挙値が追加されました。

リベートプログラムの案件交渉および CPQ プロセスとの統合

過去のインセンティブパフォーマンスを考慮して、適格条件を使用してテンプレートの払い戻しとインセンティブを作成します。対象リベート種別を表示して、注文、見積、商談、販売計画、使用可能な標準またはカスタムオブジェクトレコードに適用します。

対象: この変更は、リベート管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーのプログラムリベート種別パネルコンポーネントとプログラムリベート種別タブコンポーネントを注文、契約、販売契約、見積、サービス契約、商談、エンタイトルメント、使用可能な標準またはカスタムオブジェクトレコードページに追加します。プログラムリベート種別パネルコンポーネントを使用して、対象リベート種別を選択および適用します。

リベート種別が適用されたら、Lightning アプリケーションビルダーのプログラムリベート種別タブコンポーネントを使用して関連する給付階層を表示して変更します。

Contract: 00000147

Account Name: Ohana Incorporated. Status: Draft. Contract Start Date: 10/29/2019. Contract End Date: 10/28/2020. Contract Term (months): 12.

Rebate Type: Volume Rebate on Radius Products. Rebate Program: Annual Rebate 2020. Payout Frequency: Monthly. Measure Type: Amount Per Unit. Measure Field: Total Quantity. Benefit Qualifier Field: Total Quantity.

Name	Region	Product	Min	Max	Benefit Value
Asia Tier 1	APAC	Four Stroke	0	499	1
Asia Tier 2	APAC	Four Stroke	500	1000	5
America Tier 1	AMER	Four Stroke	0	749	5
America Tier 2	AMER	Four Stroke	750	1500	5

エンドツーエンドの配送プログラムとデビットプログラムの作成と管理

商品を割引価格で顧客に販売し、これらのトランザクションに対してリベート要求を送信して、パートナーのビジネスの成長を後押しします。要求を自動的に検証して支払を処理することで、運営効率を向上させます。

対象: この変更は、リベート管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 配送とデビットのリベートプログラムを作成するときに一意のプログラム参照番号を提供します。リベートプログラムメンバーの納入先取引先を追加して、特定の配送とデビットのリベートプログラムに対するリベートを要求します。

New Rebate Program

Information

<p>Name</p> <input type="text" value="Annual Rebate Program"/>	<p>Status</p> <input type="text" value="Draft"/>
<p>Start Date</p> <input type="text" value="4/1/2021"/>	<p>End Date</p> <input type="text" value="3/31/2022"/>

Payout Information

<p>Frequency</p> <input type="text" value="Monthly"/>	<p>Payout Calculation Days</p> <input type="text" value="5"/>
<p>Transaction Grace Days</p> <input type="text" value="3"/>	<p>Program Reference Number</p> <input type="text" value="ARP00011"/>

Additional Information

<p>Link to Program Details</p> <input type="text"/>	<p>Description</p> <input type="text"/>
--	--

New Rebate Program Member

Information

<p>Account</p> <input type="text" value="Ohana Inc."/>	<p>Program</p> <input type="text" value="RP1"/>
<p>Status</p> <input type="text" value="Active"/>	<p>Ship To Account</p> <input type="text" value="Cloud Inc."/>

Summary

<p>Last Activation Date</p>	<p>Last Deactivation Date</p>
------------------------------------	--------------------------------------

取引先階層の払い戻し支払の管理

サブアカウントのトランザクションを積み上げ集計して、取引先階層に基づいてリベート支払を管理します。トランザクションは、トランザクションの通貨でサブアカウントレベルで記録できます。自動プロセスによってトランザクションが親レベルに積み上げ集計され、契約の親取引先に報奨が付与されます。

対象: この変更は、リベート管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 組織の取引先階層設定を使用して親取引先とサブアカウントが判断されます。サブアカウントレベルで記録されたトランザクションは自動的に契約の親に積み上げ集計されます。

Name	Member	Rebate Type	Product	Total Quantity	Total Transaction Amount	Rollup Program Member
0000000004	Ohana world wide	Ohana hierarchical rebate type		300.00	\$3,000.00	
0000000005	Ohana America	Ohana hierarchical rebate type		200.00	\$2,000.00	Intel world wide
0000000006	Ohana CA	Ohana hierarchical rebate type		100.00	\$1,000.00	Intel America

リベートプログラムに対する債務の可能性の計算

リベートプログラムに対する獲得金額を計算することで、収益と債務に関連するあいまいさを減らします。事前定義された潜在的な階層で利用可能なトランザクションに対する払い戻しを計算します。セールストランザクション、注文、または請求書に基づいて標準的な単一の獲得率で獲得を計算します。または、より具体的な予測では、売上予測、販売契約、その他のセールス計画データなどの計画データに対して獲得します。

対象: この変更は、リベート管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: プログラムリベート種別のセールストランザクション、注文、または請求書に基づいて獲得率を定義します。支払、獲得、またはその両方を計算するには、計算の基礎を指定します。

New Program Rebate Type

Information

Name: Volume Rebate Type | Status: Active

Rebate Program: Annual Rebate Program ...

Calculation Information

Calculation Type: Aggregate Based | Calculation Definition: Aggregate by Product

Aggregation Object: --None--

Benefit Information

Measure Type: Amount per Unit | Measure Field: Search fields...

Calculation Method: Retrospective

Benefit Type: Payout (selected)

Accrual Rate: [Empty field]

Buttons: Cancel, Save & New, Save

複数の測定単位があるリベートトランザクションの支払の計算

個別のリベートプログラムに応じて、リベートトランザクションの測定単位を簡単に換算できます。リベートは、設定されている期間について計算されます。トランザクションは、たとえば7キログラムや10リットルなど、独自の測定単位で記録されます。支払を計算するとき、トランザクションはトランザクションの測定単位からリットルやキログラムなどのリベート種別の測定単位に換算されることがあります。

対象: この変更は、リベート管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: データソースとして UnitOfMeasure および UnitOfMeasureConversion オブジェクトが含まれるように、リベートデータ処理エンジン定義を更新します。

リベート管理の新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

これらの新しいリベート管理オブジェクトと変更されたリベート管理オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

新しいオブジェクト

ある測定単位から別の測定単位への変換

新しい UnitOfMeasureConversion オブジェクトと、ProgramRebateType オブジェクトの新しい UnitOfMeasure 項目を使用します。

更新されたオブジェクト

配送プログラムとデビットプログラムを管理する

RebateProgramMember および TransactionJournal オブジェクトの新しい ShipToAccount 項目と、RebateProgram および TransactionJournal オブジェクトの ProgramReferenceNumber 項目を使用します。

取引先階層支払を管理する

RebateProgramMember オブジェクトで新しい RollupProgramMember および IsPayoutCalcSkipped 項目を使用します。

リベートプログラムの獲得を計算する

ProgramRebateType および ProgramRebateTypePayoutSrc オブジェクトの新しい AccrualRate 項目、RebateProgramMemberPayout、ProgramRebateTypePayout、ProgramRebateTypePayoutSrc オブジェクトの新しい AccrualAmount 項目、ProgramRebateType オブジェクトの新しい CalculationBasis 項目を使用します。

リベート種別を CPQ プロセスと統合する

ProgramRebateType オブジェクトで新しい IsIntegratable 項目を使用します。

リベート種別の基準の給付に上限を設定する

ProgramRebateTypeBenefit オブジェクトで新しい MaximumMeasureFieldValue、EffectiveStartDate、EffectiveEndDate 項目を使用します。

リベート管理用 Einstein Discovery を使用したリベート主導の売り上げの増加 (ベータ)

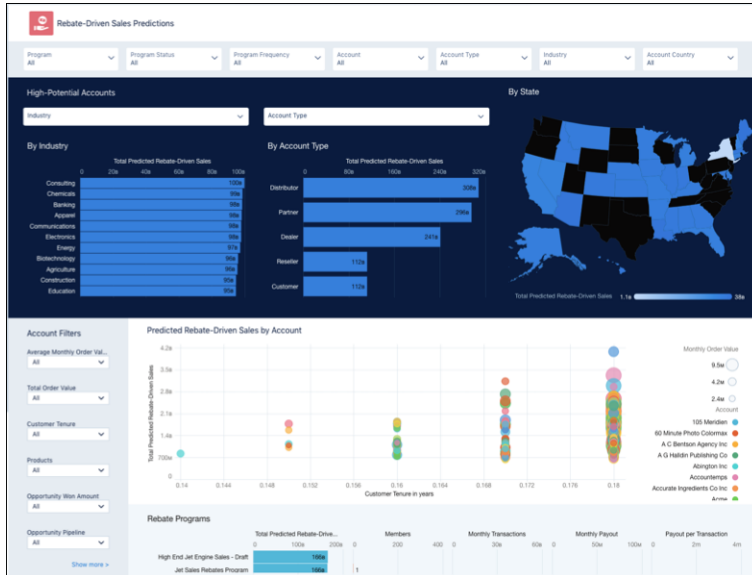
リベート管理用 Einstein Discovery アプリケーションを使用して、リベート主導の売上予測を表示し、可能性の高い取引先を特定してリベートプログラムに追加し、上位のリベートプログラムを顧客に推奨します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の Tableau CRM およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

メモ: この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

対象ユーザー: リポート管理用 Einstein Discovery ダッシュボードを使用するには、リポート管理、リポート管理ユーザ、および Manufacturing Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

方法: Tableau CRM Analytics Studio から、[作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択します。[リポート管理用 Einstein Discovery] を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。



リポート管理の新しい呼び出し可能なアクション

リポート管理のこの新しい呼び出し可能なアクションで、より多くの操作を実行できるようになりました。

対象プログラムリポート種別を取得する

新しい `getEligibleProgramRebateTypes` 標準アクションを使用して、対応付けられたオブジェクトの対象プログラムリポート種別を取得します。

リポート管理の新しいアクション種別値

リポート管理に新しい `actionType` 列挙値が追加されました。

フローでリポート管理アクションを使用して、対応付けられたオブジェクトの対象プログラムリポート種別を取得する

Flow メタデータ型の `FlowActionCall` サブタイプの `actionType` 項目で新しい `getEligibleProgramRebateTypes` 列挙値を使用します。

Public Sector Solutions

インテリジェントなドキュメントの自動化とインテリジェントフォームリーダーを使用して、アップロードされたファイルのデータを認識し、コピーすることで、ドキュメント駆動型プロセスを高速化します。検査管理の機能強化により、検査エクスペリエンスが向上します。公共セクタポータルの変更により、苦情の処理方法の追跡が改善されます。

このセクションの内容:

インテリジェントフォームリーダーを使用した効率的なドキュメントのアップロード

手書きの受入申込書での情報の入力、面倒でミスが発生しやすい手動プロセスになる可能性があります。Amazon Textract を使用するインテリジェントフォームリーダーを使用すると、正しいドキュメントから正しいデータをすばやく取得できます。インテリジェントフォームリーダーを使用すると、アップロードされたドキュメントからデータ(申込人の ID 情報や連絡先情報など)がオンライン申込レコードに直接取り込まれるため、手動でのドキュメントの入力および管理が少なくなります。

公共セクタでのインテリジェントなドキュメントの自動化の使用

インテリジェントなドキュメントの自動化を使用して、受け取ったドキュメントを申込フォームや公共セクタオブジェクトに容易に対応付けて参照できるようにします。ドキュメントを変換するには、確認者がドキュメントを分割してページを必要な場所に転送します。確認者はドキュメントを変換するときに、ドキュメントチェックリスト項目を検索または作成するのではなく選択できます。

調査管理の機能強化

フィールド検査担当者がより効率的に検査を実行できるように、システム管理者が関連する評価の質問を、整数、小数、パーセントの回答を使用して正確に答えられるように定義することができます。検査担当者が最も効率的な順序で訪問を実行できるように、検査タスクに関連付けられた質問を論理的に事前定義することもできます。

公共セクタポータルで苦情追跡の柔軟性向上

他のユーザが送信した周知の苦情ケースを代理指定人が追跡できるように、サイトの苦情ケースページを設定します。ポータルで周知の苦情情報が提起されると、関与する各部門でケースレコードを作成して苦情情報を追跡できます。たとえば、環境局と消防局の両方で有害化学物質に関する苦情を処理することができます。

Public Sector Solutions の新しいオブジェクト

Salesforce Public Sector Solutions には、情報を保存し、情報にアクセスする新しいオブジェクトがあります。

インテリジェントフォームリーダーを使用した効率的なドキュメントのアップロード

手書きの受入申込書での情報の入力、面倒でミスが発生しやすい手動プロセスになる可能性があります。Amazon Textract を使用するインテリジェントフォームリーダーを使用すると、正しいドキュメントから正しいデータをすばやく取得できます。インテリジェントフォームリーダーを使用すると、アップロードされたドキュメントからデータ(申込人の ID 情報や連絡先情報など)がオンライン申込レコードに直接取り込まれるため、手動でのドキュメントの入力および管理が少なくなります。

対象: この変更は、Public Sector Solutions および Amazon Textract を使用するインテリジェントフォームリーダー(1,000 ページ)が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: システム管理者はドキュメント種別を公共セクタデータオブジェクトに対応付けることができます。受入担当者が PDF、PNG、または JPEG 形式でフォームをアップロードすると、Public Sector Solutions によりレコードがドキュメントごとに自動的に作成されます。Amazon Textract により画像のデータがレコードに取り込まれ、Public Sector Solutions のドキュメント確認コンポーネントにより、光学文字認識(OCR)で抽出された値が、システム管理者が対応付けた項目に割り当てられます。

このセクションの内容:

対応付けを使用した自動的な申込データの取得

代理指定人の申込データの取得に必要な手作業を軽減します。代理指定人によって申請されたビジネスライセンス申込などのデータのキャプチャを光学文字認識(OCR)による対応付けを使用して自動化できます。ユーザは申込レコードの作成、変更、確認ができます。

アップロードされたドキュメントからの情報の抽出と確認

自動データアップロードを使用してデータのアップロードと確認を合理化することで、時間がかかりミスが発生しやすい手動のデータ入力を回避します。光学式文字認識(OCR)テクノロジーを使用して、代理指定人がビジネスライセンス申込要求をするためにアップロードしたドキュメントから項目を抽出します。インテリジェントフォームリーダーの機能を使用して、アップロードされたデータを確認するためのドキュメントチェックリスト項目を作成できます。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

対応付けを使用した自動的な申込データの取得

代理指定人の申込データの取得に必要な手作業を軽減します。代理指定人によって申請されたビジネスライセンス申込などのデータのキャプチャを光学文字認識(OCR)による対応付けを使用して自動化できます。ユーザは申込レコードの作成、変更、確認ができます。

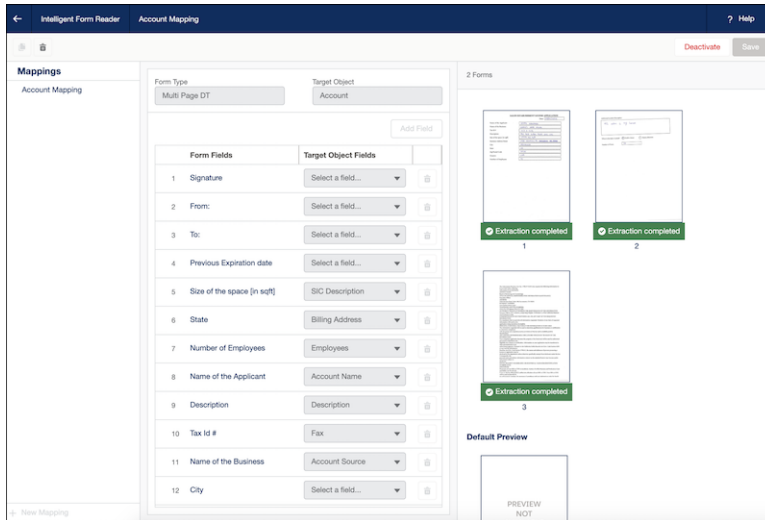
対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ドキュメントがアップロードされたときに取得する必要がある項目を特定します。インテリジェントフォームリーダーを使用して、項目の対応付けを作成します。

スキャンするフォーム種別と、スキャンしたデータを保存するオブジェクトを定義します。

アップロードされたドキュメントから Salesforce オブジェクト項目を対応付けるキーを追加し、項目名を定義します。

以下は、手動でアップロードされた申込フォームを確認するための対応付けの例です。フォームリーダーで、指定された領域から情報を抽出し、対応する対応付けられた項目に保存します。



アップロードされたドキュメントからの情報の抽出と確認

自動データアップロードを使用してデータのアップロードと確認を合理化することで、時間がかかりミスが発生しやすい手動のデータ入力を回避します。光学式文字認識 (OCR) テクノロジーを使用して、代理指定人がビジネスライセンス申込要求をするためにアップロードしたドキュメントから項目を抽出します。インテリジェントフォームリーダーの機能を使用して、アップロードされたデータを確認するためのドキュメントチェックリスト項目を作成できます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 申込人がライセンス申込フォームを送信するとアップロードされた添付ファイルに対応するファイルのドキュメントチェックリストが生成されます。確認者はドキュメントチェックリストを操作し、[検証] をクリックしてファイルを確認できます。管理者または受入担当者は、アップロードされたファイルを確認し、インテリジェントフォームリーダーの OCR を使用して項目データを抽出できます。

たとえば、ビジネス所有者はその連絡先情報を証明するためのパスポートをスキャンし、アップロードできます。受入担当者は、ファイルを確認し、ビジネスライセンス申込書レコード項目にドキュメント情報を対応付ける取引先責任者レコードテンプレートを選択します。インテリジェントフォームリーダーコンポーネントで、アップロードされたファイルのテキスト情報が認識およびコピーされ、対応する項目に保存されます。コンプライアンス担当者は、スキャンしたドキュメントの項目の内容が関連付けられたレコードに保存されている情報と一致するかどうかを確認できます。

公共セクタでのインテリジェントなドキュメントの自動化の使用

インテリジェントなドキュメントの自動化を使用して、受け取ったドキュメントを申込フォームや公共セクタオブジェクトに容易に対応付けて参照できるようにします。ドキュメントを変換するには、確認者がドキュメントを分割してページを必要な場所に転送します。確認者はドキュメントを変換するときに、ドキュメントチェックリスト項目を検索または作成するのではなく選択できます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions および Amazon Textract を使用するインテリジェントフォームリーダー (1,000 ページ) が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ドキュメント種別に基づいてアクションプランテンプレートを作成し、ドキュメントチェックリスト項目の選択肢を作成します。ユーザはドキュメントを受け取って確認するときに、ドキュメントチェックリスト項目のリストに移動してその項目をドキュメントに添付できます。次回、ユーザが同様のドキュメントを受け取ると、Salesforce は同じドキュメントチェックリスト項目セットを自動的に作成します。

調査管理の機能強化

フィールド検査担当者がより効率的に検査を実行できるように、システム管理者が関連する評価の質問を、整数、小数、パーセントの回答を使用して正確に答えられるように定義することができます。検査担当者が最も効率的な順序で訪問を実行できるように、検査タスクに関連付けられた質問を論理的に事前定義することもできます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

このセクションの内容:

検査担当者をサポートする評価の質問の生成

検査担当者が、実行している検査の種別に固有の質問を参照できるようになりました。この質問により、フィールド検査担当者は関連データの入力忘れがなくなり、正確な評価を生成できます。検査評価の回答は、テキストと Boolean 形式に加え、日時、パーセント、数字、10 進数形式の場合もあります。たとえば、火災安全の訪問では、検査担当者は存在する消火器の数を合格または失敗要素の 1 つとして入力することができます。

検査担当者が従う順序の設定

サイト訪問での検査の質問の順序を定義して、フィールド検査担当者の生産性を向上できます。あなたが選択する順序でフィールド検査担当者が ToDo 内の調査を実行するようにします。

検査担当者をサポートする評価の質問の生成

検査担当者が、実行している検査の種別に固有の質問を参照できるようになりました。この質問により、フィールド検査担当者は関連データの入力忘れがなくなり、正確な評価を生成できます。検査評価の回答は、テキストと Boolean 形式に加え、日時、パーセント、数字、10 進数形式の場合もあります。たとえば、火災安全の訪問では、検査担当者は存在する消火器の数を合格または失敗要素の 1 つとして入力することができます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから調査インジケータ定義を作成します。

調査管理モバイルアプリケーションで訪問を開始します。すでに設定されている調査インジケータ定義に回答するためのタスクを選択します。

検査担当者が従う順序の設定

サイト訪問での検査の質問の順序を定義して、フィールド検査担当者の生産性を向上できます。あなたが選択する順序でフィールド検査担当者がToDo内の調査を実行するようにします。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから、調査タスク定義を作成するときに、調査インジケータ定義を追加し、表示順序を設定します。

公共セクタポータル之苦情追跡の柔軟性向上

他のユーザが送信した周知之苦情ケースを代理指定人が追跡できるように、サイトの苦情ケースページを設定します。ポータルで周知之苦情情報が提起されると、関与する各部門でケースレコードを作成して苦情情報を追跡できます。たとえば、環境局と消防局の両方で有害化学物質に関する苦情を処理することができます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 代理指定人は、個人アカウントを使用して公共セクタサイトにログインし、苦情ケースを表示できます。

Public Sector Solutions の新しいオブジェクト

Salesforce Public Sector Solutions には、情報を保存し、情報にアクセスする新しいオブジェクトがあります。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

苦情ケースを周知の苦情情報に関連付ける

新しい `ComplaintCase` オブジェクトを使用します。

InspectionAssessmentInd オブジェクトの新しい項目

日付および項目値を調査評価タスクの回答として追加する

`InspectionAssessmentInd` オブジェクトで新しい `DateTimeFieldResponse` 項目を使用します。

10 進数値を調査評価タスクの回答として追加する

`InspectionAssessmentInd` オブジェクトで新しい `DecimalFieldResponse` 項目を使用します。

整数値を調査評価タスクの回答として追加する

`InspectionAssessmentInd` オブジェクトで新しい `NumberFieldResponse` 項目を使用します。

パーセント値を調査評価タスクの回答として追加する

`InspectionAssessmentInd` オブジェクトで新しい `PercentageFieldResponse` 項目を使用します。

検査評価の表示順序を表示する

`InspectionAssessmentInd` オブジェクトで新しい `DisplayOrder` 項目を使用します。

Sustainability

Sustainability Cloud に追加された機能を使用して、商業用建物全体の燃料種別ごとにエネルギー強度のパフォーマンスの絞り込み、分析、およびベンチマーク評価を実行できます。また、データギャップ補足プロセスは 2 つの新しい方法を含めて更新されています。追加されたスコープ 3 バリューチェーン分析では、新しいレコードタイプ、ページレイアウト、貨物運搬の項目などと共に、会社のスコープ 3 温室効果ガス排出を分類、視覚化、説明できるようになりました。

詳細は、[Trailblazer Community: Sustainability Cloud](#) または [パートナーコミュニティ: Sustainability Cloud](#) の 1 か月ごとのリリースノートを参照してください。

Sustainability は 17 の標準言語でサポートされます。

データ処理エンジン

データ処理エンジンを使用して、項目の階層やそのデータトレンドについて学習します。定義 JSON をアップロードまたはダウンロードします。使用しなくなった定義を削除します。ビルダーから定義を実行します。実行はいつでもキャンセルできます。

このセクションの内容:

項目の階層の確認

階層パスの方向を提供する親項目に基づいて、項目の階層パスを決定できるようになりました。階層に項目を含めることもできます。たとえば、階層ノードを使用して、会社の従業員の経営階層を決定できます。

相対計算変換を使用したデータトレンドの把握

特定の項目に基づいて、データの分割や並び替えを行います。数式を作成して特定の項目のトレンドを計算し、結果をカスタム項目に保存します。

外部に移動せずに定義を実行

スケジュールされた実行を必要としない有効なデータ処理エンジン定義や特定の入力変数を使用した実行が必要な定義をビルダーから実行できるようになりました。定義をテストするときは、フローまたは Apex を使用して実行するよりも、ビルダーから実行する方が簡単です。[ワークフローサービスを監視]を使用して、ビルダーから開始された実行を追跡します。

定義による結果を書き戻しの回避

データ処理エンジン定義を使用すると、Salesforce 組織の大量のレコードの作成、更新、または更新/挿入できます。実行キャンセル機能により、実行で結果が書き戻さないようにするたびに変更を元に戻す必要がなくなります。長時間処理されているが、結果が書き戻されない実行をキャンセルして、組織のリソースを節約します。たとえば、誤って実行を開始してしまった場合や、現在の設定の結果が定義で書き戻されないようにする必要のあることに気づいた場合に実行をキャンセルできます。

ローカルで定義を作成または編集

任意のメディアでデータ処理エンジン定義を作成または編集します。JSON ファイルでローカルに定義を作成し、アップロードします。または、既存の定義を JSON ファイルとしてダウンロードして更新し、更新された定義をアップロードします。

不要な定義の削除

Salesforce 組織には最大 40 個の有効なデータ処理エンジン定義を含めることができますが、必要ない定義が含まれている場合があります。使用しない定義は削除できます。また、ドラフト定義を削除することもできます。

警告への注意喚起

ルールの緩和についての警告が表示されるようになりました。たとえば、取得元オブジェクトから唯一選択された項目が ID 項目であっても、データ処理エンジン定義を保存できるようになりました。以前は、問題が見つかったら、データ処理エンジン定義を保存または有効化することができませんでした。

データ処理エンジンの可用性の制限

データ処理エンジンは Government Cloud および Government Cloud Plus では使用できません。

項目の階層の確認

階層パスの方向を提供する親項目に基づいて、項目の階層パスを決定できるようになりました。階層に項目を含めることもできます。たとえば、階層ノードを使用して、会社の従業員の経営階層を決定できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、リポート管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

対象ユーザ: 「すべてのデータの編集」 および 「アプリケーションのカスタマイズ」 権限を持つユーザは定義を作成できます。

方法: データ処理エンジン定義で、[新規ノード] をクリックします。ノード種別として [階層] を選択します。ノードを定義し、作業内容を保存します。階層パスを決定する項目を含むデータソースノードを選択します。[階層開始位置] 項目で、階層パスを決定する項目を選択します。[親] 項目で、項目の階層パスを決定する項目を選択します。項目を階層パスに含める場合は、[階層開始位置項目を含める] を選択します。[階層] 項目に階層パスを保存する項目の名前を入力し、[完了] をクリックします。

相対計算変換を使用したデータトレンドの把握

特定の項目に基づいて、データの分割や並び替えを行います。数式を作成して特定の項目のトレンドを計算し、結果をカスタム項目に保存します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、リポート管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

対象ユーザ: 「すべてのデータの編集」 および 「アプリケーションのカスタマイズ」 権限を持つユーザは定義を作成できます。

理由: ある会社が、取引先の前年の年間売上を把握したいと考えているとします。また、親取引先別にデータを分割し、市区郡(請求先)を基準に分割したデータを並び替えたいとも考えています。システム管理者は、取引先オブジェクトをデータソースとして使用し、ParentID項目でデータを分割します。分割したデータはBillingCityの降順に並び替えられます。前年の年間売上を計算する数式は LASTVALUE({AnnualRevenue}) になります。

方法: データ処理エンジン定義で、[新規ノード] をクリックします。ノード種別として [数式] を選択します。ノードを定義し、作業内容を保存します。[相対計算変換を使用] を有効にします。[数式] セクションで、変換された値を保存する項目の別名を指定し、そのデータ型を選択します。データトレンドを提供する数式を定義

します。データの分割および並び替えの基準となる項目を選択します。次に、データの並び替え方向を選択し、[完了]をクリックします。

Formula : Previous Value of Annual Reven... View Results Delete

* Source Node
Account Use the compute relative transformation On

Formulas

* Alias: PreviousAnnualRevenue * Field Type: Number Collapse

* Length: 10 * Decimal Places: 2

Search fields... Select a calc... Select function... Select operator...

LASTVALUE({AnnualRevenue})

✓ The formula is valid

* Partition By: ParentId * Order By: BillingCity * Sort Direction: Ascending Descending

This node is referenced by 0 nodes. Cancel Done

外部に移動せずに定義を実行

スケジュールされた実行を必要としない有効なデータ処理エンジン定義や特定の入力変数を使用した実行が必要な定義をビルダーから実行できるようになりました。定義をテストするときは、フローまたは Apex を使用して実行するよりも、ビルダーから実行する方が簡単です。[ワークフローサービスを監視]を使用して、ビルダーから開始された実行を追跡します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、リポート管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

対象ユーザ: 「データパイプライン基本ユーザ」権限セットを持つユーザはビルダーから定義を実行できます。

理由: ある会社が、困難だった 2020 年を乗り越えた営業担当にボーナスを支給したいと考えているとします。ボーナスは同年中に成立させた案件の規模と件数に基づきます。管理者はボーナスの金額をカスタムオブジェ

クトにライトバックする定義を作成します。この定義には、2020年に作成された案件と2020年に成立した案件の2つの絞り込むための入力変数があります。これは1回限りのボーナスであるため、管理者は入力変数値を「2020年1月1日」と「2020年12月31日」としてビルダーからこの定義を実行します。

方法:[設定]で、[クイック検索]ボックスに「データ処理エンジン」と入力して、[データ処理エンジン]を選択します。実行する有効な定義を開き、[定義を実行]をクリックします。[データ処理エンジン定義を実行]ウィンドウで、[次へ]をクリックします。この実行で使用する必要がある入力変数値を指定して、[定義を実行]をクリックします。

定義による結果を書き戻しの回避

データ処理エンジン定義を使用すると、Salesforce 組織の大量のレコードの作成、更新、または更新/挿入できません。実行キャンセル機能により、実行で結果が書き戻さないようにするたびに変更を元に戻す必要がなくなります。長時間処理されているが、結果が書き戻されない実行をキャンセルして、組織のリソースを節約します。たとえば、誤って実行を開始してしまった場合や、現在の設定の結果が定義で書き戻されないようにする必要のあることに気づいた場合に実行をキャンセルできます。

対象:この変更は、Financial Services Cloud、リベート管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

対象ユーザ:システム管理者プロフィールを持つユーザは、データ処理エンジンの実行をキャンセルできます。

方法:[設定]から、[クイック検索]ボックスに「ワークフローサービスを監視」と入力し、[ワークフローサービスを監視]を選択します。キャンセルするデータ処理エンジン定義の実行を開き、[実行をキャンセル]をクリックします。

関連トピック:

[Industries Common Resources Developer Guide \(Industries 共通リソース開発者ガイド\): Batch Job Cancel Business API \(一括処理ジョブのキャンセルのビジネス API\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ローカルで定義を作成または編集

任意のメディアでデータ処理エンジン定義を作成または編集します。JSON ファイルでローカルに定義を作成し、アップロードします。または、既存の定義を JSON ファイルとしてダウンロードして更新し、更新された定義をアップロードします。

対象:この変更は、Financial Services Cloud、リベート管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

対象ユーザ:「すべてのデータの編集」および「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザは、定義をアップロードまたはダウンロードできます。

方法:[設定]で、[クイック検索]ボックスに「データ処理エンジン」と入力して、[データ処理エンジン]を選択します。新しい定義のJSONをアップロードするには、[新規]をクリックします。定義に名前を付け、プロセス種別を指定して、[作成]をクリックします。📁 をクリックします。JSON ファイルをアップロードし、[アップロード]をクリックします。定義をダウンロードするには、📁 をクリックします。

不要な定義の削除

Salesforce 組織には最大 40 個の有効なデータ処理エンジン定義を含めることができますが、必要ない定義が含まれている場合があります。使用しない定義は削除できます。また、ドラフト定義を削除することもできます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、リポート管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

対象ユーザー: 「すべてのデータの編集」および「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザーは定義を削除できます。

方法: 定義を削除する前に、定義がフローに関連付けられていないことを確認します。[設定] で、[クイック検索] ボックスに「データ処理エンジン」と入力して、[データ処理エンジン] を選択します。削除する定義を開き、[無効化] > [削除] をクリックします。

警告への注意喚起

ルールの緩和についての警告が表示されるようになりました。たとえば、取得元オブジェクトから唯一選択された項目が ID 項目であっても、データ処理エンジン定義を保存できるようになりました。以前は、問題が見つかったら、データ処理エンジン定義を保存または有効化することができませんでした。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、リポート管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

データ処理エンジンの可用性の制限

データ処理エンジンは Government Cloud および Government Cloud Plus では使用できません。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、リポート管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

時期: これは、Spring '21 リリースにも適用されます。データ処理エンジンが Government Cloud および Government Cloud Plus で使用可能になったらお知らせいたします。

決定テーブル

入力項目ロジックで結果を提供するための条件を定義します。データセットリンクで複数の取得元オブジェクトからデータを取得します。

このセクションの内容:

カスタムロジックに基づく結果の提供

条件を満たした場合に決定テーブルで結果が提供されるように条件を選択します。この条件により、カスタムロジックでビジネスルールが評価されます。AND、OR、カスタム条件の中から柔軟に選択できます。

複数の取得元のデータに基づく結果の提供

ビジネスでは、複数のオブジェクトのデータに基づく結果が必要になる場合もあります。データセットリンクで、決定テーブルの入力項目をさまざまな取得元オブジェクトの項目に対応付けます。決定テーブルでは、結果を提供するために、さまざまな取得元オブジェクトの選択した項目の値に対してビジネスルールが評価されます。

Experience Cloud ユーザへの追加のアクセス権の付与

Experience Cloud ユーザは、決定テーブルを起動できます。特定の Experience Cloud プロファイルで「決定テーブルを実行」ユーザ権限を有効にできます。

エポック時刻形式からの移行

呼び出し可能なアクションを使用して決定テーブルを実行する場合は、日付種別の入力項目にYYYY/MM/DDまたはYYYY-MM-DD形式で値を入力します。時刻をエポック形式に変換してから値を入力する必要はなくなりました。

決定テーブルの新しい項目

新しい決定テーブル項目実行できる作業が増えました。

決定テーブルの新しい設定オブジェクト項目

Tooling API を使用して、新しい決定テーブル設定オブジェクト項目を操作します。

Connect REST API

決定テーブルの REST API の次のコールが機能強化されました。

カスタムロジックに基づく結果の提供

条件を満たした場合に決定テーブルで結果が提供されるように条件を選択します。この条件により、カスタムロジックでビジネスルールが評価されます。AND、OR、カスタム条件の中から柔軟に選択できます。

対象: この変更は、リポート管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: システム管理者プロファイルに割り当てられているユーザは、決定テーブルを作成できます。

理由: ある小売業者が、注文数量 (1) が 30 個より多いか注文金額 (2) が \$10,000 より多い場合に割引を実施するとします。割引ルールは、注文割引カスタムオブジェクトに保存されます。この決定テーブルでは OR 条件を使用し、条件ロジック式は 1 OR 2 です。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「決定テーブル」と入力し、[決定テーブル] を選択します。[新規] をクリックします。決定テーブルを定義し、[次へ] をクリックします。入力項目、それらの演算子、出力項目を選択します。[次へ] をクリックします。入力項目の [条件] 項目で条件を選択します。[カスタムロジック] を選択した場合、カスタムロジック式を入力し、変更内容を保存します。

New Decision Table

Define conditions and custom logic for the decision table input fields.

Any condition is met (OR) ▼

Number	Field Name	Field Data Type	Operator
1	Order Amount	Number	Greater Than
2	Order Quantity	Number	Greater Than

Back Save

複数の取得元のデータに基づく結果の提供

ビジネスでは、複数のオブジェクトのデータに基づく結果が必要になる場合もあります。データセットリンクで、決定テーブルの入力項目をさまざまな取得元オブジェクトの項目に対応付けます。決定テーブルでは、結果を提供するために、さまざまな取得元オブジェクトの選択した項目の値に対してビジネスルールが評価されます。

対象: この変更は、リポート管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: システム管理者プロファイルに割り当てられているユーザは、決定テーブルのデータセットリンクを作成できます。

理由: ある会社が、購入商品と注文数量に基づいて割引を決定するプロセスを自動化したいとします。商品名は商品オブジェクトの [名前] 項目に保存され、注文数量は注文オブジェクトの [注文数量] 項目に保存されます。ビジネスルールは注文割引カスタムオブジェクトに保存され、このオブジェクトには [商品名]、[注文金額]、[割引] 項目があります。決定テーブルでは、入力項目として [商品名] 項目と [注文金額] 項目、出力項目として [割引] 項目が使用されます。データセットリンクで、商品オブジェクトの [名前] 項目は [商品名] 入力項目に対応付けられます。注文オブジェクトの [注文数量] 項目は [注文金額] 入力項目に対応付けられます。

方法: データセットリンクを追加する決定テーブルを開きます。[データセットリンク] カードで、[新規] をクリックします。データセットリンクの詳細を入力します。決定テーブルの入力項目をさまざまな取得元オブジェクトの項目に対応付け、変更内容を保存します。

データセットリンクを使用して決定テーブルを呼び出すときに、各取得元オブジェクトを評価する必要があるレコードを指定します。決定テーブルでは、取得元オブジェクトレコードの選択した項目に保存されている値が評価されます。

New dataset link

Map fields from up to 5 source objects to input fields of the decision table. The decision table evaluates the values of the source object fields and provides an outcome.

* Name

* API Name

Description

Decision Table Field	Source Object	Source Object Field
Maximum Quantity	<input type="text" value="Order"/>	<input type="text" value="Order Quantity"/>
Minimum Quantity	<input type="text" value="Order"/>	<input type="text" value="Order Quantity"/>
Product Name	<input type="text" value="Product"/>	<input type="text" value="Product Name"/>

New Action

Filter By
Category

All
Users
Group
Task
Price books
Feed Item
Decision Table
Case
Account
Contact
Event

Action
Decide Discount Percentage for Orders - Evaluate Order ar

Use values from earlier in the flow to set the inputs for the "Decide Discount Percentage for Orders - Evaluate Order and Product Field Values" core action. To use its outputs later in the flow, store them in variables.

* Label
Evaluate Order Records

* API Name
Evaluate_Order_Records

Description

Set Input Values

(x) * Order
{!Loop_All_Order_Records}

(x) * Product
{!Get_Product_Records}

> Advanced

Cancel Done

Experience Cloud ユーザへの追加のアクセス権の付与

Experience Cloud ユーザは、決定テーブルを起動できます。特定の Experience Cloud プロファイルで「決定テーブルを実行」ユーザ権限を有効にできます。

対象: この変更は、リポート管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 次のプロファイルで「決定テーブルを実行」ユーザ権限を有効にできます。

- Partner Community ユーザ
- Partner Community Login ユーザ
- Customer Community Plus ユーザ
- Customer Community Plus Login ユーザ
- Customer Community ユーザ
- Customer Community Login ユーザ

- Channel Account ユーザ

エポック時刻形式からの移行

呼び出し可能なアクションを使用して決定テーブルを実行する場合は、日付種別の入力項目に YYYY/MM/DD または YYYY-MM-DD 形式で値を入力します。時刻をエポック形式に変換してから値を入力する必要はなくなりました。

対象: この変更は、リポート管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 決定テーブルアクションを使用して決定テーブルを実行する開発者。

関連トピック:

[Industries Common Resources Developer Guide \(Industries 共通リソース開発者ガイド\): Decision Table Actions \(決定テーブルアクション\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

決定テーブルの新しい項目

新しい決定テーブル項目実行できる作業が増えました。

決定テーブルの入力項目の処理条件を指定する

既存の DecisionTable オブジェクトで新しい ConditionCriteria 項目と ConditionType 項目を使用します。

決定テーブルの入力項目の処理順序を指定する

既存の DecisionTableParameter オブジェクトで新しい Sequence 項目を使用します。

データセットリンクの各決定テーブルの入力項目の一意のソースオブジェクトを指定する

既存の DecisionTblDatasetParameter オブジェクトで新しい DatasetSourceObject 項目を使用します。

決定テーブルの新しい設定オブジェクト項目

Tooling API を使用して、新しい決定テーブル設定オブジェクト項目を操作します。

決定テーブルの入力項目の処理条件を指定する

既存の DecisionTable オブジェクトで新しい ConditionCriteria 項目と ConditionType 項目を使用します。

決定テーブルの入力項目の処理順序を指定する

既存の DecisionTableParameter オブジェクトで新しい Sequence 項目を使用します。

データセットリンクの各決定テーブルの入力項目の一意のソースオブジェクトを指定する

既存の DecisionTblDatasetParameter オブジェクトで新しい DatasetSourceObject 項目を使用します。

Connect REST API

決定テーブルの REST API の次のコールが機能強化されました。

決定テーブル

データセットリンク定義で複数の取得元オブジェクトをサポートする

Decision Table Input リクエストボディの新しい `sourceObject` プロパティを使用し

て、`/connect/decision-table/decisionTableId` リソースに対して POST 要求を実行します。

一括管理

一括管理ジョブはいつでもキャンセルできます。前回の一括処理ジョブの実行で失敗したレコードを再送信します。

このセクションの内容:

クリックで実行のキャンセル

実行中の一括処理ジョブの一部が失敗している、または設定エラーがある場合は、途中で実行をキャンセルし、一括管理ジョブまたは関付けられたフローのエラーを修正できるようになりました。一括管理では 1 回の実行で数千件のレコードを処理できるため、キャンセルするオプションがセーフティネットとして機能します。また、一括処理ジョブの一部で正常にレコードが処理された後に一括管理ジョブをキャンセルしても、変更は元に戻りません。

失敗レコードの簡単な再送信

場合によって、一括管理ジョブの実行中にレコードを処理できないことがあります。一括管理ジョブの実行が完了したら、すべての失敗レコードまたは特定の失敗レコードを再送信できます。これらのレコードを処理するために新しい一括処理ジョブが自動的に実行されます。以前は、次の実行スケジュールを待つか、失敗レコードを処理するために手動でもう一度ジョブを実行していました。

一括処理できるレコード数の増加

一括処理ジョブ部分で最大 2,000 件のレコードを処理できるようになりました (以前は 200 件)。この新しい制限によって、レコードを処理するために必要な一括処理ジョブの部分数が減り、その結果、一括管理ジョブを実行するために必要なリソースやコールが減ります。

一括管理の新しい項目

新しい一括管理項目で、より多くの操作を実行できるようになりました。

一括管理の新しい呼び出し可能なアクション

呼び出し可能なアクションを使用して一括管理ジョブを実行します。

一括管理の新しいアクション種別値

一括管理に新しい `actionType` 列挙値が含まれます。

Connect REST API

一般的なビジネス REST API の次のコールが機能強化されました。

一括管理のプラットフォームイベントの新しい項目

プラットフォームイベントを使用して、フローの一括管理ジョブの実行が完了したときに登録ユーザーに通知します。

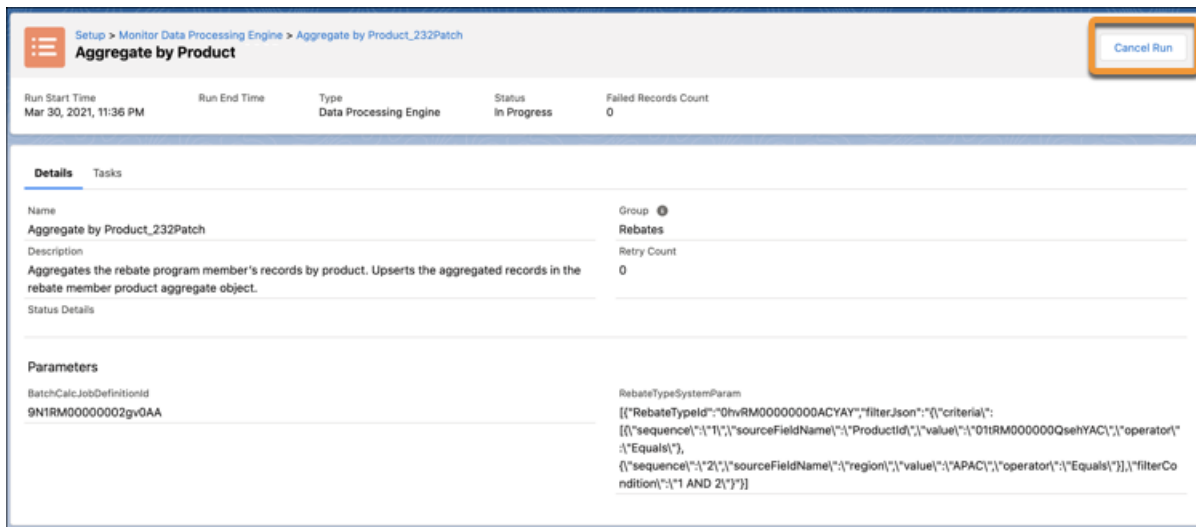
クリックで実行のキャンセル

実行中に一括処理ジョブの一部が失敗している、または設定エラーがある場合は、途中で実行をキャンセルし、一括管理ジョブまたは関付けられたフローのエラーを修正できるようになりました。一括管理では1回の実行で数千件ものレコードを処理できるため、キャンセルするオプションがセーフティネットとして機能します。また、一括処理ジョブの一部で正常にレコードが処理された後に一括管理ジョブをキャンセルしても、変更は元に戻りません。

対象: この変更は、リベート管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: システム管理者プロファイルを持つユーザは、一括管理ジョブの実行をキャンセルできます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ワークフローサービスを監視」と入力し、[ワークフローサービスを監視] を選択します。キャンセルする必要がある一括管理ジョブの実行を開き、[実行をキャンセル] をクリックします。



関連トピック:

[Industries Common Resources Developer Guide \(Industries 共通リソース開発者ガイド\)](#): Batch Job Cancel Business API (一括処理ジョブのキャンセルのビジネス API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

失敗レコードの簡単な再送信

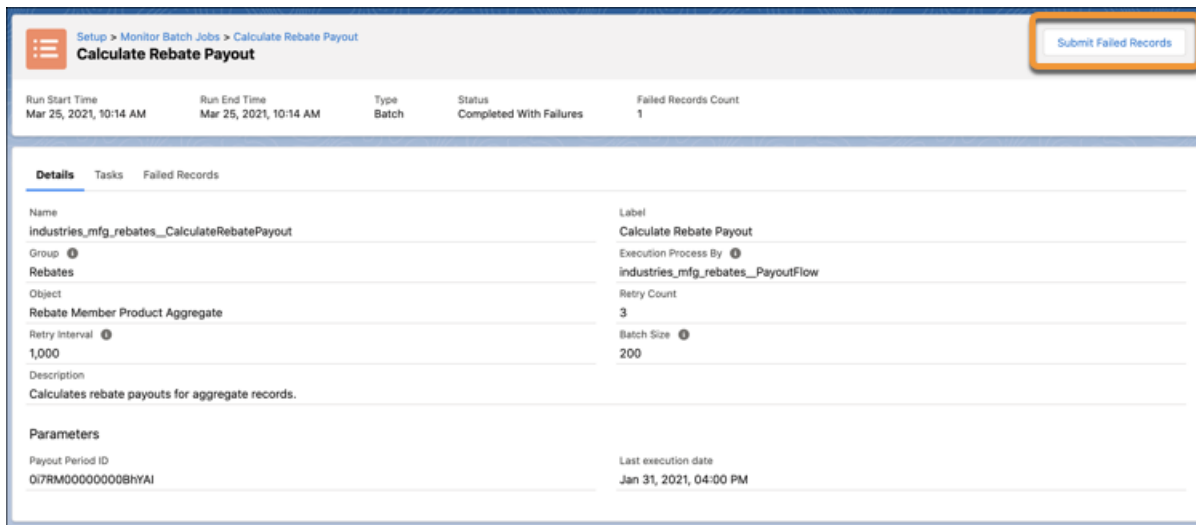
場合によって、一括管理ジョブの実行中にレコードを処理できないことがあります。一括管理ジョブの実行が完了したら、すべての失敗レコードまたは特定の失敗レコードを再送信できます。これらのレコードを処理するために新しい一括処理ジョブが自動的に実行されます。以前は、次の実行スケジュールを待つか、失敗レコードを処理するために手動でもう一度ジョブを実行していました。

対象: この変更は、リベート管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: システム管理者プロファイルを持つユーザは、[ワークフローサービスを監視] で失敗レコードを再送信できます。

方法:2 通りの方法で失敗レコードを再送信できます。

- [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ワークフローサービスを監視」と入力し、[ワークフローサービスを監視] を選択します。失敗レコードが含まれる一括管理ジョブの実行を開きます。[失敗レコードを送信] をクリックして失敗したすべてのレコードを処理するために送信します。失敗した特定のレコードを送信するには、[失敗レコード] タブに移動し、送信する失敗レコードを選択して、[失敗レコードを送信] をクリックします。
- フローで、[アクション] 要素をキャンバスにドラッグします。[カテゴリ] を[一括処理ジョブ] として選択します。[失敗レコードを送信] を検索して選択します。失敗レコードが含まれる一括処理ジョブの ID を指定します。特定の失敗レコードを送信する場合は、失敗レコード ID を指定します。



関連トピック:

[Industries Common Resources Developer Guide \(Industries 共通リソース開発者ガイド\)](#): Submit Failed Records Batch Job Invocable Action (失敗したレコードの一括処理ジョブの呼び出し可能なアクションの送信) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一括処理できるレコード数の増加

一括処理ジョブ部分で最大 2,000 件のレコードを処理できるようになりました (以前は 200 件)。この新しい制限によって、レコードを処理するために必要な一括処理ジョブの部分数が減り、その結果、一括管理ジョブを実行するために必要なリソースやコールが減ります。

対象: この変更は、リベート管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: システム管理者プロフィールを持つユーザーは、一括管理ジョブを作成できます。

一括管理の新しい項目

新しい一括管理項目で、より多くの操作を実行できるようになりました。

失敗したレコードの状況を表示する

既存の BatchJobPartFailedRecord オブジェクトの新しい Status 項目を使用します。

失敗レコードを送信するために使用された一括処理ジョブの ID を表示します。

既存の BatchJobPartFailedRecord オブジェクトで新しい ResubmittedBatchJobId 項目を使用します。

一括管理の新しい呼び出し可能なアクション

呼び出し可能なアクションを使用して一括管理ジョブを実行します。

失敗レコードの一括処理ジョブを送信する

新しい submitFailedRecordsBatchJob 標準アクションを使用して、処理に失敗したレコードを含む既存の一括処理ジョブを再送信します。

一括管理の新しいアクション種別値

一括管理に新しい actionType 列挙値が含まれます。

フローで一括管理ジョブアクションを使用して、処理に失敗したレコードを含む既存の一括処理ジョブを再送信します

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプの actionType 項目で新しい submitFailedRecordsBatchJob 列挙値を使用します。

Connect REST API

一般的なビジネス REST API の次のコールが機能強化されました。

一括管理およびデータ処理エンジン

一括処理ジョブをキャンセルする

新規 /connect/batch-job/*batchJobId*/cancel-job リソースに対して POST 要求を実行します。

一括管理のプラットフォームイベントの新しい項目

プラットフォームイベントを使用して、フローの一括管理ジョブの実行が完了したときに登録ユーザーに通知します。

公開済みのイベントを表示する

既存のプラットフォームイベントで新しい EventUuid 項目を使用します。

Einstein リレーションインサイト

さまざまなデータソースを探索して、人と会社間の重要なリレーションを検出し、見込み客や商談を識別します。Web ページの構造化されていないデータからインサイトを抽出し、Salesforce レコードなどの構造化された情報に変換します。これらのインサイトを使用して、取引先責任者および取引先の優先度を付けて、リードを強化し、営業チームの生産性を向上させます。調査に関連する人と会社のネットワークを構築し、商談成立を迅速化します。

このセクションの内容:

Einstein リレーションインサイトを使用したレコードのアクション可能なインサイトの取得

Einstein リレーションインサイトを使用して、目的のレコードの推奨リレーションを確認します。レコードおよび推奨リレーションが記載されたドキュメントを Web から確認することもできます。有効なおすすめのレコードを作成したり、無効なおすすめを破棄したりできます。

[追加の個人レコードオブジェクト]を使用したより多くのオブジェクトリレーションの探索

Einstein リレーションインサイトを設定するとき、[追加の個人レコードオブジェクト]項目でオブジェクトを追加できます。これにより、ユーザはレコードの作成時に個人レコードタイプを追加できます。取引先および取引先責任者オブジェクト情報を1つのオブジェクト(リードなど)に含めることができます。その後、リードを適切な取引先種別に変換できます。

適切なレコードの選択によるデータ品質の改善

データベースの類似するレコードから最も精度の高いレコードを選択します。レコードの精度が高いと、Einstein でより適切なおすすめを提供できます。

ブラウザ拡張機能を使用した Web ページのリレーションインサイトの取得

Salesforce Einstein リレーションインサイトのブラウザ拡張機能を使用すると、既存のレコードや推奨レコードを確認できます。既存のレコードは青色で強調表示され、まだ Salesforce CRM にはない推奨レコードは赤色で強調表示されます。赤色のレコードの新しいレコードを作成できます。

Actionable Relationship Center でのリレーションインサイトの表示

Einstein リレーションインサイトと Actionable Relationship Center (ARC) を統合して、ARC 詳細パネルでレコードの推奨リレーションとそれらの関連記事を表示します。おすすめから、取引先レコードまたは個人レコードを作成し、レコードの取引先と取引先責任者のリレーションまたは取引先責任者間リレーションを選択できます。無効または不適切なおすすめを破棄することもできます。

データプライバシー要件に準拠する Einstein リレーションインサイト

有効な人または会社レコードを探索する場合、これらのレコードへの変更は99.9%の精度で処理されます。

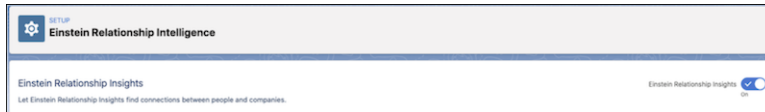
Einstein リレーションインサイトを使用したレコードのアクション可能なインサイトの取得

Einstein リレーションインサイトを使用して、目的のレコードの推奨リレーションを確認します。レコードおよび推奨リレーションが記載されたドキュメントを Web から確認することもできます。有効なおすすめのレコードを作成したり、無効なおすすめを破棄したりできます。

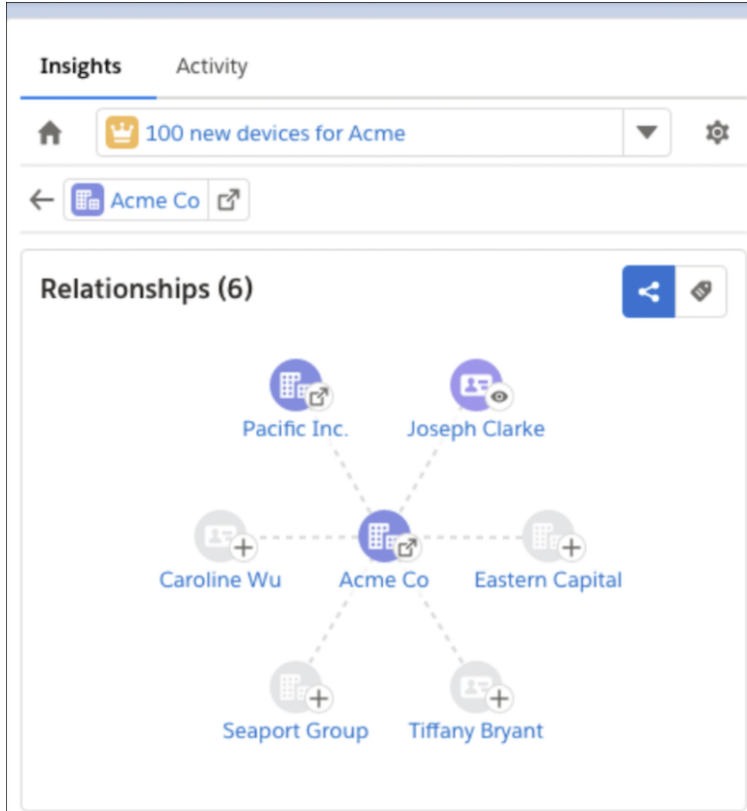
対象: この変更は、Einstein リレーションインサイトが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ユーザが有効なレコードオブジェクト、取引先オブジェクト、取引先責任者オブジェクトのレコードのリレーションのおすすめを表示するには、Einstein Relationship Insights Growth ライセンスが必要です。Einstein Relationship Insights Starter ライセンスのあるユーザは、取引先オブジェクトと取引先責任者オブジェクトのレコードのおすすめを表示できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Einstein」と入力し、[Einstein リレーションインテリジェンス]を選択します。[Einstein リレーションインサイト]を有効にします。



探索するレコードに移動し、[Einstein で探索] をクリックします。

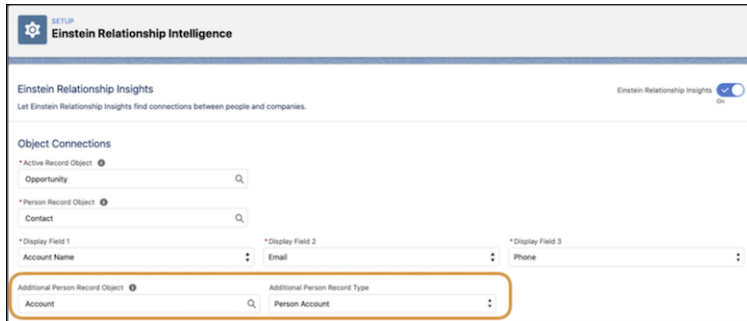


[追加の個人レコードオブジェクト]を使用したより多くのオブジェクトリレーションの探索

Einstein リレーションインサイトを設定するときに、[追加の個人レコードオブジェクト]項目でオブジェクトを追加できます。これにより、ユーザはレコードの作成時に個人レコードタイプを追加できます。取引先および取引先責任者オブジェクト情報を1つのオブジェクト(リードなど)に含めることができます。その後、リードを適切な取引先種別に変換できます。

対象: この変更は、Einstein リレーションインサイトが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Einstein」と入力し、[Einstein リレーションインテリジェンス] を選択します。[追加の個人レコードオブジェクト] リストから、オブジェクトを選択します。[追加の個人レコードタイプ] 項目から、関連付けられたレコードタイプを選択できます。

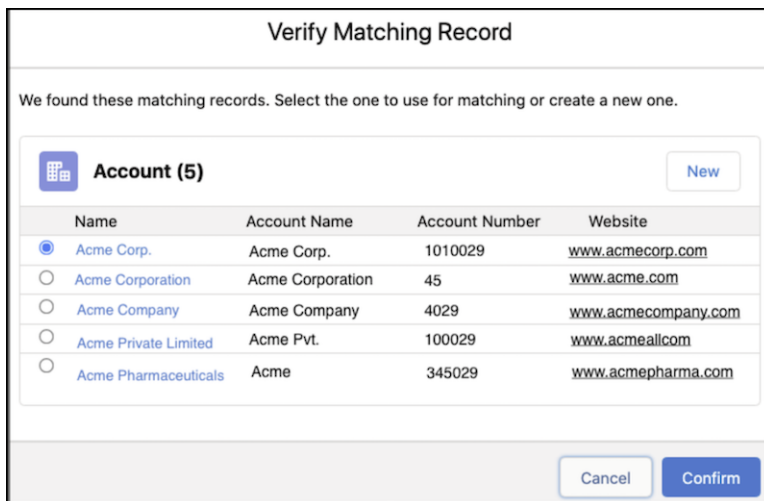


適切なレコードの選択によるデータ品質の改善

データベースの類似するレコードから最も精度の高いレコードを選択します。レコードの精度が高いと、Einstein でより適切なおすすめを提供できます。

対象: この変更は、Einstein リレーションインサイトが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Salesforce の既存のレコードの場合、👁️ をクリックして一致するレコードを表示します。[一致するレコードを確認] ウィンドウで、適切なレコードを選択するか、精度の高い一致がない場合は作成します。

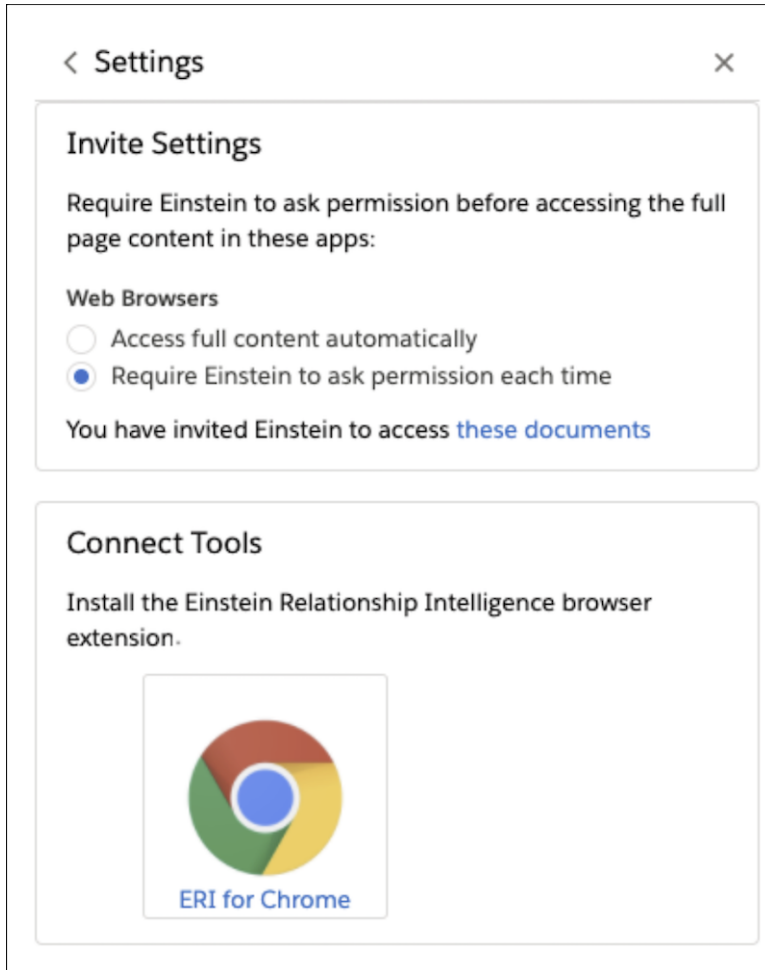


ブラウザ拡張機能を使用した Web ページのリレーションインサイトの取得

Salesforce Einstein リレーションインサイトのブラウザ拡張機能を使用すると、既存のレコードや推奨レコードを確認できます。既存のレコードは青色で強調表示され、まだ Salesforce CRM にない推奨レコードは赤色で強調表示されます。赤色のレコードの新しいレコードを作成できます。

対象: この変更は、Einstein リレーションインサイトが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能を有効にするには、ブラウザ拡張機能をインストールします。

方法: [Einstein リレーションインサイト] 設定ページから、ブラウザの拡張機能を選択します。



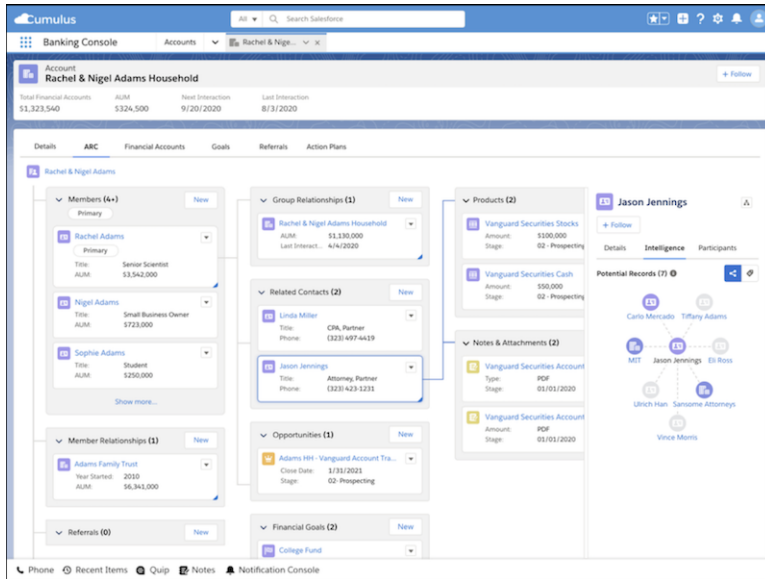
Actionable Relationship Center でのリレーションインサイトの表示

Einstein リレーションインサイトと Actionable Relationship Center (ARC) を統合して、ARC 詳細パネルでレコードの推奨リレーションとそれらの関連記事を表示します。おすすめから、取引先レコードまたは個人レコードを作成し、レコードの取引先と取引先責任者のリレーションまたは取引先責任者間リレーションを選択できます。無効または不適切なおすすめを破棄することもできます。

対象: この変更は、Einstein リレーションインサイトが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーで、ARC - Financial Services Cloud コンポーネントを選択し、[インサイトを表示] を有効にします。

[Einstein リレーションインサイト] タブに、選択したレコードに関連している可能性のあるレコードが表示されます。信頼済み提供源の関連記事を確認するには、レコードをクリックします。



データプライバシー要件に準拠する Einstein リレーションインサイト

有効な人または会社レコードを探索する場合、これらのレコードへの変更は 99.9% の精度で処理されます。

対象: この変更は、Einstein リレーションインサイトが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

インテリジェントフォームリーダー

インテリジェントフォームリーダーのメタデータ API と設定オブジェクトを使用して、外部フォームの情報を抽出し、Salesforce オブジェクトに保存します。

このセクションの内容:

インテリジェントフォームリーダーの新しいメタデータ型

インテリジェントフォームリーダーに新しいメタデータ型が追加されました。

インテリジェントフォームリーダーの新しい Tooling API オブジェクト

Tooling API を使用して、インテリジェントフォームリーダー設定オブジェクトを操作します。

インテリジェントフォームリーダーの新しいメタデータ型

インテリジェントフォームリーダーに新しいメタデータ型が追加されました。

ドキュメント種別を使用してフォームから情報を抽出して対応付ける

新しい `OcrSampleDocument` メタデータ型を使用します。

インテリジェントフォームリーダーを使用してフォームと Salesforce オブジェクトを対応付ける

新しい `OcrTemplate` メタデータ型を使用します。

インテリジェントフォームリーダーの新しい Tooling API オブジェクト

Tooling API を使用して、インテリジェントフォームリーダー設定オブジェクトを操作します。

フォームと Salesforce オブジェクト間の対応付けに関する情報を保存する

`OcrTemplate` オブジェクトを使用します。

フォームの情報が抽出されて対応付けられる Salesforce オブジェクトに関する情報を保存する

`OcrTargetObject` オブジェクトを使用します。

値が抽出されて Salesforce オブジェクトに対応付けられるフォーム項目に関する情報を保存する

`OcrSampleDocumentField` オブジェクトを使用します。

フォーム項目のデータが Salesforce オブジェクトの項目にどのように対応付けられるのかに関する情報を保存する

`OcrTargetObjFieldMapping` オブジェクトを使用します。

OCR サンプルドキュメントのページを定義する項目に関する情報を保存する

`OcrSampleDocumentPage` オブジェクトを使用します。

フォームの情報を対応付けるときに参照情報として使用されるドキュメント種別に関する情報を保存する

`OcrSampleDocument` オブジェクトを使用します。

OCR テンプレートと OCR サンプルドキュメント間のリレーションに関する情報を保存する

`OcrTemplateSampleDocument` オブジェクトを使用します。

一般的な Industries 開発者向けリソースの利用

一部の Industries クラウドには、オブジェクト、呼び出し可能なアクション、API、イベントなど、2つ以上のクラウドに役立つコンポーネントがあります。これらの多目的コンポーネント、およびそれらを業種の自動化プロセスで機能させる方法について学ぶことができる中心的な場所が作成されました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce Developers の「[Industries Common Resources Developer Guide \(Industries 共通リソース開発者ガイド\)](#)」を参照してください。

マーケティング

Marketing Cloud は、1対1のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを1か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャンネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

最新機能と機能強化の詳細は、[Marketing Cloud リリースノート](#)を参照してください。

関連トピック:

[Marketing Cloud の概要](#)

[Marketing Cloud: 以前のリリースノート](#)

[Salesforce Marketing Cloud の Facebook ページ](#)

モバイル

Android 向けモバイルホームなどの新しい機能を使用して、Salesforce モバイルアプリケーションでより多くの作業を実行できます。ExperienceCloud 向け Mobile Publisher では、システム管理者は、ExperienceCloud アプリケーションでの URL の開き方を設定したり、ユーザがアプリケーションを移動しやすいようにメニュー項目をカスタマイズしたりできます。

このセクションの内容:

[Salesforce モバイルアプリケーション](#)

Android 向けモバイルホームページでカスタマイズ可能なカードを表示し、モバイルで自然言語検索を使用してレコードを絞り込み、タブレットで Lightning レコードページを全体幅で表示 (パイロット) します。

[Experience Cloud 用 Mobile Publisher](#)

ExperienceCloud アプリケーションでの URL の開き方を設定および管理したり、ユーザがアプリケーション内を移動しやすいようにメニュー項目の種類と順序をカスタマイズしたりします。

Salesforce モバイルアプリケーション

Android 向けモバイルホームページでカスタマイズ可能なカードを表示し、モバイルで自然言語検索を使用してレコードを絞り込み、タブレットで Lightning レコードページを全体幅で表示 (パイロット) します。

このセクションの内容:

[Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能](#)

Salesforce モバイルアプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能

Salesforce モバイルアプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションは Database.com 以外のすべてのエディションで追加ライセンスなしで使用できます。組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザに割り当てられたプロファイルと権限セットによって、各ユーザが使用できる Salesforce データおよび機能が決定します。

ほとんどの機能は、2021 年 6 月 14 日の週に Salesforce モバイルアプリケーションで使用できるようになります。

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	フルサイトの設定
ブラウザとオペレーティングシステム			
Salesforce モバイルアプリケーションの要件の変更	✓	✓	
データのアクセスおよび表示			
Android 向けモバイルホームの習熟 (ベータ)	✓	✓	✓
検索			
Einstein Search を使用したモバイルでのより効率的な検索 (正式リリース)	✓	✓	✓
アクセスおよびセキュリティ			
拡張モバイルセキュリティの設定 UI (正式リリース)			✓
その他の機能強化			
タブレットでの全体像の表示 (パイロット)	✓	✓	

Salesforce モバイルアプリケーションの要件の変更

Salesforce は、Android および iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションを使用するための要件を改訂しています。モバイルプラットフォーム要件と、Salesforce 環境を継続的に改善するための機能テストとパフォーマンステストに使用するデバイスについて説明します。

Salesforce テストに使用されるモバイルデバイス

Salesforce は、選択した一連のモバイルデバイスで iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションの自動テストや手動テストを実行します。Summer '21 のデバイスリストを次に示します。

プラットフォーム	スマートフォン	タブレット
Android	<ul style="list-style-type: none"> Google Pixel 4 XL Google Pixel 3 Samsung Galaxy S10 / S10+ / S10e Samsung Galaxy S9 / S9+ Samsung Galaxy S8 / S8+ Samsung Galaxy S7 Samsung Galaxy Note 10+ Samsung Galaxy Note 9 Samsung Galaxy Note 8 	
iOS	<ul style="list-style-type: none"> iPhone 12 Pro / Pro Max / mini iPhone 12 	<ul style="list-style-type: none"> iPad Pro 10.5" iPad Air 2

プラットフォーム	スマートフォン	タブレット
	<ul style="list-style-type: none"> • iPhone 11 Pro / Pro Max • iPhone 11 • iPhone XR • iPhone XS / XS Max • iPhone X • iPhone 8/8 Plus • iPhone 7/7 Plus • iPhone SE • iPhone 6S 	<ul style="list-style-type: none"> • iPad Mini 4

お客様は、現在のプラットフォーム要件を満たしていればテスト対象外デバイスでも Salesforce を使用できます。デバイスメーカー固有のカスタマイズが原因で、Salesforce は、テスト対象外デバイスで Salesforce を使用するお客様の問題を再現できない場合があります。


急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、Salesforce テスト対象デバイスのリストは事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Android 向けモバイルホームの習熟 (ベータ)

iOS で人気のある新機能が Android でも使用できるようになりました。モバイルホームを使用すると、カスタマイズ可能で動的なカードにパーソナライズされた情報が表示されます。レポート、今後の行動、最近のレコードなどを表示できます。カードにはユーザがどのようにアプリケーションを使用するかに基づいて情報が表示され、アプリケーション内で簡単にカードを再配置、追加、削除できます。モバイルホームが有効になると、モバイルホームがすべてのユーザのランディングページと最初のタブになります。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: Android ユーザに対してモバイルホームを有効にするには、接続アプリケーションの属性を追加します。[設定] で [クイック検索] ボックスに「接続アプリケーション」と入力し、[接続アプリケーションを管理する] を選択してから、変更する接続アプリケーションの名前をクリックします。Mobile Publisher を使用しない場合、これは Salesforce for Android 接続アプリケーションです。接続アプリケーションページの [カスタム属性] セクションで [新規] をクリックします。属性キーに「ENABLE_MOBILE_HOME」と入力し、属性値に「"true"」と入力します。

 **メモ:** モバイルホームはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約

はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。モバイルホームについてのフィードバックと提案は、Lightning on Mobile Trailblazer Community または Salesforce for iOS/Android Trailblazer Community からお寄せください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Enable Mobile Home \(Beta\) \(モバイルホームの有効化 \(ベータ\)\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Einstein Search を使用したモバイルでのより効率的な検索 (正式リリース)

Einstein Search が Salesforce モバイルアプリケーションで正式にリリースされました。パーソナライズにより、ユーザには活動に基づいて関連する検索結果が表示されます。自然言語検索 (NLS) を使用すると、ユーザは一般的な単語や語句をクエリに入力して検索結果を絞り込むことができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Essentials Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

[Einstein Search \(正式リリース\)](#)

拡張モバイルセキュリティの設定 UI (正式リリース)

モバイルセキュリティポリシーの有効化と設定は、スイッチを切り替えるのと同じくらい簡単です。以前は、有効にするモバイルセキュリティポリシーごとに接続アプリケーション属性を設定する必要がありました。

対象: Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの Salesforce モバイルアプリケーションで有料で使用できます。

対象ユーザ: 「拡張モバイルアプリケーションセキュリティを適用」ユーザ権限を持つユーザが使用できます。

方法: [設定] で「モバイルセキュリティ」を検索し、[モバイルセキュリティ]を選択します。[iOS] または [Android] タブを選択し、モバイルセキュリティポリシーを有効にして設定します。

すでに接続アプリケーションの属性を介してモバイルセキュリティポリシーが有効になっている場合、既存のセキュリティポリシーを新しい設定 UI に移行できます。

Mobile Security

Configure Mobile Security Policies

Configure mobile security policies for iOS or Android.

iOS Android

Block Jailbroken Device
A jailbroken or rooted mobile device can access system files to install unapproved apps or to modify settings. Specify if you want to enable jailbreak detection.

Active

*Level: Critical Effective Date and Time (UTC): Jul 5, 2021 8:30 PM

Block Man In The Middle Attack
A man-in-the-middle attack allows attackers to secretly intercept communications between two systems (client and server). Specify if you want to enable man-in-the-middle attack detection.

Active

*Level: Error Effective Date and Time (UTC): Jun 5, 2021 4:30 PM

関連トピック:

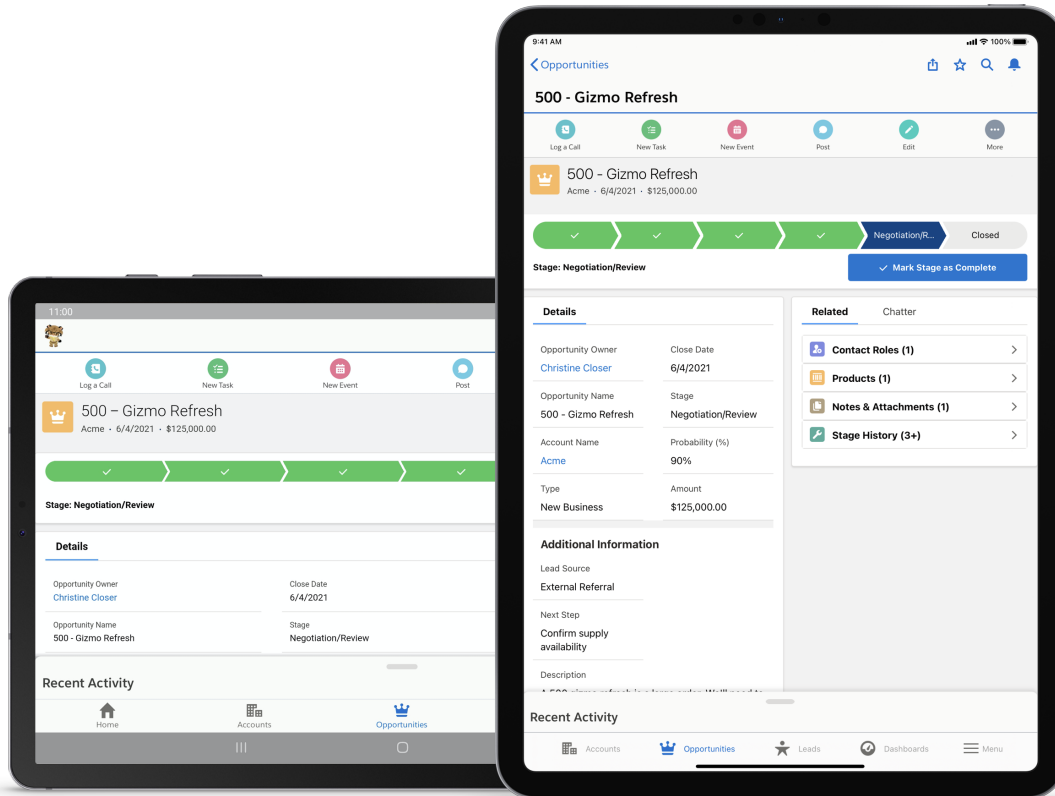
[Salesforce ヘルプ: モバイルアプリケーションセキュリティポリシーの有効化と設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

タブレットでの全体像の表示 (パイロット)

タブレットでの Lightning の全体幅での表示が可能になりました。この環境ではタブレットの全画面を使用して、モバイルに最適化されたコンポーネントでデスクトップレコードレイアウトを表示します。Lightning アプリケーション、全体幅の Lightning レコードページ、Lightning ナビゲーション、Tableau CRM がサポートされません。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションのタブレットでの iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: タブレット操作環境で全体幅の Lightning を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「クイックスタート」と入力し、[新しい Salesforce モバイルアプリケーションクイックスタート] を選択します。[タブレット設定] で、[タブレットでの Lightning: 全体幅 (パイロット)] を選択します。



全体幅のタブレット環境は、オプトインパイロットの一部として提供され、いくつかの既知の制限があります。「iPad ユーザ向けの Salesforce モバイルアプリケーションに関する考慮事項」を参照してください。

メモ: [タブレットでの Lightning: 全体幅] は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。[タブレットでの Lightning: 全体幅] は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。[タブレットでの Lightning: 全体幅] についてのフィードバックと提案は、[Lightning on Mobile Trailblazer Community](#) または [Salesforce for iOS/Android Trailblazer Community](#) からお寄せください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Mobile App Considerations for Tablets \(タブレットの Salesforce モバイルアプリケーションに関する考慮事項\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Experience Cloud 用 Mobile Publisher

Experience Cloud アプリケーションでの URL の開き方を設定および管理したり、ユーザがアプリケーション内を移動しやすいようにメニュー項目の種別と順序をカスタマイズしたりします。

このセクションの内容:

[ナビゲーションタブバーの設定 \(正式リリース\)](#)

ナビゲーションタブバーでは、ブランド設定された Experience Cloud アプリケーションの画面の下部に沿ってタブが表示されます。エクスペリエンスビルダーを使用して、ナビゲーションタブバーのメニュー項目の種別と順序をカスタマイズできます。

[Experience Cloud アプリケーションでの URL の開き方の管理 \(正式リリース\)](#)

[URL 管理] では、Experience Cloud アプリケーションでの URL の開き方を設定できます。

ナビゲーションタブバーの設定 (正式リリース)

ナビゲーションタブバーでは、ブランド設定された Experience Cloud アプリケーションの画面の下部に沿ってタブが表示されます。エクスペリエンスビルダーを使用して、ナビゲーションタブバーのメニュー項目の種別と順序をカスタマイズできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience でアクセスする Experience Cloud サイトに適用されます。

対象ユーザー: ナビゲーションタブバーをカスタマイズするには、ユーザーに Mobile Publisher ライセンスと Experience Cloud サイトへのアクセス権が必要です。

方法: エクスペリエンスビルダーを使用して、ユーザーのナビゲーションタブバーをカスタマイズします。

エクスペリエンスビルダーにアクセスする方法は、次のとおりです。

- エクスペリエンスワークスペースまたは [エクスペリエンス管理] のグローバルヘッダーメニューから [エクスペリエンスワークスペース] | [ビルダー] または [エクスペリエンス管理] | [エクスペリエンスビルダーに移動] をクリックします。
- [設定] の [すべてのサイト] ページで、サイト名の横にある [ビルダー] をクリックします。
- サイトから、プロファイルメニューで [エクスペリエンスビルダー] をクリックします。

Settings

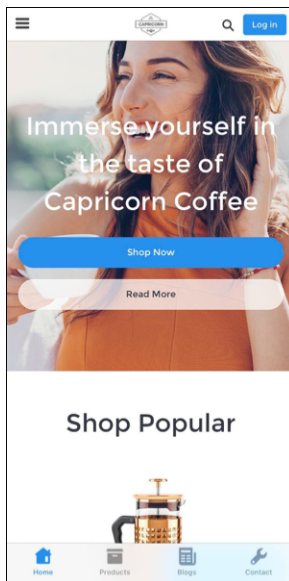
- General
- Theme
- Languages
- Navigation
- Mobile Publisher
- SEO
- CMS Connect
- Advanced
- Security
- Developer
- Updates

Tab Bar

Create and manage tab bar menus for the community mobile app. The action color of the default branding set for the current theme is the tab icon tint color.

+ Add Tab Bar Item

NAME	TARGET	
☰ Home	/	▼
☰ Custom Item 1	/custom-item-1	▼
☰ Custom Item 2	/custom-item-2	▼
☰ Custom Item 3	/custom-item-3	▼



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: エクスペリエンスビルダーのナビゲーション](#)

[Salesforce ヘルプ: Mobile Publisher のナビゲーションタブバーの設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Experience Cloud アプリケーションでの URL の開き方の管理 (正式リリース)

[URL 管理] では、Experience Cloud アプリケーションでの URL の開き方を設定できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience でアクセスする Experience Cloud サイトに適用されます。

対象ユーザ: URL を管理するには、ユーザに Mobile Publisher ライセンスと Experience Cloud サイトへのアクセス権が必要です。

方法: [URL 管理] では、URL の開き方を定義できます。

- Webview URL: Experience Cloud アプリケーション内で Web ビューとして開きます。
- アプリケーション内ブラウザ URL: アプリケーション内ブラウザを使用して Experience Cloud アプリケーション内で開きます。
- 外部ブラウザ URL: デフォルトの外部ブラウザを使用して Experience Cloud アプリケーション外で開きます。

The screenshot shows the 'URL Management' configuration page. It is divided into three sections, each with a text input field and a character count:

- WebView URLs:** The input field contains the placeholder text `https://www.salesforce.com, /webview/path`. The character count is 41/20000.
- In-App Browser URLs:** The input field contains the placeholder text `https://www.salesforce.com, /in/app/browser/path`. The character count is 48/20000.
- External Browser URLs:** The input field contains the placeholder text `https://www.salesforce.com, /external/browser/path`. The character count is 50/20000.

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Experience Cloud アプリケーションでの URL の開き方の管理 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

myTrailhead

信頼性の高いモジュールやトレイルを簡単に作成できます。Trailmaker Content では変更内容がクラウドに保存され、バッジとトレイルアートのファイルをアップロードできます。会社のコンテンツおよびビジネスニーズが反映されるように myTrailhead のロールやレベルの検索条件をカスタマイズします。Salesforce Identity for myTrailhead ユーザは、同じログインで myTrailhead と公開 Salesforce Trailhead にアクセスでき、両方のサイトのコンテンツを使用して trailmix を作成できます。

このセクションの内容:

Trailmaker Content によるコンテンツの保存

コンテンツを作成しているか書式設定しているか更新しているかに関係なく、Trailmaker Content では変更内容が数秒ごとにクラウドに保存され、作業内容が前回いつ保存されたかが示されます。1つのコンピュータやブラウザで作業を開始し、別のコンピュータやブラウザを使用して作業を続行することもできます。コンピュータがクラッシュしたり、ブラウザのキャッシュがクリアされた場合にもワークスペース内のコンテンツはワークスペース内、つまり必要とされる場所に保持されます。

簡単な画像アップロードを使用したコンテンツへのバッジとトレイルアートの追加

Trailmaker Content ユーザはモジュールのバッジアートとトレイルアイコンをよりスムーズかつ容易に追加できます。画像ファイルをサーバまたはハードドライブから直接アップロードできるようになりました。

[Today] ページを使用した Trailblazer の意欲の喚起

myTrailhead ユーザの学習、ストレッチ目標の達成、割り当ての完了を促進します。新しい [Today] ページでは、ユーザの進行状況と達成に関するより多くの情報が1つのビューで提供されます。ユーザは自分の割り当て、進行中のモジュール、お気に入りのコンテンツを効率的に確認したり、新しいことを始めたりできます。

myTrailhead のロールやレベルのカスタム検索条件の追加および削除

検索条件は、myTrailhead ユーザが関連性の高いコンテンツをすばやく見つけるのに役立ちます。たとえば、営業担当およびサービスエージェントの検索条件を使用すると、それらの職業的役割に不可欠なモジュールやトレイルをユーザに表示できます。初級、中級、上級などの検索条件を使用すると、ユーザは各自の知識と経験のレベルに合ったモジュールやトレイルを選択できます。会社のニーズに合わせて myTrailhead のロールやレベルの検索条件をカスタマイズできます。

Salesforce Identity for myTrailhead と同じログインを使用した myTrailhead および Salesforce Trailhead コンテンツの表示

Salesforce Identity for myTrailhead ユーザは、すでに myTrailhead にワンクリックでアクセスできますが、同じログインで公開 Salesforce Trailhead にもワンクリックでアクセスできるようになりました。ユーザがいる場所 (Lightning Experience の学習パスまたは会社の myTrailhead サイト) に関係なく、myTrailhead と Salesforce Trailhead のコンテンツに簡単にアクセスできます。

Trailmaker Content によるコンテンツの保存

コンテンツを作成しているか書式設定しているか更新しているかに関係なく、Trailmaker Content では変更内容が数秒ごとにクラウドに保存され、作業内容が前回いつ保存されたかが示されます。1つのコンピュータやブラウザで作業を開始し、別のコンピュータやブラウザを使用して作業を続行することもできます。コンピュータがクラッシュしたり、ブラウザのキャッシュがクリアされた場合にもワークスペース内のコンテンツはワークスペース内、つまり必要とされる場所に保持されます。

対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限と「myTrailhead コンテンツ作成」権限を持つユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインして Trailmaker Content にアクセスできます。

理由: Trailmaker では、最新バージョンの変更内容のみが保存されます。複数のコンピュータやブラウザで作業している場合は、別のウィンドウで Trailmaker Content を開く前にワークスペースでコンテンツをダウンロードし、バックアップコピーを保持してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Trailmaker を使用したコンテンツの作成 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

簡単な画像アップロードを使用したコンテンツへのバッジとトレイルアートの追加

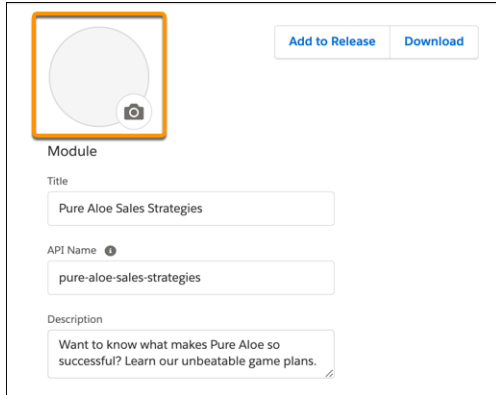
Trailmaker Content ユーザはモジュールのバッジアートとトレイルアイコンをよりスムーズかつ容易に追加できます。画像ファイルをサーバまたはハードドライブから直接アップロードできるようになりました。

対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

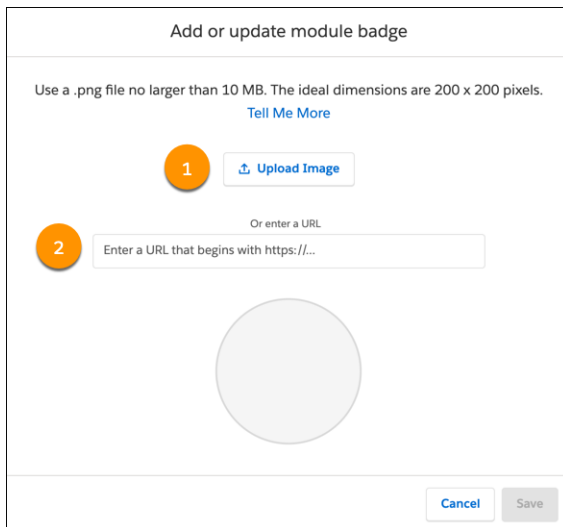
対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限と「myTrailhead コンテンツ作成」権限を持つユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインして Trailmaker Content にアクセスできます。

理由: この変更は、オンラインですでに投稿されているバッジとトレイルアートには影響しません。引き続きバッジとトレイルアートをオンラインで投稿し、URL を入力することでコンテンツに追加することもできます。方法はユーザ次第です。

方法: Trailmaker Content のモジュールページで、バッジ項目内をクリックします。



- 画像ファイルをアップロードするには、[画像をアップロード](1)をクリックし、対象のファイルに移動します。
- URL を介してバッジアートを追加するには、https:// で始まる URL を入力します (2)。



いずれの場合も、アートを追加したら、画像のプレビューがウィンドウに表示されます。

変更内容を保存します。

トレイルアートを追加するには、同じプロセスを使用します。Trailmaker Content のトレイルページで、トレイルアイコン項目内をクリックして同じ手順に従います。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Trailmaker Content でモジュールを作成する \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Trailmaker Content でトレイルを作成する \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: バッジとトレイルのアイコンを作成する \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Today] ページを使用した Trailblazer の意欲の喚起

myTrailhead ユーザの学習、ストレッチ目標の達成、割り当ての完了を促進します。新しい [Today] ページでは、ユーザの進行状況と達成に関するより多くの情報が1つのビューで提供されます。ユーザは自分の割り当て、進行中のモジュール、お気に入りのコンテンツを効率的に確認したり、新しいことを始めたりできます。

対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

時期: [Today] ページは 2021 年 6 月に使用可能になっています。

対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限を持つユーザは [Today] ページを表示できます。

方法: ユーザが会社の myTrailhead サブドメインにログインすると、[Today] ページが表示されます。表示される情報は、myTrailhead サブドメインに対して設定された認証プロバイダに応じて異なる可能性があります。

The screenshot displays the Salesforce Trailblazer 'Today' page for user Hemanth Bevara. The page is divided into several sections:

- Header:** Search bar, user profile (Hemanth Bevara, 1 badge, 275 points), and navigation tabs (Today, Trails, Modules, Trailmixes).
- Profile Card (1):** Greeting 'Howdy, Hemanth.', points summary (275 points, goal of 2,725 for Explorer rank), and a 'Go to My Profile' button.
- Assignments (4):** A card for 'Welcome to Pure Alo' by Romina Cinnamon, due 7/16/2021, with a -1 hr 20 mins duration.
- Newest Badges (5):** A list of six badges with progress bars and completion dates:
 - Customer Service Basics at Pure Alo (+75 Points, Completed 6/25/2021)
 - Pure Alo Sales Goals (+300 Points, -30 mins)
 - Pure Alo Annual Meeting Prep (+200 Points, -20 mins)
 - Security Fundamentals at Pure Alo (+200 Points, -30 mins)
 - Pure Alo Competitors (+100 Points, 50% progress)
 - Pure Alo Sales Strategies (+100 Points, 33% progress)
- In Progress:**
 - Modules: Pure Alo Sales Strategies (33%), Pure Alo Competitors (50%)
 - In Progress Trails: Sell Well at Pure Alo (25%)
 - In Progress Trailmixes: Welcome to Pure Alo (0%), Pure Alo Market Research (0%)
- Favorites (3):** A list of favorite modules, including Pure Alo Competitors.

- 進行状況インジケータでは、プロフィールの次のランクの達成に向けたユーザの位置と状況が示されます (1)。
 📌 **メモ:** 進行状況インジケータは、Trailblazer.me を認証プロバイダとして設定しているサブドメインでのみ使用できます。サブドメインで Salesforce Identity for myTrailhead がその認証プロバイダとして設定されている場合、進行状況インジケータは使用できません。
- 最大 3 個の進行中のモジュール、最大 3 個の進行中のトレイル、最大 3 個の進行中の Trailmix (2)。
- 最大 3 個のお気に入り (3)。
- Trail Tracker アプリケーションから割り当てられた最大 3 個の Trailmix (4)。
- 最大 6 個の最新モジュール (5)。

[Today] ページではモジュールはプレビューモードでは表示されません。モジュールをプレビューモードで表示するには、[モジュール] タブをクリックし、使用可能なモジュールの完全なリストを表示します。

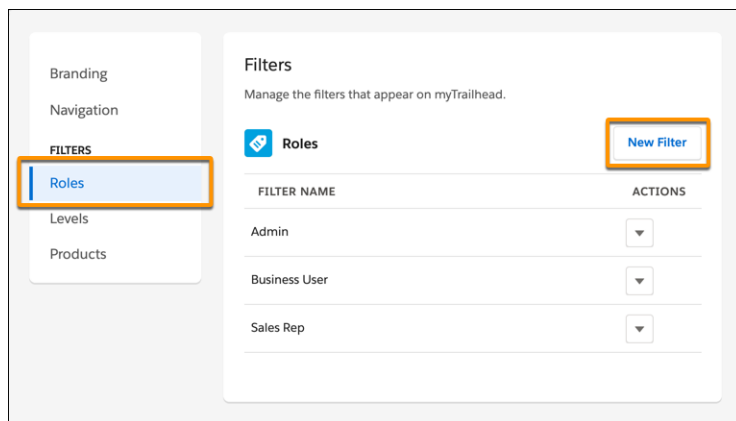
myTrailhead のロールやレベルのカスタム検索条件の追加および削除

検索条件は、myTrailhead ユーザが関連性の高いコンテンツをすばやく見つけるのに役立ちます。たとえば、営業担当およびサービスエージェントの検索条件を使用すると、それらの職業的役割に不可欠なモジュールやトレイルをユーザに表示できます。初級、中級、上級などの検索条件を使用すると、ユーザは各自の知識と経験のレベルに合ったモジュールやトレイルを選択できます。会社のニーズに合わせて myTrailhead のロールやレベルの検索条件をカスタマイズできます。

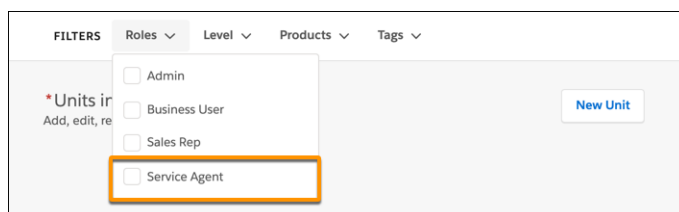
対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限を持つすべてのユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインできます。「myTrailhead ブランド管理」権限を持つユーザは、Trailmaker 設定にアクセスして検索条件をカスタマイズできます。「myTrailhead コンテンツの作成」権限を持つユーザは、モジュールやトレイルに検索条件を割り当てたり削除することができます。「myTrailhead リリース管理」権限を持つユーザは、リリースを作成および公開できます。「myTrailhead コンテンツの作成」と「myTrailhead リリース管理」の権限を持つユーザは、Trailmaker Content から Trailmaker Release にモジュールとトレイルをアップロードできます。

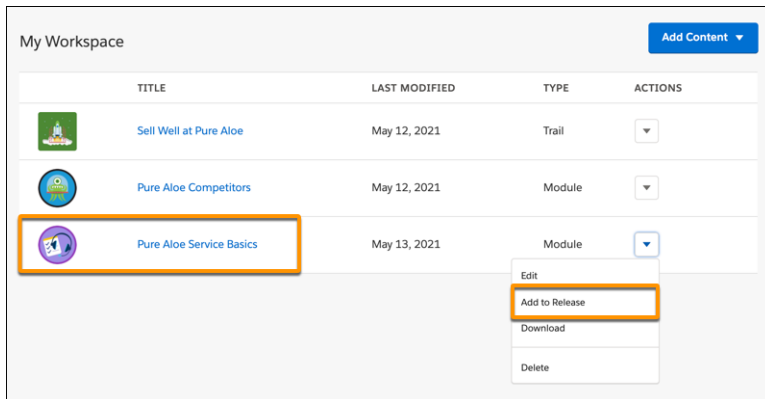
方法: myTrailhead の検索条件をカスタマイズするには、システム管理者、ライター、リリースマネージャといった複数のユーザの協力が必要です。新しい検索条件を使用できるようにするには、システム管理者が Trailmaker 設定で検索条件カテゴリを選択し、検索条件名をカテゴリリストに追加します。



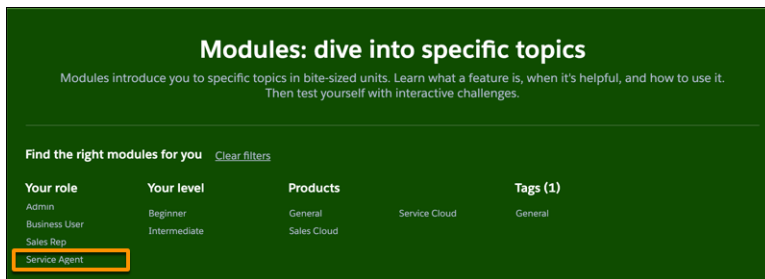
Trailmaker 設定で検索条件を追加すると、Trailmaker Content の対応するカテゴリリストに検索条件が追加されます。次に、ライターが Trailmaker Content を使用して新しい検索条件をモジュールまたはトレイルに割り当てることができます。



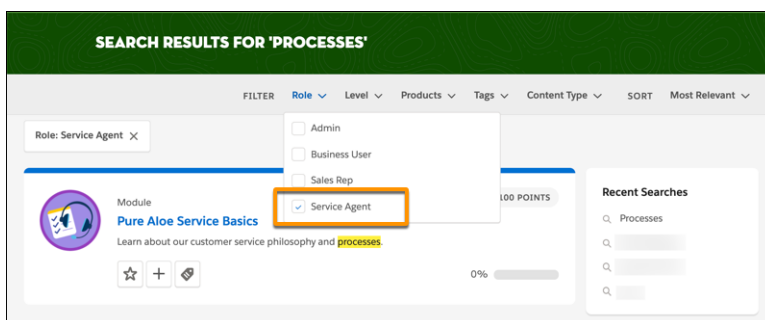
ライターまたはリリースマネージャが Trailmaker Content から Trailmaker Release にコンテンツをアップロードします。



ライターおよびリリースマネージャは、新しい検索条件が表示されていることをプレビューモードで確認します。リリースが公開されると、Trailblazer は新しい検索条件でコンテンツを並び替えて、検索条件が割り当てられているすべてのモジュールまたはトレイルを見つけることができます。



また、条件を選択することによって myTrailhead の検索結果を絞り込むこともできます。



myTrailhead から検索条件を削除する場合にも、同様の連携を行います。

- ライターが Trailmaker Content を使用して、その検索条件が割り当てられているすべてのモジュールとトレイルから検索条件を削除します。

- ライターまたはリリースマネージャが Trailmaker Content から Trailmaker Release に修正されたモジュールとトレイルをアップロードします。
- ライターおよびリリースマネージャは、検索条件が表示されなくなっていることをプレビューモードで確認します。
- リリースマネージャがリリースを公開します。検索条件は myTrailhead から削除され、Trailblazer はその検索条件によってコンテンツを並び替えることができなくなります。
- システム管理者は Trailmaker 設定の対応するカテゴリリストから検索条件を削除することができ、それによって Trailmaker Content のカテゴリリストからも削除されます。ライターはモジュールやトレイルにその検索条件を割り当てられなくなります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 検索条件を管理する \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Salesforce Identity for myTrailhead と同じログインを使用した myTrailhead および Salesforce Trailhead コンテンツの表示

Salesforce Identity for myTrailhead ユーザは、すでに myTrailhead にワンクリックでアクセスできますが、同じログインで公開 Salesforce Trailhead にもワンクリックでアクセスできるようになりました。ユーザがいる場所 (Lightning Experience の学習パスまたは会社の myTrailhead サイト) に関係なく、myTrailhead と Salesforce Trailhead のコンテンツに簡単にアクセスできます。

対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。学習パスは、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience ユーザが使用できます。

対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限を持つすべてのユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインできます。すべての Lightning Experience ユーザは、グローバルヘッダーの学習パスアイコンおよび関連付けられた学習パネルと学習ホームページにアクセスできます。「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、学習ホームを通じてユーザに学習パス項目を割り当てることができます。

理由: 学習パスの割り当てを作成するシステム管理者は、myTrailhead および Salesforce Trailhead のコンテンツライブラリから選択できます。これにより、いずれかのサイトの最も関連性の高いモジュールを割り当てることができます。

すべてのユーザは、myTrailhead および Salesforce Trailhead のコンテンツが含まれる Trailmix を作成し、これらを組み合わせて、独自のパーソナライズされた学習ジャーニーをカスタマイズできます。ユーザが Trailmix を共有することを選択した場合、これらをまとめたハイブリッドな Trailmix が myTrailhead の [Trailmix] タブに表示されません。

TrailTracker で Trailmix を割り当てるイネーブルメントプロフェッショナルは、そらのハイブリッドな Trailmix を作成して割り当てることができます。また、Trail Tracker を使用して、myTrailhead および Salesforce Trailhead のユーザアクティビティに関するレポートを作成することもできます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Identity for myTrailhead の選択に関する考慮事項 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Trailmix を作成する \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Pardot

Einstein の機能を使用して取引先の理解を深め、送信時間最適化でメールエンゲージメントを促進できます。また、[Pardot オブジェクトの同期] が改善され、取引先ベースのキャンペーン管理ツールと共に正式リリースされました。メール送信可能性モデルをアップグレードして、メールマーケティング設定を簡略化することもできます。Pardot API を簡単に使用できるようにする新規および既存の開発者ドキュメントも参照してください。

このセクションの内容:

マーケターエクスペリエンス

メール送信可能性モデルをアップグレードしてメールマーケティング設定を簡略化したり、リストメールをオペレーショナルとして区別したりできます。さらに、[ダイナミックコンテンツ] リストビューやリストメールの統計情報テーブルも改善されています。

データと分析

Tableau CRM でのデータセットのパフォーマンスを最適化するために、Pardot 向けのオブジェクト同期が Summer '21 で正式リリースになりました。取引先ベースのマーケティング活動の優先順位付けに人工知能を利用するには、Einstein 主要取引先識別 (ベータ) を有効にします。

プラットフォーム

Pardot プラットフォームの更新には、Pardot 設定タスクを委任する新しい方法が含まれます。

Pardot API: 新規および変更された項目

メタデータの変更と開発者ドキュメントの刷新により、Pardot API をより効果的に使用できます。

マーケターエクスペリエンス

メール送信可能性モデルをアップグレードしてメールマーケティング設定を簡略化したり、リストメールをオペレーショナルとして区別したりできます。さらに、[ダイナミックコンテンツ] リストビューやリストメールの統計情報テーブルも改善されています。

このセクションの内容:

Engagement Studio の総計値の数式変更

Engagement Studio レポートの開封とクリックスルー率の総計値が配信済みメールに基づくようになりました。新しい数式は他のメールレポートで使用されている数式と同じであるため、Pardot全体で値が一貫したものになります。

リストメールのレポートページの変更

新しい設計ガイドラインを満たすために、リストメールレポートには軽微な変更(円グラフからドーナツグラフへの変更など)が含まれます。

メールマーケティング設定の明確化とより詳細な制御

メール送信可能性モデルをアップグレードして、メールマーケティング設定を簡略化し、プロスペクトの送信可能性状況についてより明確に把握することができます。アップグレードすると、プロスペクトがマーケティングメールを受信できるかどうかを決定する要素が表示されるメール送信可能性セクションが含まれるようになります。全体的なメール送信可能性状況、[メール送信除外]および[送信除外]設定、不達情報を表示できます。これらの設定は、オートメーションルール、Engagement Studio、プロスペクトのインポートで編集します。

Lightning のリストメールをオペレーショナルとマーク

場合によって、顧客がマーケティングメールの受信をオプトインしているかどうかに関係なく、マーケターは顧客に重要な通知やオペレーショナルメッセージを顧客に送信する必要があります。特定の種別のメッセージのオプトイン状況をバイパスするには、Lightning のリストメールをオペレーショナルとマークします。

リストメールの統計情報を短時間で表示

多忙なマーケティング担当者の場合、Pardotに大量のリストメールデータが存在する可能性があります。読み込み時間を改善するため、[リストメールの統計情報]テーブルにデフォルトで過去30日間のデータが表示されるようになりました。ご安心ください。必要に応じてテーブルを絞り込み、一度にすべてのデータを表示することもできます。

メールに適切なダイナミックコンテンツが含まれていることの確認

ドラフトメールおよびテンプレート内のダイナミックコンテンツ差し込み項目には、ダイナミックコンテンツの該当部分のIDが表示されます。とはいえ、受信者に実際に表示されるコンテンツをどのように確認すればよいのでしょうか?[ダイナミックコンテンツ]リストビューにID番号の列が追加され、適切な差し込み項目がメールに含まれていることを確認できるようになりました。

Engagement Studio の総計値の数式変更

Engagement Studio レポートの開封とクリックスルー率の総計値が配信済みメールに基づくようになりました。新しい数式は他のメールレポートで使用されている数式と同じであるため、Pardot全体で値が一貫したものになります。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

リストメールのレポートページの変更


新しい設計ガイドラインを満たすために、リストメールレポートには軽微な変更(円グラフからドーナツグラフへの変更など)が含まれます。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

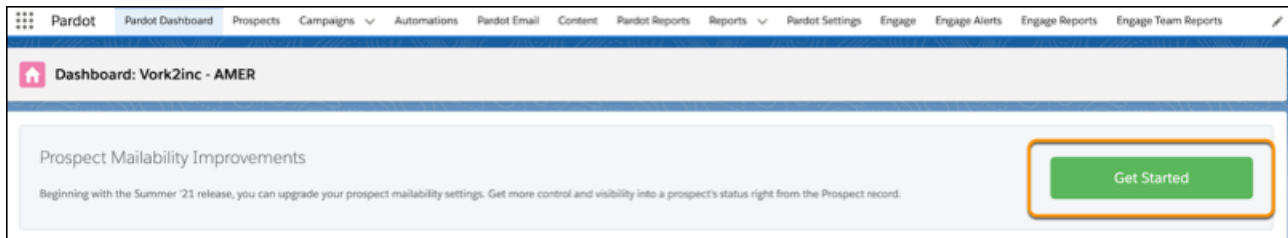
メールマーケティング設定の明確化とより詳細な制御

メール送信可能性モデルをアップグレードして、メールマーケティング設定を簡略化し、プロスペクトの送信可能性状況についてより明確に把握することができます。アップグレードすると、プロスペクトがマーケティングメールを受信できるかどうかを決定する要素が表示されるメール送信可能性セクションが含まれるようになります。全体的なメール送信可能性状況、[メール送信除外] および [送信除外] 設定、不達情報を表示できます。これらの設定は、オートメーションルール、EngagementStudio、プロスペクトのインポートで編集します。

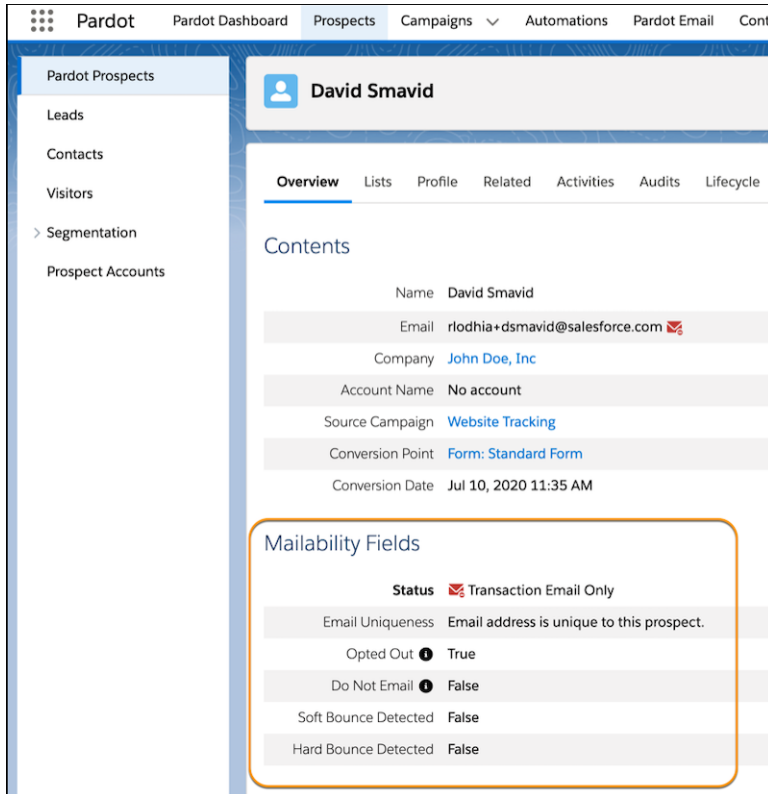
対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition のすべての Pardot エディションに適用されます。

 **メモ:** アップグレードは永続的であり、現在のメールマーケティング設定に影響する可能性があります。アップグレードにアクセスするには、考慮事項をクリックしてお読みください。

方法: システム管理者は、Pardot ダッシュボードに表示されたバナーからメール送信可能性の変更を有効にできます。



アップグレード後に、プロスペクトレコードでメール送信可能性設定を表示して編集できます。



Lightning のリストメールをオペレーショナルとマーク

場合によって、顧客がマーケティングメールの受信をオプトインしているかどうかに関係なく、マーケターは顧客に重要な通知やオペレーショナルメッセージを顧客に送信する必要があります。特定の種別のメッセージのオプトイン状況をバイパスするには、Lightning のリストメールをオペレーショナルとマークします。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Performance Edition を備えた Lightning Experience のすべての Pardot エディションに適用されます。Pardot Classic またはスタンドアロンの Pardot アプリケーションでは使用できません。

方法: オペレーショナルメール送信が有効になっている必要があります。メールコンテンツレコードからメールを送信するときに [オペレーショナル] を選択します。オペレーショナルメールとは、受信者のオプトアウト状況に関係なく送信されるプロモーション用以外のメールです。

リストメールの統計情報を短時間で表示

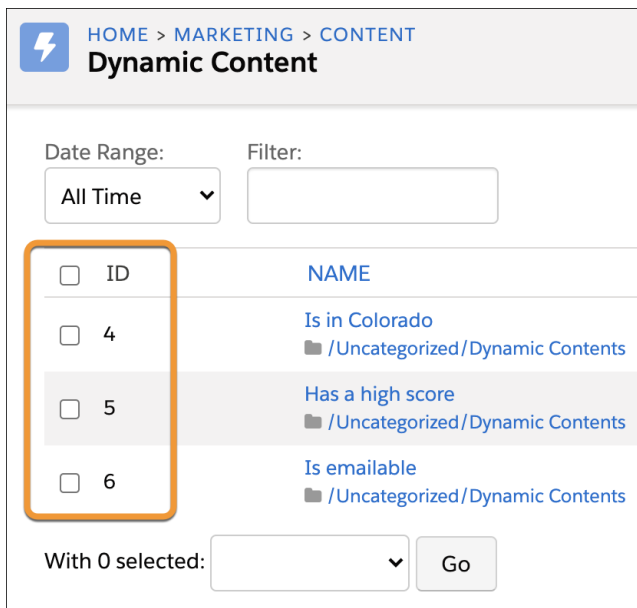
多忙なマーケティング担当者の場合、Pardot に大量のリストメールデータが存在する可能性があります。読み込み時間を改善するため、[リストメールの統計情報] テーブルにデフォルトで過去30日間のデータが表示されるようになりました。ご安心ください。必要に応じてテーブルを絞り込み、一度にすべてのデータを表示することもできます。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

メールに適切なダイナミックコンテンツが含まれていることの確認

ドラフトメールおよびテンプレート内のダイナミックコンテンツ差し込み項目には、ダイナミックコンテンツの該当部分の ID が表示されます。とはいえ、受信者に実際に表示されるコンテンツをどのように確認すればよいのでしょうか? [ダイナミックコンテンツ] リストビューに ID 番号の列が追加され、適切な差し込み項目がメールに含まれていることを確認できるようになりました。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。



データと分析

Tableau CRM でのデータセットのパフォーマンスを最適化するために、Pardot 向けのオブジェクト同期が Summer '21 で正式リリースになりました。取引先ベースのマーケティング活動の優先順位付けに人工知能を利用するには、Einstein 主要取引先識別 (ベータ) を有効にします。

このセクションの内容:

Einstein 送信時間最適化を使用したメールエンゲージメントの促進

個々のプロスペクトに希望の時刻にリストメールを送信します。Einstein 送信時間最適化により、推測作業や複雑なセグメンテーションがなくなります。Einstein の機械学習スキルを使用して、メールおよびプロスペクトごとに適切な送信時刻を選択します。Einstein 送信時間最適化は Pardot の新しいメール送信環境でのみ使用できます。

AI を使用した最良の取引先の評価

取引先により大量のデータが生成されるため、最も影響力のあるトレンドの解析が困難になる可能性があります。Einstein の取引先 ID モデルで、最良の顧客になる可能性が最も高い取引先が示されるようになりました。

デフォルト CDN ドメインを使用したより迅速な画像リポジトリの設定

Salesforce CMS 画像リポジトリで[私のドメイン]を使用する場合に、メールマーケティング担当者がより迅速に稼働開始できるようにします。CMS 設定時に公開チャンネルオプション用の新しいデフォルト CDN ドメインを使用できるようになり、Web 管理者やドメイン登録機関と連携する必要がなくなりました。Pardot メールでこのドメインを使用するには、システム管理者が[私のドメイン]をリリースする必要があります。

Pardot オブジェクトの同期の改善 (正式リリース)

Pardot オブジェクトの同期が「Pardot のオブジェクト同期 (OSP)」という新しい名前でも正式にリリースされます。これには、拡張されたビジターデータやビジネスユニットの柔軟性など、いくつかの改善が加えられています。これらの更新を利用するには、ユーザは新しいアプリケーションテンプレートを使用してアプリケーションを作成する必要があります。

キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡

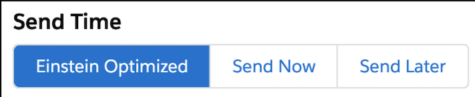
取引先ベースのキャンペーン管理ツールが正式リリースされました。関連リストから取引先をキャンペーンメンバーとして追加し、標準およびカスタムレポートを作成して取引先のエンゲージメントを追跡します。

Einstein 送信時間最適化を使用したメールエンゲージメントの促進

個々のプロスペクトに希望の時刻にリストメールを送信します。Einstein 送信時間最適化により、推測作業や複雑なセグメンテーションがなくなります。Einstein の機械学習スキルを使用して、メールおよびプロスペクトごとに適切な送信時刻を選択します。Einstein 送信時間最適化は Pardot の新しいメール送信環境でのみ使用できません。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Pardot Advanced Edition および Pardot Premium Edition で使用できます。これは Lightning Experience のみで使用できます。


方法: [マーケティング設定] で Einstein 送信時間最適化を有効化すると、トレーニング期間が開始されます。約 72 時間経過すると、マーケティングユーザはメールの送信準備が整ったときに [Einstein 最適化] 送信オプションを選択できるようになります。



開始日、開始時刻 (1)、送信期間 (2) を入力して、Einstein でこの作業を実行します。送信期間には 3 時間から 7 日までの任意の期間を指定できるため、さまざまな期間を試すことができます。

各プロスペクトのエンゲージメントデータが Einstein により評価されるまで 1 時間かかるため、期間の値を入力するときは少なくとも 1 時間を余分に加えてください。時間的制約のあるメッセージを送信する場合は、メールを特定の時刻に確実に送信できます。メールが送信される可能性がある最後の時刻を確認するにはフォームの下部にある情報ボックス (3) を確認します。


Send Time

 Einstein can optimize email send times for individual prospects. Select a time frame for sending emails. [Tell Me More](#)

1 * Start Date * Time

2 * Send Emails Within hours
 Enter a number between 3 and 168. ⓘ

The email is scheduled based on your timezone:
 Mar 31, 2021 1:37 PM PDT

3  Email will be sent by Aug 4, 2021 6:00 AM ⓘ

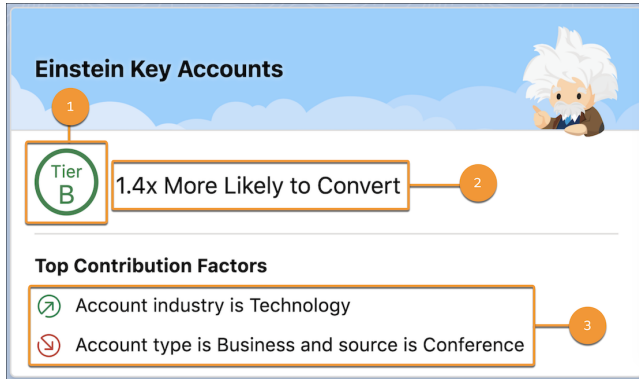
AI を使用した最良の取引先の評価

取引先により大量のデータが生成されるため、最も影響力のあるトレンドの解析が困難になる可能性があります。Einstein の取引先 ID モデルで、最良の顧客になる可能性が最も高い取引先が示されるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition (Pardot Advanced または Pardot Premium 付属) に適用されます。これは Lightning Experience のみで使用できます。

方法: Salesforce の [設定] で [Einstein 主要取引先 ID] (ベータ) を有効化し、取引先レコードに Einstein スコアリングコンポーネントが表示されることを確認します。Salesforce の取引先データと公開 Web からの補足データに基づいて Einstein がカスタムモデルを構築するまで数日かかります。

モデルで取引先間の相関関係と予測結果が特定されると、階層ランクが割り当てられます (1)。また、Einstein では、今後 6 か月以内に取引先の商談が作成される可能性も示されます (2)。Einstein スコアリングカードに主要な要因 (業種の影響や最近のエンゲージメントなど) (3) が表示され、追加のデータが使用可能になるのに伴い進化します。

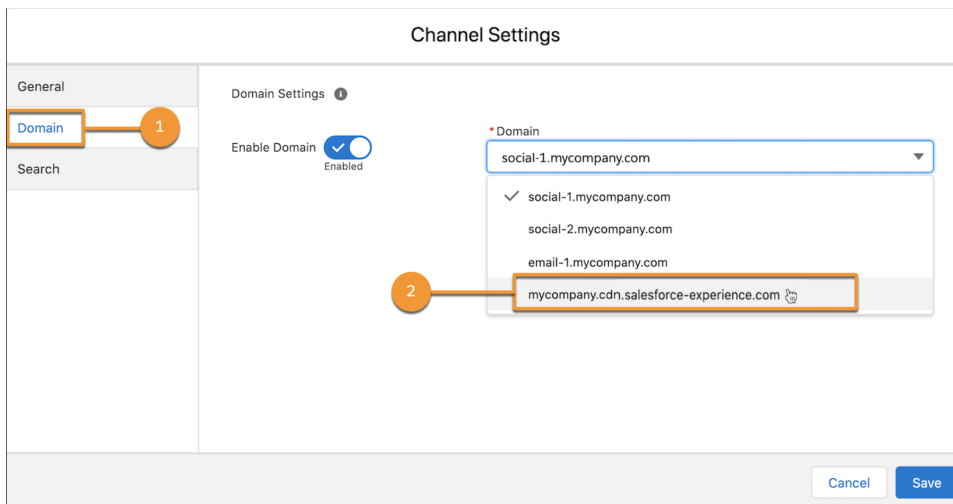


デフォルト CDN ドメインを使用したより迅速な画像リポジトリの設定

Salesforce CMS 画像リポジトリで[私のドメイン]を使用する場合に、メールマーケティング担当者がより迅速に稼働開始できるようにします。CMS 設定時に公開チャンネルオプション用の新しいデフォルト CDN ドメインを使用できるようになり、Web 管理者やドメイン登録機関と連携する必要がなくなりました。Pardot メールでこのドメインを使用するには、システム管理者が[私のドメイン]をリリースする必要があります。

対象: Lightning Experience のみで使用できます。この変更は、任意の Pardot Edition が付属する Salesforce の Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition に適用されます。

方法: [私のドメイン]がリリースされていると、CMS チャンネルを Pardot メールで使用するように設定するとき、新しいデフォルト CDN ドメインがドメインドロップダウンに表示されるようになりました。



メモ: Pardot メールと CMS 画像ホストを Sandbox で使用するには、最初に [私のドメイン] を Sandbox にリリースします。CMS チャンネルを設定するときにデフォルトの CDN ドメインを選択することも、独自のドメインを使用することもできます。CDN 以外のドメインを使用する場合でも、Sandbox で Pardot メールを使用できますが、CMS インテグレーションは使用できません。Sandbox アカウントからメールは送信されません。

Pardot オブジェクトの同期の改善 (正式リリース)

Pardot オブジェクトの同期が「Pardotのオブジェクト同期(OSP)」という新しい名前です。これには、拡張されたビジターデータやビジネスユニットの柔軟性など、いくつかの改善が加えられています。これらの更新を利用するには、ユーザは新しいアプリケーションテンプレートを使用してアプリケーションを作成する必要があります。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Pardot Plus Edition、Pardot Advanced Edition および Pardot Premium Edition に適用されます。

理由: Pardot のオブジェクト同期 (OSP) では少し異なる方法で動作するようになりました。注意すべき点を次に示します。

- B2BMktVisitor オブジェクトには、最初と最後のインタラクションのみでなくすべてのビジターアクティビティデータが含まれるようになりました。
- カスタム項目がOSPアプリケーションテンプレートに表示され、OSP拡張機能のないアプリケーションテンプレートには表示されないというベータユーザの問題が修正され、カスタム項目は各アプリケーション種別で表示されるようになりました。
- OSP設定から特定のビジネスユニットを除外できるようになりました。ビジネスユニットを除外するには、そのビジネスユニットのPardot設定で複製を許可する設定ステップをスキップします。誤ってOSPをSalesforceで有効にしてPardotで有効にしている場合、Tableau CRM のデータ監視に複製エラーが表示されます。
- 新しいアプリケーションが作成されました。ベータ期間中に使用したアプリケーションを更新するのではなく、[B2B Marketing Analytics (Object Sync for Pardot)] アプリケーションテンプレートを使用してアプリケーションを作成します。

理由: Pardot のオブジェクト同期 (OSP) の設定は複数ステップのプロセスであり、その概要は [マーケティング設定] で示されています。[マーケティング設定] に移動し、「オブジェクト同期」を検索して、ステップごとの設定ページを見つけます。このページには Salesforce と Pardot でこの機能を有効にする方法が示されています。Tableau CRM に含める Pardot 項目を選択して、初期同期を実行します。最新データを維持するように、複製をスケジューリングすることをお勧めします。

SETUP
Object Sync for Pardot

This setting uses the SFDC Local connector to generate a prospect dataset that includes standard and custom fields, so that you can use the data in Tableau CRM Analytics Studio. After you enable this setting, remember to sync your custom fields every time you add, remove, or change custom fields in Pardot. [Find Out More](#)

Object Sync for Pardot is available in Salesforce Enterprise and Unlimited Editions only.

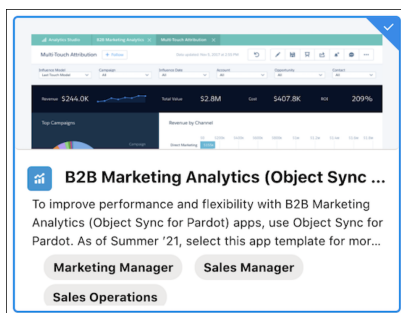
Configure Pardot Accounts
To sync custom fields with Object Sync for Pardot, enable the feature for each business unit that you plan to use it with. [Open Pardot Settings](#)

Enhance Syncing on Custom Prospect Fields
Turn on Object Sync for Pardot to more efficiently build your prospect dataset. Enabled

Configure Prospect Dataset
Define which Pardot prospect custom fields to bring into your Prospect dataset. [Select Custom Fields](#)

すべての準備作業が完了したら、ユーザはオブジェクト同期の拡張データセットが含まれる B2B Marketing Analytics アプリケーションを作成できます。B2B Marketing Analytics Plus アプリケーション、取引先ベースのマーケティング、マーケティングキャンペーンインテリジェンスに変更は加えられていないため、これらのアプリケーションの設定はいつもどおりです。

アプリケーション作成プロセスは、ベータ期間に参加した B2B Marketing Analytics ユーザと参加しなかったユーザとで少し異なります。ベータに参加した場合は、既存のアプリケーションをバックアップして、[B2B Marketing Analytics (Object Sync for Pardot)] アプリケーションテンプレートを使用してアプリケーションを作成します。ベータアプリケーションをアップグレードすると、元の [Pardot オブジェクトの同期] 機能が消去されます。



オブジェクト同期を初めて使用する場合は、[B2B Marketing Analytics (Object Sync for Pardot)] アプリケーションテンプレートを使用してアプリケーションを作成するのみで済みます。

キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡

取引先ベースのキャンペーン管理ツールが正式リリースされました。関連リストから取引先をキャンペーンメンバーとして追加し、標準およびカスタムレポートを作成して取引先のエンゲージメントを追跡します。

対象: この変更は Salesforce のすべてのエディションで使用できます。

関連トピック:

[キャンペーンメンバーとして追跡することで取引先に焦点を合わせる \(正式リリース\)](#)

プラットフォーム

Pardot プラットフォームの更新には、Pardot 設定タスクを委任する新しい方法が含まれます。

このセクションの内容:

[Pardot 設定タスクを処理するマーケティング管理者の指定](#)

新しいユーザ権限を使用すると、Pardot の設定タスクと管理タスクを処理するマーケティング管理者を容易に指定できます。新しい「マーケティング設定タスクの管理」権限と「設定・定義を参照する」権限を割り当てて、Salesforce Marketing 設定のすべての Pardot 設定オプションへのアクセス権を付与します。

Pardot 設定タスクを処理するマーケティング管理者の指定

新しいユーザ権限を使用すると、Pardot の設定タスクと管理タスクを処理するマーケティング管理者を容易に指定できます。新しい「マーケティング設定タスクの管理」権限と「設定・定義を参照する」権限を割り当てて、Salesforce Marketing 設定のすべての Pardot 設定オプションへのアクセス権を付与します。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: カスタム権限セットを作成して選択したユーザに適用するか、既存のカスタム権限セットを編集します。マーケティング設定ページと Pardot 設定ページへのフルアクセス権を得るには、ユーザに「マーケティング設定タスクの管理」権限と「設定・定義を参照する」権限の両方が必要です。

理由: Pardot 設定タスクを完了するには、Salesforce システム管理者と Pardot 管理者の両方が必要になることがあります。Salesforce で 1 人のユーザをマーケティング管理者として指定すると、他の必要なアクセス権を付与しなくても、そのユーザが Pardot 設定のすべてを管理できるようになりました。

Pardot API: 新規および変更された項目

メタデータの変更と開発者ドキュメントの刷新により、Pardot API をより効果的に使用できます。

メタデータ API: `PardotSettings`

Pardot 向けのオブジェクト同期の正式リリースをサポートするために `enableEnhancedProspectCustomFieldsSync` が追加されました。

Pardot オブジェクトの同期 (ベータ) を終了するために `enablePardotObjectSync` が廃止されました。

メタデータ API: CampaignSettings

取引先ベースのキャンペーン管理(旧称「キャンペーンメンバーとしての取引先」)の正式リリースをサポートするために `enableAccountsAsCM` が追加されました。

このセクションの内容:

Pardot 開発者ドキュメントの改善でより多くの作業を実行

Pardot API ドキュメントが刷新され、Pardot API をさらに簡単に使用できるようになりました。新しいコンテンツもあれば更新されたコードサンプルや新たに文書化されたエンドポイントもあり、ドキュメントがより便利になり、一貫性がある整理された内容になりました。具体的にどれだけ変更されているかという、追加されたのが 4,891 か所、削除されたのが 3,085 か所です。

Pardot 開発者ドキュメントの改善でより多くの作業を実行

Pardot API ドキュメントが刷新され、Pardot API をさらに簡単に使用できるようになりました。新しいコンテンツもあれば更新されたコードサンプルや新たに文書化されたエンドポイントもあり、ドキュメントがより便利になり、一貫性がある整理された内容になりました。具体的にどれだけ変更されているかという、追加されたのが 4,891 か所、削除されたのが 3,085 か所です。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: Pardot 開発者ドキュメントは <https://developer.pardot.com> でアクセスできます。

収益

権限を更新し、新しい権限セットを割り当て、権限とブラウザのパフォーマンスを向上させるための設定を有効にします。新しい必須の選択リストを使用します。

- ☑ **メモ:** Salesforce CPQ および Salesforce Billing Summer '21 では、**注文の新規保存方式と旧保存方式**の両方がサポートされます。Salesforce CPQ および Salesforce Billing Summer '21 のインストールは、登録者組織の注文保存方式に関係なく、登録者組織で機能します。以前のバージョンの Salesforce CPQ および Salesforce Billing は、注文の新規保存方式リリースの更新が有効になっているときにインストールすると、正しく機能しない場合があります。

このセクションの内容:

Salesforce CPQ

予定されている権限セットの変更をテストし、ブラウザのパフォーマンスの改善を有効にします。

[Salesforce Billing](#)

顧客納入商品ライフサイクル管理のビジネスカテゴリで必須の選択リストを使用します。キャンセルと再請求で作成された貸方票は、請求書品目の請求および税金ルールを継承するようになりました。

関連トピック:

[ナレッジ記事](#) [New Objects, Fields, and Permissions in Salesforce CPQ and Billing Summer '21 \(Salesforce CPQ および Billing Summer '21 の新しいオブジェクト、項目、権限\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce CPQ

予定されている権限セットの変更をテストし、ブラウザのパフォーマンスの改善を有効にします。

 **メモ:**

- Salesforce CPQは有料オプションです。価格設定については、Salesforceのアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。
- Salesforce CPQ および Salesforce Billing Summer '21 では、[注文の新規保存方式と旧保存方式](#)の両方がサポートされます。Salesforce CPQ および Salesforce Billing Summer '21 のインストールは、登録者組織の注文保存方式に関係なく、登録者組織で機能します。以前のバージョンのSalesforce CPQ および Salesforce Billing は、注文の新規保存方式リリースの更新が有効になっているときにインストールすると、正しく機能しない場合があります。

このセクションの内容:

[データセキュリティのアクセス権限セットの割り当てとテスト](#)

新しいアクセス権限セットをSalesforce CPQ ユーザおよびカスタマーユーザに割り当てます。アクセス権限セットには、Salesforce CPQ Summer '21 および今後のリリースの重要なデータセキュリティ設定が含まれます。アクセスセットは、Salesforce CPQ ユーザアクセスとSalesforce CPQ カスタマーユーザアクセスで構成されます。

[Salesforce CPQ のブラウザパフォーマンスの改善の有効化\(更新\)](#)

この更新では、新しいWeb Components V1 テクノロジを使用して、サポートされるWeb ブラウザでSalesforce CPQをより高速に実行することができます。

関連トピック:

[ナレッジ記事](#) [New Objects, Fields, and Permissions in Salesforce CPQ and Billing Summer '21 \(Salesforce CPQ および Billing Summer '21 の新しいオブジェクト、項目、権限\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

データセキュリティのアクセス権限セットの割り当てとテスト

新しいアクセス権限セットをSalesforce CPQ ユーザおよびカスタマーユーザに割り当てます。アクセス権限セットには、Salesforce CPQ Summer '21 および今後のリリースの重要なデータセキュリティ設定が含まれます。アクセスセットは、Salesforce CPQ ユーザアクセスとSalesforce CPQ カスタマーユーザアクセスで構成されます。

対象: この変更は、Salesforce CPQ の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 今後のリリースで、より多くのデータセキュリティ関連の権限がアクセス権限セットに導入されます。ほとんどのCPQ管理者は組織の標準権限セットをコピーおよび編集していますが、コピーまたは編集することなくユーザに直接割り当てられるアクセスセットが設計されました。これにより、ユーザは新しいリリースの重要なデータセキュリティの更新を見落とすリスクがなくなります。

Salesforce CPQ Summer '21 以降、Salesforce CPQ ユーザアクセスセットと Salesforce CPQ カスタマーユーザアクセスセットにはローカライズオブジェクトに対する参照アクセス権要件が含まれます。

方法: アクセス権限セットのデータ制限は、Salesforce CPQ Spring '22 まで適用されません。それまで、組織でいくつかの方法を使用してこれらをテストできます。CPQ パッケージ設定 [拡張データアクセスチェックを実行] が有効になっている場合、Salesforce CPQ はアクセス権限セットのデータ制限を適用します。[拡張データアクセスチェックを実行] が無効になっている場合、アクセス権限セットの制限は適用されません。

テストを開始するには、Salesforce CPQ ユーザアクセスセットをユーザに割り当てます。その後、Salesforce CPQ カスタマーユーザアクセスセットをカスタマーユーザに割り当てます。次に、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「インストール済みパッケージ」と入力し、[インストール済みパッケージ] をクリックします。Salesforce CPQ に移動し、[設定] をクリックします。[追加の設定] タブで、[拡張データアクセスチェックを実行] を選択します。

Spring '22 までは、必要に応じて [拡張データアクセスチェックを実行] を有効化/無効化できます。Spring '22 では、[拡張データアクセスチェックを実行] 設定が削除され、アクセス権限セットのデータ制限が適用されません。

Salesforce CPQ のブラウザパフォーマンスの改善の有効化 (更新)

この更新では、新しい Web Components V1 テクノロジーを使用して、サポートされる Web ブラウザで Salesforce CPQ をより高速に実行することができます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: この更新は Summer '21 で導入され、Sandbox 組織または本番組織を Winter '22 にアップグレードすると適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「インストール済み」と入力し、[インストール済みパッケージ] をクリックします。Salesforce CPQ パッケージの横にある [設定] をクリックします。[追加の設定] タブで、[ブラウザパフォーマンスの改善] を選択します。

この更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。Winter '22 にアップグレードすると、この更新は自動的に適用されます。

Web Components V1 テクノロジーを使用すると、Salesforce CPQ はより高速に実行されますが、カスタマイズのデザインが変わる可能性があります。次の機能に焦点を絞ってカスタマイズをテストすることをお勧めします。

- 見積品目エディタ
- 商品選択
- Salesforce CPQ のお気に入り
- 商品バンドル設定
- 見積計算プラグイン

- [ページセキュリティプラグイン](#)

Salesforce CPQ のカスタマイズを Salesforce モバイルアプリケーションでもテストすることをお勧めします。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)

Salesforce Billing

顧客納入商品ライフサイクル管理のビジネスカテゴリで必須の選択リストを使用します。キャンセルと再請求で作成された貸方票は、請求書品目の請求および税金ルールを継承するようになりました。

メモ:

- Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。
- Salesforce CPQ および Salesforce Billing Summer '21 では、[注文の新規保存方式と旧保存方式](#)の両方がサポートされます。Salesforce CPQ および Salesforce Billing Summer '21 のインストールは、登録者組織の注文保存方式に関係なく、登録者組織で機能します。以前のバージョンの Salesforce CPQ および Salesforce Billing は、注文の新規保存方式リリースの更新が有効になっているときにインストールすると、正しく機能しない場合があります。

このセクションの内容:

[顧客納入商品ライフサイクル管理でのビジネスカテゴリ選択リストの使用](#)

新しい必須項目 [ビジネスカテゴリ] を使用して、データの整合性を維持しながら、ビジネスカテゴリ全体の収益レポートを作成できます。この選択リストは、[カテゴリ] 選択リスト (現在の表示ラベルは [カテゴリ (非推奨)]) に変わるものです。納入商品アクションの合計は、[ビジネスカテゴリ] の選択リスト値によって分類され、それらの合計が納入商品に反映されます。

[キャンセルと再請求で作成された貸方票で請求書品目の税金ルールと請求ルールを継承](#)

請求書をキャンセルして再請求すると、その結果の貸方票は元の請求書品目の税金ルールと請求ルールを継承します。以前は、キャンセルと再請求で作成された貸方票では、請求書品目の商品レコードからの税金ルールと請求ルールが設定されていました。

[財務トランザクションおよび財務残高スナップショットの選択リスト項目の値の編集および削除](#)

財務トランザクションおよび財務残高スナップショットの [イベント種別]、[イベントアクション]、および [参照エンティティ] 項目の選択リスト値を削除および編集できるようになりました。

関連トピック:

[ナレッジ記事](#) [New Objects, Fields, and Permissions in Salesforce CPQ and Billing Summer '21 \(Salesforce CPQ および Billing Summer '21 の新しいオブジェクト、項目、権限\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

顧客納入商品ライフサイクル管理でのビジネスカテゴリ選択リストの使用

新しい必須項目[ビジネスカテゴリ]を使用して、データの整合性を維持しながら、ビジネスカテゴリ全体の収益レポートを作成できます。この選択リストは、[カテゴリ]選択リスト(現在の表示ラベルは[カテゴリ(非推奨)])に変わるものです。納入商品アクションの合計は、[ビジネスカテゴリ]の選択リスト値によって分類され、それらの合計が納入商品に反映されます。

対象: この変更は Salesforce Billing の Lightning Experience に適用されます。

方法: [カテゴリ(非推奨)] は、Winter '22 まで利用できます。納入商品レイアウトで、[カテゴリ(非推奨)] を [ビジネスカテゴリ] に置き換えます。古い項目から新しい項目にデータを移行する必要はありません。選択リスト値は同じであり、レコードには両方の項目で同じ値が表示されます。

キャンセルと再請求で作成された貸方票で請求書品目の税金ルールと請求ルールを継承

請求書をキャンセルして再請求すると、その結果の貸方票は元の請求書品目の税金ルールと請求ルールを継承します。以前は、キャンセルと再請求で作成された貸方票では、請求書品目の商品レコードからの税金ルールと請求ルールが設定されていました。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この変更は Salesforce Billing Summer '21 パッチ 2 で使用できます。

理由: 以前は、ユーザまたはプロセスが注文商品やその商品から作成された請求書品目の請求ルールまたは税金ルールを変更した場合、親商品からの請求ルールと税金ルールの継承で問題が発生していました。その場合、ユーザは商品の請求ルールや税金ルールではなく、変更された税金ルールや請求ルールが表示されることを期待していました。

財務トランザクションおよび財務残高スナップショットの選択リスト項目の値の編集および削除

財務トランザクションおよび財務残高スナップショットの[イベント種別]、[イベントアクション]、および[参照エンティティ]項目の選択リスト値を削除および編集できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

セールス

パイプライン検査により、営業チームはパイプラインを一元的に表示して、最も重要な案件に集中できます。売上予測種別を作成および管理し、より多くのオプションと改善されたエクスペリエンスを利用できます。より絞り込まれたメールエンゲージメントデータと改善されたメールテンプレートを取得できます。Salesforce Maps でフローを使用して、営業担当が会社のポリシーと COVID-19 安全プロトコルを採用および遵守できるようにします。Salesforce Meetings は、商談を進めるのに役立つ多くのインサイトを営業担当に提供します。Einstein 会話インサイトはサービスエージェントが使用できます。

このセクションの内容:

パイプライン検査

営業チームがパイプラインの状況を表示して、収益ベースの売上をより正確に予測できるようにします。パイプライン検査により、チームはパイプライン総計値、商談と最近の変更のインサイト、および複数の絞り込みオプションの統合ビューを利用できます。マネージャは、チームと個々の営業担当のビューを使用して、トレンドとより多くのサポートが必要な商談を特定できます。

中核的なセールス機能

売上予測種別の作成と管理のオプションが追加されています。また、注文の新規保存方式を使用する non-Lightning Flow 1GP パッケージのパッチアップグレードを作成できます。

生産性機能

サービスアカウントを使用して、Einstein 活動キャプチャを Microsoft Exchange オンプレミスサーバに接続します。デフォルトでは、Dialer で通話を録音します。エンゲージメントとしてカウントされるメールの動作をより詳細に制御します。パッケージビルダーのメールテンプレートが以前より簡単になりました。

Salesforce Maps

会社のポリシーと安全プロトコルの採用と遵守を促進します。専有システムまたはサードパーティシステムからのデータを地図上にプロットし、経営陣のビジネス目標に沿ってテリトリーを計画します。

Salesforce Meetings

営業担当は、Salesforce Meetings を離れることなく、より多くのアクションを実行したり、より多くのインサイトを取得して顧客の懸念に対処したりできるようになりました。Microsoft Teams ユーザは、Teams 内でミーティングのダイジェストを追加できます。

Einstein 会話インサイト

Einstein 会話インサイトは、High Velocity Sales 商品を使用しないセールスユーザが利用できるようになりました。また、サービスエージェントは、新しいサービス関連のインサイトを備えた商品のコーチング機能を使用できます。ユーザは通話区分に Chatter コメントを残すこともでき、ビデオ通話の一連の機能がロールアウトされる予定です。

High Velocity Sales

リード、取引先責任者、ユーザ、セールスケイデンスのエンゲージメントに関するレポートを作成します。LinkedIn のステップをセールスケイデンスに追加し、セールスケイデンスページでエンゲージメントデータを確認します。

Sales Cloud Einstein

より正確なスコアを得るためにさまざまな種別のリードを個別にスコアリングし、ガイド付き設定を使用して Einstein リードスコアリングをより簡単に設定します。

Google とのインテグレーション

Inbox を備えた Gmail インテグレーションで内部メールの開封がメール追跡されるのをブロックできます。Lightning Sync を使用して行動を同期している顧客の場合は、Google カレンダーのイベントで Google Meet の参加の詳細を含めます。

Microsoft® とのインテグレーション

Outlook インテグレーションで新しいサーバとクライアントの設定オプションを利用できます。Salesforce for Outlook のサイドパネルのアクションメニューは使用できなくなります。

Sales Cloud のその他の変更

使い勝手をよくするために加えられたその他の変更について説明します。

パイプライン検査

営業チームがパイプラインの状況を表示して、収益ベースの売上をより正確に予測できるようにします。パイプライン検査により、チームはパイプライン総計値、商談と最近の変更のインサイト、および複数の絞り込みオプションの統合ビューを利用できます。マネージャは、チームと個々の営業担当のビューを使用して、トレンドとより多くのサポートが必要な商談を特定できます。

このセクションの内容:

パイプライン検査を使用した営業チームの説明責任の促進

パイプライン検査は、主要な総計値、商談、および完了予定日、金額、フェーズ、売上予測カテゴリの毎週の変更を含むパイプラインの単一ビューを営業チームに提供します。これらのインサイトを使用して、営業チームは最も重要な商談に集中し、営業マネージャは営業担当の指導により多くの時間を費やし、より多くの商談を成立させることができます。

パイプライン検査を使用した営業チームの説明責任の促進

パイプライン検査は、主要な総計値、商談、および完了予定日、金額、フェーズ、売上予測カテゴリの毎週の変更を含むパイプラインの単一ビューを営業チームに提供します。これらのインサイトを使用して、営業チームは最も重要な商談に集中し、営業マネージャは営業担当の指導により多くの時間を費やし、より多くの商談を成立させることができます。

対象: この変更は、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud に適用されます。

時期: この機能はすべてのインスタンスが Summer '21 リリースにアップグレードされた後、本番ですぐに使用できます。Sandbox でこの機能を表示するには、[本番ライセンスに一致] を実行するか、本番でこの機能が使用可能になった後に更新を要求します。

対象ユーザ: ユーザがパイプライン検査を使用するには、パイプライン検査権限セットが必要です。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「パイプライン検査」と入力し、[パイプライン検査設定] を選択します。パイプライン検査を有効にし、履歴トレンドが有効で商談用に設定されていることを確認します。[パイプライン検査] ボタンを追加し、パイプライン検査へのアクセスを許可するユーザに [パイプライン検査] 権限セットを割り当てます。

有効になっている場合、ユーザは [商談] タブから [パイプライン検査] にアクセスします。

The screenshot shows the Salesforce Pipeline Inspection interface. At the top, there are filters for 'This Quarter' and 'My Team'. Summary statistics include: Total Pipeline (\$66M), Closed Won (\$7.6M), Commit Forecast (\$31M), Best Case Forecast (\$52M), Open Pipeline (\$59M), Closed Lost (\$977K), Moved In (\$1.3M), and Moved Out (\$586K). A table lists 14 items with columns for Name, Account Name, Amount, Close Date, Stage, Days in Stage, Recent Activity, Forecast Category, Next Step, and Age. A tooltip for 'Close Date pulled in by 31 days' is visible over the 'Close Date' column. A 'Moved In' button is highlighted with a red box and a '2' callout. A '5/8/2021' date is highlighted with a red box and a '4' callout.

Name	Account Name	Amount	Close Date	Stage	Days in Stage	Recent Activity	Forecast Category	Next Step	Age
ABC Golf	Golf Inc.	USD 92,750.00 ↑	5/31/2021	Perception Analysis	→ 21	Today	Best Case	Schedule lunch with team	103
ABC Hotels	Properties Intl.	USD 43,527.31	5/28/2021	Needs Analysis	8	9 days ago	Pipeline	Submit for pilot prog.	51
Air. Online	TOLC Inc.	USD 63,258.28	6/16/2021 →	Proposal/Price Quo...	8	23 days ago	Commit	Process review	21
ArQuie Onthyeam	Parts Inc.	USD 15,672.90 ↓	6/23/2021	Id. Decision Makers	51	3 days ago	Best Case	Quote and presentation	63
athhealth Quest Group	Science Partners	USD 25,074.67 ↑	5/31/2021	Proposal/Price Quote	→ 42	In 4 days	Commit	Contract approval needed	103
Attunly Bottomline	Global Media	USD 51,109.93	4/30/2021	Id. Decision Makers	9	3 days ago	Best Case		63
Biologics NAPCO LLC	Science Partners	USD 51,831.42	4/19/2021	Qualification	21	In 7 days	Pipeline		21
CA Broadcasting	Global M		6/8/2021 to 5/8/2021	Needs Analysis	← 63	73 days ago	Pipeline	Present to team	42
Financial Shares	XY2 CO			Negotiation/Review	51	None	Commit	Contract approval needed	103
Hometeam MTC	Parts Inc.			Perception Analysis	3	Today	Best Case	Pricing review	103
Inflation-Renew Co.	B Consulting	USD 899,195.13 ↑	5/8/2021 ←	Prospecting	0	17 days ago	Pipeline	Meet 4/30	30
Pattern Farmers	Global Media	USD 34,319.46 ↓	6/1/2021	Needs Analysis	103	None	Pipeline		103
Ravi Herman	Acme	USD 17,071.32	5/1/2021	Perception Analysis	→ 2	None	Best Case	Call with Bob and team	103
RS Hotels	Properties Intl.	USD 75,000.00	6/7/2021 ←	Needs Analysis	21	17 days ago	Pipeline		51

パイプラインの可視性が向上するということは、営業マネージャと営業担当が収益をより正確に予測できることを意味します。営業チームは、パイプライン検査ビューを複数の方法で絞り込むことができます。クイック検索条件を使用して、期間、チーム、または営業担当別にビューを絞り込みます (1)。一致する商談のリストを表示するには、[転入]などのパイプライン総計値のいずれかをクリックします(2)。または、検索条件を使用してビューを絞り込みます (3)。

パイプライン総計値を使用してビューを絞り込むと、営業マネージャと営業担当は対応するパイプラインの領域を特定できます。たとえば、[転入](3)には、後の期間から選択した期間に完了予定日が移動された商談が表示されます。

営業マネージャと営業担当がより注意が必要な商談を特定できるように、最近の変更が商談リストで強調表示されます。金額、完了予定日、売上予測分類、フェーズの変更は、赤と緑のテキストと矢印で強調表示されます。何が変わったか、いつ、誰が変わったかを確認するには、強調表示されたテキストにマウスポインタを置きます(4)。また、ユーザが[最近の活動]項目の値にマウスポインタを置くと、商談の最近の活動に関する詳細が表示されます。

パイプライン検査でこれらのインサイトを表示するには、商談の履歴トレンドを有効にする必要があります。

関連トピック:

[Salesforce 動画: Ensuring Sales Rep Accountability with Pipeline Inspection](#) (パイプライン検査を使用した営業担当の説明責任の確保) (英語のみ)

[Salesforce ヘルプ: パイプライン検査を使用したパイプラインの管理](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: パイプライン検査の設定](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: 履歴トレンドレポートの設定](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

中核的なセールス機能

売上予測種別の作成と管理のオプションが追加されています。また、注文の新規保存方式を使用する non-Lightning Flow 1GP パッケージのパッチアップグレードを作成できます。

このセクションの内容:

コラボレーション売上予測

売上予測種別をより効率的に作成および管理できます。また、カスタム基準売上予測のオプションが追加されています。

キャンペーン

取引先をキャンペーンメンバーとして追加する場合は、取引先ベースのマーケティング活動をより適切に整理します。

注文

パッケージプロバイダは、注文の新規保存方式を使用する non-Lightning Flow 1GP パッケージのパッチアップグレードを作成できます。

中核的なセールス機能のその他の変更

ネイティブの LinkedIn Sales Navigator インテグレーションにより、営業担当の顧客のビューとアウトリーチオプションを拡張します。元のテリトリー管理機能は廃止されました。[設定]の[リリース更新]ページで元のテリトリー管理共有レコードを削除できます。変更された ForecastingItem レコードを追跡できます。

コラボレーション売上予測

売上予測種別をより効率的に作成および管理できます。また、カスタム基準売上予測のオプションが追加されています。

このセクションの内容:

[設定]の[売上予測種別]からの環境の改善

売上予測種別の管理のアシスタントのデザインが一新されました。設定フローで売上予測種別を作成する手順が案内されるようになりました。その後、[売上予測種別]ページで売上予測種別を管理できます。[設定]の再設計により、管理が簡単になっています。

Lightning Experience でのお好みの方法での売上予測の測定

通貨または数値データ型のカスタム項目を売上予測の基準にできるようになりました。この変更により、コラボレーション売上予測を使用してより柔軟にビジネスモデルを反映させることができます。

関連トピック:

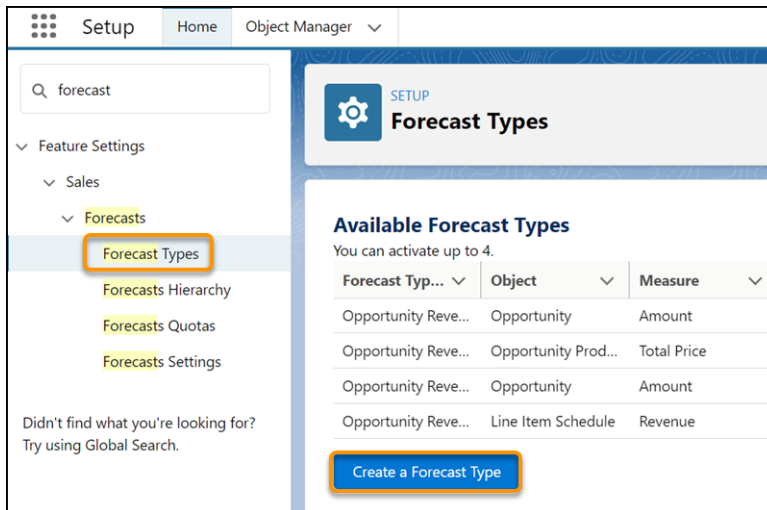
[ForecastingItem に追加された属性](#)

[設定]の[売上予測種別]からの環境の改善

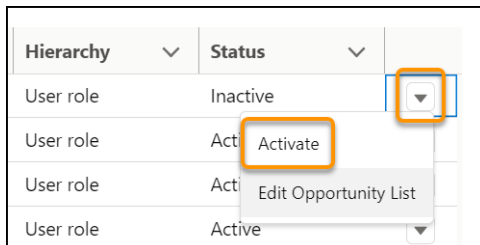
売上予測種別の管理のアシスタントのデザインが一新されました。設定フローで売上予測種別を作成する手順が案内されるようになりました。その後、[売上予測種別]ページで売上予測種別を管理できます。[設定]の再設計により、管理が簡単になっています。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 開始するには、[設定] ツリーから [売上予測種別] を選択します。Salesforce Classic を使用している場合は、Lightning Experience に切り替えて [売上予測種別] ページを見つけます。売上予測種別の管理は、Lightning Experience でのみ使用できるようになっています。



次に [売上予測種別を作成] をクリックし、設定フローを進めて売上予測の基になるオブジェクト、基準、日付種別、階層を選択します。必要に応じて、分割種別または商品ファミリのグループ化を指定します。売上予測種別に適切な名前を付けます。また、商談リストに列として表示する商談項目を選択します。



次に、ユーザが使用できるように新しい売上予測種別を有効化します。

[エンタープライズ API](#)、[メタデータ API](#)、[Tooling API](#) で売上予測種別の作成と管理がサポートされます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Create and Manage Forecast Types in Collaborative Forecasts](#) (コラボレーション売上予測の売上予測種別の作成と管理) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: コラボレーション売上予測の売上予測種別](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 売上予測の設定に関する考慮事項](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Lightning Experience でのお好みの方法での売上予測の測定](#)

Lightning Experience でのお好みの方法での売上予測の測定

通貨または数値データ型のカスタム項目を売上予測の基準にできるようになりました。この変更により、コラボレーション売上予測を使用してより柔軟にビジネスモデルを反映させることができます。

対象: この変更は Performance Edition および Unlimited Editions (Sales Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

時期: この機能はすべてのインスタンスが Summer '21 リリースにアップグレードされた後、本番ですぐに使用できます。Sandbox でこの機能を表示するには、[本番ライセンスに一致] を実行するか、本番でこの機能が使用可能になった後に更新を要求します。

方法: 次に例を示します。設定フローを使用して、商談オブジェクトの [メガワット] 項目に基づいて売上予測種別を作成します。

次に、ユーザが使用できるように売上予測種別を有効化します。

MONTH	Closed Only	Commit Forecast
Total: 1 Month	2250000.00	2250000.00
June FY 2021	2250000.00	2250000.00

Margaret Miller · June FY 2021 · All Forecast Categories			
	Opportunity Name	Close Date	Megawatts
1	Acme - 1,200 Widgets	6/2/2021	20,005,000
2	Acme - 200 Widgets	6/5/2021	7,000,000
3	Acme - 600 Widgets	6/10/2021	10,000,000

エンタープライズ API、メタデータ API、Tooling API でカスタム基準売上予測がサポートされます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Create and Manage Forecast Types in Collaborative Forecasts \(コラボレーション売上予測の売上予測種別の作成と管理\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: コラボレーション売上予測の売上予測種別](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[設定] の [売上予測種別] からの環境の改善

キャンペーン

取引先をキャンペーンメンバーとして追加する場合は、取引先ベースのマーケティング活動をより適切に整理します。

このセクションの内容:

キャンペーンメンバーとして追跡することで取引先に焦点を合わせる (正式リリース)

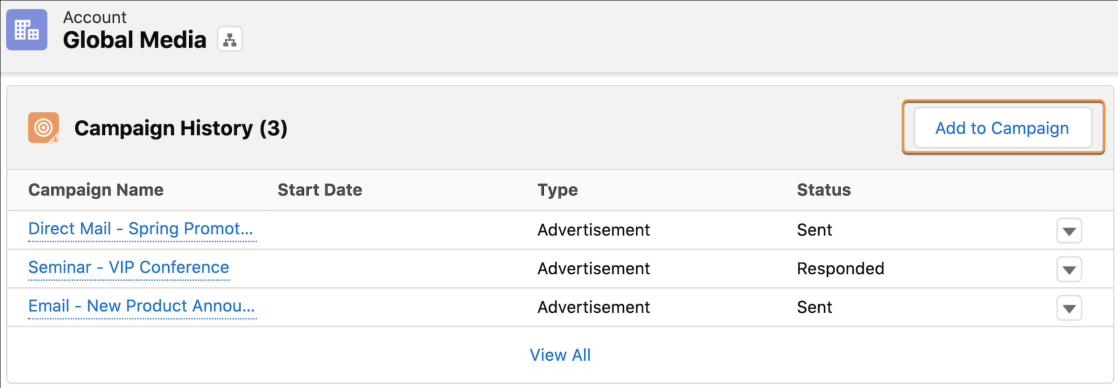
取引先ベースのキャンペーン管理ツールが正式リリースされました。関連リストから取引先をキャンペーンメンバーとして追加し、標準およびカスタムレポートを作成して取引先のエンゲージメントを追跡します。

キャンペーンメンバーとして追跡することで取引先に焦点を合わせる (正式リリース)

取引先ベースのキャンペーン管理ツールが正式リリースされました。関連リストから取引先をキャンペーンメンバーとして追加し、標準およびカスタムレポートを作成して取引先のエンゲージメントを追跡します。

対象: この変更は Salesforce のすべてのエディションで使用できます。

方法: ユーザが取引先をキャンペーンメンバーとして追加できるようにするには、Salesforce の [設定] で機能を有効化します。次に、取引先レコードで [キャンペーン履歴] 関連リストを含めるようにページレイアウトを更新します。



Campaign Name	Start Date	Type	Status
Direct Mail - Spring Promot...		Advertisement	Sent
Seminar - VIP Conference		Advertisement	Responded
Email - New Product Annou...		Advertisement	Sent

[View All](#)

キャンペーンメンバーとして追加された取引先 (個人取引先を含む) は [キャンペーン] および [キャンペーンメンバー] 関連リストと標準レポートにも表示されます。

注文

パッケージプロバイダは、注文の新規保存方式を使用する non-Lightning Flow 1GP パッケージのパッチアップグレードを作成できます。

このセクションの内容:

注文の新規保存方式を使用する Non-Lightning Flow 1GP パッケージのパッチアップグレードの提供

注文の新規保存方式を使用する non-Lightning Flow 1GP パッケージのパッチアップグレードを作成できるようになりました。登録者が Lightning フローを使用している場合は、引き続きパッチアップグレードではなくマイナーバージョンを作成する必要があります。以前は、パッケージ開発者が注文の新規保存方式が有効にしている場合、1GP パッケージのパッチアップグレードが失敗していました。その場合、パッケージ開発者は、すべての登録者がパッケージの更新を確実に受信できるように、代わりにパッケージのマイナーバージョンを作成していました。

注文の新規保存方式を使用する Non-Lightning Flow 1GP パッケージのパッチアップグレードの提供

注文の新規保存方式を使用する non-Lightning Flow 1GP パッケージのパッチアップグレードを作成できるようになりました。登録者が Lightning フローを使用している場合は、引き続きパッチアップグレードではなくマイナーバージョンを作成する必要があります。以前は、パッケージ開発者が注文の新規保存方式が有効にしている場合、1GP パッケージのパッチアップグレードが失敗していました。その場合、パッケージ開発者は、すべての登録者がパッケージの更新を確実に受信できるように、代わりにパッケージのマイナーバージョンを作成していました。

対象: この変更は、Salesforce Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

中核的なセールス機能のその他の変更

ネイティブの LinkedIn Sales Navigator インテグレーションにより、営業担当の顧客のビューとアウトリーチオプションを拡張します。元のテリトリー管理機能は廃止されました。[設定]の[リリース更新]ページで元のテリトリー管理共有レコードを削除できます。変更された ForecastingItem レコードを追跡できます。

このセクションの内容:

ネイティブの Sales Navigator インテグレーションで LinkedIn を介して顧客や見込み客とつながる

営業担当は、LinkedIn Sales Navigator のネイティブインテグレーションを使用して、より多くの情報に基づくより多くの方法で顧客とつながることができます。ネイティブコンポーネントを使用すると、営業担当はリード、取引先責任者、商談、取引先のページで LinkedIn プロフィールを確認できます。また、ネイティブの Lightning アクションを使用して、InMail と接続要求を送信できます。営業マネージャは、LinkedIn InMail と接続要求のステップを High Velocity Sales ケイデンスに追加できます。

元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理機能は廃止されました。ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできません。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

元のテリトリー管理共有レコードの削除(更新)

エンタープライズテリトリー管理で問題が発生しないように、この更新によって元のテリトリー管理共有レコードが削除されます。以前は、元のテリトリー管理共有レコードを削除するために、Salesforce カスタマーサポートに連絡するかメタデータ API を使用していました。この更新により、[設定]の[リリース更新]ページで削除できるようになりました。

ForecastingItem に追加された属性

ForecastingItem オブジェクトに `getDeleted()` 属性と `getUpdated()` 属性が追加されたため、ログエントリには特定の期間中に削除または更新された ForecastingItem レコードが表示されます。

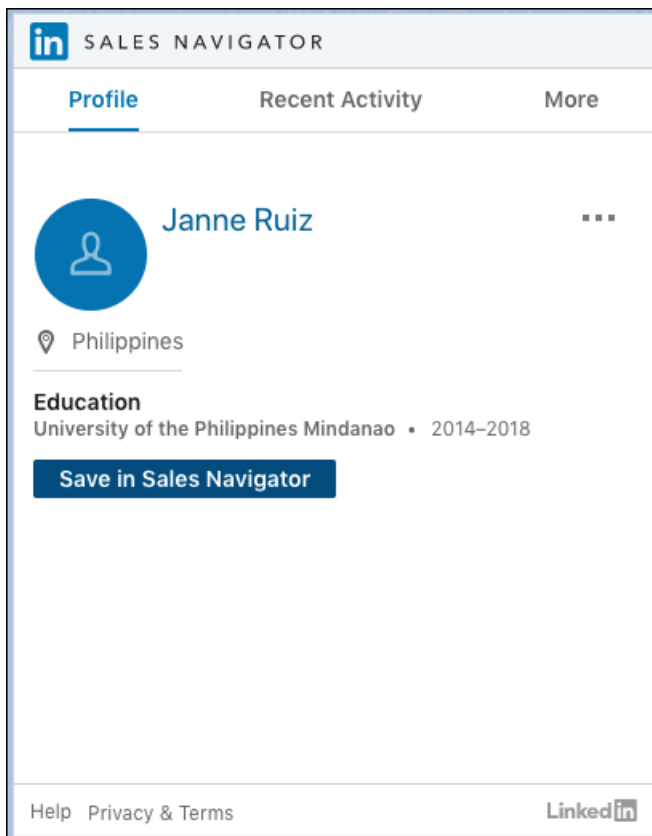
ネイティブの Sales Navigator インテグレーションで LinkedIn を介して顧客や見込み客とつながる

営業担当は、LinkedIn Sales Navigator のネイティブインテグレーションを使用して、より多くの情報に基づくより多くの方法で顧客とつながることができます。ネイティブコンポーネントを使用すると、営業担当はリード、取引先責任者、商談、取引先のページで LinkedIn プロフィールを確認できます。また、ネイティブの Lightning アクションを使用して、InMail と接続要求を送信できます。営業マネージャは、LinkedIn InMail と接続要求のステップを High Velocity Sales ケイデンスに追加できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

対象ユーザ: この機能は、LinkedIn の Sales Navigator Team または Enterprise ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーで、LinkedIn Sales Navigator (ネイティブ) コンポーネントをリード、取引先責任者、商談、取引先のページに追加します。InMail および接続要求 Lightning アクションを同じページに追加します。



以前は、Sales Navigator は LinkedIn の AppExchange パッケージとしてのみ使用可能でした。現在、AppExchange バージョンの Sales Navigator コンポーネントを使用している場合は、ネイティブインテグレーションを有効にするときに、それをネイティブバージョンに置き換えます。

元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理機能は廃止されました。ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできません。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Salesforce Classic に適用されます。

方法: エンタープライズテリトリー管理の設定に関するドキュメントを確認し、その手順に従います。

関連トピック:

[ナレッジ記事 元のテリトリー管理モジュールを Summer '21 リリースで廃止](#)
[元のテリトリー管理共有レコードの削除\(更新\)](#)

元のテリトリー管理共有レコードの削除(更新)

エンタープライズテリトリー管理で問題が発生しないように、この更新によって元のテリトリー管理共有レコードが削除されます。以前は、元のテリトリー管理共有レコードを削除するために、Salesforce カスタマーサポートに連絡するかメタデータ API を使用していました。この更新により、[設定] の [リリース更新] ページで削除できるようになりました。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Winter '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: 元のテリトリー管理共有レコードを削除することで、この更新により、レコードへの意図しないユーザアクセスが防止され、活動レポートの空白行に関する[既知の問題](#)が解決されます。

方法: この更新を有効にすると、SharingSettings メタデータ API 種別の enableRemoveTMGroupMembership 項目が true に設定され、ユーザは元のテリトリー管理共有に基づいてレコードにアクセスできなくなります。

関連トピック:

[リリース更新のお知らせ](#)
[元のテリトリー管理の廃止](#)
[ナレッジ記事 Migrating from Original Territory Management to Enterprise Territory Management \(元のテリトリー管理からエンタープライズテリトリー管理への移行\)](#)

ForecastingItem に追加された属性

ForecastingItem オブジェクトに getDeleted() 属性と getUpdated() 属性が追加されたため、ログエントリには特定の期間中に削除または更新された ForecastingItem レコードが表示されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

[エンタープライズ API](#) ではコラボレーション売上予測がサポートされます。

生産性機能

サービスアカウントを使用して、Einstein 活動キャプチャを Microsoft Exchange オンプレミスサーバに接続します。デフォルトでは、Dialer で通話を録音します。エンゲージメントとしてカウントされるメールの動作をより詳細に制御します。パッケージビルダーのメールテンプレートが以前より簡単になりました。

このセクションの内容:

[Einstein 活動キャプチャ](#)

Microsoft Exchange オンプレミスサーバでサービスアカウントを使用できます。すべての被招集者が内部ドメインに含まれる行動を同期できます。接続の問題を容易にトラブルシューティングできます。Einstein 活動キャプチャの設定ページが再編成されています。

[Dialer](#)

デフォルトで Dialer コールを録音できるようになりました。

[メール操作環境](#)

エンゲージメントとしてカウントされるメールの動作をより詳細に制御します。内部ユーザなどの特定のユーザがメールを操作するときに除外する IP アドレス範囲を定義します。また、リストメールの送信方法を選択するパイロットに参加できます。

[メールテンプレート](#)

「ドラッグアンドドロップコンテンツビルダーにアクセス」ユーザ権限がない場合でも、開発者はビルダーメールテンプレートをパッケージ化できます。パッケージと変更セットには、サポートされているメール添付ファイルが自動的に含まれます。改善されたエラー処理により、ユーザがエラーを修正してテンプレートを保存するまで、エラーが見やすく表示されます。リッチテキストエディタに Web 対応フォントを追加すると、ユーザはメールやメールテンプレートをより視覚的に魅力的なものにすることができます。

[Salesforce Inbox](#)

Salesforce Inbox に対する最新の改善点を確認してください。

[カレンダー](#)

被招集者は、行動の詳細で行動主催者の名前を確認できます。開発者は、標準の行動オブジェクトから定期的な行動を作成できます。営業担当は、選択したカレンダー日付に自動的に開始する月次行動を作成できます。

Einstein 活動キャプチャ

Microsoft Exchange オンプレミスサーバでサービスアカウントを使用できます。すべての被招集者が内部ドメインに含まれる行動を同期できます。接続の問題を容易にトラブルシューティングできます。Einstein 活動キャプチャの設定ページが再編成されています。

このセクションの内容:

Microsoft Exchange でのサービスアカウントの使用

Microsoft Exchange Server 2019、2016、または 2013 を使用している場合、サービスアカウントを使用して Einstein 活動キャプチャを接続できます。サービスアカウントにより、Salesforce がデータにアクセスできるユーザをより詳細に制御できます。さらに、Einstein 活動キャプチャユーザは自分のアカウントを接続しないため、ロールアウトが簡略化されます。

内部行動の同期

営業担当が接続済みアカウントと Salesforce 間で内部行動を同期すると、Salesforce カレンダーと対応可能状況が最新の状態に保たれます。さらに、チームは顧客に関連する重要な内部行動を追跡できます。すべての被招集者が内部ドメインに含まれる行動が内部行動です。以前は、Salesforce カスタマーサポートに対する要求を行っていない限り、Salesforce と営業担当の接続済みアカウント間で内部行動が同期されていませんでした。

Einstein 活動キャプチャ接続の問題をより簡単にトラブルシューティング

営業担当が Einstein 活動キャプチャをすぐに活用できるように、営業担当のメールとカレンダーの接続の状況を確認できるようになりました。

Google カレンダーのイベントで Google Meet の詳細を含める

Google カレンダーのイベントで Google Meet の参加の詳細を再び含められるようにするには、[Einstein 活動キャプチャ] 設定からこの機能を有効にします。2020 年 9 月に、Google がそのイベント API に対して行った制限により、この機能には、元々 Salesforce で作成された Google カレンダーのイベントに参加の詳細を含めることが必要になりました。

活動タイムラインでの機密情報の表示防止

ユーザが誤って機密情報を共有しないように、Einstein 活動キャプチャでは自動メールの返信を識別して非公開にしようとします。

より迅速な Einstein 活動キャプチャ設定の検索

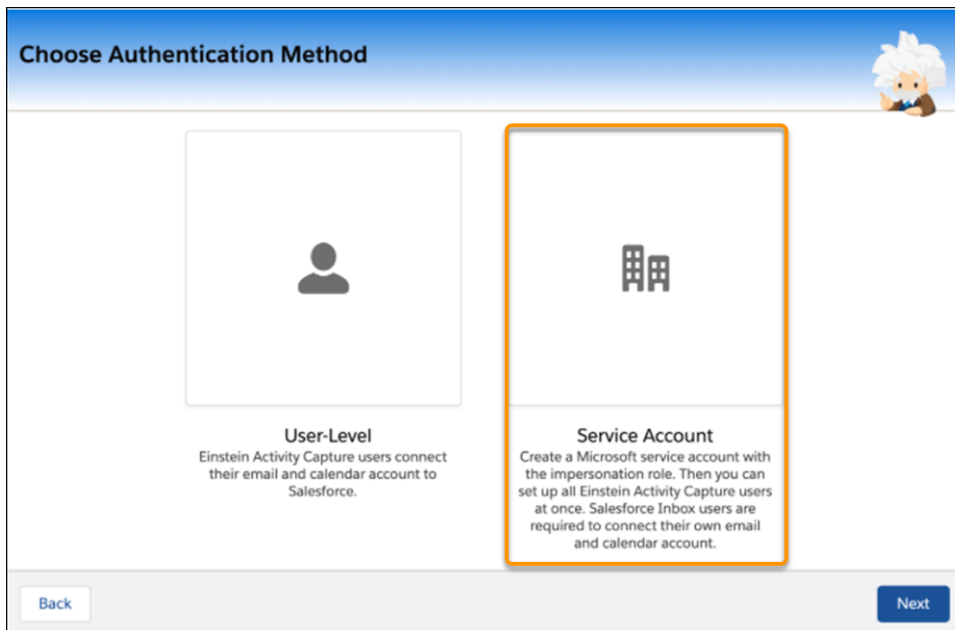
Einstein 活動キャプチャの設定が再編成され、必要な機能がすばやく見つかるようになりました。すべてのユーザに適用される設定は [キャプチャの設定] ではなく [設定] に表示されるようになり、テーマ別に編成されています。引き続き、設定を編集して特定の設定に適用される設定にアクセスすることはできます。

Microsoft Exchange でのサービスアカウントの使用

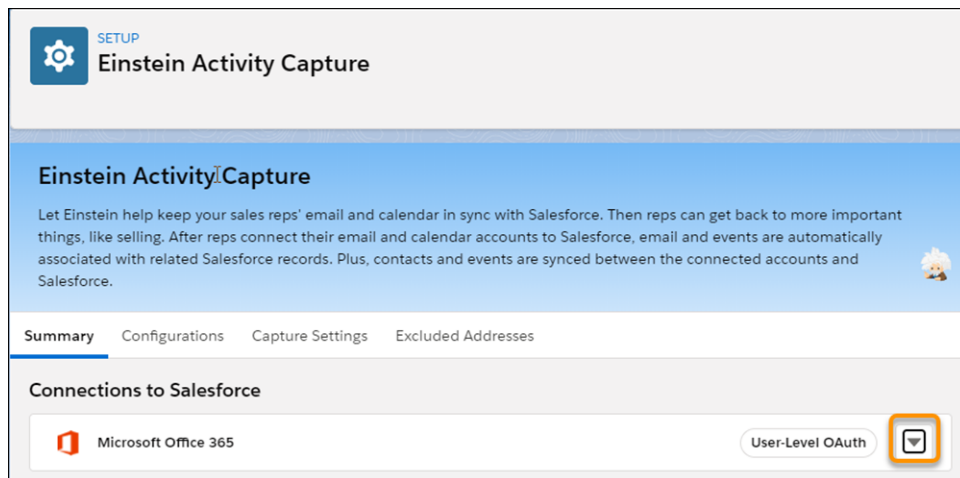
Microsoft Exchange Server 2019、2016、または 2013 を使用している場合、サービスアカウントを使用して Einstein 活動キャプチャを接続できます。サービスアカウントにより、Salesforce がデータにアクセスできるユーザをより詳細に制御できます。さらに、Einstein 活動キャプチャユーザは自分のアカウントを接続しないため、ロールアウトが簡略化されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 初めて Einstein 活動キャプチャを設定するときに、認証方式としてサービスアカウントを選択します。



Einstein 活動キャプチャをすでに設定している場合は、この機能をリセットして異なる認証方式を選択できます。[Einstein 活動キャプチャ] 設定ページのドロップダウンから、[Einstein 活動キャプチャをリセット] を選択します。リセットプロセスが完了したら、もう一度 Einstein 活動キャプチャを設定します。認証方式を選択する



ように求められます。

- 📌 **メモ:** メールデータを取得する設定のユーザは、Einstein 活動キャプチャのサービス利用規約に同意するよう求められます。同意しない限り、メールデータは取得されません。

関連トピック:

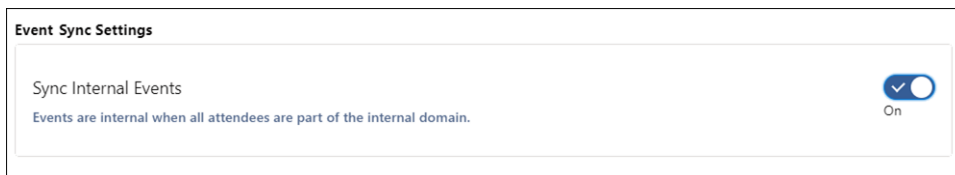
[Salesforce ヘルプ: Use a Service Account to Connect an Exchange Server and Einstein Activity Capture \(サービスアカウントを使用した Exchange サーバおよび Einstein 活動キャプチャの接続\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

内部行動の同期

営業担当が接続済みアカウントと Salesforce 間で内部行動を同期すると、Salesforce カレンダーと対応可能状況が最新の状態に保たれます。さらに、チームは顧客に関連する重要な内部行動を追跡できます。すべての被招集者が内部ドメインに含まれる行動が内部行動です。以前は、Salesforce カスタマーサポートに対する要求を行っていない限り、Salesforce と営業担当の接続済みアカウント間で内部行動が同期されていませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [Einstein 活動キャプチャ] 設定ページから、[設定] タブに移動します。[内部行動の同期] 設定を有効にします。



関連トピック:

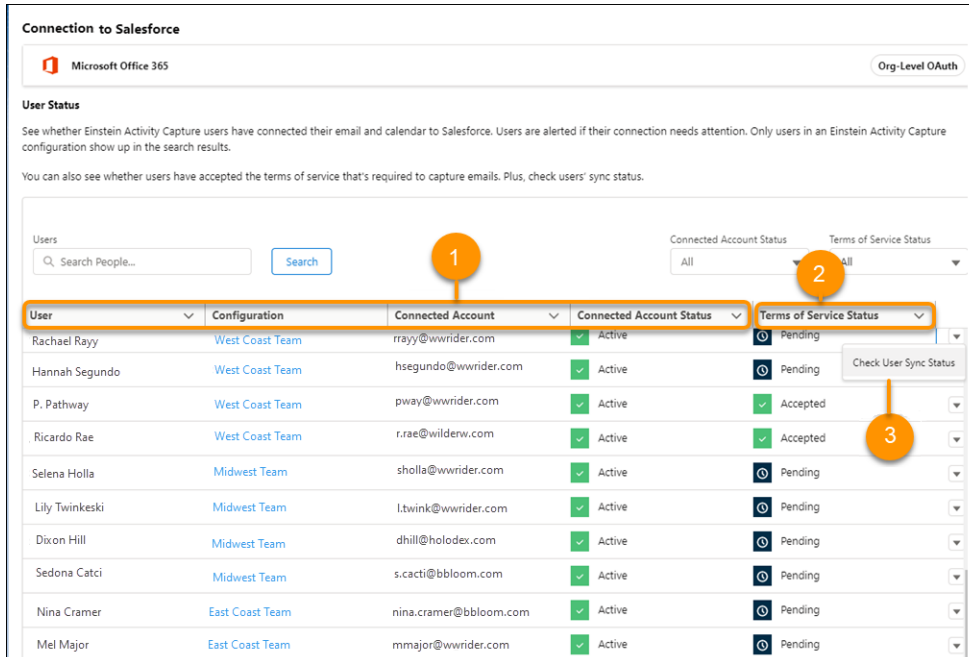
[Salesforce ヘルプ: Considerations for Excluding Data from Einstein Activity Capture \(Einstein 活動キャプチャからデータを除外する場合の考慮事項\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein 活動キャプチャ接続の問題をより簡単にトラブルシューティング

営業担当が Einstein 活動キャプチャをすぐに活用できるように、営業担当のメールとカレンダーの接続の状況を確認できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 営業担当が Einstein 活動キャプチャで問題を抱えている場合、その接続を 1 か所で確認できます。



新しい[ユーザステータス]ページには、ユーザとユーザに割り当てられている設定、Salesforceに接続するために使用されたメールアドレス、接続状況が表示されます (1)。

組織レベルのOAuth 2.0またはサービスアカウントの認証方法を使用している場合、ユーザがメールを取得するために必要なサービスの利用規約に同意したかどうかを確認することもできます (2)。問題の原因をより詳細に確認する場合は、ユーザの同期状況を確認できます (3)。

方法:[設定]で、[Einstein 活動キャプチャ]の下にある[ユーザステータス]ページに移動します。デフォルトビューには、有効な設定にあるすべての Einstein 活動キャプチャユーザが表示されます。結果を絞り込むには、ユーザを検索するか状況で絞り込みます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Check Connection Status for Einstein Activity Capture Users \(Einstein 活動キャプチャユーザの接続状況の確認\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Google カレンダーのイベントで Google Meet の詳細を含める

Google カレンダーのイベントで Google Meet の参加の詳細を再び含められるようにするには、[Einstein 活動キャプチャ]設定からこの機能を有効にします。2020年9月に、GoogleがそのイベントAPIに対して行った制限により、この機能には、元々Salesforceで作成されたGoogleカレンダーのイベントに参加の詳細を含めることが必要になりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

方法:[設定]の[Einstein 活動キャプチャ]設定ページから、[設定]タブに移動します。[GoogleのイベントでGoogle Meetの詳細を含める]を有効にします。その後、営業担当がSalesforceで行動を作成した場合、行動がGoogleカレンダーに同期されたときにGoogle Meetへの参加の詳細がGoogleバージョンのイベントに追加されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャによる行動の同期 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

活動タイムラインでの機密情報の表示防止

ユーザが誤って機密情報を共有しないように、Einstein 活動キャプチャでは自動メールの返信を識別して非公開にしようとします。

対象:この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

理由:誰もが外部の会社から自動メール通知を受信するものです。誰かが自動メールのアドレスを使用してSalesforce取引先責任者レコードを作成した場合、その自動メールのアドレスからの機密情報が活動タイムラインですべてのユーザに表示されることとなります。セキュリティを強化するために、Einstein 活動キャプチャでは自動メールの返信がタイムラインに追加される前に識別して共有を[共有しない]に設定することを試みるようになりました。

たとえば、ユーザが財務諸表の準備ができたという通知を銀行から受信したり、パスワードのリセットに関する自動応答を受信したりした場合、そのメールは受信者のみに表示されます。メール所有者は後から共有設定をもっと制限の緩い設定に変更できます。

自動メールの返信の中には同僚にとっても役に立つため、非公開に設定しないものもあります。たとえば、オフィス不在返信やメールバウンス通知などです。

方法:Einstein 活動キャプチャでは自動的に自動メールを除外します。ただし、保護をさらに強化するために、会社で使用しているサービスの顧客ドメインとメールアドレスを使用して[除外アドレス]リストを更新することをお勧めします。会社の人事、給与、または財務サポートを提供するサービスは、除外リストに追加するのに適しています。その後、誰かがメールアドレス `no-reply@confidential.tax.details.com` を使用してSalesforce取引先責任者レコードを作成した場合、その送信者からのメールは取引先責任者の活動タイムラインに追加されません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Considerations for Excluding Data from Einstein Activity Capture \(Einstein 活動キャプチャからデータを除外する場合の考慮事項\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

より迅速な Einstein 活動キャプチャ設定の検索

Einstein 活動キャプチャの設定が再編成され、必要な機能がすばやく見つかるようになりました。すべてのユーザに適用される設定は[キャプチャの設定]ではなく[設定]に表示されるようになり、テーマ別に編成されています。引き続き、設定を編集して特定の設定に適用される設定にアクセスすることはできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] で Einstein 活動キャプチャの設定ページに移動し、[設定] タブをクリックします。このタブはこれまで [キャプチャの設定] となっていました。

Summary Configurations **Settings** Excluded Addresses

General

Einstein Activity Capture On
When the feature is turned on, your configurations and settings take effect. When turned off, your configurations and settings are saved, but the feature is disabled. [More Info](#)

Records That Activities Are Added To [Edit Records](#)
By default, activities are added to accounts, contacts, leads, person accounts, and opportunities.

Activity Metrics On
When you include Activity Metrics fields on things like reports, triggers, list views, the data reflects activities that were added to Salesforce manually and by Einstein Activity Capture. After you turn on Activity Metrics, it can take up to a few days before it's ready to use. During that time, you can't turn it off. You'll receive a notification when it's ready.

Sharing Settings

Default Activity Sharing for New Users [Edit Default](#)
With activity sharing, each user controls who sees their activities. Select the default activity sharing for new users.

Enforce Default Activity Sharing for New Users Off
Require new Einstein Activity Capture users to keep their activity sharing setting as Don't Share. Users can still share

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャの設定](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Dialer

デフォルトで Dialer コールを録音できるようになりました。

このセクションの内容:

デフォルトでの通話の録音

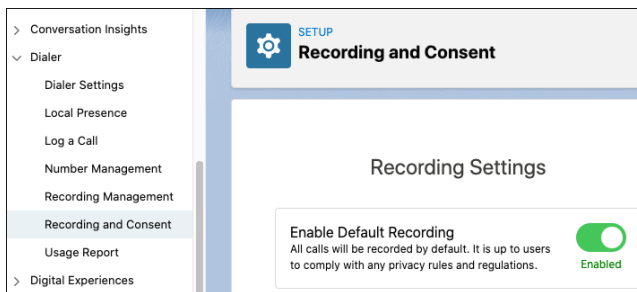
Dialer のデフォルトの録音を有効化できるようになりました。ユーザは引き続き個々の通話を録音するかどうかを決定できます。プライバシールールや規制を遵守するのはユーザの責任です。

デフォルトでの通話の録音

Dialer のデフォルトの録音を有効化できるようになりました。ユーザは引き続き個々の通話を録音するかどうかを決定できます。プライバシールールや規制を遵守するのはユーザの責任です。

対象: この変更は、Lightning Experience での Sales Dialer に適用されます。Sales Dialer は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます (有料オプション)。

方法: デフォルトの録音を有効にするには、[設定] の [録音と同意] ページでこの機能を有効にします。



メール操作環境

エンゲージメントとしてカウントされるメールの動作をより詳細に制御します。内部ユーザなどの特定のユーザがメールを操作するときに除外する IP アドレス範囲を定義します。また、リストメールの送信方法を選択するパイロットに参加できます。

このセクションの内容:

IP アドレスのブロックによるメール開封データの調整

内部ユーザがメールを開封した場合にメール追跡エンゲージメントデータが含まれないようにするには、会社の IP アドレス範囲を追加します。メールが追跡されるように設定されていても、メールを開封したユーザの IP アドレスが範囲内にあれば、その開封はエンゲージメントとして含まれません。

メールリレーの認証種別の選択

メールリレーで使用する SASL メカニズムとして、認証テキストまたは認証ログインを選択できます。以前は、SMTP 認証を有効にした場合、認証種別は認証テキストとみなされていました。選択した認証種別は、メールリレーレコードページの新しい [認証種別] 列にも表示されます。

メールレポートでの詳細の確認

営業マネージャは、メールのアウトリーチ戦略がどれほど効果的であるか、どの営業担当が最も効果的な電子メールを送信しているか、メールの受信と送信の割合はどうなっているかなどの質問に対する回答を求めています。新しいメールメッセージのカスタムレポートを使用して、これらの質問への回答を得ることができます。


Web 対応フォントを使用したメールへのスタイルの追加

ユーザは Web 対応フォントを使用して、メールにさらに多くのスタイルとブランド設定を追加できます。

IP アドレスのブロックによるメール開封データの調整


内部ユーザがメールを開封した場合にメール追跡エンゲージメントデータが含まれないようにするには、会社の IP アドレス範囲を追加します。メールが追跡されるように設定されていても、メールを開封したユーザの IP アドレスが範囲内にあれば、その開封はエンゲージメントとして含まれません。

対象: この更新は Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の有料オプションとして使用可能な High Velocity Sales に適用されます。この変更は、同じエディション (有料オプション) および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox にも適用されます。

 **メモ:** 組織で Einstein 活動キャプチャが有効になっている場合は、Inbox または High Velocity Sales のいずれかを有効にする必要があります。

設定:[設定]から、[クイック検索]ボックスに「メール追跡を絞り込む」と入力し、[メール追跡を絞り込む]を選択します。

IP アドレス範囲はいつでも入力できます。絞り込みを開始するには、この機能を有効にします。

 **メモ:** IPv4アドレスを使用してください。IPアドレスの絞り込みではIPv6アドレスはサポートされません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Enable Filtering for Email Tracking \(メール追跡の絞り込みの有効化\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

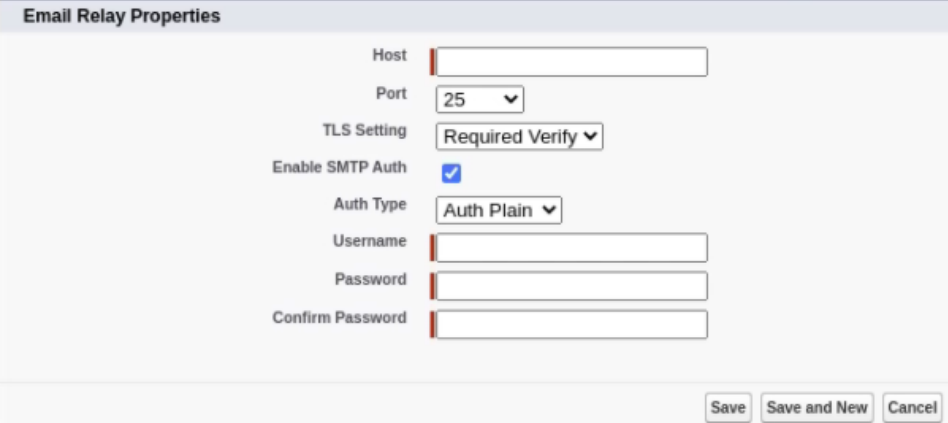
[Salesforce ヘルプ: Set Up IP Address Ranges for Filtering \(絞り込み用の IP アドレス範囲の設定\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メールリレーの認証種別の選択

メールリレーで使用する SASL メカニズムとして、認証テキストまたは認証ログインを選択できます。以前は、SMTP 認証を有効にした場合、認証種別は認証テキストとみなされていました。選択した認証種別は、メールリレーレコードページの新しい [認証種別] 列にも表示されます。

対象: この更新は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience およびすべての Salesforce アプリケーションで使用できます。

方法: [メールリレープロパティ] で、[認証種別] ドロップダウンを使用して [認証テキスト] または [認証ログイン] を選択します。



メールレポートでの詳細の確認

営業マネージャは、メールのアウトリーチ戦略がどれほど効果的であるか、どの営業担当が最も効果的な電子メールを送信しているか、メールの受信と送信の割合はどうなっているかなどの質問に対する回答を求めています。新しいメールメッセージのカスタムレポートを使用して、これらの質問への回答を得ることができます。

対象: この更新は Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。

方法: メールメッセージ主オブジェクトに基づいてカスタムレポートを作成します。

レポートはメールでのみ使用できます。活動レポートでリストメール活動を確認します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: メールレポート \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: カスタムレポートタイプの設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[IdeaExchange: Allow others to view HTML Email Status Report from emails I sent \(私が送信したメールから他のユーザがHTML メール状況レポートを参照できるようにする\) \(部分的に実現\)](#)

[IdeaExchange: Additional fields for HTML Email Status Report \(HTML メール状況レポートの追加項目\)](#)

Web 対応フォントを使用したメールへのスタイルの追加

ユーザは Web 対応フォントを使用して、メールにさらに多くのスタイルとブランド設定を追加できます。

対象: この更新は Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

方法: 新しいフォントスタイルオプションは、次のメールコンポーザに表示されます。

- グローバルメールコンポーザ
- リストメールコンポーザ
- キャンペーンリストメール
- リード、取引先、取引先責任者、およびケースの 1 対 1 コンポーザ

フォントはメールテンプレートビルダーとメールコンテンツビルダーにも表示されます。

- メールテンプレートビルダーとメールコンテンツビルダーのリッチテキストおよびボタンコンポーネント
- テンプレートの詳細ページ (Lightning メールテンプレートの場合のみ)

- 拡張レターヘッド

関連トピック:

[Web 対応フォントを使用したメールテンプレートへのスタイルの追加](#)

メールテンプレート

「ドラッグアンドドロップコンテンツビルダーにアクセス」ユーザ権限がない場合でも、開発者はビルダーメールテンプレートをパッケージ化できます。パッケージと変更セットには、サポートされているメール添付ファイルが自動的に含まれます。改善されたエラー処理により、ユーザがエラーを修正してテンプレートを保存するまで、エラーが見やすく表示されます。リッチテキストエディタに Web 対応フォントを追加すると、ユーザはメールやメールテンプレートをより視覚的に魅力的なものにすることができます。

このセクションの内容:

[システム管理者がメールテンプレートビルダー権限なしで管理パッケージを作成できるようにする](#)

「ドラッグアンドドロップコンテンツビルダーにアクセス」ユーザ権限がなくても、メールテンプレートビルダーテンプレートが含まれる管理パッケージを作成できます。以前は、システム管理者がメールテンプレートビルダーテンプレートが含まれる管理パッケージを作成するにはこの権限が必要でした。

[メールテンプレートの添付ファイルをパッケージと変更セットに自動的に含める](#)

ユーザは、メールテンプレートビルダーで作成されたメールテンプレートを含む Lightning メールテンプレートがパッケージ化される時や変更セットに追加される時に、そのサポートコンテンツを提供できるようになりました。サポートされるファイルの種類テンプレート添付ファイルは、パッケージまたは変更セットに自動的に追加されるようになりました。以前は、添付ファイルをパッケージまたは変更セットで使用可能にするには、ユーザが既存のテンプレートを再保存する必要がありました。添付ファイルには、ホワイトペーパー、eBook、見積テンプレートが含まれます。

[改善されたエラー処理によるメールビルダーテンプレートの容易な修正](#)

更新されたエラーポップオーバーにより、ユーザはメールテンプレートビルダーで作成されたメールテンプレートまたはメールコンテンツビルダーで作成されたコンテンツを保存する前に、修正すべきコンポーネントを簡単に識別できるようになりました。エラーメッセージは表示され続けるため、ユーザはテンプレートでの作業を続行し、準備ができたならエラーを修正できます。

[Web 対応フォントを使用したメールテンプレートへのスタイルの追加](#)

ユーザは Web 対応フォントを使用して、メールテンプレートにさらに多くのスタイルとブランド設定を追加できます。

[HTML タグを閉じるタイミングの制御](#)

HTML タグを閉じるには、メールテンプレートビルダーとメールコンテンツビルダーで HTML コンポーネントを使用して </> を入力できるようになりました。残りの終了タグは自動的に入力されます。以前は、開始タグを入力したときに終了タグが表示されていました。

システム管理者がメールテンプレートビルダー権限なしで管理パッケージを作成できるようにする

「ドラッグアンドドロップコンテンツビルダーにアクセス」ユーザ権限がなくても、メールテンプレートビルダーテンプレートが含まれる管理パッケージを作成できます。以前は、システム管理者がメールテンプレートビルダーテンプレートが含まれる管理パッケージを作成するにはこの権限が必要でした。

対象: この変更は、Developer Edition の Lightning Experience のみに適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: メールテンプレートビルダーで作業可能なユーザの選択\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: パッケージでのコンポーネントの動作\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

メールテンプレートの添付ファイルをパッケージと変更セットに自動的に含める

ユーザは、メールテンプレートビルダーで作成されたメールテンプレートを含む Lightning メールテンプレートがパッケージ化される時や変更セットに追加されるときに、そのサポートコンテンツを提供できるようになりました。サポートされるファイルの種類は、パッケージまたは変更セットに自動的に追加されるようになりました。以前は、添付ファイルをパッケージまたは変更セットで使用可能にするには、ユーザが既存のテンプレートを再保存する必要がありました。添付ファイルには、ホワイトペーパー、eBook、見積テンプレートが含まれます。

対象: パッケージ化に対するこの変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。変更セットに対するこの変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

管理パッケージの作成は、Developer Edition でのみサポートされます。

関連トピック:

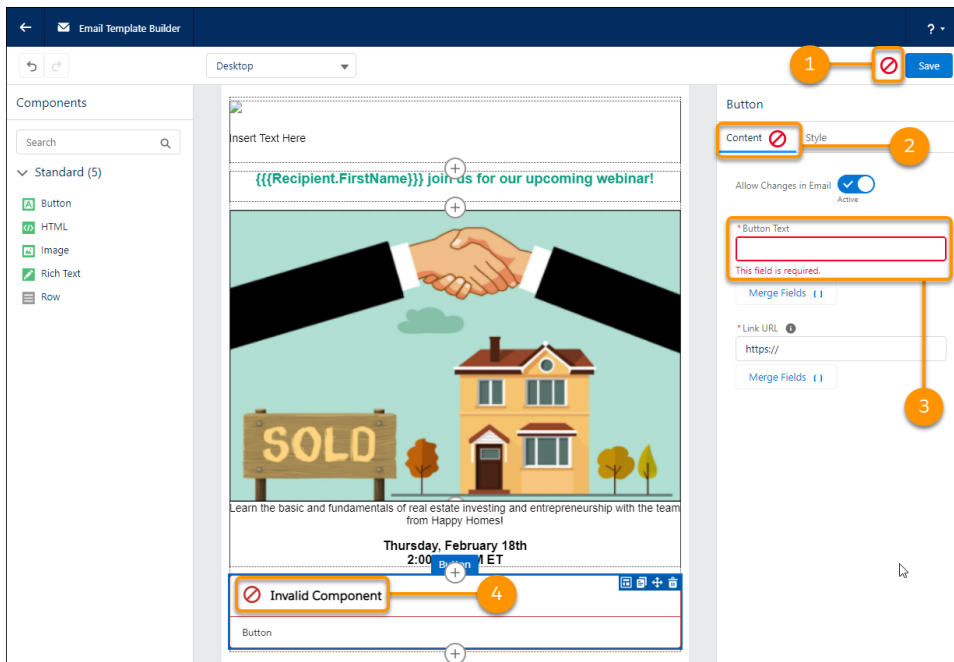
[Salesforce ヘルプ: パッケージおよび変更セットでサポートされる Lightning メール添付ファイルの種類\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

改善されたエラー処理によるメールビルダーテンプレートの容易な修正

更新されたエラーポップオーバーにより、ユーザはメールテンプレートビルダーで作成されたメールテンプレートまたはメールコンテンツビルダーで作成されたコンテンツを保存する前に、修正すべきコンポーネントを簡単に識別できるようになりました。エラーメッセージは表示され続けるため、ユーザはテンプレートでの作業を続行し、準備ができればエラーを修正できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、および Pardot Lightning アプリケーションのすべてのエディションの Pardot に適用されます。この機能は、Pardot Classic またはスタンドアロンの Pardot アプリケーションでは使用できません。

方法: エラーアイコン(1)により、メールテンプレートまたはコンテンツにエラーがあることがユーザに通知されます。アイコンをクリックすると、テンプレート内のすべてのエラーの概要が表示されます。概要内の個々のエラーをクリックすると、テンプレート内のエラーに移動します。



ユーザがエラーのあるコンポーネントを選択すると、プロパティパネルでエラーのあるタブ (2) と項目 (3) が示されます。テンプレートビルダーキャンバスでは、エラーのあるコンポーネント (4) が示されます。

Web 対応フォントを使用したメールテンプレートへのスタイルの追加

ユーザは Web 対応フォントを使用して、メールテンプレートにさらに多くのスタイルとブランド設定を追加できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、および Pardot Lightning アプリケーションのすべてのエディションの Pardot に適用されます。この機能は、Pardot Classic またはスタンドアロンの Pardot アプリケーションでは使用できません。

方法: 新しいフォントスタイルオプションは、メールテンプレートビルダーとメールコンテンツビルダーに表示されます。

- メールテンプレートビルダーとメールコンテンツビルダーのリッチテキストおよびボタンコンポーネント
- テンプレートの詳細ページ (Lightning メールテンプレートの場合のみ)
- 拡張レターヘッド

フォントは次のメールコンポーザにも表示されます。

- グローバルメールコンポーザ
- リストメールコンポーザ
- キャンペーンリストメール

- リード、取引先、取引先責任者、およびケースの 1 対 1 コンポーザ

関連トピック:

[Web 対応フォントを使用したメールへのスタイルの追加](#)

HTML タグを閉じるタイミングの制御

HTML タグを閉じるには、メールテンプレートビルダーとメールコンテンツビルダーで HTML コンポーネントを使用して </ を入力できるようになりました。残りの終了タグは自動的に入力されます。以前は、開始タグを入力したときに終了タグが表示されていました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、および Pardot Lightning アプリケーションのすべてのエディションの Pardot に適用されます。この機能は、Pardot Classic またはスタンドアロンの Pardot アプリケーションでは使用できません。

Salesforce Inbox

Salesforce Inbox に対する最新の改善点を確認してください。

このセクションの内容:

[Salesforce Inbox モバイル](#)

Salesforce Inbox ではメールとカレンダーが Salesforce と統合されるため、営業担当は営業作業をより効率的に管理できます。Inbox により、外出先であってもデスクであっても、すべてのメールメッセージで営業担当の生産性が向上します。

Salesforce Inbox モバイル

Salesforce Inbox ではメールとカレンダーが Salesforce と統合されるため、営業担当は営業作業をより効率的に管理できます。Inbox により、外出先であってもデスクであっても、すべてのメールメッセージで営業担当の生産性が向上します。

Inbox モバイルの最新の機能と機能強化については、Salesforce ヘルプを参照してください。

- [Inbox Mobile for iOS](#)
- [Inbox Mobile for Android](#)

Inbox デスクトップの最新の機能と機能強化については、Salesforce リリースノートの Outlook インテグレーションセクション、Gmail インテグレーションセクション、メール操作環境セクションを参照してください。

関連トピック:

[Outlook® インテグレーション](#)

[Gmail™ インテグレーション](#)

[メール操作環境](#)

カレンダー

被招集者は、行動の詳細で行動主催者の名前を確認できます。開発者は、標準の行動オブジェクトから定期的な行動を作成できます。営業担当は、選択したカレンダー日付に自動的に開始する月次行動を作成できます。

このセクションの内容:

被招集者の行動に行動主催者名を表示

被招集者が行動の詳細を表示したときに、その主催者の名前が表示されます。営業担当は、行動主催者に連絡したり、フォローアップしたりできます。以前は、被招集者の行動の詳細に主催者は表示されませんでした。

APIからの定期的な行動の作成

開発者は、Lightning Experienceの標準の行動オブジェクトから定期的な行動を作成できます。以前は、APIから定期的な行動を削除することはできたら、作成はできませんでした。

月次行動を今日の日付に自動的に開始

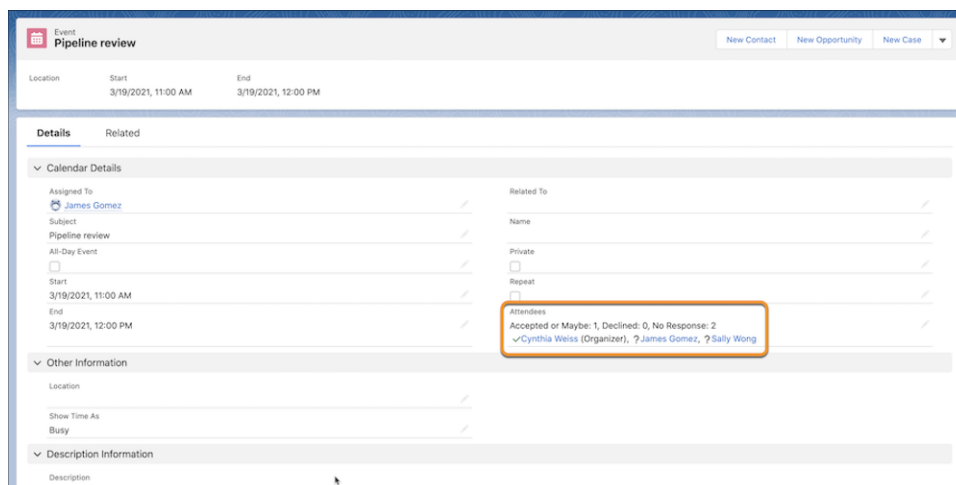
営業担当は、行動の作成日または現在の日付を選択するときに選択されたカレンダー日付から自動的に開始する定期的な月次行動を作成できます。営業担当が定期的な月次行動を作成すると、行動はその後の月の開始日と同じ日に自動的にスケジュールされます。以前は、カレンダー日付が選択されているかどうかに関係なく、定期的な月次行動が自動的に開始され、毎月1日に繰り返されていました。

被招集者の行動に行動主催者名を表示

被招集者が行動の詳細を表示したときに、その主催者の名前が表示されます。営業担当は、行動主催者に連絡したり、フォローアップしたりできます。以前は、被招集者の行動の詳細に主催者は表示されませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer EditionのLightning Experienceに適用されます。

方法: 行動レイアウトに[被招集者]項目をすでに追加している場合、設定は必要ありません。それ以外の場合、[設定]の[クイック検索]ボックスに「オブジェクト」と入力し、[オブジェクトマネージャ]をクリックします。[行動]オブジェクトをクリックして、行動レイアウトページに移動します。[被招集者]項目を追加し、変更を保存します。行動の詳細ページで、[被招集者]項目に行動主催者が表示されます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションから被招集者が行動に招待された場合に招待を受信するように設定\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

API からの定期的な行動の作成

開発者は、Lightning Experience の標準の行動オブジェクトから定期的な行動を作成できます。以前は、API から定期的な行動を削除することはできたら、作成はできませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce および Lightning プラットフォームイベント: CalendarView \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

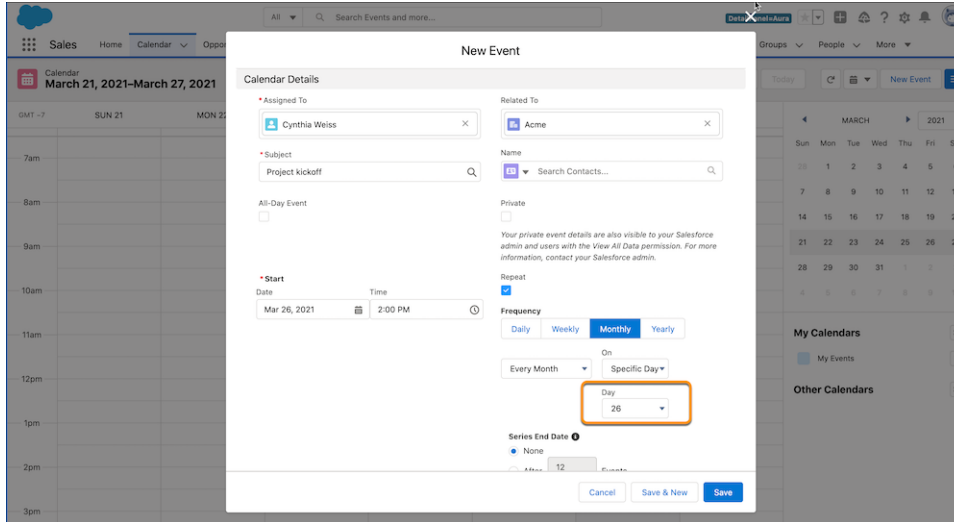
[新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト](#)

月次行動を今日の日付に自動的に開始

営業担当は、行動の作成日または現在の日付を選択するときに選択されたカレンダー日付から自動的に開始する定期的な月次行動を作成できます。営業担当が定期的な月次行動を作成すると、行動はその後の月の開始日と同じ日に自動的にスケジュールされます。以前は、カレンダー日付が選択されているかどうかに関係なく、定期的な月次行動が自動的に開始され、毎月 1 日に繰り返されていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning Experience で定期的な行動が有効になっている場合、この機能は自動的に使用可能になります。現在の日付が 3 月 26 日の場合、またはクリックして 3 月 26 日の行動を作成し、毎月の頻度を選択した場合、[日] 項目に 26 日が自動的に入力されます。



Salesforce Maps

会社のポリシーと安全プロトコルの採用と遵守を促進します。専有システムまたはサードパーティシステムからのデータを地図上にプロットし、経営陣のビジネス目標に沿ってテリトリーを計画します。

このセクションの内容:

[Salesforce Maps](#)

フィールド営業担当者が会社のポリシーや安全プロトコルを採用し、遵守できるようにします。専有システムまたはサードパーティシステムからのデータを地図上にプロットし、地図上のマーカーのポップアップにどのアクションが表示されるかを指定します。

[Salesforce Maps Advanced](#)

他のカレンダーからの予定によって競合が生じた場合にも訪問とルートを最適化します。スケジュールに表示したくない行動は表示されないようにします。

[Salesforce Maps テリトリー計画](#)

トップダウン手法を適用する場合に、経営陣の目標に基づいてテリトリーを設計します。テリトリー内の特定の領域を設計する権限をマネージャに付与します。コピーされたデータセット内の最新のSalesforceデータを使用してユニットを更新します。

Salesforce Maps

フィールド営業担当者が会社のポリシーや安全プロトコルを採用し、遵守できるようにします。専有システムまたはサードパーティシステムからのデータを地図上にプロットし、地図上のマーカーのポップアップにどのアクションが表示されるかを指定します。

このセクションの内容:

顧客訪問の安全プロトコルの自動化

現地訪問の承認をマネージャに申請します。フィールド営業担当者に、COVID-19の感染リスクを最小限に抑えるための会社の安全要件を確認し、対応するように求めます。

専有システムやサードパーティシステムからのカスタムデータの対応付け

Salesforce 外部で保存しているデータを使用して Salesforce Maps で顧客訪問をスケジュールします。Salesforce Connect を使用して独自のデータソースに接続します。Salesforce や専有システムなどの複数の提供元からのデータを地図上にプロットします。そのうちの任意のデータを使用して訪問を計画し、スケジュールします。

各ベースオブジェクトに表示されるカスタムアクションの指定

Salesforce Maps で各ベースオブジェクトに対して営業担当が実行できるカスタムアクションを決定します。たとえば、営業担当が取引先の詳細と商談のフェーズを更新できるようにカスタムアクションを設定します。表示された各レイヤに適用されるカスタムアクションのみをポップアップに表示することで、営業担当が使用するビューがシンプルになります。

Map の新しい図形レイヤ

Salesforce Maps で使用できる図形レイヤを確認します。新しい地理上の境界を使用して特定の領域をプロットし、最新の公開データを使用してビジネスを成長させます。

Salesforce Maps のその他の機能強化

プライバシー設定の表示ラベルの名前が変更されました。外部ソースからデータをプロットするときに地図上に表示されるマーカー数の制限を設定できます。

顧客訪問の安全プロトコルの自動化

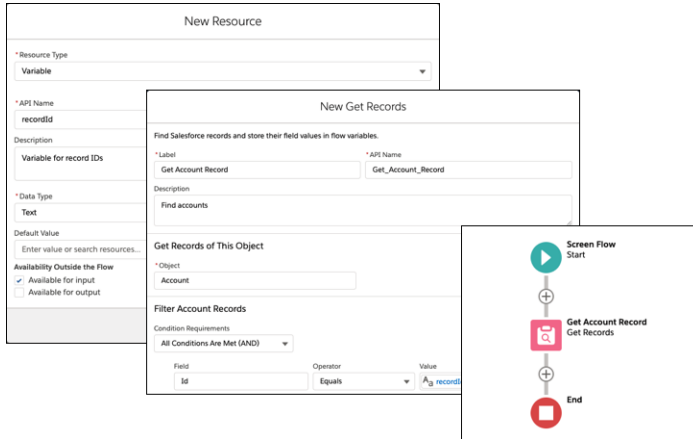
現地訪問の承認をマネージャに申請します。フィールド営業担当者に、COVID-19の感染リスクを最小限に抑えるための会社の安全要件を確認し、対応するように求めます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびモバイルに適用されます。

理由: フローを Salesforce Maps に統合して使用することで、営業担当が会社のプロセスや安全プロトコルを採用し、遵守できるようにします。営業担当が顧客訪問にチェックインまたはチェックアウトしたときにフローをトリガするかどうかを選択します。マネージャは、現地訪問の顧客を承認し、どの顧客との予定をスケジュールするかを営業担当に示すことができます。

方法: 営業担当が従うようにする安全プロトコルを特定します。たとえば、営業担当が取引先の訪問をスケジュールするときに、顧客訪問に到着したときに ToDo に表示される安全用品を承認するように求めます。

Salesforce 設定の活動オブジェクトで、すべての安全用品のチェックボックス項目を作成し、活動ページレイアウトに項目を追加します。次に、地図上のマーカーからレコードの詳細を取得するフローを作成し、安全用品を含む ToDo を作成します。



これにより、Salesforce Maps の [設定] で、フローを開始するカスタムアクションを作成できます。

専有システムやサードパーティシステムからのカスタムデータの対応付け

Salesforce 外部で保存しているデータを使用して Salesforce Maps で顧客訪問をスケジュールします。Salesforce Connect を使用して独自のデータソースに接続します。Salesforce や専有システムなどの複数の提供元からのデータを地図上にプロットします。そのうちの任意のデータを使用して訪問を計画し、スケジュールします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

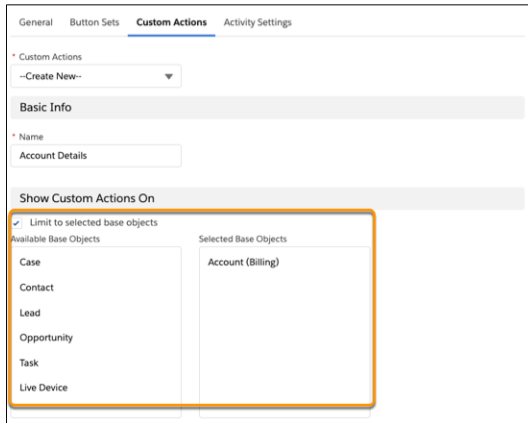
方法: Salesforce Connect を使用して提供元に接続し、Salesforce Maps の地図にプロットするデータを表すベースオブジェクトを作成します。

各ベースオブジェクトに表示されるカスタムアクションの指定

Salesforce Maps で各ベースオブジェクトに対して営業担当が実行できるカスタムアクションを決定します。たとえば、営業担当が取引先の詳細と商談のフェーズを更新できるようにカスタムアクションを設定します。表示された各レイヤに適用されるカスタムアクションのみをポップアップに表示することで、営業担当が使用するビューがシンプルになります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびモバイルに適用されます。

方法: Salesforce Maps の [設定] でカスタムアクションを作成または編集します。次に、選択したベースオブジェクトのみにカスタムアクションを制限します。



Map の新しい図形レイヤ

Salesforce Maps で使用できる図形レイヤを確認します。新しい地理上の境界を使用して特定の領域をプロットし、最新の公開データを使用してビジネスを成長させます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびモバイルに適用されます。

国	図形レイヤ
ベラルーシ	Voblast
ベリーズ	District
ベナン	Departement
ブルンジ	Province
カメルーン	Region
カナダ	County
中央アフリカ共和国	Prefecture
コモロ	Island
コートジボアール	District
キューバ	Provincia
ジブチ	Region
ドミニカ共和国	Provincia
エジプト	Mohafaza
エルサルバドル	Departamento
エチオピア	Region

国	図形レイヤ
	Zone
フェロー諸島	Sysla
イスラエル	Mahoz
ジャマイカ	City/District
	Parish
ヨルダン	Governorate
	Municipality
	Postal Code
カザフスタン	Audani
	Oblisi
ケニア	County
	Sub-County
クウェート	Governorate
	Postal Code
	Neighbourhood
キルギスタン	City
	County
ラトビア	Postal Code
レバノン	Caza
	Mohafazah
レソト	Council
	District
リベリア	County
	District
リビア	City
	District
ロシア	Okrug
タイ	Postal Code
トリニダード・トバゴ	Island
アラブ首長国連邦	Emirate

Salesforce Maps のその他の機能強化

プライバシー設定の表示ラベルの名前が変更されました。外部ソースからデータをプロットするときに地図上に表示されるマーカー数の制限を設定できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: ユーザ追跡のプライバシー設定の表示ラベルは、1つの追跡テクノロジーに限定されません。「Pendo 有効」は「ユーザ追跡有効」に変更され、「Pendo 無効」は「ユーザ追跡無効」に変更されました。

また、外部ソースから地図にプロットできるマーカー数を制限する設定が権限グループに追加されました。最大 2,000 個をプロットできます。

Setting	Value	Allow User Override
Maximum Records to Plot	5000	
Maximum Records to Plot for External Objects	2000	
Folder Administrator		
Show User Folders		

Salesforce Maps Advanced

他のカレンダーからの予定によって競合が生じた場合にも訪問とルートを最適化します。スケジュールに表示したくない行動は表示されないようにします。

このセクションの内容:

予定が重複する場合の訪問とルートの計画

Salesforce Maps Advanced で他のシステムからのカレンダーによって時間枠がブロックされている場合でも予定をスケジュールします。重複する予定についての警告を受信して、それらを回避するようにスケジュールします。

スケジュールでの特定の行動の非表示

不要な情報を減らし、予定をスケジュールするときに必要な情報のみを表示します。スケジュールしない非公開の行動や終日の行動にフラグを付けます。Salesforce Maps Advanced で他のシステムからのカレンダーによって時間枠がブロックされている場合でもスケジュールを最適化します。重複する予定についての警告を受信して、それらを回避するようにスケジュールします。

Salesforce Maps Advanced のその他の機能強化

より柔軟な訪問計画は、ビジネス目標の達成に役立ちます。密度の高いルートに沿った訪問を増やし、最適化の結果をより早く取得し、営業担当の訪問計画を最適化します。

予定が重複する場合の訪問とルートの計画

Salesforce Maps Advanced で他のシステムからのカレンダーによって時間枠がブロックされている場合でも予定をスケジュールします。重複する予定についての警告を受信して、それらを回避するようにスケジュールします。

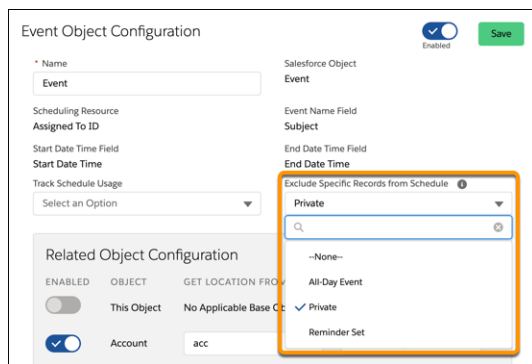
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびモバイルに適用されます。

スケジュールでの特定の行動の非表示

不要な情報を減らし、予定をスケジュールするときに必要な情報のみを表示します。スケジュールしない非公開の行動や終日の行動にフラグを付けます。Salesforce Maps Advanced で他のシステムからのカレンダーによって時間枠がブロックされている場合でもスケジュールを最適化します。重複する予定についての警告を受信して、それらを回避するようにスケジュールします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびモバイルに適用されます。

方法: Salesforce Maps の [設定] から [ルートとスケジュール] を選択します。次に、スケジュールに表示しない行動の種類を選択します。



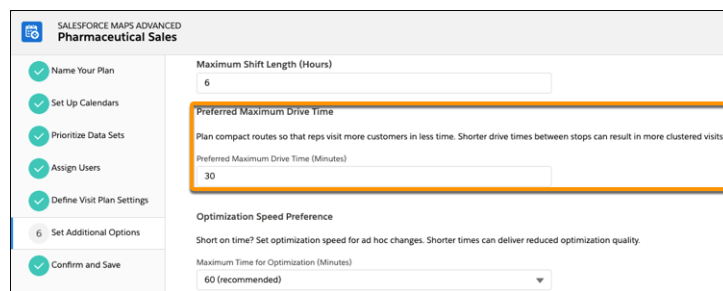
Salesforce Maps Advanced のその他の機能強化

より柔軟な訪問計画は、ビジネス目標の達成に役立ちます。密度の高いルートに沿った訪問を増やし、最適化の結果をより早く取得し、営業担当の訪問計画を最適化します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

短時間でより多くの顧客を訪問できるコンパクトなルート

目的地間の推奨移動時間を設定することで、営業担当の顧客訪問を増やします。営業担当は、移動時間を短縮し、顧客との関係構築により多くの時間を費やせるように1日を計画します。



外出先での臨時の変更に対する迅速な最適化

営業担当の外出中に最適化をより迅速に実行します。最適な結果を得るには、標準の最大60分を使用します。時間が短いと最適化が低下する可能性があります。

SALESFORCE MAPS ADVANCED
Pharmaceutical Sales

Maximum Shift Length (Hours)
6

Preferred Maximum Drive Time
Plan compact routes so that reps visit more customers in less time. Shorter drive times between stops can result in more clustered visits.

Preferred Maximum Drive Time (Minutes)
30

Optimization Speed Preference
Short on time? Set optimization speed for ad hoc changes. Shorter times can deliver reduced optimization quality.

Maximum Time for Optimization (Minutes)
60 (recommended)

将来の訪問の最適化

最適化プロセスをすべての営業担当に対して今日または将来の日付に有効になるように開始できます。選択した日付から開始する訪問を計画します。

SALESFORCE MAPS ADVANCED
Visit Plans

+ New Visit Plan Search Visit Plans...

Name	Description	Date Range	Status	Last Edited
Pharmaceutical Sales		04/01/2021 - 04/14/20...	Deployed	Alex Hoang - 03/26/2021

Plan My Visits

Plan visits starting from the selected date for all users with confirmed addresses and working hours.

Start routing from the following date:

May 2021

Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

Today

Cancel Plan

Edit
Clone
Deactivate
Delete
Assign Users
Plan Visits

Salesforce Maps テリトリー計画

トップダウン手法を適用する場合に、経営陣の目標に基づいてテリトリーを設計します。テリトリー内の特定の領域を設計する権限をマネージャに付与します。コピーされたデータセット内の最新のSalesforceデータを使用してユニットを更新します。

このセクションの内容:

経営陣の目標に沿ったテリトリーの計画

Salesforce Maps テリトリー計画でトップダウンでテリトリーを計画するときに営業管理やサービス管理の方向性を経営陣の目標と一致させます。そうすることで、会社全体のビジネス戦略に基づいて、地域や地区といった最大の領域から開始してテリトリーを設計できます。

配置内の領域へのアクセス権の付与

マネージャが Salesforce Maps テリトリー計画で経営陣によって割り当てられた領域内でのテリトリーの設計に集中できるようにします。すべてのマネージャが各自の領域のみにアクセスできるようにすることで、マネージャ間のプライバシーを維持します。

データセットのコピーと更新

データセットのコピーを使用してテリトリーの設計を練習します。または、配置の効果を検証するために、配置を Salesforce Maps テリトリー計画で更新したデータを使用して作成した配置と比較します。データセットとそのいずれかの配置をコピーするときに、作成されたコピーにコピー元からの最新のデータを含めることができます。

地図の新しいコンテナセット

Salesforce Maps テリトリー計画で使用できるコンテナセットを確認します。データセットを作成し、テリトリーを計画するときに、新しい地理上のテリトリー境界 (郵便番号など) を使用して特定の領域を選択します。

Salesforce Maps テリトリー計画のその他の機能強化

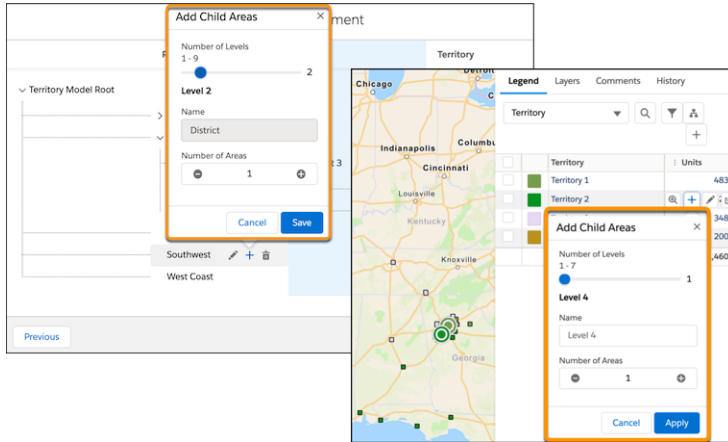
複数のユニット割り当てを同時に変更します。また、誤りのあるデータによってインポート全体が失敗することなく属性をインポートします。

経営陣の目標に沿ったテリトリーの計画

Salesforce Maps テリトリー計画でトップダウンでテリトリーを計画するときに営業管理やサービス管理の方向性を経営陣の目標と一致させます。そうすることで、会社全体のビジネス戦略に基づいて、地域や地区といった最大の領域から開始してテリトリーを設計できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: テリトリーモデルの最大の領域から開始して地域と地区を下位のテリトリーに分割します。次に、配置を作成するか、地図上で配置を調整します。



ユニットを均等に配分する代わりに地域と地区で目標を達成できるように配分します。このテリトリー計画手法に対応するために、次の柔軟性が用意されています。

- 最適化する地域から開始して、それらをより小さな領域に分割する。
- 配置のレベルを地図上で直接調整する。たとえば、地域を地区に分割し、地区をテリトリーに分割できます。テリトリー計画では地区内のすべてのユニットが最初のテリトリーに割り当てられます。それらのユニットをすべてのテリトリーに配分するには、後で配置を最適化します。

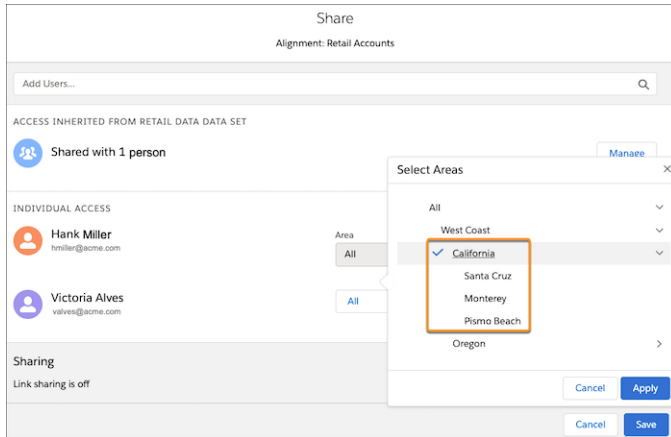
配置内の領域へのアクセス権の付与

マネージャが Salesforce Maps テリトリー計画で経営陣によって割り当てられた領域内でのテリトリーの設計に集中できるようにします。すべてのマネージャが各自の領域のみにアクセスできるようにすることで、マネージャ間のプライバシーを維持します。

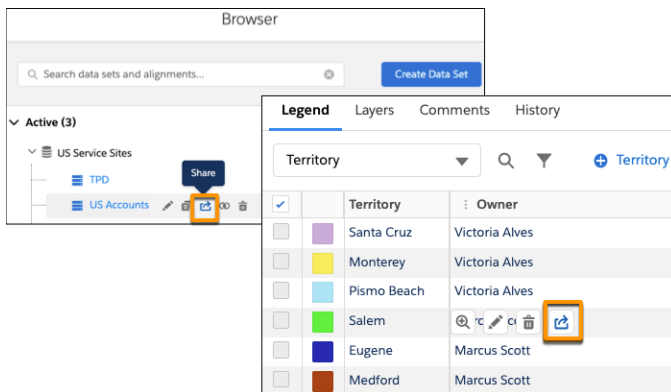
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: マネージャに特定の領域へのアクセス権を付与するときに、その領域と下位領域の作成と管理をマネージャが制御できるようにするかどうかを選択します。これによって、次のことを実現できます。

- テリトリー設計の責任を委任し、マネージャに自分の領域の構造を決定する権限を付与する。
- すべてのマネージャが各自の領域のテリトリーのみを計画するようにする。
- アクセス権を付与する領域の重要なデータやレイヤを配置の地図の凡例に表示する。そうすることで、全員が同じ目標に向けて取り組むことができます。



方法: 有効な配置リスト、地図の凡例、テリトリーモデルエディタから配置の特定の領域を共有するときにその領域へのアクセス権を付与します。



データセットのコピーと更新

データセットのコピーを使用してテリトリーの設計を練習します。または、配置の効果を検証するために、配置を Salesforce Maps テリトリー計画で更新したデータを使用して作成した配置と比較します。データセットとそのいずれかの配置をコピーするときに、作成されたコピーにコピー元からの最新のデータを含めることができます。

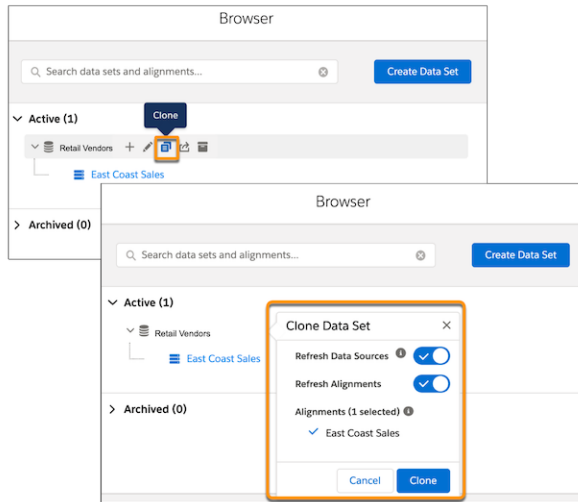
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: Sandbox 環境を作成すると、営業マネージャやサービスマネージャは元のデータセットや配置に影響を与えずにテリトリーデータを操作することができます。データセットをコピーするときに、すべてのデータソースを更新するかどうかを選択します。データソースを更新すると、コピーされたデータセットに対するレポートとクエリが再実行されます。これによって、次のことを実現できます。

- 元の配置の属性を更新した配置と比較することで、何がうまく行っており、何がうまく行っていないかを特定する。
- テリトリーモデルに最新のデータを統合するという経営陣からの要求に応える。

- たとえばマーケティングキャンペーンや商品リリースなどによる Salesforce 内の変化について説明し、新しいビジネスを獲得する。
- 最新のユニットを含む配置を公開する。

方法: 変更を行うたびにデータセットに最新のデータが表示されるようにするには、データセットの横にある [コピー] をクリックします。



関連トピック:

[IdeaExchange: Add Data Set Refresh Button \(データセット更新ボタンの追加\)](#)

地図の新しいコンテナセット

Salesforce Maps テリトリー計画で使用できるコンテナセットを確認します。データセットを作成し、テリトリーを計画するときに、新しい地理上のテリトリー境界 (郵便番号など) を使用して特定の領域を選択します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびモバイルに適用されます。

国	コンテナセット
ベリーズ	District
ベナン	Departement
バミューダ	Postal Code
ボリビア	Provincia
	Departamento
ボスニア・ヘルツェゴヴィナ	Region
	Postal Code

国	コンテナセット
	Kanton
ブルンジ	Province
カメルーン	Region
ケイマン諸島	Postal Code
中央アフリカ共和国	Prefecture
チリ	Postal Code
コモロ	Island
コートジボアール	Region
	District
キューバ	Provincia
ジブチ	Region
エルサルバドル	Departamento
赤道ギニア	Provincia
エリトリア	Sub-Region
	Region
エストニア	Region
	Postal Code
イスラエル	Postal Code
	Mahoz

Salesforce Maps テリトリー計画のその他の機能強化

複数のユニット割り当てを同時に変更します。また、誤りのあるデータによってインポート全体が失敗することなく属性をインポートします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: コンテナ内のユニットを割り当てる時間を節約し、属性をインポートするときにエラーを特定して修正します。

コンテナ内のユニットのテリトリーへの割り当て

コンテナ内のロックされていないすべてのユニットが適切な所有者に属していることを確認します。テリトリー計画では、コンテナ内のユニットをその割り当て済みテリトリーに割り当てることができます。

補足データのインポートに関する柔軟性の向上

一部のデータがテリトリー計画にすでに含まれている内容と一致しないためにエラーが発生する場合でも属性をインポートします。エラーは .csv ログファイル内に表示されます。このファイルはダウンロードできます。エラーがある場合には修正してからファイルをインポートします。

データセットと配置を作成するときに外部ソースからのデータを使用してユニット割り当てを更新します。

ユニット名を表す Salesforce 項目の指定

データセットを作成するときにユニット名を入力する項目を選択します。

Salesforce Meetings

営業担当は、Salesforce Meetings を離れることなく、より多くのアクションを実行したり、より多くのインサイトを取得して顧客の懸念に対処したりできるようになりました。Microsoft Teams ユーザは、Teams 内でミーティングのダイジェストを追加できます。

このセクションの内容:

ミーティングのダイジェストからの被招集者の詳細に対するアクションの実行

被招集者リストで使用可能なアクションを増やすことで、営業担当がミーティングの準備に集中できるようにします。ミーティングのダイジェストでは、営業担当が被招集者の詳細の更新、メールの開始、Salesforce への新しいレコードの追加を実行できます。

商談を進めるためのより多くのインサイトの取得

ミーティングの主催者が顧客の懸念に対応し、ミーティングへの準備を整えられるように、ミーティングのダイジェストには優先度の高いケースや未処理の顧客要求に関するインサイトが含まれるようになります。さらに、ミーティングの終了後に営業担当のミーティングのダイジェストには、フォローアップミーティングのスケジュールに関するリマインダー、内部チームやすべての被招集者にメールを送信するクイックアクション、未処理の要求に関するインサイトが表示されます。

ミーティングのダイジェストを最適化するためのコンポーネントの追加

ミーティングのダイジェストを使用する際の柔軟性を高めるために、新しい Salesforce Meetings のイベントレコードページレイアウトには他のコンポーネントを追加できる列が含まれています。Salesforce Meetings が有効になっていて、イベントレコードページをカスタマイズしていない場合は、新しいデフォルトページが使用されます。Lightning アプリケーションビルダーを使用して他の標準コンポーネントやカスタムコンポーネントを追加すると、営業担当がイベントレコードを表示したときにそれらを使用できます。

Salesforce Meetings での Zoom インテグレーション機能の利用

Einstein 活動キャプチャが有効になっている場合に Salesforce Meetings で Zoom インテグレーション機能を使用できるようになりました。営業担当のビデオ通話に関するデータを取得することで、各 Zoom ミーティングに関するインサイトの貴重なメタデータを収集できます。さらに、Salesforce Inbox を使用している営業担当は [対応可能時間を挿入] を使用してミーティングをスケジュールするときに Zoom ミーティングへのリンクを生成できます。

Microsoft Teams の会議へのミーティングのダイジェストの追加

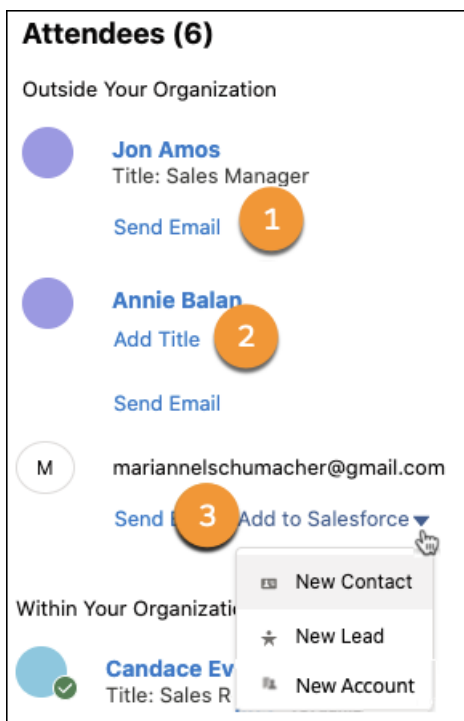
Microsoft Teams で作業している営業担当は、ミーティングのダイジェストを Teams 会議のカスタムタブとして追加できます。営業担当は Teams にアクセスした状態で、作業している場所からミーティングの確認や準備を行い、同じ関連レコードの詳細にアクセスし、メモを取り、Salesforce のレコード情報を最新に保つことができます。

ミーティングのダイジェストからの被招集者の詳細に対するアクションの実行

被招集者リストで使用可能なアクションを増やすことで、営業担当がミーティングの準備に集中できるようになります。ミーティングのダイジェストでは、営業担当が被招集者の詳細の更新、メールの開始、Salesforce への新しいレコードの追加を実行できます。

対象: この変更は、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud に適用されます。

方法: 営業担当は、ミーティングのダイジェストの確認中に Lightning メールコンポーザを起動してメールを作成し、被招集者に送信できます (1)。メールコンポーザでは、被招集者のメールアドレスとミーティングに関連するレコードが自動的に入力されます。メールはミーティングに関連するレコードに記録されます。被招集者の Salesforce レコードに役職が含まれていない場合には、営業担当はその情報を追加できます (2)。被招集者に一致する Salesforce レコードがない場合は、営業担当は取引先責任者、リード、取引先のどれを作成するかを選択できます (3)。



関連トピック:

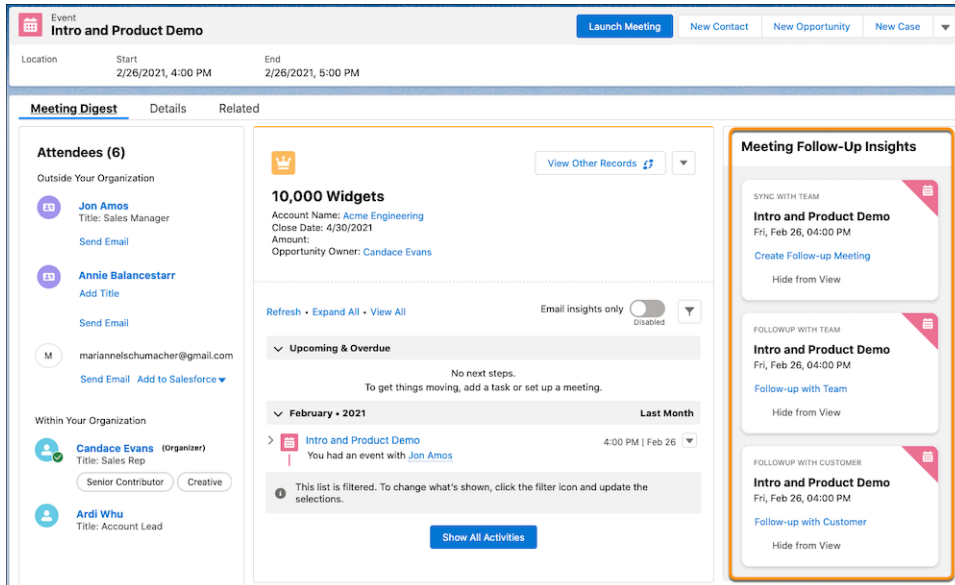
[Salesforce ヘルプ: Meeting Preparation and Follow-Up With the Meeting Digest \(\[ミーティングのダイジェスト\] を使用したミーティングの準備とフォローアップ\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

商談を進めるためのより多くのインサイトの取得

ミーティングの主催者が顧客の懸念に対応し、ミーティングへの準備を整えられるように、ミーティングのダイジェストには優先度の高いケースや未処理の顧客要求に関するインサイトが含まれるようになりました。さらに、ミーティングの終了後に営業担当のミーティングのダイジェストには、フォローアップミーティングのスケジュールに関するリマインダー、内部チームやすべての被招集者にメールを送信するクイックアクション、未処理の要求に関するインサイトが表示されます。

対象: この変更は、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud に適用されます。

理由: ミーティングのすべてのインサイトは、ミーティングのダイジェストの[ミーティングのインサイト]領域に表示されます。[優先度の高いケース]インサイトには関連レコードの取引先、外部取引先責任者、外部メールアドレスに関連付けられたケースが含まれています。[未処理の要求]には、ミーティングの被招集者であるリードや取引先責任者からのメールが含まれています。ミーティングの終了後は、インサイトはフォローアップアクション専用になります。



関連トピック:

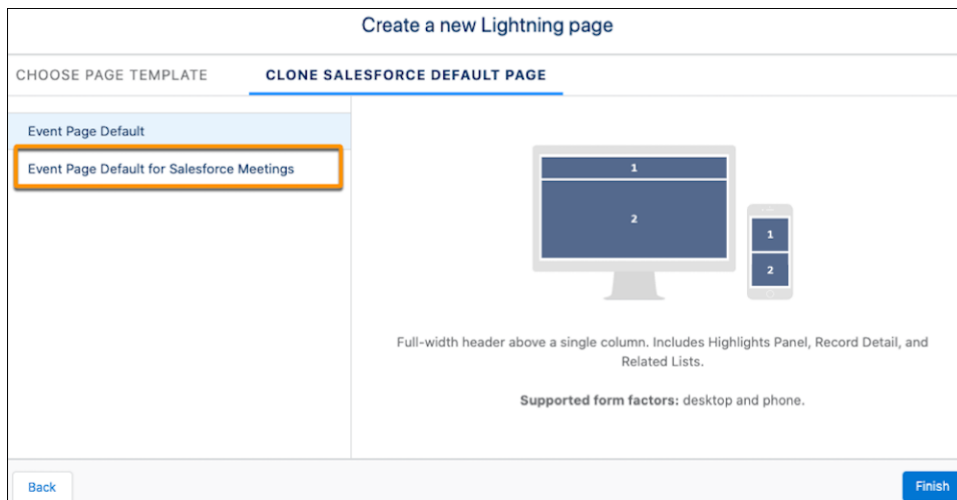
[Salesforce ヘルプ: Meeting Preparation and Follow-Up With the Meeting Digest \(\[ミーティングのダイジェスト\]を使用したミーティングの準備とフォローアップ\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ミーティングのダイジェストを最適化するためのコンポーネントの追加

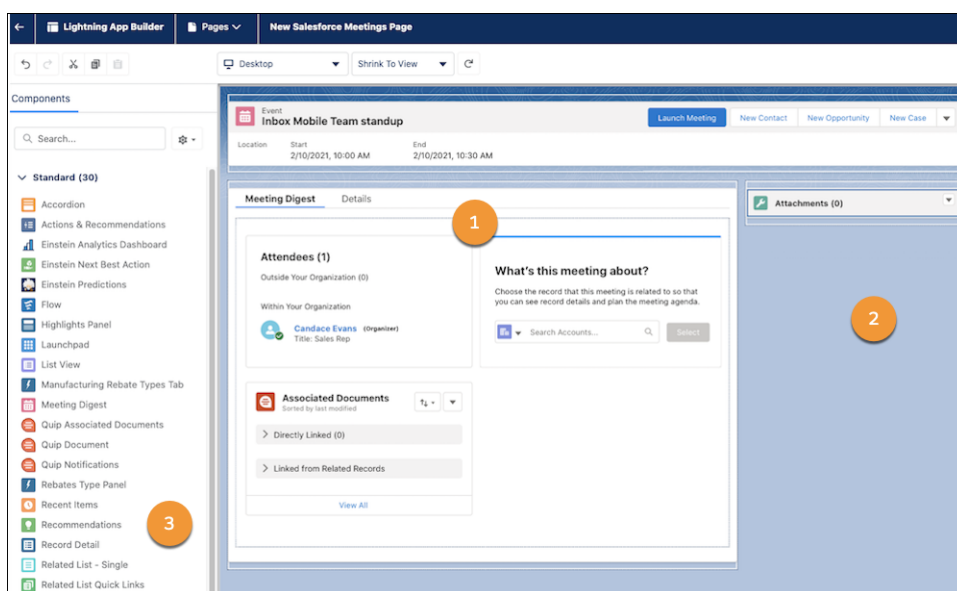
ミーティングのダイジェストを使用する際の柔軟性を高めるために、新しい Salesforce Meetings のイベントレコードページレイアウトには他のコンポーネントを追加できる列が含まれています。Salesforce Meetings が有効になっていて、イベントレコードページをカスタマイズしていない場合は、新しいデフォルトページが使用されます。Lightning アプリケーションビルダーを使用して他の標準コンポーネントやカスタムコンポーネントを追加すると、営業担当がイベントレコードを表示したときにそれらを使用できます。

対象: この変更は、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud に適用されます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーを使用してイベントオブジェクトのレコードページを作成し、[Salesforce Meetings のイベントページのデフォルト]をコピーします。



ページの最も広い領域にはミーティングのダイジェストコンポーネント (1) が含まれ、それより小さな領域にはイベントレコードの添付ファイルが表示される関連リストが含まれています (2)。ミーティングのダイジェストの上、下、または横の列に標準コンポーネントやカスタムコンポーネントを追加します (3)。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning アプリケーションビルダー \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)


[Salesforce ヘルプ: Salesforce Meetings の設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Salesforce Meetings での Zoom インテグレーション機能の利用

Einstein 活動キャプチャが有効になっている場合に Salesforce Meetings で Zoom インテグレーション機能を使用できるようになりました。営業担当のビデオ通話に関するデータを取得することで、各 Zoom ミーティングに関するインサイトの貴重なメタデータを収集できます。さらに、Salesforce Inbox を使用している営業担当は [対応可能時間を挿入] を使用してミーティングをスケジュールするときに Zoom ミーティングへのリンクを生成できます。

対象: この変更は、Salesforce Meetings が使用可能で Einstein 活動キャプチャが有効になっている場合に、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud に適用されます。

方法: Salesforce Meetings が使用可能で Einstein 活動キャプチャが有効になっていることを確認します。次に、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「動画」と入力し、[Zoom 動画設定] を選択します。設定が完了すると、営業担当はビデオアカウントを接続するように求められます。

 **メモ:** Zoom ミーティング中に取得されたデータは Salesforce の動画レコードに収集されて使用できます。Salesforce Meetings 外部の機能である Einstein 会話インサイトの追加により、ユーザはビデオ通話レコードから通話記録を再生し、通話の詳細を参照することができます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Zoom インテグレーション \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

Microsoft Teams の会議へのミーティングのダイジェストの追加

Microsoft Teams で作業している営業担当は、ミーティングのダイジェストを Teams 会議のカスタムタブとして追加できます。営業担当は Teams にアクセスした状態で、作業している場所からミーティングの確認や準備を行い、同じ関連レコードの詳細にアクセスし、メモを取り、Salesforce のレコード情報を最新に保つことができます。

対象: この変更は、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud および Service Cloud に適用されます。

時期: Microsoft Teams でのミーティングのダイジェストの追加は、Summer '21 リリースで後から Microsoft Teams インテグレーションで使用できるようになります。

対象ユーザ: この機能を使用できるのは、Salesforce Meetings へのアクセス権を持ち、Einstein 活動キャプチャを使用して行動が同期されている Microsoft Teams インテグレーションユーザです。この機能は、デスクトップの Microsoft Teams で使用できます。

方法: Microsoft Teams ユーザが初めて Teams で Salesforce Meetings を固定すると、Teams アカウントを Salesforce に接続するように求められます。アカウントを接続した後に、Teams の会議が Einstein 活動キャプチャを使用して同期されている行動に一致すると、行動の主催者は Salesforce Meetings を Teams の会議に固定できます。その他の被招集者は現時点では Salesforce Meetings を固定できません。

ミーティングのすべての被招集者には Teams で固定されたタブが表示されます。ただし、タブ内の Salesforce Meetings を表示して操作できるのは、該当する Salesforce の行動レコードへのアクセス権を持つ被招集者のみです。

関連トピック:

[Salesforce と Microsoft Teams の統合 \(正式リリース\)](#)

Einstein 会話インサイト

Einstein 会話インサイトは、High Velocity Sales 商品を使用しないセールスユーザが利用できるようになりました。また、サービスエージェントは、新しいサービス関連のインサイトを備えた商品のコーチング機能を使用できます。ユーザは通話区分に Chatter コメントを残すこともでき、ビデオ通話の一連の機能がロールアウトされる予定です。

Einstein 会話インサイトでは通話は記録されません。自分で Sales Dialer、Service Cloud Voice、その他のサポートされるパートナーなどの録音システムに接続します。通話が録音される方法について、同意を管理し、地域のプライバシー要件に準拠するのはお客様の責任です。

このセクションの内容:

[High Velocity Sales なしでの会話インサイトの使用](#)

ユーザが会話インサイト機能を利用するために、High Velocity Sales は必須ではありません。ツールは標準製品として使用できるようになりました。

[サービスエージェントでの会話インサイトの使用](#)

サービスエージェントとそのマネージャは、営業担当がすでに使用できるようになっているすべてのコーチング機能を利用できるようになりました。さらに、マネージャは顧客の不満や顧客離れのリスクなど、サービスユーザのみが利用可能なインサイトにアクセスできます。

[会話インサイト録音プロバイダとしての Service Cloud Voice の追加](#)

Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice は営業通話およびサービス通話の録音プロバイダとしてサポートされるようになりました。

[通話区分でのコメント](#)

顧客との会話の一部を強調するために、会話インサイトユーザは Chatter を使用して通話の関連セクションでコメントできるようになりました。

[音声通話の共有](#)

マネージャと営業担当は、ビデオ通話記録を視聴することでメリットを得ることができるユーザやグループとビデオ通話を共有できます。ビデオ通話では、成功する営業手法と顧客関係についてのインサイトを得ることができます。

[Chatter を使用したビデオレコードに関する考察](#)

通話録音 Chatter フィードでビデオ通話に関する重要な考察をメモします。メモは録音と共に残されるため、営業担当は後でインサイトを参照できます。営業担当とマネージャは、Chatter フィードを使用してビデオ通話の録音にコメントできます。

ビデオ通話参加者とそのレコードの照合

ビデオ通話に参加する取引先責任者、リード、個人取引先、ユーザは、通話記録に自動的にリストされます。営業担当は、参加者の手動追跡について心配する必要はなく、通話中の重要な詳細に集中するために時間を費やすことができます。さらに、参加者の名前はレコードページにリンクされ、コンパクトレイアウトがフロート表示されます。

コレクションへのビデオ通話の追加

通話コレクションにより、成功した営業ビデオ通話が強調されます。ビデオ通話をコレクションにアーカイブして、新しい営業担当をトレーニングしたり、営業チームの特長を確認したりできます。

High Velocity Sales なしでの会話インサイトの使用

ユーザが会話インサイト機能を利用するために、High Velocity Sales は必須ではありません。ツールは標準製品として使用できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

方法: Einstein 会話インサイトは、High Velocity Sales と切り離して使用できます。営業インサイトへのアクセスでは、営業向け Einstein 会話インサイトを使用します。サービスインサイトへのアクセスでは、サービス向け Einstein 会話インサイトを使用します。

Einstein 会話インサイトへのアクセス権を持つ既存の High Velocity Sales ユーザは、営業インサイトのみアクセスできます。

サービスエージェントでの会話インサイトの使用

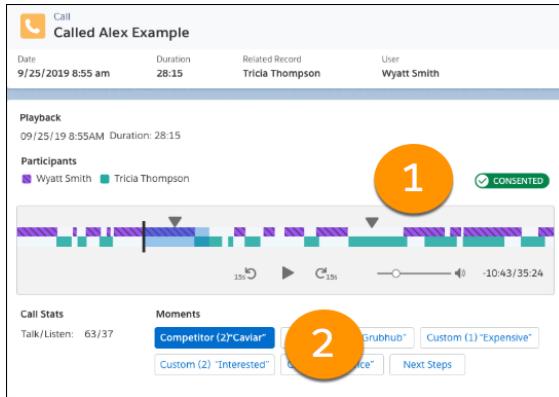
サービスエージェントとそのマネージャは、営業担当がすでに使用できるようになっているすべてのコーチング機能を利用できるようになりました。さらに、マネージャは顧客の不満や顧客離れのリスクなど、サービスユーザのみが利用可能なインサイトにアクセスできます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

対象ユーザ: この機能は、「サービス向け会話インサイト」権限セットを持つユーザが使用できます。

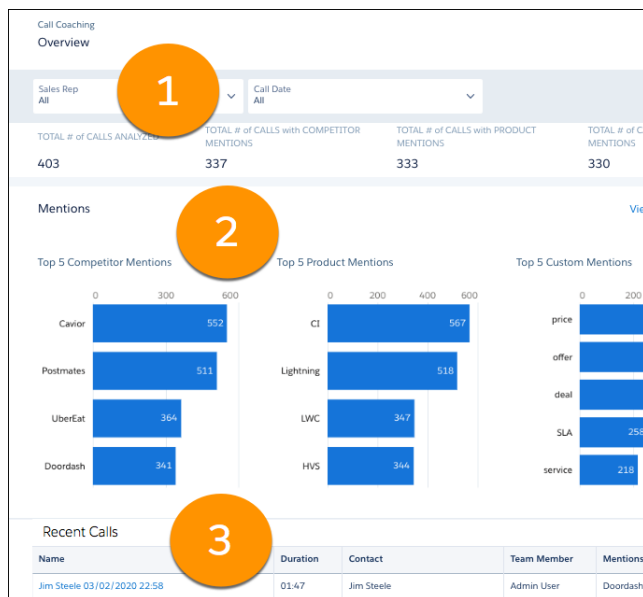
理由: サービス向け会話インサイトには、サービスの使用事例に固有の一連の自動的なサービス関連インサイトがあります。これらのインサイトには、顧客のエスカレーション、顧客離れのリスク、支払、エージェントと顧客の最も長い発言が含まれます。次のステップやトレンド用語などの営業に関連した自動インサイトは含まれません。

営業担当やそのマネージャが使用可能なコーチング機能をサービスエージェントの使用事例に使用できます。会話記録を再生し、競合他社、商品、カスタムキーワードのメンションを可視化できます。



マネージャは音声通話レコードから通話記録を再生し、トーク対リスン比率を含め通話の詳細を確認できます。異なる色で通話の参加者が示されます。プレーヤーから通話内の異なるメンションに移動します (1)。異なるメンション (2) をクリックして、通話の特定の領域を強調表示し、その領域に移動します。

マネージャは、別のインサイトに関するレポートとダッシュボードを表示することもできます。



[概要] ページから、マネージャはサービスエージェントと通話日時で絞り込み(1)、ロール階層に基づいて上位のメンションのレポートを確認できます (2)。[概要] ページの [最後の通話] テーブル (3) には、記録へのリンクも提供されます。この記録は、チームが最近発信した通話です。

会話インサイト録音プロバイダとしての Service Cloud Voice の追加

Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice は営業通話およびサービス通話の録音プロバイダとしてサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

方法: [設定] の [会話インサイト] にある [一般設定] から Amazon Connect を録音プロバイダとして追加します。

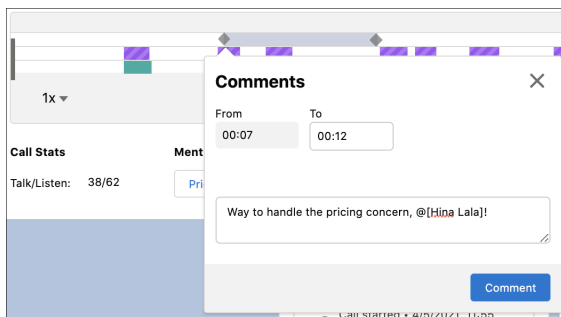
通話区分でのコメント

顧客との会話の一部を強調するために、会話インサイトユーザは Chatter を使用して通話の関連セクションでコメントできるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

対象ユーザ: この機能は、サービス向け Einstein 会話インサイトへのアクセス権を持つユーザが使用できます。

方法: 会話インサイトユーザは、録音のタイムラインでグレーの棒をクリックし、通話の特定の部分にコメントを追加できます。コメントは最初特定のタイムスタンプに関連付けられますが、ユーザは終了時間を編集して通話の一部についてコメントできます。



コメントはタイムラインとレコードの Chatter フィードでポップオーバーとして表示されます。他の Chatter 投稿の場合と同じように、ユーザは他のユーザをメンションして重要な更新を通知できます。[コメントに移動] をクリックして、録音の関連するセクションをキューに登録します。

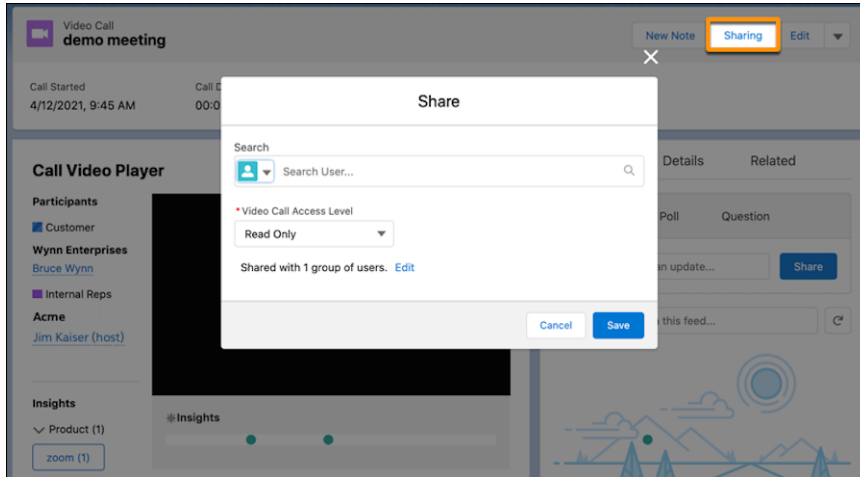
音声通話の共有

マネージャと営業担当は、ビデオ通話記録を視聴することでメリットを得ることができるユーザやグループとビデオ通話を共有できます。ビデオ通話では、成功する営業手法と顧客関係についてのインサイトを得ることができます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

対象ユーザ: 営業担当とそのマネージャは、Einstein 会話インサイトへのアクセス権を持つ他のユーザやグループと通話を共有できます。

方法: ビデオレコードページから、営業担当とそのマネージャは [共有] をクリックできます。共有ウィンドウで、共有するユーザ、ロール、または公開グループを選択できます。その後、ビデオ通話のアクセスレベルを設定して保存できます。このウィンドウで [編集] をクリックして、通話の共有を解除することもできます。

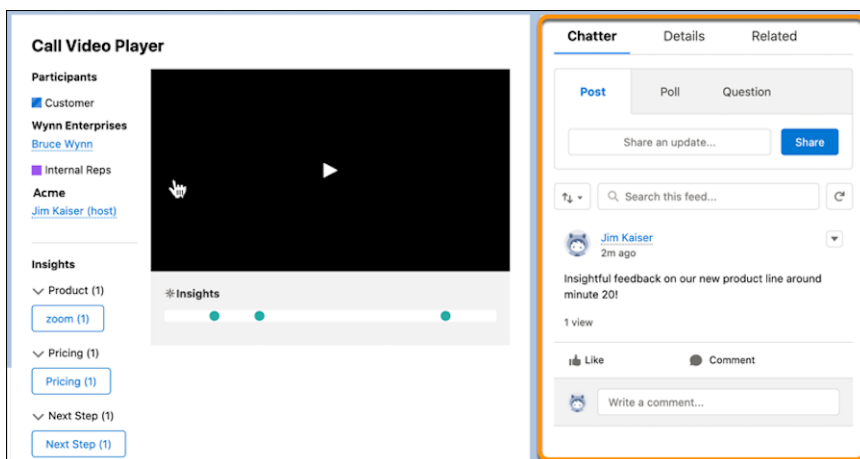


Chatter を使用したビデオレコードに関する考察

通話録音 Chatter フィードでビデオ通話に関する重要な考察をメモします。メモは録音と共に残されるため、営業担当は後でインサイトを参照できます。営業担当とマネージャは、Chatter フィードを使用してビデオ通話の録音にコメントできます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

方法: 営業担当は、ビデオ通話の Chatter フィードでコメントを追加および検索できます。

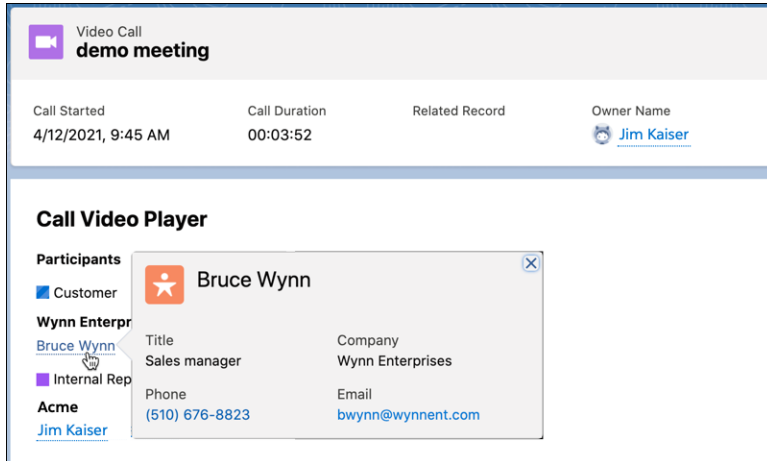


ビデオ通話参加者とそのレコードの照合

ビデオ通話に参加する取引先責任者、リード、個人取引先、ユーザは、通話記録に自動的にリストされます。営業担当は、参加者の手動追跡について心配する必要はなく、通話中の重要な詳細に集中するために時間を費やすことができます。さらに、参加者の名前はレコードページにリンクされ、コンパクトレイアウトがフロート表示されます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

方法: ビデオ通話参加者のレコードの詳細を表示するには、参加者リスト内の名前にマウスポインタを置きます。

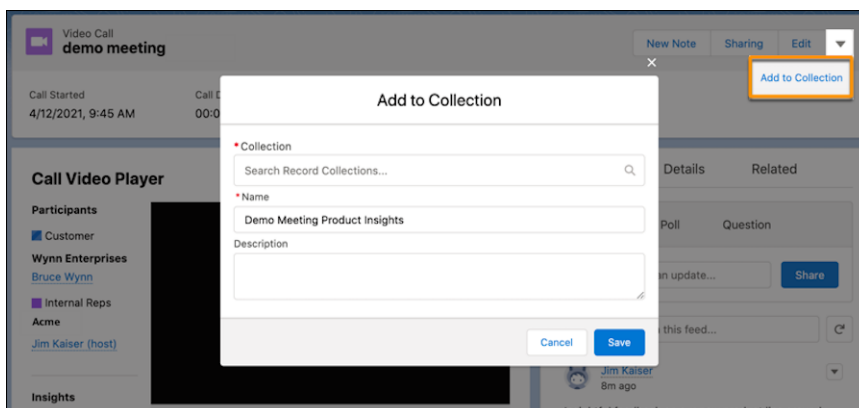


コレクションへのビデオ通話の追加

通話コレクションにより、成功した営業ビデオ通話が強調されます。ビデオ通話をコレクションにアーカイブして、新しい営業担当をトレーニングしたり、営業チームの特長を確認したりできます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein 会話インサイトに適用されます。Einstein 会話インサイトは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

方法: ビデオレコードページのページアクションドロップダウンから、[コレクションに追加] を選択します。次に、コレクション名を検索するか、コレクションを作成して保存します。



High Velocity Sales

リード、取引先責任者、ユーザ、セールスレイダースのエンゲージメントに関するレポートを作成します。LinkedIn のステップをセールスレイダースに追加し、セールスレイダースページでエンゲージメントデータを確認します。

High Velocity Sales とその機能は、有料オプションで使用できます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Sales Dialer も有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

このセクションの内容:

リード、取引先責任者、ユーザ、セールスレイダースのエンゲージメントに関するレポートの作成

新しいカスタムレポートタイプとサンプルレポートにより、営業マネージャは誰がいつメールや通話にエンゲージしているかを確認できます。日次レポートと月次レポートには、リード、取引先責任者、およびユーザのエンゲージメントデータが表示されます。月次レポートには、セールスレイダースのエンゲージメントが表示されます。

セールスレイダース

LinkedIn InMail と接続要求のステップをセールスレイダースに追加し、セールスレイダースのページに各ステップのエンゲージメントデータ、メールテンプレート、コールスクリプトを表示します。

リード、取引先責任者、ユーザ、セールスレイダースのエンゲージメントに関するレポートの作成

新しいカスタムレポートタイプとサンプルレポートにより、営業マネージャは誰がいつメールや通話にエンゲージしているかを確認できます。日次レポートと月次レポートには、リード、取引先責任者、およびユーザのエンゲージメントデータが表示されます。月次レポートには、セールスレイダースのエンゲージメントが表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

時期: これらのレポートは、2021 年 7 月 1 日に使用可能になります。

理由: リード、取引先責任者、およびユーザの日次レポートと月次レポートで、営業マネージャにメールや通話の詳細なエンゲージメントアクティビティを表示します。

Report: Leads with Monthly Engagements
Leads with Monthly Engagements Report
 How engaged are my Leads on overall email and call activity per month?

Total All Emails Sent Count	Total All Emails Delivered Count	Total Unique Emails Opened Co...	Total Unique Emails Replied Cou...	Total Unique Emails Link Clicke...
234	203	88	37	32

Full Name ↑	Month	Lead Source	All Emails Sent Count	All Emails Delivered Count	Unique Emails Opened Count	Unique Emails Replied Count
Ajinkya Rahane	3/1/2021	-	1	1	1	1
Arthur Lead	3/1/2021	-	4	4	1	-
bill weiss	3/1/2021	-	2	2	-	-
Dan Leadford	3/1/2021	-	1	1	1	1
G. Anthony Newick	2/15/2021	-	5	2	-	-
Haim Vaisburd	4/1/2021	-	1	1	-	-
H Patil	4/1/2021	-	2	2	-	-

月次総計値が関連するセールスケイデンスステップレポートには、セールスケイデンス、ステップ、メールテンプレート、コールスクリプト別のエンゲージメントの詳細が表示されます。

Report: Sales Cadences & Steps with Monthly Metrics
Sales Cadence Steps with Monthly Metrics
 Which Sales Cadence results in the best target engagement per month? Which specific steps, email templates, and call scripts?

Total All Emails Sent per Month	Total All Emails Bounced per Mo...	Total Unique Emails Opened per...	Total Unique Emails Replied per ...	Total Unique Emails Link Clicke...	Total All Calls per Month	Total All Calls Meaningful Conne...
977	181	405	154	123	407	136

Name ↑	Step Title ↑	Template: Name ↑	Month	All Emails Sent per Month	All Emails Bounced per Month	Unique Emails Opened per Month	Unique Emails Replied per Month
Conference Outreach	Automated email send	-	-	-	-	-	-
	Subtotal			0	0	0	0
	Connection Request Send	-	-	-	-	-	-
	Subtotal			0	0	0	0
	InMail Send	-	-	-	-	-	-
	Subtotal			0	0	0	0
	Make a call	-	-	-	-	-	-
	Subtotal			0	0	0	0
Subtotal				0	0	0	0

方法: レポートを表示するには、High Velocity Sales のサンプルレポートフォルダを参照してください。レポートタイプを操作するには、[設定] の [レポートタイプ] を参照してください。

セールスケイデンス

LinkedIn InMail と接続要求のステップをセールスケイデンスに追加し、セールスケイデンスのページに各ステップのエンゲージメントデータ、メールテンプレート、コールスクリプトを表示します。

このセクションの内容:

セールスケイデンスで LinkedIn を介して見込み客とつながる

LinkedIn を使用して顧客や見込み客について学び、コミュニケーションを取る営業チームは、InMail と接続要求を直接セールスプロセスに組み込むことができるようになりました。[セールスケイデンスで LinkedIn を使用] を有効にすると、営業マネージャは InMail および接続要求ステップで LinkedIn を介して見込み客とつながるセールスケイデンスを作成できます。

各セールスケイデンスステップのエンゲージメントの成功の確認

新しいセールスケイデンスエンゲージメントコンポーネントを使用して、営業マネージャがセールスケイデンスステップの効果を確認できるようになります。セールスケイデンスページで、マネージャは各ステップの各メールテンプレートまたはコールスクリプトのエンゲージメント率と合計を表示し、パイプラインをより適切に推進するための更新を行うことができます。

セールスケイデンスのその他の機能強化

セールスケイデンスに見込み客を追加し、プログラムでセールスケイデンスを進めます。

セールスケイデンスで LinkedIn を介して見込み客とつながる

LinkedIn を使用して顧客や見込み客について学び、コミュニケーションを取る営業チームは、InMail と接続要求を直接セールスプロセスに組み込むことができるようになりました。[セールスケイデンスで LinkedIn を使用] を有効にすると、営業マネージャは InMail および接続要求ステップで LinkedIn を介して見込み客とつながるセールスケイデンスを作成できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

対象ユーザ: この機能は、「High Velocity Sales ケイデンス作成者」権限を持つユーザが使用できます。

方法: セールスケイデンスで LinkedIn ステップを使用して、営業チームのアウトリーチオプションを拡張します。High Velocity Sales の [設定] で、[セールスケイデンスで LinkedIn を使用] を有効にします。

The image shows two side-by-side screenshots of Salesforce step configuration interfaces. Both screens have a blue header with the LinkedIn logo and a title bar with a back arrow, the step name, and a 'Cancel' button.

Left Screenshot: InMail

- Title: InMail
- Step Name: Send an InMail
- Email Template: Welcome Email (with an 'x' to remove it)
- Step Description: Send the welcome email via InMail.
- Buttons: Delete (red), Save (blue)

Right Screenshot: Connection Request

- Title: Connection Request
- Step Name: Send Connection Request
- Step Description: Connect with the prospect on LinkedIn.
- Buttons: Delete (red), Save (blue)

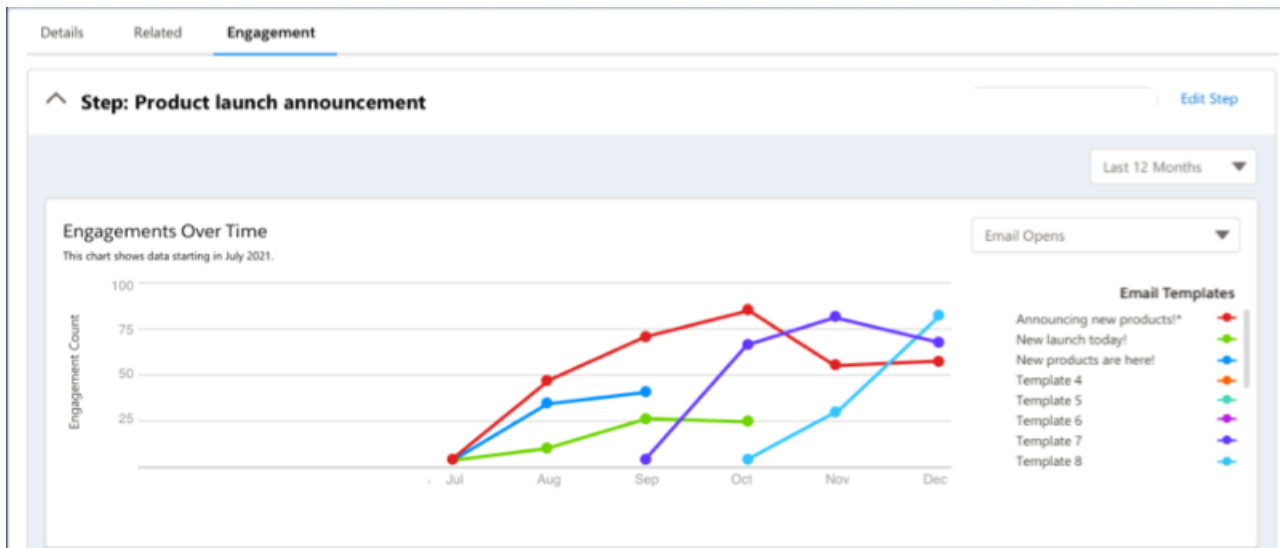
各セールステイデンスステップのエンゲージメントの成功の確認

新しいセールステイデンスエンゲージメントコンポーネントを使用して、営業マネージャがセールステイデンスステップの効果を確認できるようになります。セールステイデンスページで、マネージャは各ステップの各メールテンプレートまたはコールスクリプトのエンゲージメント率と合計を表示し、パイプラインをより適切に推進するための更新を行うことができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

時期: セールステイデンスエンゲージメントデータは、2021年7月に使用可能になります。

方法: Lightning アプリケーションビルダーで、セールステイデンスエンゲージメントコンポーネントをセールステイデンスページレイアウトに追加します。



セールステイデンスのその他の機能強化

セールステイデンスに見込み客を追加し、プログラムでセールステイデンスを進めます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

対象ユーザー: この機能は、「High Velocity Sales ユーザ」または「High Velocity Sales ケイデンス作成者」権限を持つユーザーが使用できます。

理由: 営業チームは有効なセールステイデンスの対象の制限を 150,000 から 500,000 に増やすことができるようになりました。この制限を増やすには、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

また、セールステイデンス API も拡張されたため、プロセスビルダー、フロー、またはカスタムコードを使用して、ステップを自動的に進めたりスキップしたりできるようになりました。

Sales Cloud Einstein

より正確なスコアを得るためにさまざまな種別のリードを個別にスコアリングし、ガイド付き設定を使用して Einstein リードスコアリングをより簡単に設定します。

このセクションの内容:

リード区分を個別にスコアリングしてより正確な結果を取得

リードのグループごとにリードおよび取引開始履歴を個別に評価するように Einstein に指示すると、スコアがさらに役立ちます。たとえば、展示会と広告キャンペーンからのリードを個別にスコアリングして、Einstein に一意の取引開始パターンを判断させ、それぞれにより適したスコアを付けることができます。

ガイド付き設定を使用した Einstein リードスコアリングの簡単な有効化

Einstein リードスコアリングを設定するときに行う選択は、リードスコアの精度に影響します。新しいガイド付き設定フローでは、各選択肢が説明されてコンテキストが提供されるため、ビジネスに適した決定を下すことができます。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

リード区分を個別にスコアリングしてより正確な結果を取得

リードのグループごとにリードおよび取引開始履歴を個別に評価するように Einstein に指示すると、スコアがさらに役立ちます。たとえば、展示会と広告キャンペーンからのリードを個別にスコアリングして、Einstein に一意の取引開始パターンを判断させ、それぞれにより適したスコアを付けることができます。

対象: この変更は、Performance Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 異なる種別のリードに対応している場合、それらの取引開始パターンには大きな違いがある可能性があります。項目に基づく条件を使用して異なる区分に配置すると、Einstein はそれらのパターンに基づいてより正確なスコアを計算できます。ビジネスに適した条件に基づいて区分を定義します。

方法: [Einstein リードスコアリングの設定] で、項目に基づく条件を使用して、それぞれのリード区分を定義します。区分を優先順に配置します。リードが複数の区分の条件を満たしている場合、Einstein はそれが優先度の高い方の区分に含まれるものとしてスコアリングします。

Which leads do you want to include in each segment?

Arrange your segments in priority order. If a lead falls into multiple segments, Einstein scores it from the highest priority segment.

[+ Add Segment](#)


▼ Trade Show Leads

* Segment Name
Trade Show Leads

* Include Records That
Meet All Conditions

* Field	* Operator	* Type	* Value
Lead Source	Equals	Picklist	Trade Show

[+ Add Condition](#)

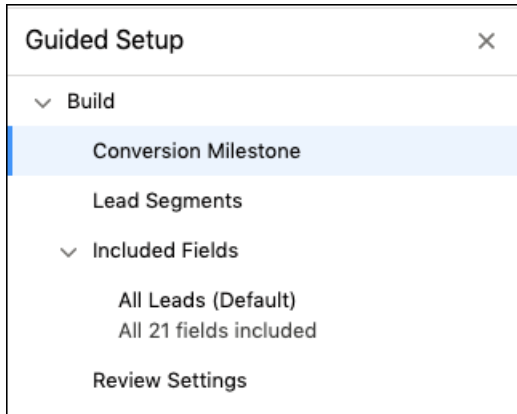
-  **メモ:** Summer '21 リリース日の直後、および Einstein リードスコアリング設定を更新するたびに、リード取引開始比率を含む Tableau CRM リードスコアリングダッシュボードの一部のデータは、次回 Einstein がスコアを更新するまで不正確な可能性があります。この問題は、単一区分ですべてのリードをスコアリングした場合でも、Einstein が各リード区分の区分 ID を更新しているときに発生します。

ガイド付き設定を使用した Einstein リードスコアリングの簡単な有効化

Einstein リードスコアリングを設定するときに行う選択は、リードスコアの精度に影響します。新しいガイド付き設定フローでは、各選択肢が説明されてコンテキストが提供されるため、ビジネスに適した決定を下すことができます。

対象: この変更は、Performance Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。


方法: ガイド付き設定フローに従って、ビジネスのリードスコアリングを最適化するために行う設定を選択します。



設定フローに従って、会社が事業を行う方法に一致する取引開始マイルストーンを選択し、分析用のリードの区分を作成し、取引開始パターンを探すときに考慮するリード項目を Einstein に指示します。


Conversion Milestone

How do your sales reps convert most of their leads?




Account and Contact

Leads convert to accounts and contacts.



Account, Contact, and Opportunity

Sales reps usually create opportunities upon lead conversion.




Why does Einstein care how my team converts leads?

Your choice affects how Einstein looks for patterns in your past lead conversions.

To generate scores showing a lead's relative likelihood of converting to an account and contact, choose the convert to account and contact option.

To generate scores showing a lead's relative likelihood of converting to an opportunity, choose the convert to account, contact and opportunity milestone. To use this milestone, sales reps must create opportunities during lead conversion.

[Tell Me More](#) 

[Next](#)


Lead Segments

Which lead records should Einstein score?

All Leads

Segments of Leads

Most Common



How do I decide which leads to score?


Let's say you have domestic leads and international leads. Their conversion patterns could have significant differences. If you use the Country field to put them in different segments, Einstein can calculate more accurate scores based on those patterns.

Define your segments based on the criteria that make sense for your business.

[Tell Me More](#)

Which leads do you want to include in each segment?

Arrange your segments in priority order. If a lead falls into multiple segments, Einstein scores it from the highest priority segment.



[+ Add Segment](#)

▼

* Segment Name

* Include Records That

Meet All Conditions

* Field	* Operator	* Type	* Value
Select a field... <input type="text"/>	Select <input type="text"/>	Sel <input type="text"/>	Enter a value. <input type="text"/>

[+ Add Condition](#)

What makes a good segment?

Here are some ideas to consider:


- Homogeneous groups that align with your business structure and goals
- A group that's easily distinguished from other leads, such as retail vs. commercial leads
- Groups that align with your marketing efforts
- The segment criteria are likely to be stable over time

[Tell Me More](#)

Which fields should Einstein include in All Leads (Default)?

View All ▾

<input checked="" type="checkbox"/> Field Label ▾	Field Name ▾	Data Type ▾
<input checked="" type="checkbox"/> Address	Address	textarea
<input checked="" type="checkbox"/> Annual Revenue	AnnualRevenue	currency
<input checked="" type="checkbox"/> Company	Company	string
<input checked="" type="checkbox"/> Created By	CreatedById	reference
<input checked="" type="checkbox"/> Data.com Key	Jigsaw	string
<input checked="" type="checkbox"/> Description	Description	textarea
<input checked="" type="checkbox"/> Email	Email	email
<input checked="" type="checkbox"/> First Call Date	FirstCallDateTime	datetime
<input checked="" type="checkbox"/> First Email Date	FirstEmailDateTime	datetime
<input checked="" type="checkbox"/> Individual	IndividualId	reference
<input checked="" type="checkbox"/> Industry	Industry	picklist
<input checked="" type="checkbox"/> Last Modified By	LastModifiedById	reference
<input checked="" type="checkbox"/> Lead Owner	OwnerId	reference
<input checked="" type="checkbox"/> Lead Source	LeadSource	picklist
<input checked="" type="checkbox"/> Lead Status	Status	picklist
<input checked="" type="checkbox"/> Name	Name	string



Should I tell Einstein to exclude any lead fields?

Some businesses use fields that don't affect the lead's chance of converting. For example, you might have a field that isn't used until after a lead converts. Telling Einstein to exclude those fields yields more accurate lead scores.

Before excluding a field, make sure the field doesn't affect the lead's chance of converting. Excluding fields that do affect lead quality decreases the accuracy of your lead scores.

[Tell Me More](#)

Google とのインテグレーション

Inboxを備えたGmailインテグレーションで内部メールの開封がメール追跡されるのをブロックできます。Lightning Syncを使用して行動を同期している顧客の場合は、GoogleカレンダーのイベントでGoogle Meetの参加の詳細を含めます。

このセクションの内容:

[Gmail™ インテグレーション](#)

Inboxを備えたGmailインテグレーションで内部メールの開封がメール追跡されるのをブロックできます。

[Lightning Sync for Google](#)

GoogleカレンダーのイベントでGoogle Meetの詳細を含めます。取引先責任者と行動の同期に利用可能な機能強化に興味がある方は、Einstein活動キャプチャの機能を確認してください。

Gmail™ インテグレーション

Inboxを備えたGmailインテグレーションで内部メールの開封がメール追跡されるのをブロックできます。

このセクションの内容:

[Inbox を備えた Gmail インテグレーションで内部メールの開封の追跡データを除外](#)

Gmail から送信され、メール追跡が設定されているメールで、総メール開封数とクリックされたリンク数をより正確に示すことができます。送信者がメールを開封した場合を含めてエンゲージメントデータから内部の開封数を省略するには、会社の IP アドレス範囲をメール追跡除外リストに追加します。

Inbox を備えた Gmail インテグレーションで内部メールの開封の追跡データを除外

Gmail から送信され、メール追跡が設定されているメールで、総メール開封数とクリックされたリンク数をより正確に示すことができます。送信者がメールを開封した場合を含めてエンゲージメントデータから内部の開封数を省略するには、会社の IP アドレス範囲をメール追跡除外リストに追加します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

関連トピック:

[IP アドレスのブロックによるメール開封データの調整](#)

Lightning Sync for Google

Google カレンダーのイベントで Google Meet の詳細を含めます。取引先責任者と行動の同期に利用可能な機能強化に興味がある方は、Einstein 活動キャプチャの機能を確認してください。

このセクションの内容:

[Google カレンダーのイベントで Google Meet の詳細を含める](#)

Google カレンダーのイベントで Google Meet の参加の詳細を再び含められるようにするには、Lightning Sync 設定からこの機能を有効にします。2020 年 9 月に、Google がそのイベント API に対して行った制限により、この機能には、元々 Salesforce で作成された Google カレンダーのイベントに参加の詳細を含めることが必要になりました。

[Google ユーザ向けの Einstein 活動キャプチャの新機能の確認](#)

Winter '21 以降、Einstein 活動キャプチャは新規の Salesforce サブスクリプションを持つ顧客にとって取引先責任者と行動を同期するための主力製品となりました。ただし、既存の Lightning Sync ユーザーであったとしても、次世代製品の新機能をご確認ください。営業担当が Einstein 活動キャプチャをすぐに活用できるように、営業担当のメールとカレンダーの接続の状況を確認できるようになりました。Lightning Sync と同様、Einstein 活動キャプチャでも Google カレンダーのイベントで Google Meet の詳細を含めることができる設定が導入されています。

Google カレンダーのイベントで Google Meet の詳細を含める

Google カレンダーのイベントで Google Meet の参加の詳細を再び含められるようにするには、Lightning Sync 設定からこの機能を有効にします。2020 年 9 月に、Google がそのイベント API に対して行った制限により、この機能には、元々 Salesforce で作成された Google カレンダーのイベントに参加の詳細を含めることが必要になりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: [設定] のユーザに割り当てられた各 Lightning Sync 設定のデータセットで、[Google イベントで Google Meet の詳細を含める] を選択します。その後、営業担当が Salesforce で行動を作成した場合、行動が Google カレンダーに同期されたときに Google Meet への参加の詳細が Google バージョンのイベントに追加されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Sync for Google を営業担当向けに定義 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Google ユーザ向けの Einstein 活動キャプチャの新機能の確認

Winter'21 以降、Einstein 活動キャプチャは新規の Salesforce サブスクリプションを持つ顧客にとって取引先責任者と行動を同期するための主力製品となりました。ただし、既存の Lightning Sync ユーザであったとしても、次世代製品の新機能をご確認ください。営業担当が Einstein 活動キャプチャをすぐに活用できるように、営業担当のメールとカレンダーの接続の状況を確認できるようになりました。Lightning Sync と同様、Einstein 活動キャプチャでも Google カレンダーのイベントで Google Meet の詳細を含めることができる設定が導入されています。

対象: Lightning Sync と Einstein 活動キャプチャは、さまざまなエディションで利用できます。

関連トピック:

[Einstein 活動キャプチャ](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャと Lightning Sync の比較 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャの機能 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

Microsoft® とのインテグレーション

Outlook インテグレーションで新しいサーバとクライアントの設定オプションを利用できます。Salesforce for Outlook のサイドパネルのアクションメニューは使用できなくなります。

このセクションの内容:

[Salesforce と Microsoft Teams の統合 \(正式リリース\)](#)

営業チームとサービスチームは、Salesforce を使用して顧客関係を管理します。さらに、Microsoft® Teams でチャットし、販売パイプラインとサービスケースに関連するトピックについて話し合います。Teams との Salesforce インテグレーションにより、Teams チャンネルおよびチャットの会話から Salesforce レコードに関するコンテキストが提供されます。つまり、アプリケーション間を切り替える必要がなくなります。Salesforce の機能と Teams の接続により、グループは協力して必要なときに必要な情報を見つけることができます。Salesforce ユーザは、Teams で Salesforce レコードにメンションして、コラボレーションを促進できます。他のユーザが投稿したレコードの詳細をプレビューしたり、レコードをチャンネルタブに固定して簡単にアクセスしたり、インライン編集でレコードを最新の状態に保つことができます。営業担当は、Salesforce レコードの Chatter フィードへの重要な会話の瞬間の投稿を Teams から行うこともできます。

[Outlook® インテグレーション](#)

macOS Big Sur を実行している Outlook for Mac から Outlook インテグレーションを使用できます。公開 Exchange Web サービスエンドポイントを使用せずに Exchange サーバを設定できます。Microsoft AppSource の代わりにファイルを使用して Outlook インテグレーションをインストールできます。

[Lightning Sync for Microsoft® Exchange](#)

Microsoft Office 365® を使用する既存の Lightning Sync ユーザの場合は、Exchange Online での基本認証の廃止に関する Microsoft の発表を確認することをお勧めします。Microsoft は先日、廃止スケジュールを調整しました。取引先責任者と行動の同期の最新情報に興味がある方は、Einstein 活動キャプチャの機能を確認してください。

[Salesforce for Outlook](#)

まだ Salesforce for Outlook を使用している場合は、今年6月のサイドパネルアクションメニューの削除から開始される段階的な廃止スケジュールについて確認してください。Salesforce Classic に対するアクセス権の最近の変更によって Salesforce for Outlook の接続がブロックされたお客様は、再接続する方法をご確認ください。

Salesforce と Microsoft Teams の統合 (正式リリース)

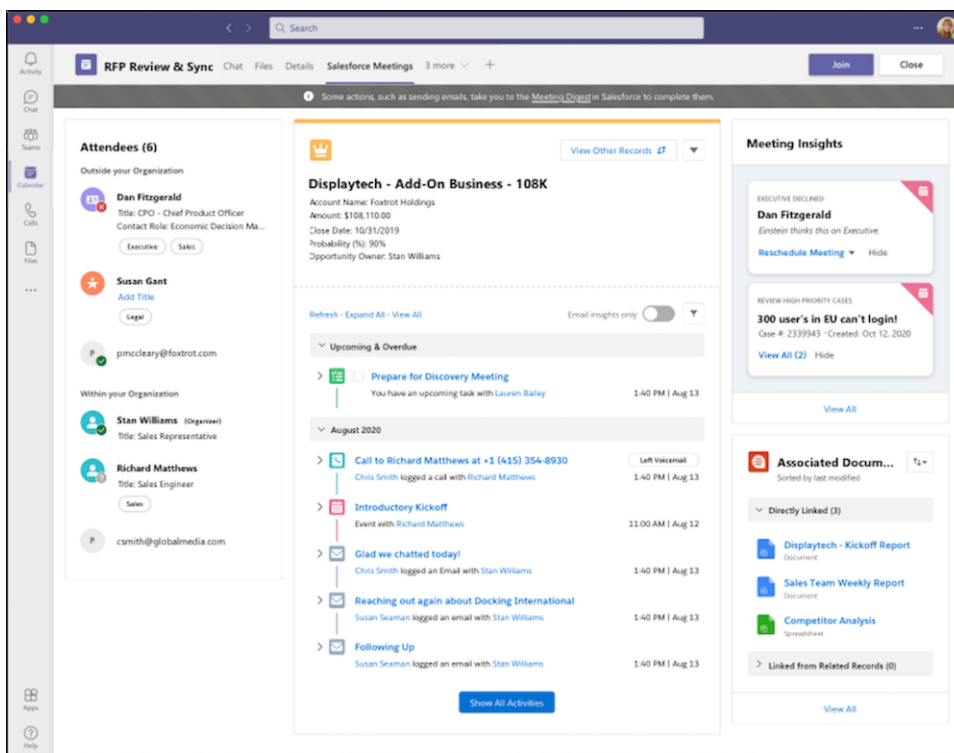
営業チームとサービスチームは、Salesforce を使用して顧客関係を管理します。さらに、Microsoft® Teams でチャットし、販売パイプラインとサービスケースに関連するトピックについて話し合います。Teams との Salesforce インテグレーションにより、Teams チャンネルおよびチャットの会話から Salesforce レコードに関するコンテキストが提供されます。つまり、アプリケーション間を切り替える必要がなくなります。Salesforce の機能と Teams の接続により、グループは協力して必要なときに必要な情報を見つけることができます。Salesforce ユーザは、Teams で Salesforce レコードにメンションして、コラボレーションを促進できます。他のユーザが投稿したレコードの詳細をプレビューしたり、レコードをチャンネルタブに固定して簡単にアクセスしたり、インライン編集でレコードを最新の状態に保つことができます。営業担当は、Salesforce レコードの Chatter フィードへの重要な会話の瞬間の投稿を Teams から行うこともできます。

対象: この変更は、Sales Cloud と Service Cloud を使用する Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。有効にすると、デスクトップ、モバイル、および Web バージョンの Teams からインテグレーション機能を使用できます。

時期: 2021 年 6 月 25 日からインテグレーションを有効にできます。

理由: Salesforce の機能と Microsoft Teams の接続を組み合わせることで、グループが協力して必要なときに必要な情報を見つけ、時間と労力を節約できます。元のパイロットからさらに優れたエクスペリエンスを提供するために、インテグレーションユーザはより多くのメリットを活用して顧客関係を改善できます。

- 営業担当はアクセスできる任意の Salesforce オブジェクト (カスタムオブジェクトを含む) を使用でき、Teams の会話でそれらのオブジェクトについてメンションしたり、オブジェクトをチャットタブやチャンネルタブに固定したりできます。
- Teams で作業している営業担当は、顧客とのミーティングで Salesforce Meetings を最大限に活用できます。



方法: パイロットユーザは Teams への Salesforce インテグレーションを再有効化する必要があります。[設定] の [クイック検索] ボックスに「Teams」と入力し、[Teams インテグレーション] を選択して、インテグレーションを有効化します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Microsoft Teams インテグレーション \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

[Microsoft Teams の会議へのミーティングのダイジェストの追加](#)

Outlook® インテグレーション

macOS Big Sur を実行している Outlook for Mac から Outlook インテグレーションを使用できます。公開 Exchange Web サービスエンドポイントを使用せずに Exchange サーバを設定できます。Microsoft AppSource の代わりにファイルを使用して Outlook インテグレーションをインストールできます。

このセクションの内容:

[macOS Big Sur で使用可能な Outlook インテグレーション](#)

Outlook インテグレーションと Inbox を備えた Outlook インテグレーションのユーザは、コンピュータで macOS Big Sur を実行している場合に Outlook for Mac からインテグレーションにログインできるようになりました。これまで、Big Sur オペレーティングシステムにアップグレードしたユーザはインテグレーションにアクセスできませんでした。

[公開 Exchange Web サービスを使用しない Outlook インテグレーションの設定](#)

Exchange Web サービス (EWS) を Salesforce に公開しなくても、Microsoft Outlook を Salesforce と統合できるようになりました。この変更により、Outlook インテグレーションの要件が簡略化されます。また、以前はその機能を活用できなかった組織でもインテグレーションが可能になります。

[Microsoft AppSource の代わりにファイルからの Outlook インテグレーションのインストール](#)

Outlook インテグレーションは、Microsoft AppSource からだけでなくファイルからインストールすることもできるようになりました。ファイルからインストールすることで、セキュリティポリシーにより Microsoft AppSource にアクセスできない多くの会社でもインテグレーションを利用できます。

[Inbox を備えた Outlook インテグレーションで内部メールの開封の追跡データを除外](#)

Outlook から送信され、メール追跡が設定されているメールで、総メール開封数とクリックされたリンク数をより正確に示すことができます。送信者がメールを開封した場合を含めてエンゲージメントデータから内部の開封数を省略するには、会社の IP アドレス範囲をメール追跡除外リストに追加します。

[古いバージョンの Outlook および Windows での Outlook インテグレーションのサポート終了](#)

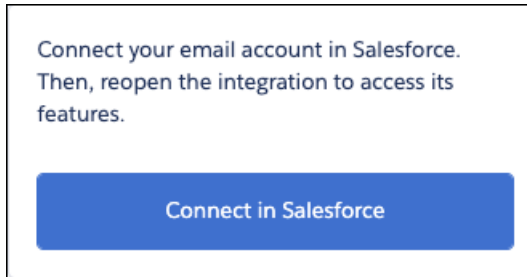
Outlook 2013、Outlook 2016、および Outlook 2019 のボリュームライセンスバージョンでの Outlook インテグレーションの実行のサポートは 2021 年 12 月 31 日に終了します。2021 年末以降も Outlook インテグレーションの使用を継続するには、今すぐアップグレードの計画を立ててください。2021 年 12 月以降は、Office バージョン 16.0.11629 以降、Windows 10 バージョン 1903 以降が必要です。

macOS Big Sur で使用可能な Outlook インテグレーション

Outlook インテグレーションと Inbox を備えた Outlook インテグレーションのユーザは、コンピュータで macOS Big Sur を実行している場合に Outlook for Mac からインテグレーションにログインできるようになりました。これまで、Big Sur オペレーティングシステムにアップグレードしたユーザはインテグレーションにアクセスできませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: Outlook for Mac から、すでにメールアカウントを Salesforce に接続しているユーザは通常どおりに Salesforce にログインするようメッセージが表示されます。Inbox も使用している初めてのインテグレーションユーザの場合、Salesforce でアカウントを接続するようメッセージが表示されます。



[Salesforce で接続] をクリックして Lightning Experience を開き、[メールとカレンダーアカウント] ページを開きます。[新規アカウント] をクリックし、指示に従ってアカウントを接続します。次に、Outlook for Mac に戻り、インテグレーションを再び開いてログインプロセスを続行します。

公開 Exchange Web サービスを使用しない Outlook インテグレーションの設定

Exchange Web サービス (EWS) を Salesforce に公開しなくても、Microsoft Outlook を Salesforce と統合できるようになりました。この変更により、Outlook インテグレーションの要件が簡略化されます。また、以前はその機能を活用できなかった組織でもインテグレーションが可能になります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: 既存の Salesforce 顧客の場合、この設定は、Summer'21 リリースからローリング方式でリリースされます。タイミングと対象資格についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Summer '21 での Salesforce の新規顧客の場合、または Summer '21 より前に Outlook インテグレーションを有効にしていない顧客の場合、この機能は自動的に使用可能になります。

方法: EWS を公開することなくすべてのインテグレーション機能を営業担当が利用できるようにするには、Exchange サーバと Outlook クライアントで Microsoft Office JavaScript API v1.8 以降をサポートしている必要があります。その API バージョンは次で使用できます。

- Exchange Online
- バージョン 1910 (ビルド 12130.20272) 以降の Microsoft 365
- バージョン 1910 (ビルド 12130.20272) 以降の Office 2019 (小売のみ)

Exchange または Outlook のバージョンで JavaScript API v1.8 以降をサポートしているか確認するには、[Microsoft ドキュメント](#) を参照してください。

JavaScript API v1.7 以前が実行されている次の Exchange バージョンまたは Outlook クライアントを使用している場合でも、EWS を Salesforce に公開せずに Outlook インテグレーションを設定することはできます。ただし、営業担当はインテグレーションから直接メール添付ファイルを記録したり、Inbox 機能を使用したりすることはできません。

- Exchange 2016 および 2019
- Office 2013、2016、または Office 2019 の 1 回限りの購入

いずれのシナリオでも、Outlook と Exchange 間のローカル EWS 接続は必要です。また、Exchange メタデータ URL は引き続き公開する必要があります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Outlook インテグレーションのシステム要件](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: Outlook インテグレーションに向けた Microsoft Exchange サーバの設定](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[外部リンク: Outlook JavaScript API の要件セット](#) (Microsoft ドキュメント)

Microsoft AppSource の代わりにファイルからの Outlook インテグレーションのインストール

Outlook インテグレーションは、Microsoft AppSource からだけでなくファイルからインストールすることもできるようになりました。ファイルからインストールすることで、セキュリティポリシーにより Microsoft AppSource にアクセスできない多くの会社でもインテグレーションを利用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce システム管理者が Salesforce の [設定] の [Outlook インテグレーションおよび同期] ページからマニフェストファイルを取得します。システム管理者はファイルを保存した後で、ファイルを営業担当がアクセスできる一元的な場所に配置することも、Microsoft の一元型リリースを使用して営業担当の Outlook クライアントにインストールを配信することもできます。リンクをユーザと共有することもできます。

営業担当はアドインをインストールするときに Outlook で [ファイルから追加] オプションまたは [URL から追加] オプションを使用します。

重要: 常に最新機能が提供される最新バージョンのアドインを使用できるように、個別のアクセスまたはシステム管理者の一元型リリースにより、Microsoft AppSource から Salesforce アプリケーションを取得することをお勧めします。ストアからアプリケーションを取得することで、ファイルが更新されたときに必ず更新が利用できるようになります。頻繁ではありませんが、一部の機能ではマニフェストファイルに対する変更が必要になる場合があります。ファイルの方法を使用してアドインをインストールする場合、

更新が必要な機能を利用するにはファイルを再インストールする必要があります。ファイルの更新が必要な機能に関するお知らせについては、各リリースのリリースノートを確認してください。

関連トピック:

[外部リンク: Outlook 用 Office アドインの入手 \(Microsoft ドキュメント\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Distribute the Outlook Integration to Users \(ユーザへの Outlook インテグレーションの配布\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Inbox を備えた Outlook インテグレーションで内部メールの開封の追跡データを除外

Outlook から送信され、メール追跡が設定されているメールで、総メール開封数とクリックされたリンク数をより正確に示すことができます。送信者がメールを開封した場合を含めてエンゲージメントデータから内部の開封数を省略するには、会社の IP アドレス範囲をメール追跡除外リストに追加します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

関連トピック:

[IP アドレスのブロックによるメール開封データの調整](#)

古いバージョンの Outlook および Windows での Outlook インテグレーションのサポート終了

Outlook 2013、Outlook 2016、および Outlook 2019 のボリュームライセンスバージョンでの Outlook インテグレーションの実行のサポートは 2021 年 12 月 31 日に終了します。2021 年末以降も Outlook インテグレーションの使用を継続するには、今すぐアップグレードの計画を立ててください。2021 年 12 月以降は、Office バージョン 16.0.11629 以降、Windows 10 バージョン 1903 以降が必要です。

対象: この変更は、Outlook 2013、Outlook 2016、またはボリュームライセンスされた Outlook 2019 を含む古い Outlook バージョンで実行しているすべてのエディションの Outlook インテグレーション (旧称 Lightning for Outlook) に適用されます。

理由: 最新の Microsoft のセキュリティおよび製品の更新を利用できるように、常に Outlook および Windows の最新バージョンを実行することをお勧めします。さらに、Outlook インテグレーションは、Microsoft アドインフレームワークに基づいて構築されています。このフレームワークの元のバージョンでは、デスクトップバージョンの Outlook から Salesforce アドインを起動するために Internet Explorer 11 が使用されます。この要件は、Salesforce アドインだけではなく、このフレームに基づいて構築されたすべてのアドインに適用されていました。アドインフレームワークの最新バージョンでは、アドインを起動するために Microsoft Edge を使用します。Edge は最近のバージョンの Windows のネイティブブラウザです。Outlook インテグレーションは引き続き、最新テクノロジーを使用するために最新のフレームワークバージョンに基づいて構築されます。

方法: 2021 年 12 月以降も引き続き Outlook インテグレーションを使用できるように、今すぐ Office バージョン 16.0.11629 以降、Windows 10 バージョン 1903 以降へのアップグレードを計画してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Outlook インテグレーションのシステム要件 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Lightning Sync for Microsoft® Exchange

Microsoft Office 365® を使用する既存の Lightning Sync ユーザの場合は、Exchange Online での基本認証の廃止に関する Microsoft の発表を確認することをお勧めします。Microsoft は先日、廃止スケジュールを調整しました。取引先責任者と行動の同期の最新情報に興味がある方は、Einstein 活動キャプチャの機能を確認してください。

このセクションの内容:

[Microsoft ユーザ向けの Einstein 活動キャプチャの新機能の確認](#)

Winter '21 以降、Einstein 活動キャプチャは新規の Salesforce サブスクリプションを持つ顧客にとって取引先責任者と行動を同期するための主力製品となりました。ただし、既存の Lightning Sync ユーザであったとしても、次世代製品の新機能をご確認ください。Microsoft Exchange Server 2019、2016、または 2013 を使用している場合、サービスアカウントを使用して Einstein 活動キャプチャを接続できます。営業担当が Einstein 活動キャプチャをすぐに活用できるように、営業担当のメールとカレンダーの接続の状況を確認できるようになりました。

[Exchange Online での基本認証の廃止に関する Microsoft の発表の確認](#)

2020 年末に、Microsoft は Exchange Online の基本認証の廃止スケジュールを修正しました。会社で Lightning Sync の接続方法として Exchange Online とサービスアカウントを使用している場合は、更新された廃止スケジュールを確認してください。その後、廃止時に接続方法を更新する準備をすると良いでしょう。または、Einstein 活動キャプチャへの移行を検討するのも良いでしょう。

Microsoft ユーザ向けの Einstein 活動キャプチャの新機能の確認

Winter '21 以降、Einstein 活動キャプチャは新規の Salesforce サブスクリプションを持つ顧客にとって取引先責任者と行動を同期するための主力製品となりました。ただし、既存の Lightning Sync ユーザであったとしても、次世代製品の新機能をご確認ください。Microsoft Exchange Server 2019、2016、または 2013 を使用している場合、サービスアカウントを使用して Einstein 活動キャプチャを接続できます。営業担当が Einstein 活動キャプチャをすぐに活用できるように、営業担当のメールとカレンダーの接続の状況を確認できるようになりました。

対象: Lightning Sync と Einstein 活動キャプチャは、さまざまなエディションで利用できます。

関連トピック:

[Einstein 活動キャプチャ](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャと Lightning Sync の比較 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャの機能 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

Exchange Online での基本認証の廃止に関する Microsoft の発表の確認

2020 年末に、Microsoft は Exchange Online の基本認証の廃止スケジュールを修正しました。会社で Lightning Sync の接続方法として Exchange Online とサービスアカウントを使用している場合は、更新された廃止スケジュールを確認してください。その後、廃止時に接続方法を更新する準備をすると良いでしょう。または、Einstein 活動キャプチャへの移行を検討するのも良いでしょう。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この廃止による影響を受けるユーザは次のとおりです。

- サービスアカウントを使用して Salesforce に接続している、Exchange Online の既存の Lightning Sync ユーザ。
- 2020 年 10 月以降に作成された Microsoft テナントに移行する予定の、Exchange Online の既存の Lightning Sync ユーザ。新しい Microsoft テナントの Exchange Online では基本認証を使用できません。Lightning Sync を使用するには代替の認証サービスが必要です。
- Lightning Sync を初めて使用する Exchange Online ユーザは、製品を設定するための接続方法を選択する必要があります。Lightning Sync は可用性が限られているため、このシナリオの対象になるのは少数のユーザのみです。

次のユーザは影響を受けません。

- サービスアカウントの接続方法を使用して Salesforce に接続している、Exchange 2019[®]、Exchange 2016[®]、Exchange 2013[®] のオンプレミスサーバのユーザ。Microsoft はこれらのサーバについて、基本認証の廃止を発表していません。
- OAuth 2.0 の接続方法を使用して Salesforce に接続している、Office 365 のユーザ。

理由: 各自の Microsoft テナントにある Exchange Online の基本認証が Microsoft によってブロックされると、「対象ユーザ」セクションで説明されているユーザの取引先責任者と行動の同期が停止します。

方法: 同期の中断を回避するには、会社の Microsoft 管理者または IT プロフェッショナルと協力して、廃止による影響の有無と廃止の時期を確認します。続いて、使用可能なソリューションを検討し、最適なものを選択します。「Microsoft Office 365 のユーザが使用できる Lightning Sync サービスアカウントの接続方法」を参照してください。

関連トピック:

外部リンク: [Basic Authentication and Exchange Online \(基本認証および Exchange Online – 2021 年 2 月の更新プログラム\)](#)

Salesforce ヘルプ: [Lightning Sync のシステム要件 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Salesforce ヘルプ: [接続方法特有のセキュリティ対策 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Salesforce for Outlook

まだ Salesforce for Outlook を使用している場合は、今年 6 月のサイドパネルアクションメニューの削除から開始される段階的な廃止スケジュールについて確認してください。Salesforce Classic に対するアクセス権の最近の変更によって Salesforce for Outlook の接続がブロックされたお客様は、再接続する方法をご確認ください。

このセクションの内容:

アクションメニューの廃止

営業担当は Outlook から直接、サイドパネルアクションメニューを使用して Salesforce レコードを作成できなくなりました。この変更がシステム管理者と営業担当に及ぼす影響と、2023年6月に予定されている Salesforce for Outlook 製品全体の廃止について説明します。

サービスが中断された場合のアクセスの復元

Salesforce Classic のアクセス権の変更により、Salesforce for Outlook ユーザへのサービスが中断される可能性があります。Salesforce for Outlook サービスの中断を回避する方法、または 2023年6月の製品全体の廃止までに過去のアクセス権を復元する方法について説明します。

バージョン固有の Salesforce for Outlook リリースノートの検索

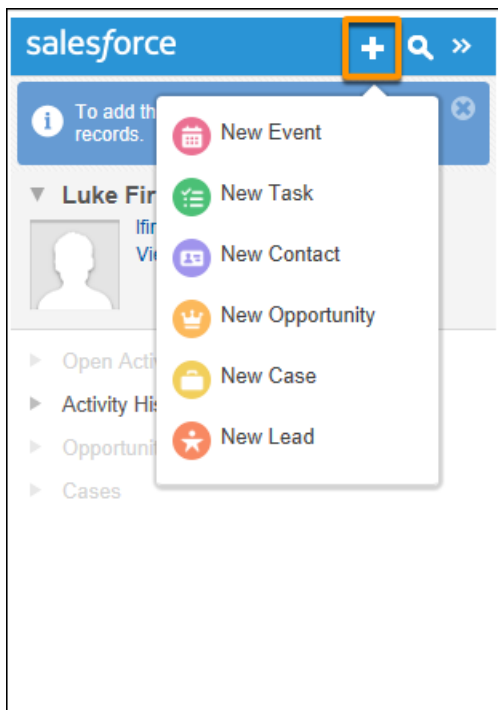
各 Salesforce for Outlook バージョンで使用可能な更新について疑問がありますか? Outlook/Teams、Gmail、および Inbox Trailblazer Community でバージョン固有のリリースノートを検索してください。

アクションメニューの廃止

営業担当は Outlook から直接、サイドパネルアクションメニューを使用して Salesforce レコードを作成できなくなりました。この変更がシステム管理者と営業担当に及ぼす影響と、2023年6月に予定されている Salesforce for Outlook 製品全体の廃止について説明します。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: Summer '21 以降、Outlook のサイドパネルに新規レコードボタン (+) が表示されなくなりました。その結果、営業担当は Salesforce for Outlook を使用して Salesforce レコードを作成できなくなります。



再び Salesforce レコードを作成するには、営業担当は Salesforce にログインできます。または次世代の製品である Outlook インテグレーションに移行する準備ができている場合は、その製品で使用可能になるサイドパネルを使用して Outlook から直接レコードを作成できます。

[設定] の [Outlook 設定] で引き続きメールパブリッシャーレイアウトの編集と作成を行うことはできますが、それによって Salesforce for Outlook のサイドパネルのアクションメニューは影響を受けなくなりました。ただし、Outlook インテグレーションへの移行が予定されている場合は、既存のレイアウトを削除しないことをお勧めします。Outlook インテグレーションを設定するときにそれらを再設定できます。

残りの Salesforce for Outlook 機能は製品全体が廃止される 2023 年 6 月まで使用できます。詳細は、「[Salesforce for Outlook の廃止](#)」を参照してください。

この間、引き続き次世代の Microsoft インテグレーション製品向けの新機能がリリースされます。Summer '21 の新機能については、[Outlook インテグレーション](#)および [Einstein 活動キャプチャ](#) のリリースノートを確認してください。準備ができている場合は、すぐにでも移行することをお勧めします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce for Outlook から次世代製品への移行\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

サービスが中断された場合のアクセスの復元

Salesforce Classic のアクセス権の変更により、Salesforce for Outlook ユーザへのサービスが中断される可能性があります。Salesforce for Outlook サービスの中断を回避する方法、または 2023 年 6 月の製品全体の廃止までに過去のアクセス権を復元する方法について説明します。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 2016 年に Salesforce は IE11 での Lightning Experience のサポートを中止しました。Salesforce for Outlook は IE11 を利用して Microsoft Outlook® からの Salesforce データを表示しているため、Salesforce Classic へのアクセスが遮断されると Salesforce for Outlook へのアクセスも遮断されます。

次の 2 つの方法で、既存のユーザの Salesforce for Outlook へのアクセスが意図せずに遮断される可能性があります。

- Lightning Experience 切り替えアシスタントで [お客様の組織の環境を Lightning Experience に限定] を有効にすると、Salesforce Classic へのアクセスが完全に無効になる。
- ユーザが Salesforce Classic と Lightning Experience を切り替えることができるスイッチャへのユーザのアクセスを非表示にする。

方法: 2023 年に廃止されるまで Salesforce for Outlook を引き続き使用するには、少なくとも現時点では Salesforce Classic へのアクセスを完全に無効にはしないでください。Salesforce Classic へのユーザのアクセスを軽減したい場合は、Salesforce for Outlook を使用するユーザのみがスイッチャを使用できるようにし、他のすべてのユーザにはスイッチャを非表示にすることをお勧めします。ユーザは Salesforce for Outlook にアクセスするために Salesforce Classic に戻る必要はありませんが、スイッチャを使用する必要があります。

あるいは、次世代製品である Outlook インテグレーションと Einstein 活動キャプチャへの移行を検討してください。

アクセスを復元するための手順などは、「[Lightning Experience で作業している一部のユーザが Salesforce for Outlook に接続できない](#)」を参照してください。

関連トピック:

[Lightning Experience でサポートされるブラウザ](#)

[Salesforce ヘルプ: デスクトップでの Outlook および Gmail インテグレーション \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

バージョン固有の Salesforce for Outlook リリースノートの検索

各 Salesforce for Outlook バージョンで使用可能な更新について疑問がありますか? Outlook/Teams、Gmail、および Inbox Trailblazer Community でバージョン固有のリリースノートを検索してください。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されません。

関連トピック:

[Salesforce Trailblazer Community: Salesforce for Outlook リリースノート \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Sales Cloud のその他の変更

使い勝手をよくするために加えられたその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

活動データが保存される場所の把握

Einstein 活動キャプチャ、Inbox、または High Velocity Sales を使用している場合、一部の活動データは Salesforce Amazon Web Services インフラストラクチャに保存されます。データが米国またはドイツのデータセンターに保存されているかどうかを確認できるようになりました。

[接続済みのアカウント] ページの名前変更

営業担当が Salesforce に接続できるアカウントの種別を区別するために、Salesforce に接続されているメールとカレンダーアカウントがユーザに表示される [接続済みのアカウント] ページの名前は [メールとカレンダーアカウント] ページになりました。

活動ストレージ情報の新しい場所

Inbox および Einstein 活動キャプチャによって取得された活動の数が表示されていた [活動ストレージ] ページが削除されました。活動ストレージ情報は、[ユーザステータス] ページで確認できるようになりました。

活動データが保存される場所の把握

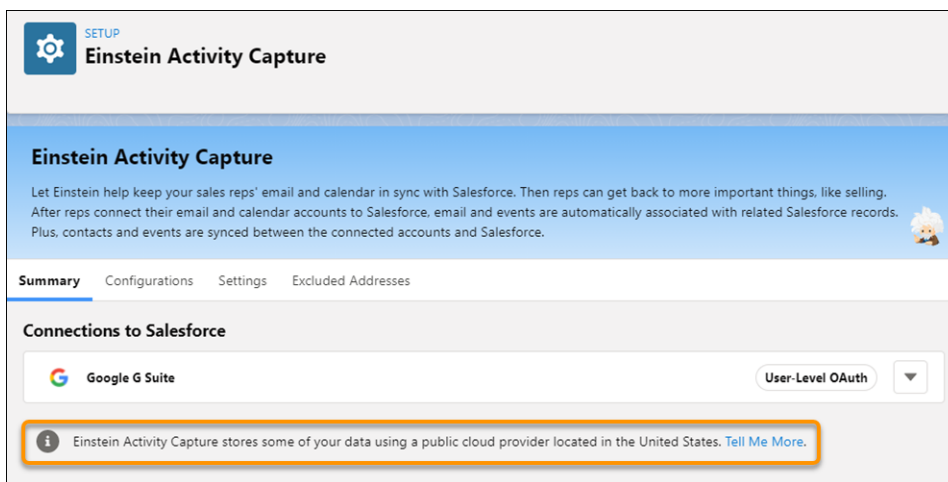
Einstein 活動キャプチャ、Inbox、または High Velocity Sales を使用している場合、一部の活動データは Salesforce Amazon Web Services インフラストラクチャに保存されます。データが米国またはドイツのデータセンターに保存されているかどうかを確認できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Inbox を使用している場合は、[Inbox 設定アシスタント] に移動します。

High Velocity Sales を使用している場合は、High Velocity Sales の [設定] ページに移動します。

Einstein 活動キャプチャを使用している場合は、Einstein 活動キャプチャの設定ページの [概要] タブに移動します。



関連トピック:

[Salesforce Inbox](#)

[High Velocity Sales](#)

[Einstein 活動キャプチャ](#)

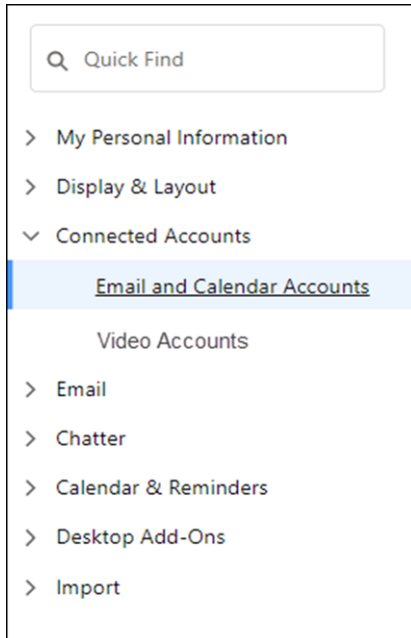
[接続済みのアカウント] ページの名前変更

営業担当が Salesforce に接続できるアカウントの種類を区別するために、Salesforce に接続されているメールとカレンダーアカウントがユーザに表示される [接続済みのアカウント] ページの名前は [メールとカレンダーアカウント] ページになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: [メールとカレンダーアカウント] ページは Einstein 活動キャプチャと Inbox のユーザに表示されません。

方法: ユーザが Einstein 活動キャプチャや Inbox などの機能を通じて接続済みの Microsoft または Google アカウントを管理する場合、個人設定に移動して [接続済みのアカウント] で [メールとカレンダーアカウント] をクリックします。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャまたは Inbox による Salesforce へのメールとカレンダーの接続 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

活動ストレージ情報の新しい場所

Inbox および Einstein 活動キャプチャによって取得された活動の数が表示されていた [活動ストレージ] ページが削除されました。活動ストレージ情報は、[ユーザステータス] ページで確認できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 活動ストレージ情報は、Einstein 活動キャプチャがあるかないかに関係なく、Inbox を使用している場合に使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Einstein 活動キャプチャ」と入力し、[ユーザステータス] を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャと Inbox のデータ保持 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Einstein 活動キャプチャ接続の問題をより簡単にトラブルシューティング](#)

Salesforce Anywhere (Quip)

Salesforce Anywhere で Salesforce データを最大限に活用します。Lightning Experience のテンプレートライブラリによりテンプレートをより多くの場所で使用し、テンプレートライブアプリケーションでテンプレートプロセスを合理化し、どこからでも Salesforce のライブデータを更新できます。Tableau および Tableau CRM で Quip 総計値を使用してユーザの文書エンゲージメントを測定し、レポートを作成できます。

このセクションの内容:

Salesforce Anywhere 機能を使用できるようになるタイミング

Salesforce Anywhere の新機能は近日中にリリースされます。

Lightning アプリケーションビルダーからテンプレートへのアクセス

Lightning アプリケーションビルダーから、[自分が作成]ギャラリーや会社のギャラリーなどのテンプレートライブラリギャラリーにアクセスできるようになりました。この変更により、Quip と Lightning Experience の間を行き来する必要がなくなります。

Salesforce フローでの PDF を使用した顧客文書の記録保持

顧客向けまたは完成した文書を PDF にエクスポートし、関連するレコードに添付できるようになりました。Salesforce フローの [文書を PDF にエクスポート] アクションを使用して、価格提案書のような完成した文書を自動的にエクスポートできます。その PDF をレコードに添付して記録を保持できます。

テンプレートライブアプリケーションによるテンプレート設定の簡略化

テンプレート化されたバージョンの Salesforce レコードと関連リストをより簡単にテンプレートに追加できるようになりました。テンプレートで *Salesforce* レコードまたは *Salesforce* リストを @メンションする場合、[テンプレートレコード]または[テンプレート関連リスト]を選択し、Salesforce レコードに基づいて動的に入力する項目を選択します。関連するオブジェクトおよび項目を参照する場合を除き、差し込み印刷を入力する必要はありません。

Quip 文書とユーザエンゲージメントのレポートを実行できる場所の追加

ユーザが文書やテンプレートにエンゲージした方法についてのレポートをかつてなく簡単に作成できるようになりました。Tableau、Tableau CRM、Salesforce のレポートで Quip エンゲージメント総計値を使用すると、どこで総計値を収集し、他のデータソースをどう操作するかを決定できます。たとえば、テンプレートがリードの取引開始や商談成立率とどう関係するか、テンプレートの採用率が最も高いテリトリーはどれかなどを確認できます。

外出先での Salesforce データの更新

Quip iOS モバイルアプリケーションから Salesforce リストおよび Salesforce レコードライブアプリケーションの挿入や更新ができるようになりました。ユーザはアカウントプランなどの文書を保持し、スマートフォンから直接、最新の Salesforce の変更で更新することができます。アカウントエグゼクティブは商談フェーズの更新や顧客ミーティングに関するメモの追加をその場で行えるため、後で行う管理作業を軽減できます。

Salesforce Anywhere ベータの変更について

Salesforce Anywhere ベータにご参加くださり、Anywhere モバイルアプリケーション、メッセージ、アラートを試行していただきありがとうございます。ベータは Summer '21 リリースをもって縮小いたします。

Salesforce Anywhere エクスペリエンスの機能強化

テンプレートのセキュリティ確保、総計値のオフなど、Salesforce Anywhere の新しい機能強化を確認します。

Salesforce Anywhere 機能を使用できるようになるタイミング

Salesforce Anywhere の新機能は近日中にリリースされます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: いつ Salesforce Anywhere の新機能の使用を開始できるのかを確認します。

機能	日付
Lightning アプリケーションビルダーのテンプレートライブラリ	組織でリリースが本番稼働するとき。
PDF をレコードに添付	使用可能
テンプレートライブアプリケーション	2021 年 5 月
Tableau および Tableau CRM の Quip エンゲージメント総計値	Tableau で使用可能。組織でリリースが本番稼働したら Tableau CRM で使用可能。
iOS の Salesforce ライブアプリケーション	使用可能
確認メール	2021 年 6 月上旬
VPC へのワンクリック接続	使用可能
Lightning コンポーネントでテンプレートを非表示	使用可能
テンプレートの [Quip で開く] ボタンを削除	使用可能
レポートの自動更新の機能強化	2021 年 6 月上旬
Chatter およびグループレコードへのリンク	使用可能
文書タイトルの同期	使用可能
非デフォルト組織への接続	使用可能

Lightning アプリケーションビルダーからテンプレートへのアクセス

Lightning アプリケーションビルダーから、[自分が作成] ギャラリーや会社のギャラリーなどのテンプレートライブラリギャラリーにアクセスできるようになりました。この変更により、Quip と Lightning Experience の間を行き来する必要がなくなります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーで、[Quip 文書] コンポーネントを追加して [レコードごとに 1 つのテンプレート] に設定します。

Salesforce フローでの PDF を使用した顧客文書の記録保持

顧客向けまたは完成した文書を PDF にエクスポートし、関連するレコードに添付できるようになりました。Salesforce フローの [文書を PDF にエクスポート] アクションを使用して、価格提案書のような完成した文書を自動的にエクスポートできます。その PDF をレコードに添付して記録を保持できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。

テンプレートライブアプリケーションによるテンプレート設定の簡略化

テンプレート化されたバージョンの Salesforce レコードと関連リストをより簡単にテンプレートに追加できるようになりました。テンプレートで *Salesforce* レコードまたは *Salesforce* リストを @メンションする場合、[テンプレートレコード] または [テンプレート関連リスト] を選択し、Salesforce レコードに基づいて動的に入力する項目を選択します。関連するオブジェクトおよび項目を参照する場合を除き、差し込み印刷を入力する必要はありません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。

方法: テンプレートレコードおよび関連リストを追加するには、文書をテンプレートとしてマークします。

Quip 文書とユーザエンゲージメントのレポートを実行できる場所の追加

ユーザが文書やテンプレートにエンゲージした方法についてのレポートをかつてなく簡単に作成できるようになりました。Tableau、Tableau CRM、Salesforce のレポートで Quip エンゲージメント総計値を使用すると、どこで総計値を収集し、他のデータソースをどう操作するかを決定できます。たとえば、テンプレートがリードの取引開始や商談成立率とどう関係するか、テンプレートの採用率が最も高いテリトリーはどれかなどを確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。Tableau CRM Growth または Tableau CRM Plus ライセンスを持つユーザのみが Tableau CRM で Quip エンゲージメント総計値を使用できます。Tableau で Quip エンゲージメント総計値にアクセスするには Tableau Creator ライセンスが必要です。最適なチーム間コラボレーションには Tableau Server ライセンスが推奨されます。

外出先での Salesforce データの更新

Quip iOS モバイルアプリケーションから Salesforce リストおよび Salesforce レコードライブアプリケーションの挿入や更新ができるようになりました。ユーザはアカウントプランなどの文書を保持し、スマートフォンから直接、最新の Salesforce の変更で更新することができます。アカウントエグゼクティブは商談フェーズの更新や顧客ミーティングに関するメモの追加をその場で行えるため、後で行う管理作業を軽減できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。

Salesforce Anywhere ベータの変更について

Salesforce Anywhere ベータにご参加くださり、Anywhere モバイルアプリケーション、メッセージ、アラートを試行していただきありがとうございます。ベータは Summer '21 リリースをもって縮小いたします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Salesforce Anywhere ベータエクスペリエンスには次の変更が加えられます。

- iOS ストアの公開リストから Anywhere アプリケーションが削除されます。Anywhere モバイルアプリケーションへのアクセス権を持つ既存のユーザは、Summer '21 リリースでも引き続きモバイルでベータメッセージおよびアラートにアクセスできます。
 - 📌 **メモ:** モバイルの Anywhere 機能はベータ状況のままで、Salesforce カスタマーサクセスまたはエンジニアリングによるサポートはありません。ベータ機能ポリシーについての詳細は、[契約全文](#)を参照してください。お客様の Salesforce Anywhere 利用にとってこのポリシーが何を意味するのかについてのご不明点は、アカウントエグゼクティブまでお問い合わせください。
- メッセージとアラートは Lightning Experience から削除されます。

Salesforce Anywhere エクスペリエンスの機能強化

テンプレートのセキュリティ確保、総計値のオフなど、Salesforce Anywhere の新しい機能強化を確認します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。

理由: Salesforce Anywhere (Quip) 機能には次の機能強化が含まれます。

- Spring '21 でテンプレート化されたデータメンションの導入が発表されました。この機能では、組み込みテンプレートから作成された文書に Salesforce レコードのデータが動的に自動入力されます。機能名はテンプレートデータメンションになりました。テンプレートに挿入するには、テンプレートデータメンション(テンプレートデータメンション)と@メンションします。
- 確認メールを使用して Salesforce と Quip のサイトを安全に保ちます。

- ユーザがSalesforceアカウントとQuipアカウントで異なるメールアドレスを使用している場合、ユーザが最初に Quip と Salesforce に接続したときに ID を確認するための確認リンクが Salesforce メールに送信されます。
- サポートに連絡せずに Quip エンゲージメント総計値をオフにできます。
- Quip VPC ユーザは、Salesforce Anywhere (Quip) のバナーから 1 クリックで Salesforce への接続を完了できます。
- 組み込みテンプレートのセキュリティが確保されます。
 - ユーザが Quip 文書コンポーネントに組み込まれたテンプレートを誤って開かないように、[Quip で開く] ボタンが削除されました。
 - レコードの [ファイル] コンポーネント、[メモと添付ファイル] コンポーネント、[ファイル] タブでテンプレートが非表示になりました。
- [Quip 関連文書] コンポーネントから Chatter またはグループレコードに文書をリンクします。
- [Quip 関連文書] コンポーネントからかつてなく迅速に文書を作成します。
 - Lightning Experience で文書を作成するときに必要だった複数のステップが削除されました。ユーザは文書に名前を付け、同期共有を介して同時にアクセスできるユーザを確認できます。
- 無効な文書の Salesforce レポートで 4 時間後に自動更新が停止します。許容される Salesforce API の組織の 1 時間あたりの制限に達するまで、ユーザはいつでも手動でレポートを更新できます。
- Salesforce の [ファイル] タブで文書タイトルが常に最新状態に更新されます。
- ユーザが他の Salesforce Sandbox 組織を Quip サイトに接続する場合、システム管理者によって設定されたデフォルト以外の組織を接続できるようになりました。

Salesforce CMS

Salesforce CMS コンテンツをより詳細に制御します。公開スケジュールを管理したり、Experience Cloud コンテンツ配信ネットワーク (CDN) を介してコンテンツを共有したり、カスタムコンテンツタイプを編集したり、CMS エクスペリエンスに関する詳細や CMS コンテンツの使用場所を一目で確認したりできます。

このセクションの内容:

[Salesforce CMS でのコンテンツ公開スケジュールの作成および管理](#)

Salesforce CMS コンテンツの公開および非公開を指定の日時でスケジュールしたり、auto-unpublish を使用して 1 ステップで公開したりできるようになりました。また、公開スケジュールを表示することもできます。以前は、コンテンツをすぐに公開および非公開にすることしかできませんでした。

[公開チャンネルのデフォルトドメインを介した CMS コンテンツの共有](#)

公開チャンネルのカスタムドメインを設定することなく、Experience Cloud コンテンツ配信ネットワーク (CDN) を介して Salesforce CMS コンテンツを提供できるようになりました。公開チャンネルのカスタムドメインを取得する代わりに、CDN パートナーの Akamai を介して CMS コンテンツを直接取得するデフォルトドメインを使用できます。

[既存の Salesforce CMS カスタムコンテンツタイプの編集](#)

ManagedContentType メタデータおよび Tooling API を使用して、新しい項目を追加するか、カスタムコンテンツタイプの既存の項目のプロパティを変更します。

CMS エクスペリエンスページでのサイトに関する詳細の表示

サイトに関する詳細情報を一目で確認できます。新しい列には、[最終公開日]、[最終公開者]、[テンプレート]、[フレームワーク]などがあります。[フレームワーク]列では、サイトの内部で Lightning Web Runtime、Aura、Visualforce のどれが使用されているのかがわかります。[アクション]列からライブサイトにリンクすることもできます。

サイトによる CMS 画像コンテンツの参照の特定

どのサイトで Salesforce CMS 画像コンテンツが使用されているのかを追跡します。画像情報ページの高度な [利用者] カードが、その画像を使用するエクスペリエンスビルダーサイトにリンクするようになりました。




Salesforce CMS でのコンテンツ公開スケジュールの作成および管理




Salesforce CMS コンテンツの公開および非公開を指定の日時でスケジュールしたり、auto-unpublish を使用して 1 ステップで公開したりできるようになりました。また、公開スケジュールを表示することもできます。以前は、コンテンツをすぐに公開および非公開にすることしかできませんでした。

対象: Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce CMS を購入した場合、この変更は Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: スケジュールを作成、編集、削除するには、その CMS ワークスペースでのコンテンツマネージャロールまたはコンテンツ管理者ロールを持っているか、Salesforce システム管理者である必要があります。

方法: Salesforce CMS でコンテンツの詳細ページを開き、[公開日をスケジュール]または[非公開をスケジュール]をクリックして、コンテンツ公開スケジュールを作成します。必要に応じて、参照されているコンテンツを公開スケジュールに含めます。

一目でわかる公開活動のリスト (公開日、公開名、状況を含む) は、コンテンツのバージョンごとに新しい [公開活動] タブに表示されます。待機中の公開、完了した公開、キャンセルされた公開、失敗した公開のスケジュール情報を確認するには、 > [スケジュールを表示] を選択します。待機中の公開のスケジュール情報を変更するには、同じ行レベルのアクションから  > [スケジュールを編集] を選択します。待機中の公開をキャンセルするには、 > [スケジュールを削除] を選択します。

公開カレンダーは、CMS ワークスペース全体で使用できます。待機中の公開、完了した公開、失敗した公開のカレンダーの概要を確認するには、Salesforce CMS でワークスペースを開き、[公開カレンダー] をクリックします。待機中の公開、完了した公開、失敗した公開のスケジュール情報を確認するには、 > [スケジュールを表示] を選択します。待機中の公開のスケジュール情報を変更するには、同じ行レベルのアクションから  > [スケジュールを編集] を選択します。待機中の公開をキャンセルして、公開カレンダーからエントリを削除するには、 > [スケジュールを削除] を選択します。

公開チャンネルのデフォルトドメインを介した CMS コンテンツの共有

公開チャンネルのカスタムドメインを設定することなく、Experience Cloud コンテンツ配信ネットワーク (CDN) を介して Salesforce CMS コンテンツを提供できるようになりました。公開チャンネルのカスタムドメインを取得する代わりに、CDN パートナーの Akamai を介して CMS コンテンツを直接取得するデフォルトドメインを使用できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:公開チャンネルのデフォルトドメインでは、[私のドメイン]が必要です。[私のドメイン]をリリースしていない場合は、設定してユーザーにリリースしてください。

[私のドメイン]をリリースしている場合は、デフォルトドメインを使用して Salesforce CMS コンテンツを公開チャンネルで共有できます。Salesforce CMS アプリケーションで、[チャンネルを作成]をクリックして、[公開チャンネル]を選択します。[CMS チャンネル]ページで、公開チャンネルの横にある ▾ > [編集]をクリックします。[ドメイン]のドロップダウンメニューに移動して、デフォルトの[私のドメイン]の URL を選択します。デフォルトのドメインの URL 形式は `https://MyDomainName.cdn.salesforce-experiences.com` です。

デフォルトドメインを使用して、CMS 画像を Pardot メールに提供することもできます。

関連トピック:

[デフォルト CDN ドメインを使用したより迅速な画像リポジトリの設定](#)

既存の Salesforce CMS カスタムコンテンツタイプの編集

ManagedContentType メタデータおよび Tooling API を使用して、新しい項目を追加するか、カスタムコンテンツタイプの既存の項目のプロパティを変更します。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー:Tooling API を使用してコンテンツを作成および編集するには、「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザー権限を有効化します。メタデータ API を使用してコンテンツを作成および編集するには、「メタデータ API 関数を使用したメタデータの変更」ユーザー権限を有効化します。

方法:ManagedContentType メタデータ API または Tooling API を使用して、カスタムコンテンツタイプを編集します。既存の ManagedContentType 型のノードを追加または編集します。各ノードは、最終的なフォームの単一項目になります。カスタムコンテンツタイプを編集したら、Salesforce CMS アプリケーションにコンテンツを追加するフォームとして表示されます。CMS ワークスペースで、編集したカスタムコンテンツタイプを選択し、新しい項目に詳細を追加します。この API により、カスタムコンテンツタイプへの変更の後方互換性が確保され、既存のコンテンツの破損を回避できます。

 **例:** この例では、メタデータ API を使用して、[Registration URL (登録 URL)] 項目を追加するための [Event (イベント)] カスタムコンテンツタイプへの更新が表示されます。新しいノードは最後のエントリです。

```
{
  "Metadata" : {
    "description" : "Information about upcoming events",
    "developerName" : "demoMct",
    "managedContentTypeTypes" : [ {
      "helpText" : "The title of this event.",
      "isLocalizable" : true,
      "isRequired" : true,
      "nodeLabel" : "Event Name",
      "nodeName" : "title",
      "nodeType" : "NAMEFIELD",
      "placeholderText" : "Enter Event Name Here"
    }, {
      "helpText" : "Event Image",
      "isLocalizable" : false,
```

```

    "isRequired" : false,
    "nodeLabel" : "Event Image",
    "nodeName" : "bannerImage1",
    "nodeType" : "IMG",
    "placeholderText" : "Upload a Image here"
  }, {
    "helpText" : "Time at which the event starts.",
    "isLocalizable" : false,
    "isRequired" : false,
    "nodeLabel" : "Event Start Time",
    "nodeName" : "startTime",
    "nodeType" : "DATETIME",
    "placeholderText" : null
  }, {
    "helpText" : "Time at which the event ends.",
    "isLocalizable" : false,
    "isRequired" : false,
    "nodeLabel" : "Event End Time",
    "nodeName" : "endTime",
    "nodeType" : "DATETIME",
    "placeholderText" : null
  }, {
    "helpText" : "Venue of the Event",
    "isLocalizable" : true,
    "isRequired" : false,
    "nodeLabel" : "Event Venue",
    "nodeName" : "address",
    "nodeType" : "MTEXT",
    "placeholderText" : "Enter Venue address here."
  }, {
    "helpText" : null,
    "isLocalizable" : true,
    "isRequired" : false,
    "nodeLabel" : "Additional Details and Contact Information",
    "nodeName" : "details",
    "nodeType" : "RTE",
    "placeholderText" : "Enter any additional details here."
  }, {
    "helpText" : "Registration URL of the Event",
    "isLocalizable" : false,
    "isRequired" : false,
    "nodeLabel" : "Registration URL",
    "nodeName" : "regUrl",
    "nodeType" : "URL",
    "placeholderText" : "Enter registration URL here."
  } ],
  "masterLabel" : "Event",
  "urls" : null
}
}

```

Salesforce CMS ワークスペースで、編集されたカスタムコンテンツタイプに新しい項目が表示されます。



関連トピック:

Salesforce の『[メタデータ API 開発者ガイド](#)』: ManagedContentType (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce の『[Tooling API 開発者ガイド](#)』: ManagedContentType (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

CMS エクスペリエンスページでのサイトに関する詳細の表示

サイトに関する詳細情報を一目で確認できます。新しい列には、[最終公開日]、[最終公開者]、[テンプレート]、[フレームワーク]などがあります。[フレームワーク]列では、サイトの内部で Lightning Web Runtime、Aura、Visualforceのどれが使用されているのかがわかります。[アクション]列からライブサイトにリンクすることもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

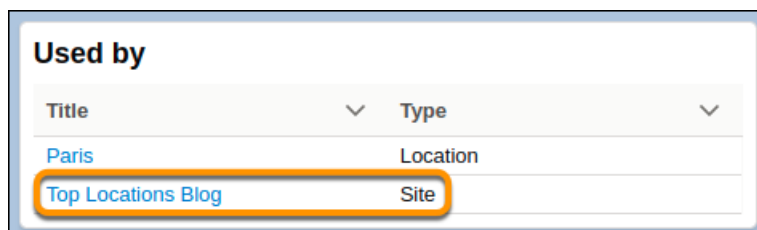
サイトによる CMS 画像コンテンツの参照の特定

どのサイトで Salesforce CMS 画像コンテンツが使用されているのかを追跡します。画像情報ページの高度な [利用者] カードが、その画像を使用するエクスペリエンスビルダーサイトにリンクするようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: コンテンツを表示するには、その CMS ワークスペースでの寄稿者ロールを持っている必要があります。

方法: Salesforce CMS ワークスペースから、画像コンテンツの名前をクリックします。[利用者] カードには、この画像コンテンツを参照しているエクスペリエンスビルダーサイトがリストされます。リンクをクリックすると、サイトレベルでこの参照が表示されます。



Title	Type
Paris	Location
Top Locations Blog	Site

セキュリティと ID

多要素認証アシスタントの動作をリリース前に確認します。URL リダイレクトと OAuth 2.0 フローがより安全で効率的になりました。ユーザのメールアドレスをより簡単かつ安全に更新できるようになりました。Salesforce ドメインには HTTPS が必要であり、拡張ドメインはブラウザのセキュリティ要件を満たしています。新しい API 合計使用量イベント種別での API バージョンの使用について確認してください。サイトの場合、キャッシュを使用してページの読み込み時間を改善し、ゲストユーザライセンスを更新します。

このセクションの内容:

ID とアクセス管理

ID とアクセス管理では、多要素認証アシスタントのアップグレードバージョンが提供され、評価期間中に多要素認証 (MFA) のプレビューに役立つステップが含まれます。その他の機能強化には、OAuth 2.0 フローへの更新やカスタマーデータプラットフォーム (CDP) 取り込み API サービスへの接続アプリケーションアクセスが含まれます。また、パスワードのリセットを要求することでメールアドレスの更新を保護できます。Customer 360 Identity では、セキュアな組み込みログインのリダイレクトとメールアドレス更新の検証によって顧客保護が強化されます。Identity Connect 2.1 と Identity Connect 3.0.1.2 は廃止されます。この春の後半にリリースされた時点で Identity Connect 7 にアップグレードできます。Winter '22 リリースでは、セキュリティ向上のためにワンタイムパスワードの長さが長くなります。

ドメイン

[私のドメイン] をリリースし、最新のブラウザの要件を満たす拡張ドメインを有効にします。サイトトラフィックをカスタムドメインにリダイレクトすることによって検索エンジン最適化 (SEO) を改善します。ドメインではセキュアな HTTPS 接続が適用され、HSTS プリロードが推奨されます。

Salesforce Shield

新しいリアルタイムイベントモニタリング権限セット (正式リリース) を使用して、権限変更を監視し、さらにユーザ権限にトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。API Total Usage イベントログファイル種別で、使用されていない API バージョンを追跡できます。また、新しい USER_TYPE 項目で、イベントに関連付けられたユーザが認証されたユーザなのか、ゲストユーザなのかを識別できます。Shield Platform Encryption で連絡先項目がサポートされるようになりました。

セキュリティセンター

総計値の詳細ページの新しい日付範囲項目では、一度に表示する総計値の詳細を柔軟に制御できます。

その他のセキュリティの変更

新しい Visualforce ページのキャッシュオプションを使用して、認証されたサイト訪問者の読み込み時間を短縮します。サイトのゲストユーザを最新のライセンスに更新します。セキュアな HTTPS 接続がサードパーティドメインの接続に適用され、Salesforce サイトで許可される Cookie の種類を指定できます。

ID とアクセス管理

IDとアクセス管理では、多要素認証アシスタントのアップグレードバージョンが提供され、評価期間中に多要素認証 (MFA) のプレビューに役立つステップが含まれます。その他の機能強化には、OAuth 2.0 フローへの更新やカスタマーデータプラットフォーム (CDP) 取り込み API サービスへの接続アプリケーションアクセスが含まれます。また、パスワードのリセットを要求することでメールアドレスの更新を保護できます。Customer 360 Identity では、セキュアな組み込みログインのリダイレクトとメールアドレス更新の検証によって顧客保護が強化されます。Identity Connect 2.1 と Identity Connect 3.0.1.2 は廃止されます。この春の後半にリリースされた時点で Identity Connect 7 にアップグレードできます。Winter '22 リリースでは、セキュリティ向上のためにワンタイムパスワードの長さが長くなります。

このセクションの内容:

Salesforce Customer Identity Plus での顧客 ID の一元管理

Salesforce Customer Identity Plus は、Salesforce と Auth0 の identity-as-a-service SaaS の力を結集し、最新の消費者 ID とアクセス管理 (CIAM) を提供するソリューションです。Customer Identity Plus では、Commerce Cloud、Sales Cloud、サードパーティアプリケーションの顧客 ID を一元的に管理することで、すべての顧客、アプリケーション、製品に接続できます。Customer Identity Plus を使用すると、シンプルなクリック操作と SDK で ID を簡単に設定できるようになり、ID レイヤを既存のアプリケーションにシームレスに統合することが可能です。また、カスタマイズ機能が必要な場合も、Customer Identity Plus を利用することで、設計や認証フローを完全に制御できます。

多要素認証アシスタントからのより多くの指針の入手

多要素認証アシスタントには、評価期間中に多要素認証 (MFA) をプレビューするのに役立つステップが含まれるようになりました。Salesforce の MFA をロールアウトする準備をしている間、Salesforce 支援者の何人かに対してそれを有効にすることをお勧めします。一部の信頼できるユーザと共にプレビューまたはパイロットを実施することで、ロールアウトプロセスをテストし、MFA ユーザエクスペリエンスに関する早期のフィードバックを収集できます。これらのインサイトを使用して、ロールアウトや変更管理計画にギャップがないことを確認します。また、より広範囲での MFA の稼働を開始する準備ができたときに、ユーザが必要とするオンボーディング資料の種類を決定することもできます。

OAuth 2.0 JWT ベアラーフローでアクセストークンを使用して割り当てられた範囲を取得

OAuth 2.0 JWT ベアラーフローでは、事前承認された接続アプリケーションの場合、標準の範囲とカスタム範囲がアクセストークンと共に自動的に返されます。以前は、標準範囲または以前のアクセストークンで発行された範囲のみが返されていました。

OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローのパフォーマンス時間の改善

Frontdoor.jsp を使用せずにアクセストークンを Web セッションに直接ブリッジすることで、OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローのパフォーマンス時間を改善します。ハイブリッドアプリケーショントークンフローで、ハイブリッドアプリケーションはドメインに関連付けられた SID をセッション Cookie に設定します。その後、独自の Web セッションを直接ブリッジします。ハイブリッド更新トークンフロー中に新しいアクセストークンが付与されると、ハイブリッドアプリケーションは、更新されたドメイン SID を受信します。ハイブリッドアプリケーションはセッション Cookie を直接リセットできるため、中断が回避されます。

Salesforce CDP 取り込み API データへの承認済みアクセス権の付与

接続アプリケーションから Salesforce CDP 取り込み API データにアクセスできるようにするには、新しい OAuth 範囲 (Salesforce CDP 取り込み API データへのアクセスと管理) を割り当てます。顧客は関連付けられた外部アプリケーションを使用して、Salesforce CDP プラットフォームで外部データセットをアップロードおよび管理できます。

期限が切れたタブをカスタムログアウト URL にリダイレクト

Salesforce セッションの場合、ブラウザの期限が切れたすべてのタブをカスタムログアウト URL にリダイレクトできるようになりました。以前は、リダイレクト URL は期限が切れたすべてのタブに適用されることはありませんでした。代わりに、1つのタブのみが正しくリダイレクトされ、他のタブは Salesforce.com にリダイレクトされていました。

メールアドレスの更新に対するパスワードの変更の必須化

システム管理者が開始したメールアドレスの更新を承認する前にパスワードを変更するようにユーザに要求できるようになりました。ユーザのメールアドレスをすばやく更新するために、パスワードのリセットを要求せずにメールアドレスを変更できますが、セキュリティを強化するために、メールアドレスの更新を承認する前にパスワードを変更するようにユーザに要求できます。

Experience Cloud ユーザ、パートナー、顧客のメールアドレス変更時に確認が必要 (更新、適用済み)

ユーザアカウントをセキュリティの脅威から保護するため、Salesforce では Experience Cloud ユーザ、パートナー、および顧客にメールアドレスの変更の確認を要求するようになりました。この更新は、Winter '21 で最初に使用可能になり、Spring '21 で自動適用される予定でしたが、延期されて Summer '21 で適用されます。

不明な URL への顧客のリダイレクトをブロック

不明な URL へのリダイレクトをブロックする新しい [組み込みログイン] 設定を使用して顧客を保護します。顧客が組み込みログインを使用して Experience Cloud サイトに正常にログインすると、サイトと同じホストまたはドメインにある URL、または許可リストに登録されている URL にリダイレクトされます。

Identity Connect 2.1 と Identity Connect 3.0.1.2 の廃止

Winter '22 リリース以降、Identity Connect 2.1 と Identity Connect 3.0.1.2 は廃止され、これらのバージョンの製品をダウンロードできなくなります。Identity Connect 7 が利用可能になった時点で Identity Connect 7 にアップグレードすることをお勧めします。

Winter '22 でのワンタイムパスワードの長さの増加

Winter '22 では、セキュリティを強化するために、ID 検証に使用されるワンタイムパスワード (OTP) の長さが 5 桁から 6 桁に増えます。多要素認証 (MFA) やパスワードなしのログイン用のカスタム Apex 実装など、6 桁の OTP を使用するカスタマイズがある場合は、Winter '22 リリースの前に変更してください。

Salesforce Customer Identity Plus での顧客 ID の一元管理

Salesforce Customer Identity Plus は、Salesforce と Auth0 の identity-as-a-service SaaS の力を結集し、最新の消費者 ID とアクセス管理 (CIAM) を提供するソリューションです。Customer Identity Plus では、Commerce Cloud、Sales Cloud、サードパーティアプリケーションの顧客 ID を一元的に管理することで、すべての顧客、アプリケーション、製品に接続できます。Customer Identity Plus を使用すると、シンプルなクリック操作と SDK で ID を簡単に設定できるようになり、ID レイヤを既存のアプリケーションにシームレスに統合することが可能です。また、カスタマイズ機能が必要な場合も、Customer Identity Plus を利用することで、設計や認証フローを完全に制御できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic (使用できない組織もあります) に有料オプションとして適用されます。

時期: Salesforce Customer Identity Plus は 2021 年 7 月 20 日に正式リリースされます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce Customer Identity Plus \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

多要素認証アシスタントからのより多くの指針の入手

多要素認証アシスタントには、評価期間中に多要素認証 (MFA) をプレビューするのに役立つステップが含まれるようになりました。Salesforce の MFA をロールアウトする準備をしている間、Salesforce 支援者の何人かに対してそれを有効にすることをお勧めします。一部の信頼できるユーザと共にプレビューまたはパイロットを実施することで、ロールアウトプロセスをテストし、MFA ユーザエクスペリエンスに関する早期のフィードバックを収集できます。これらのインサイトを使用して、ロールアウトや変更管理計画にギャップがないことを確認します。また、より広範囲での MFA の稼働を開始する準備ができたときに、ユーザが必要とするオンボーディング資料の種類を決定することもできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: 多要素認証アシスタントの [MFA をプレビュー] ステップは、すべての Salesforce 組織で 2021 年 5 月 7 日から 2021 年 6 月 12 日までローリング方式で利用できます。Sandbox では、このステップの [手順はこちら] ボタンは 2021 年 6 月 12 日まで機能しません。

方法: Lightning Experience で、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「MFA」と入力し、[多要素認証アシスタント] を選択します。新しい [MFA をプレビュー] ステップは、[準備する] フェーズの [MFA のオプションと要件を評価する] フェーズから使用できます。

関連トピック:

[多要素認証 \(MFA\) を有効にするための今後の要件](#)

[Salesforce ヘルプ: 多要素認証アシスタントの概要 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: MFA のロールアウトおよびサポートのフレームワーク \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

OAuth 2.0 JWT ベアラーフローでアクセストークンを使用して割り当てられた範囲を取得

OAuth 2.0 JWT ベアラーフローでは、事前承認された接続アプリケーションの場合、標準の範囲とカスタム範囲がアクセストークンと共に自動的に返されます。以前は、標準範囲または以前のアクセストークンで発行された範囲のみが返されていました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic (使用できない組織もあります) に適用されます。接続アプリケーションはすべてのエディションにインストールできます。

方法: OAuth 2.0 JWT ベアラーフロー中に接続アプリケーションに割り当てられた範囲を自動的に受信するには、次のいずれかの手順を実行して、接続アプリケーションを事前承認します。

- [許可されているユーザ]ポリシーの[管理者が承認したユーザは事前承認済み]を接続アプリケーションに割り当てる。
- [API アクセスの管理] ページから、組織の接続アプリケーションを許可リストに登録する。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サーバ間インテグレーション用の OAuth 2.0 JWT ベアラーフロー \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 接続アプリケーションの OAuth アクセスポリシーの管理 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: API アクセスの管理 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

OAuth2.0 ハイブリッドアプリケーションフローのパフォーマンス時間の改善

Frontdoor.jsp を使用せずにアクセストークンを Web セッションに直接ブリッジすることで、OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローのパフォーマンス時間を改善します。ハイブリッドアプリケーショントークンフローで、ハイブリッドアプリケーションはドメインに関連付けられた SID をセッション Cookie に設定します。その後、独自の Web セッションを直接ブリッジします。ハイブリッド更新トークンフロー中に新しいアクセストークンが付与されると、ハイブリッドアプリケーションは、更新されたドメイン SID を受信します。ハイブリッドアプリケーションはセッション Cookie を直接リセットできるため、中断が回避されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic (使用できない組織もあります) に適用されます。

方法: ハイブリッドアプリケーショントークンフローおよびハイブリッドアプリケーション更新トークンフロー中に、Salesforce はアクセストークンを含む 3 つの新しいパラメータを返します。

- cookie-clientSrc
- sidCookieName
- cookie-sid_Client

ハイブリッドアプリケーションはアクセストークンとこれらのパラメータを使用して、Web セッションを直接ブリッジします。

関連トピック:

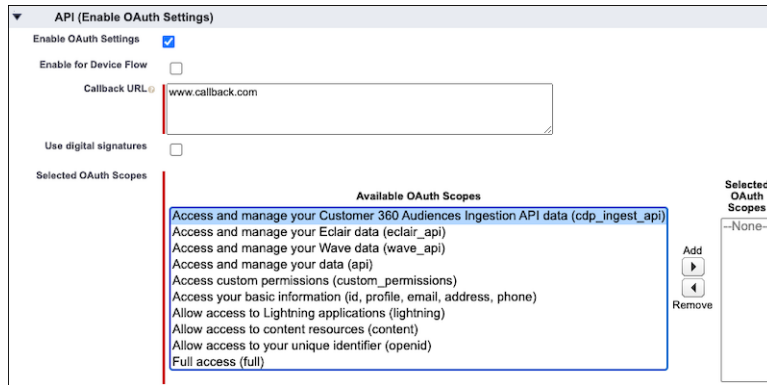
[Salesforce ヘルプ: OAuth 2.0 Authorization and Session Management for Hybrid Apps \(ハイブリッドアプリケーションの OAuth2.0 認証およびセッション管理\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Salesforce CDP 取り込み API データへの承認済みアクセス権の付与

接続アプリケーションから Salesforce CDP 取り込み API データにアクセスできるようにするには、新しい OAuth 範囲 (Salesforce CDP 取り込み API データへのアクセスと管理) を割り当てます。顧客は関連付けられた外部アプリケーションを使用して、Salesforce CDP プラットフォームで外部データセットをアップロードおよび管理できます。

対象:この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic (使用できない組織もあります) に適用されます。接続アプリケーションはすべてのエディションにインストールできます。

方法:「Salesforce CDP 取り込み API データへのアクセスと管理」範囲を、外部アプリケーションを表す接続アプリケーションに割り当てます。



関連トピック:

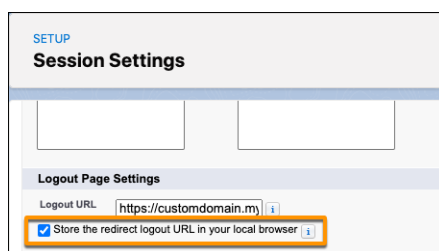
[Salesforce ヘルプ: API インテグレーション用の OAuth 設定の有効化 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

期限が切れたタブをカスタムログアウト URL にリダイレクト

Salesforce セッションの場合、ブラウザの期限が切れたすべてのタブをカスタムログアウト URL にリダイレクトできるようになりました。以前は、リダイレクト URL は期限が切れたすべてのタブに適用されることはありませんでした。代わりに、1つのタブのみが正しくリダイレクトされ、他のタブは Salesforce.com にリダイレクトされていました。

対象:この変更は、Essentials Edition、Personal Edition、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Database.com Edition の Salesforce Classic (使用できない組織もあります) に適用されます。

方法:[私のドメイン] を有効にしてから、[セッションの設定] ページで [ローカルブラウザにリダイレクトログアウト URL を保存] を有効にします。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:セッションセキュリティ設定の変更\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

メールアドレスの更新に対するパスワードの変更の必須化

システム管理者が開始したメールアドレスの更新を承認する前にパスワードを変更するようにユーザに要求できるようになりました。ユーザのメールアドレスをすばやく更新するために、パスワードのリセットを要求せずにメールアドレスを変更できますが、セキュリティを強化するために、メールアドレスの更新を承認する前にパスワードを変更するようにユーザに要求できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic (使用できない組織もあります) に適用されます。

方法: ユーザのメールアドレスを変更して [パスワードをリセットしてユーザに通知する] 設定を有効にすると、ユーザは新しいメールアドレスでパスワードのリセットリンクを受信します。ユーザは、新しいパスワードを作成して、新しいメールアドレスを有効化する必要があります。以前は、変更を保存するとすぐにユーザのメールアドレスが有効になっていました。

ユーザのメールアドレスを変更して [パスワードをリセットしてユーザに通知する] 設定を無効にすると、Salesforce からユーザの新しいメールアドレスに確認メッセージが送信されます。新しいメールアドレスは、ユーザが確認リンクをクリックするとすぐに有効になります。この変更は、システム管理者が開始したメールアドレスの更新にのみ適用されます。ユーザが自分のメールアドレスを変更した場合は、引き続き古いアドレスに送信された確認コードを入力して、新しいアドレスを有効にします。

この設定は、[設定] の [ユーザ] ページにあります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ユーザの編集 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: ユーザの編集の考慮事項 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Experience Cloud ユーザ、パートナー、顧客のメールアドレス変更時に確認が必要 (更新、適用済み)

ユーザアカウントをセキュリティの脅威から保護するため、Salesforce では Experience Cloud ユーザ、パートナー、および顧客にメールアドレスの変更の確認を要求するようになりました。この更新は、Winter '21 で最初に使用可能になり、Spring '21 で自動適用される予定でしたが、延期されて Summer '21 で適用されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする [Aura](#)、[LWR](#)、[Visualforce サイト](#) に適用されます。

時期: この更新は、Winter '21 で最初に使用可能になり、Spring '21 で自動適用される予定でしたが延期されました。Salesforce は、この更新を Summer '21 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#) に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新では、[メールアドレスの変更に対してメール確認が必要] 設定が有効になります。この設定が有効な場合、Experience Cloud ユーザがメールアドレスを変更すると、Salesforce から確認メールが新しいアドレ

スに送信されます。新しいアドレスは、ユーザがメッセージ内の確認リンクをクリックした後に有効になります。この設定を無効にできますが、それはお勧めしません。

関連トピック:

[Spring '21 リリースノート: Experience Cloud ユーザ、パートナー、顧客のメールアドレス変更時に確認が必要 \(更新、延期\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Experience Cloud サイトから送信されるメール確認用のメールのカスタマイズ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: メールアドレスの変更テンプレート \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

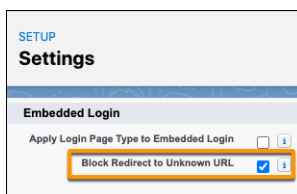
[リリース更新のお知らせ](#)

不明な URL への顧客のリダイレクトをブロック

不明な URL へのリダイレクトをブロックする新しい [組み込みログイン] 設定を使用して顧客を保護します。顧客が組み込みログインを使用して Experience Cloud サイトに正常にログインすると、サイトと同じホストまたはドメインにある URL、または許可リストに登録されている URL にリダイレクトされます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic (使用できない組織もあります) に適用されます。

方法: 安全でない可能性のある不明な URL へのリダイレクトをブロックするには、[不明な URL へのリダイレクトをブロック] サイト設定を使用します。これらの URL は、サーバ側のコールバック中に組み込みログイン OAuth 応答の state パラメータで提供されます。この新しい設定を使用すると、サイトと同じホストまたはドメインにある URL、または組み込みログインの `salesforce-allowed-domains` メタタグで許可リストに登録されている URL へのリダイレクトのみが許可されます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 前提条件: Experience Cloud サイトおよび Web サイトの設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 組み込みログインのサーバ側コールバックの作成 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 埋め込みログインのメタタグリファレンス \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Identity Connect 2.1 と Identity Connect 3.0.1.2 の廃止

Winter '22 リリース以降、Identity Connect 2.1 と Identity Connect 3.0.1.2 は廃止され、これらのバージョンの製品をダウンロードできなくなります。Identity Connect 7 が利用可能になった時点で Identity Connect 7 にアップグレードすることをお勧めします。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用され、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料で使用できます。Developer Edition には 10 個の Identity Connect 権限セットライセンスが含まれます。

時期: Identity Connect 7 は 2021 年 7 月末に使用可能になります。

方法: Identity Connect 7 が使用できるようになったら、リリースノートでその使用可能状況が発表され、[Identity Connect] 設定ページでダウンロードリンクが利用できるようになります。Identity Connect 7 にアップグレードする前に、Identity Connect 管理パッケージの最新バージョンがインストールされていることを確認してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Identity Connect のインストール \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Winter '22 でのワンタイムパスワードの長さの増加

Winter '22 では、セキュリティを強化するために、ID 検証に使用されるワンタイムパスワード (OTP) の長さが 5 桁から 6 桁に増えます。多要素認証 (MFA) やパスワードなしのログイン用のカスタム Apex 実装など、6 桁の OTP を使用するカスタマイズがある場合は、Winter '22 リリースの前に変更してください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic (使用できない組織もあります) に適用されます。

時期: 6 桁の OTP は、Winter '22 で適用されます。Summer '21 リリースでは、カスタマイズは影響を受けません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Apex を使用した多要素認証の実装 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: パスワードなしのログインの実装の選択 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ドメイン

[私のドメイン] をリリースし、最新のブラウザの要件を満たす拡張ドメインを有効にします。サイトトラフィックをカスタムドメインにリダイレクトすることによって検索エンジン最適化 (SEO) を改善します。ドメインではセキュアな HTTPS 接続が適用され、HSTS プリロードが推奨されます。

このセクションの内容:

拡張ドメインの有効化(更新)

最新のブラウザおよびセキュリティ標準に準拠するには、Salesforce 組織の [私のドメイン] で拡張ドメインを有効にします。拡張ドメインを使用すると、会社固有の [私のドメイン] の名前が Salesforce サイトや Experience Cloud サイトなどの URL に含まれます。一貫したドメイン形式により、ユーザ環境が向上し、カスタムコードおよび API コールで使用される URL が標準化されます。Salesforce の強化されたドメインは最新のブラウザ要件にも準拠しているため、ユーザはサードパーティ Cookie をブロックするブラウザを使用して Salesforce にアクセスできます。この更新は Experience Cloud サイト、Salesforce サイト、Visualforce ページなどのアプリケーションの URL に影響するため、Summer '22 で適用される前に拡張ドメインを有効にすることをお勧めします。

カスタムドメインへのサイトトラフィックのリダイレクト

カスタムドメインの検索エンジン最適化 (SEO) を改善するために、サイトのシステムで管理される URL を、サイトを提供する HTTPS カスタムドメイン (<https://example.com> など) にリダイレクトします。システムで管理されるサイトのベース URL は末尾が `.force.com`、`.my.salesforce-sites.com`、または `.my.site.com` になります。これらの URL からブランドドメインにトラフィックをリダイレクトすることで、ユーザエクスペリエンスが向上し、カスタムドメインが検索エンジンで適切にランク付けされます。

ドメインでのセキュアな HTTPS 接続の適用

お客様のデータの保護を強化するために、Salesforce では HTTP のみのドメインが無効になりました。HTTPS 接続を適用する設定または HTTP 要求をアップグレードする設定は必須でデフォルトで適用されるため、有効化され、Summer '21 で削除されました。さらに、非 HTTPS ドメイン設定オプションは、一時的な使用専用であることを表すように名前が変更されました。

HSTS プリロードを使用したドメインへのセキュアな接続のみの許可

セキュリティのベストプラクティスとして、HTTP Strict Transport Security (HSTS) プリロードに対してドメインを有効にして登録することによって、サポートされているブラウザでは常に HTTPS 接続が使用されるようになります。現時点では、すべての HTTP 要求は HTTPS にリダイレクトされます。ただし、そのリダイレクト中、接続は脆弱なままです。

[私のドメイン] のリリース (以前にリリース済みの更新)

最新の機能を使用してブラウザの要件に準拠するには、すべての Salesforce 組織に [私のドメイン] が必要です。[私のドメイン] をリリースしてください。リリースしない場合、[私のドメイン] は組織 ID に基づいて自動的に割り当てられます。[私のドメイン] はすべてのアプリケーション URL に影響するため、Winter '22 でこの更新が適用される前に、[私のドメイン] をテストしてリリースすることをお勧めします。このリリース更新は Winter '21 で最初に使用可能になりました。

拡張ドメインの有効化(更新)

最新のブラウザおよびセキュリティ標準に準拠するには、Salesforce 組織の [私のドメイン] で拡張ドメインを有効にします。拡張ドメインを使用すると、会社固有の [私のドメイン] の名前が Salesforce サイトや Experience Cloud サイトなどの URL に含まれます。一貫したドメイン形式により、ユーザ環境が向上し、カスタムコードおよび API コールで使用される URL が標準化されます。Salesforce の強化されたドメインは最新のブラウザ要件にも準拠しているため、ユーザはサードパーティ Cookie をブロックするブラウザを使用して Salesforce にアクセスできます。この更新は Experience Cloud サイト、Salesforce サイト、Visualforce ページなどのアプリケーションの URL に影響するため、Summer '22 で適用される前に拡張ドメインを有効にすることをお勧めします。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: 拡張ドメインは、Hyperforce 組織、および Salesforce Edge Network を通じて転送された [私のドメイン] がリリースされている組織で使用できます。スクラッチ組織または Developer Edition 組織では使用できません。この機能の可用性についての詳細は、Trailblazer Community の「[My Domain and Enhanced Domains](#)」グループのディスカッションに参加してください。

Salesforce は、この更新を Summer '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: 拡張ドメインを有効にすると、すべてのアプリケーションの URL は先頭が [私のドメイン] の名前になり、インスタンス名が削除されます。Experience Cloud サイト、Salesforce サイト、コンテンツファイル、Site.com Studio、エクスペリエンスビルダー、Visualforce の URL では、ドメインサフィックス ([私のドメイン] の名前の後の部分) が変更されます。さらに、Sandbox の URL には sandbox という単語が含まれるため、識別しやすくなります。

拡張ドメインを使用する [私のドメイン] の URL の形式を次に示します。ログイン URL は拡張ドメインなしの場合と同じですが、残りの URL は変更されます。

URL の種類	強化されたドメインの形式
ログイン	MyDomainName .my.salesforce.com
コンテンツファイル	MyDomainName .file.force.com
Experience Cloud サイト	MyDomainName .my.site.com
エクスペリエンスビルダー	MyDomainName .builder.salesforce-experience.com
Salesforce サイト	MyDomainName .my.salesforce-sites.com
Visualforce ページ	MyDomainName -- PackageName .vf.force.com
Sandbox ログイン	MyDomainName -- SandboxName .sandbox.my.salesforce.com
Sandbox 組織の Experience Cloud サイト	MyDomainName -- SandboxName .sandbox.my.site.com

強化されたドメインを使用して [私のドメイン] をリリースした場合の URL 形式および URL 形式の変更の完全なリストについては、Salesforce ヘルプの「[\[私のドメイン\] の URL の形式](#)」を参照してください。

方法: 本番環境を更新する前に [私のドメイン] のすべての変更を Sandbox でテストすることをお勧めします。

この更新を実行するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新]を選択します。[拡張ドメインを有効化]で、テストと有効化の手順を実行します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 拡張ドメイン \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: \[私のドメイン\] の URL の形式 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[リリース更新のお知らせ](#)

カスタムドメインへのサイトトラフィックのリダイレクト

カスタムドメインの検索エンジン最適化 (SEO) を改善するために、サイトのシステムで管理される URL を、サイトを提供する HTTPS カスタムドメイン (<https://example.com> など) にリダイレクトします。システムで管理されるサイトのベース URL は末尾が `.force.com`、`.my.salesforce-sites.com`、または `.my.site.com` になります。これらの URL からブランドドメインにトラフィックをリダイレクトすることで、ユーザーエクスペリエンスが向上し、カスタムドメインが検索エンジンで適切にランク付けされます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Experience Cloud サイトおよび Salesforce サイトに適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。[サイト] リストで、サイト名をクリックし、[編集] をクリックします。[カスタムドメインにリダイレクト] を選択し、変更を保存します。

サイトを提供するカスタムドメインが複数ある場合は、サイトの主カスタム URL が HTTPS カスタムドメインである場合のみ、要求が主カスタム URL に転送されます。そうでない場合は、このサイトに関連付けられている英数字順で最初の HTTPS カスタムドメインに要求がリダイレクトされます。サイトを提供する HTTPS カスタムドメインがない場合は、このオプションの効果はありません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ドメインの管理 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Salesforce サイトの作成と編集 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Experience Cloud サイトのカスタムドメインの設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ドメインでのセキュアな HTTPS 接続の適用

お客様のデータの保護を強化するために、Salesforce では HTTP のみのドメインが無効になりました。HTTPS 接続を適用する設定または HTTP 要求をアップグレードする設定は必須でデフォルトで適用されるため、有効化され、Summer '21 で削除されました。さらに、非 HTTPS ドメイン設定オプションは、一時的な使用専用であることを表すように名前が変更されました。

対象:この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由:HTTPS は Transport Layer Security (TLS) を使用し、HTTP と比べてセキュリティが強化されています。TLS はインターネットを通じた通信のデータのセキュリティおよびプライバシーを強化するためのものです。

カスタムドメインを使用すると、お客様が所有するドメインを使用して、Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトを通じて外部向けのコンテンツをホストできます。[ドメインの詳細] ページの [Strict Transport Security ヘッダーを有効化] 設定が有効になって削除されたため、すべての HTTP 要求は HTTPS にリダイレクトされます。HTTPS を使用してドメインを提供するいずれかのオプションを選択することをお勧めします。ただし、DNS を設定中であつたり、CNAME が他のサービスを指しているサブドメインを追加中である場合は、[一時的な非 HTTPS ドメイン] オプションを選択できます。以前は、このオプションは [Salesforce が HTTPS アクセスのサポートなしで HTTP を介してドメインを提供する] でした。

カスタムドメインで提供されない Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトに対するすべての要求は HTTPS にアップグレードされました。[サイトの詳細] ページで [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定と [すべての要求を HTTPS にアップグレード] 設定は適用済みであるため、削除されました。

[セッションの設定] ページの [Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトの HSTS] 設定も有効になって削除されました。

状態チェックのスコア計算には削除された設定が使用されていたため、この変更によりスコアに軽微な影響が及ぶ可能性があります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: カスタムドメインを提供するオプション \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: \[状態チェック\] のスコアの計算方法 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

[サードパーティドメインへのセキュアな HTTPS 接続の適用](#)

[HSTS プリロードを使用したドメインへのセキュアな接続のみの許可](#)

[Spring '21 リリースノート: ドメインでの HTTPS の有効化](#)

HSTS プリロードを使用したドメインへのセキュアな接続のみの許可

セキュリティのベストプラクティスとして、HTTP Strict Transport Security (HSTS) プリロードに対してドメインを有効にして登録することによって、サポートされているブラウザでは常に HTTPS 接続が使用されるようになります。現時点では、すべての HTTP 要求は HTTPS にリダイレクトされます。ただし、そのリダイレクト中、接続は脆弱なままです。

対象:この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法:[設定] から、[クイック検索] ボックスに「ドメイン」と入力し、[ドメイン] を選択します。カスタムドメインを編集します。[ドメインの詳細] ページで、[HSTS 事前読み込み登録を許可] を選択します。次に <https://hstspreload.org> に移動してドメインを登録します。Summer '21 以降で作成または編集されたドメインではこの設定が自動的に有効になりますが、この Web サイトでドメインを登録しない限り HSTS プリロードは有効になりません。

この設定が有効になっているかどうかに関係なく、登録の対象となるドメインの HSTS ヘッダーのみが変更されます。形式の要件についての詳細は、Salesforce ヘルプの「ドメインの追加」を参照してください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:ドメインの追加\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[ドメインでのセキュアな HTTPS 接続の適用](#)

[私のドメイン] のリリース (以前にリリース済みの更新)

最新の機能を使用してブラウザの要件に準拠するには、すべての Salesforce 組織に [私のドメイン] が必要です。[私のドメイン] をリリースしてください。リリースしない場合、[私のドメイン] は組織 ID に基づいて自動的に割り当てられます。[私のドメイン] はすべてのアプリケーション URL に影響するため、Winter '22 でこの更新が適用される前に、[私のドメイン] をテストしてリリースすることをお勧めします。このリリース更新は Winter '21 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Winter '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、[Trust 状況](#)に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。この更新は、Winter '21 の開始時点で [私のドメイン] がリリースされていない組織に適用されます。Winter '21 以降で作成されたすべての本番組織では、デフォルトで [私のドメイン] を取得します。

理由: [私のドメイン] をリリースすることで、ログイン URL が選択した [私のドメイン] 名でブランド設定されます。また、ログイン URL からインスタンス名が削除され、組織が別の Salesforce インスタンスに移動した場合のユーザのログイン中断を回避することもできます。ユーザの認証方法を決定するカスタムログインポリシーを設定したり、外部ベンダを使用したシングルサインオン (SSO) を設定したり、Customer 360 Data Manager などの新しいサービスを使用したりするためには、[私のドメイン] が必要です。一部の Lightning コンテナコンポーネントや Web セキュリティ保護でも [私のドメイン] が必要です。

方法: [私のドメイン] は、Sandbox でリリースして組織全体の接続をテストしてから、本番でリリースすることをお勧めします。

この更新を実行するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリース更新」と入力して、[リリース更新] を選択します。[[私のドメイン] をリリース] で、テストと有効化の手順を実行します。[私のドメイン] の設定、テスト、リリース方法については、Salesforce ヘルプの「私のドメイン」を参照してください。

Winter '22 の適用日までに [私のドメイン] をリリースしなかった場合、[私のドメイン] は組織 ID に基づいて Salesforce によって自動的に設定されます。[私のドメイン] に別の名前を使用したい場合は、変更できます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:私のドメイン\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Winter '21 リリースノート:\[私のドメイン\] のリリース \(更新\)](#)

[リリース更新のお知らせ](#)

Salesforce Shield

新しいリアルタイムイベントモニタリング権限セット(正式リリース)を使用して、権限変更を監視し、さらにユーザ権限にトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。APIUsage イベントログファイル種別で、使用されていないAPIバージョンを追跡できます。また、新しい USER_TYPE 項目で、イベントに関連付けられたユーザが認証されたユーザなのか、ゲストユーザなのかを識別できます。Shield Platform Encryption で連絡先項目がサポートされるようになりました。

このセクションの内容:

Shield Platform Encryption

多大なるご要望にお応えして、ユーザメールの Shield Platform Encryption (ベータ) により Salesforce リリース全体で使用されるユーザメールの保護が一層強化されます。個々の取引先と個人取引先に関連付けられた連絡先の住所、メールアドレス、電話番号も暗号化することができます。

イベントモニタリング

一部のイベントログファイルの種類に、イベントに関連付けられたユーザが認証されたユーザなのか、ゲストユーザなのかを識別するために使用できる USER_TYPE 項目が含まれるようになりました。新しい API 合計使用量イベント種別で、システム管理者は廃止されたAPIバージョンがどの組織で使用されているかを把握できます。

Shield Platform Encryption

多大なるご要望にお応えして、ユーザメールの Shield Platform Encryption (ベータ) により Salesforce リリース全体で使用されるユーザメールの保護が一層強化されます。個々の取引先と個人取引先に関連付けられた連絡先の住所、メールアドレス、電話番号も暗号化することができます。

このセクションの内容:

連絡先情報の暗号化

連絡先情報は、多くのビジネスプロセスの重要な部分です。個人識別情報であるため、保護の強化が必要な場合があります。個々の取引先と個人取引先に関連付けられた連絡先の住所、メールアドレス、電話番号を暗号化できるようになりました。

ユーザのメールアドレスの暗号化(ベータ)

リアルタイムでのコミュニケーションに役立つ多数のアプリケーションがあるものの、ほとんどの企業でメールが必要不可欠であり続けています。メールアドレスは、ログインから検証プロセス、そしてその間のすべてに至るまで、あらゆる場所で使用されます。Shield Platform Encryption で、ユーザが保存しているメールの保護が一層強化されるようになりました。ユーザメールは、確率的かつ大文字と小文字を区別しない確定的暗号化スキームをサポートし、重要なビジネス機能を保持するのに役立ちます。

連絡先情報の暗号化

連絡先情報は、多くのビジネスプロセスの重要な部分です。個人識別情報であるため、保護の強化が必要な場合があります。個々の取引先と個人取引先に関連付けられた連絡先の住所、メールアドレス、電話番号を暗号化できるようになりました。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー:Salesforce Shield または Shield Platform Encryption アドオンサブスクリプションを購入したお客様が使用できます。


方法:[設定]の[暗号化ポリシー]ページで[項目を暗号化]をクリックします。次に[編集]をクリックして、項目を選択します。次の項目に確率的暗号化を適用できます。

- 連絡先住所 — 住所
- 連絡先メール — メールアドレス
- 連絡先電話 — 電話番号

ユーザのメールアドレスの暗号化 (ベータ)

リアルタイムでのコミュニケーションに役立つ多数のアプリケーションがあるものの、ほとんどの企業でメールが必要不可欠であり続けています。メールアドレスは、ログインから検証プロセス、そしてその間のすべてに至るまで、あらゆる場所で使用されます。Shield Platform Encryption で、ユーザが保存しているメールの保護が一層強化されるようになりました。ユーザメールは、確率的かつ大文字と小文字を区別しない確定的暗号化スキームをサポートし、重要なビジネス機能を保持するのに役立ちます。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

 **メモ:** ユーザメールの Shield Platform Encryption はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。ユーザメールの Shield Platform Encryption に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Shield」グループに投稿してください。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。

対象ユーザー:Salesforce Shield または Shield Platform Encryption アドオンサブスクリプションを購入したお客様が使用できます。

方法:[設定]の[クイック検索]ボックスに「暗号化ポリシー」と入力し、[項目を暗号化]を選択します。[編集]をクリックし、[ユーザ]セクションの[メール]を選択して、暗号化スキームを選択します。

イベントモニタリング

一部のイベントログファイルの種類に、イベントに関連付けられたユーザが認証されたユーザなのか、ゲストユーザなのかを識別するために使用できる USER_TYPE 項目が含まれるようになりました。新しい API 合計使用量イベント種別で、システム管理者は廃止された API バージョンがどの組織で使用されているかを把握できます。

このセクションの内容:

EventLogFile でのユーザ種別に関する情報の取得

特定のイベントログファイルの種類に `USER_TYPE` 項目が含まれるようになりました。この項目で、たとえばイベントに関連付けられたユーザが認証されたユーザなのか、ゲストユーザなのかを示すことができます。

API 合計使用量イベントを使用した API バージョンの使用の追跡

EventLogFile オブジェクトで API 合計使用量イベント種別を使用して、API バージョンの使用を可視化します。このイベント種別は、API バージョン管理戦略と計画を合理化するのに役立ちます。また、これを使用して一般的な API の使用を監視することもできます。このイベントは、バージョン 30.0 までの SOAP、Bulk v1、および REST API 要求へのコールを記録します。データは 24 時間保持されます。

セキュリティセンターでの脅威検知総計値の確認 (ベータ)

詳細な脅威イベント情報は、潜在的に悪意のある活動への対応にとって重要です。ただし、組織に影響を与える脅威に関する集計された総計値と要約情報が必要になる場合があります。セキュリティセンターアプリケーションでは、脅威検知アプリケーションによって収集された脅威イベントの各カテゴリに関する集計された総計値を取得するための簡単な方法を使用できるようになりました。セキュリティセンターはほぼリアルタイムで更新され、セキュリティ体制の完全で正確かつタイムリーな全体像を把握できます。

EventLogFile でのユーザ種別に関する情報の取得

特定のイベントログファイルの種類に `USER_TYPE` 項目が含まれるようになりました。この項目で、たとえばイベントに関連付けられたユーザが認証されたユーザなのか、ゲストユーザなのかを示すことができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客、および EventLogFile を使用してイベントを監視する顧客が使用できます。

方法: `USER_TYPE` 項目は、次のイベント種別で使用できます。

- Apex REST API
- Apex SOAP
- Apex トリガ
- API
- 非同期レポート
- Aura 要求
- コンソール
- ログイン
- マルチブロックレポート
- 1 つのコマース利用状況
- キューにある実行
- レポート
- REST API
- サイト

- URI
- Visualforce 要求

関連トピック:

オブジェクトリファレンス: EventLogFile でサポートされているイベント種別 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

API 合計使用量イベントを使用した API バージョンの使用の追跡

EventLogFile オブジェクトで API 合計使用量イベント種別を使用して、API バージョンの使用を可視化します。このイベント種別は、API バージョン管理戦略と計画を合理化するのに役立ちます。また、これを使用して一般的な API の使用を監視することもできます。このイベントは、バージョン 30.0 までの SOAP、Bulkv1、および REST API 要求へのコールを記録します。データは 24 時間保持されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザー: API 合計使用量イベントは、すべての顧客が無料で使用できます。Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客は、EventLogFile を使用してイベントを監視できます。

関連トピック:

オブジェクトリファレンス: API 合計使用量 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

セキュリティセンターでの脅威検知総計値の確認 (ベータ)

詳細な脅威イベント情報は、潜在的に悪意のある活動への対応にとって重要です。ただし、組織に影響を与える脅威に関する集計された総計値と要約情報が必要になる場合があります。セキュリティセンターアプリケーションでは、脅威検知アプリケーションによって収集された脅威イベントの各カテゴリに関する集計された総計値を取得するための簡単な方法を使用できるようになりました。セキュリティセンターはほぼリアルタイムで更新され、セキュリティ体制の完全で正確かつタイムリーな全体像を把握できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、セキュリティセンターおよび脅威検知アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

- ☑ **メモ:** この機能はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとします。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

セキュリティセンター

総計値の詳細ページの新しい日付範囲項目では、一度に表示する総計値の詳細を柔軟に制御できます。

このセクションの内容:

脅威検知による環境に対するセキュリティの脅威の監視 (ベータ)

接続済みテナントで考えられるすべての検知された脅威イベントの概要をすばやく取得します。脅威検知アプリケーションは、4種類のセキュリティ脅威についてテナントを監視し、1つの集計ビューでほぼリアルタイムに情報を提供します。

日付範囲を選択して総計値の経時的な変化を表示

選択した日付範囲中に発生した総計値の詳細に対する変更を確認します。この変更により、以前は単一日ビューにはなかった総計値のトレンドと経時的な変化を確認できます。

脅威検知による環境に対するセキュリティの脅威の監視 (ベータ)

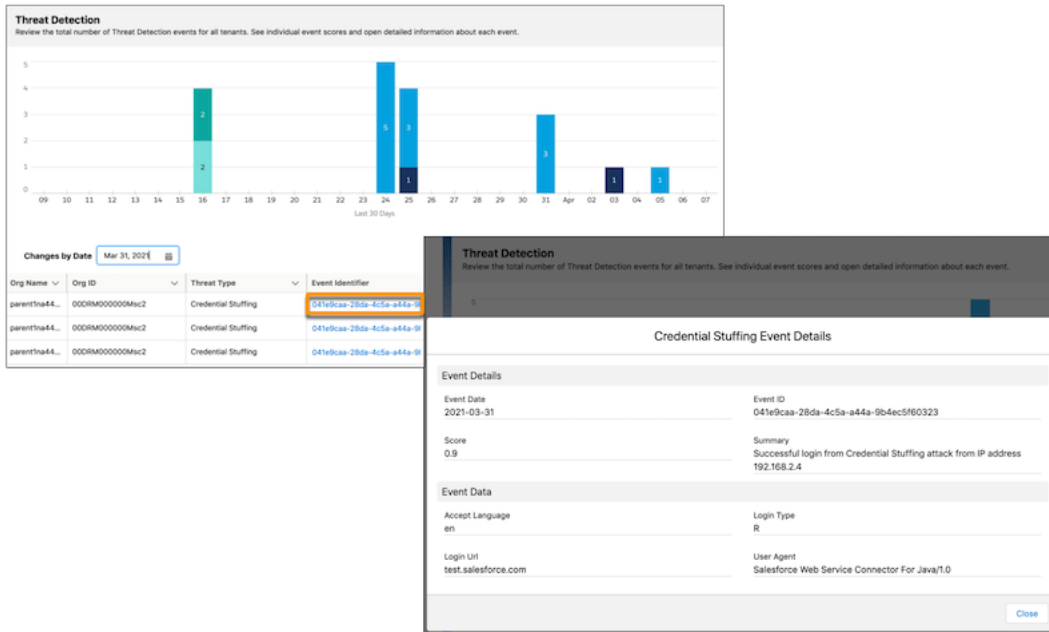
接続済みテナントで考えられるすべての検知された脅威イベントの概要をすばやく取得します。脅威検知アプリケーションは、4種類のセキュリティ脅威についてテナントを監視し、1つの集計ビューでほぼリアルタイムに情報を提供します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: この変更は、セキュリティセンターおよび脅威検知アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

- ☑ **メモ:** セキュリティセンターとの脅威検知インテグレーションはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

方法: 親テナントのセキュリティセンターページから、[脅威検出] をクリックします。30 日間の概要グラフの下で、日付を選択します。検知されたイベントの詳細を表示するには、脅威識別子の値をクリックします。考えられる 4 つのセキュリティ脅威は、クレデンシャルスタッフィング、API 異常、セッションハイジャック、レポート異常です。

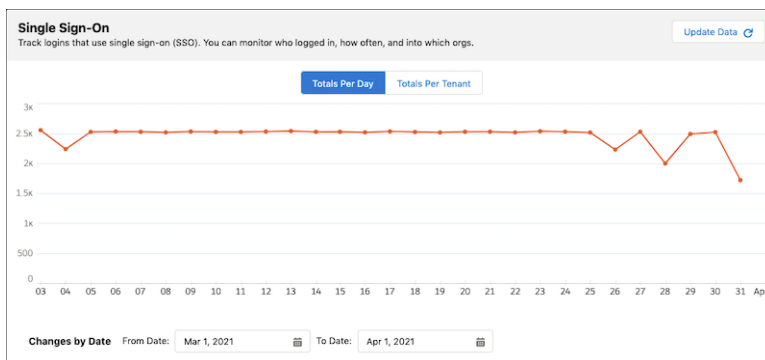


日付範囲を選択して総計値の経時的な変化を表示

選択した日付範囲中に発生した総計値の詳細に対する変更を確認します。この変更により、以前は単一日ビューにはなかった総計値のトレンドと経時的な変化を確認できます。

対象: セキュリティセンターは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition でアドオンサブスクリプションとして利用できます。セキュリティセンターは Government Cloud または Government Cloud Plus では使用できません。

方法: 総計値の詳細ページで、[開始日] と [終了日] を選択します。開始日は終了日より前にする必要があります。または、単一日の詳細を表示するには、同じ日にすることができます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 詳細な総計値データの確認 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

その他のセキュリティの変更

新しい Visualforce ページのキャッシュオプションを使用して、認証されたサイト訪問者の読み込み時間を短縮します。サイトのゲストユーザを最新のライセンスに更新します。セキュアな HTTPS 接続がサードパーティドメインの接続に適用され、Salesforce サイトで許可される Cookie の種類を指定できます。

このセクションの内容:

認証済みユーザ用にサイトの Visualforce ページのキャッシュ

Web ブラウザでサイトの Visualforce ページをキャッシュしてページの読み込み時間を短縮することで、認証済みユーザの環境を改善します。デフォルトで、プロキシサーバでは認証されていないゲストユーザのみ、公開されているページがキャッシュされます。このプロキシサーバによるキャッシュを無効にし、エンドユーザの Web ブラウザに各ページをキャッシュするかどうかを指定できるようになりました。ページ固有のキャッシュは、認証済みユーザと未認証ユーザに適用されます。

サイトのゲストユーザを最新のライセンスに更新

Spring '21 リリースより前に作成された一部の Experience Cloud サイトと Salesforce サイトには、サイトのゲストユーザに関連付けられた古いライセンスがある可能性があります。サイトのゲストユーザが標準のゲストユーザライセンスを使用している場合は、プロビジョニングされたゲストユーザライセンスに更新してください。このゲストユーザライセンスは自動的に更新され、より一貫した権限を使用します。

サードパーティドメインへのセキュアな HTTPS 接続の適用

サードパーティドメインへの接続には HTTPS 接続が必要になり、HTTP 接続は許可されなくなりました。[セッションの設定] ページの [すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定は無効化できないため、削除されました。以前有効化された [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定も無効化できないため、削除されました。

Salesforce サイトの許可される Cookie の設定の定義

Salesforce サイトの新しい設定により、どの種類の Cookie がデフォルトでサイトで許可されるかを決定できます。

非公開接続着信接続のアクセス元 IP アドレスの表示

AWS などのクラウドプロバイダの Salesforce Transit VPC によって着信ネットワーク接続に割り当てられたアクセス元 IP アドレスの範囲を簡単に表示できるようになりました。これらの IP アドレスを Salesforce セキュリティ機能と共に使用して、保護を強化します。たとえば、ユーザがログインの問題が発生することなくこれらの IP アドレスからログインできるように指定できます。または、ユーザが Salesforce にアクセスできる制限付きアドレスのリストにこれらのアクセス元 IP アドレスを追加します。

非公開接続が HIPAA に準拠

医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律 (HIPAA) で規制されている Salesforce のお客様は、Salesforce Business Associate Addendum (BAA) に署名することで、非公開接続を使用し、HIPAA に準拠できるようになりました。規制対象のヘルスケア Salesforce のお客様の電子保健情報 (ePHI) を含む顧客データにアクセスできるのは非公開インターネットからのみであるため、心配ありません。

インラインフレームの信頼済みドメインの追加

Visualforce ページ、サイトページ、アンケート、または組み込みサービスの iframe を許可する、最大 512 ドメインを追加できるようになりました。以前の制限は 256 ドメインでした。

認証済みユーザ用にサイトの Visualforce ページのキャッシュ

Web ブラウザでサイトの Visualforce ページをキャッシュしてページの読み込み時間を短縮することで、認証済みユーザの環境を改善します。デフォルトで、プロキシサーバでは認証されていないゲストユーザにのみ、公開されているページがキャッシュされます。このプロキシサーバによるキャッシュを無効にし、エンドユーザの Web ブラウザに各ページをキャッシュするかどうかを指定できるようになりました。ページ固有のキャッシュは、認証済みユーザと未認証ユーザに適用されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Experience Cloud サイトと Salesforce サイトの Visualforce ページに適用されません。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。[サイト] リストで、サイト名をクリックし、[編集] をクリックします。[公開 Visualforce ページをキャッシュ] を選択解除して、変更を保存します。次に、各 Visualforce ページの cache 属性を使用して、エンドユーザの Web ブラウザにページをキャッシュするかどうかを制御します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce サイトページのキャッシュ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

サイトのゲストユーザを最新のライセンスに更新

Spring '21 リリースより前に作成された一部の Experience Cloud サイトと Salesforce サイトには、サイトのゲストユーザに関連付けられた古いライセンスがある可能性があります。サイトのゲストユーザが標準のゲストユーザライセンスを使用している場合は、プロビジョニングされたゲストユーザライセンスに更新してください。このゲストユーザライセンスは自動的に更新され、より一貫した権限を使用します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Experience Cloud サイトおよび Salesforce サイトに適用されます。

理由: 古いゲストユーザライセンス内の権限は Salesforce 組織間で異なる可能性があるため、このライセンスを更新すると、ゲストユーザが受け取る権限が増加したり、制限されたりする可能性があります。たとえば、システム管理者は、プロビジョニングされたゲストユーザライセンスを持つユーザに Survey オブジェクトへのアクセスを許可できますが、この権限は古いライセンスでは使用できません。場合によって、ゲストユーザは、ライセンスの更新後に権限を失うことがあります。

方法: この更新が必要なユーザがいるかどうかを確認するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。[サイト] リストで、サイト名をクリックし、[編集] をクリックします。[ゲストユーザライセンスを更新] ボタンは、ユーザが古いライセンスを持っている場合のみ表示されます。本番でこのボタンをクリックする前に、Sandbox でテストして、認証されていないゲストユーザがサイトの必要な機能にアクセスできることを確認することをお勧めします。

Sandbox で、[ゲストユーザライセンスを更新] ボタンが表示されている各サイトでそのボタンをクリックします。ログインページを含め予期されるページにゲストユーザとしてアクセスできることをテストします。サイト内のすべての機能が以前のように動作することを確認したら、本番で対象のサイトの [ゲストユーザライセンスを更新] ボタンをクリックできます。

重要: このライセンス変更は元に戻すことができません。

サードパーティドメインへのセキュアな HTTPS 接続の適用

サードパーティドメインへの接続には HTTPS 接続が必要になり、HTTP 接続は許可されなくなりました。[セッションの設定] ページの [すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定は無効化できないため、削除されました。以前有効化された [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定も無効化できないため、削除されました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: HTTPS は Transport Layer Security (TLS) を使用し、HTTP と比べてセキュリティが強化されています。TLS はインターネットを通じた通信のデータのセキュリティおよびプライバシーを強化するためのものです。

この変更は、Salesforce 内で提供されるサードパーティのドメインコンテンツに影響します。たとえば、Visualforce ページには HTTP のみのコンテンツを埋め込むことはできません。ただし、Visualforce ページ上の HTTP のみのドメインへのハイパーリンクは影響を受けません。セキュリティ対策として、HTTPS ドメインを使用するようにハイパーリンクを更新することをお勧めします。

カスタムページに含める HTTP アセット (画像、スタイルシート、JavaScript ファイルなど) がある場合は確認して更新します。この設定を適用すると、HTTP アセットが正しく表示されないことがあります。

状態チェックのスコア計算には削除された設定が使用されていたため、この変更によりスコアに軽微な影響が及ぶ可能性があります。

関連トピック:

[ドメインでのセキュアな HTTPS 接続の適用](#)

[Salesforce ヘルプ: \[状態チェック\] のスコアの計算方法 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

[Spring '21 リリースノート: すべてのサードパーティドメインでセキュアな HTTPS 接続が必要](#)

Salesforce サイトの許可される Cookie の設定の定義

Salesforce サイトの新しい設定により、どの種類の Cookie がデフォルトでサイトで許可されるかを決定できません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Salesforce サイトに適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。新規サイトを作成する場合は [新規] をクリックします。既存のサイトを変更する場合は [編集] をクリックします。サイト内で Salesforce が提供する必須の Cookie のみを許可するには、[このサイトで必要な Cookie のみを許可します] を選択します。この設定を有効にしない場合、サイトでは必須の Cookie、機能や広告の Cookie を含め、すべての Cookie が許可されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce サイトの作成と編集 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

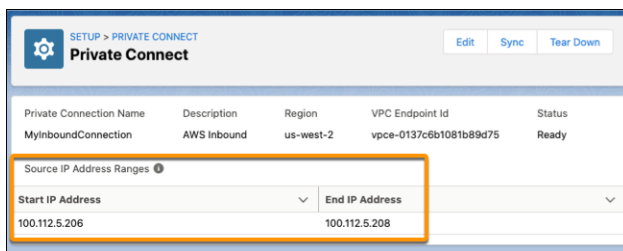
非公開接続着信接続のアクセス元 IP アドレスの表示

AWS などのクラウドプロバイダの Salesforce Transit VPC によって着信ネットワーク接続に割り当てられたアクセス元 IP アドレスの範囲を簡単に表示できるようになりました。これらの IP アドレスを Salesforce セキュリティ機能と共に使用して、保護を強化します。たとえば、ユーザがログインの問題が発生することなくこれらの IP アドレスからログインできるように指定できます。または、ユーザが Salesforce にアクセスできる制限付きアドレスのリストにこれらのアクセス元 IP アドレスを追加します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 以前は、これらの AWS IP アドレスは Salesforce システム管理者には非表示になっていました。その結果、非公開接続のシステム管理者は既知の IP アドレスを必要とするため、Salesforce セキュリティ機能の多くを使用できませんでした。サポートされるようになったセキュリティ機能の完全なリストは、「[AWS との着信接続の確立](#)」を参照してください。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「非公開接続」と入力し、[非公開接続] を選択します。着信接続名がリンクになり、クリックすると接続の詳細 (AWS アクセス元 IP アドレスの範囲など) が表示されるようになりました。



プロビジョニングされた着信ネットワーク接続のアクセス元 IP アドレスは、切断して再プロビジョニングするまで変更されません。そのため、Salesforce セキュリティ機能で IP アドレスを安全に使用できます。

Summer '21 リリースより前に着信接続を作成した場合、そのアクセス元 IP アドレステーブルには IP アドレス範囲が自動的に入力されません。テーブルにデータを入力する方法は 2 つあります。

- IP アドレスのデフォルトプールを共有するには、[同期] をクリックします。これらのアドレスは接続に固有のものではありません。
- 専用の一意的 IP アドレス範囲を受信するには、接続を切断して再プロビジョニングします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 非公開接続を使用したクロスクラウド連携の保護](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Trailhead: Salesforce Private Connect for AWS](#) (AWS の Salesforce 非公開接続)

[Salesforce ヘルプ: 組織の信頼済み IP 範囲の設定](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: 接続アプリケーションの信頼済み IP 範囲へのアクセス制限](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

非公開接続が HIPAA に準拠

医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律 (HIPAA) で規制されている Salesforce のお客様は、Salesforce Business Associate Addendum (BAA) に署名することで、非公開接続を使用し、HIPAA に準拠できるようになりました。規制対象のヘルスケア Salesforce のお客様の電子保健情報 (ePHI) を含む顧客データにアクセスできるのは非公開インターネットからのみであるため、心配ありません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 非公開接続を使用したクロスクラウド連携の保護 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce Private Connect - Business Associate Addendum Restrictions \(Salesforce 非公開接続 - Business Associate Addendum の制限\)](#)

インラインフレームの信頼済みドメインの追加

Visualforce ページ、サイトページ、アンケート、または組み込みサービスの iframe を許可する、最大 512 ドメインを追加できるようになりました。以前の制限は 256 ドメインでした。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Visualforce ページまたは組み込みサービスの場合、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「セッションの設定」と入力し、[セッションの設定] を選択します。[インラインフレームの信頼済みドメイン] で、[ドメインを追加] をクリックします。

Experience Cloud または Salesforce サイトページの場合、[サイトの詳細] ページで信頼済みドメインを追加します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: セッションセキュリティ設定の変更 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Experience Cloud サイトのクリックジャック保護の有効化 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Web サイトのチャットウィンドウ内でアンケートのフレーム化を許可 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Visualforce 開発者ガイド: 外部ドメインへの Visualforce ページの配置 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

サービス

ビジネスの拡大と合理化に役立つ新しい Service Cloud ツールを使用して、自動化を搭載した統合サービス環境を提供します。サービス設定アシスタントを使用して、価値実現までの時間を短縮します。サービス設定アシスタントにより、自分とチームのために最適化されたサービスアプリケーションを作成し、より多くの重要な設定手順を実行できるようになりました。ワークフォースエンゲージメントを使用して、データ主導のシフト計画ツールと、従業員が成長してそれぞれのスキルを適用できるという二重のメリットがある機能(ヒント: Trailhead を利用)により、コンタクトセンターの運営を合理化します。Service Cloud Voice を任意のテレフォニープロバイダと統合して、Service Cloud Voice を最大限に活用します。どのような場合に Einstein によってチャットエージェントの返信が更新されるのかを学び、Einstein ケース分類の予測モデル構築の進捗状況を追跡します。

このセクションの内容:

サービスの設定

標準のサービスアプリケーションで開始することが好評であることを受け、サービス設定アシスタントで処理できる作業が追加され、設定がさらに容易になりました。アシスタントは、デフォルトのヘルプセンター、自動化されたケースメール通知、マクロやフローのおすすめなどのサンプルデータを提供し、ユーザが Service Cloud のベストプラクティスを理解するのに役立ちます。また、ナレッジの主要な設定ステップを完了し、必要な機能へのアクセス権をチームに付与する手順を説明します。

ワークフォースエンゲージメント

ビジネス、従業員、顧客のすべてがメリットを得ることができる、より優れたコンタクトセンターを運営します。ビジネスは、作業負荷の需要をより効率的に満たすことができる新しいデータ主導の計画ツールにより、メリットを得ることができます。従業員は、柔軟なスケジュールツール、およびより優れたキャリアオーナーシップと成長の機会があることで、メリットを得ることができます。顧客は、サービスがより迅速になり、最適なエージェントからサポートを受けることで、メリットを得ることができます。

チャンネル

自分で選択したサポートされるテレフォニーシステムを統合でき、パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice が正式リリースになりました。Voice ツールキット API と Lightning Web コンポーネントを使用して顧客向けのカスタマイズしたソリューションを構築できます。通話後作業(ベータ)を使用して、通話後に作業をまとめるための時間をエージェントに与えます。Cookie を制限しているユーザ向けに組み込みチャットの会話を続けるためのアップグレードがあります。フリーダイヤル番号を使用するチャンネルでマルチメディアメッセージを送信できます。

ルーティング

オムニチャンネルフローを使用して作業を最も適格なエージェントに効率的にルーティングします(ベータ)。状況ベースの業務量制限とタブベースの業務量制限が 100 に変更されました。

Einstein for Service

Salesforce では、Einstein で管理者やエージェントの生産性を高められ方法を常に模索しています。正式リリースされた Einstein ケースラップアップは、エージェントが顧客とのチャットを終了したときにケース項目を予測します。また、エージェントが使用するために新しい返信や更新済みの返信を公開できるように、Einstein 返信レコメンデーションで返信テンプレートが更新されたときに通知されます。

ケース管理

[ケース Web メール] クイックアクションの更新により、これまでより長いメールを送信したり、一括マクロを使用したり、右から左へ記述される言語のキーボードとの完全な互換性を提供したりできるようになりました。顧客が自分でより多くのことを実行できるカスタムヘルプセンターを作成します。または、Lightning テンプレートと Web-to-ケース、サポート設定、ケースの割り当てルールとの互換性など、事前作成済みのケース生産性の強化により、エージェントのワークフローを合理化します。

ナレッジ

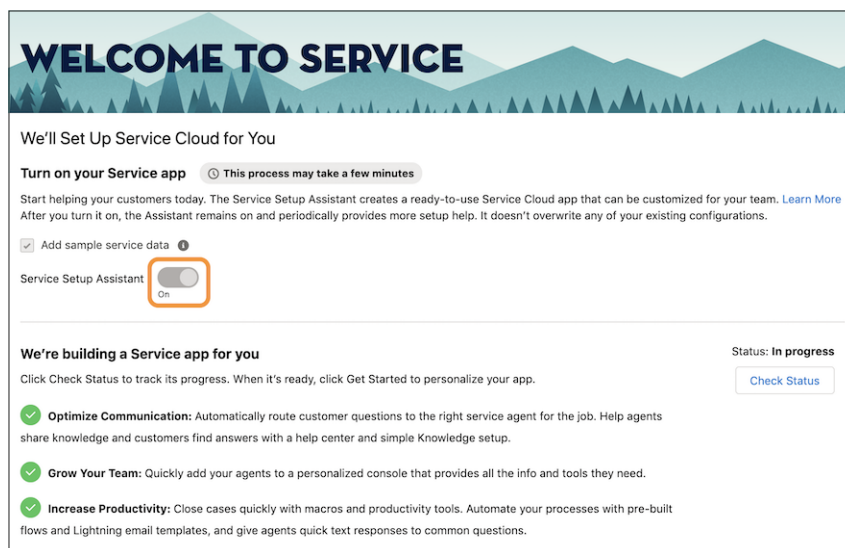
サービス設定アシスタントで主要なナレッジの設定手順を自動的に完了します。右から左へ記述される言語もサポートする CKEditor の拡張サイズにより、記事を作成または更新するためのスペースが広くなります。Einstein 記事レコメンデーションを使用すると、エージェントは最も関連性の高い記事をすばやく見つけることができます。Einstein Search for Knowledge (パイロット) をお試しください。

サービスの設定

標準のサービスアプリケーションで開始することが好評であることを受け、サービス設定アシスタントで処理できる作業が追加され、設定がさらに容易になりました。アシスタントは、デフォルトのヘルプセンター、自動化されたケースメール通知、マクロやフローのおすすめなどのサンプルデータを提供し、ユーザが Service Cloud のベストプラクティスを理解するのに役立ちます。また、ナレッジの主要な設定ステップを完了し、必要な機能へのアクセス権をチームに付与する手順を説明します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Professional Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: サービスの使用を開始するには、[設定] メニューから [サービス設定アシスタント] をクリックします。



初めて使用する場合は、サービス設定アシスタントを有効にします。サービスアプリケーションの準備が完了したら、[使用開始] をクリックします。

すでにアシスタントを使用してサービスアプリケーションを作成してある場合は、画面上部のバナーにある [自分のサービスアプリケーションを更新] をクリックして、新機能を取得します。次の新機能があります。

- サンプルデータ:[サンプルサービスデータを追加]を選択されたままにして、サンプルケース、フローのおすすめ、マクロ、ナレッジ記事、クイックテキストメッセージを取得します。サンプルデータはServiceCloudを使用するためのベストプラクティスを示しており、データは自由にカスタマイズまたは削除できます。
- ケースのメール通知: Lightning メールテンプレートと事前設定済みのサポート設定を使用して、ケースが作成、更新、割り当て、クローズされると、自動的にケース取引先責任者にメールを送信します。
- ユーザアクセス: ユーザを追加するときに、そのユーザがアクセスする必要がある機能を選択します。アシスタントは、組織が購入した機能に基づいて、関連機能のライセンスと権限セットをユーザに割り当てます。
- 事前作成済みのヘルプセンター: ナレッジ記事とブランドを追加し、サポートチームに問い合わせなくても顧客が簡単な疑問を解決できるヘルプセンターを公開します。複雑な問題の場合、シンプルな Web フォームを使用してケースを作成できます。
- ナレッジの設定: コンパクトレイアウト、[記事ツール] タブと [フィールド] タブ、[バージョンを比較] コンポーネントを含む、ナレッジ記事用に最適化されたレコードページを取得します。グローバルアクションを使用して、エージェントは簡単に記事を作成できます。また、事前作成済みのチャンネルの対応付け設定により、メールやチャットに記事を挿入するときに、使用できる記事固有の応答が表示されます。

サービス設定アシスタントで設定される一部の機能には、追加のライセンスまたは設定ステップが必要になります。特定の作業に必要なライセンスがない場合、その作業はスキップされます。

関連トピック:

[顧客をソリューションに導くカスタムヘルプセンターの生成](#)

[サービス設定アシスタントによるナレッジジャーニーの開始](#)

[Salesforce ヘルプ: サービス設定アシスタントに含まれる機能\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ワークフォースエンゲージメント

ビジネス、従業員、顧客のすべてがメリットを得ることができる、より優れたコンタクトセンターを運営します。ビジネスは、作業負荷の需要をより効率的に満たすことができる新しいデータ主導の計画ツールにより、メリットを得ることができます。従業員は、柔軟なスケジュールツール、およびより優れたキャリアオーナーシップと成長の機会があることで、メリットを得ることができます。顧客は、サービスがより迅速になり、最適なエージェントからサポートを受けることで、メリットを得ることができます。

このセクションの内容:

[インテリジェントな予測と履歴データを使用した作業負荷の予測](#)

多くのコンタクトセンターは、予測を構築するときにデータのサイロ化、不正確なアルゴリズム、煩雑なスプレッドシートに悩まされています。インテリジェントな予測では、機械学習と直感的なレポートビルダーを使用してこれらの問題を解決します。コンタクトセンターの履歴データを作業負荷履歴に集約します。その履歴からインテリジェントな予測を構築し、作業負荷を時間、地域、スキル、カスタムデータでスライスします。

オムニチャネル計画を使用したスケジュール要件の生成とシフトカバー率の確認

シフトスケジュール要件を予測し、スタッフの割り当てについてデータ主導の意思決定を行います。より適切なエージェントを準備して顧客をサポートできるように、従業員のスキルのギャップを特定します。スケジュール済みシフトと予測の要件を比較して、チャンネル全体のカバー率を確認します。必要な時間またはスキルでこのデータをスライスします。

シフトスケジュールを使用したエージェント、シフト、および時間の管理

シフトスケジュールの機能強化により、優れたサービスを提供するための適切なスキルと帯域幅を持つエージェントが顧客をサポートできるようになります。ビジネス固有のスケジュールルールとエージェントの設定に基づいて、シフトをバッチまたは手動で割り当てます。エージェントのタイムシートと不在を承認します。

エージェント能力促進ツールを使用したエージェントへの裁量権の付与

エージェントの満足度が高ければ顧客の満足度も高まるため、エージェント専用のワークフォースエンゲージメント機能が追加されました。キャリア開発の機会、組織の機能強化、スケジュールに対する裁量権の拡大により、高パフォーマンスを維持します。

インテリジェントな予測と履歴データを使用した作業負荷の予測

多くのコンタクトセンターは、予測を構築するときにデータのサイロ化、不正確なアルゴリズム、煩雑なスプレッドシートに悩まされています。インテリジェントな予測では、機械学習と直感的なレポートビルダーを使用してこれらの問題を解決します。コンタクトセンターの履歴データを作業負荷履歴に集約します。その履歴からインテリジェントな予測を構築し、作業負荷を時間、地域、スキル、カスタムデータでスライスします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。ワークフォースエンゲージメントは有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期: ワークフォースエンゲージメントは 2021 年 6 月 15 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザー: 「ワークフォースエンゲージメントアナリスト」権限セットを持つユーザーは、作業負荷履歴やインテリジェントな予測を表示、作成、編集、削除できます。

方法: ワークフォースエンゲージメントアドオンライセンスを購入します。[設定] で [ワークフォースエンゲージメント] を有効にし、データモデル設定を選択します。インテリジェントな予測の設定手順を実行します。

アプリケーションランチャーで [インテリジェントな予測] を開き、[新規] をクリックします。次に、作業負荷履歴を作成する手順と、作成した作業負荷履歴からインテリジェントな予測を作成する手順を段階的に進めます。

オムニチャネル計画を使用したスケジュール要件の生成とシフトカバー率の確認

シフトスケジュール要件を予測し、スタッフの割り当てについてデータ主導の意思決定を行います。より適切なエージェントを準備して顧客をサポートできるように、従業員のスキルのギャップを特定します。スケジュール済みシフトと予測の要件を比較して、チャンネル全体のカバー率を確認します。必要な時間またはスキルでこのデータをスライスします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。ワークフォースエンゲージメントは有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期: ワークフォースエンゲージメントは 2021 年 6 月 15 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ: 「ワークフォースエンゲージメントアナリスト」権限セットを持つユーザは、オムニチャネル計画を表示、作成、編集できます。また、作業負荷履歴とインテリジェントな予測を表示、作成、編集、削除することもできます。

理由: ワークフォースエンゲージメントは、エージェントの維持とスキルアップを目的としています。オムニチャネル計画は、シフトに必要なエージェントの数と、優れたカスタマーサポートを提供するために必要なスキルを正確に把握するのに役立ちます。

方法: ワークフォースエンゲージメントアドオンライセンスを購入します。[設定] で [ワークフォースエンゲージメント] を有効にし、データモデル設定を選択します。作業負荷履歴とインテリジェントな予測の設定手順を実行します。次に、オムニチャネル計画の設定手順を実行します。

作業負荷履歴を作成し、その作業負荷履歴からインテリジェントな予測を作成します。インテリジェントな予測を開き、[オムニチャネル計画を追加] をクリックします。オムニチャネル計画を作成する手順を実行します。

シフトを作成して、計画の出勤可能シフトと割り当て済みシフトを比較します。

シフトスケジュールを使用したエージェント、シフト、および時間の管理

シフトスケジュールの機能強化により、優れたサービスを提供するための適切なスキルと帯域幅を持つエージェントが顧客をサポートできるようになります。ビジネス固有のスケジュールルールとエージェントの設定に基づいて、シフトをバッチまたは手動で割り当てます。エージェントのタイムシートと不在を承認します。

このセクションの内容:

一括割り当てによる一度に多数のエージェントのシフトへの割り当て

優れたサービスを提供するために、お客様が常に適切なスキルと経験を持つエージェントによってサポートされるようにします。ビジネス固有のスケジュールルールとエージェントの設定に基づいて、一度に最大 200 のシフトを一括して割り当てます。既存の従業員のスケジュールに対する要望に迅速に対応できます。

[候補を取得] を使用したシフトへのエージェントの手動割り当て

誰かが病欠の電話を入れた場合や別の予期しないイベントが発生した場合、シフトの割り当てを調整します。[候補を取得] 機能を使用して、一度に 1 つのシフトを 1 人のエージェントに手動で割り当てます。スケジュールルールを満たす候補のリストを確認し、個人のスケジュール設定とよく合致する候補を選択します。

タイムシートおよび休暇申請の承認

エージェントのタイムシートおよび休暇申請を監視します。個々のエージェントのサービスリソースプロファイルから、または [タイムシート] タブや [リソースの不在] タブから、登録を承認または拒否します。

一括割り当てによる一度に多数のエージェントのシフトへの割り当て

優れたサービスを提供するために、お客様が常に適切なスキルと経験を持つエージェントによってサポートされるようにします。ビジネス固有のスケジュールルールとエージェントの設定に基づいて、一度に最大 200 のシフトを一括して割り当てます。既存の従業員のスケジュールに対する要望に迅速に対応できます。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。ワークフォースエンゲージメントは有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期:ワークフォースエンゲージメントは 2021 年 6 月 15 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ:「ワークフォースエンゲージメントスケジュールコーディネータ」権限セットを持つユーザはシフトを一括して割り当てることができます。

方法:ワークフォースエンゲージメントアドオンライセンスを購入します。[設定] で [ワークフォースエンゲージメント] を有効にし、データモデル設定を選択します。シフトスケジュールの設定手順を実行します。

エージェントにシフトを一括で割り当てするには、アプリケーションランチャーで[シフト]を開き、タブを[テーブルビュー]に設定します。割り当てるシフトをすべて選択するか、割り当てるシフトごとにチェックボックスをオンにします。[割り当て]をクリックして、[シフトを割り当て]をクリックします。

[候補を取得] を使用したシフトへのエージェントの手動割り当て

誰かが病欠の電話を入れた場合や別の予期しないイベントが発生した場合、シフトの割り当てを調整します。[候補を取得] 機能を使用して、一度に 1 つのシフトを 1 人のエージェントに手動で割り当てます。スケジュールルールを満たす候補のリストを確認し、個人のスケジュール設定とよく合致する候補を選択します。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。ワークフォースエンゲージメントは有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期:ワークフォースエンゲージメントは 2021 年 6 月 15 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ:「ワークフォースエンゲージメントスケジュールコーディネータ」権限セットを持つユーザは、[候補を取得] 機能を使用できます。

方法:ワークフォースエンゲージメントアドオンライセンスを購入します。[設定] で [ワークフォースエンゲージメント] を有効にし、データモデル設定を選択します。シフトスケジュールの設定手順を実行します。

手動でシフトをエージェントに割り当てするには、アプリケーションランチャーで[シフト]を開きます。リストビューを[すべてのシフト]に設定し、[表示名] アイコンを[スケジュール]ビューに設定します。シフトにマウスポインタを置き、[候補を取得]をクリックします。各候補の一致する設定を確認し、シフトを割り当てるエージェントを選択します。変更を送信します。

タイムシートおよび休暇申請の承認

エージェントのタイムシートおよび休暇申請を監視します。個々のエージェントのサービスリソースプロファイルから、または[タイムシート]タブや[リソースの不在]タブから、登録を承認または拒否します。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。ワークフォースエンゲージメントは有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期:ワークフォースエンゲージメントは 2021 年 6 月 15 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ:「ワークフォースエンゲージメントスケジュールコーディネータ」権限セットを持つユーザは、タイムシートとリソースの不在を承認できます。「ワークフォースエンゲージメントエージェント」権限セットを持つユーザは、タイムシートとリソースの不在を送信できます。

方法:ワークフォースエンゲージメントアドオンライセンスを購入します。[設定] で [ワークフォースエンゲージメント] を有効にし、データモデル設定を選択します。タイムシートとリソースの不在の設定手順に従います。

エージェントとして、アプリケーションランチャーから[サービスリソース]を開きます。サービスリソースプロファイルをクリックし、[関連]をクリックします。[タイムシート]または[不在]関連リストで、[新規]をクリックします。手順に従って、タイムシートまたはリソースの不在を作成します。変更を保存すると、タイムシートまたはリソースの不在がチームリーダーに送信されます。

チームリーダーとして、エージェントのサービスリソースプロファイルを開きます。[関連]をクリックし、[タイムシート]または[不在]を開き、状況を変更します。変更内容を保存します。または、アプリケーションランチャーから[タイムシート]または[不在]タブを開き、そこですべてのエージェントからの送信を確認します。

エージェント能力促進ツールを使用したエージェントへの裁量権の付与

エージェントの満足度が高ければ顧客の満足度も高まるため、エージェント専用のワークフォースエンゲージメント機能が追加されました。キャリア開発の機会、組織の機能強化、スケジュールに対する裁量権の拡大により、高パフォーマンスを維持します。

このセクションの内容:

エージェントエンゲージメントによるエージェントのスキル向上とキャリア開発

エージェントが myTrailhead でスキルを習得し、それらのスキルを売上予測、スケジュール計画、シフト作成に適用できるようにします。エージェントがよりよいサービスを提供するために必要な、サポートと商品に関する知識を反映して myTrailhead をカスタマイズします。学習をスキルに関連付け、エージェントが myTrailhead モジュールを完了したら自動的にそれらのスキルをエージェントに割り当てます。その後、そうしたスキルが必要なシフトにエージェントを割り当てることができます。

エージェントホームでのエージェントへの週のビューの表示

エージェントに現在の週のスケジュールを確認できるホームページを提供します。

サービスリソース設定を使用したエージェントの仕事と生活のバランスの改善

仕事でも仕事以外でも、エージェントのウェルビーイングを気にしていることをエージェントに示します。サービスリソース設定を使用すると、エージェントは自分が希望する毎日の業務時間を指定できます。これらの設定は、チームリーダーが[バッチの割り当て]または[候補を取得]機能を使用してシフトを割り当てるときに考慮されます。

エージェントエンゲージメントによるエージェントのスキル向上とキャリア開発

エージェントが myTrailhead でスキルを習得し、それらのスキルを売上予測、スケジュール計画、シフト作成に適用できるようにします。エージェントがよりよいサービスを提供するために必要な、サポートと商品に関する知識を反映して myTrailhead をカスタマイズします。学習をスキルに関連付け、エージェントが myTrailhead モジュールを完了したら自動的にそれらのスキルをエージェントに割り当てます。その後、そうしたスキルが必要なシフトにエージェントを割り当てることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。ワークフォースエンゲージメントは有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。エージェントエンゲージメントにも myTrailhead アドオンライセンスが必要です。

時期: ワークフォースエンゲージメントは 2021 年 6 月 15 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ:「学習マネージャ」カスタムユーザプロファイルを持つユーザは学習を割り当てることができ、「学習者」カスタムユーザプロファイルを持つユーザはエージェントエンゲージメントを使用して学習することができます。ユーザには「ワークフォースエンゲージメントアナリスト」、「ワークフォースエンゲージメントスケジュールコーディネータ」、または「ワークフォースエンゲージメントエージェント」ユーザプロファイルも必要です。

理由:エージェントは、インシデントから時間が経ってから、または不定期にフィードバックを受け取ることができます。エージェントエンゲージメントでは、エージェントの通常の作業フローに直接すぐに学習時間を組み込むことができます。この機能により、エージェントはスキルを広げ、刷新し、深めることが可能になります。

方法:ワークフォースエンゲージメントアドオンライセンスを購入します。[設定]で[ワークフォースエンゲージメント]を有効にし、データモデル設定を選択します。エージェントエンゲージメントの設定手順を実行します。

チームリーダーとして学習を割り当てるには、アプリケーションランチャーで[オムニスーパーバイザ]を開きます。[すべてのエージェント]リストで、オンラインのエージェントの横にあるボックスをオンにし、[学習を割り当て]をクリックします。割り当てるモジュールを選択し、[学習を割り当て]をクリックします。

エージェントとしてモジュールを実行し、スキルを獲得するには、オムニチャネルウィジェットを開き、モジュールをダブルクリックします。開いたタブでモジュールを実行します。

エージェントホームでのエージェントへの週のビューの表示

エージェントに現在の週のスケジュールを確認できるホームベースを提供します。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。ワークフォースエンゲージメントは有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期:ワークフォースエンゲージメントは 2021 年 6 月 15 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ:「ワークフォースエンゲージメントエージェント」権限セットを持つユーザは、[エージェントホーム]タブで自分のスケジュールを表示できます。

方法:ワークフォースエンゲージメントアドオンライセンスを購入します。[設定]で[ワークフォースエンゲージメント]を有効にし、データモデル設定を選択します。エージェントホームの設定手順を実行します。

エージェントがアプリケーションランチャーから [エージェントホーム]を開きます。

サービスリソース設定を使用したエージェントの仕事と生活のバランスの改善

仕事でも仕事以外でも、エージェントのウェルビーイングを気にしていることをエージェントに示します。サービスリソース設定を使用すると、エージェントは自分が希望する毎日の業務時間を指定できます。これらの設定は、チームリーダーが[バッチの割り当て]または[候補を取得]機能を使用してシフトを割り当てるときに考慮されます。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。ワークフォースエンゲージメントは有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期:ワークフォースエンゲージメントは 2021 年 6 月 15 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ:「ワークフォースエンゲージメントエージェント」権限セットを持つユーザは、サービスリソース設定を送信できます。

方法: ワークフォースエンゲージメントアドオンライセンスを購入します。[設定] で [ワークフォースエンゲージメント] を有効にし、データモデル設定を選択します。サービスリソース設定の設定手順に従います。

エージェントとして、アプリケーションランチャーで[業務時間]を開きます。理想的なスケジュールの業務時間のセットを作成し、変更を保存します。作成した業務時間を開き、[関連] をクリックします。[時間枠] の下で、[新規] をクリックします。各曜日の時間枠を作成し、希望する時間を指定します。変更内容を保存します。

サービスリソースプロファイルを開き、[関連] をクリックします。[設定] で、[新規] をクリックします。サービスリソース設定の詳細を入力し、作成した業務時間に関連付けます。変更内容を保存します。

チャンネル

自分で選択したサポートされるテレフォニーシステムを統合でき、パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice が正式リリースになりました。Voice ツールキット API と Lightning Web コンポーネントを使用して顧客向けのカスタマイズしたソリューションを構築できます。通話後作業(ベータ)を使用して、通話後に作業をまとめるための時間をエージェントに与えます。Cookie を制限しているユーザ向けに組み込みチャットの会話を続けるためのアップグレードがあります。フリーダイヤル番号を使用するチャンネルでマルチメディアメッセージを送信できます。

このセクションの内容:

Voice

Service Cloud Voice を任意のテレフォニープロバイダと統合して、Service Cloud Voice を最大限に活用します。パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice では、サポートされているテレフォニープロバイダ (Amazon Connect など) を Voice コンタクトセンターで利用できます。この変更の一環として、アクセスする場所がわかりやすいように、[設定] の Voice ページの名前が新しくなりました。会話後作業 (ACW) (ベータ) で通話後にラップアップするための時間をエージェントに提供し、Omni-Channel Supervisor とレポートでエージェントの ACW 時間を追跡します。音声ツールキット API での管理パッケージのサポート、卓上電話のサポート (パイロット)、顧客との通話で発せられたキーワードの把握など、他にも新しい音声機能が導入されました。

Web 用埋め込みサービス

設定をよりスムーズにするため、リリースで会話種別を組み込みチャット、フロー、予定管理の中から選択することが必須になりました。Cookie を制限している顧客との会話を続け、顧客が離れようとしている場合にブラウザタブにとどまるよう警告できます。NVDA スクリーンリーダーを使用している顧客への挨拶を省略したり繰り返したりすることなくチャットの開始と終了を行うことができます。

メッセージング

エージェントが前の会話トランスクリプトを表示する場合にユーザ権限が求められるようになりました。エージェントは、フリーダイヤル番号を使用するチャンネルでマルチメディアメッセージを顧客に送信できるようになりました。

Voice

Service Cloud Voice を任意のテレフォニープロバイダと統合して、Service Cloud Voice を最大限に活用します。パートナーテレフォニーを使用する Service Cloud Voice では、サポートされているテレフォニープロバイダ (Amazon Connect など) を Voice コンタクトセンターで利用できます。この変更の一環として、アクセスする場所がわかりやすいように、[設定] の Voice ページの名前が新しくなりました。会話後作業 (ACW) (ベータ) で通話後にラップアップするための時間をエージェントに提供し、Omni-Channel Supervisor とレポートでエージェントの ACW 時間を追跡します。音声ツールキット API での管理パッケージのサポート、卓上電話のサポート (パイロット)、顧客との通話で発せられたキーワードの把握など、他にも新しい音声機能が導入されました。

このセクションの内容:

パートナーテレフォニー用の Service Cloud Voice でテレフォニープロバイダを使用 (正式リリース)

既存のテレフォニーサービスを Service Cloud Voice に接続し、統一された直感的なエージェント環境を作成して、より迅速かつパーソナライズされたサービスを顧客に提供します。推奨事項を提示し、ワークフローを開始し、通話後の処理時間を短縮する Salesforce プロセスの自動化により、通話をより迅速に解決します。

既存の Amazon Connect コンタクトセンターと Voice の統合

Amazon Connect コンタクトセンターの構築に投資している場合、パートナーテレフォニーを利用する Service Cloud Voice と統合して、その機能を活用しましょう。エージェントにシームレスな環境を提供し、顧客に一流のサービスを提供します。

会話後作業の制限と監視 (ベータ)

通話後に作業をまとめるための時間をエージェントに提供します。エージェントはこの会話後作業 (ACW) 時間を使って、フォローアップメールの送信、ケースの更新、通話メモの確定を行います。スーパーバイザは、エージェントの ACW 時間を Omni-Channel Supervisor とレポートで追跡できます。

Service Cloud Voice ツールキット API での顧客向けにカスタマイズされたソリューションの構築

Salesforce パートナーは、管理パッケージを含むすべてのパッケージ種別でカスタムソリューションを顧客に提供できます。この新しいツールキット API は、Lightning Web コンポーネントとして使用できます。以前は、Voice ツールキット API は Aura コンポーネントとしてのみ使用可能で、管理パッケージはサポートしていませんでした。

サービスの Einstein 会話インサイトを使用した通話データの把握

顧客とのやりとりにおいてエージェントをコーチングするためにスーパーバイザに必要なデータを提供します。Einstein 会話インサイト (旧称 Einstein コールコーチング) は、Sales Dialer または Service Cloud Voice の顧客通話記録での重要な瞬間を特定します。通話構成、エージェントのトーク対リスン比率、商品名などのカスタマイズされたキーワードやよくある顧客の問題がいつどのように言及されるかを把握します。

ID プロバイダ証明書の循環でコンタクトセンターの安全の確保

Salesforce は証明書を使用して、Amazon Connect を使用する Service Cloud Voice コンタクトセンターのセキュリティを強化します。証明書の有効期限が近づくと、最新の証明書に置き換えることができようメールでお知らせします。

AIを使用してリアルタイムの通話の文字起こしから顧客のインテントを検出

リアルタイムの音声通話の文字起こしから顧客のインテントを検出し、エージェントに役に立つリソースを示します。Einstein 会話インテリジェンスは、Service Cloud Voice のシームレスな操作性と Einstein ボットの機能を組み合わせて、顧客のインテントが検出されると Next Best Action リストの更新などのイベントをトリガします。たとえば、顧客が製品の保証状況を確認するために電話をかけてきた場合、サービスエージェントが対応しやすいように関連アクションやフローが自動的に推奨されます。

前の会話の入力のユーザ権限の追加

過去の音声文字起こしを表示するには、認証済みユーザには「会話エントリを利用」ユーザ権限が必要です。この権限は Salesforce 標準プロファイルに含まれ、「コンタクトセンターエージェント」権限セットに追加されます。カスタムプロファイルを使用する場合は、そのプロファイルで「会話エントリを利用」ユーザ権限を有効にします。権限の更新は、有効な通話の文字起こしには影響しません。

フローを使用した通話の転送、リアルタイムのキュー総計値の表示、通話の関連レコードを自動的に開く (パイロット)

Flow Builder の機能と柔軟性を利用して、ルーティングルールを定義し、他のチャンネルのルーティングルールを設定するのと同じ場所で適切なエージェントに作業を動的に転送します。Omni-Channel Supervisor で音声通話のリアルタイムキュー総計値をスーパーバイザに提供します。また、エージェントが通話を受け入れたときにサブタブで最大4つの関連レコードを自動的に開くことで、エージェントがよりパーソナライズされたサービスを提供できるようにします。

Service Cloud Voice での卓上電話の使用 (パイロット)

卓上電話や携帯電話など、任意のハードフォンを使用して顧客と通話します。

Service Cloud Voice の設定ページの新しい名前

Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice の設定ページの名前が、「Amazon 設定」から「Amazon コンタクトセンター」に変更されました。Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice とパートナーテレフォニーを利用する Service Cloud Voice の両方を同じ組織で使用するお客様が、それぞれの機能で使用するページがわかるように名前を変更しました。

通話制御のタブとコンポーネントの新しい名前

わかりやすく「電話」と呼びましょう。

Government Cloud での Service Cloud Voice のサポート

Service Cloud Voice が Government Cloud の Salesforce 組織で使用できるようになりました。Voice は、シームレスなエージェントエクスペリエンスを実現するためにインテリジェントなテレフォニーを Salesforce に統合します。エージェントは、リアルタイムの通話の文字起こしを含む Amazon Connect の機能を活用する直観的なソフトフォンを使用してお客様と会話できます。または、独自のテレフォニープロバイダを Voice コンタクトセンターに統合して、既存のカスタマイズを Voice の合理化されたエージェントおよびスーパーバイザ環境と組み合わせることができます。エージェントがお客様の希望するチャンネルを使用して適切なタイミングでお客様を手助けできるように、音声通話とデジタルチャンネルを組み合わせています。

パートナーテレフォニー用の Service Cloud Voice でテレフォニープロバイダを使用 (正式リリース)

既存のテレフォニーサービスを Service Cloud Voice に接続し、統一された直感的なエージェント環境を作成して、より迅速かつパーソナライズされたサービスを顧客に提供します。推奨事項を提示し、ワークフローを開始し、通話後の処理時間を短縮する Salesforce プロセスの自動化により、通話をより迅速に解決します。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

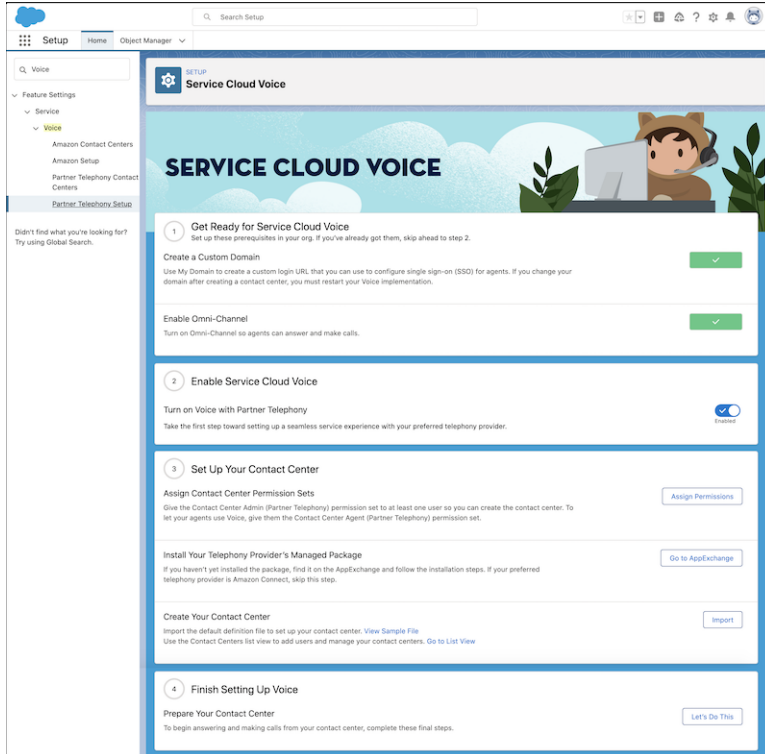
Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

対象ユーザ:「コンタクトセンター管理者(パートナーテレフォニー)」権限セットを持つシステム管理者は、Voice を設定し、パートナーテレフォニーを利用する Service Cloud Voice 用のコンタクトセンターを作成および管理できます。「コンタクトセンターエージェント(パートナーテレフォニー)」権限セットを持つエージェントは、パートナーテレフォニーを利用する Service Cloud Voice を使用して通話を受信および発信できます。

理由:エージェントがサービスコンソールで顧客からの電話に応答し、複数のアプリケーションを操作することなく電話で顧客をサポートできるようにすることで、エージェントの生産性を高めます。または、エージェントがパートナーテレフォニーを利用する Service Cloud Voice で任意の電話(組み込みソフトフォン、卓上電話、または携帯電話)を使用できるようにします。

エージェントが通話を受け入れたときに Salesforce レコードがサブタブとして自動的に開くため、エージェントは顧客に関するより多くのコンテキストを得ることができます。特定のテレフォニーパートナーで使用可能なリアルタイムの通話の文字起こしを表示して、エージェントがメモを書き留める代わりに顧客に集中できるようにします。Voice を Einstein for Service と統合することで、通話コンテキストに基づいて推奨アクションを表示します。また、Omni-Channel Supervisor ダッシュボードで通話を監視して、マネージャがエージェントを支援およびトレーニングできるようにします。

方法:サポートされるテレフォニーパートナーについては、Salesforce アカウント担当者にお問い合わせください。サポートされるテレフォニーパートナーは、システムを Service Cloud Voice と統合する管理パッケージを AppExchange で公開しています。設定ページの手順に従って、管理パッケージをインストールし、パートナーテレフォニーを利用する Voice を設定します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud Voice テレフォニーモデルの選択](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: パートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice の設定](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

既存の Amazon Connect コンタクトセンターと Voice の統合

Amazon Connect コンタクトセンターの構築に投資している場合、パートナーテレフォニーを利用する Service Cloud Voice と統合して、その機能を活用しましょう。エージェントにシームレスな環境を提供し、顧客に一流のサービスを提供します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

対象ユーザー: Amazon Web Services アカウントと Amazon Connect インスタンスへの管理アクセス権を持つユーザは、Amazon Connect を設定できます。Salesforce 組織に対する管理アクセス権を持つユーザは、Service Cloud Voice を設定できます。

理由: エージェントはサービスコンソールのオムニチャンネルソフトフォンで通話を受け入れて制御できるため、切り替えるアプリケーションの数が減り、顧客データにすぐにアクセスしてパーソナライズされたサービスを提供

提供できます。リアルタイムの文字起こしでは進行中の会話が表示されるため、エージェントは大量のメモを取る代わりに、耳を傾け、共感的サービスを提供できます。

リアルタイムの通話の文字起こしに基づいて、Salesforce で自動化されたワークフローを起動します。Omni-Channel Supervisor でリアルタイムに通話を監視できるため、マネージャはエージェントを支援およびトレーニングできます。コンタクトセンターレポートダッシュボードで重要業績評価指標を確認します。

方法: Salesforce と統合するように Amazon Connect を設定し、Voice 固有の Lambda 関数を Connect インスタンスにリリースします。Voice を有効にして設定します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud Voice テレフォニーモデルの選択 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)


[Salesforce ヘルプ: Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice の設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

会話後作業の制限と監視 (ベータ)

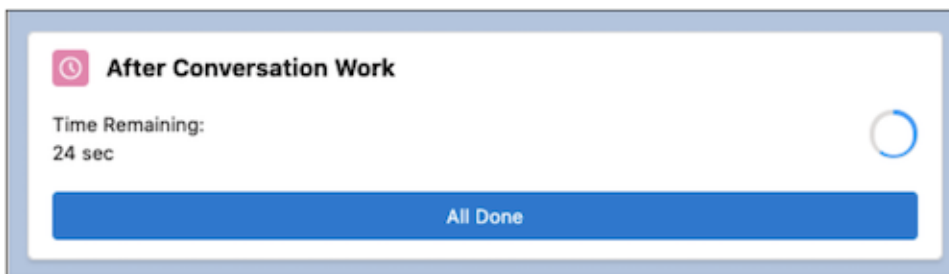
通話後に作業をまとめるための時間をエージェントに提供します。エージェントはこの会話後作業 (ACW) 時間を使って、フォローアップメールの送信、ケースの更新、通話メモの確定を行います。スーパーバイザは、エージェントの ACW 時間を Omni-Channel Supervisor とレポートで追跡できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。会話後作業は音声通話チャンネルでのみ使用できます。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

 **メモ:** 会話後作業 (ACW) はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとなります。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

方法: 音声通話サービスチャンネル設定で、[会話後にまとめる時間をエージェントに付与] を選択します。[最大時間 (秒)] 項目に、会話後にエージェントが作業をまとめるために使用できる秒数を入力します。値は 30 ~ 3,600 秒 (60 分) の範囲で設定する必要があります。次に、ACW のカウントダウンを表示する会話後作業コンポーネントを音声通話レコードホームページに追加します。



通話の ACW 時間が終了すると、エージェントが通話レコードを閉じたかどうかに関係なく、その通話の作業が完了したとみなされます。通話の ACW 期間が切れる前にエージェントがラップアップ作業を終了した場合は、[すべて完了]をクリックするか、コンソールの通話レコードタブを閉じると、次の顧客に対応可能であることを示せます。また、ACW 期間中に発信通話を行っても、カウントダウンが終了します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 会話後作業時間の設定 \(ベータ\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Service Cloud Voice ツールキット API での顧客向けにカスタマイズされたソリューションの構築

Salesforce パートナーは、管理パッケージを含むすべてのパッケージ種別でカスタムソリューションを顧客に提供できます。この新しいツールキット API は、Lightning Web コンポーネントとして使用できます。以前は、Voice ツールキット API は Aura コンポーネントとしてのみ使用可能で、管理パッケージはサポートしていませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この変更は Service Cloud Voice のすべてのモデルで使用できます。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

対象ユーザー: テレフォニーおよび会話イベントを聞き、Next Best Action Recommendation を表示し、Lightning データサイエンスを使用したい開発者は、このツールキットを使用できます。

方法: ツールキットを Lightning Web コンポーネントに追加します。

関連トピック:

[Service Cloud Voice Implementation Guide \(Service Cloud Voice 実装ガイド\): Service Cloud Voice Toolkit API \(Service Cloud Voice ツールキット API\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

サービスの Einstein 会話インサイトを使用した通話データの把握

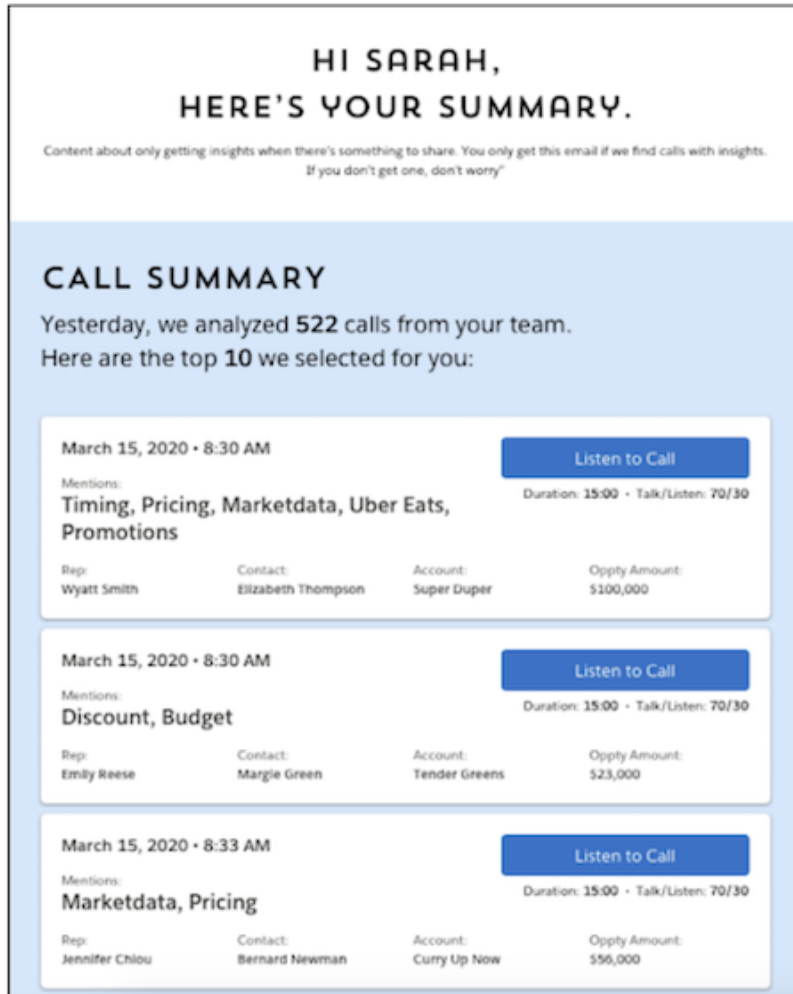
顧客とのやりとりにおいてエージェントをコーチングするためにスーパーバイザに必要なデータを提供します。Einstein 会話インサイト (旧称 Einstein コールコーチング) は、Sales Dialer または Service Cloud Voice の顧客通話記録での重要な瞬間を特定します。通話構成、エージェントのトーク対リスン比率、商品名などのカスタマイズされたキーワードやよくある顧客の問題がいつどのように言及されるかを把握します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

理由: 会話インサイトは、次のようなリソースを提供し、ビジネス上の意思決定やトレーニングを促進します。

- 通話レコードに関するオーディオプレーヤーのインサイトデータ。通話中に出たキーワードのインタラクティブなスナップショットを提供します。
- サービスコンソールの会話インサイトダッシュボード。社内の担当者(エージェント)、通話日、メンションの種類で通話データを絞り込むことができます。
- コンタクトセンターの通話インサイトの毎日の概要メール



方法: Einstein 会話インサイトを設定するには、[設定]の[会話インサイト]の下の[一般設定]に移動します。この機能を有効にし、録音プロバイダを選択し、ユーザーにアクセス権を付与します。次にインサイトをカスタマイズします。これは、通話記録で注目するキーワードのリストです。インサイトを設定したら、アクセス権を持つユーザーは通話のトレンドを確認したり、日次インサイト統計を受信したりできるようになります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: インサイト用の通話記録の分析](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: セールスとサービスの会話インサイトの比較](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ID プロバイダ証明書の循環でコンタクトセンターの安全の確保

Salesforce は証明書を使用して、Amazon Connect を使用する Service Cloud Voice コンタクトセンターのセキュリティを強化します。証明書の有効期限が近づくと、最新の証明書に置き換えることができようメールでお知らせします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

理由: Amazon Connect を使用する音声コンタクトセンターを作成すると、Amazon Connect を Salesforce に統合する接続アプリケーションが作成されます。SAML 2.0 により、接続アプリケーションと Salesforce (ID プロバイダ) では証明書を使用してユーザの認証が行われます。証明書がまもなく期限切れになると通知されたら、その証明書がコンタクトセンターで使用されているものかどうかを確認します。コンタクトセンターで使用されている証明書だった場合は、代替の証明書を提供してください。

コンタクトセンターで期限切れの証明書を使用しても何かが壊れるということはありませんが、良いセキュリティ対策とはいえません。証明書の更新はほんの数分で完了します。更新プロセスで短時間シングルサインオン (SSO) を利用できなくなるため、更新はトラフィックの少ない時間帯に実行してください。


方針: 証明書を置き換える方法については、「[Manage Contact Center Certificates \(コンタクトセンターの証明書の管理\)](#)」を参照してください。

AI を使用してリアルタイムの通話の文字起こしから顧客のインテントを検出

リアルタイムの音声通話の文字起こしから顧客のインテントを検出し、エージェントに役に立つリソースを示します。Einstein 会話インテリジェンスは、Service Cloud Voice のシームレスな操作性と Einstein ボットの機能を組み合わせて、顧客のインテントが検出されると Next Best Action リストの更新などのイベントをトリガします。たとえば、顧客が製品の保証状況を確認するために電話をかけてきた場合、サービスエージェントが対応しやすいように関連アクションやフローが自動的に推奨されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

 **メモ:** Service Cloud Voice の Einstein 会話インテリジェンスは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。パイロットプログラムは変更される可能性があります。参加は保証されません。Service Cloud Voice の Einstein 会話インテリジェンスは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

方法: 会話インテリジェンスの使用を開始するには、顧客のよくあるインテントを識別し、独自のボットを作成し、それらのインテントが会話の中でどのように発生するかをトレーニングデータセットを使用してボットに学習させます。次に、ボットモデルを構築し、顧客のインテントを検出するためにリアルタイムの通話の文字起こしのスキャンを開始できるようにボットを有効化します。


顧客との会話でエージェントの代理として機能するボットもありますが、顧客があなたが作成する音声ボットとやりとりすることはありません。ボットは通話をより簡単に解決できるようエージェントをサポートします。

パイロットには、機能の操作を学ぶのに役立つ、ボット、インテントセット、フローを含むサンプルリソースのスターターキット(省略可能)が付属しています。このパイロットについての詳細は、Salesforce 担当者にお問い合わせください。

前の会話の入力のユーザ権限の追加

過去の音声文字起こしを表示するには、認証済みユーザには「会話エントリを利用」ユーザ権限が必要です。この権限はSalesforce 標準プロファイルに含まれ、「コンタクトセンターエージェント」権限セットに追加されます。カスタムプロファイルを使用する場合は、そのプロファイルで「会話エントリを利用」ユーザ権限を有効にします。権限の更新は、有効な通話の文字起こしには影響しません。

方法:[設定]から、[クイック検索]ボックスに「プロファイル」と入力します。リスト内の適切なユーザプロファイル名の横にある [編集] を選択します。[システム管理者権限] で、[会話エントリを利用] ボックスをオンにして [保存] をクリックします。


 **ヒント:** ユーザプロファイルを使用してユーザ権限をすべてのユーザに割り当てるのではなく、ユーザ権限を権限セットに割り当てて、その権限セットを特定のユーザまたはグループに割り当てることができます。

フローを使用した通話の転送、リアルタイムのキュー総計値の表示、通話の関連レコードを自動的に開く (パイロット)

Flow Builder の機能と柔軟性を利用して、ルーティングルールを定義し、他のチャンネルのルーティングルールを設定するのと同じ場所で適切なエージェントに作業を動的に転送します。Omni-Channel Supervisor で音声通話のリアルタイムキュー総計値をスーパーバイザに提供します。また、エージェントが通話を受け入れたときにサブタブで最大4つの関連レコードを自動的に開くことで、エージェントがよりパーソナライズされたサービスを提供できるようにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

 **メモ:** Voice用のオムニチャンネルフローは正式リリースされず、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロットとして提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあり、SFDCの裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDCはこの機能を正式にリリースしない可能性があります。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。Voice用のオムニチャンネルフローは現状有姿のまま提供され、この機能の使用は自己責任で行うものとします。

理由: Voice用のオムニチャンネルフローパイロットには、次の機能が含まれています。

- 動的フローベースのルーティング: 通話者を適切なキューまたは優先されるエージェントに誘導し、効率的かつ生産的なカスタマーサービス環境を作成します。

- **Omni-Channel Supervisor** でのリアルタイムのキュー総計値: 音声キューを監視して、エージェントをより適切にサポートし、潜在的なサービスギャップを認識します。
- 音声通話でのカスタム画面ポップ: 画面ポップを設定するには、オムニフローで呼び出し可能なアクションを作成します。エージェントが通話を受け入れたときに、フローの画面ポップ設定によって、サブタブとして自動的に開くレコードが決まります。たとえば、関連する取引先責任者、リード、商談、またはカスタムオブジェクトを開きます。

方法: Voice 用のオムニチャンネルフローパイロットに参加するには、Salesforce の担当者にお問い合わせください。

関連トピック:

[オムニチャンネルフローを使用した適切なサービスエージェントへの顧客の接続 \(ベータ\)](#)

Service Cloud Voice での卓上電話の使用 (パイロット)

卓上電話や携帯電話など、任意のハードフォンを使用して顧客と通話します。

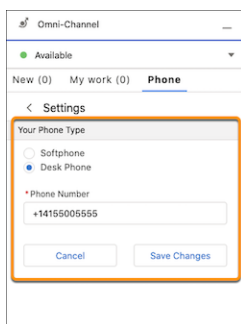
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。このパイロットは、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice が設定されている組織で使用できます。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

- 📌 **メモ:** Service Cloud Voice 卓上電話のパイロットは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Service Cloud Voice の卓上電話サポートは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

対象ユーザー: 「コンタクトセンターエージェント」権限セットを持つエージェントは、パイロットに参加している組織で電話種別を設定できます。

理由: エージェントが最も快適な電話を使用できるようにします。以前は、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice ではハードフォンはサポートされていませんでした。



方法: このパイロットへの参加についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

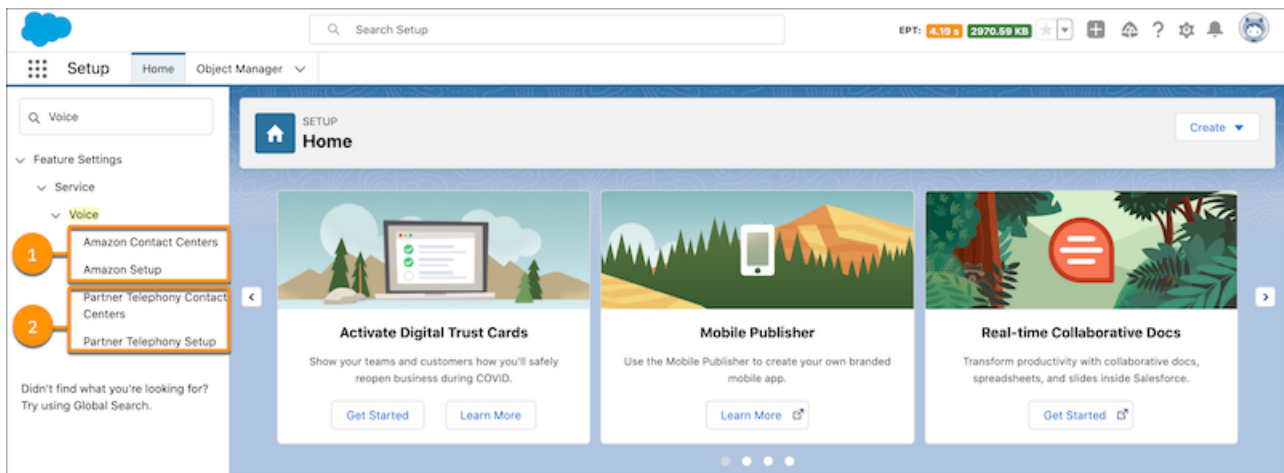
Service Cloud Voice の設定ページの新しい名前

Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice の設定ページの名前が、「Amazon 設定」から「Amazon コンタクトセンター」に変更されました。Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice とパートナーテレフォニーを利用する Service Cloud Voice の両方を同じ組織で使用するお客様が、それぞれの機能で使用するページがわかるように名前を変更しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この変更は Service Cloud Voice のすべてのバージョンで使用できます。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

理由: [設定] メニューの [Voice の設定] ノードと [Voice コンタクトセンター] ノードが、それぞれ「Amazon 設定」と「Amazon コンタクトセンター」になりました [1]。パートナーテレフォニーを利用する Service Cloud Voice の [設定] ページは、「パートナーテレフォニーコンタクトセンター」と「パートナーテレフォニー設定」と呼ばれます [2]。



方法: この変更は自動的に使用できるようになります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud Voice の設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

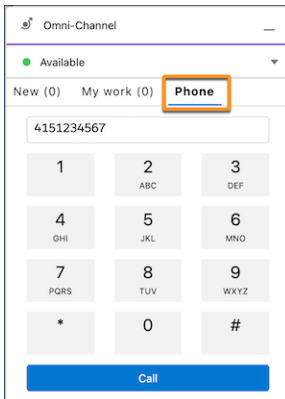
通話制御のタブとコンポーネントの新しい名前

わかりやすく「電話」と呼びましょう。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

理由:使いやすさを向上させるために、オムニチャンネルユーティリティの [通話制御] タブの名前が「電話」に変更されました。



通話制御コンポーネントの名前も「電話」に変更されました。

方法:この改善はユーザに自動的に適用され、セットアップは不要です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud Voice での電話の応答/発信 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Government Cloud での Service Cloud Voice のサポート

Service Cloud Voice が Government Cloud の Salesforce 組織で使用できるようになりました。Voice は、シームレスなエージェントエクスペリエンスを実現するためにインテリジェントなテレフォニーを Salesforce に統合します。エージェントは、リアルタイムの通話の文字起こしを含む Amazon Connect の機能を活用する直観的なソフトウェアを使用してお客様と会話できます。または、独自のテレフォニープロバイダを Voice コンタクトセンターに統合して、既存のカスタマイズを Voice の合理化されたエージェントおよびスーパーバイザ環境と組み合わせることができます。エージェントがお客様の希望するチャンネルを使用して適切なタイミングでお客様を手助けできるように、音声通話とデジタルチャンネルを組み合わせています。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

Service Cloud と Sales Cloud では、Service Cloud Voice のすべてのモデルをアドオンライセンスとして使用できます。Government Cloud では、Amazon Connect を利用する Service Cloud Voice と、Amazon Connect のパートナーテレフォニーを使用した Service Cloud Voice をアドオンライセンスとして使用できます。

方法: Service Cloud Voice を有効にして、組織およびテレフォニープロバイダ用に設定します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud Voice \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud Voice の設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Web 用埋め込みサービス

設定をよりスムーズにするため、リリースで会話種別を組み込みチャット、フロー、予定管理の中から選択することが必須になりました。Cookie を制限している顧客との会話続け、顧客が離れようとしている場合にブラウザタブにとどまるよう警告できます。NVDA スクリーンリーダーを使用している顧客への挨拶を省略したり繰り返したりすることなくチャットの開始と終了を行うことができます。

このセクションの内容:

組み込みサービス会話種別の追加

どの種別を使用されていますか? 新規および既存の組み込みサービスのリリースで、組み込みチャット、組み込みフロー、予定管理のいずれかの会話種別が必要になりました。このステップにより、Salesforce システム管理者による設定がスムーズになり、将来的な改善を利用しやすくなります。

Cookie を使用しないチャット接続の改善

Web ブラウザで Cookie の収集を制限しているユーザは、このアップグレードによってエージェントとのチャットを継続できるようになります。この変更により、ローカルセッションストレージがなくても一部のチャットセッションを続行できるようになります。以前はローカルセッションストレージがない場合は会話が終了してしまっていました。チャットウィンドウに警告メッセージが表示され、適切な Web ページでのユーザの接続を保ちます。

スクリーンリーダーでの挨拶の表示

NVDA スクリーンリーダーを使用している組み込みチャットユーザに、チャットを待つ間テキストでの挨拶が表示されるようになりました。これまで、スクリーンリーダーでは挨拶は表示されませんでした。「チャットを終了する」などの他のメッセージは繰り返し表示され、トランスクリプトを保存するオプションは表示されませんでした。この更新により、チャットの開始と終了がより簡単になります。

組み込みサービス会話種別の追加

どの種別を使用されていますか? 新規および既存の組み込みサービスのリリースで、組み込みチャット、組み込みフロー、予定管理のいずれかの会話種別が必要になりました。このステップにより、Salesforce システム管理者による設定がスムーズになり、将来的な改善を利用しやすくなります。

対象: この変更は Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience のデジタルエンゲージメントに適用されます。会話の選択を利用するには、権限を有効にする必要があります。

理由: リリースでは、サイトでの顧客の交換が有効になっています。Web サイトのリリースを明確にして適切に動作するよう保てるように、1つの会話種別のみを選択してください。選択した種別は変更できなくなるため、慎重に選択してください。

方法:組み込みサービスリリースの[設定]ノードから、[新規リリース]を選択して会話種別を選択します。有効になっていない既存のリリースについては、[表示]を選択してスイッチを有効化します。会話種別を選択するように求められます。サイトで有効になっているリリースについては、アクションは必要ありません。

Embedded Service deployment

What's your type?

Conversations require a type. Choose one that matches your messaging requirements.
The selection is permanent. [Tell Me More](#)

Embedded Chat
Session-based conversations via an embedded window on your website.

Embedded Flow
Simple, automated tasks for users to complete on their own with a Flow.

Appointment Management
Appointments for users to schedule, modify, or cancel on their own.

Cancel Save

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:組み込みサービスリリースの作成\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:Web サイトへのフローの追加\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:予定管理の設定\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Cookie を使用しないチャット接続の改善

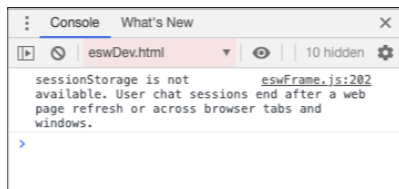
Web ブラウザでCookie の収集を制限しているユーザは、このアップグレードによってエージェントとのチャットを継続できるようになります。この変更により、ローカルセッションストレージがなくても一部のチャットセッションを続行できるようになります。以前はローカルセッションストレージがない場合は会話が終了していました。チャットウィンドウに警告メッセージが表示され、適切な Web ページでのユーザの接続を保ちます。

対象: この変更は Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience のデジタルエンゲージメントに適用されます。

理由: Chrome の標準的なシークレットモードなど、ユーザがより厳しいサードパーティ Cookie を設定している場合、会話が1つのWeb ページから行われるようになりました。Chrome のシークレットモードで新しいブラウ

ザタブやウィンドウに切り替えると、チャットできなくなります。Firefox の [強化型トラッキング防止機能] を [厳格] に設定すると、チャットできなくなります。

方法: 厳格な Cookie を使用しているユーザがページから離れようとする、チャットウィンドウに標準的な警告が表示されます。通話が終了したらエージェントにコンソールメッセージが表示されます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 埋め込みチャットの制限事項](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: 組み込みチャット Cookie](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

スクリーンリーダーでの挨拶の表示

NVDA スクリーンリーダーを使用している組み込みチャットユーザに、チャットを待つ間テキストでの挨拶が表示されるようになりました。これまで、スクリーンリーダーでは挨拶は表示されませんでした。「チャットを終了する」などの他のメッセージは繰り返し表示され、トランスクリプトを保存するオプションは表示されませんでした。この更新により、チャットの開始と終了がより簡単になります。

対象: この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

メッセージング

エージェントが前の会話トランスクリプトを表示する場合にユーザ権限が求められるようになりました。エージェントは、フリーダイヤル番号を使用するチャンネルでマルチメディアメッセージを顧客に送信できるようになりました。

このセクションの内容:

前の会話の入力のユーザ権限の追加

過去の音声文字起こしを表示するには、認証済みユーザには「会話エントリを利用」ユーザ権限が必要です。この権限は Salesforce 標準プロファイルに含まれ、「コンタクトセンターエージェント」権限セットに追加されます。カスタムプロファイルを使用する場合は、そのプロファイルで「会話エントリを利用」ユーザ権限を有効にします。権限の更新は、有効な通話の文字起こしには影響しません。


フリーダイヤル番号での顧客からの画像の受信

言葉では十分でない場合、顧客は画像を送信して必要なヘルプを得ることができます。エージェントも画像を顧客に送信できます。

前の会話の入力のユーザ権限の追加

過去の音声文字起こしを表示するには、認証済みユーザには「会話エントリを利用」ユーザ権限が必要です。この権限は Salesforce 標準プロファイルに含まれ、「コンタクトセンターエージェント」権限セットに追加されます。カスタムプロファイルを使用する場合は、そのプロファイルで「会話エントリを利用」ユーザ権限を有効にします。権限の更新は、有効な通話の文字起こしには影響しません。

方法:[設定]から、[クイック検索]ボックスに「プロファイル」と入力します。リスト内の適切なユーザプロファイル名の横にある [編集] を選択します。[システム管理者権限] で、[会話エントリを利用] ボックスをオンにして [保存] をクリックします。

 **ヒント:** ユーザプロファイルを使用してユーザ権限をすべてのユーザに割り当てるのではなく、ユーザ権限を権限セットに割り当てて、その権限セットを特定のユーザまたはグループに割り当てることができます。

フリーダイヤル番号での顧客からの画像の受信

言葉では十分でない場合、顧客は画像を送信して必要なヘルプを得ることができます。エージェントも画像を顧客に送信できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: MS メッセージの番号種別 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ルーティング

オムニチャネルフローを使用して作業を最も適格なエージェントに効率的にルーティングします(ベータ)。状況ベースの業務量制限とタブベースの業務量制限が100に変更されました。

このセクションの内容:

オムニチャネルフローを使用した適切なサービスエージェントへの顧客の接続(ベータ)

一元的な場所から複雑なルーティングプロセスを管理し、効率的で柔軟性と生産性の高いサービス環境を作成します。

新しいオムニチャネルの業務量制限を使用した計画とパフォーマンスの改善

新しい業務量制限により、パフォーマンスと計画の柔軟性が向上します。状況ベースの業務量制限は、エージェントあたり最大100個の同時作業項目に引き上げられました。状況ベースの業務量を引き上げることで、大規模サポートチームにとって長期的な計画を立てやすくなります。タブベースの業務量制限ではエージェントが同時に最大100個のタブを使用できるため、システムのパフォーマンスが向上し、エージェントがほぼ無制限の作業項目を担当する状況を回避できます。


会話後作業の合理化(ベータ)

顧客との会話後に、次の顧客への対応に移る前に作業をまとめるための時間をエージェントに与えます。エージェントはこの会話後作業(ACW)時間を使用してフォローアップメールを送信したり、ケースを更新したり、メモを確定したりできます。スーパーバイザはOmni-Channel SupervisorとレポートでエージェントのACW時間を追跡できます。

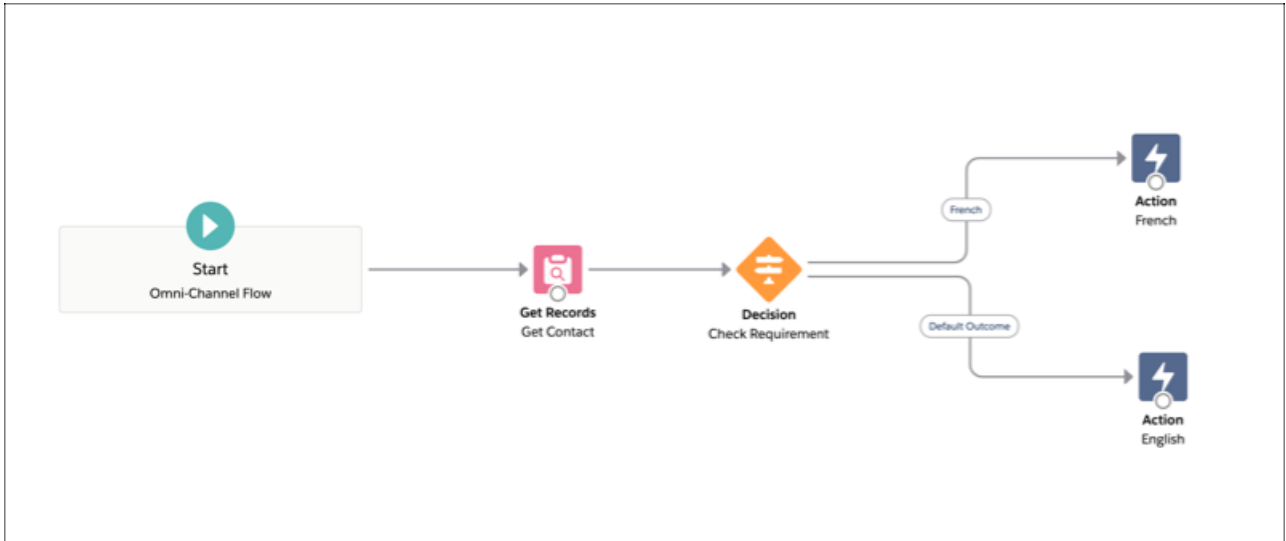
オムニチャネルフローを使用した適切なサービスエージェントへの顧客の接続(ベータ)

一元的な場所から複雑なルーティングプロセスを管理し、効率的で柔軟性と生産性の高いサービス環境を作成します。

対象: この変更は、Service Cloud の Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Professional Edition、および Developer Edition の Classic と Lightning Experience に適用されます。

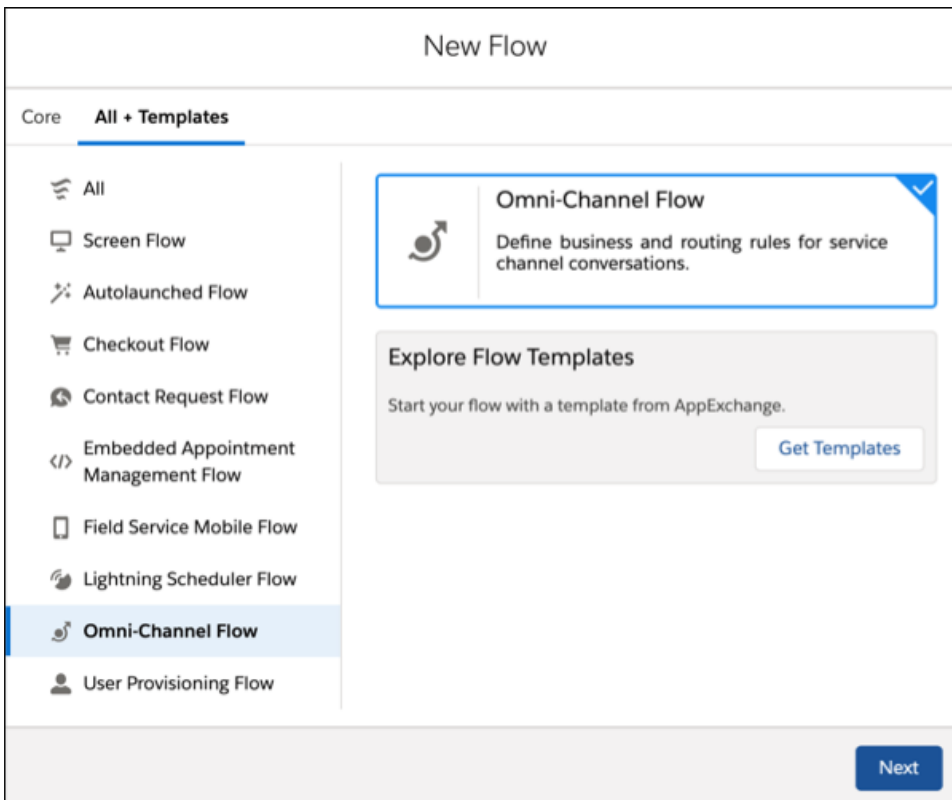
 **メモ:** オムニチャネルフロー設定はベータ機能として試行中の機能で、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。この機能は、そのままの状態を提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関する義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。オムニチャネルフローに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

理由: オムニチャネルフローにより、オムニチャネルのすべての機能がSalesforceフローに組み込まれます。柔軟で強力なFlow Builderを使用して、ルーティングルールをはじめとするビジネスプロセスを定義し、作業を各顧客に最適なエージェントに動的にルーティングします。



たとえば、チャットトランスクリプトや関連する取引先責任者に関する情報を使用して、顧客が使用している Web サイト、その場所または言語、サポートを求めて連絡した回数、さらに希望するエージェントに基づいて作業をルーティングします。

方法: 初めてオムニチャネルフローを使用している場合は、[オムニチャネル設定] で有効にします。



オムニチャネルフローを有効にしている場合、クイックスタートメニューで「フロー」を検索し、[オムニチャネルフロー]を選択します。

関連トピック:

[フローを使用した通話の転送、リアルタイムのキュー総計値の表示、通話の関連レコードを自動的に開く \(パイロット\)](#)

新しいオムニチャネルの業務量制限を使用した計画とパフォーマンスの改善


新しい業務量制限により、パフォーマンスと計画の柔軟性が向上します。状況ベースの業務量制限は、エージェントあたり最大100個の同時作業項目に引き上げられました。状況ベースの業務量を引き上げることで、大規模サポートチームにとって長期的な計画を立てやすくなります。タブベースの業務量制限ではエージェントが同時に最大100個のタブを使用できるため、システムのパフォーマンスが向上し、エージェントがほぼ無制限の作業項目を担当する状況を回避できます。

対象: この変更は、Service Cloud の Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Professional Edition、および Developer Edition の Classic と Lightning Experience に適用されます。

会話後作業の合理化 (ベータ)

顧客との会話後に、次の顧客への対応に移る前に作業をまとめるための時間をエージェントに与えます。エージェントはこの会話後作業 (ACW) 時間を使用してフォローアップメールを送信したり、ケースを更新したり、メモを確定したりできます。スーパーバイザはOmni-Channel Supervisor とレポートでエージェントのACW時間を追跡できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud Voice は Service Cloud、Sales Cloud、および Government Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。会話後作業は音声通話チャンネルでのみ使用できます。

 **メモ:** 会話後作業 (ACW) はベータサービスです。ベータサービスはお客様独自の裁量で試行するものとなります。ベータ機能の使用には、「[Agreements and Terms](#)」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

Einstein for Service

Salesforce では、Einstein で管理者やエージェントの生産性を高められ方法を常に模索しています。正式リリースされた Einstein ケースラップアップは、エージェントが顧客とのチャットを終了したときにケース項目を予測します。また、エージェントが使用するために新しい返信や更新済みの返信を公開できるように、Einstein 返信レコメンデーションで返信テンプレートが更新されたときに通知されます。

このセクションの内容:

Einstein 分類

Einstein 分類ツールが拡張および機能強化されます。エージェントがすばやく一貫してケースをクローズできるように、正式リリースされた Einstein ケースラップアップにより、チャットチャット終了時に最終的な項目値が推奨されます。受信したケースの項目値を予測する Einstein ケース分類と同様、エージェントが顧客に集中できるように時間の節約になります。予測モデルをより簡単に作成できるように、設定プロセスが更新され、カスタム条件絞り込みが追加されているのに加えて、構築の進行状況に関して通知されます。

Einstein 記事レコメンデーション

ケースの関連記事をエージェントに表示するために、ナレッジを実装している一部の Salesforce 組織で記事の推奨が設定されます。

Einstein 返信レコメンデーション

Einstein が返信を更新し、返信の中から検索して、顧客の言語で返信を表示するタイミングを把握します。

関連トピック:

[Einstein リリースノート](#)

Einstein 分類

Einstein 分類ツールが拡張および機能強化されます。エージェントがすばやく一貫してケースをクローズできるように、正式リリースされた Einstein ケースラップアップにより、チャットチャット終了時に最終的な項目値が推奨されます。受信したケースの項目値を予測する Einstein ケース分類と同様、エージェントが顧客に集中できるように時間の節約になります。予測モデルをより簡単に作成できるように、設定プロセスが更新され、カスタム条件絞り込みが追加されているのに加えて、構築の進行状況に関して通知されます。

このセクションの内容:

Einstein ケースラップアップを使用した迅速なケースのクローズ (正式リリース)

チャット中に、エージェントはケースに関する有益な情報を得る可能性があります。チャットの終了時に、エージェントはケース項目値に関する Einstein の推奨を取得できます。Einstein では、クローズケースおよびチャットトランスクリプトの言語パターンに基づいて項目値を推奨します。

分類モデルの簡単な作成

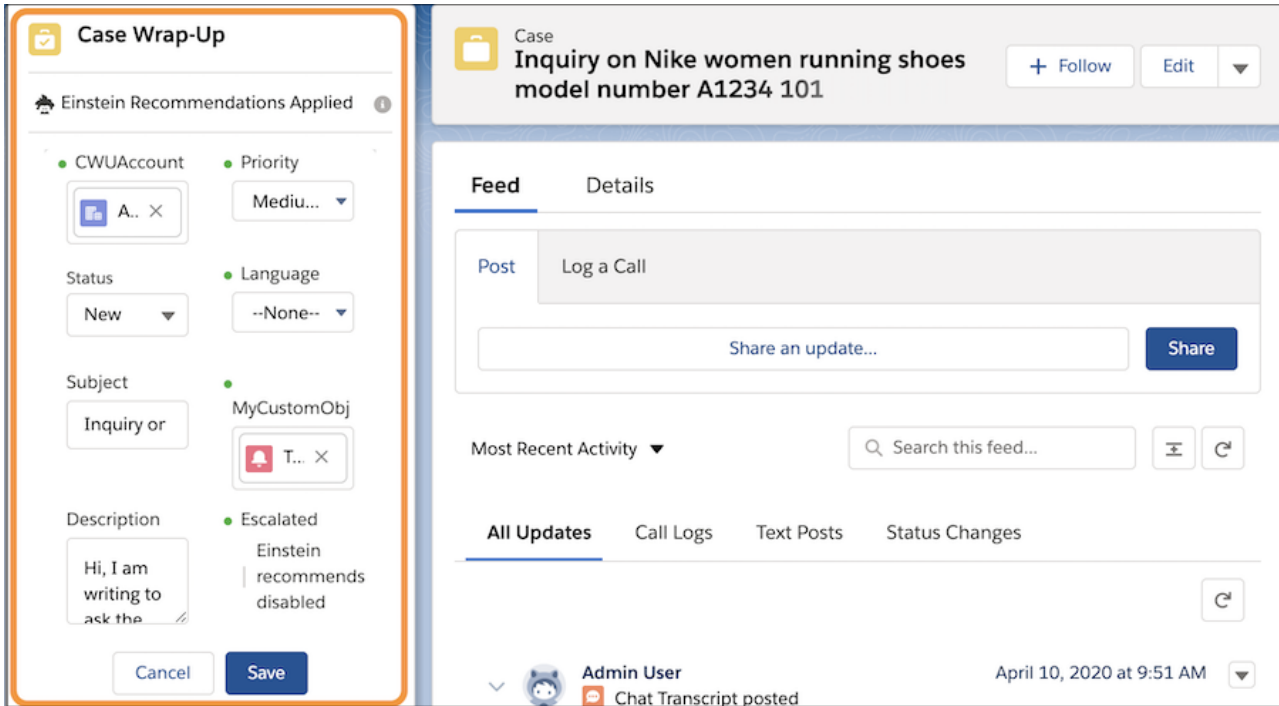
Einstein ケースラップアップの分類モデルも簡単に作成できるように、Einstein ケース分類の設定プロセスが統合されました。Einstein の予測によってエージェントが生産性を高められるように、手順が示されます。

カスタム条件絞り込みを使用した予測品質の向上

予測モデルを作成するときに、Einstein に学習元となる正確な一連のクローズケースを送信します。AND および OR Boolean 演算子を使用してカスタム条件絞り込みを定義します ((1 AND 2) OR 3 など)。以前は、指定したすべての条件を満たしたケースまたは1つの条件も満たさなかったケースを絞り込むことができました。

Einstein のビルド進行状況の把握

Einstein の予測モデルの構築の進行状況を監視します。Einstein が各項目の学習を完了すると通知されます。以前は、クローズケースデータの項目の分析中に Einstein で問題が発生しているかどうかを確認するには、自分で [設定] を確認する必要がありました。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein 分類アプリケーション \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

分類モデルの簡単な作成

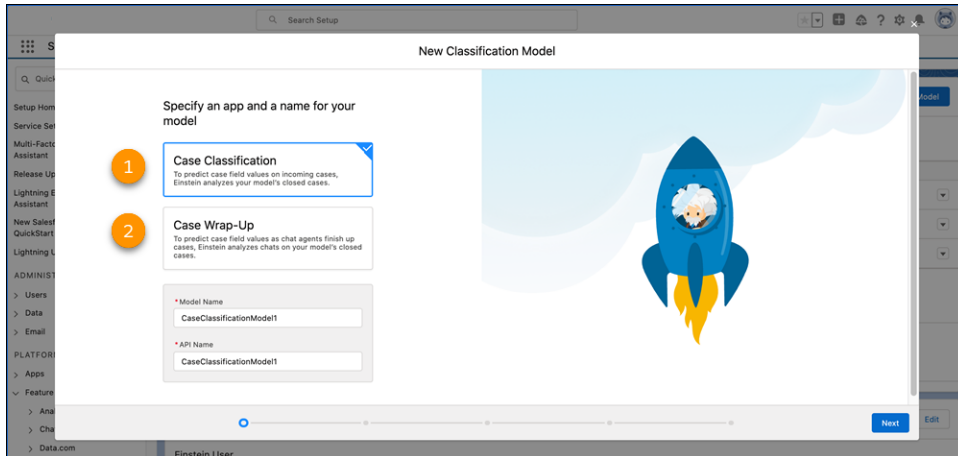
Einstein ケースラップアップの分類モデルも簡単に作成できるように、Einstein ケース分類の設定プロセスが統合されました。Einstein の予測によってエージェントが生産性を高められるように、手順が示されます。

対象: この変更は、Lightning Experience の [設定] に適用されます。

- Einstein ケース分類の場合は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。
- Einstein ケースラップアップの場合は、Performance Edition および Unlimited Edition。または、Digital Engagement アドオン SKU のある Enterprise Edition。

対象ユーザー: [Einstein を試す] バージョンでは、アプリケーションごとに1つのモデルを作成できます。自社の各部門でアプリケーションごとに最大5個のモデルをカスタマイズするには、Service Einstein ライセンスが必要です。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Einstein 分類」と入力し、[Einstein 分類] を選択します。以前は、「Einstein ケース分類」と入力していました。モデルを作成するときに、アプリケーションを選択して Einstein の学習元となる項目を選択します。Einstein ケース分類 (1) では、受信したケースの値が推奨されます。Einstein ケースラップアップ (2) を使用すると、チャットエージェントはチャット終了時にケース項目を簡単に入力できます。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein 分類アプリケーション](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタム条件絞り込みを使用した予測品質の向上

予測モデルを作成するときに、Einstein に学習元となる正確な一連のクローズケースを送信します。AND および OR Boolean 演算子を使用してカスタム条件絞り込みを定義します ((1 AND 2) OR 3 など)。以前は、指定したすべての条件を満たしたケースまたは 1 つの条件も満たさなかったケースを絞り込むことができました。

対象: この変更は、Lightning Experience の [設定] に適用されます。

- Einstein ケース分類の場合は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。
- Einstein ケースラップアップの場合は、Performance Edition および Unlimited Edition。または、Digital Engagement アドオン SKU のある Enterprise Edition。

対象ユーザー: [Einstein を試す] バージョンでは、1 つのモデルを作成できます。自社の各部門で最大 5 個のモデルをカスタマイズするには、Service Einstein ライセンスが必要です。

方法: 区分またはサンプル検索条件を定義するときに、カスタム条件ロジックを満たすケースを含めるオプションを選択します。次に、AND および OR Boolean 論理演算子を使用して条件式を指定します。

New Classification Model

Want Einstein to provide predictions on all new cases?

Einstein looks at all closed cases created in the past 6 months that include a subject or description, and then predicts field values on all new cases. If you want, define a filter on closed cases to create a segment or subset of cases. Einstein analyzes only cases in your segment, and makes predictions only on new cases that meet your segment criteria.

Yes, use all case data
 No, focus on a segment (advanced option)

*Include Records That

Meet Custom Condition Logic

*Custom Logic

1 AND (2 OR 3)

#	*Field	*Operator	*Type	*Value	
1	Priority	Does not equal	Picklist	Low	🗑️
2	Escalated	Equals	Boolean	True	🗑️
3	Potential Liability	Does not equal	Picklist	Yes	🗑️

+ Add Condition

Back
Next

Einstein is here to help

Choose what fields to filter by

Base your segment on a record type or a similar field that indicates a case's business category. If you add multiple conditions, choose whether Einstein's recommendations should be based on cases that meet all or just one of the conditions. For example, have Einstein look at cases in the Enterprise unit in a particular region.

Understand how recommendations work

Einstein makes recommendations only on the new cases that match your segment criteria.

Einstein のビルド進行状況の把握

Einstein の予測モデルの構築の進行状況を監視します。Einstein が各項目の学習を完了すると通知されます。以前は、クローズケースデータの項目の分析中に Einstein で問題が発生しているかどうかを確認には、自分で [設定] を確認する必要がありました。

対象: この変更は、Lightning Experience の [設定] に適用されます。

- Einstein ケース分類の場合は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。
- Einstein ケースラップアップの場合は、Performance Edition および Unlimited Edition。または、Digital Engagement アドオン SKU のある Enterprise Edition。

対象ユーザー: モデルを作成した Salesforce システム管理者にアプリケーション内通知とメール通知が送信されます。[Einstein を試す] バージョンでは、アプリケーションごとに1つのモデルを作成できます。自社の各部門でアプリケーションごとに最大5個のモデルをカスタマイズするには、Service Einstein ライセンスが必要です。

方法:通知はデフォルトで有効になっています。アプリケーション内通知を無効にするには、[設定]で「通知の配信設定」と入力し、[通知の配信設定]を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein ケース分類モデルの作成](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce ヘルプ: 通知配信設定の管理](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein 音声通話ラップアップを使用した通話の容易な完了 (パイロット)

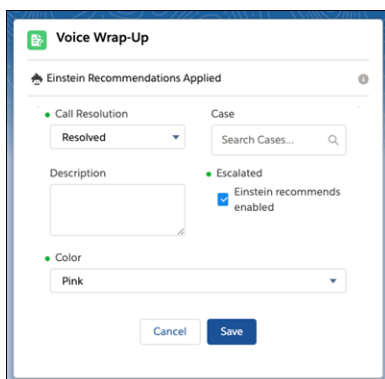
Einstein 音声通話ラップアップは顧客の会話が発生するたびにその会話を分析し、過去の Service Cloud Voice 通話に基づいて項目の更新を提案します。サポートエージェントが通話を転送するか完了すると、Einstein はサポートエージェントが項目値をすばやく更新できるようにサポートします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用され、Service Cloud Voice が必要です。

メモ: Einstein 音声通話ラップアップは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Einstein 音声通話ラップアップは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。Einstein 音声通話ラップアップに関するフィードバックや提案は、Trailblazer コミュニティの [IdeaExchange](#) に投稿してください。

理由: Einstein ケース分類や Einstein ケースラップアップと同様に、Einstein 音声通話ラップアップでは、項目値の更新が提案されます。ただし、ケース分類とケースラップアップでは、ケースレコードの項目の更新が推奨されます。対照的に、Einstein 音声通話ラップアップでは、完了した通話から学習され、音声通話項目の更新が提案されます。

おすすめは Einstein 項目のおすすめコンポーネントに表示されます。このコンポーネントは、Lightning サービスコンソールの音声コールレイアウトまたは任意の Lightning アプリケーションに追加できます。エージェントが予測を表示するために [Einstein のおすすめを取得] をクリックすると、通話が終了した時点でおすすめが更新されます。緑のドットは、予測を含む項目を示します。その後、エージェントは推奨更新を確認して保存できます。



方法: このパイロットにサインアップするには、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Einstein 音声通話ラップアップを設定する場合、Einstein のおすすめの対象となる音声通話項目を選択します。

Einstein 記事レコメンデーション

ケースの関連記事をエージェントに表示するために、ナレッジを実装している一部のSalesforce組織で記事のおすすめが設定されます。

このセクションの内容:

標準搭載の Einstein 記事レコメンデーションを使用した時間の節約

Knowledge を実装している特定の組織では、記事のおすすめが有効になっており、デフォルトの項目と言語の設定を使用する汎用のモデルが提供されます。この場合、エージェントには記事のおすすめがすぐに表示されます。自社で特定のケースおよびナレッジ項目を使用している場合、モデルをカスタマイズして Einstein が組織のクローズケースデータから学習した場合、おすすめを改善できる可能性があります。

標準搭載の Einstein 記事レコメンデーションを使用した時間の節約

Knowledge を実装している特定の組織では、記事のおすすめが有効になっており、デフォルトの項目と言語の設定を使用する汎用のモデルが提供されます。この場合、エージェントには記事のおすすめがすぐに表示されます。自社で特定のケースおよびナレッジ項目を使用している場合、モデルをカスタマイズして Einstein が組織のクローズケースデータから学習した場合、おすすめを改善できる可能性があります。

対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition (Service Cloud および Lightning Knowledge を実装) を使用する特定の組織の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 複数のリリースにわたって、Knowledge を実装している組織で記事のおすすめが段階的に有効になります。組織で有効になっていると、デフォルトでは、すべての Lightning Knowledge ユーザのナレッジコンポーネントにおすすめの記事が表示されます。必要に応じて、Einstein のおすすめを特定のユーザに表示できます。

方法: Einstein がおすすめの記事を提供するように設定されているかどうかを確認するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「Einstein 記事レコメンデーション」と入力し、[Einstein 記事レコメンデーション] を選択します。設定されている場合、デフォルトの項目と言語が指定され、学習済みモデルが提供されています。自社で他の項目を使用している場合、[設定] で利用規約に同意し、適切な項目を選択して、データを使用するようにモデルを更新している場合は、より正確なおすすめがエージェントに表示される可能性があります。モデルを構築し、有効化します。


記事のおすすめを使用する準備ができていないにもかかわらず有効になっている場合、[設定] で無効にすることができます。

Setup > Service Cloud Einstein
Einstein Article Recommendations

Einstein is Here to Help

Save agents' time with Einstein Article Recommendations. With just a few clicks, build a model that recommends relevant articles to solve your customers' cases. [Learn More](#)

Einstein Article Recommendations On



Model Setup Model Report Card

Einstein is Recommending Articles

To put articles in agent hands right away, we turned on Article Recommendations using default values. But if you fine-tune model settings, you can send Einstein more precise data to learn from. To customize the model, first accept the terms. Select the fields and languages that Einstein should consider. Then build and activate your updated model. [Edit Model](#)

Object Data Fields **Default Values** [Edit](#)

Object	Model Input	Selected Field	Data Type	Date Added
Case	Primary	Subject	textArea	10/22/2021, 12:57 PM
Case	Support	Description	textArea	10/22/2021, 12:57 PM
Knowledge	Primary	Title	text	10/22/2021, 12:57 PM
Knowledge	Support	Summary	text	10/22/2021, 12:57 PM
Knowledge	Support	Body_a__c	richText	10/22/2021, 12:57 PM
Knowledge	Support	Body_b__c	richText	10/22/2021, 12:57 PM
Knowledge	Support	Body_c__c	richText	10/22/2021, 12:57 PM

Languages **Default Values** [Edit](#)

Language	Date Added
English	10/22/2021, 12:57 PM

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce ナレッジ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Einstein 返信レコメンデーション

Einstein が返信を更新し、返信の中から検索して、顧客の言語で返信を表示するタイミングを把握します。

このセクションの内容:

エージェントの手元に置く新しい返信の検出

Einsteinが返信を更新するタイミングを把握し、チャットエージェントが使用できるように公開します。1,000件のチャットトランスクリプトを使用して予測モデルを作成した場合、分析するトランスクリプトが10,000件になると、Einsteinは返信テンプレートの1回限りの更新を実行します。モデルを更新すると、アプリケーション内通知およびメールが送信されます。更新が行われたり、問題が発生したりした場合はすぐに把握できます。

返信の迅速な検索

Einsteinが生成した返信テンプレートを検索し、関心のある返信を見つけることができます。返信を確認して公開したら、Einsteinがチャットエージェントに推奨できるようになります。

16言語でのチャットエージェントの返信の表示(パイロット)

チャットエージェントとメッセージングエージェントに、ビジネスの場所を反映している返信を提供します。英語以外のサポートされる1つ以上の言語で大半の完了したチャットトランスクリプトがある場合、Einsteinはそれらの言語でおすすめの返信を提供できます。サポートされる言語はアラビア語、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、オランダ語、ポーランド語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、トルコ語、ロシア語です。

エージェントの手元に置く新しい返信の検出

Einsteinが返信を更新するタイミングを把握し、チャットエージェントが使用できるように公開します。1,000件のチャットトランスクリプトを使用して予測モデルを作成した場合、分析するトランスクリプトが10,000件になると、Einsteinは返信テンプレートの1回限りの更新を実行します。モデルを更新すると、アプリケーション内通知およびメールが送信されます。更新が行われたり、問題が発生したりした場合はすぐに把握できます。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されません。

対象ユーザー:Einsteinは、有効なSalesforceシステム管理者と、[Einstein返信レコメンデーションの返信を管理]ユーザー権限を持つコンテンツマネージャに通知します。

方法:通知はデフォルトで有効になっています。アプリケーション内通知を無効にするには、[設定]で「通知の配信設定」と入力し、[通知の配信設定]を選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einsteinが推奨する返信の公開\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 通知配信設定の管理\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

返信の迅速な検索


Einsteinが生成した返信テンプレートを検索し、関心のある返信を見つけることができます。返信を確認して公開したら、Einsteinがチャットエージェントに推奨できるようになります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

16 言語でのチャットエージェントの返信の表示 (パイロット)

チャットエージェントとメッセージングエージェントに、ビジネスの場所を反映している返信を提供します。英語以外のサポートされる1つ以上の言語で大半の完了したチャットトランスクリプトがある場合、Einstein はそれらの言語でおすすめの返信を提供できます。サポートされる言語はアラビア語、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、オランダ語、ポーランド語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、トルコ語、ロシア語です。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

 **メモ:** Einstein 返信レコメンデーションの複数言語サポートは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Einstein 返信レコメンデーションの複数言語サポートは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。Einstein 返信レコメンデーションの複数言語サポートに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の [IdeaExchange](#) に投稿してください。

方法: おすすめの返信は、過去のチャットトランスクリプトに基づいており、Einstein により生成されてユーザーにより承認されたリストから取得されます。Einstein で英語以外のサポートされる言語で返信を推奨するには、その言語の完了したチャットが 1,000 件必要です。英語以外の言語ではチャットが 10,000 件あると精度が高くなります。完了したチャットが不足している場合や、チャットが短すぎる場合は、予測モデルを作成するときにメッセージが表示されます。

このパイロットにサインアップするには、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

ケース管理

[ケース Web メール] クイックアクションの更新により、これまでより長いメールを送信したり、一括マクロを使用したり、右から左へ記述される言語のキーボードとの完全な互換性を提供したりできるようになりました。顧客が自分でより多くのことを実行できるカスタムヘルプセンターを作成します。または、Lightning テンプレートと Web-to-ケース、サポート設定、ケースの割り当てルールとの互換性など、事前作成済みのケース生産性の強化により、エージェントのワークフローを合理化します。

このセクションの内容:

1つのマクロで一意的なテンプレートを使用して複数のメールを送信

一括マクロが Classic と Lightning Experience のメールテンプレートでサポートされるようになりました。より複雑なマクロを使用して繰り返し送信されるメールを自動的に処理します。テンプレートには、インライン画像、レターヘッド、差し込み項目を含めて、最適なメール件名と本文を作成できるようになりました。

ケースフィードでのメールスレッドを使用したケース Web メールアラートの把握

プロセスビルダー、ワークフロー、またはエンタイトルメントプロセスを使用して設計するプロセスのメールスレッドが、ケース Web メールアラートでサポートされるようになりました。顧客のレスポンスメールと一緒にフィードに表示され、ケースのやりとりのフェーズを把握しやすくなります。

ゲストユーザメールの改善によるセキュリティの強化

ゲストユーザの非公開共有のセキュリティ更新により、システム管理者はメールメッセージの参照を制限して、ExperienceCloudのゲストユーザ権限をさらに調整できます。ゲストユーザはメールレコードを作成できるようになりましたが、ゲストユーザプロフィールの親ケースまたは活動レコードに対する適切な作成、参照、更新権限がなければ、他のレコードにアクセスしたり、変更したりすることができません。

顧客をソリューションに導くカスタムヘルプセンターの生成

サービス設定アシスタントを使用して、カスタマイズ可能なヘルプセンター Web ページを作成し、顧客の問題から解決までのパイプラインからステップを取り除きます。ヘルプセンターは、ゲストが自分でケースを作成できるカスタマーサポートフォームとして機能します。また、ゲストはヘルプセンターを使用して、関連するナレッジ記事を検索し、ケースの作成を回避することができます。

ケースのサポート設定、Web-to-ケース、ケース自動レスポンスルールでの Lightning テンプレートの事前設定

Lightning テンプレートは、サービス設定アシスタントを介して自動割り当てされた場合、サポート設定と互換性があります。つまり、エージェントは3つの強力なツールにすぐにアクセスできます。ケースの作成機能と編集機能を自動化したり、顧客満足度調査やネットプロモータースコアをすばやく作成して送信したり、ケース通知メールをSalesforceで処理してケース所有者の変更時にエージェントの生産性を向上させます。

[ケース Web メール] クイックアクションでより長いメールを送信

Summer'21以降、ケースクイックアクションでより意味のあるメールを送信できます。送信可能なメールの最大サイズが131,000文字から384,000文字に増加されるため、送信されるメールの文字制限はメール本文の最大制限よりも長くなりました。

ケースメール通知のシステムアドレスとしてデフォルトの No-Reply アドレスを使用 (以前にリリースされた更新)

[設定]の[組織のアドレス]ページから、デフォルトのNo-Replyアドレスを設定します。[特別な目的の組織のメールアドレス]にメールアドレスを追加し、新しいデフォルトのNo-Replyアドレスに送信される検証メールで説明されている手順に従います。デフォルトのNo-Replyアドレスを検証したら、[リリース更新]で[テスト実行]を設定して開始します。この更新は、Spring '22で自動的に有効化(適用)される予定です。

右から左へ記述される言語互換性のあるケースメールの送信

[ケース Web メール] クイックアクションで、右から左へ記述される言語構文がサポートされるようになりました。2つの新しいボタンを使用すると、エージェントはメール本文テキストエディタ内で左から右および右から左の配置を切り替えることができます。

参照IDの無効化と新しいメールスレッド動作への移行(更新、延期)

参照IDの無効化と新しいメールスレッド動作への移行の新しい適用期限により、システム管理者はSummer '22までにリリース更新機能を使用してメールスレッドの必須の変更を採用することになります。前回の延期発表では、Winter '22で自動的に有効化(適用)される予定でした。

1つのマクロで一意のテンプレートを使用して複数のメールを送信

一括マクロが Classic と Lightning Experience のメールテンプレートでサポートされるようになりました。より複雑なマクロを使用して繰り返し送信されるメールを自動的に処理します。テンプレートには、インライン画像、レターヘッド、差し込み項目を含めて、最適なメール件名と本文を作成できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

方法: ケースリストビューまたはレコードホームページから一括マクロを実行し、メールテンプレートを選択します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 一括マクロ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

ケースフィードでのメールスレッドを使用したケース Web メールアラートの把握

プロセスビルダー、ワークフロー、またはエンタイトルメントプロセスを使用して設計するプロセスのメールスレッドが、ケース Web メールアラートでサポートされるようになりました。顧客のレスポンスメールが一緒にフィードに表示され、ケースのやりとりのフェーズを把握しやすくなります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

方法: 新しいメールスレッド動作を有効にした後、プロセスビルダーを使用してケースアクションを自動化し、メールアラートをトリガします。メールアラートがケースオブジェクトに関連付けられていると、ケースアクションが完了したときに、対応するメールテンプレートに従ってメールアラートが自動的に送信されるようになりました。データベースにはメールアラートへの受信返信のみが保存されるため、メールアラートを送信するためにメールアラートスレッドのストレージ容量を増やす必要ありません。メールクライアントで、References と In-Reply-To 情報が常にヘッダーに含まれるようになっていることを確認します。

ゲストユーザメールの改善によるセキュリティの強化

ゲストユーザの非公開共有のセキュリティ更新により、システム管理者はメールメッセージの参照を制限して、Experience Cloud のゲストユーザ権限をさらに調整できます。ゲストユーザはメールレコードを作成できるようになりましたが、ゲストユーザプロフィールの親ケースまたは活動レコードに対する適切な作成、参照、更新権限がなければ、他のレコードにアクセスしたり、変更したりすることができません。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Aloha に適用されます。

方法: Experience Cloud のゲストユーザは、ケースまたは拡張メールオブジェクト (orgHasEnhancedEmail または Activities.canAccessActivities) に対する作成権限がある場合、EmailMessage レコードの作成のみが可能です。適切な権限があれば、ゲストユーザはケース、取引先責任者、または取引先を介して、1つのメールメッセージまたは複数のメールメッセージを作成できます。

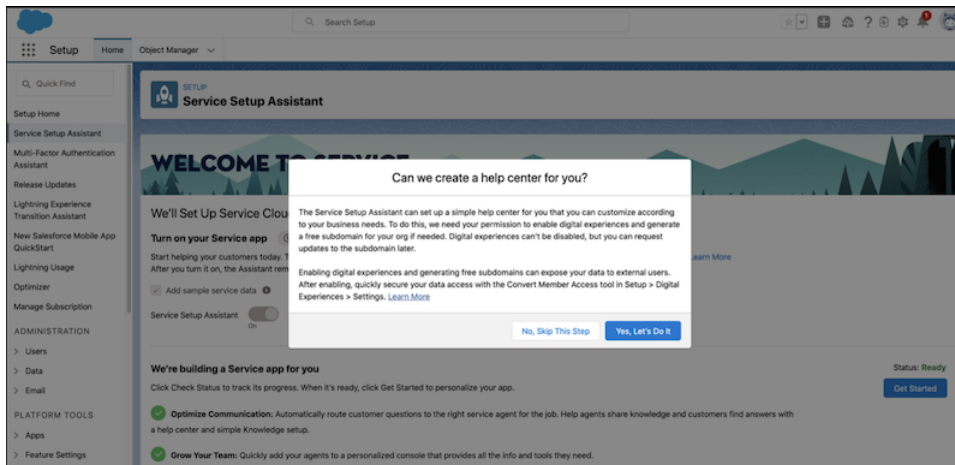
ケースオブジェクトまたは活動オブジェクトへのアクセス権がないゲストユーザは、オブジェクトのEmailMessageレコードを参照してレコードを作成することはできなくなりました。EmailMessageレコードがゲストユーザによって最初に作成された場合でも、ゲストは直接アクセスできなくなりました。

顧客をソリューションに導くカスタムヘルプセンターの生成

サービス設定アシスタントを使用して、カスタマイズ可能なヘルプセンター Web ページを作成し、顧客の問題から解決までのパイプラインからステップを取り除きます。ヘルプセンターは、ゲストが自分でケースを作成できるカスタマーサポートフォームとして機能します。また、ゲストはヘルプセンターを使用して、関連するナレッジ記事を検索し、ケースの作成を回避することができます。

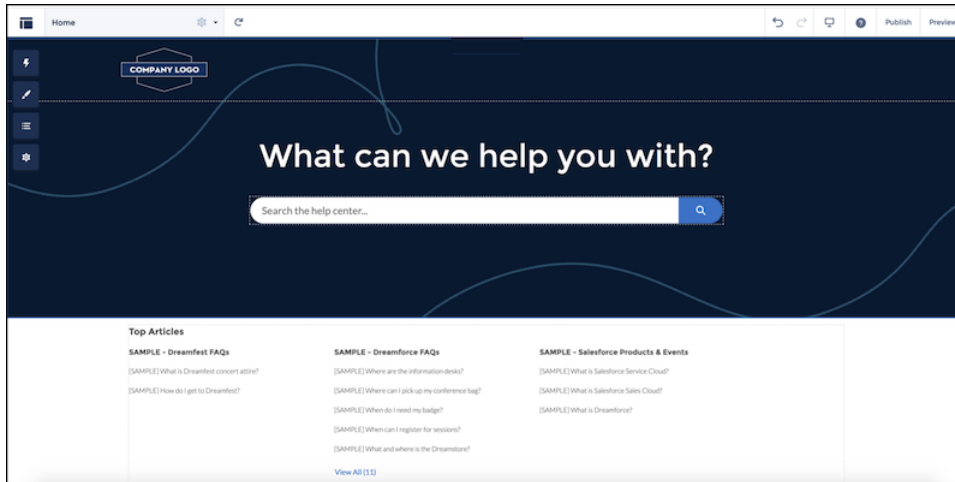
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: サービス設定アシスタントを有効にして設定してから、[設定]の[デジタルエクスペリエンス]に移動します。

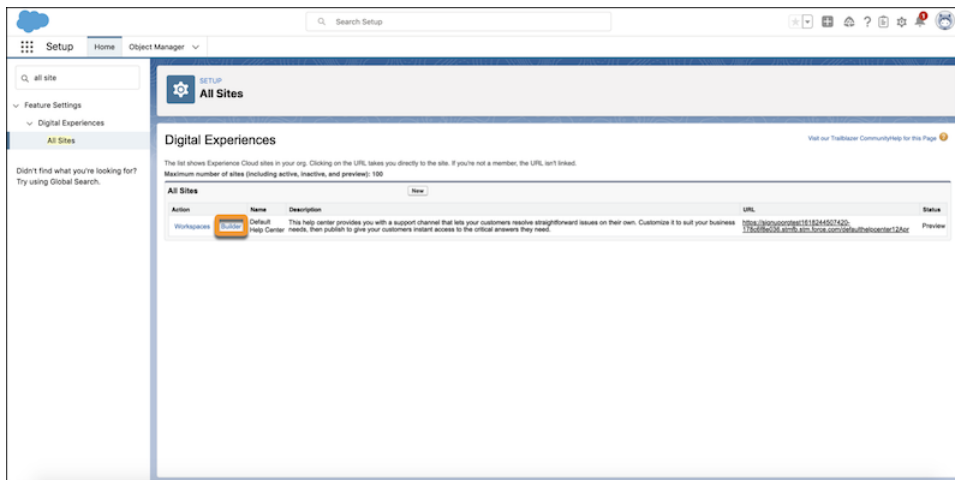


ヘルプドメインがないかデジタルエクスペリエンスを有効にしていないシステム管理者は、Salesforceが代理でヘルプセンターを作成することに同意する必要があります。先に進むには、[はい、実行します]をクリックします。

サンプルエクスペリエンスは、一般的なブランド設定とサンプルチームを使用したプレビューモードで開始され、デフォルトではゲストユーザはケースを作成できません。ゲストがヘルプセンターを使用できるようにするには、システム管理者がカスタマイズ中にゲストユーザ権限を調整する必要があります。社風に合わせてヘルプサイトのデザインをカスタマイズする方法についての詳細は、ヘルプを参照してください。



システム管理者は、API 設定でゲストが[検索のお役に立てることがありますか?]検索バーを使用するときに表示される内容を選択しますが、デフォルトではサンプル記事のみが表示されます。



ヘルプセンターは、[機能設定]の[ビルダー]をクリックするまで公開されません。公開すると、サイトが公開され、リンクを使用するすべてのユーザに表示されます。[管理]リンクからボタンを有効化してから、ビルダーに戻り、右上隅に表示される [公開] をクリックします。

ケースのサポート設定、Web-to-ケース、ケース自動レスポンスルールでの Lightning テンプレートの事前設定

Lightning テンプレートは、サービス設定アシスタントを介して自動割り当てされた場合、サポート設定と互換性があります。つまり、エージェントは3つの強力なツールにすぐにアクセスできます。ケースの作成機能と編集機能を自動化したり、顧客満足度調査やネットプロモータースコアをすばやく作成して送信したり、ケース通知メールを Salesforce で処理してケース所有者の変更時にエージェントの生産性を向上させます。

対象ユーザ: ケースサポート設定で Lightning テンプレートを使用するには、管理ユーザにサービスライセンスと作成権限が必要です。また、ゲストユーザはカスタマイズされたアプリケーションを使用するための権限が必要です。必要なライセンスと権限を割り当てた後に、[サポート設定] ページで [ケース所有者に新規ケースコメントを通知する]、[メールドラフトを有効化] (メール-to-ケースを先に有効化する必要がある)、[ケース添付ファイル関連リストにメール添付ファイルを表示] ユーザ設定を有効にします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「サポート設定」と入力し、[サポート設定] を選択します。テンプレートのスタイルを Lightning として指定します。[ケース作成時のテンプレート]、[ケース割り当て時のテンプレート]、または [顧客からのフィードバックアンケート] を選択し、新規割り当てを保存します。

[アンケート] 設定が有効になっている場合、顧客満足度調査とネットプロモータースコアが作成され、デフォルト顧客満足度調査が割り当てられます。[設定] ページの [サービス] [サポート設定] で [アンケート] 設定を有効にするまで、顧客フィードバックアンケートは作成されません。

[ケース作成時のテンプレート] を有効にすると、ケースの作成機能と編集機能を自動化できます。[ケース割り当て時のテンプレート] を選択すると、ケースの所有者が変更されたときに通知メールが送信されます。有効なケース自動レスポンスルールがない場合、サンプルが作成され、Lightning メール-to-ケーステンプレートに割り当てられます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サポート設定のカスタマイズ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[サービス設定アシスタント \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[ケース Web メール] クイックアクションでより長いメールを送信

Summer '21 以降、ケースクイックアクションでより意味のあるメールを送信できます。送信可能なメールの最大サイズが 131,000 文字から 384,000 文字に増加されるため、送信されるメールの文字制限はメール本文の最大制限よりも長くなりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: カスタムメール本文制限がある場合、保存可能なメールの最大サイズは引き続き 131,000 文字です。この変更は、32,000 文字というデフォルトのサイズ制限に影響せず、[ケース Web メール] クイックアクションにのみ適用されます。メール本文制限を超えるコンテンツは、送信メールを保存する前に自動的に切り捨てられます。


ケースメール通知のシステムアドレスとしてデフォルトの No-Reply アドレスを使用 (以前にリリースされた更新)

[設定] の [組織のアドレス] ページから、デフォルトの No-Reply アドレスを設定します。[特別な目的の組織のメールアドレス] にメールアドレスを追加し、新しいデフォルトの No-Reply アドレスに送信される検証メールで説明されている手順に従います。デフォルトの No-Reply アドレスを検証したら、[リリース更新] で [テスト実行] を設定して開始します。この更新は、Spring '22 で自動的に有効化 (適用) される予定です。

時期: この更新は、Spring '22 リリースで適用される予定です。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: セキュリティリスクを回避するために、「ケースメール通知のシステムアドレスとしてデフォルトの No-Reply アドレスを使用」リリース更新によって適切に設定されていない場合、既存の組織では HTML およびカ

スタムメールコンポーネントは使用されません。[サポート設定] 設定ページから [ケース通知をシステムアドレスから送信] を有効にした場合、[リリース更新] の [テスト実行を有効化] をクリックすると、既存のケースの受信メールのメール通知、ケースコメント、ケースエスカレーション、ケース割り当ては、選択したデフォルトの No-Reply アドレスから送信されます。

 **メモ:** [テスト実行を有効化] を選択する前に、リリース更新で説明されたすべての手順を確認してください。

以前は、[ケース通知をシステムアドレスから送信] を有効にした場合、ケースコメントとケース割り当てのメール通知は自動的に noreply@salesforce.com から送信されていました。エージェントは、システム管理者が選択したデフォルトの No-Reply アドレスから直接、これらのメールの応答や処理を行えるようになりました。

以前は、ケースエスカレーションの場合、および既存のケースがメールを受信したときに、[ケース通知をシステムアドレスから送信] 設定とは関係なく、自動ケース更新ユーザからメール通知が送信されていました。[ケース通知をシステムアドレスから送信] 設定を選択した場合、これらの通知はデフォルトの No-Reply アドレスから送信されるようになりました。

方法: この更新を有効にするには、最初にデフォルトの No-Reply アドレスを設定します。そうしないと、[ケース通知をシステムアドレスから送信] を有効にしたときに、既存のケースに関する受信メールのメール通知、ケースコメント、ケースエスカレーション、ケース割り当ては、noreply@salesforce.com から送信されます。この通知には重要な情報が不足しており、いずれ送信が停止されます。

最後にデフォルトの No-Reply アドレスの設定、デフォルトの No-Reply アドレスの検証、既存のケースでのケースエスカレーションと受信メールの設定、テスト実行の有効化とテストの実行を行って、リリース更新をテストおよび有効化します。

右から左へ記述される言語互換性のあるケースメールの送信

[ケース Web メール] クイックアクションで、右から左へ記述される言語構文がサポートされるようになりました。2つの新しいボタンを使用すると、エージェントはメール本文テキストエディタ内で左から右および右から左の配置を切り替えることができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

方法: [ケース Web メール] ツールバーの2つの新しいボタンをクリックして、選択したテキスト行をテキストエディタの反対側に切り替えます。新しいボタンは、左から右のキーボードが選択されたときにテキストがどの余白から始まるかを制御するだけなので、文章内で文字は引き続き左から右に入力されます。

参照 ID の無効化と新しいメールスレッド動作への移行 (更新、延期)

参照 ID の無効化と新しいメールスレッド動作への移行の新しい適用期限により、システム管理者は Summer '22 までにリリース更新機能を使用してメールスレッドの必須の変更を採用することになります。前回の延期発表では、Winter '22 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。

時期: インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: 新しいメール-to-ケースのスレッド動作では、受信メールは件名または本文の参照 ID を使用して照合されません。代わりに、標準のメールヘッダーを使用して照合されます。メールヘッダーは対応するケースに照合されるようになり、新しい送信メールに参照 ID は含まれません。

方法: メール-to-ケースは、新しいスレッド動作を有効にするか、この更新が自動適用されるまでは下位互換性があります。この更新をオフにした場合、参照IDのない受信応答は既存のケースにリンクされず、新しいケースが作成されます。

メール-to-ケースのスレッドを有効にする前に、Message-ID 項目、In-Reply-To 項目、References 項目にデータがあることを確認します。組織のカスタムコードに出現する `getCaseIdFromEmailThreadId` が `getCaseIdFromEmailHeaders` に置き換えられていることが重要です。

関連トピック:

[メール-to-ケースの無効化された参照ID と新しいスレッドの動作](#)

ナレッジ

サービス設定アシスタントで主要なナレッジの設定手順を自動的に完了します。右から左へ記述される言語もサポートする CKEditor の拡張サイズにより、記事を作成または更新するためのスペースが広がります。Einstein 記事レコメンデーションを使用すると、エージェントは最も関連性の高い記事をすばやく見つけることができます。Einstein Search for Knowledge (パイロット) をお試しください。

このセクションの内容:

[サービス設定アシスタントによるナレッジジャーニーの開始](#)

サービス設定アシスタントによって、主要なナレッジ設定手順が実行されるようになりました。

[Einstein 記事レコメンデーションを使用したエージェントへの記事の推奨](#)

ナレッジを使用する一部の組織では、Einstein 記事レコメンデーションが設定されているため、エージェントは短時間で最も関連性の高い記事を見つけることができます。エージェントは、長いリストをスクロールする代わりに Einstein のおすすりから適切な記事を選択するだけで、ケースに添付して顧客に送信できます。これは、ナレッジを使用する組織で複数のリリースに分けて段階的に有効化されます。

[更新しやすくするための記事の編集スペースの拡張](#)

Lightning Knowledge 記事の CKEditor の高さが 750 ピクセルまで自動的に増加し、コンテンツを作成または更新するためのスペースが拡張されるようになりました。この更新により、標準ページ、コンソールページ、コンソールのサブタブ、ウィンドウ、インライン編集で、これまでよりも格段に広いスペースで記事を操作できます。

[記事の CKEditor での右から左へ記述される言語のサポート](#)

Lightning Knowledge 記事の CKEditor で、アラビア語、ヘブライ語、ウルドゥー語など、右から左へ記述される言語がサポートされるようになりました。

[Einstein Search を備えたナレッジの高度な検索を使用した記事の検索](#)

ナレッジの高度な検索で Einstein Search を使用できるようになり、ユーザは検索条件を事前に絞り込んで自分の作業に最も関連性の高い情報を含むナレッジ記事を見つけることができます。ユーザがグローバル検索ボックスのドロップダウンリストで [ナレッジ] を選択すると、[高度な検索] 画面が表示されます。そこで検索条件を追加してから、検索語を入力して検索を実行できます。

記事バージョンの比較による変更内容の確認 (正式リリース)

ナレッジユーザは記事の2つのバージョンを比較して変更内容を確認できます。記事バージョン比較アプリケーションコンポーネントを使用すると、著者はバージョンを選択して相違点を確認できます。正式リリースとなったこの機能には、ベータリリース以降のいくつかの変更が含まれます。

Einstein Search for Knowledge による回答検索の向上 (パイロット)

Lightning Experience の Salesforce ナレッジが AI によって強化されました。サービスエージェントや顧客が最も関連性の高いナレッジ記事を短時間で見つけられるようになりました。Einstein Search for Knowledge のパイロットにサインアップしてお試しください。

サービス設定アシスタントによるナレッジジャーニーの開始

サービス設定アシスタントによって、主要なナレッジ設定手順が実行されるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Knowledge を有効にしている Lightning Experience に適用されます。サービス設定アシスタントは、設定アプリケーションのある Salesforce 組織で使用できます。

方法: サービスの使用を開始するには、[設定] メニューから [サービス設定アシスタント] をクリックします。

サービス設定アシスタントを初めて使用する場合は、オンに切り替えて [使用を開始する] をクリックします。すでにアシスタントを実行している場合は、[更新を取得] をクリックして、新機能を取得します。

アシスタントでは、多数のサービス設定作業が実行されます。次に、提供されるナレッジ機能を示します。既存の設定が上書きされることはありません。

- コンパクトレイアウト、[記事ツール] タブと [フィード] タブ、[詳細] 項目、[バージョンを比較] コンポーネントを含む、ナレッジ記事用に最適化されたレコードページ
- エージェントが記事を簡単に作成できるようにする [新規記事] グローバルアクション
- メール、チャット、およびその他のチャンネルに記事を挿入するときに使用する記事固有の応答をチームに提供する事前作成済みのチャンネルの対応付け設定

サービス設定アシスタントによって実行される作業の完全なリストは、「[サービス設定アシスタントの実行と更新](#)」を参照してください。

Einstein 記事レコメンデーションを使用したエージェントへの記事の推奨

ナレッジを使用する一部の組織では、Einstein 記事レコメンデーションが設定されているため、エージェントは短時間で最も関連性の高い記事を見つけることができます。エージェントは、長いリストをスクロールする代わりに Einstein のおすすりから適切な記事を選択するだけで、ケースに添付して顧客に送信できます。これは、ナレッジを使用する組織で複数のリリースに分けて段階的に有効化されます。

対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition (Service Cloud) および Lightning Knowledge を実装) を使用する特定の組織の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[標準搭載の Einstein 記事レコメンデーションを使用した時間の節約](#)

更新しやすくするための記事の編集スペースの拡張

Lightning Knowledge 記事の CKEditor の高さが 750 ピクセルまで自動的に増加し、コンテンツを作成または更新するためのスペースが拡張されるようになりました。この更新により、標準ページ、コンソールページ、コンソールのサブタブ、ウィンドウ、インライン編集で、これまでよりも格段に広いスペースで記事进行操作できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Knowledge を有効にしている Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 記事を編集するには、「記事の管理」ユーザー権限と記事の「参照」および「編集」権限を持つナレッジユーザーである必要があります。

方法: CKEditor で記事を編集します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:記事および翻訳の操作\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:ナレッジ記事のリッチテキスト項目\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)


[IdeaExchange: Lightning Rich Text Editor Needs Option to Expand or Pop Out \(Lightning リッチテキストエディタに拡大またはポップアウトのオプションが必要\)](#)

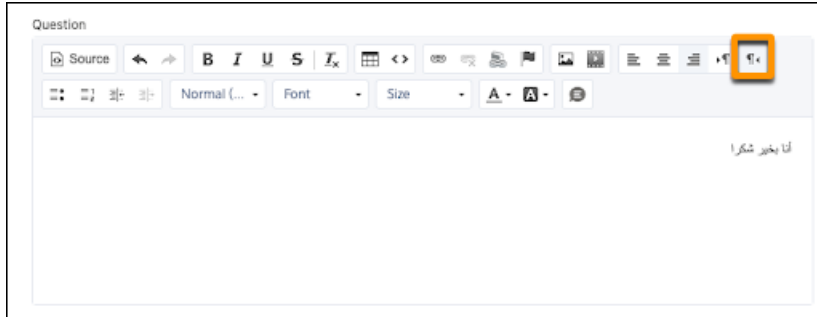
記事の CKEditor での右から左へ記述される言語のサポート

Lightning Knowledge 記事の CKEditor で、アラビア語、ヘブライ語、ウルドゥー語など、右から左へ記述される言語がサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Knowledge を有効にしている Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: 右から左へ記述される言語で記事を編集するには、「記事の管理」ユーザー権限と記事の「参照」および「編集」権限を持つナレッジユーザーである必要があります。

方法: 記事のリッチテキストツールバーから、 ボタンを選択して、右から左へ記述される言語でテキストを入力します。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 右から左へ記述される \(RTL\) 言語のサポート \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: ナレッジ記事のリッチテキスト項目 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Einstein Search を備えたナレッジの高度な検索を使用した記事の検索

ナレッジの高度な検索で Einstein Search を使用できるようになり、ユーザは検索条件を事前に絞り込んで自分の作業に最も関連性の高い情報を含むナレッジ記事を見つけることができます。ユーザがグローバル検索ボックスのドロップダウンリストで [ナレッジ] を選択すると、[高度な検索] 画面が表示されます。そこで検索条件を追加してから、検索語を入力して検索を実行できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Knowledge を有効にしているナレッジに適用されます。

関連トピック:

[Einstein Search を備えたナレッジの高度な検索の使用](#)

記事バージョンの比較による変更内容の確認 (正式リリース)

ナレッジユーザは記事の 2 つのバージョンを比較して変更内容を確認できます。記事バージョン比較アプリケーションコンポーネントを使用すると、著者はバージョンを選択して相違点を確認できます。正式リリースとなったこの機能には、ベータリリース以降のいくつかの変更が含まれます。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。

理由: 著者と編集者は記事バージョン比較コンポーネントを使用して、バージョン間の変更内容をより容易に確認し、進行状況を追跡できます。ユーザはバージョンを選択し、現在参照しているバージョンと比較します。

Article Version Comparison
Are dogs allowed in the park?

Current Version
Version 4

Other Version
Version 5 · Last Modified Dec 2, 2019, 1:04 Compare

Information

Title
Are dogs allowed in the park?

URL Name
Are-dogs-allowed-in-the-park

Summary
Yes, dogs on a leash are permitted in the park.

My RTA Field
Of course! Dogs are our best friends, and they are welcome to enjoy the park with you. Dogs must be on a leash; **and** please remember to clean up after your pet.

 ¶ <div id="" style="left: 20px;top: 80px;"> </div>

Information

Title
Are dogs allowed in the park?

URL Name
Are-dogs-allowed-in-the-park

Summary
Yes, dogs on a leash are permitted in the park.

My RTA Field
Of course! Dogs are our best friends, and they are welcome to enjoy the park with you. Dogs must be on a leash, **And**, please remember to clean up after your pet. **Waste stations are provided throughout the park.**

 ¶ <div id="" style="left: 20px;top: 80px;"> </div> ¶

方法: Lightning ページビルダーで、記事バージョン比較コンポーネントをナレッジレイアウトにドラッグします。レイアウト内にこのツール用のタブを作成することをお勧めします。これで、チームが必要なときにこのツールを使用することができます。記事比較は Microsoft IE11 または Microsoft Edge ブラウザではサポートされません。

関連トピック:

[Salesforce リリースノート: 記事バージョンの比較による変更内容の確認 \(ベータ\)](#)

Einstein Search for Knowledge による回答検索の向上 (パイロット)

Lightning Experience の Salesforce ナレッジが AI によって強化されました。サービスエージェントや顧客が最も関連性の高いナレッジ記事を短時間で見つけられるようになりました。Einstein Search for Knowledge のパイロットにサインアップしてお試しください。

- ☑ **メモ:** この機能は正式リリースではなく、追加の契約条件に従って特定のお客様にパイロット版として提供されています。そのため、お客様が購入したサービスには含まれていません。この機能は変更されることがあり、SFDC の裁量独自の判断でいつでも予告なしに廃止される可能性があります。また、SFDC はこの機能を正式にリリースしない可能性があります。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。この機能は現状有姿のままで提供されており、この機能の使用はお客様ご自身の責任となります。Einstein Search for Knowledge に関するフィードバックと提案は、TryEinsteinSearch@salesforce.com からお寄せください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Knowledge を有効にしているナレッジに適用されます。

理由: 顧客やエージェントは、自分が何を探しているかを正確に知らなくても質問に対する答えを得ることができます。たとえば、ナレッジサイドバーで顧客ケースを検索すると、特に役立つナレッジ記事が[昇格済み]表示ラベルで強調表示されます。

一元化された情報源

一元化された情報源の新機能を確認してください。より多くの ID 検証オプションとデータ統合をユーザに提供し、パーソナライズされたインタラクションを可能にします。1つのアプリケーションを使用して、複数の Salesforce 組織を監視するポリシーを作成します。

このセクションの内容:

[Salesforce CDP](#)

Salesforce CDP は、パーソナライズとエンゲージメントを促進する顧客データ管理、セグメンテーション、および活性化ツールです。一連のソリューションを使用して、世界一の顧客プラットフォームに基づいて単一のアクション可能な顧客のビューを構築できます。

[Customer 360 データマネージャ](#)

複数の Salesforce 組織、Commerce Cloud B2C インスタンス、さらには Salesforce 外部のデータソースなど、ビジネス全体のすべての顧客データを接続します。グローバルプロファイルを作成し、クラウド情報モデルを使用してデータソース間でオブジェクトと項目を対応付け、Lightning Web コンポーネントを使用して統合環境を作成します。

[Customer 360 Identity](#)

Customer 360 Identity では、安全な組み込みログインリダイレクトとメールアドレス更新の検証を使用して顧客を保護できます。

[Customer 360 プライバシーセンター](#)

顧客データを削除する忘れられる権利ポリシーでデータプライバシー法に準拠します。必要なだけポリシーを作成して、さまざまな顧客の要求に応えます。

Salesforce CDP

Salesforce CDP は、パーソナライズとエンゲージメントを促進する顧客データ管理、セグメンテーション、および活性化ツールです。一連のソリューションを使用して、世界一の顧客プラットフォームに基づいて単一のアクション可能な顧客のビューを構築できます。

最新機能と更新を [Salesforce CDP リリースノート](#) で確認してください。

Customer 360 データマネージャ

複数の Salesforce 組織、Commerce Cloud B2C インスタンス、さらには Salesforce 外部のデータソースなど、ビジネス全体のすべての顧客データを接続します。グローバルプロファイルを作成し、クラウド情報モデルを使用してデータソース間でオブジェクトと項目を対応付け、Lightning Web コンポーネントを使用して統合環境を作成します。

Customer 360 Data Manager の最新機能と更新を確認してください ([Customer 360 Data Manager リリースノート](#))。

Customer 360 Identity

Customer 360 Identity では、安全な組み込みログインリダイレクトとメールアドレス更新の検証を使用して顧客を保護できます。

これらのリリースの更新についての詳細は、「[ID とアクセス管理](#)」(ページ 647)を参照してください。

Customer 360 プライバシーセンター

顧客データを削除する忘れられる権利ポリシーでデータプライバシー法に準拠します。必要なだけポリシーを作成して、さまざまな顧客の要求に応えます。

このセクションの内容:

[忘れられる権利ポリシーによる顧客データの削除](#)

オブジェクトレベルのデータを取得する、顧客の忘れられる権利の要求に対する独自のポリシーを作成します。ポリシーを適用し、顧客から要求を受信したらレコードを削除します。要求を自動の 24 時間サイクルに追加するか、手動でいつでも実行するかを選択します。

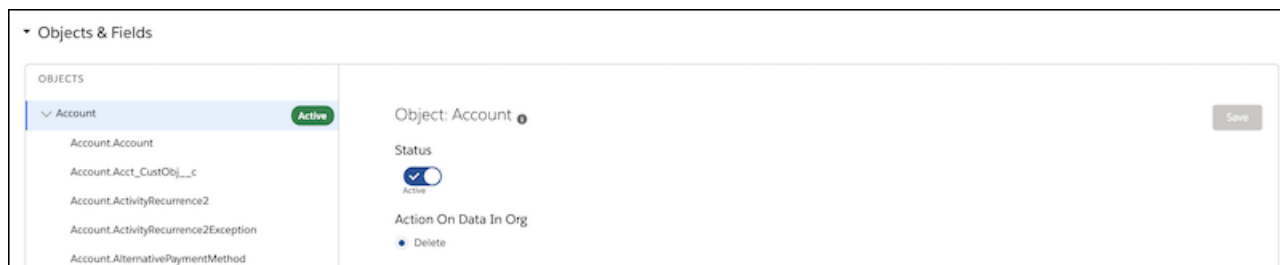
忘れられる権利ポリシーによる顧客データの削除

オブジェクトレベルのデータを取得する、顧客の忘れられる権利の要求に対する独自のポリシーを作成します。ポリシーを適用し、顧客から要求を受信したらレコードを削除します。要求を自動の 24 時間サイクルに追加するか、手動でいつでも実行するかを選択します。

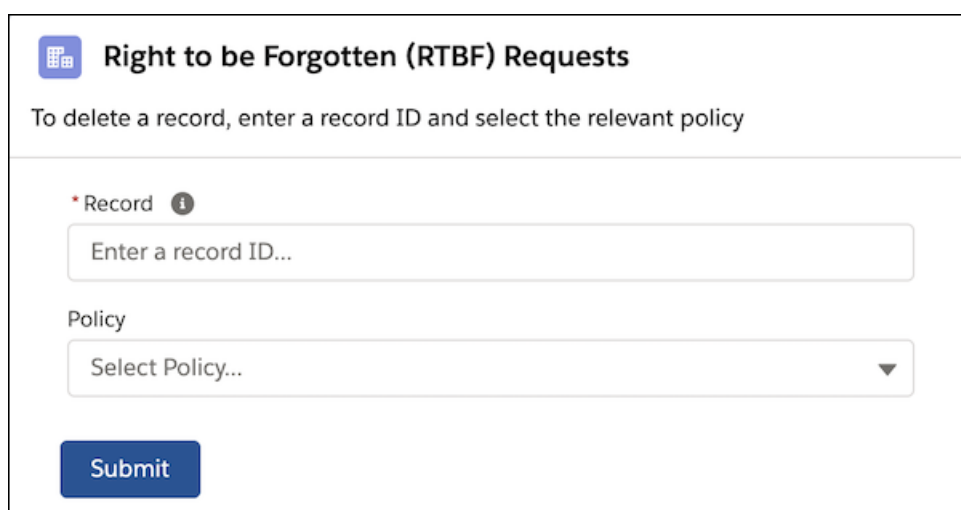
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Customer 360 プライバシーセンターでこの機能を使用するには、「すべてのデータの編集」権限と「プライバシーセンター」権限が必要です。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Customer 360 プライバシーセンター」と入力します。[Right to Be Forgotten Policies (忘れられる権利ポリシー)] で [すべて表示] をクリックします。ポリシーを作成するには、[Right to Be Forgotten (RTBF) Policies (忘れられる権利 (RTBF) ポリシー)] の横にある [新規] をクリックします。指示に従ってポリシーにオブジェクト追加して保存し、ポリシーを有効化します。



要求を実行するには、[Right to Be Forgotten (RTBF) Requests (忘れられる権利 (RTBF) 要求)] でレコード ID を入力し、適用するポリシーを選択します。要求を送信して 24 時間キューに追加します。要求をすぐに実行するには、[RTBF Requests (RTBF 要求)] で要求の名前をクリックし、[今すぐ実行] をクリックします。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Delete Data with Right to Be Forgotten Policies \(忘れられる権利ポリシーによるデータの削除\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

Work.com

ビジネス、従業員、施設の準備を整えます。Work.com のアプリケーションとサービスを使用して、現在の COVID-19 による危機など、重大な事態に対応します。

最新の更新については、Work.com リリースノートを参照してください: 『[Work.com Release Notes](#)』

その他の Salesforce 製品とサービス

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、「[Heroku Changelog](#)」を参照してください。

Success Cloud

Salesforce カスタマーサクセスグループの認定エキスパート、コンサルタント、革新的なツールが、サポート、ベストプラクティス、プロフェッショナルサービスを通じて、あらゆる場面で手助けします。リリースごとに、すべての Salesforce 製品からの結果をすばやく確認するのに役立つ新しい方法と改善された方法を取り入れています。このリリースの特長は、次のとおりです。

- 保証サービス。Industries で使用できるようになりました。
- 実行準備状況。実装ジャーニーの重要なステップでユーザをガイドする、保証サービスカテゴリ下の新しい提供サービス。
- ヘルプポータル機能強化。Salesforce ヘルプの全面的な再設計が含まれます。
- ガイダンスセンター機能強化。すべての組織および経験レベルの管理者が Salesforce を効果的に使用して、チームを有効にすることができます。

Trailhead GO

Trailhead GO を使用すると、誰でも無料でいつでもどこでもスキルアップできます。

1,000 を超える市場性の高いスキルのバッジ、Trailmix、Trailhead LIVE など、愛用されているすべての素晴らしい Trailhead 学習コンテンツに簡単にアクセスできます。

さらに、Trailhead GO のコミュニティで重要なトピックについて Trailblazer とコラボレーションしたり、質問をしたり、知識を共有したりできるようになりました。

Trailhead GO は、iPhone、iPad、Android デバイスで使用できます。

- Android: [Google Play の Trailhead GO](#)
- iOS: [App Store の Trailhead GO](#)

コンテンツへのスポットライト

Trailhead モジュールが更新され、説明用の動画が作成され、シングルサインオン (SSO) のコンテンツが移動しました。これらをチェックアウトするときは、少し時間を取って、Industries Cloud 共通開発者リソースを確認してください。

このセクションの内容:

Trailhead で機能を探索

楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

動画を見る (英語のみ)

ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について知ることができる説明用の動画を作成、更新しました。

Industries Cloud の一般的な開発者向けリソースの最大限の活用

Industry Cloud は、特定の市場区分向けに特別に設計された Salesforce のバージョンです。たとえば、Financial Services Cloud は保険会社や住宅ローン提供者が顧客とつながるのに役立ち、Health Cloud は医院、病院、または保険会社が患者とエンゲージするのに役立ちます。また、緊急時管理用のクラウドや小売用のクラウドなどがあります。これらの一部の Industries クラウドには、オブジェクト、呼び出し可能なアクション、API、イベントなど、2つ以上のクラウドに役立つコンポーネントがあります。これらの多目的コンポーネント、およびそれらを組織で機能させる方法について学ぶことができる中心的な場所が作成されました。

Salesforce ヘルプの最新のシングルサインオン (SSO) コンテンツへのアクセス

Salesforce 環境を改善するため、『シングルサインオン実装ガイド』のコンテンツを Salesforce ヘルプの「[ユーザの識別およびアクセス権の管理](#)」に移動しました。複数の組織または Experience Cloud サイトにまたがる SAML SSO の設定手順など、最新の SSO コンテンツは、ヘルプの「[シングルサインオン](#)」を参照してください。

Trailhead で機能を探索

楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

<https://trailhead.salesforce.com> で Trailhead を確認し、適切なトレイルを見つけてください。新機能を次に示します。

モジュール

コンタクトセンターの計画のワークフォースエンゲージメント

サポート業務プランナーがデータを使用してエージェントをスケジュールおよび配置する方法について説明します。

Service Cloud Voice

独自のテレフォニーパートナーの選択に関する情報が含まれるようにモジュールが更新されました。

コラボレーション売上予測のセットアップ

売上予測種別を作成するための手順とハンズオン Challenge を更新しました。これにより、ユーザは新しい設定フローを使用して実習できます。

セキュリティセンター

すべての組織のセキュリティとガバナンスの総計値を一目で確認できます。

トレイル

高度なセキュリティ機能の探索

一貫性のある正確なポリシーの適用と監査を可能にする機能を使用してセキュリティ体制を強化します。

動画を見る (英語のみ)

ユーザがSalesforceの新機能や改善された機能について知ることができる説明用の動画を作成、更新しました。

- 新しい動画 ● 「[Make Every Conversation Count with Salesforce Meetings \(Salesforce Meetings ですべての会話を有意義なものにする\)](#)」では、ミーティングのダイジェストを使用してミーティングを準備し、Meeting Studio を使用して被招集者とエンゲージすることで、これまでにないやり方で営業担当のインタラクションを強化する方法が示されています。
- 新しい動画 ● 「[Welcome to Email Template Builder \(メールテンプレートビルダーへようこそ\)](#)」では、メールテンプレートビルダーおよび Email Content Builder を使用して、簡単に優れたメールテンプレートを作成する方法を説明します。

Industries Cloud の一般的な開発者向けリソースの最大限の活用

Industry Cloud は、特定の市場区分向けに特別に設計されたSalesforceのバージョンです。たとえば、Financial Services Cloud は保険会社や住宅ローン提供者が顧客とつながるのに役立ち、Health Cloud は医院、病院、または保険会社が患者とエンゲージするのに役立ちます。また、緊急時管理用のクラウドや小売用のクラウドなどがあります。これらの一部のIndustries クラウドには、オブジェクト、呼び出し可能なアクション、API、イベントなど、2つ以上のクラウドに役立つコンポーネントがあります。これらの多目的コンポーネント、およびそれらを組織で機能させる方法について学ぶことができる中心的な場所が作成されました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce Developers の「[Industries Common Resources Developer Guide \(Industries 共通リソース開発者ガイド\)](#)」を参照してください。

関連トピック:

[共有 Industries 機能によるクラウドの拡張](#)

Salesforce ヘルプの最新のシングルサインオン (SSO) コンテンツへのアクセス

Salesforce 環境を改善するため、『[シングルサインオン実装ガイド](#)』のコンテンツをSalesforce ヘルプの「[ユーザの識別およびアクセス権の管理](#)」に移動しました。複数の組織または Experience Cloud サイトにまたがる SAML SSO の設定手順など、最新の SSO コンテンツは、ヘルプの「[シングルサインオン](#)」を参照してください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce 組織または Experience Cloud サイト間の SAML SSO の設定](#)

リリース更新

リリース更新は、継続的に組織の変更に関する重要な情報を提供します。これは、重要な更新から完全に置き換えられました。

このセクションの内容:

[重要な更新] ノードの削除

[設定] の [重要な更新] ノードは存在しなくなりました。以前のリリースでは、[設定] に [リリース更新] ノードへのリンクがありました。

リリース更新のお知らせ

Salesforce では、定期的に更新をリリースしています。これらの更新は、パフォーマンス、ロジック、セキュリティ、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。[設定] の [リリースの更新] ノードで、Summer '21 の更新を見つけます。

[重要な更新] ノードの削除

[設定] の [重要な更新] ノードは存在しなくなりました。以前のリリースでは、[設定] に [リリース更新] ノードへのリンクがありました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

リリース更新のお知らせ

Salesforce では、定期的に更新をリリースしています。これらの更新は、パフォーマンス、ロジック、セキュリティ、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。[設定] の [リリースの更新] ノードで、Summer '21 の更新を見つけます。

[リリース更新] ページには、組織に影響する更新のリストがあります。各更新には、実行するステップごとのアクションが記載されています。円滑に移行するために、多くのリリース更新でテスト実行を使用できます。[ステップ完了期日] の日付の前に組織への影響を評価できるように、必要に応じて何回でもテスト実行オプションを使用して更新を有効化および無効化できます。

適用済みの更新

以前のリリースで発表された次の更新が適用されます。

管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、適用済み)

この更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、global アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、適用済み)

この更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。このリリース更新は Apex setter の使用に影響しません。

参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換(更新、適用)

この更新により、参照のみ標準プロファイルがカスタムプロファイルに変換され、ビジネスニーズに応じてこのプロファイルの権限を編集できます。この更新は Spring '21 で最初に使用可能になり、Summer '21 で適用されます。

Experience Cloud ユーザ、パートナー、顧客のメールアドレス変更時に確認が必要(更新、適用済み)

ユーザアカウントをセキュリティの脅威から保護するため、Salesforce では Experience Cloud ユーザ、パートナー、および顧客にメールアドレスの変更の確認を要求するようになりました。この更新は、Winter '21 で最初に使用可能になり、Spring '21 で自動適用される予定でしたが、延期されて Summer '21 で適用されます。

フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用(更新、適用)

この更新により、FlowBuilder が差し込み項目を使用して関連レコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Spring '21 に延期され、さらに Summer '21 に再び延期されました。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新が Summer '21 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

以前にリリース済みの更新

以前のリリースで発表された次の更新を依然として利用できます。

[私のドメイン]のリリース(以前にリリース済みの更新)

最新の機能を使用してブラウザの要件に準拠するには、すべての Salesforce 組織に [私のドメイン] が必要です。[私のドメイン] をリリースしてください。リリースしない場合、[私のドメイン] は組織 ID に基づいて自動的に割り当てられます。[私のドメイン] はすべてのアプリケーション URL に影響するため、Winter '22 でこの更新が適用される前に、[私のドメイン] をテストしてリリースすることをお勧めします。このリリース更新は Winter '21 で最初に使用可能になりました。

ICU ロケール形式の有効化(以前にリリース済みの更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式を採用します。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。ICU 形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。このリリース更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

Visualforce Remoting API の安全なコール(以前にリリース済みの更新)

Visualforce Remoting API では、JavaScript を使用して Apex コントローラのメソッドを Visualforce ページから直接コールします。API を適切に保護するために、コールにより厳格な検証が追加されました。この更新は、Winter '22 で適用されます。

ケースメール通知のシステムアドレスとしてデフォルトの No-Reply アドレスを使用(以前にリリースされた更新)

[設定] の [組織のアドレス] ページから、デフォルトの No-Reply アドレスを設定します。[特別な目的の組織のメールアドレス] にメールアドレスを追加し、新しいデフォルトの No-Reply アドレスに送信される検証メールで説明されている手順に従います。デフォルトの No-Reply アドレスを検証したら、[リリース更新] で [テスト実行] を設定して開始します。この更新は、Spring '22 で自動的に有効化 (適用) される予定です。

Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (以前にリリース済みの更新)

Visualforce ページでは、API ナビゲーションコールが連続して実行されることがあり、不要な動作が発生する可能性があります。このリリース更新により、この API ナビゲーションコールパターンが回避され、最初のナビゲーションコールのみが実行されます。このリリース更新は Summer '20 で最初に使用可能になりました。

フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定 (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効化すると、Salesforce はすべてのフローおよびプロセスにより消費された CPU 時間を正確に測定し、記録し、制限できます。以前は、消費された CPU 時間が誤っていたり、トランザクション内の後で発生する他の自動化 (Apex トリガなど) に誤って結び付けられたりすることがありました。トランザクション単位の最大 CPU 時間消費の制限を超える原因となったパフォーマンスのボトルネックを適切に特定できるようになりました。また、CPU 時間が正確にカウントされるようになったため、要素、条件ノード、またはアクションが実行されてトランザクションが CPU 制限を超えると、フローおよびプロセスが失敗します。この制限を超える可能性が高いすべての複雑なフローとプロセスをテストすることをお勧めします。

画面フローの利用状況の分析 (以前にリリース済みの更新)

この更新により、レポートを使用して画面フローに関する実行時の詳細を調べられるようになります。使用パターンを発見することで、ユーザ向けの画面フローを最適化できます。この更新は、画面フローの実行時総計値をまだ取得していない Salesforce 組織で使用できます。

同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効化すると、一時停止中の自動起動フローが常に一時停止前と同じコンテキストと同じユーザアクセス権で再開されます。この更新は、Winter '22 で適用されます。

新たに発表された更新

次のリリース更新は、Summer '21 で新たに発表されました。

ゲストユーザのメールアドレスの更新 (更新)

Experience Cloud または Salesforce サイトを作成すると、ゲストサイトユーザが自動的に作成されます。Summer '21 リリースより前に作成されたサイトでは、サイトゲストユーザレコードのメールアドレスが、サイトを作成した Salesforce ユーザのメールアドレスになっていました。Summer '21 リリース以降、ゲストサイトユーザレコードで使用するダミーメールアドレスが生成されます。

拡張ドメインの有効化 (更新)

最新のブラウザおよびセキュリティ標準に準拠するには、Salesforce 組織の [私のドメイン] で拡張ドメインを有効にします。拡張ドメインを使用すると、会社固有の [私のドメイン] の名前が Salesforce サイトや Experience Cloud サイトなどの URL に含まれます。一貫したドメイン形式により、ユーザ環境が向上し、カスタムコードおよび API コールで使用される URL が標準化されます。Salesforce の強化されたドメインは最新のブラウザ要件にも準拠しているため、ユーザはサードパーティ Cookie をブロックするブラウザを使用して Salesforce にアクセスできます。この更新は Experience Cloud サイト、Salesforce サイト、Visualforce ページなどのアプリケーションの URL に影響するため、Summer '22 で適用される前に拡張ドメインを有効にすることをお勧めします。

元のテリトリー管理共有レコードの削除 (更新)

エンタープライズテリトリー管理で問題が発生しないように、この更新によって元のテリトリー管理共有レコードが削除されます。以前は、元のテリトリー管理共有レコードを削除するために、Salesforce カスタ

マーサポートに連絡するかメタデータ API を使用していました。この更新により、[設定]の[リリース更新]ページで削除できるようになりました。

Aura コンポーネントへの安全なアクセス (更新)

この更新により、`access="public"` が設定された外部コンポーネントには、同じ名前空間内の他のコンポーネントまたは内部の Salesforce コンポーネントのみがアクセスできるようになります。この更新は、Winter '22 で適用されます。

Lightning アプリケーションの OAuth 範囲の適用 (更新)

この更新では、Lightning アプリケーションの認証に使用する OAuth トークンの範囲が適用されます。OAuth トークンの範囲は接続アプリケーションで定義されます。この変更により、Lightning アプリケーションでは、意図しない権限を使用して OAuth トークンを使用できなくなります。この更新は、Winter '22 で適用される予定です。

延期された更新

次の更新が延期されました。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (更新、延期)

この更新は Winter '22 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、Spring '22 に延期されました。Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。このリリース更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。

Lightning コンポーネントの安全な静的リソースの有効化 (更新、延期)

このリリース更新は無期限に延期され、お客様への影響を少なくするために実装が変更されます。このリリース更新は、現在の形式では適用されません。有効にしないでください。

参照 ID の無効化と新しいメールスレッド動作への移行 (更新、延期)

参照 ID の無効化と新しいメールスレッド動作への移行の新しい適用期限により、システム管理者は Summer '22 までにリリース更新機能を使用してメールスレッドの必須の変更を採用することになります。前回の延期発表では、Winter '22 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)

この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。この更新は、Spring '19 でリリースされ、Spring '21 で適用される予定でしたが、Spring '22 に延期されます。2020 年 7 月 10 日より前に Summer '20 を受け取った Salesforce 組織では、この更新は有効化されました。組織がこれに該当し、更新を無効化した場合、更新を Spring '22 で有効化する必要があります。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新が Spring '22 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」が Spring '22 で適用されることがスケジュールされました。この更新により、フローまたはプロセスの実行ユーザに、そのフローまたはプロセスによって呼び出される Apex クラスへの明示的なアクセス権が不要になります。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

この更新は Summer '19 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Winter '21 に延期され、さらに Winter '22 に再び延期されました。この更新は Summer '23 に再び延期されました。このリリース更新によ

り、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、nullの値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。

法的ドキュメント

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の法的ドキュメントが更新されました。

信頼とコンプライアンス

このリリースに関連する信頼とコンプライアンスのドキュメントへの変更の完全なリストについては、『[Salesforce Trust & Compliance Documentation \(信頼とコンプライアンスに関するドキュメント\)](#)』の「[Change Log \(変更ログ\)](#)」を参照してください。